茨城県教育財団文化財調査報告第163集

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

石原遺跡

作業室用

平成12年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第163集

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

石原（いしはら）遺跡

平成12年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

完掘全景

第51号住居跡遺物出土状況

序

茨城県は，高齢化社会に向けて，高齢者や障害者をはじめ，誰もが安心していきいきと生活できるよう福祉・医療・健康増進・生きがいづくり等の機能を備えた，総合的な「人にやさしいまちづくり」のモデルとなる新たなまちづくりを計画しています。このような状況の中で，やさしさのまち「桜の郷」整備推進事業が計画されたもので，その予定地内には石原遺跡をはじめ多くの遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県と埋蔵文化財発掘調査事業についての委託契約を結び，平成11年４月から平成12年３月まで石原遺跡の発掘調査を実施してまいりました。この調査によって貴重な遺構，遺物が検出され，郷土の歴史を解明する上で多大な成果をあげることができました。

本書は，石原遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育，文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県から多大なる御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，茨城町教育委員会，茨城町特定開発課をはじめ，関係各機関及び関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，衷心より感謝の意を表します。

平成12年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成10年度に発掘調査した，茨城県東茨城郡茨城町大字大戸に所在する石原(いしはら)遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間および整理期間は，以下の通りである。

調　　査　平成10年４月１日～平成11年３月31日

整　　理　平成11年４月１日～平成12年３月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第１課長沼田文夫の指揮のもと，調査第１班長瓦吹堅，主任調査員村上和彦，川又清明，長谷川聡，副主任調査員皆川修，田原康司が担当した。

4　当遺跡の整理および本書の執筆・編集は，整理課長川井正一指揮のもと，主任調査員村上和彦が担当した。

5　当書の作成にあたり，弥生土器の編年について，財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社の鈴木素行氏にご指導いただいた。

6　当遺跡から出土した鉄器の金属学的保存処理については，岩手県立博物館に委託した。

7　発掘調査及び整理に際し，ご指導，ご協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を用いて区画し，石原遺跡はＸ軸＝35,440m，Ｙ軸＝52,080mの交点を（Ａ１a1）とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ…，西から東へ１，２，３…とし，その組み合わせで「Ａ１区」「Ｂ２区」のように呼称した。さらに，小調査区も同様に北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠し，「Ａ１a1区」，「Ｂ２b2区」のように呼称した。

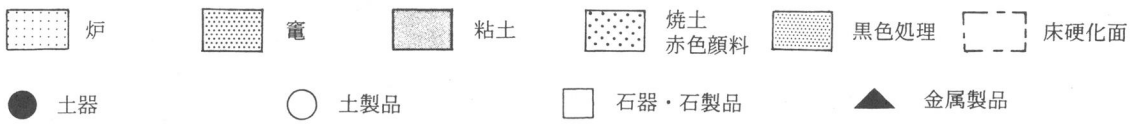
2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　　住居跡－ＳＩ　土坑－ＳＫ　堀・溝－ＳＤ　掘立柱建物跡－ＳＢ　その他－ＳＸ

遺物　　土器－Ｐ　土製品－ＤＰ　石器・石製品－Ｑ　金属製品－Ｍ　拓本土器－ＴＰ

土層　　撹乱－Ｋ

3　遺構及び遺物の実測図中の表示



4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については，以下のとおりである。

(1)　遺跡全体図は縮尺500分の１とし，各遺構の実測図は，60分の１の縮尺で掲載することを基本とした。

(2)　遺物は，原則として３分の１の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3)「主軸方向」は，炉・竈を通る軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例　Ｎ－10°－Ｅ　Ｎ－10°－Ｗ）

なお，推定値は〔　〕を付して示した。

(4)　土器の計測値は，Ａ－口径　Ｂ－器高　Ｃ－底径　Ｄ－高台（脚）径　Ｅ－高台（脚）高　Ｆ－つまみ径　Ｈ－頸部最小径　Ｉ－胴部最大径　Ｇ－つまみ高とし，単位はcmである。なお，現存値は（　）で，推定値は〔　〕を付して示した。

(5)　遺物観察表の備考の欄は，土器の残存率，実測（Ｐ）番号，出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

抄　　録

ふりがな	やさしさのまちさくらのさとせいびじぎょうまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	やさしさのまち「桜の郷」整備事業埋蔵文化財調査報告書
副書名	石原遺跡
巻次	I
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第163集
編著者名	村上和彦
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL　029－225－6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL　029－225－6587
発行年月日	2000（平成12）年3月21日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査機関	調査面積	調査原因
石原遺跡	茨城県東茨城郡茨城町 大字大戸字石原 3,134番地ほか	08302 － 220	36度 18分 55秒	140度 24分 55秒	26 ～ 28m	19980401 ～ 19990331	10,414㎡	やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石原遺跡	その他	縄文時代	陥し穴　3基		縄文時代から平安時代にかけての集落跡。特に，弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけて，さらに奈良時代に大きな集落が形成された。出土土器として，漆付着の墨書土器も見つかっている。
	集落跡	弥生時代後期後半	竪穴住居跡　17軒	弥生土器(壺・高坏),土製品(紡錘車),石器(敲石)	
		弥生時代後期後半-古墳時代前期初頭	竪穴住居跡　6軒	弥生土器(壺・高坏),土師器(器台・高坏・壺・甕・坩)	
		古墳時代前期	竪穴住居跡　16軒 土坑　1基	土師器(坏・高坏・甕・甑),須恵器(坏・高台付坏・蓋・甕)土製品(球状土錘・紡錘車・管状土錘),石製品(紡錘車),鉄製品(鉄鏃)	
		奈良時代	竪穴住居跡　33軒 土坑　13基	土師器(坏・甑・甕),須恵器(坏・高台付坏・蓋・盤・甕),土製品(支脚),鉄製品(鉄鉗・刀子)	
		平安時代	竪穴住居跡　9軒	土師器(坏・高台付坏・甕),須恵器(高台付坏・蓋・盤),土製品(羽口),鉄製品(斧・鉄具・刀子),青銅品(丸鞆)	
	その他	中・近世	土坑　2基	擂り鉢片，陶器片	
	生産跡	近・現代	炭窯跡　1基		
	その他	時期不明	掘立柱建物跡　2棟 土坑　72基 道路状遺構　1条 溝　8条		

目　　次

序
例言
凡例
抄録
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　調査の成果 …… 9
　第１節　遺跡の概要 …… 9
　第２節　基本層序の検討 …… 9
　第３節　遺構と遺物 …… 10
　　１　竪穴住居跡 …… 10
　　(1)　弥生時代後期後半 …… 10
　　(2)　弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭 …… 53
　　(3)　古墳時代 …… 72
　　(4)　奈良・平安時代 ……106
　　２　陥し穴 ……211
　　３　土坑 ……214
　　４　掘立柱建物跡 ……229
　　５　溝 ……231
　　６　炭窯跡 ……232
　　７　道路跡 ……234
　　８　遺構外出土遺物 ……234
　第４節　まとめ ……237
写真図版 ……243

挿 図 目 次

第１図　石原遺跡周辺遺跡分布図 …… 5
第２図　石原遺跡調査区設定図 …… 6
第３図　石原遺跡全体図 …… 7･8
第４図　基本土層図 …… 9
第５図　第２号住居跡実測図 ……11
第６図　第２号住居跡出土遺物実測・拓影図(1) …13
第７図　第２号住居跡出土遺物実測図(2) ……14
第８図　第４号住居跡実測図 ……15
第９図　第４号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……16
第10図　第５号住居跡実測図 ……18
第11図　第５号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……19
第12図　第８号住居跡実測図 ……20
第13図　第８号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……21
第14図　第12号住居跡実測図 ……23
第15図　第12号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……24
第16図　第14号住居跡実測図 ……25
第17図　第14号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……26
第18図　第17号住居跡実測図 ……27
第19図　第17号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……28
第20図　第25号住居跡実測図 ……29
第21図　第25号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……30
第22図　第28号住居跡実測図 ……31
第23図　第28号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……32
第24図　第30号住居跡実測図 ……33
第25図　第30号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……34
第26図　第41号住居跡実測図 ……35
第27図　第41号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……36
第28図　第45号住居跡実測図 ……38
第29図　第45号住居跡出土遺物実測・拓影図(1) …39
第30図　第45号住居跡出土遺物実測図(2) ……40
第31図　第51号住居跡実測図 ……41
第32図　第51号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……42
第33図　第62号住居跡実測図 ……45
第34図　第62号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……46
第35図　第64号住居跡実測図 ……47
第36図　第64号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……48
第37図　第77号住居跡実測図 ……49
第38図　第77号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……50
第39図　第83号住居跡実測図 ……52
第40図　第83号住居跡出土遺物実測図 ……52
第41図　第10号住居跡実測図 ……54
第42図　第10号住居跡出土遺物実測・拓影図(1) …55
第43図　第10号住居跡出土遺物実測図(2) ……56
第44図　第23号住居跡実測図 ……58
第45図　第23号住居跡出土遺物実測・拓影図(1) …59
第46図　第23号住居跡出土遺物実測・拓影図(2) …60
第47図　第36号住居跡実測図 ……62
第48図　第36号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……63
第49図　第49号住居跡実測図 ……64
第50図　第49号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……65
第51図　第66号住居跡実測図 ……66
第52図　第66号住居跡出土遺物実測・拓影図 ……67
第53図　第67号住居跡実測図 ……69
第54図　第67号住居跡出土遺物実測図 ……70
第55図　第13号住居跡実測図 ……72
第56図　第13号住居跡出土遺物実測図 ……72
第57図　第18号住居跡実測図 ……73
第58図　第18号住居跡出土遺物実測図 ……74
第59図　第20号住居跡実測図 ……75
第60図　第20号住居跡出土遺物実測図 ……76
第61図　第29号住居跡実測図 ……77
第62図　第29号住居跡出土遺物実測図 ……78
第63図　第32号住居跡・出土遺物実測図 ……80
第64図　第33号住居跡実測図 ……81
第65図　第33号住居跡出土遺物実測図 ……82
第66図　第40号住居跡実測図 ……83
第67図　第40号住居跡出土遺物実測図 ……83
第68図　第44号住居跡実測図 ……84
第69図　第44号住居跡出土遺物実測図 ……85
第70図　第48号住居跡実測図 ……86

第 71 図　第 48号住居跡出土遺物実測図 ……87
第 72 図　第53号住居跡実測図 ……88
第 73 図　第53号住居跡出土遺物実測・拓影図 …89
第 74 図　第54号住居跡実測図 ……92
第 75 図　第54号住居跡出土遺物実測図 ……93
第 76 図　第55号住居跡実測図 ……96
第 77 図　第55号住居跡出土遺物実測図 ……97
第 78 図　第60号住居跡実測図 ……98
第 79 図　第60号住居跡出土遺物実測図 ……99
第 80 図　第71号住居跡実測図 ……100
第 81 図　第71号住居跡出土遺物実測・拓影図 …101
第 82 図　第73号住居跡実測図 ……101
第 83 図　第73号住居跡出土遺物実測・拓影図 …103
第 84 図　第75号住居跡実測図 ……105
第 85 図　第75号住居跡出土遺物実測・拓影図 …106
第 86 図　第 1 号住居跡実測図 ……107
第 87 図　第 1 号住居跡出土遺物実測図 ……107
第 88 図　第 3 号住居跡実測図 ……109
第 89 図　第 3 号住居跡出土遺物実測図 ……110
第 90 図　第 6 号住居跡実測図 ……111
第 91 図　第 6 号住居跡出土遺物実測図 ……112
第 92 図　第 7 号住居跡実測図 ……113
第 93 図　第 7 号住居跡出土遺物実測図 ……114
第 94 図　第 9 号住居跡実測図 ……116
第 95 図　第 9 号住居跡出土遺物実測・拓影図 …117
第 96 図　第11号住居跡実測図 ……118
第 97 図　第11号住居跡出土遺物実測図 ……119
第 98 図　第15号住居跡実測図 ……120
第 99 図　第15号住居跡出土遺物実測図 ……121
第100図　第16号住居跡実測図 ……122
第101図　第16号住居跡出土遺物実測･拓影図 …124
第102図　第19号住居跡実測図 ……126
第103図　第19号住居跡出土遺物実測図 ……127
第104図　第21号住居跡実測図 ……128
第105図　第21号住居跡出土遺物実測図 ……129
第106図　第22号住居跡実測図 ……131
第107図　第22号住居跡出土遺物実測図 ……132
第108図　第24号住居跡実測図 ……133
第109図　第24号住居跡出土遺物実測図 ……134
第110図　第26号住居跡実測図 ……136
第111図　第26号住居跡出土遺物実測図 ……136
第112図　第27号住居跡実測図 ……137
第113図　第27号住居跡出土遺物実測図 ……138
第114図　第31号住居跡実測図 ……140
第115図　第31号住居跡出土遺物実測･拓影図 …141
第116図　第34号住居跡実測図 ……144
第117図　第34号住居跡出土遺物実測図 ……145
第118図　第37号住居跡実測図 ……146
第119図　第37号住居跡出土遺物実測図 ……147
第120図　第38号住居跡実測図 ……149
第121図　第38号住居跡出土遺物実測･拓影図 …150
第122図　第39号住居跡実測図 ……151
第123図　第39号住居跡出土遺物実測図 ……152
第124図　第42号住居跡実測図 ……154
第125図　第42号住居跡出土遺物実測図 ……155
第126図　第43号住居跡実測図 ……156
第127図　第43号住居跡出土遺物実測図 ……157
第128図　第46号住居跡実測図 ……159
第129図　第46号住居跡出土遺物実測図 ……160
第130図　第47号住居跡実測図 ……162
第131図　第47号住居跡出土遺物実測図 ……162
第132図　第50号住居跡実測図 ……164
第133図　第50号住居跡出土遺物実測図 ……165
第134図　第52号住居跡実測図 ……167
第135図　第52号住居跡出土遺物実測･拓影図 …168
第136図　第56号住居跡実測図 ……169
第137図　第56号住居跡出土遺物実測図 ……170
第138図　第57号住居跡実測図 ……172
第139図　第57号住居跡出土遺物実測図 ……173
第140図　第58号住居跡実測図 ……174
第141図　第58号住居跡出土遺物実測図 ……175
第142図　第59号住居跡実測図 ……177
第143図　第59号住居跡出土遺物実測･拓影図 …178
第144図　第61号住居跡実測図 ……179
第145図　第61号住居跡出土遺物実測図 ……180
第146図　第63－A・B号住居跡実測図 ……182

第147図　第63－A号住居跡出土遺物実測図 ……183
第148図　第63－B号住居跡出土遺物実測図 ……184
第149図　第65号住居跡実測図 ……185
第150図　第65号住居跡出土遺物実測図 ……186
第151図　第68号住居跡実測図 ……187
第152図　第68号住居跡出土遺物実測・拓影図 …188
第153図　第69号住居跡実測図 ……189
第154図　第69号住居跡出土遺物実測図 ……190
第155図　第70号住居跡実測図 ……191
第156図　第70号住居跡出土遺物実測図 ……192
第157図　第74号住居跡実測図 ……193
第158図　第74号住居跡出土遺物実測図 ……194
第159図　第76号住居跡実測図 ……195
第160図　第76号住居跡出土遺物実測図 ……196
第161図　第78号住居跡実測図 ……198
第162図　第78号住居跡出土遺物実測図 ……199
第163図　第79号住居跡実測図 ……201
第164図　第79号住居跡出土遺物実測図 ……202
第165図　第80号住居跡実測図 ……204
第166図　第80号住居跡出土遺物実測図 ……205
第167図　第81号住居跡実測図 ……206
第168図　第81号住居跡出土遺物実測図 ……207
第169図　第82号住居跡実測図 ……208
第170図　第82号住居跡出土遺物実測図 ……209
第171図　第１号陥し穴実測図 ……212
第172図　第２号陥し穴実測図 ……212
第173図　第３号陥し穴実測図 ……213
第174図　第６号土坑・出土遺物実測図 ……215
第175図　第10号土坑・出土遺物実測図 ……215
第176図　第29号土坑・出土遺物実測図 ……217
第177図　第54号土坑・出土遺物実測図 ……218
第178図　第58号土坑・出土遺物実測図 ……219
第179図　第65号土坑・出土遺物実測図 ……220
第180図　第91号土坑・出土遺物実測図 ……221
第181図　土坑実測図(1) ……222
第182図　土坑実測図(2) ……223
第183図　土坑実測図(3) ……224
第184図　土坑実測図(4) ……225
第185図　土坑実測図(5) ……226
第186図　第１号掘立柱建物跡実測図 ……229
第187図　第２号掘立柱建物跡実測図 ……230
第188図　第１～７号溝土層，第１号道路跡土層，
　　第３号溝出土遺物実測図 ……231
第189図　第１号炭窯跡・出土遺物実測図 ……233
第190図　遺構外出土遺物実測・拓影図(1) ……236
第191図　遺構外出土遺物実測図(2) ……237
第192図　集落変遷図 ……241

表　目　次

表１　石原遺跡周辺遺跡一覧表 ……4
表２　石原遺跡住居跡一覧表 ……209
表３　石原遺跡陥し穴一覧表 ……214
表４　石原遺跡土坑一覧表 ……227
表５　石原遺跡溝一覧表 ……232

写真図版目次

ＰＬ１　第２号住居跡遺物出土状況(1)，第２号住居跡遺物出土状況(2)，第２号住居跡遺物出土状況(3)，第4号住居跡，第４号住居跡遺物出土状況，第５号住居跡遺物出土状況(1)，第５号住居跡遺物出土状況(2)，第８号住居跡遺物出土状況
ＰＬ２　第12号住居跡，第12号住居跡遺物出土状況，第14号住居跡遺物出土状況，第17号住居跡遺物出土状況，第25号住居跡遺物出土状況(1)，第25号住居跡遺物出土状況(2)，第28号

住居跡，第41号住居跡
ＰＬ３　第41号住居跡遺物出土状況(1)，第41号住居跡遺物出土状況(2)，第45号住居跡遺物出土状況(1)，第45号住居跡遺物出土状況(2)，第51号住居跡遺物出土状況(1)，第51号住居跡遺物出土状況(2)，第62号住居跡遺物出土状況(1)，第62号住居跡遺物出土状況(2)
ＰＬ４　第77号住居跡，第77号住居跡遺物出土状況(1)，第77号住居跡遺物出土状況(2)，第83号住居跡遺物出土状況，第10号住居跡，第10号住居跡遺物出土状況，第23号住居跡，第23号住居跡遺物出土状況(1)
ＰＬ５　第23号住居跡遺物出土状況(2)，第36号住居跡遺物出土状況，第49号住居跡遺物出土状況，第66号住居跡遺物出土状況(1)，第66号住居跡遺物出土状況(2)，第67号住居跡遺物出土状況(1)，第67号住居跡遺物出土状況(2)，第13号住居跡遺物出土状況
ＰＬ６　第20号住居跡遺物出土状況，第29号住居跡，第29号住居跡遺物出土状況，第29号住居跡炉，第44号住居跡遺物出土状況(1)，第44号住居跡遺物出土状況(2)，第48号住居跡遺物出土状況(1)，第48号住居跡遺物出土状況(2)
ＰＬ７　第49号住居跡，第53・79号住居跡，第53号住居跡遺物出土状況(1)，第53号住居跡遺物出土状況(2)，第54号住居跡遺物出土状況(1)，第54号住居跡遺物出土状況(2)，第60号住居跡，第60号住居跡遺物出土状況
ＰＬ８　第73号住居跡遺物出土状況，第75号住居跡，第75号住居跡遺物出土状況(1)，第75号住居跡遺物出土状況(2)，第３号住居跡遺物出土状況，第６号住居跡竈，第７号住居跡，第７号住居跡遺物出土状況
ＰＬ９　第９号住居跡遺物出土状況，第11号住居跡，第11号住居跡遺物出土状況，第15号住居跡遺物出土状況，第16号住居跡，第16号住居跡遺物出土状況(1)，第16号住居跡遺物出土状況(2)，第19号住居跡遺物出土状況
ＰＬ10　第19号住居跡竈，第21号住居跡遺物出土状況，第24号住居跡，第24号住居跡遺物出土状況(1)，第24号住居跡遺物出土状況(2)，第24号住居跡遺物出土状況(3)，第24号住居跡竈，第27号住居跡遺物出土状況(1)
ＰＬ11　第27号住居跡遺物出土状況(2)，第31号住居跡遺物出土状況，第31号住居跡竈，第34号住居跡掘り方，第34号住居跡遺物出土状況，第38号住居跡遺物出土状況(1)，第38号住居跡遺物出土状況(2)，第39号住居跡遺物出土状況
ＰＬ12　第42号住居跡，第42号住居跡遺物出土状況，第43号住居跡遺物出土状況，第46号住居跡遺物出土状況，第47号住居跡遺物出土状況，第50号住居跡遺物出土状況，第52号住居跡竈，第56号住居跡
ＰＬ13　第56号住居跡遺物出土状況，第57号住居跡遺物出土状況，第58号住居跡，第58号住居跡遺物出土状況，第61号住居跡遺物出土状況，第63-Ａ・Ｂ号住居跡，第65号住居跡，第65号住居跡遺物出土状況
ＰＬ14　第68号住居跡，第68号住居跡遺物出土状況，第70号住居跡，第70号住居跡遺物出土状況，第74号住居跡遺物出土状況，第61・78号住居跡，第78号住居跡竈，第79号住居跡遺物出土状況
ＰＬ15　第81号住居跡，第81号住居跡遺物出土状況(1)，第81号住居跡遺物出土状況(2)，第13・82号住居跡，第１号陥し穴，第22号住居跡・第１・２号溝，第１・２号掘立柱建物跡，完掘状況
ＰＬ16　第２・４・５・８・12・17号住居跡出土遺物
ＰＬ17　第12・25・28・30・41・45・77号住居跡出土遺物
ＰＬ18　第45・51・62・77・83号住居跡出土遺物
ＰＬ19　第10・23・36・49・66・67号住居跡出土遺物

ＰＬ20　第66・67・18・53号住居跡出土遺物
ＰＬ21　第67・20・29・33・44・48・53・54・60号住居跡出土遺物
ＰＬ22　第48・54・55・73号住居跡出土遺物
ＰＬ23　第73・75・３・７・９・11・16・19号住居跡出土遺物
ＰＬ24　第11・15・16・19・21・22号住居跡出土遺物
ＰＬ25　第24・26・27・31・37・38・39・43・46号住居跡出土遺物
ＰＬ26　第31・34・37・39・42・43・46・47・52・57・63－Ａ号住居跡出土遺物
ＰＬ27　第50・52・56・57・58・65・68・69・76号住居跡出土遺物
ＰＬ28　第74・78・79・81号住居跡，第６・58号土坑，遺構外出土遺物
ＰＬ29　出土土器片(1)
ＰＬ30　出土土器片(2)
ＰＬ31　出土土製品(1)
ＰＬ32　出土土製品(2)
ＰＬ33　出土土製品，出土金属製品

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経過

やさしさのまち「桜の郷」整備事業は，福祉・医療・健康増進・生きがいづくり等の機能を備えた，高齢化社会に対応できる総合的な人にやさしいまちづくりのモデルとなる新たなまちづくりプロジェクトであり，茨城県のほぼ中央に位置する茨城町において整備を目指している。

工事に先立ち，平成９年１月20日，茨城県は，茨城県教育委員会に工事予定地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。茨城県教育委員会は，平成９年３月14日から，近藤・大戸地区の試掘調査を実施し，工事予定地内に石原遺跡，宮後遺跡が所在する旨を茨城県に回答した。茨城県は，平成10年３月２日，茨城県教育委員会にその取り扱いについて協議を求めた。茨城県教育委員会は，茨城県と遺跡の取り扱いについて協議を重ね，現状保存が困難であることから，平成10年３月31日，茨城県に対し，石原遺跡，宮後遺跡を記録保存とする旨の回答を行い，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県と茨城県教育財団は，埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，平成10年４月１日から平成11年３月31日にかけて，石原遺跡及び宮後遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節　調査経過

石原遺跡，宮後遺跡の発掘調査は，平成10年４月１日から平成11年３月31日までの１年間にわたって実施された。以下，石原遺跡の調査の経過について月ごとに略述する。

4　月　発掘調査開始にあたっての諸準備を行った。６日に現地踏査をし，茨城町教育委員会・特定開発課・建設課との打ち合わせを行った。20日に進入路工事を開始し，27日に事務所建設が終了した。
同時進行で，調査区域内に存在する樹木を伐開するため，数量調査を行った。

5　月　６日から調査補助員を雇用し，諸設備の整備，遺跡内の清掃を開始した。10日には，発掘調査の円滑な推進と作業の安全を願って安全祈願祭を挙行し，トレンチ・グリッドを設定し，試掘を開始した。

6　月　宮後遺跡の伐開・重機による表土除去のため，石原遺跡の調査を一時中断した。

7　月　９日から，伐開を開始した。

8　月　４日で木材搬出が終了し，５日から，重機による表土除去を調査区西部から開始した。12日で表土除去が終了し，18日から，遺構確認作業を開始した。

9　月　３日に遺構確認状況撮影をし，調査区南側の住居跡から遺構調査を開始した。29日までに竪穴住居跡20軒，土坑25基，溝２条，陥し穴１基を終了した。

10　月　引き続き遺構調査を行い，29日までに竪穴住居跡23軒，土坑25基，溝３条，陥し穴１基の調査を終了した。

11　月　継続して遺構調査を行い，30日までに竪穴住居跡21軒，土坑25基，溝２条，陥し穴１基の調査を終了した。

12　月　引き続き遺構調査を行い，１日から，炭焼き窯跡の調査を開始した。

1　月　５日から竈・掘り方についての補足調査を開始した。

2　月　25日に航空写真撮影を，27日には現地説明会を行い，石原遺跡の遺構調査（竪穴住居跡17軒，土坑16基，溝１条，炭焼き窯跡１基，堀立柱建物跡２棟，道路上遺構１条）を終了した。

3　月　15日に委託者並びに茨城町教育委員会に対する報告会を行った。24日に整理センターに遺物搬出をし，安全対策を含めた撤収作業を完了し，現場事務所を閉鎖してすべての現地調査を終了した。

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

石原遺跡は，茨城県東茨城郡茨城町大字大戸字石原3,134番地ほかに，所在している。

茨城町は，茨城県の中央部よりやや東に位置し，北部は水戸市に，東部は涸沼を隔てて東茨城郡大洗町，鹿島郡旭村に，南部は東茨城郡美野里町，小川町，鹿島郡鉾田町に，西部は東茨城郡内原町，西茨城郡友部町，同岩間町に隣接している。町の中央を南北に国道６号が通じ，それと並行するように常磐自動車道が西に隣接する友部町を通っている。町の北部では東西に通じる北関東自動車道の建設が進められている。

茨城町の地形は，町のほぼ中央部を東流する涸沼川と，その東に展開する涸沼によって，台地を南北に二分されている。北部の台地は，標高25～30ｍの東茨城北部台地の先端部を形成し，北西から流れる涸沼前川を含む大小の支谷が涸沼を中心に南面して開口している。南部に発達する台地は，東から大谷川，寛政川が涸沼に流入し，その間に大小無数の支谷が台地深くまで侵入し，北部台地に比べて起伏も多く一層複雑な地勢を成している。これらの河川流域の沖積低地は水田として，台地は畑地・樹園地として利用されている。

地質をみると，台地を形成している最も古い地層は新生代，第三紀の地層で，岩質は泥岩で水戸層と呼ばれている。水戸層の上には第四紀の地層が不整合に堆積している。粘土・砂からなる見和層，礫からなる上市層，灰褐色の常総粘土層，関東ローム層の順に重なっており，これらの地層はいずれもほぼ水平層である。

石原遺跡は，茨城町の北西部の大戸地区にあり，涸沼前川の支流である西側を流れる古矢川と東側を流れる小橋川に挟まれ，南東方向に細長く伸びた標高26～28mの舌状台地上に位置している。当遺跡の北側は小橋川の支谷から伸びる小支谷によって囲まれ，南側は東流する涸沼前川と沖積低地が広がり，低地は水田として利用されている。調査前の現況は畑地・山林である。

第２節　歴史的環境

当町周辺は，涸沼を中心として，涸沼川，涸沼前川など水運に恵まれ，古代から人々が生活を営む場としては絶好の舞台となってきたため，縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは，石原遺跡に関連する主な遺跡について，特に当遺跡の中心である弥生時代から奈良・平安時代の涸沼川流域における遺跡について時代別に述べることにする。

(1)　弥生時代

弥生時代の遺跡は，現在41か所確認されており，中期後半なかばのものと思われる土器片が神谷（かんや）東遺跡，柴崎（しばざき）遺跡（中石崎），西台（にしだい）遺跡などで採集されている。後期前半の遺物としては，東中根式並行の土器片が大畑（おおばたけ）遺跡〈２〉から採集されている。後期後半の土器は，長岡（ながおか）式土器の標式遺跡である長岡遺跡〈３〉や奥谷（おくのや）遺跡(1)

〈4〉小鶴遺跡〈5〉から出土している。今回調査した石原遺跡からは，これらの時期に続く十王台式期（後期後半）の集落が確認され，他に平成7年度に調査された矢倉遺跡[2]〈6〉，平成8年度に調査された大畑遺跡，大戸下郷遺跡〈7〉，台畑遺跡などからも，十王台式土器片が出土している。こうしたことから，この時期に涸沼川流域を中心とする弥生時代後期の文化圏があったことが想定される。近隣の十王台期の遺物との比較をすると，矢倉遺跡の場合，十王台式の広口壺の頸部文様帯が，胴部の上半部付近まで下がっていることなどから，大畑遺跡より新しい段階の集落であると考えられる。本遺跡の場合，大畑遺跡と同様十王台式及び二軒屋式とその影響を受けたと思われるものが多く，底部の文様には砂目・布目・木葉痕をみることができる。十王台式が多い中に，頸部下半に無文帯をもつ茨城県南部の上稲吉式に近似するものも出土している。また，十王台期の遺構の覆土中に南小割遺跡から出土した小波状口縁の甕と同様な古墳前期の土師器が出土していることも注目される。

(2) 古墳時代

古墳時代になると遺跡数が増加する。奥谷遺跡からは，古墳時代前期の豪族居館跡の溝や住居跡[3]が確認され，涸沼周辺の神谷遺跡，神谷東遺跡，大峯遺跡[4]，西台遺跡，権現峯遺跡などからも，前期の土師器や住居跡が確認されている。昭和60年に周溝の調査を行い，茨城町地方では最も古い時期に位置づけられた前方後方墳（4世紀末から5世紀初頭）である宝塚古墳をはじめ，中期から後期にかけての古墳が61基ほど確認されている。神谷古墳群からは，2基の帆立貝式古墳が確認され，茨城町で唯一の前方後円墳である上ノ山古墳[5]〈8〉からは，南へ4kmほど離れた位置にある小幡北山埴輪製作遺跡[6]で造られたものと思われる埴輪（6世紀後半頃）が出土している。その他の遺跡として，内原町にはドンドン塚遺跡〈9〉，長者塚古墳〈10〉があり，水戸市では，山中遺跡〈11〉等がある。当遺跡からは，古墳時代前期の口縁に段を持つ壺や高台付甕などが出土している。

(3) 奈良・平安時代

律令制下の奈良・平安時代の茨城町域は，那賀郡八部郷，茨城郡島田・安侯・白川郷，鹿島郡宮前郷に属していた。この時期の遺跡は[7]，町内全域に確認され，今回発掘調査を行った石原遺跡を含め99遺跡を数える。奥谷遺跡からは，百数十点の墨書土器のほか円面硯や刀子が出土している。特に，墨書の「曹司」は，宮中・官衙などの庁舎・宿直所・局・部屋などの意味があり，当時の奥谷遺跡が官衙的あるいは公共的な施設を含む集落であったことを示している。面山遺跡〈12〉からは，「土師神主」と書かれた墨書土器が，大峯遺跡からは，墨書土器や円面硯が，宮後遺跡〈13〉からは，円面硯や蔵骨器がそれぞれ出土している。当遺跡からは，鍛冶に使用されたとみられる鉄鉗や帯金具（丸鞆）のほか，墨書土器も出土している。

※ 文中の〈 〉内の番号は，表1，第1図の該当番号と同じである。

註

(1) 茨城県教育財団 「一般国道6号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 奥谷遺跡 小鶴遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告 第50集』 1989年3月

(2) 茨城県教育委員会 『茨城県遺跡地図』 1990年3月

(3) 茨城町史編さん委員会 『茨城町史 通史編』 1995年2月

(4) 茨城町大峯遺跡発掘調査会 『茨城町大峯遺跡』 1990年3月

(5) 茨城町史編さん委員会 『茨城町上ノ山古墳』 1994年3月

(6) 茨城町教育委員会 『小幡北山埴輪製作遺跡』 1989年2月

(7) (3)と同じ

参考文献

・茨城県立歴史館　『茨城県史料　考古資料編　弥生時代』　1991年３月

・茨城県史編さん原始古代史部会　『茨城県史料　考古資料編　古墳時代』　1991年３月

・茨城県立歴史館　『茨城県史料　考古資料編　奈良・平安時代』　1995年３月

・茨城県教育委員会　『茨城県遺跡地図』　1990年3月

・水戸市史編さん委員会　『水戸市史　上・下巻』　1991年

・内原町史編さん委員会　『内原町史　通史編』　1996年

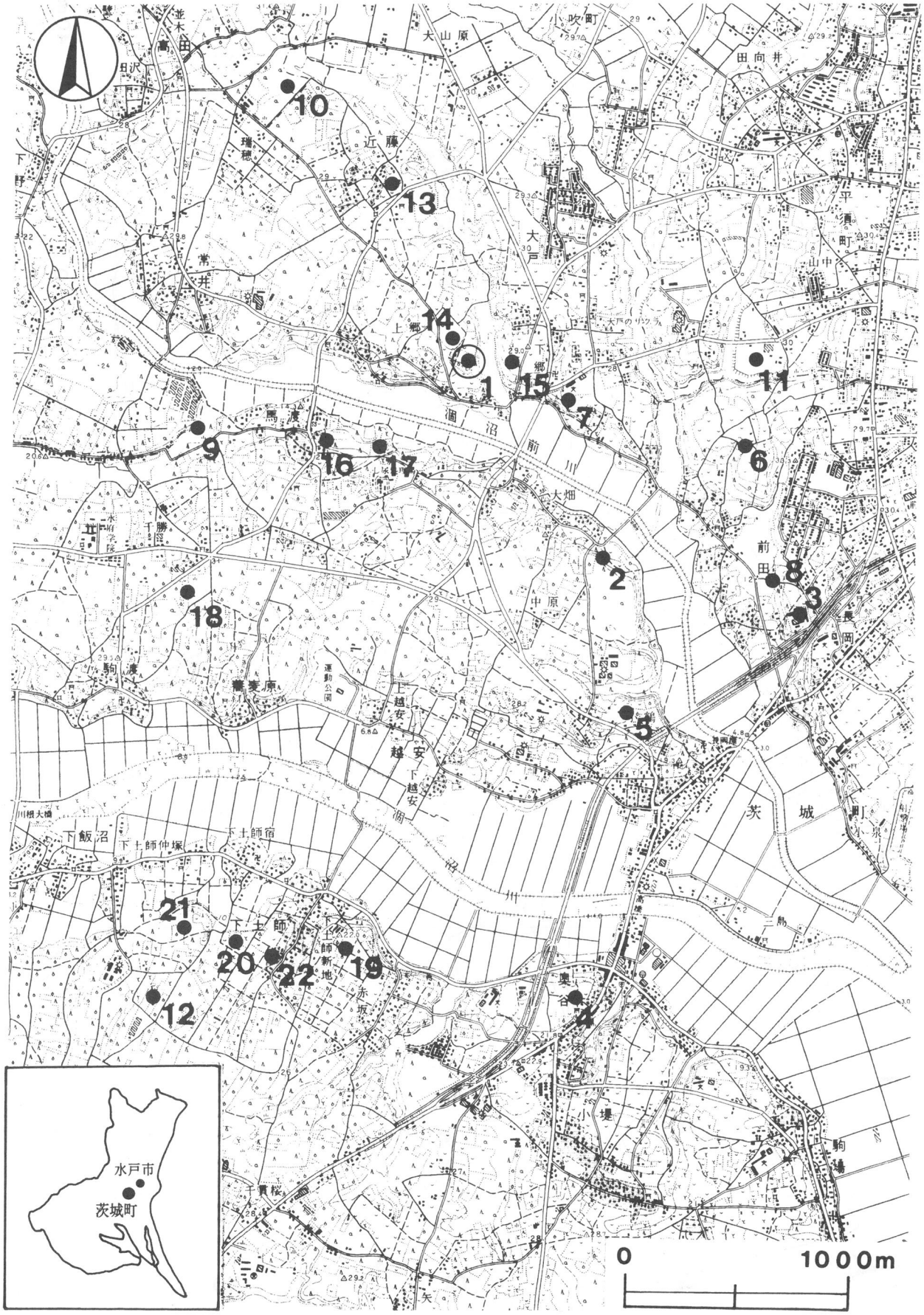
・中山信名（栗田寛　補訂）　『新編常陸国誌』　崙書房　1997年

・蜂須紀夫　『茨城県　地学ガイド』　1986年11月

・角川書店　「日本地名大辞典８茨城県」　1983年3月

表１　石原遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						番号	遺跡名	県遺跡番号	時代					
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近世				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近世
①	石原遺跡	220		○	○	○	○		12	面山遺跡	201		○		○	○	
2	大畑遺跡	4925	○	○	○	○	○	○	13	宮後遺跡	4308		○	○	○	○	
3	長岡遺跡	227			○	○			14	稲荷宮遺跡	4309			○	○	○	
4	奥谷遺跡	4338		○	○	○	○	○	15	羽黒山古墳群	4314				○		
5	小鶴遺跡	4349		○					16	東畑遺跡	4306		○	○	○	○	
6	矢倉遺跡	4324		○	○				17	東山遺跡	4307		○		○	○	
7	大戸下郷遺跡	4294			○	○	○		18	大作遺跡			○		○		
8	上の山古墳	4316				○			19	下土師東遺跡	4337		○		○		
9	ドンドン塚古墳	284				○			20	富士山古墳	174				○		
10	長者塚古墳	3080				○			21	小山台遺跡	4336		○		○	○	
11	山中遺跡	2654		○		○			22	下土師遺跡	191		○		○	○	



第１図　石原遺跡周辺遺跡分布図（小鶴）

第２図　石原遺跡調査区設定図

A3a1
B5a1
C2a1
SB 1
SB 2
SI 70
SI 48
SI 44
SI 45
SI 26
SI 27
SY 1
SI 42
SI 41
SI 49
SD 6
SD 7
SD 8
SI 40
SI 39
SI 46
SI 47
SI 13
SI 82
SI 50
SI 55
SI 36
SI 77
SI 52
SD 4
SI 38
SI 37
SI 51
SI 79
SI 53
SI 54
SI 56
SI 74
SI 34
SI 81
SI 33
SD 3
SI 28
SI 31
SI 32
SI 57
SI 25
SI 43
SI 83
SI 58
SI 12
SI 29
SI 30
SD 1
SI 80
SI 76
SI 60
SI 73
SI 61
SI 78
SI 75
SI 15
SI 24
SI 23
SI 22
SD 2
SI 59
SI 14
SI 6
SI 16
SI 17
SI 62
SI 7
SI 11
SD 5
SI 64
SI 63A
SI 63B
SI 66
SI 65
SI 1
SI 10
SI 20
SI 21
SI 8
SI 9
SI 18
SI 69
SF 1
SI 71
SI 67
SI 5
SI 4
SI 3
SI 19
SI 68
SI 2
0
20m

第３図　石原遺跡全体図

第3章　調査の成果

第1節　遺跡の概要

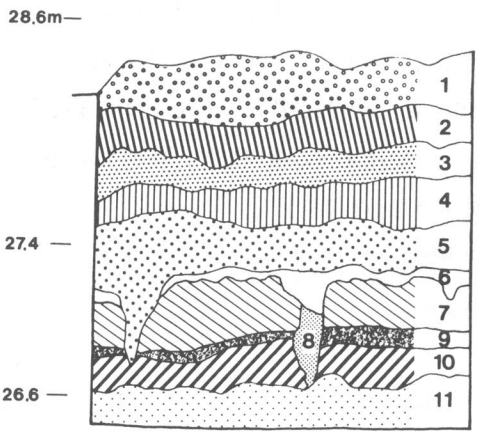
石原遺跡は，涸沼前川の支流小橋川と古矢川に挟まれた舌状台地上に立地する。今回の調査区は，南北に約100m，東西に約110m，面積10,414㎡である。現況は，畑地・山林である。遺跡は，南部を西から東へ流れる涸沼前川を見下ろす段丘南面の緩傾斜地に広がっており，標高約26～28mに位置し，涸沼前川低地面との比高は約20～22mである。弥生時代後期に大きな集落が形成され，その後，奈良・平安時代にかけても大きな集落が形成されたとみられる縄文時代～近代までの複合遺跡である。

今回の調査で検出された遺構は，縄文時代の陥し穴3基，弥生時代の住居跡23軒，古墳時代の竪穴住居跡22軒，奈良・平安時代の竪穴住居跡36軒，堀立柱建物跡2棟，土坑91基，道路状遺構跡1条，溝8条，近代の炭焼き窯跡1基等である。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に55箱出土している。主な遺物としては，縄文土器片（前期），弥生土器（壺・高坏），土師器（壺・甕・高坏・坩），須恵器，石器（石鏃・敲石・砥石・紡錘車），土製品（紡錘車・土玉），鉄製品（刀子・鉄鉗），銅製品（丸鞆）等が出土している。

第2節　基本層序の検討

当遺跡の南東側平坦部（Ｅ2b2区）にテストピットを設定し，深さ約2ｍまで掘り下げて，土層の堆積状況を確認した。



第4図　基本土層図

第1層は，20～40cmの厚さの耕作土層で，暗褐色をしている。

第2層は，12～18cmの厚さで，明褐色をしたソフトローム層である。

第3層は，10～22cmの厚さで，明褐色をしたソフトローム層である。色調は第2層より明るい。

第4層は，10～28cmの厚さで，明褐色をしたソフトローム層である。ローム粒子を微量含む。

第5層は，20～68cmの厚さで，明褐色をしたハードローム層である。スコリア粒子微量を含む。

第6層は，4～22cmの厚さで，明黄褐色をした鹿沼漸移層である。鹿沼粒子中量を含む。

第7層は，22～36cmの厚さで，黄橙色をした鹿沼純層である。鹿沼粒子を多量に含む。

第8層は，16～40cmの厚さで，明褐色をしたハードローム層である。鹿沼粒子を少量含む。

第9層は，5～10cmの厚さで，褐色をしたハードローム層である。

第10層は，10～26cmの厚さで，褐色をしたハードローム層である。色調は，第9層より明るい。

第11層は，18～30cmの厚さで，明褐色をしたハードローム層である。

住居跡等の遺構は，第2層上面で確認した。

第３節　遺構と遺物

１　竪穴住居跡

今回の調査によって，竪穴住居跡81軒を確認した。時期別の内訳は，弥生時代後期後半の竪穴住居跡17軒，弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の竪穴住居跡６軒，古墳時代の竪穴住居跡16軒，奈良・平安時代の竪穴住居跡42軒である。以下，確認した住居跡の特徴や遺物について時代別に記載する。

(1)　弥生時代後期後半

第２号住居跡（第５図）

位置　調査区南部，Ｃ３f1区。

規模と平面形　長軸6.63m，短軸6.10mの隅丸長方形である。

主軸方向　Ｎ－28°－Ｅ

壁　壁高は22～33cmで，全体として外傾して立ち上がるが，南部はやや垂直に近い立ち上がりである。

床　ほぼ平坦で軟弱なローム土。西部のＰ13・Ｐ14付近にやや硬化した面がある。

ピット　18か所（Ｐ１～Ｐ18）。Ｐ１～Ｐ４の４か所は，長径16～87cm，短径16～56cmの円形及び楕円形で，深さが30～50cmである。４か所を結んだ線は方形となり，配置，規模等から主柱穴と思われる。Ｐ5は，長径48cm，短径42cmの楕円形，深さ15cmで，位置から出入口施設に伴うピットと思われる。西部壁際のＰ13・Ｐ14の２か所は，周辺の床面が硬化していることから，出入口施設の補助的性格をもったピットであると考えられる。その他のピットを含めて性格は不明である。

炉　２か所。炉１は，中央部からやや北に位置し，長径82cm，短径52cmの楕円形で，床面を13cm掘り込んでいる。炉床は，中央部が特に火熱を受け赤変硬化し，長期間使用したと思われる。炉２は，炉１の西部に位置し，長径46cm，短径36cmの楕円形で，床面を8cm掘り込んでいる。中央部の焼土の堆積が薄いことから，炉１の補助的な使用と思われる。

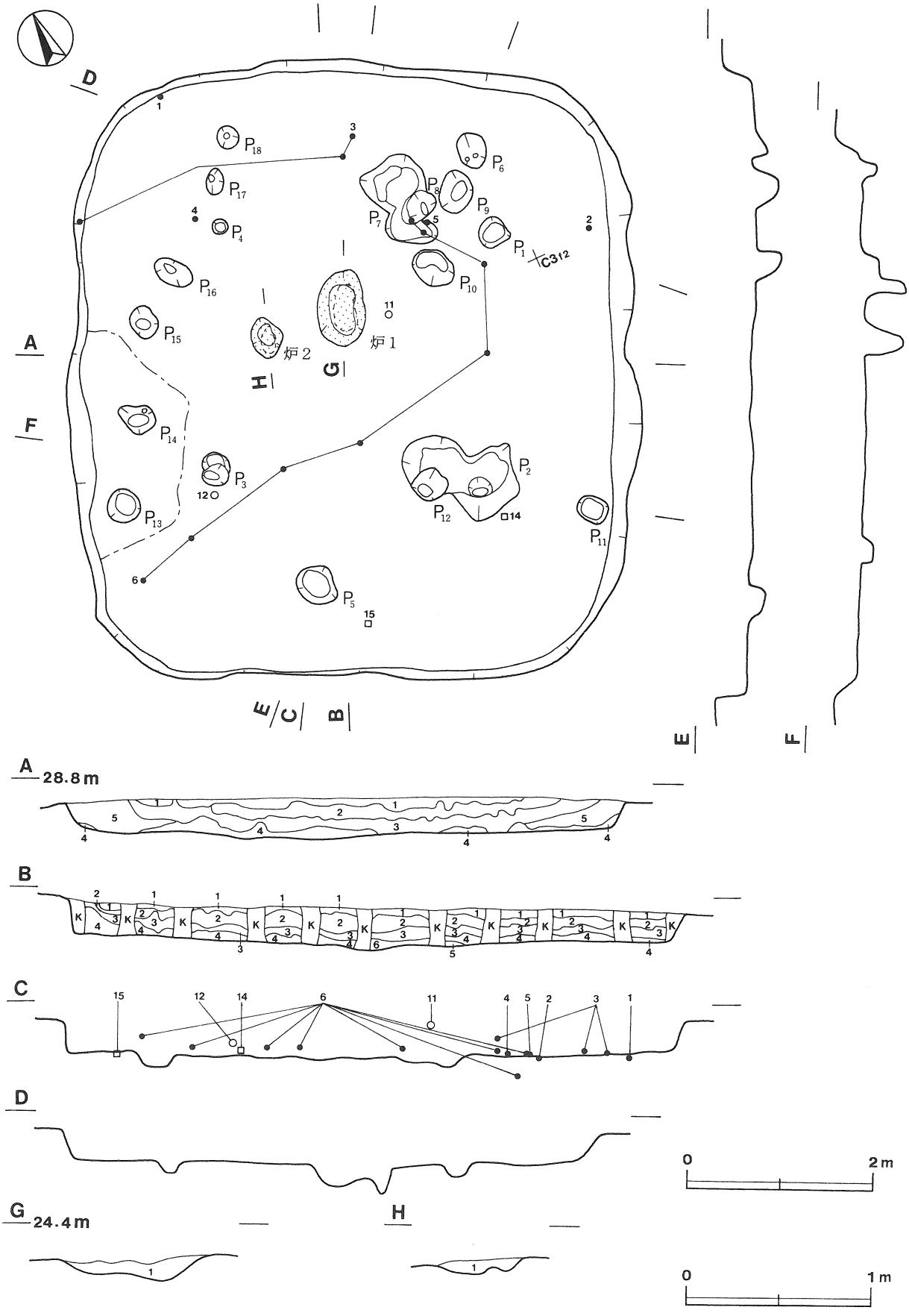
炉１土層解説
1　黒 褐 色　焼土粒子多量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中・小ブロック中量，ローム大ブロック微量

炉２土層解説
1　極暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック微量

覆土　６層からなるが，大きくは上層の黒褐色土，中層の黒色土，下層のロームを含む暗褐色土の３層に分けられる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　黒　　色　ローム粒子中量，炭化物少量
3　黒 褐 色　ローム粒子多量，炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量
6　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量

遺物　南部を中心に弥生土器片約350点，土製品１点，石製品３点出土しているが，弥生土器のほとんどが胴部片で，口縁部，底部片は微量である。第６図１～６は壺である。１は小形広口壺の完形品で，北部壁際の床面から横位の状態で出土している。２は，広口壺の底部から口縁部片で，北東部壁際の床面から斜位につぶれた状態で出土している。３～６は底部から胴部にかけての破片で，３は，北壁付近の床面からと北西壁際の覆土中層から出土した破片が接合している。４は，Ｐ４付近の床面から出土している。５は，炉１の北東付近の床面から出土し，６は，中央部から南西壁際にかけての覆土中層及び床面から出土した８片が接合している。



第5図　第2号住居跡実測図

11・12は球状土錘である。11は炉１付近の覆土上層，12はP3付近の覆土中層から出土している。13は土製紡錘車で，南東部の覆土中層から出土している。14・15は磨石で，14はＰ２付近の覆土下層から，15はＰ５付近の床面から出土している。

７～10は弥生土器片の拓影図である。７・８は頸部から口縁部片で，口唇部にはヘラ状工具による刻みが施され，頸部には櫛歯状工具による縦区画内に波状文が施されている。９・10は底部片で，９には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，どちらも底部には布目痕がある。

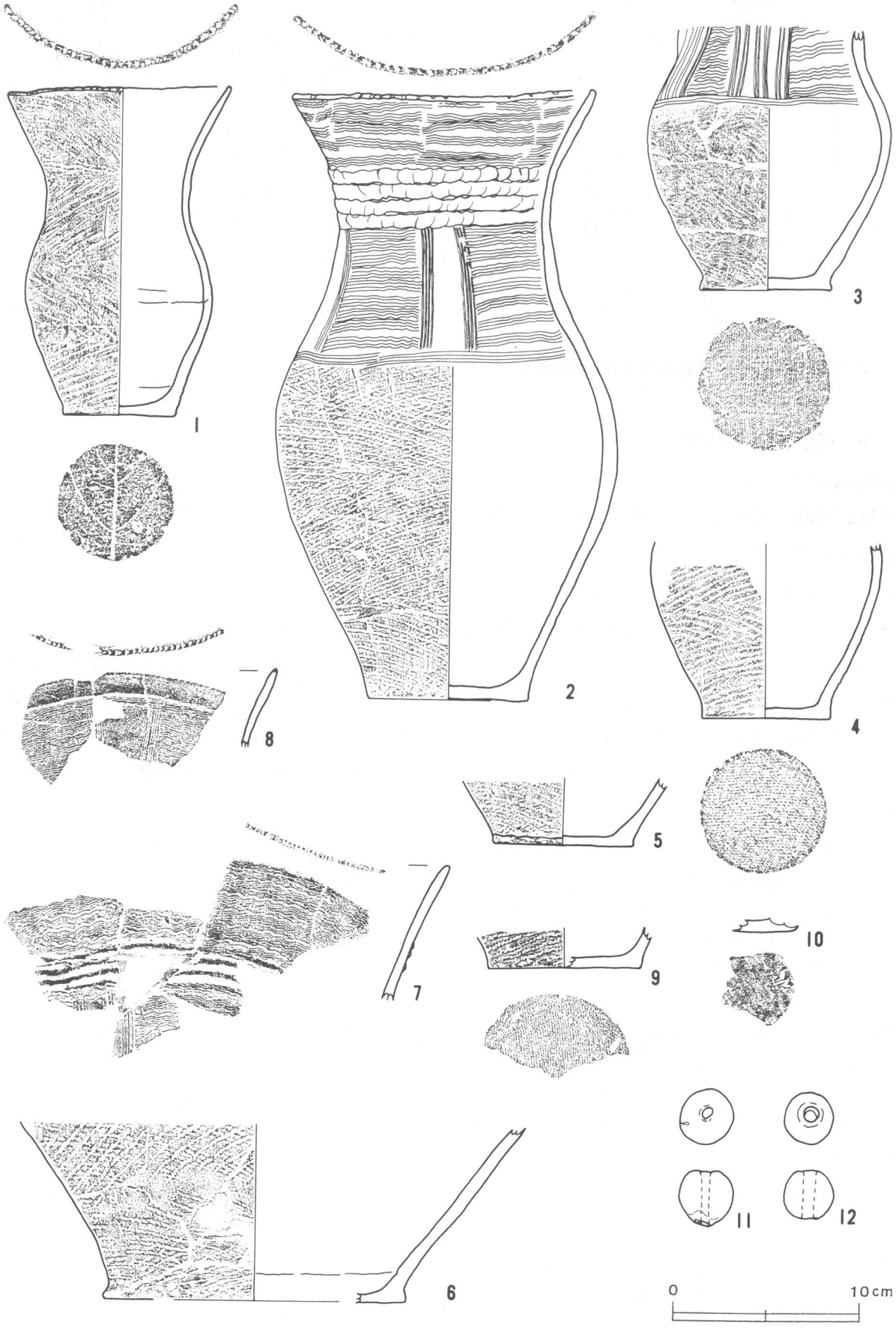
所見　本跡の時期は，規模と平面形及び１の小形広口壺と２の広口壺が床面から出土していることから弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。

第２号住居跡出土遺物観察表

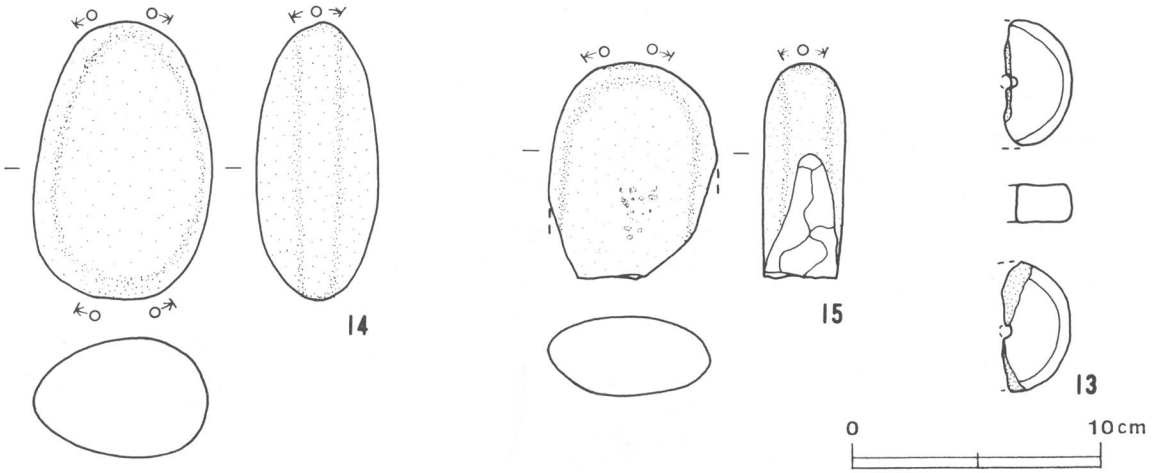
図版番号	器種	計測値(cm)	文様	胎土・色調・焼成	備考
第６図 1	小形広口壺 弥生土器	A 12.0 B 17.6 C 6.1	完形。口唇部には縄文が施されている。口縁部から体部にかけて附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。頸部との境に櫛歯状工具により横走文が3条巡る。底部に木葉痕がある。	長石，石英，赤色粒子 にぶい褐色 普通（二次焼成）	Ｐ１，100%　PL16 北壁際床面 口縁内面スス付着
2	広口壺 弥生土器	A 15.8 B 32.6 C 8.4 H 11.3 I 18.1	ほぼ完形。口唇部には，縄文が施されている。口縁部には波状文，頸部との境に4条の隆帯が施されている。頸部は4条を単位とする櫛歯状工具による平行沈線に5分割され，区画内には波状文が施されている。胴部外面は附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部に砂目痕がある。	雲母，石英，赤色粒子 にぶい褐色 普通	Ｐ２，95%　PL16 北東壁際床面
3	小形広口壺 弥生土器	B （13.9） C 7.0 H 9.9 I 12.9	底部から頸部片。頸部は４条を単位とする櫛歯状工具により５分割され，区画内には波状文が施されている。胴部外面には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部に布目痕がある。	長石，石英，雲母 にぶい褐色 普通（二次焼成）	Ｐ３，50%　PL16 北壁付近床面 外面スス付着
4	小形広口壺 弥生土器	B （ 9.3） C 6.8 I 12.4	底部から胴部上位にかけての破片。胴部外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部に布目痕がある。	石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	Ｐ４，30% P4付近床面 外面スス付着
5	小形広口壺 弥生土器	B （ 3.7） C ［ 7.4］	底部から胴部下端にかけての破片。胴部外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。底部に砂目痕がある。	石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	Ｐ５，15% 炉1付近床面
6	大形広口壺 弥生土器	B （ 9.4） C ［16.0］	底部から胴部下位にかけての破片。胴部外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部に砂目痕がある。	石英，雲母，赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	Ｐ６，20% 中央部覆土中層及び床面

図版番号	種別	計測値 径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
11	球状土錘	2.9	2.8	0.5	19.8	炉１付近覆土上層	DP１
12	球状土錘	2.7	2.5	0.7	16.2	P3付近覆土中層	DP２
13	紡錘車	（ 5.1）	1.5	（ 0.5）	（ 24.0）	南東部覆土中層	DP４

図版番号	種別	計測値 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	出土地点	備考
14	磨石	11.1	7.2	4.8	569.3	砂岩	Ｐ2付近覆土下層	Ｑ１
15	磨石	（ 8.6）	6.8	3.2	（280.7）	砂岩	Ｐ5付近床面	Ｑ２



第6図　第2号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第７図　第２号住居跡出土遺物実測図(2)

第４号住居跡（第８図）

位置　調査区南部，Ｃ２c6区。

規模と平面形　長軸6.35m，短軸5.64mの隅丸長方形である。

主軸方向　Ｎ－７°－Ｅ

壁　壁高は10～23cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸があり，炉を中心に踏み固められている。

ピット　18か所（Ｐ１～Ｐ18)。Ｐ１～Ｐ４は長径24～29cm，短径22～28cmの円形及び楕円形で，深さが55cm前後である。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と思われる。主柱穴を結んだ線は方形となる。Ｐ５は径25cmの円形で，深さ34cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６・Ｐ８・Ｐ10・Ｐ13は主柱穴の付近にあり，主柱穴の補助柱穴と考えられる。Ｐ９・Ｐ11・Ｐ16～Ｐ18は壁際に配置され，直径20～56cmの円形および楕円形で，壁柱穴と思われる。

炉　中央部からやや北寄りにあり，平面形は長径104cm，短径84cmの楕円形で，床面を18cm掘りくぼめている。炉床は，中央部が特に火熱を受け赤変硬化し，長期間使用したと思われる。

炉土層解説

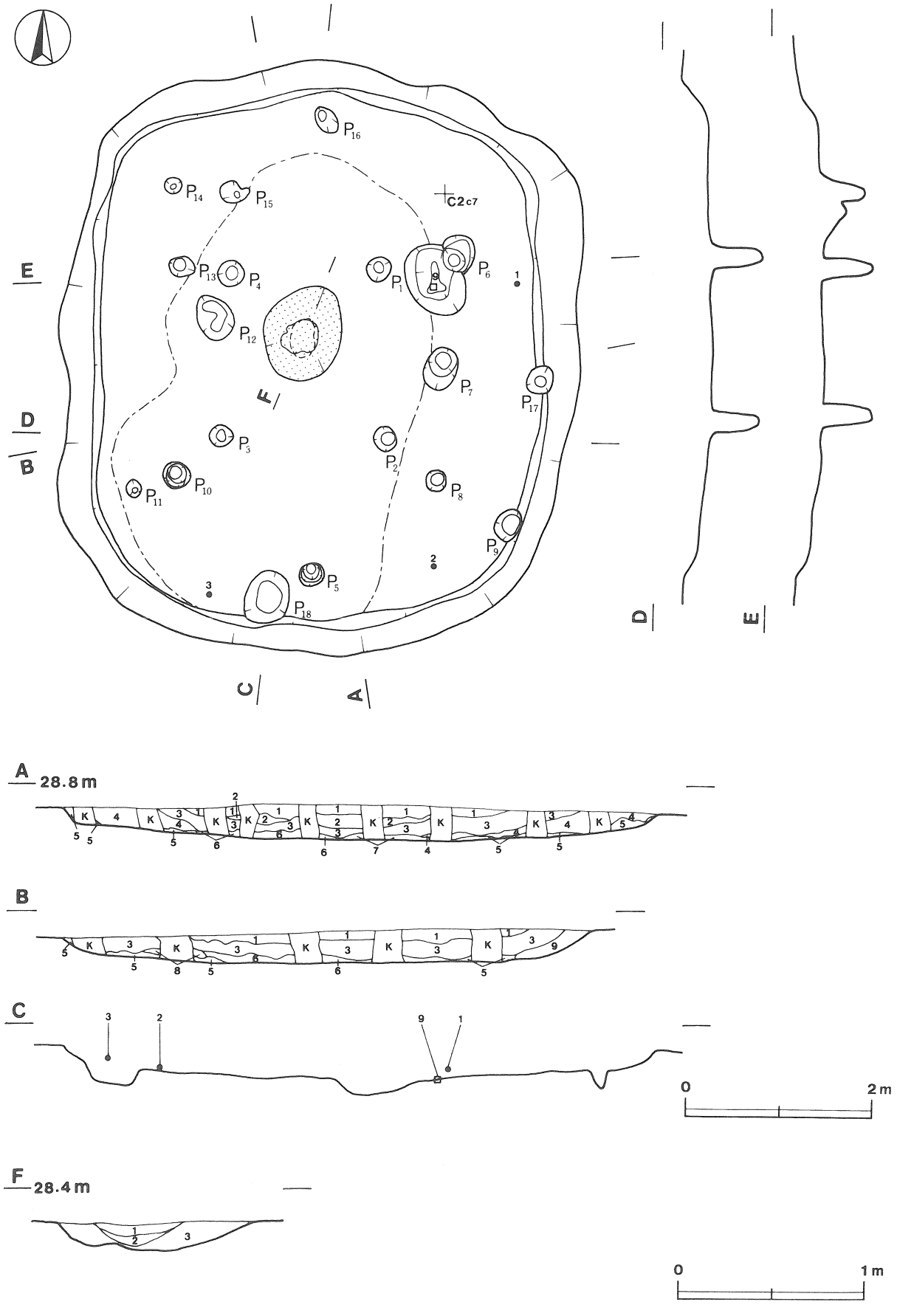
1　黒 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量
2　極暗褐色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，焼土大ブロック少量
3　明 褐 色　ローム小ブロック多量，ローム大・中ブロック・ローム粒子中量

覆土　９層からなるが，大別すれば３層である。上層に黒色土，中層にローム・焼土を含む暗褐色土，下層に極暗褐色土がレンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量　２層より色調が濃く，粘性が強い。
4　暗 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
5　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，炭化粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒 褐 色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
8　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　東部を中心に弥生土器片50点，石器１点出土しているが，ほとんどが胴部片で，口縁部，底部片は微量である。第９図１は鉢のほぼ完形品で，北東壁際Ｐ６付近の覆土下層から横位の状態で出土している。２は小形広口壺の底部から胴部片で，南東コーナー壁際の床面から出土している。３の壺は底部から胴部片で，南部

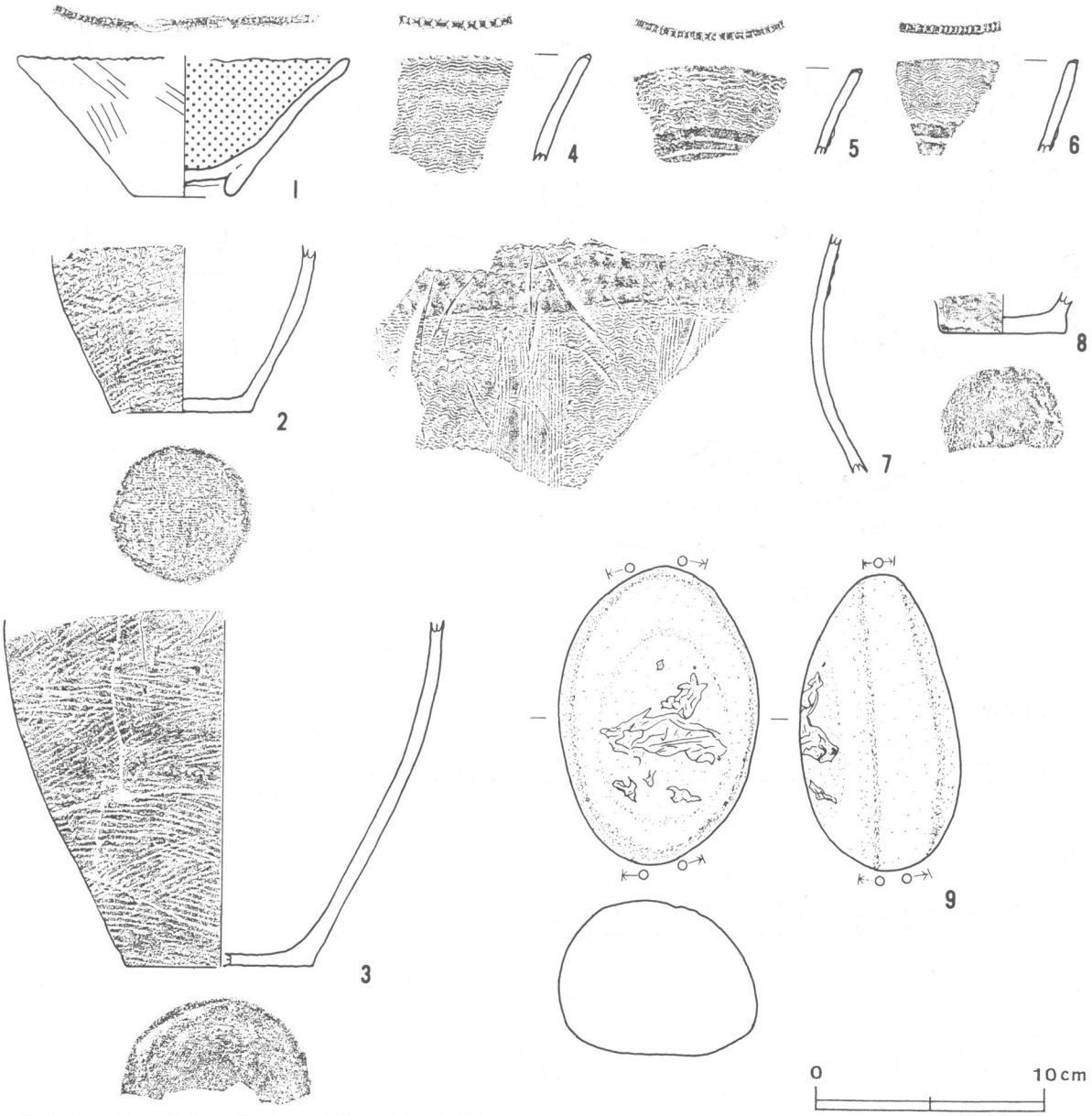


第8図　第4号住居跡実測図

P18付近の床面から横位の状態で出土している。9は磨石で，P6付近の床面から出土している。

4～8は弥生土器片の拓影図である。4～6は口縁部片で，口唇部にはヘラ状工具による刻みが施され，口縁部には櫛歯状工具による波状文が施されている。7は頸部片で，櫛歯状工具による縦区画内に波状文が施され，頸部には3本の隆帯が施されている。8は底部片で，底部には布目痕がある。

所見　本跡の時期は，規模・平面形及び2・3の壺が床面から出土していることから弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第9図　第4号住居跡出土遺物実測・拓影図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第9図 1	鉢 弥生土器	A［14.5］ B　6.0 C　4.5	口縁部一部欠損。口唇部には，ヘラ状工具による刻みが施されている。底部から外反ぎみに立ち上がる。底部は上げ底である。	長石,石英,砂粒,雲母,赤色粒子 橙色 普通	P7，85%　PL16 P6付近覆土下層 外面ヘラ磨き,内面赤彩

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　　様	胎土・色調・焼成	備　　考
第９図 2	小形広口壺 弥生土器	B　（ 7.3） C　　6.0	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部には布目痕がある。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい黄橙色 普通（二次焼成）	Ｐ８，30％ 南東コーナー壁際床面 外面炭化物付着
3	広　口　壺 弥生土器	B　（15.0） C　［ 8.2］	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部には布目痕がある。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	Ｐ９，30％　PL16 Ｐ18付近床面 外面炭化物付着,内面ｽｽ付着

図版番号	種　　別	計　　測　　値				石　　質	出　土　地　点	備　　考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
9	磨　　石	12.8	8.7	7.2	1032.0	安山岩	Ｐ6付近床面	Ｑ４

第５号住居跡（第10図）

位置　調査区南部，Ｃ２c4区。

規模と平面形　長軸5.58m，短軸4.55mの隅丸長方形である。

主軸方向　Ｎ－19°－Ｗ

壁　壁高は15～35cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸がある軟弱なローム土。炉を中心に出入口にかけて硬化した面がある。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は長径26～36cm，短径22～31cmの円形及び楕円形で，深さが64cm前後である。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と思われる。主柱穴を結んだ線は方形となる。Ｐ５は径17cmの円形で，深さ16cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６は性格不明である。

炉　中央部に位置し，長径113cm，短径88cmの楕円形で，床面を18cm掘りくぼめている。炉床中央部は赤色硬化し，長期間使用されていたと考えられる。

炉土層解説
1　黒 褐 色　焼土小ブロック多量，焼土大ブロック・焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土中ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大・中ブロック中量

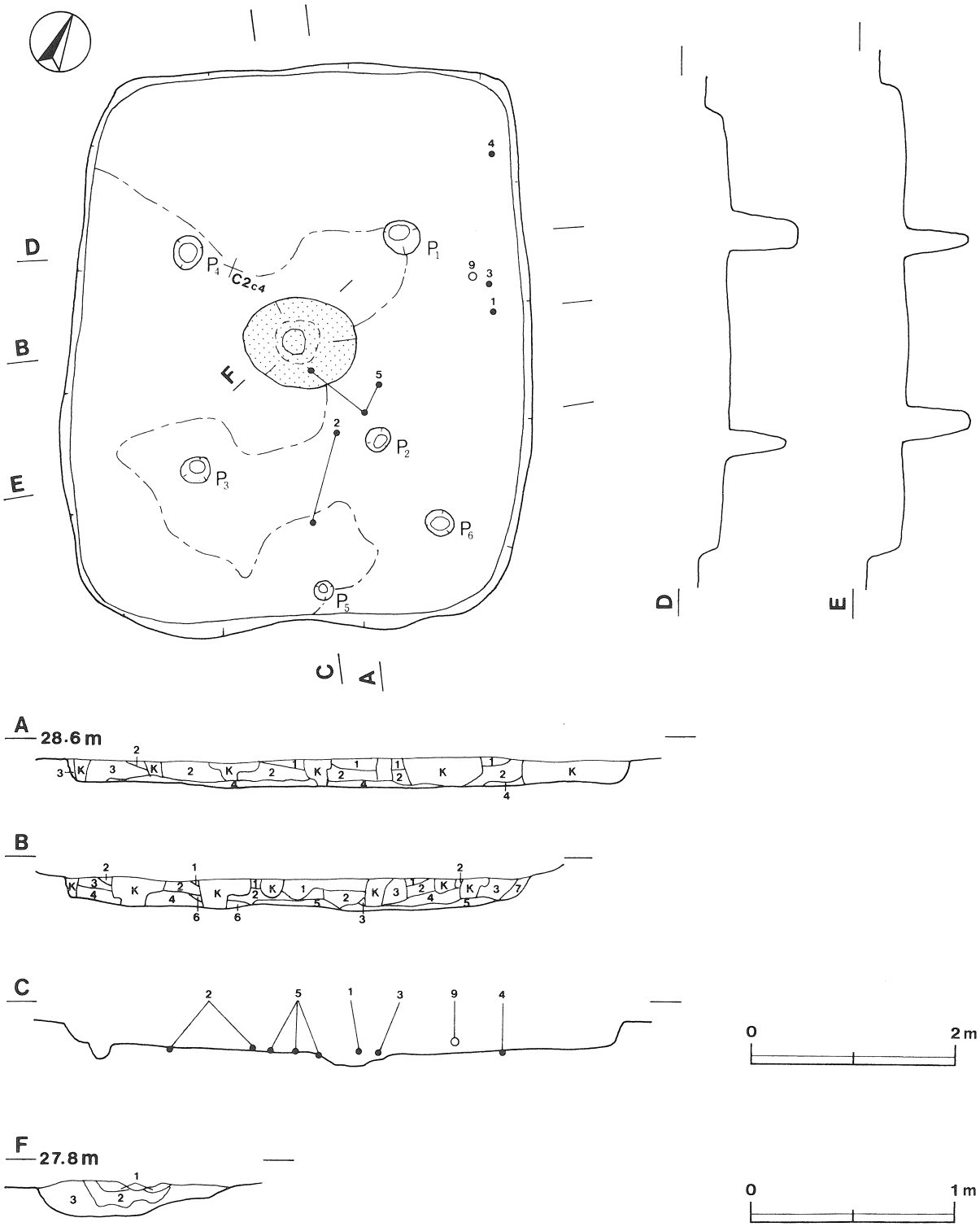
覆土　７層からなり，上層にはロームを含む黒色土，中層から下層にかけて黒褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子極微量
5　黒　　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
6　黒 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
7　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子微量

遺物　東部を中心に弥生土器片95点，土製品１点が出土している。ほとんどが胴部片で，口縁部，底部片は少量である。第11図１～５は壺である。１は広口壺のほぼ完形品で，東部壁際の床面から横位のつぶれた状態で出土している。２の広口壺の胴部から口縁部片は，Ｐ５付近の床面から横位の状態で出土している。３の胴部片は，東部壁際の床面から正位の状態で出土している。４・５は底部から胴部片で，４は北東壁際コーナー部の床面から正位の状態で，５は炉付近の床面から出土している。９は土製紡錘車で，東部壁際の覆土下層から出土している。

６～８は弥生土器片の拓影図である。６・７は頸部片で，どちらも縦区画内に櫛歯状工具による波状文が施され，７は頸部と胴部の境に波状文が施されている。８は底部片で，外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，底部には布目痕がある。

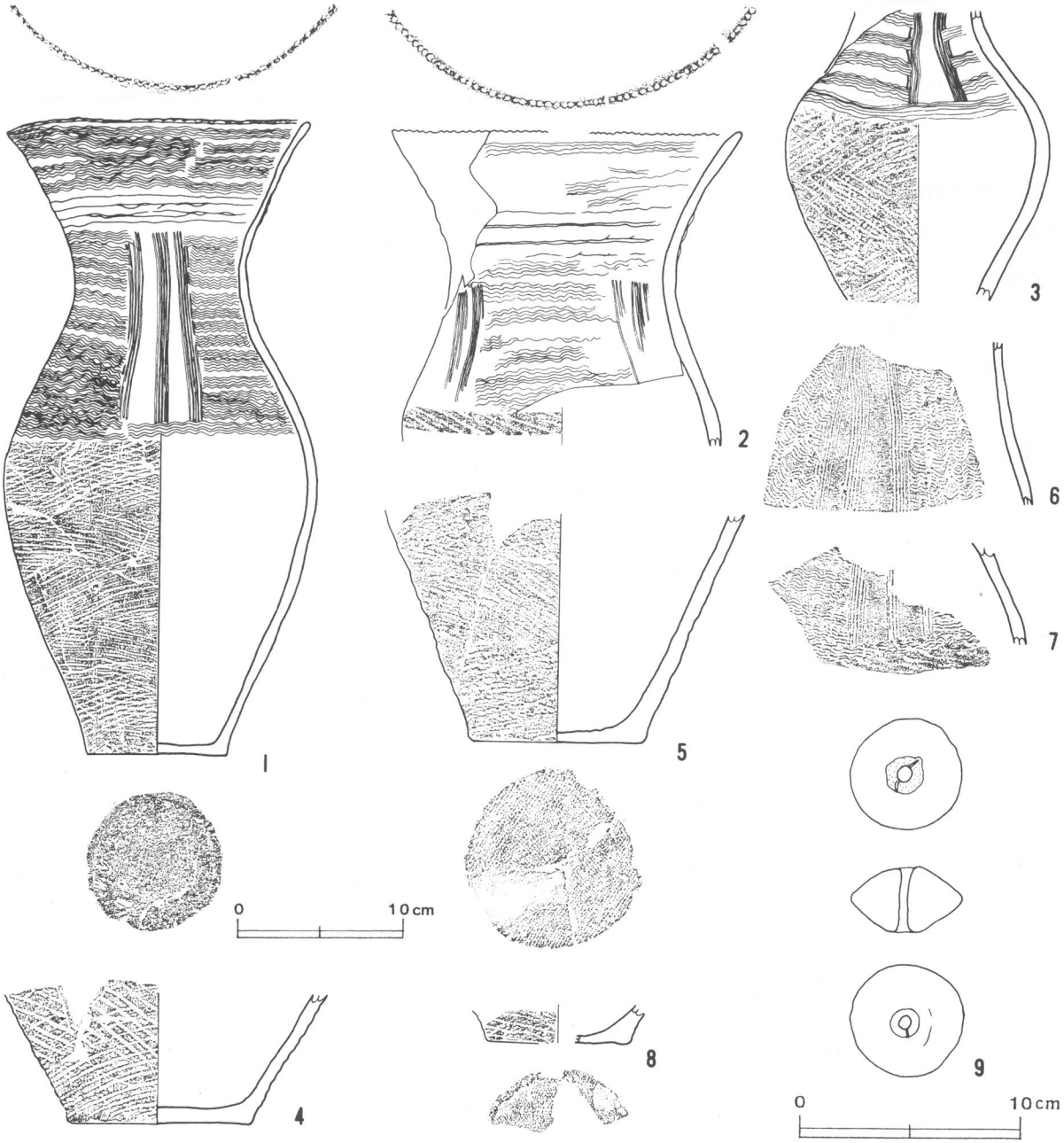
所見　本跡の時期は，規模・平面形，１～５の広口壺が床面から出土していることから弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第10図　第５号住居跡実測図

第５号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第11図 1	広口壺 弥生土器	A 18.2 B 38.3 C 8.4 H 10.4 I 18.8	ほぼ完形。口唇部には，縄文が施されている。口縁部には波状文が施され，下端に隆帯が４条巡る。頸部は，５条を単位とする櫛歯状工具による平行沈線で３分割され，区画内には波状文が施されている。胴部外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部に布目痕がある。	長石，石英，雲母 にぶい褐色 普通	P10，90% PL16 東部壁際床面 外面炭化物付着，内面スス付着



第11図　第５号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第11図 2	広口壺 弥生土器	A［15.7］ B（14.1） H［10.6］	口縁部から頸部片。口唇部にはヘラ状工具による刻みが施されている。口縁部には波状文が施され，下端に隆帯が３条巡る。頸部は，４条を単位とする櫛歯状工具による平行沈線で３分割され，区画内には波状文が施されている。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P11，30% PL16 P5付近床面 内・外面スス付着
3	小形広口壺 弥生土器	B（13.2） I［12.2］	胴部から頸部片。頸部の縦区画は，５条を単位とする平行沈線で分割され，区画内には櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P12，20% PL16 東部壁際床面
4	広口壺 弥生土器	B（ 5.9） C　8.1	底部から胴部片。胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部に砂目痕がある。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P13，15% 北東壁際コーナー床面
5	広口壺 弥生土器	B（10.3） C　7.6	底部から胴部片。胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部に布目痕がある。	長石，石英，雲母 にぶい橙色 普通	P14，20% 炉付近床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第11図9	紡錘車	5.1	2.7	0.4	54.2	東部壁際覆土下層	DP 5 PL31

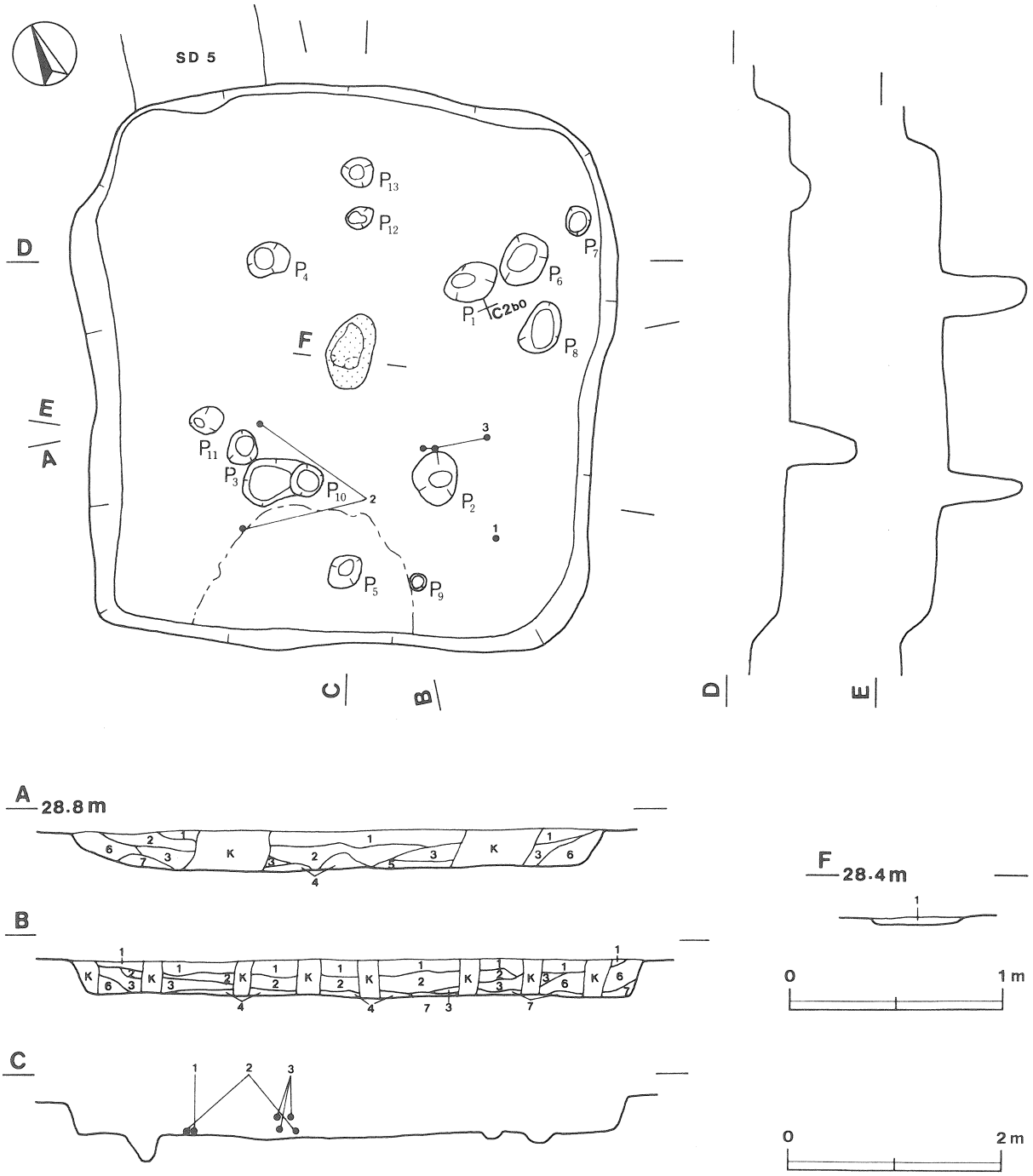
第8号住居跡（第12図）

位置　調査区南部，C 2 b9区。

重複関係　本跡の北東コーナー部を第5号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.24m，短軸4.76mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－26°－W



第12図　第8号住居跡実測図

壁　壁高は24～34cmで，わずかに外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸があり，北西部に高まりがある。出入り口付近では硬化面が確認されている。

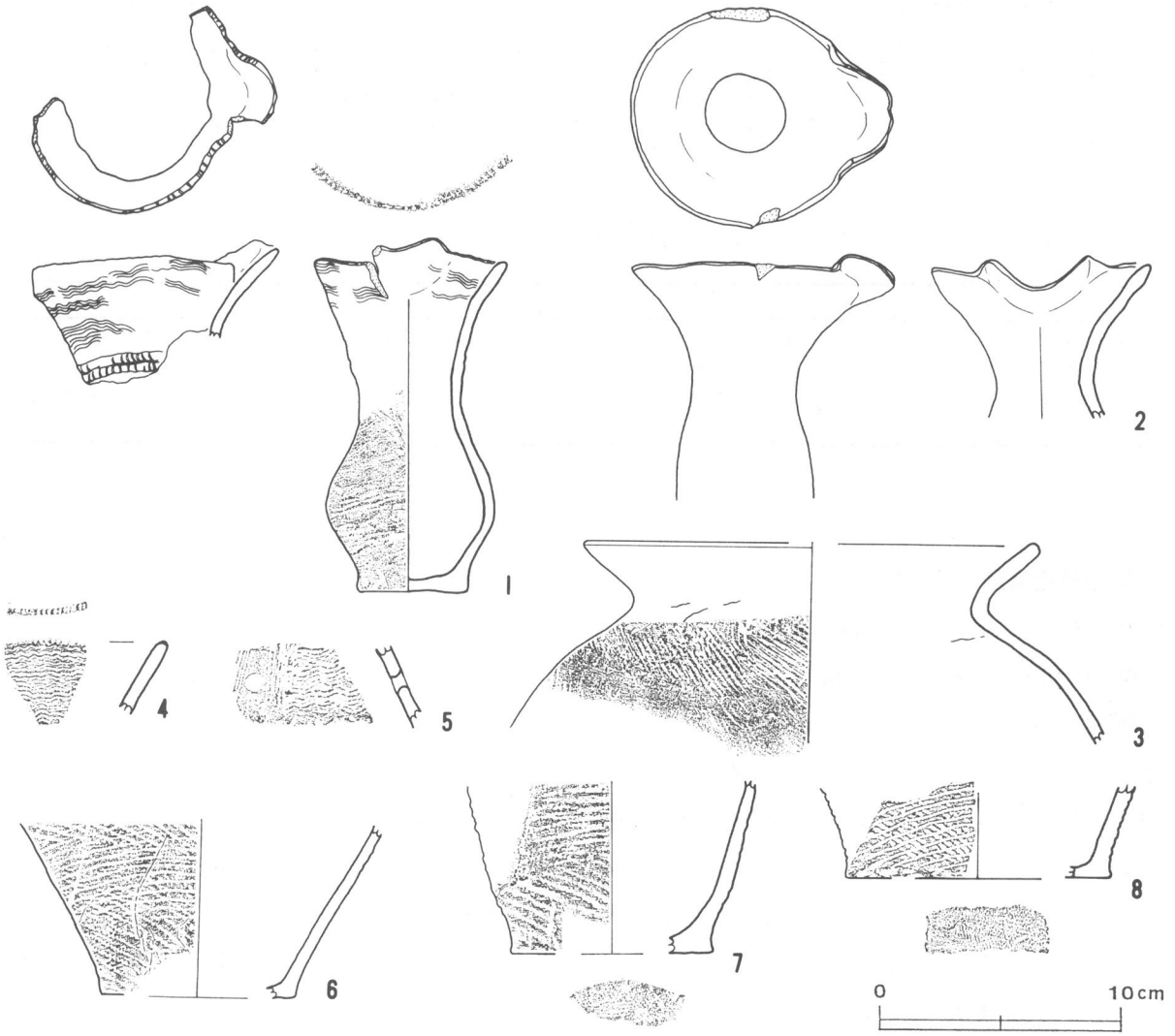
ピット　13か所（Ｐ１～Ｐ13）。Ｐ１～Ｐ４は長径31～53cm，短径20～42cmの楕円形で，深さ65～82cmで主柱穴と思われる。主柱穴を結ぶ線は長方形となる。Ｐ５は長径36cm，短径29cmの楕円形，深さ27cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６・Ｐ10は主柱穴の抜き取り穴の可能性が考えられるが，他のピットは性格不明である。

炉　ほぼ中央に位置し，長径73cm，短径43cmの楕円形で，床面を５cm掘りくぼめている。炉床の赤変硬化面及び覆土は撹乱のため一部分しか確認できなかった。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化物・ローム粒子微量

覆土　７層からなる。壁際には焼土粒子，炭化粒子を含む褐色土がレンズ状に堆積しているが，撹乱のため，全体的な覆土の様相は把握できない。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量



第13図　第８号住居跡出土遺物実測・拓影図

5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，炭化粒子微量

遺物　遺構全体が撹乱されているが，中央から南東部にかけて遺物が出土している。弥生土器片が89点出土し，ほとんどが胴部細片であり，土師器片が約110点出土している。第13図１・２は弥生土器の壺で，１の片口壺は南東壁際の床面から横位の状態で出土し，２の片口壺はＰ３付近の床面から逆位の状態で出土している。３は土師器の甕の体部から口縁部片で，Ｐ２付近の覆土中層から出土している。

４～８は，弥生土器片の拡影図である。４は広口壺の口縁部片で，口唇部に刻みが施され，口縁部には波状文が施されている。５は頸部片で，櫛歯状工具による縦区画内に波状文が施され，縦区画スリット内に補修孔とみられる焼成後の穿孔（内外整形）がある。６～８は広口壺の底部から胴部片で，外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとっている。７・８の底部には布目痕がある。

所見　本跡からは，第13図３の古墳時代前期（４世紀第１四半紀頃）の甕など土師器片が数多く出土しているが，それらは撹乱あるいは第５号溝に掘り込まれていることによる混入と思われる。時期は，規模・平面形や１・２の弥生土器の片口壺が床面から出土していることから弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。

第８号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第13図 1	片口壺 弥生土器	A　8.0 B　[13.2] C　4.4 H　4.2 I　7.0	頸部及び口縁部一部欠損。口唇部にはヘラ状工具による刻みが施されている。口縁部には波状文が施され，頸部との境には，隆帯が２条巡り，隆帯上にはヘラ状工具による刻みがある。頸部は，櫛歯状工具により縦区画され，区画内には，波状文が施されていると思われる。胴部には，附加条文が施されている。	長石，石英，雲母，赤色粒子 浅黄橙色 普通	P15，80%　PL16 南東壁際床面 外面スス付着
2	片口壺 弥生土器	A　9.4 B　(10.0) H　4.3	頸部から口縁部片。口縁部・頸部とも無文である。片口部の両端は上方に，先端部は外方向につまみ出されている。	長石,石英,雲母,赤色粒子 明黄褐色 普通	P16，50%　PL16 P3付近床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
3	甕 土師器	A　[18.8] B　(　8.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のハケ目調整。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P17,10% PL16 P2付近覆土中層

第12号住居跡（第14図）

位置　調査区南西部，Ｂ２d8区。

規模と平面形　長軸4.57m，短軸4.23mの隅丸方形である。

主軸方向　Ｎ－37°－Ｗ

壁　壁高は22～35cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。炉西部及び出入口部の周囲が踏み固められている。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径30～44cm，短径25～31cmの楕円形，深さ52～59cmで主柱穴と思われる。Ｐ５は長径32cm，短径21cmの楕円形，深さ44cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉　中央部からやや北西寄りにあり，長径78cm，短径58cmの楕円形で，床面を10cm掘りくぼめている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

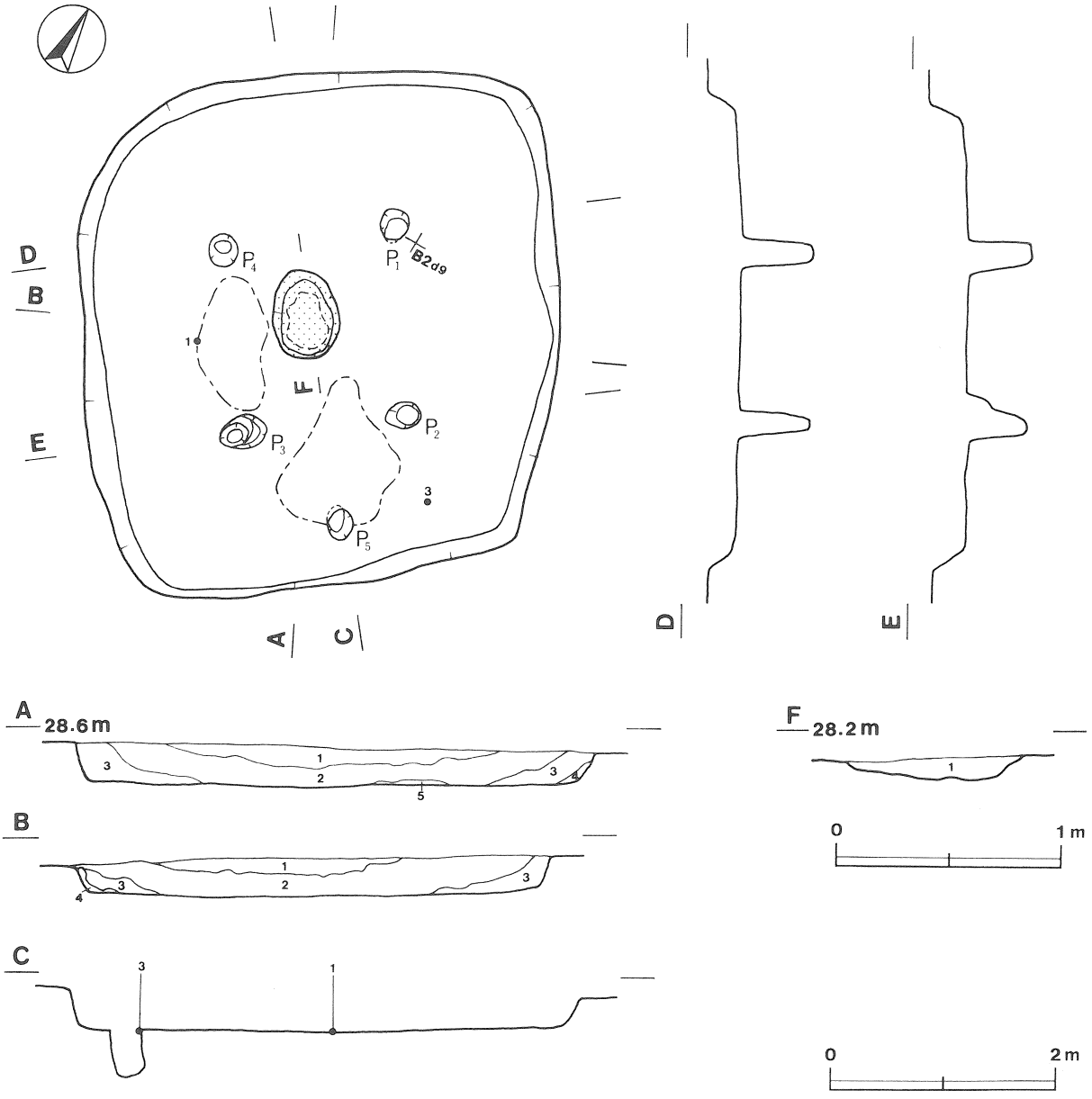
炉土層解説
1　極赤褐色　ローム粒子・焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック微量

覆土　5層からなり，上層中央に褐色土，中層から下層にかけてローム・焼土・炭化物を含む暗褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
4　明 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　弥生土器片80点，土師器片40点が出土している。弥生土器片のほとんどが胴部細片で，口縁部・底部は少量である。第15図１～３は弥生土器である。１・２は高坏で，１は炉西部の床面から逆位の状態，２は覆土中から出土している。３の広口壺の底部片は，南東隅の床面から出土している。

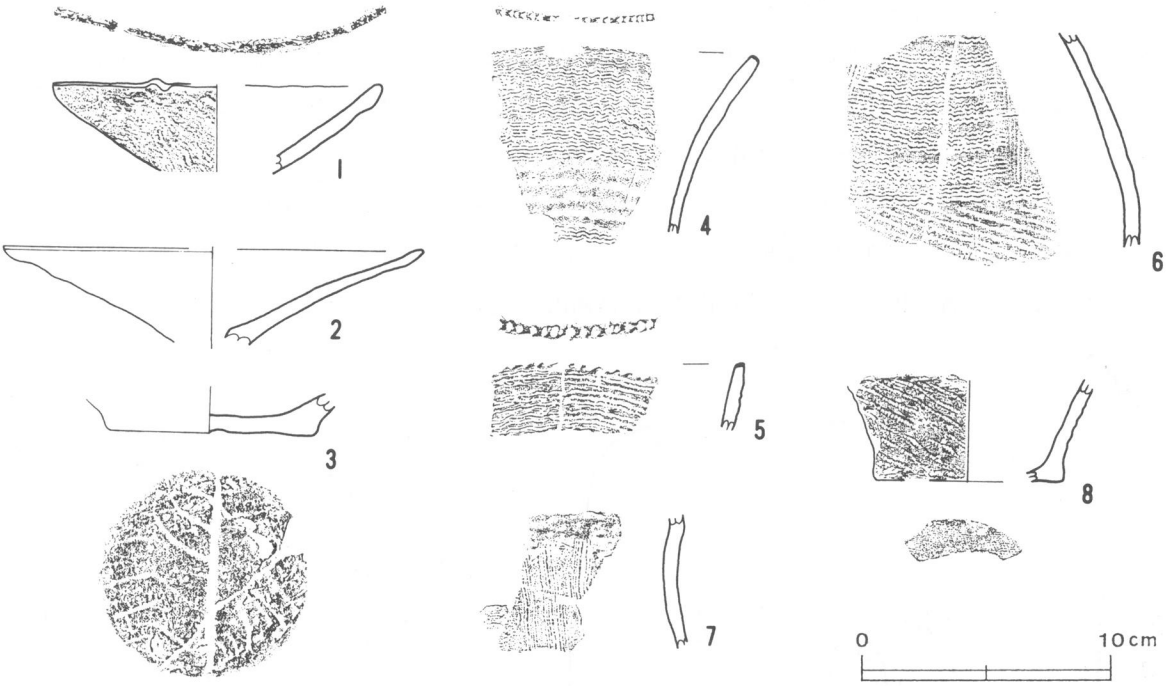
４～８は，弥生土器片の拓影図である。４・５は口縁部片で，口唇部には棒状工具による刻みがあり，頸部との境に櫛歯状工具による波状文が施されている。４は頸部との境に４条の隆帯が巡り，軽い押圧がある。６・７は頸部片で，櫛歯状工具により縦区画され，区画内には波状文が施されている。７は隆帯が巡り，６は



第14図　第12号住居跡実測図

胴部に附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。８は底部片で，胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，底部には布目痕がある。

所見　本跡から土師器片が出土しているが，覆土上層から出土していることから，廃絶後の流れ込み，あるいは投棄と思われる。時期は，規模・平面形及び遺物１の高坏，２の広口壺の底部片が床面から出土していること，並びにその器形の特徴・文様から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第15図　第12号住居跡出土遺物実測・拓影図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第15図 1	高　坏 弥生土器	A［13.2］ B（3.5）	坏部片。口唇部には，縄文が施され，突起（1か所）がつく。坏部外面には附加条縄文が施されている。坏部は外傾しながら，口縁部に至る。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P30，10% PL16 炉西部床面
2	高　坏 弥生土器	A［17.0］ B（3.9）	坏部片。坏部外面は無文である。坏部は器厚を減じながら，外反ぎみに立ち上がり，口縁部に至る。内・外面ナデ。	長石，石英，雲母 明黄褐色 普通	P31，10% PL17 覆土中
3	広口壺 弥生土器	B（1.7） C　8.2	底部片。底部は木葉痕である。	長石，石英，砂粒 にぶい黄褐色 普通	P32，5% 南東隅床面 外面一部摩滅。

第14号住居跡（第16図）

位置　調査区南西部，Ｂ２f7区。

規模と平面形　長軸5.68m，短軸5.00mの隅丸長方形である。

主軸方向　Ｎ－69°－Ｗ

壁　壁高は12～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸があり，出入り口施設の周囲及び炉の北部周囲が踏み固められている。

ピット　11か所（Ｐ１～Ｐ11）。Ｐ１～Ｐ３は長径27～35cm，短径11～31cmの楕円形，深さ32～40cmで主柱穴と思われる。Ｐ10・Ｐ11も主柱穴の可能性もあるが，Ｐ10は炉に近接し，Ｐ11は規模・位置的に無理があると思

われ，補助柱穴と考えられる。Ｐ４は直径34cmの円形，深さ29cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ８・Ｐ９は，Ｐ１・Ｐ２の周囲に位置し，長径38～77cm，短径38～68cmの楕円形で，深さ15～25cmの補助柱穴と思われる。他のピットは性格不明である。

炉　中央部から西寄りにあり，長径87cm，短径67cmの不定形で，床面を５cm掘りくぼめている。炉床は，火熱を受け赤変硬化している。

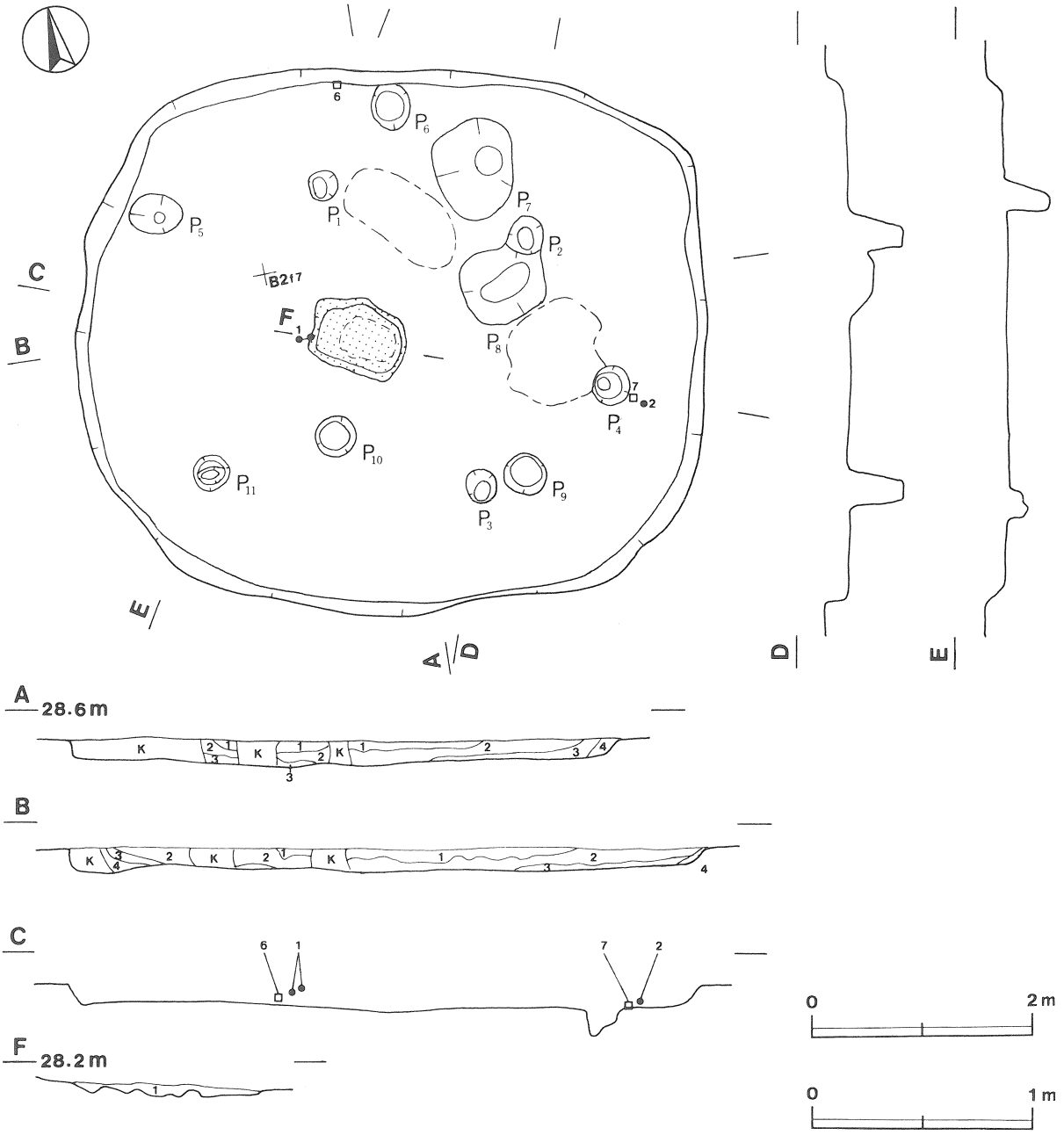
炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量，焼土中ブロック・炭化材・炭化物極微量

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積することから自然堆積であると思われる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子小ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量，焼土小ブロック極微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量

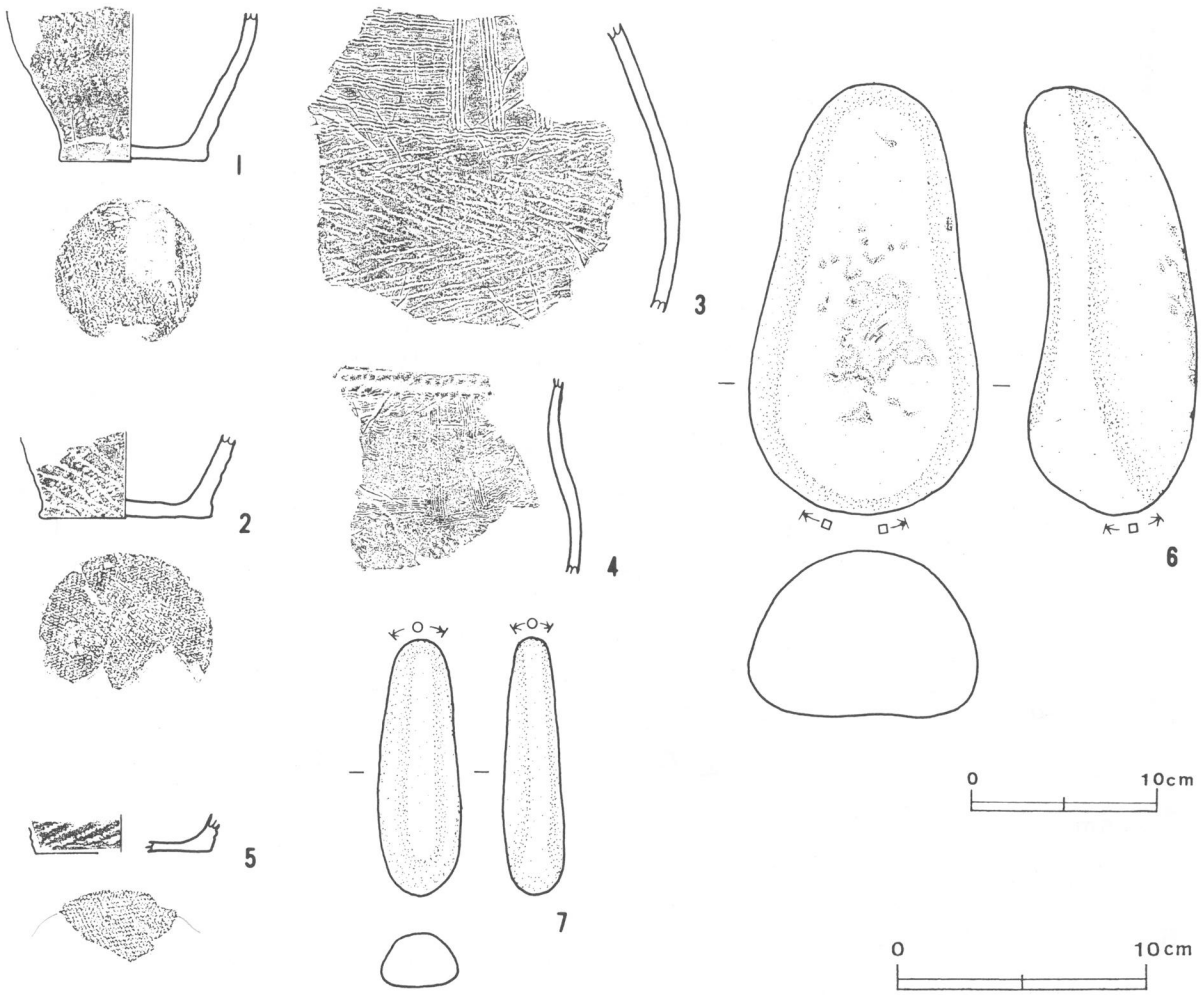


第16図　第14号住居跡実測図

遺物　出土遺物は少なく，弥生土器片24点，土師器片12点，石器２点が出土している。第17図１・２は弥生土器広口壺の底部から胴部片で，１は炉西部の覆土中層から正位の状態で，２は東部壁際の覆土下層から逆位の状態で出土している。６の敲石は北部壁際の覆土下層，７の磨石はＰ４東部の床面から出土している。

３～５は，弥生土器片の拓影図である。３・４は広口壺の胴部から頸部片で，３の頸部には，低い隆帯が巡り，隆帯上にはヘラ状工具による押圧がある。縦区画内には櫛歯状工具による波状文が施されている。４の頸部は縦区画内に櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとっている。５は底部片で，布目痕がある。

所見　本跡からは，土師器片も出土しているが，中央部の覆土上・中層から出土していることからみて流れ込みと思われる。時期は，規模・平面形及び出土土器の器種，器形の特徴・文様並びに出土状況から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第17図　第14号住居跡出土遺物実測・拓影図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第17図 1	広口壺 弥生土器	B（5.9） C　6.0	底部から胴部片。胴部には，附加条縄文が施されていると思われる。底部は布目痕である。	長石，石英，砂粒，雲母 にぶい黄褐色 普通	P33，10% 炉西部覆土中層 外面一部摩滅
2	広口壺 弥生土器	B（3.2） C　6.9	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石，石英，赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P34，10% 東部壁際覆土下層 外面一部摩滅

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第17図6	敲石	22.8	12.3	9.3	3428.7	安山岩	北壁際覆土下層	Q 9
7	磨石	10.2	3.3	2.4	120.3	安山岩	P4東部床面	Q10

第17号住居跡（第18図）

位置　調査区南部，Ｂ３g1区。

規模と平面形　長軸4.56m，短軸3.64mの隅丸長方形である。

主軸方向　Ｎ－45°－Ｗ

壁　壁高は５～11cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，出入り口ピットの北西部が踏み固められている。

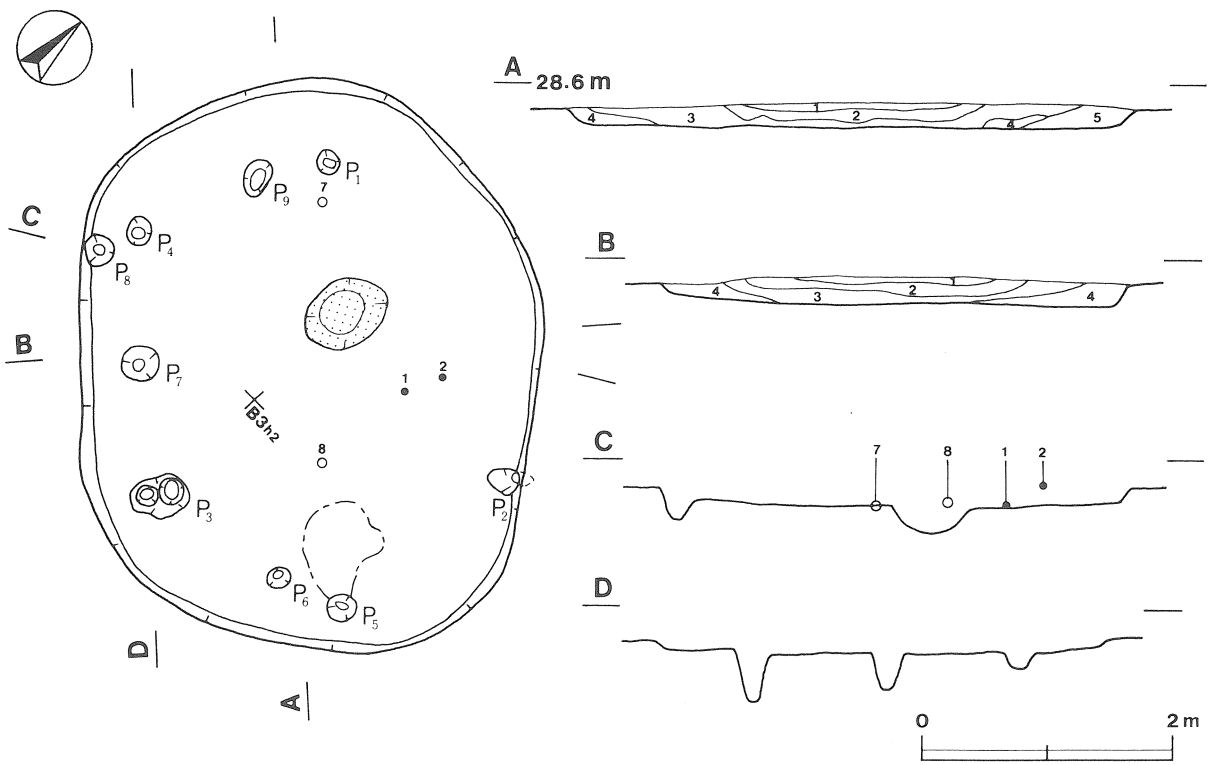
ピット　９か所（Ｐ１～Ｐ９）。Ｐ１～Ｐ４は長径20～42cm，短径18～35cmの楕円形，深さ16～43cmで主柱穴と思われる。Ｐ５は長径24cm，短径21cmの楕円形，深さ13cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６～Ｐ９は長径17～30cm，短径16～28cmの円形及び楕円形で，深さ17～22cmの補助柱穴と思われる。

炉　中央部から北西寄りに位置し，長径70cm，短径55cmの不整楕円形で，床面を20cm掘りくぼめている。炉床は，火熱を受け赤変硬化している。

覆土　５層からなる。壁際の覆土には，ロームブロックを含む褐色土がレンズ状に堆積していることから自然堆積であると思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子極微量
4　明褐色　ローム粒子少量，炭化粒子極微量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

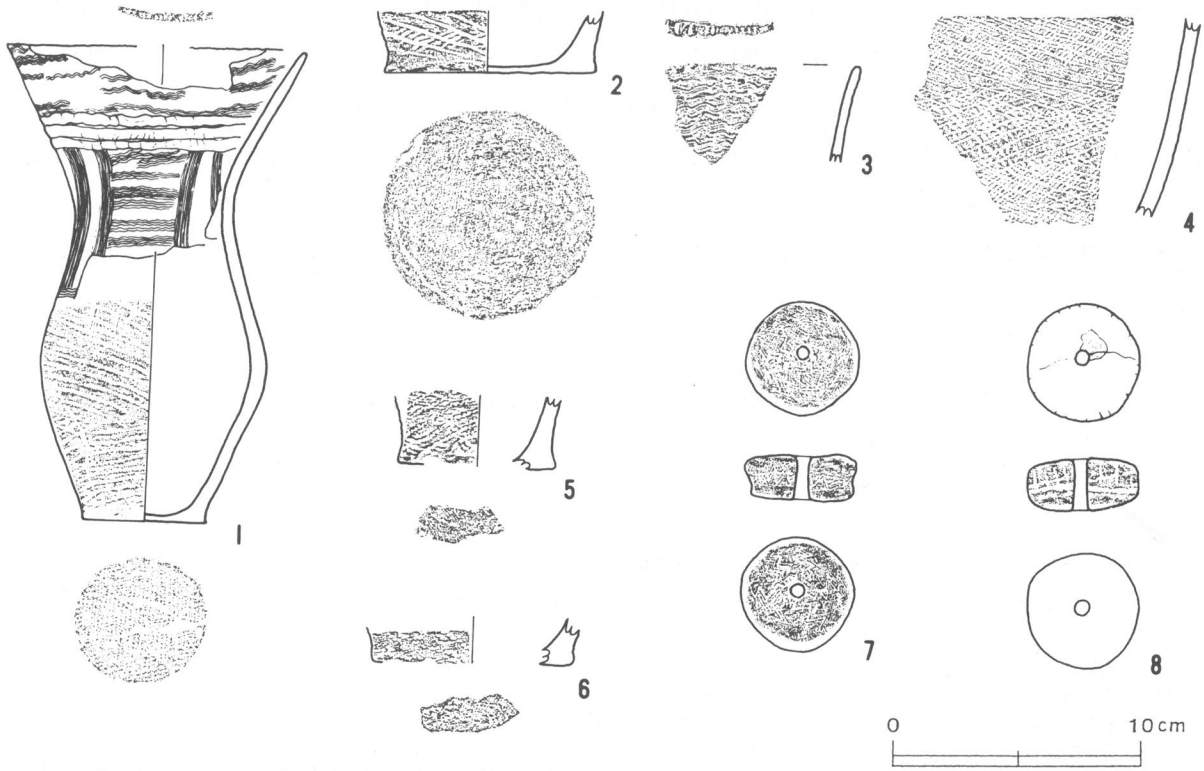


第18図　第17号住居跡実測図

遺物　弥生土器片34点，土師器片９点，土製品１点が出土している。弥生土器のほとんどが胴部の細片で，口縁部・底部片は極微量である。第19図１・２は弥生土器の壺で，１の底部から口縁部片は，炉東部の床面から横位の状態で出土している。２の底部から胴部片は，炉北東部の覆土上層から正位の状態で出土している。７の土製紡錘車は，Ｐ1付近の床面から斜位の状態で出土している。８の土製紡錘車は中央よりやや南東部の床面から正位の状態で出土している。

３～６は，弥生土器片の拓影図である。３は口縁部片で，どちらも口唇部に棒状工具による刻みが施され，口縁部の外面には櫛歯状工具による波状文が施されている。４は胴部片で，附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとっている。５・６は底部片で，５には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，底部はどちらも布目痕がある。

所見　本跡から土師器片も出土しているが，覆土上・中層から出土している状況からみて流れ込みと思われる。時期は，床面から出土した１・２の器形の特徴・文様から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えれる。



第19図　第17号住居跡出土遺物実測・拓影図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第19図 1	小形広口壺 弥生土器	A［12.0］ B　18.9 C　5.0 H［6.2］ I［8.8］	底部から胴部片。口唇部にはヘラ状工具による刻みがある。口縁部には５条の波状文が施され，頸部との境には，３条の隆帯が巡る。隆帯上には，爪によると見られる圧痕がある。頸部は，櫛歯状工具により４分割され，区画内には波状文が施されている。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は布目痕である。	長石，石英，砂粒 灰褐色 普通	Ｐ35，70%　PL16 炉東部床面 外面一部摩滅
2	広口壺 弥生土器	B（2.6） C　8.5	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石，石英，砂粒 淡黄色 普通	Ｐ37，10% 炉北東部覆土上層 外面一部摩滅

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第19図7	紡錘車	4.4	1.9	0.6	50.2	P1付近床面	DP 9	PL31
8	紡錘車	4.4	2.1	0.6	51.6	南東部床面	DP10	PL31

第25号住居跡（第20図）

位置　調査区中央部，Ｂ３d0区。

重複関係　本跡は，第10号土坑に掘り込まれており，第10号土坑より古い。

規模と平面形　一辺3.90ｍの隅丸方形である。

主軸方向　Ｎ－32°－Ｅ

壁　壁高は10～16cmで，垂直に立ち上がる。

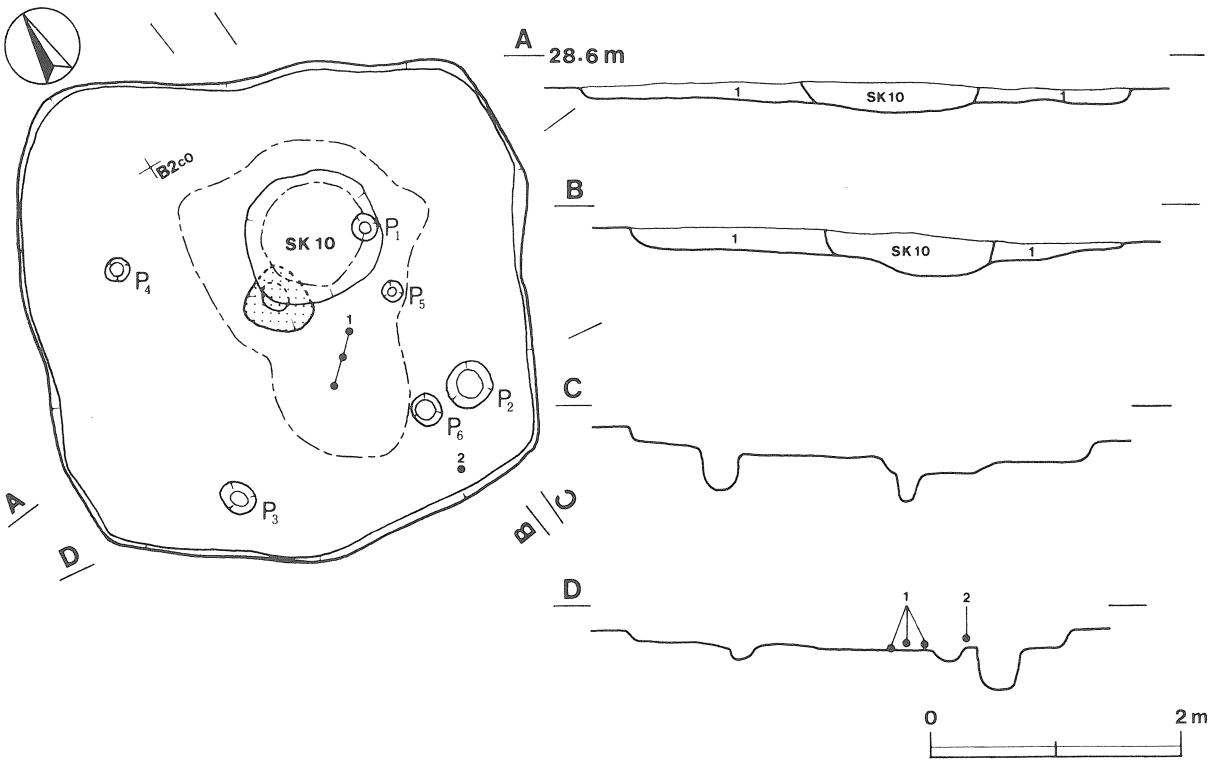
床　平坦なロームで，炉の周囲と出入り口ピットの周囲が踏み固められている。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は長径20～36cm，短径19～35cmの楕円形，深さ11～36cmで主柱穴と思われる。Ｐ５・Ｐ６は長径18～27cm，短径16～24cm，深さ13cmで，位置からＰ１・Ｐ２の補助柱穴と思われる。

炉　北半部が第10号土坑に掘り込まれている。ほぼ中央部に位置し，直径[55]cmの円形で，床面を[５]cmほど掘りくぼめていると推定される。炉床は焼土の遺存が少ない。

炉土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土中・小ブロック少量

覆土　当初，確認面では住居跡のプランのみであったが掘り下げていく過程で，中央に土坑が確認された。ロームブロックが多く含まれることから単一層からなる人為堆積と考えられる。炉と南壁部の覆土下層から床面にかけて炭化材が検出された。



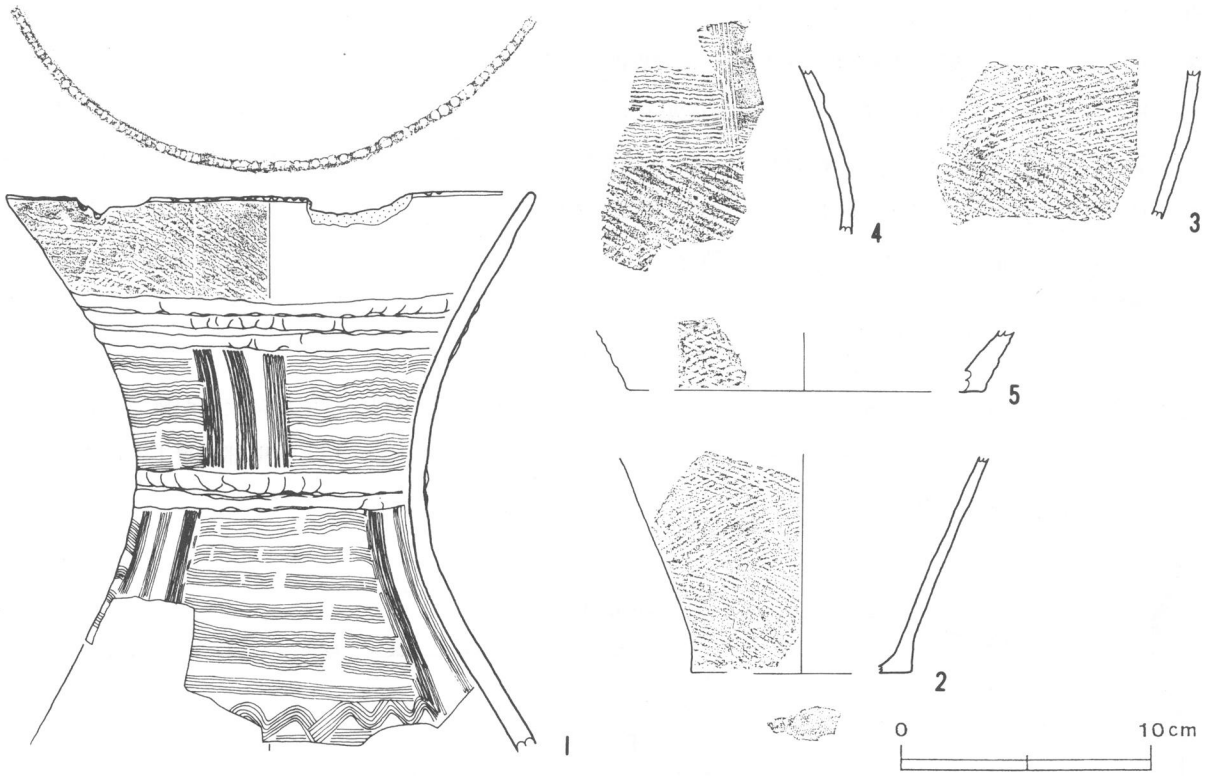
第20図　第25号住居跡実測図

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物　弥生土器片25点，土師器片４点が出土しているが，弥生土器は胴部細片が多く，他の部位は少量である。第21図１・２は弥生土器の壺で，１の胴部から口縁部片は，炉南東部の床面から逆位の状態で出土している。２の底部から胴部片は，南東コーナー部の覆土下層から逆位で出土している。

３～５は，弥生土器片の拓影図である。３は胴部から頸部片で，頸部には櫛歯状工具による縦区画に波状文が，胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。４は胴部片で，附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとっている。５は底部片で，外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。

所見　本跡は，覆土下層から床面にかけて炭化材がみられることから焼失家屋と思われる。時期は，床面から出土している１・２の器種，器形の特徴・文様などから弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第21図　第25号住居跡出土遺物実測・拓影図

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第21図 1	大形広口壺 弥生土器	A　21.0 B　(22.4) H　11.7	胴部上半から口縁部片。口唇部には，ヘラ状工具による刻みがあり，口縁部には附加条二種（附加条１種）の縄文が施されている。下部に３条の隆帯が巡り，６条を単位とする平行沈線で４分割され，区画内には櫛歯状工具による波状文が施されている。頸部との境には，２条の隆帯が巡り，隆帯上には，指頭による押圧がある。頸部は，６条を単位とする平行沈線で３分割され，区画内には，櫛歯状工具による波状文が施される。胴部との境には，櫛歯状工具による山形文と横走文が施されている。	石英，雲母，赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P116，40%　PL17 炉南東部床面 内面スス付着
2	広　口　壺 弥生土器	B　(8.7) C　[8.8]	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石石英雲母砂粒白色粒子 にぶい赤褐色 普通	P117，10%　PL17 南東コーナー覆土下層 内面スス付着

第28号住居跡（第22図）

位置　調査区中央部，Ｂ３C2区。

規模と平面形　長軸4.25m，短軸3.83mの隅丸長方形である。

主軸方向　Ｎ－17°－Ｗ

壁　壁高は15～21cmで，垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸があり，炉の南西部・出入り口西部の付近が踏み固められている。

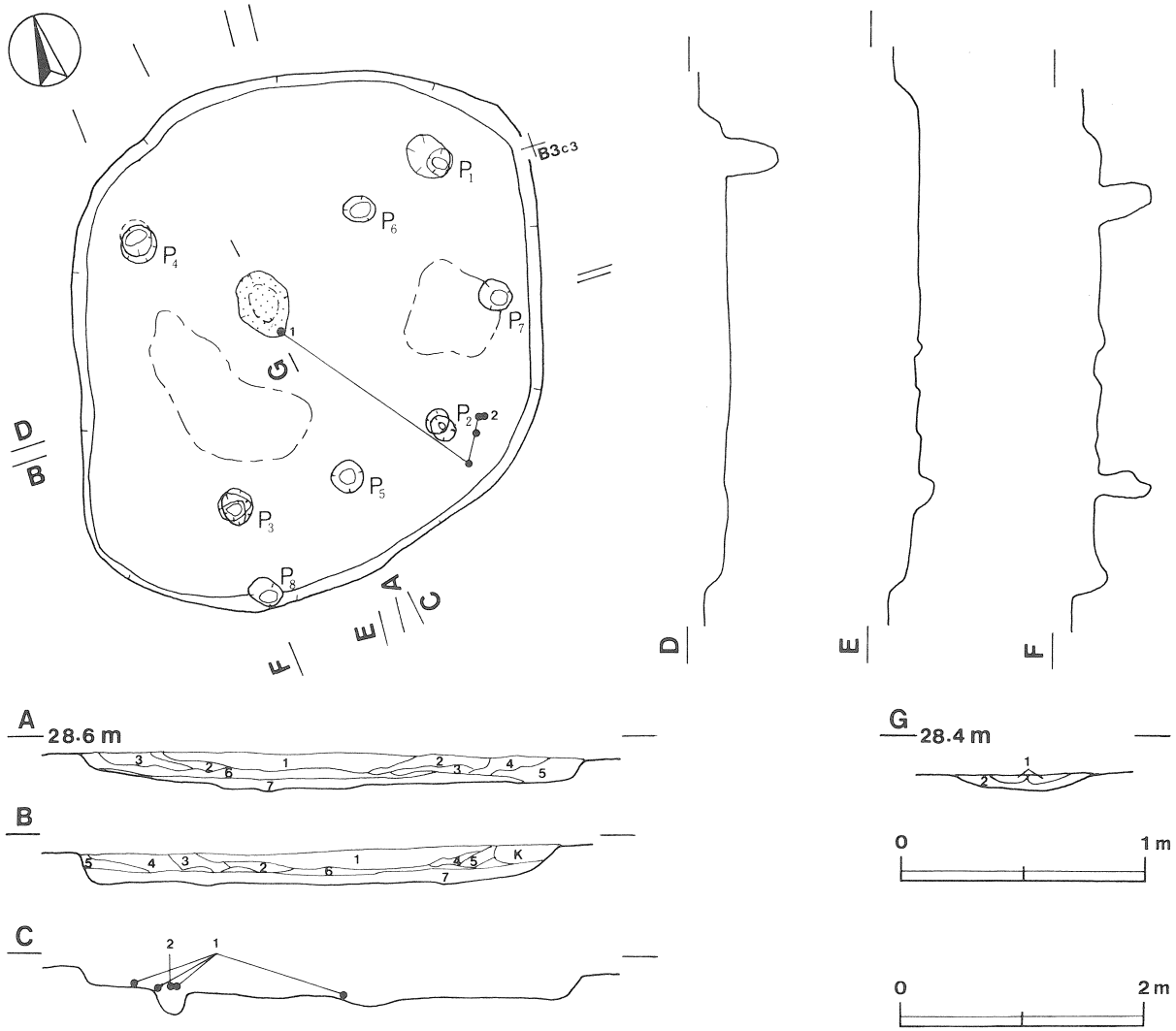
ピット　８か所（Ｐ１～Ｐ８）。Ｐ１～Ｐ４は長径30～37cm，短径19～35cmの円形及び楕円形，深さ50～61cmで主柱穴と思われる。Ｐ７は長径30cm，短径25cmの楕円形，深さ45cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。壁に近いことから梯子状の構造物があったものと思われる。Ｐ５・Ｐ６は長径27～28cm，短径23～27cmの円形及び楕円形で，深さ17～20cmの補助柱穴と思われる。Ｐ８は長径28cm，短径22cm，深さ14cmの壁柱穴と思われる。

炉　中央部から北西寄りにあり，長径56cm，短径43cmの楕円形で，床面を６cm掘りくぼめている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土中・小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量

2　明 褐 色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量



第22図　第28号住居跡実測図

覆土　7層からなり，上層に黒褐色土，中層から下層にかけてローム・焼土を含む褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

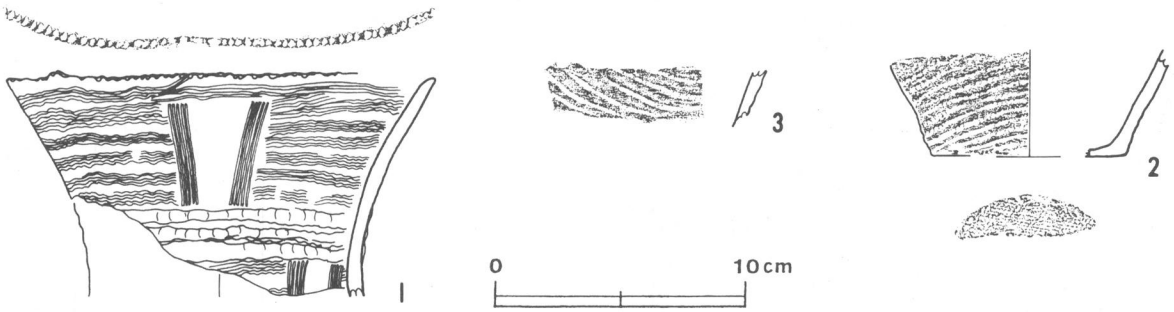
土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック微量	4	褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
2	極暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量	5	褐　色	ローム粒子多量，ローム中・小ブロック・焼土粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量	6	褐　色	ローム大・中ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，赤色粒子極微量
			7	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子微量

遺物　弥生土器片6点，土師器片7点が出土している。第23図1・2は弥生土器の壺で，1の胴部から口縁部片は，南東コーナー部の床面から横位のつぶれた状態で出土している。2の底部から胴部片は，P2付近の床面から出土している。

3は弥生土器片の拓影図である。3は胴部片で，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。

所見　本跡からは土師器片も出土しているが，中央部の覆土上層から出土していることからみて流れ込みと思われる。時期は，床面から出土している1・2の器形の特徴・文様から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第23図　第28号住居跡出土遺物実測・拓影図

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	文様	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	広口壺 弥生土器	A　17.0 B　(8.9)	頸部から口縁部片。口唇部には，ヘラ状工具による刻みが施されている。口縁部には波状文が巡り，5条を単位とする平行沈線で4分割され，区画内には，櫛歯状工具による波状文が施されている。頸部との境には，3条の隆帯が巡り，隆帯上には，指頭による圧痕がある。	長石，石英，雲母，砂粒 橙色 普通	P51，15%　PL17 南東コーナー床面 外面スス付着
2	広口壺 弥生土器	B　(4.2) C　[7.8]	底部から胴部片。頸部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石，石英，白色粒子 にぶい褐色 普通	P52，10% P2付近床面

第30号住居跡（第24図）

位置　調査区中央部，B3d7区。

重複関係　本跡は，北東コーナー部を第4号溝に，北西コーナー部を第31号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.10m，短軸2.98mの隅丸方形である。

主軸方向　N－1°－E

壁　壁高は10～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸があり，出入口施設の北部を中心に踏み固められている。

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は長径34～43cm，短径30～37cmの楕円形で，深さが65cm前後である。

Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と思われる。Ｐ５は直径40cmの円形，深さ19cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉　中央部からやや北西寄りにあり，平面形は長径52cm，短径33cmの不整楕円形で，床面を11cm掘りくぼめている。炉床は，中央部が特に火熱を受け赤変硬化し，長期間使用したと思われる。

炉土層解説

1　赤 褐 色　焼土小ブロック中量
2　暗 褐 色　焼土粒子中量
3　褐　　色　焼土粒子ブロック中量

覆土　３層からなり，上層に黒褐色土，中層にローム・焼土を含む暗褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

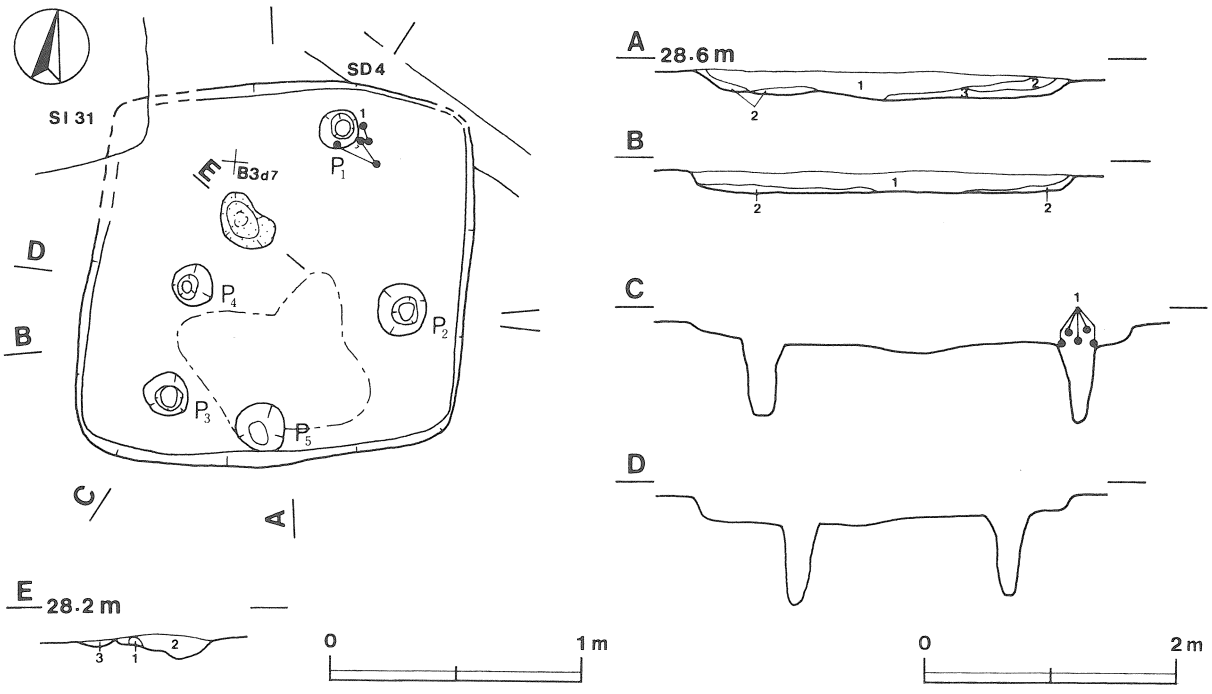
土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック少量，炭化粒子微量

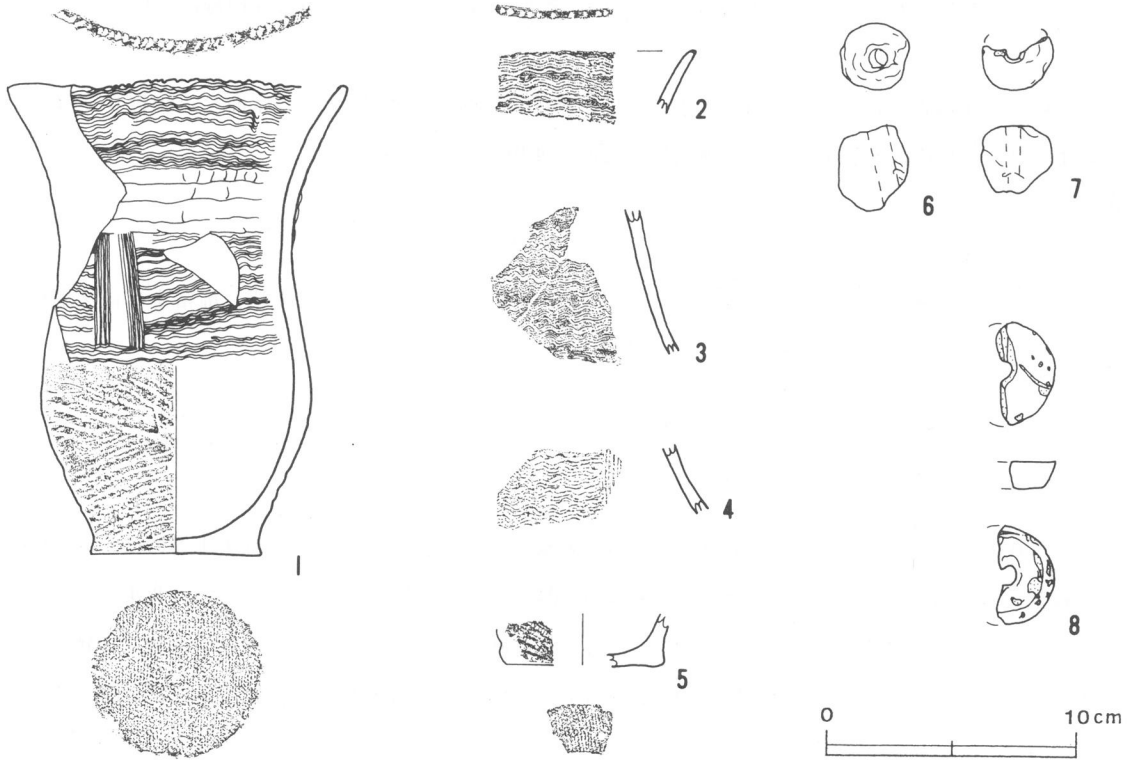
遺物　弥生土器片31点，土師器片250点，須恵器片57点，石製品１点出土しているが，弥生土器のほとんどが胴部片で，口縁部，底部片は微量である。第25図１は弥生土器の広口壺の底部から口縁部片で，北東コーナー部の床面から正位の状態で出土し，Ｐ１周囲の床面から出土した破片が接合している。６・７は球状土錘で，６は南西部の覆土上層から，７は北東部の覆土上層から出土している。８は石製紡錘車で，南東部の覆土上層から出土している。

２～５は弥生土器片の拓影図である。２は口縁部片で，口唇部には棒状工具による刻みがあり，外面に櫛歯状工具による波状文が施されている。３・４は頸部片である。どちらも櫛歯状工具による縦区画内に波状文が施されている。５は底部片で，底部には布目痕がある。

所見　本跡から出土している土師器・須恵器片は覆土上層から出土していることから，撹乱による混入と思われる。時期は，規模・平面形及び１の弥生土器小型広口壺が床面から出土しているから弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第24図　第30号住居跡実測図



第25図　第30号住居跡出土遺物実測・拓影図

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　　様	胎土・色調・焼成	備　　考
第25図 1	小形広口壺 弥生土器	A［13.5］ B　18.7 C　6.7 H［9.4］ I［10.5］	底部から口縁部片。口唇部には，ヘラ状工具による刻みが施されている。口縁部には波状文が施され，頸部との境には，4条の隆帯が巡り，隆帯上には，指頭による押圧がある。頸部は，6条を単位とする平行沈線で分割され，区画内には，櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部との境には，波状文が施され，胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は布目痕である。	長石，石英，雲母，白色粒子 にぶい褐色 普通	P118，50%　PL17 北東コーナー床面 内面スス付着

図版番号	種　　別	計測値				出土地点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
6	球状土錘	2.7	3.3	0.7	18.2	南西部覆土上層	DP51
7	球状土錘	2.8	2.6	0.5	11.5	北東部覆土上層	DP52

図版番号	種　　別	計測値				石　　質	出土地点	備　　考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
8	紡錘車	4.0	1.4	0.8	12.8	粘板岩	南東部覆土下層	Q19　PL33

第41号住居跡（第26図）

位置　調査区西部，A 3 h3区。

重複関係　本跡の北部は，第42号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸[4.08]m，短軸[3.65]mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向　N－39°－W

壁　壁高は27～65cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸があり，炉の南部を中心に踏み固められている。

ピット　3か所（Ｐ１～Ｐ３）。Ｐ１・Ｐ２は長径42～51cm，短径40～42cmの円形及び楕円形で，深さが40cm前後である。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と思われる。P3は長径54cm，短径39cmの楕円形，深さ40cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

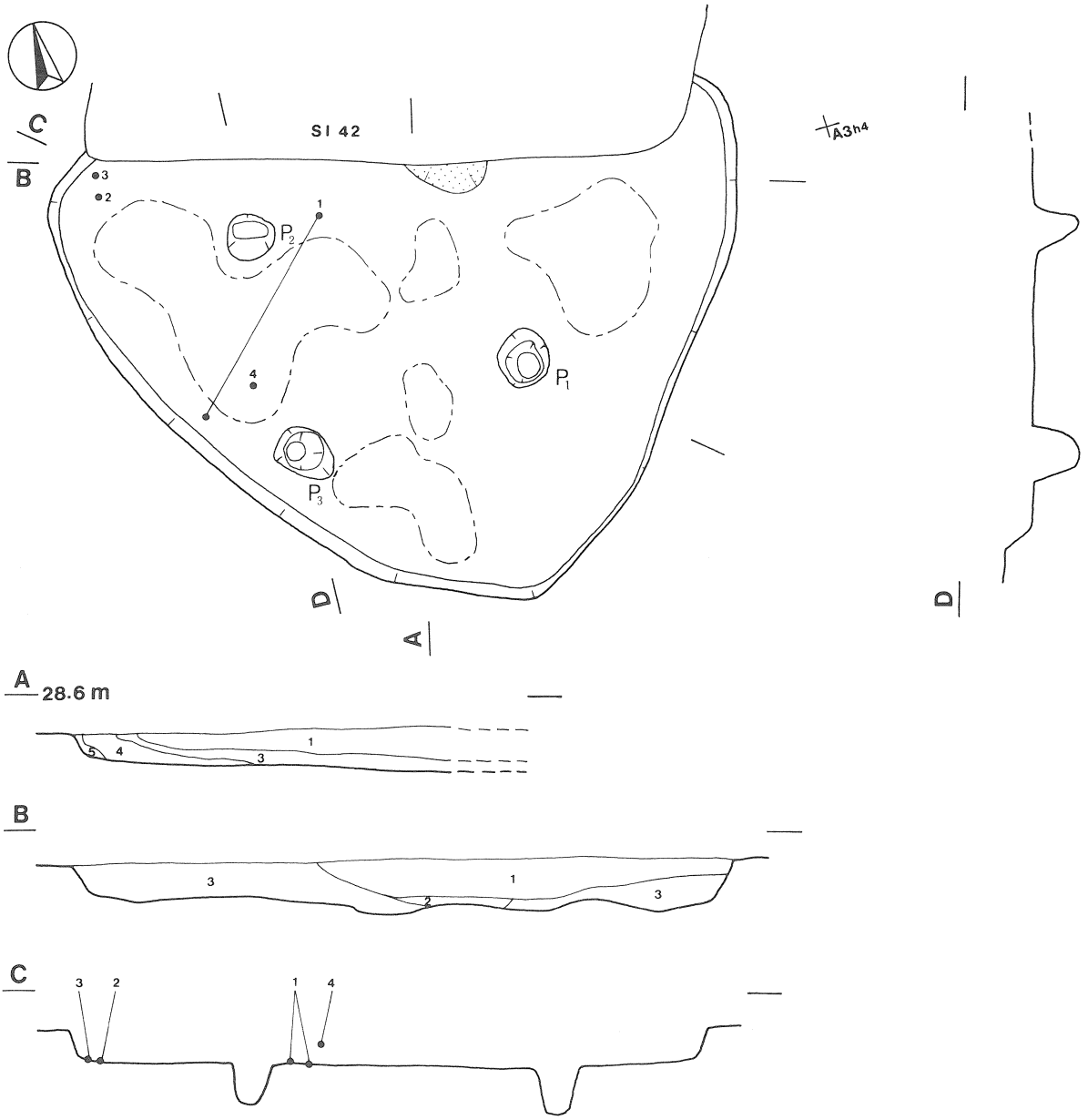
炉　中央部から北寄りにあり，平面形は第42号住居跡に掘り込まれ不明である。範囲のみ確認した。

覆土　5層からなり，上層に暗褐色土，下層にローム・焼土を含む黒褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量，炭化物極微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中・小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
3　黒褐色　ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子少量，ローム中・小ブロック微量，焼土粒子極微量
4　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子極微量
5　明褐色　ローム粒子中量

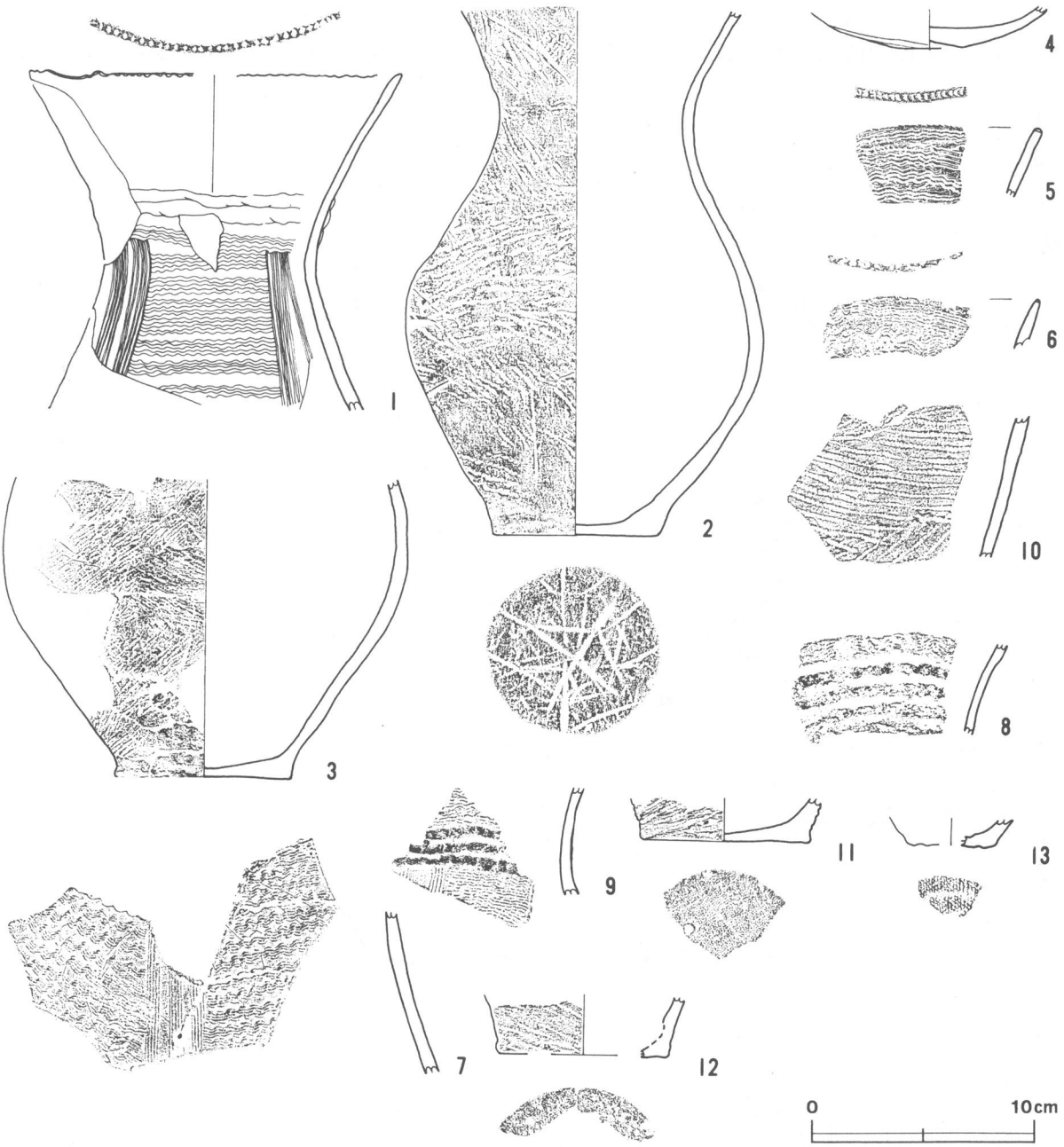
遺物　北部は第42号住居跡に掘り込まれているため，南部を中心に弥生土器片178点，縄文土器片１点、土師器



第26図　第41号住居跡実測図

片17点出土しているが，弥生土器のほとんどが胴部片で，口縁部，底部は微量である。第27図１～３は弥生土器壺で，１は広口壺の頸部から口縁部片で，南西壁下と中央部の床面から出土した破片が接合している。２は広口壺のほぼ完形品で，北西コーナー部の床面から横位の状態で出土している。３は底部から胴部片で，北西コーナー壁際の床面からつぶれた状態で出土している。４は土師器椀の底部から体部片で，北西壁の覆土中層から出土している。

５～13は弥生土器片の拓影図である。５・６は口縁部片で，口唇部には棒状工具による刻みがあり，外面には櫛歯状工具による波状文が施されている。７～９は頸部片である。７・８は櫛歯状工具による縦区画内に波状文が施されている。８・９は低い隆帯が３条巡り，軽い押圧がある。10は胴部片で，外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとっている。11～13は底部片で，外面には附加条二種（附加１条）の



第27図　第41号住居跡出土遺物実測・拓影図

縄文が施され，底部には布目痕がある。

所見　本跡の時期は，規模・平面形及び床面から出土した壺の器形の特徴・文様から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。

第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	文様	胎土・色調・焼成	備考
第27図 1	広口壺 弥生土器	A［16.7］ B（15.1） H［9.4］	頸部から口縁部片。口唇部には，ヘラ条工具による刻みが施され，突起（1か所）がある。口縁部には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。頸部との境には，3条の隆帯が巡り，隆帯上には，棒状工具による押圧がある。頸部は，5条を単位とする平行沈線で4分割されると思われる。区画内には櫛歯状工具による波状文が施されている。	長石，石英 灰褐色 普通	P62，15%　PL17 南西壁・中央部床面 外面スス付着
2	広口壺 弥生土器	B（23.7） C　7.6 H　8.9 I　16.1	底部から頸部片。胴部から頸部にかけては，附加条の縄文が施されている。胴部外面一部摩滅。底部は木葉痕である。	長石，雲母，白色粒子 橙色 普通（二次焼成）	P63，90%　PL17 北西コーナー床面 外面スス付着
3	広口壺 弥生土器	B（13.4） C　7.8	底部から胴部片。胴部から頸部にかけては附加条の縄文が施されている。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P64，25%　PL17 北西コーナー壁際床面 内面剥離

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	椀 土師器	B（1.8） C　2.7	底部から体部片。平底で，中央部が凹む。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。体部外面赤彩。	長石，雲母，白色粒子 赤色 普通	P66，5% 北西壁覆土中層

第45号住居跡（第28図）

位置　調査区北部，A3f8区。

規模と平面形　長軸3.96m，短軸3.40mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－28°－E

壁　壁高は40～48cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，軟弱なロームで炉の周辺と出入口施設の周辺に硬化面がある。

ピット　7か所（P1～P7）。P1～P4は径26～28cmの円形，深さ41～55cmで，規模・配置から主柱穴，P5は長径25cm，短径19cmの楕円形，深さ19cmで，位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は径27～30cmの円形，深さ20～24cmで，位置から補助柱穴と思われる。

炉　中央部から北寄りに位置し，長軸106cm，短軸80cmの不整楕円形で，床面を7cm程掘りくぼめている。炉床は，火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量

覆土　8層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

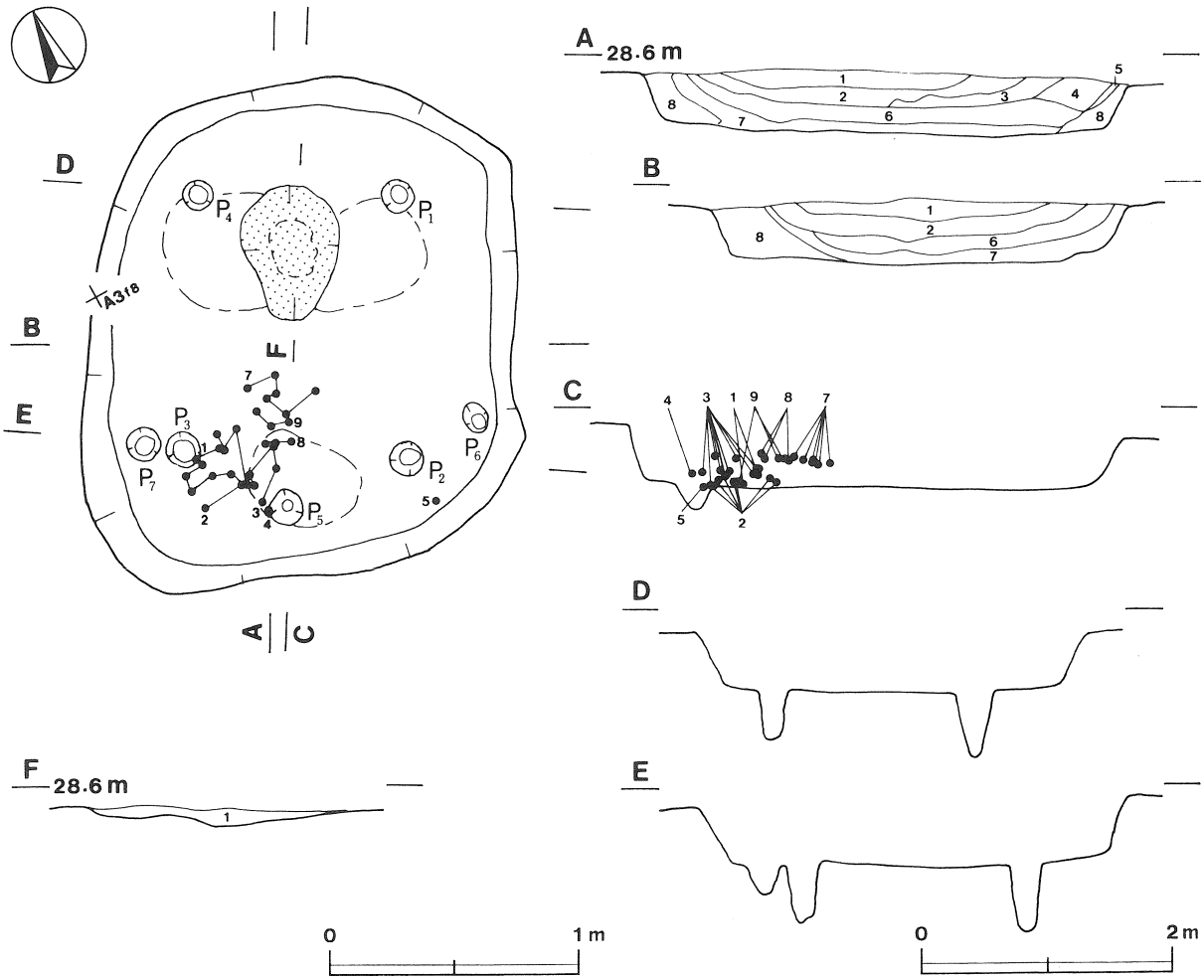
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック少量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
8　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量

遺物　弥生土器片50点，土師器片200点が出土している。弥生土器片は覆土下層から床面にかけて，土師器片は覆土中層以上に多くみられる。第29図1～5は弥生土器である。1・2の広口壺はP3付近の覆土下層，3・

4の広口壺はＰ５付近の覆土下層，５の粗製坏は南東コーナー部の床面から出土している。６～９は土師器である。６の壺は覆土中，７～９の甕は中央部南側の覆土中層から出土している。16の支脚は南東部の覆土中から出土している。

10～15は弥生土器片の拓影図である。10は口縁部片で，口唇部にはヘラ状工具による刻みが施され，突起がつく。口縁部には櫛歯状工具による波状文，下位には隆帯が巡る。11・12は頸部片で，11は波状文が巡る。12は４本を単位とする櫛歯状工具による平行沈線で分割され，区画内には波状文が巡る。13は胴部片で，附加条二種（附加１条）が施される。14・15は底部片である。外面には附加条二種（附加１条）が施され，14の底部は砂目痕，15は布目痕である。

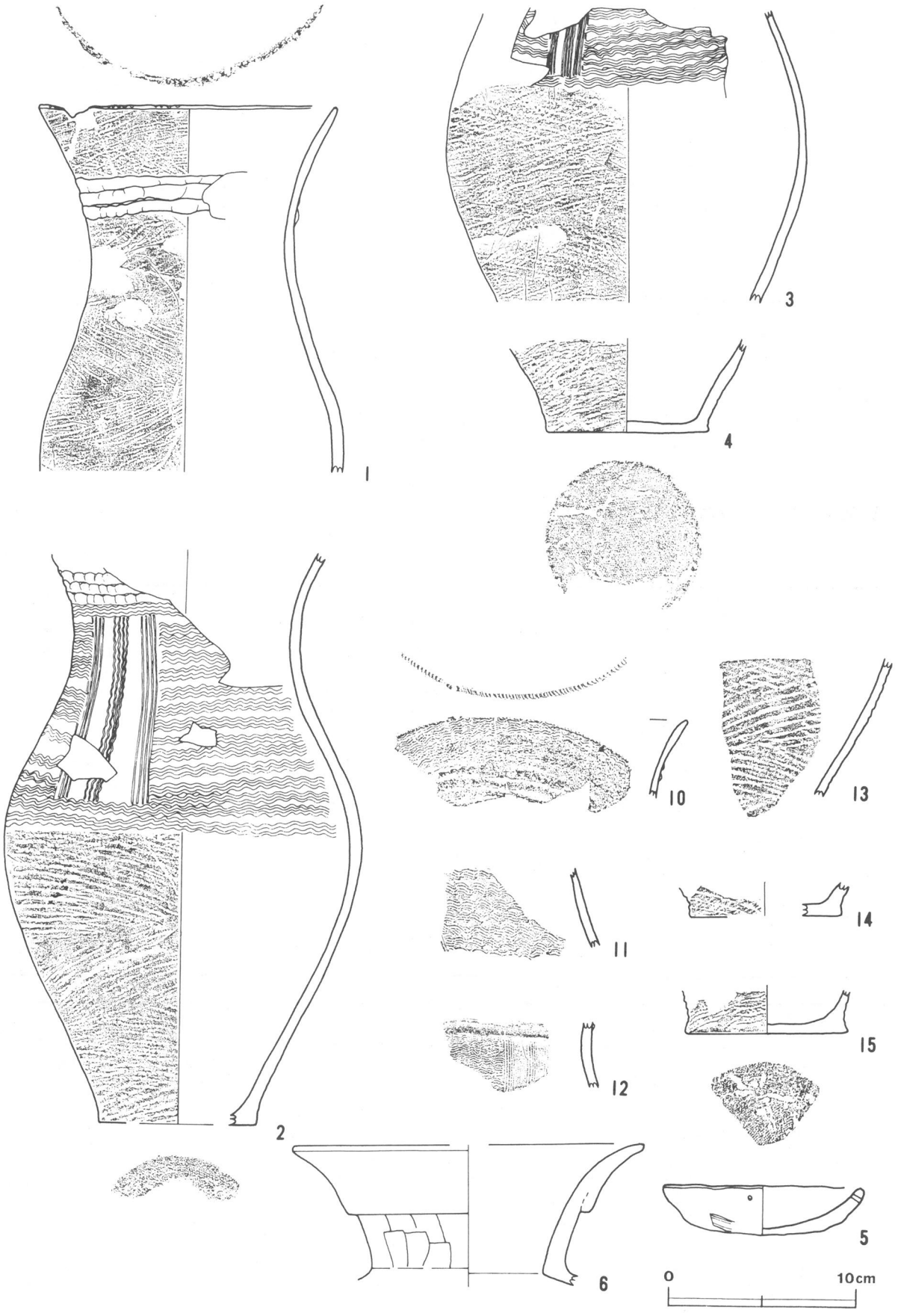
所見　土師器片は出土状況や出土層位からみて本跡の廃絶後の一括投棄と考えられる。時期は，遺構の形態や出土遺物から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



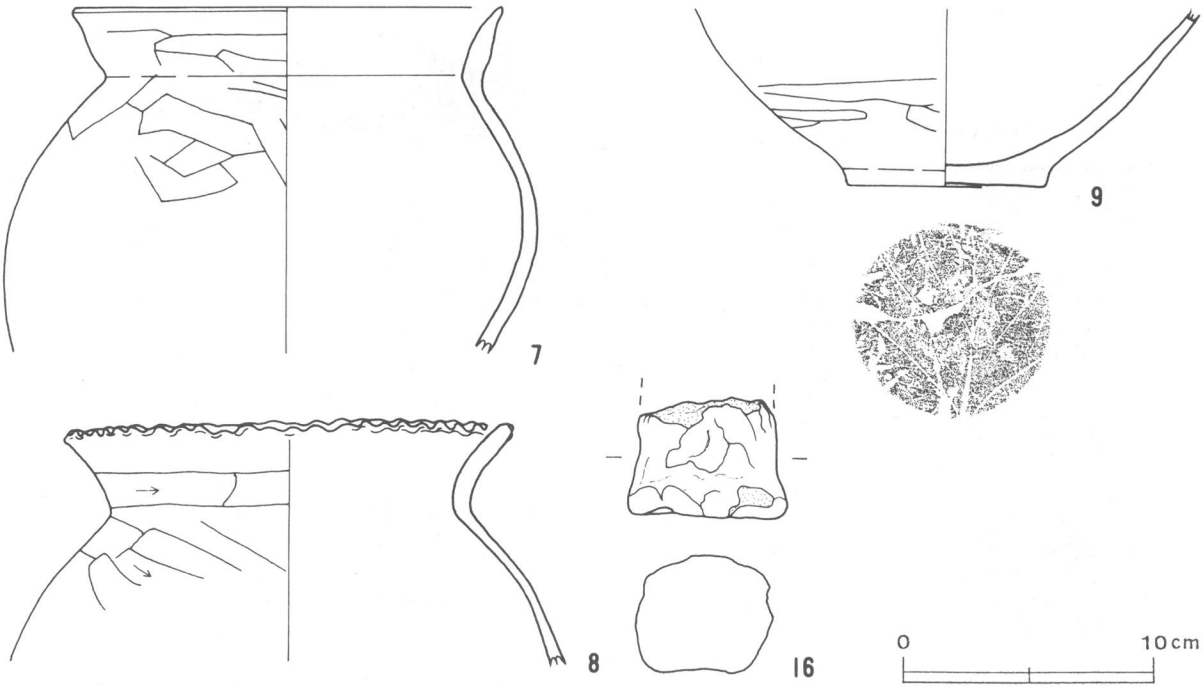
第28図　第45号住居跡実測図

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第29図 1	広口壺 弥生土器	A［15.8］ B（19.6） H　10.9	胴部上半から口縁部片。口唇部には，縄文が施されている。口縁部は附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。頸部との境には，３条の隆帯が巡る。頸部から胴部にかけては附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。	長石，石英，赤色粒子にぶい黄橙色 普通	Ｐ146，40%　PL17 Ｐ3付近覆土下層 外面剥離



第29図　第45号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第30図　第45号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第29図 2	広口壺 弥生土器	B　(30.5) C　[8.3] H　[12.0] I　[19.1]	底部から頸部片。頸部上端には隆帯が4条巡り，隆帯上には，棒状工具による押圧がある。頸部には，5条を単位とする平行沈線で3分割され，区画内には櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部との境には波状文が巡る。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。外面一部摩滅。底部は布目痕である。	長石，石英，白色粒子，赤色粒子 にぶい橙色 普通	P147，60%　PL17 P3付近覆土下層 外面スス付着
3	広口壺 弥生土器	B　(15.6)	胴部から頸部片。頸部には，4条を単位とする平行沈線で分割され，区画内に櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P148，30%　PL17 P5付近覆土下層 外面剥離
4	広口壺 弥生土器	B　(5.1) C　 8.4	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P149，10% P5付近覆土下層 内・外面スス付着
5	粗製坏 弥生土器	A　10.6 B　 2.5	底部から口縁部一部欠損。底部から外傾しながら口縁部に至る。底部外面ヘラ削り。口縁部に焼成前の穿孔1か所。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P154，90%　PL17 南東コーナー床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
6	壺 土師器	A　[18.5] B　(7.5)	頸部から口縁部片。頸部はやや外傾気味に立ち上がり，口縁部は外反する。複合口縁。	口縁部横ナデ。頸部外面ヘラナデ。	長石,石英,雲母,白色粒子 明赤褐色 普通	P150，5% 覆土中
第30図 7	甕 土師器	A　17.0 B　(13.8)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	長石，石英，小礫 橙色 普通	P151,50% PL18 中央部南側覆土中層
8	甕 土師器	A　28.0 B　(9.7)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。波状口縁。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラナデ。	長石，石英，赤色粒子 にぶい橙色 普通	P152,50% PL18 中央部南側覆土中層
9	甕 土師器	B　(7.1) C　 7.8	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。底部木葉痕。	長石,石英,雲母,白色粒子 にぶい橙色 普通	P153，10% 中央部南側覆土中層

図版番号	種　別	計測値			出土地点	備　考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
第30図16	支　脚	(4.8)	6.4	(156.3)	南東部覆土中	DP68

第51号住居跡（第31図）

位置　調査区北部，A 4 j1区。

重複関係　本跡の東壁は，第 6 号溝に掘り込まれている。

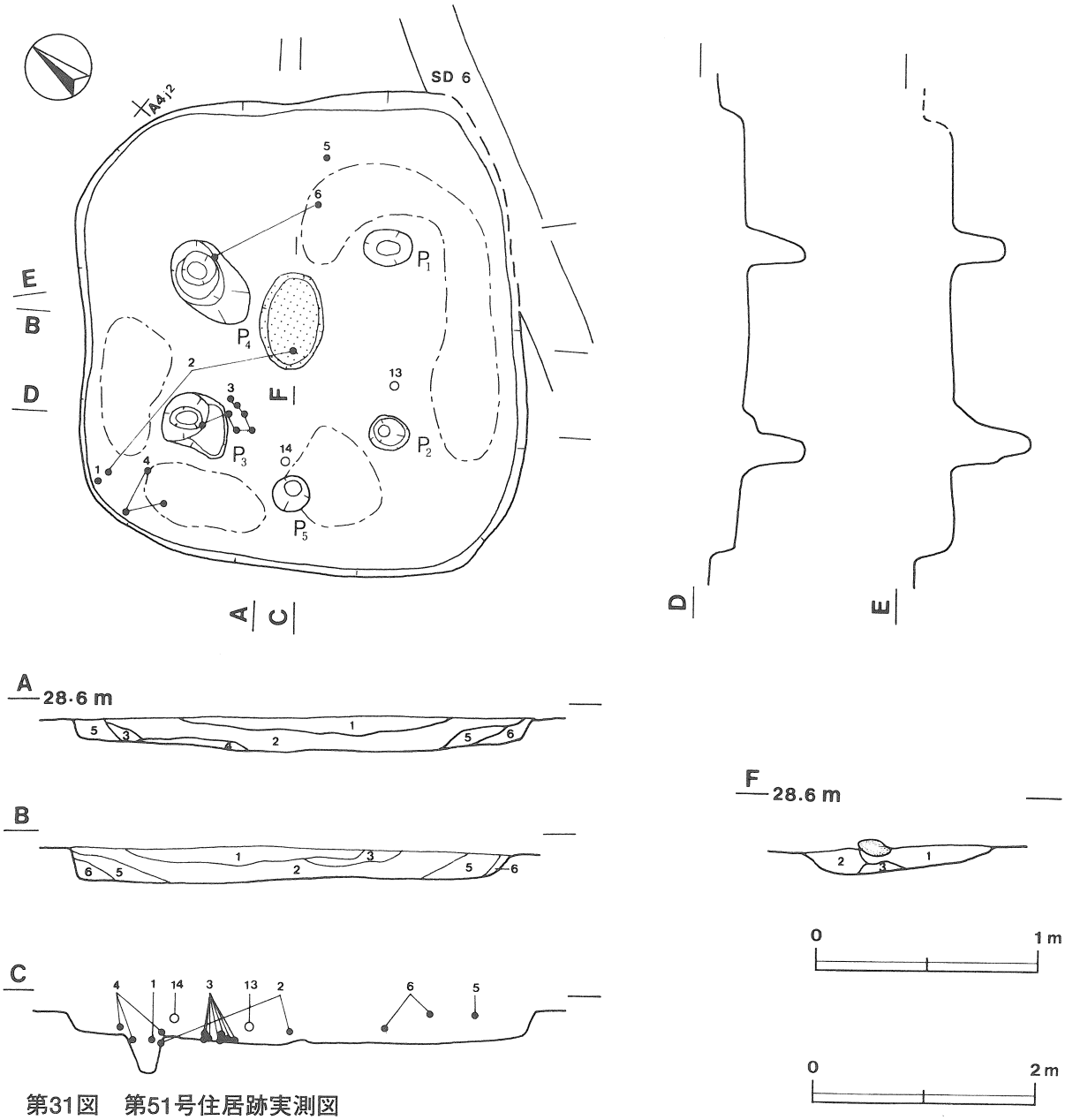
規模と平面形　長軸4.22m，短軸4.02mの隅丸方形である。

主軸方向　N－49°－E

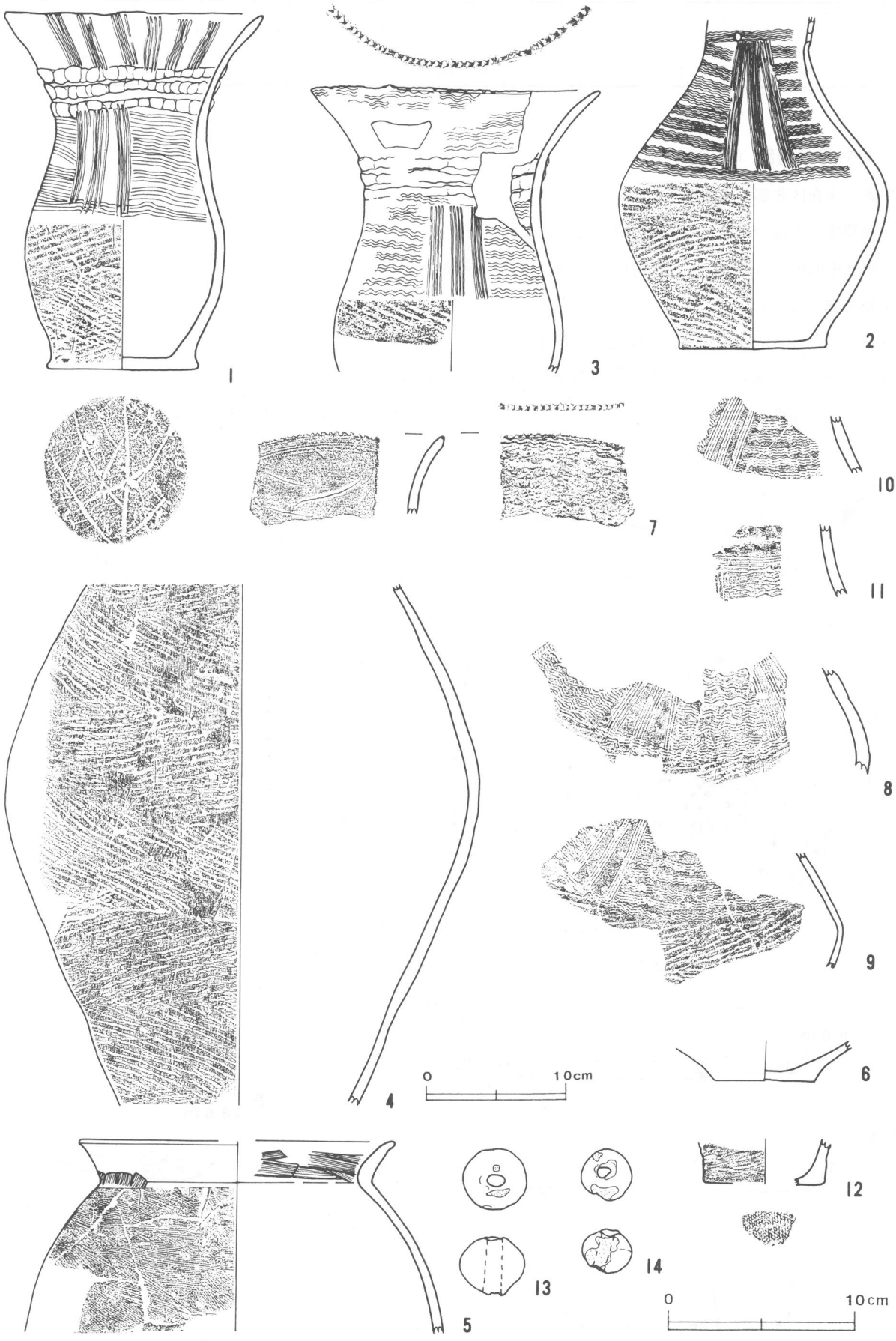
壁　壁高は20～34cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸があり，炉を中心に南部が踏み固められている。

ピット　5か所（P 1～P 5）。P 1～P 4は長径35～88cm，短径30～57cmの楕円形で，深さが49～72cmである。



第31図　第51号住居跡実測図



第32図　第51号住居跡出土遺物実測・拓影図

Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と思われる。主柱穴を結んだ線は方形となる。Ｐ５は径31cmの円形，深さ35cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉　中央部に位置し，平面形は長径90cm，短径60cmの楕円形で，床面を13cm掘りくぼめている。炉床は，中央部が特に火熱を受け赤変硬化し，長期間使用したと思われる。

炉土層解説

1　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子極微量
3　赤 褐 色　焼土大ブロック多量

覆土　６層からなり，上層に黒褐色土，下層にローム・焼土を含む暗褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子極微量
5　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　明 褐 色　ローム粒子中量

遺物　東部は溝に掘り込まれているため，西部を中心に弥生土器片60点，縄文土器片１点，土師器片189点が出土している。弥生土器のほとんどが胴部・体部片で，口縁部，底部は微量である。第32図１～４は弥生土器壺である。１・２は広口壺のほぼ完形品で，北西コーナー壁際の床面から横位の状態で出土している。３は広口壺の胴部から口縁部片で，Ｐ３南部の床面からつぶれた状態で出土している。４は広口大型壺胴部片で，北西コーナー壁際の床面からつぶれた状態で出土している。５・６は土師器である。５は甕の体部から口縁部片で，北東壁際の覆土上層から出土している。６は甕の底部から体部片で，Ｐ１北部の覆土中層から出土している。13・14は球状土錘で，Ｐ３東部の覆土上層から出土している。

７～12は本跡から出土した弥生土器片の拓影図である。７は口縁部片で，口唇部には棒状工具による刻みがあり，外面には櫛歯状工具による波状文が施されている。８・９は頸部片で，櫛歯状工具による縦区画内に波状文が施されている。９は２条の隆帯が巡り，軽い押圧がある。10・11は胴部から頸部片で，縦区画内に櫛歯状工具による波状文が施され，胴部外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとっている。12は底部片で，底部には布目痕がある。

所見　弥生土器のほか土師器片・球状土錘が出土している。第６号溝に掘り込まれたための混入と思われるが，出土状況や出土層位からみて南部に隣接する第33号住居跡からの投棄の可能性も考えられる。本跡の時期は，規模・平面形及び床面から出土している広口壺の器形の特徴・文様から弥生時代後期後半（十王台式期）の住居跡と考えられる。

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第32図 1	小形広口壺 弥生土器	A 13.8 B 19.0 C 7.7 H 8.1 I 10.7	口縁部一部欠損。口唇部には，縄文が施されている。口縁部には４条の平行沈線が施されている。頸部との境には，３条の隆帯が巡り，隆帯上には，棒状工具による押圧がある。頸部は，４条を単位とする平行沈線で３分割され，区画内には，櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部との境には，櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部には木葉痕がある。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P72，90%　PL18 北西コーナー壁際床面内・外面スス付着

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　　様	胎土・色調・焼成	備　　考
第32図 2	広　口　壺 弥 生 土 器	B　(17.7) C　7.9 H　5.5 I　14.0	底部から頸部片。頸部上端には隆帯が2条巡り，隆帯上には穿孔（2か所）がある。頸部は区画内に櫛歯状工具による波状文が施され，6条を単位とする平行沈線で3分割されている。胴部との境には波状文が巡る。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は砂目痕である。	長石，石英，砂粒 にぶい黄橙色 普通	P73，90%　PL18 北西コーナー壁際床面
3	広　口　壺 弥 生 土 器	A　[15.4] B　(15.2) H　9.5	胴部から口縁部片。口唇部にはヘラ状工具による刻みがあり，突起（1か所）がある。口縁部には波状文が巡る。頸部との境には，3条の隆帯が巡り，隆帯上には爪による押圧があり，下部には波状文が巡る。頸部は4条を単位とする平行沈線で4分割され，区画内には櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部には附加条二種（附加1条）が施されている。	長石，石英，雲母，赤色粒子 にぶい褐色 普通	P74，25%　PL18 P3南部床面 外面剥離，内面スス付着
4	大形広口壺 弥 生 土 器	B　(37.4) I　33.7	胴部片。胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P75，40%　PL18 北西コーナー壁際床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備　　考
5	甕 土 師 器	A　[16.6] B　(10.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反気味に開く。	口縁部外面ナデ，内面横位のハケ目調整。体部外面斜位のハケ目調整。	長石，石英，雲母 にぶい褐色 普通	P76，20% PL18 北東壁際覆土上層 外面ススト付着
6	甕 土 師 器	B　(2.2) C　5.4	底部から体部片。平底で，底部から外傾して立ち上がる。	体部外面ナデ。底部ヘラナデ。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P77，10% P1北部覆土中層

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出 土 地 点	備　　考
		径 (cm)	長 さ(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)		
13	球 状 土 錘	3.5	3.1	1.0	29.1	P3東部覆土上層	DP25
14	球 状 土 錘	2.8	2.3	0.9	12.2	P3東部覆土上層	DP26

第62号住居跡（第33図）

位置　調査区東部，B 4 g0区。

規模と平面形　長軸4.05m，短軸3.95mの不整方形である。

主軸方向　N－52°－W

壁　壁高は12～18cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，炉を中心に北部・南部に踏み固められている。出入口施設は確認できなかったが，南東壁際に硬化面がある。

ピット　4か所（P 1～P 4）。P 1～P 4は長径29～55cm，短径27～38cmの楕円形で，深さが46～54cmである。P 1～P 4は主柱穴と思われる。主柱穴を結んだ線は方形となる。

炉　中央からやや北東部に位置し，木の根の撹乱のため，平面形は長径[65]cm，短径[50]cmの楕円形と推定される。床面を8cm掘りくぼめている。炉床は，中央部が特に火熱を受け赤変硬化し，長期間使用したと思われる。

炉土層解説

1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量，ローム小ブロック・炭化材極微量

2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物極微量

覆土　4層からなり，上層に極暗褐色土，下層にローム・焼土を含む暗褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

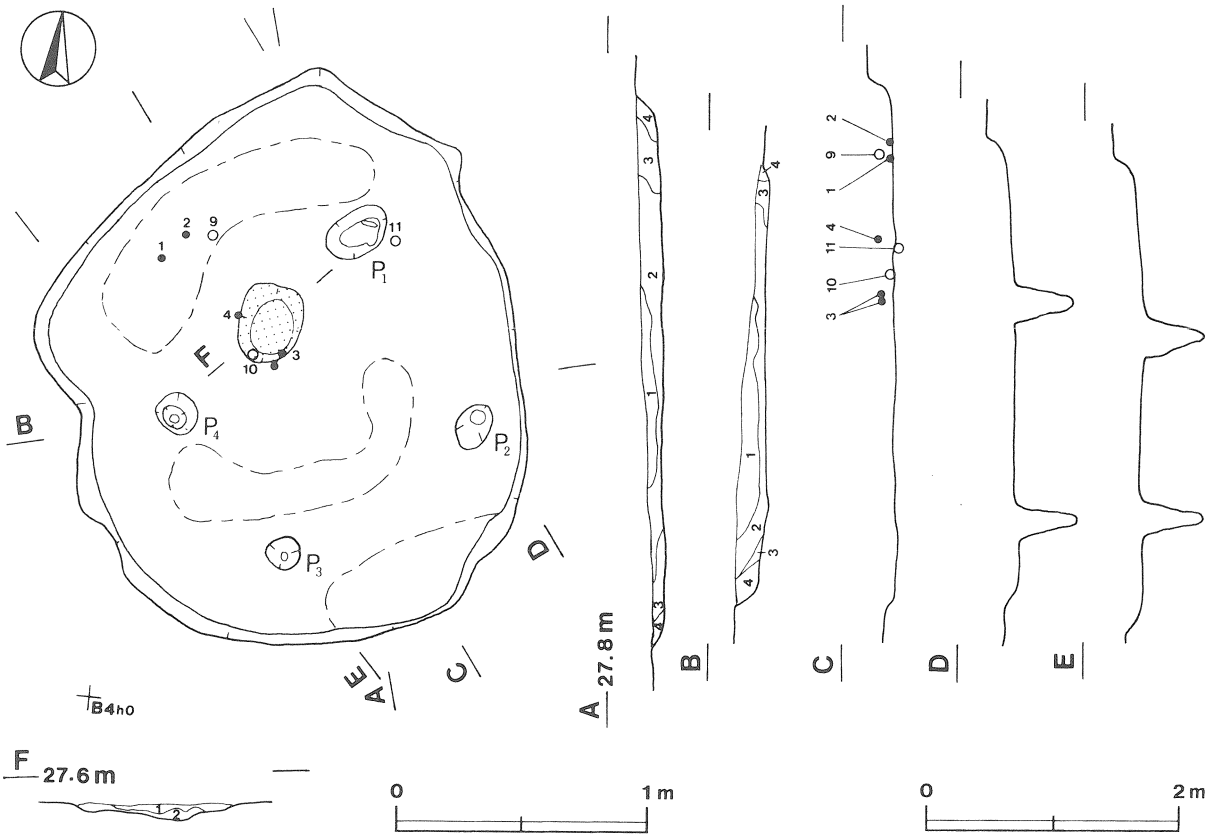
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物極微量

2　暗 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物極微量

3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量　　4　明褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子極微量

遺物　南部は木の根による撹乱のため，北部を中心に弥生土器片35点，縄文土器片１点，土師器片38点，土製品４点，石器１点出土しているが，弥生土器のほとんどが胴部片で，口縁部，底部片は極微量である。第34図１・２は弥生土器壺である。１は広口壺のほぼ完形品で，北西壁際の床面から横位の状態で出土している。２は小形広口壺のほぼ完形品で，１の東脇の床面から横位の状態で出土している。３・４は土師器の甕である。３は体部から口縁部にかけての破片で，中央部の覆土中層から斜位の状態で出土している。４は底部から体部片で，炉周辺の覆土中層から出土している。11は土製紡錘車で，Ｐ1東部の床面から出土している。9・10は球状土錘で，９は北西壁の覆土中層から，10は炉西部の床面から出土している。

５～８は弥生土器片の拓影図である。５～７は頸部片で，櫛歯状工具による縦区画内に波状文が施されている。７は４条の隆帯が巡り，軽い押圧がある。８は胴部片で，胴部外面には附加条一種（附加２条）の縄文が施され，羽状構成をとっている。

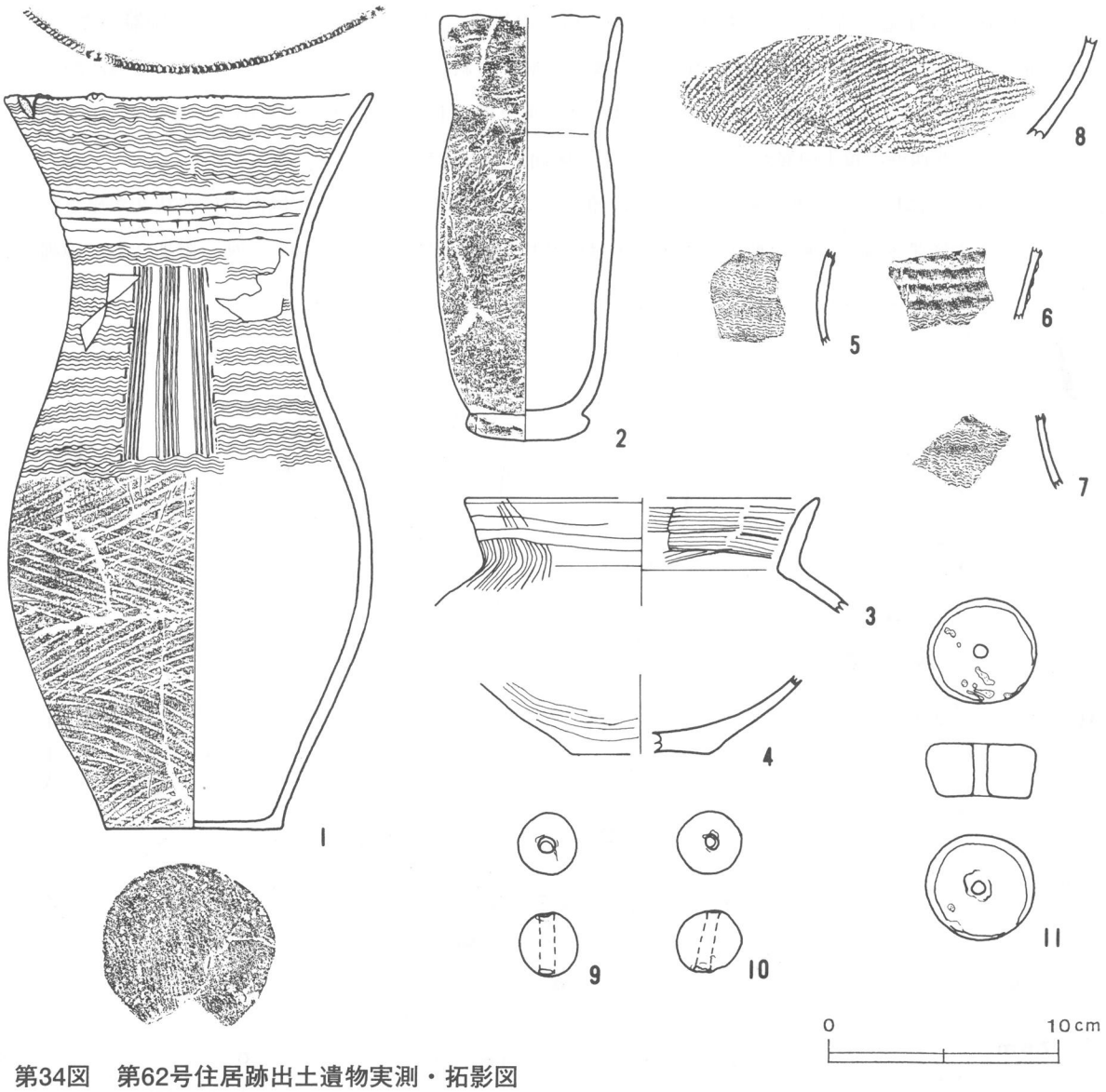


第33図　第62号住居跡実測図

第62号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第34図 1	広口壺 弥生土器	A 15.7 B 31.5 C 6.6 H 9.8 I 15.6	口縁部一部欠損。口唇部には，ヘラ状工具による刻みが施され，突起（１か所）がある。口縁部には波状文が施され，頸部との境には４条の隆帯が巡り，隆帯上には爪によると思われる押圧がある。頸部は５条を単位とする平行沈線で４分割され，区画内には櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部との境には，櫛歯状工具による波状文が巡り，胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は布目痕である。	長石，石英，雲母にぶい黄橙色 普通	P88，85%　PL18 北西壁際床面 内面剥離 外面一部摩滅，スス付着

所見　本跡から土師器片・球状土錘が出土しているが，出土状況や出土層位からみて流れ込みと思われる。時期は，北西コーナー壁際の床面から出土している遺物１・２の器形の特徴及び文様等から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第34図　第62号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第34図 2	小　形　壺 弥生土器	A　[7.6] B　(18.1) C　5.3	口縁部一部欠損。口唇部には，ヘラ状工具による刻みがある。口縁部から胴部にかけて附加条二種（附加1条）と思われる縄文が施され，頸部には３条を単位とする縦の沈線が施されている。底部は平底であるが，不安定で，立位できない。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P89，90%　PL18 北西壁際床面 外面摩滅

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
3	甕 土師器	A　[15.2] B　(4.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外傾する。	口縁部外面ナデ，内面横位のハケ目調整。体部外面斜位のハケ目調整。	長石，石英 にぶい橙色 普通	P91，10% 中央部覆土中層
4	甕 土師器	B　(3.4) C　[5.8]	底部から体部片。平底で，底部から外傾して立ち上がる。	底部ヘラ削り。体部外面ヘラ磨き。	長石，石英 赤褐色 普通	P92，10% 炉周辺覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第34図9	球状土錘	2.5	2.7	0.8	15.8	北西壁覆土中層	DP41
10	球状土錘	2.7	2.6	0.7	16.2	炉西部床面	DP42
11	紡錘車	4.7	2.3	0.6	60.0	P1東部床面	DP43 PL31

第64号住居跡（第35図）

位置　調査区東部，B 4 h8区。

規模と平面形　一辺が3.30mの隅丸方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は15～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部の炉からＰ１にかけて踏み固められている。

ピット　１か所。Ｐ１は長径29cm，短径23cmの楕円形で，深さが26cmである。主柱穴と思われるが，１か所しか検出できなかった。

炉　中央から北東部に位置し，平面形は長径49cm，短径43cmの楕円形で，範囲のみを確認した。

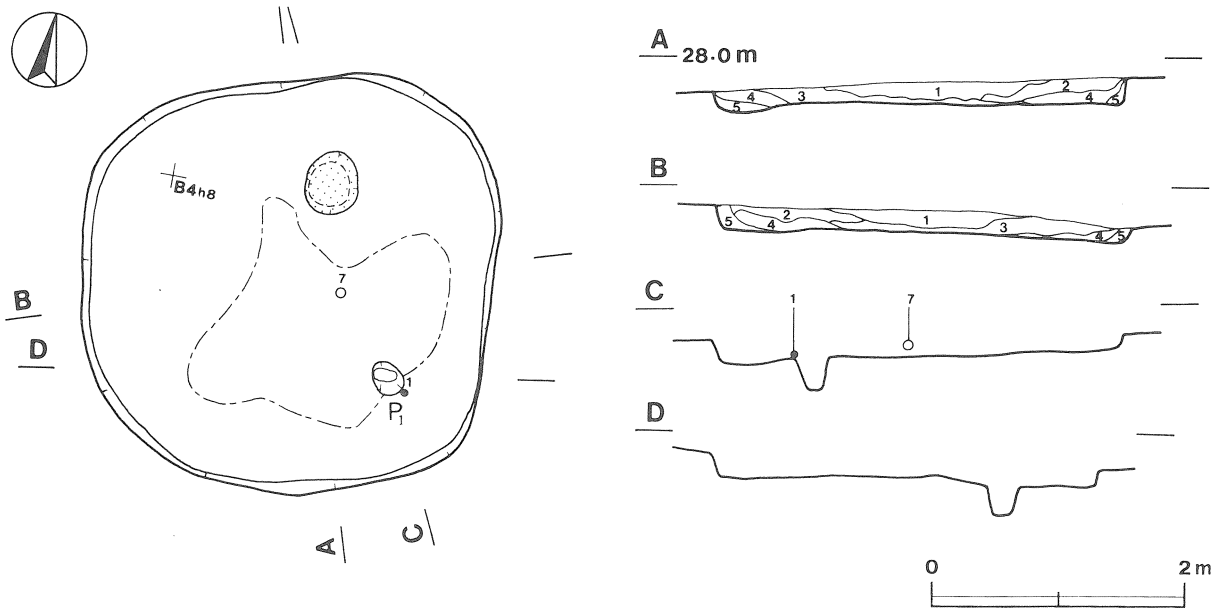
覆土　上層に黒色土，下層にローム・焼土を含む暗褐色土がレンズ状に堆積する５層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量，炭化物極微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量，焼土粒子極微量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大・中ブロック少量，炭化粒子極微量

遺物　南東部から弥生土器片40点，土師器片25点，土製品２点が出土しているが，弥生土器のほとんどが胴部片で，口縁部，底部片は極微量である。第36図１は弥生土器広口壺の底部から胴部片で，Ｐ１東部の床面から正位の状態で出土している。７は土製紡錘車で，中央部の覆土下層から出土している。

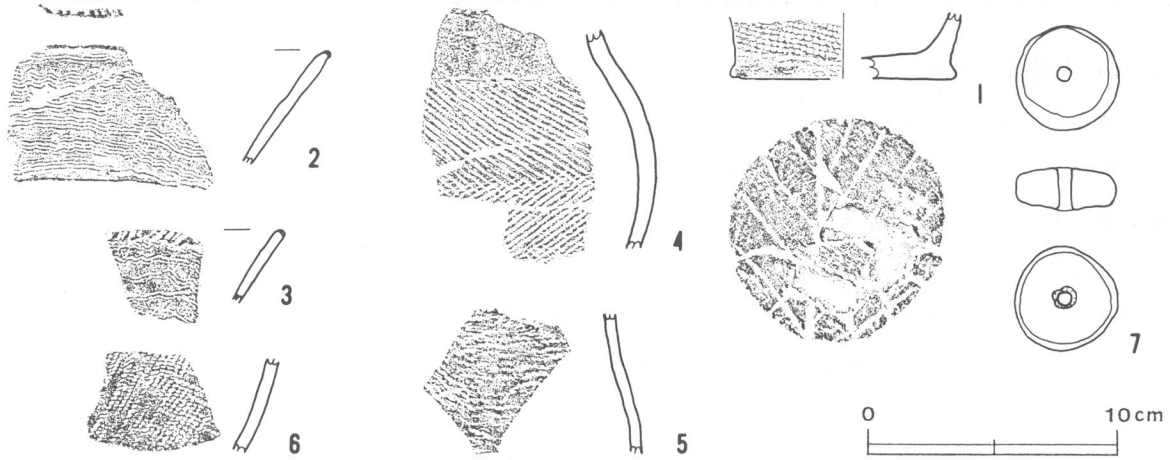
２～６は弥生土器片の拓影図である。２・３は口縁部片で，外面には櫛歯状工具による波状文が施され，３の口唇部には棒状工具による刻みが施されている。４～６は胴部片である。５・６の胴部外面には附加条二種



第35図　第64号住居跡実測図

（附加１条）の縄文が施されている。4の胴部外面には附加条一種（附加２条）の縄文が施され，羽状構成をとっている。

所見　本跡の時期は，規模・平面形及び床面から出土した遺物１の器形の特徴・文様等から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第36図　第64号住居跡出土遺物実測・拓影図

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　　様	胎土・色調・焼成	備　　考
第36図 1	広　口　壺 弥 生 土 器	B　（ 2.5） C　［ 8.8］	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。底部には木葉痕がある。	長石，石英，雲母，砂粒 にぶい黄橙色 普通	P174，５％ P1東部床面

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出 土 地 点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
7	紡　錘　車	4.1	1.6	0.6	30.7	中央部覆土下層	DP97　　PL31

第77号住居跡（第37図）

位置　調査区北部，Ａ４i4区。

重複関係　本跡の東壁を第52号住居跡に，北西部を第93号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸[5.10]ｍ，短軸4.80ｍの隅丸方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－25°－Ｗ

壁　壁高は40～55cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦なローム土であるが，小さな凹凸があり，炉の北部を中心に踏み固められている。

ピット　13か所（Ｐ１～P13）。Ｐ１～Ｐ３は長径29～55cm，短径29～50cmの円形および楕円形で，深さが37～100cmである。Ｐ１～Ｐ３は主柱穴と思われる。Ｐ４は長径41cm，短径31cmの楕円形，深さ53cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ５～P13は壁際に配置され，直径20～57cmの円形および楕円形で，壁柱穴と思われる。

炉　中央からやや北部に位置し，長径119cm，短径95cmの不整楕円形で，床面を10cm掘りくぼめている。炉床は火熱を受け赤色硬化している。長期間使用したものと考えられる。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム中・小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物少量，ローム大ブロック微量

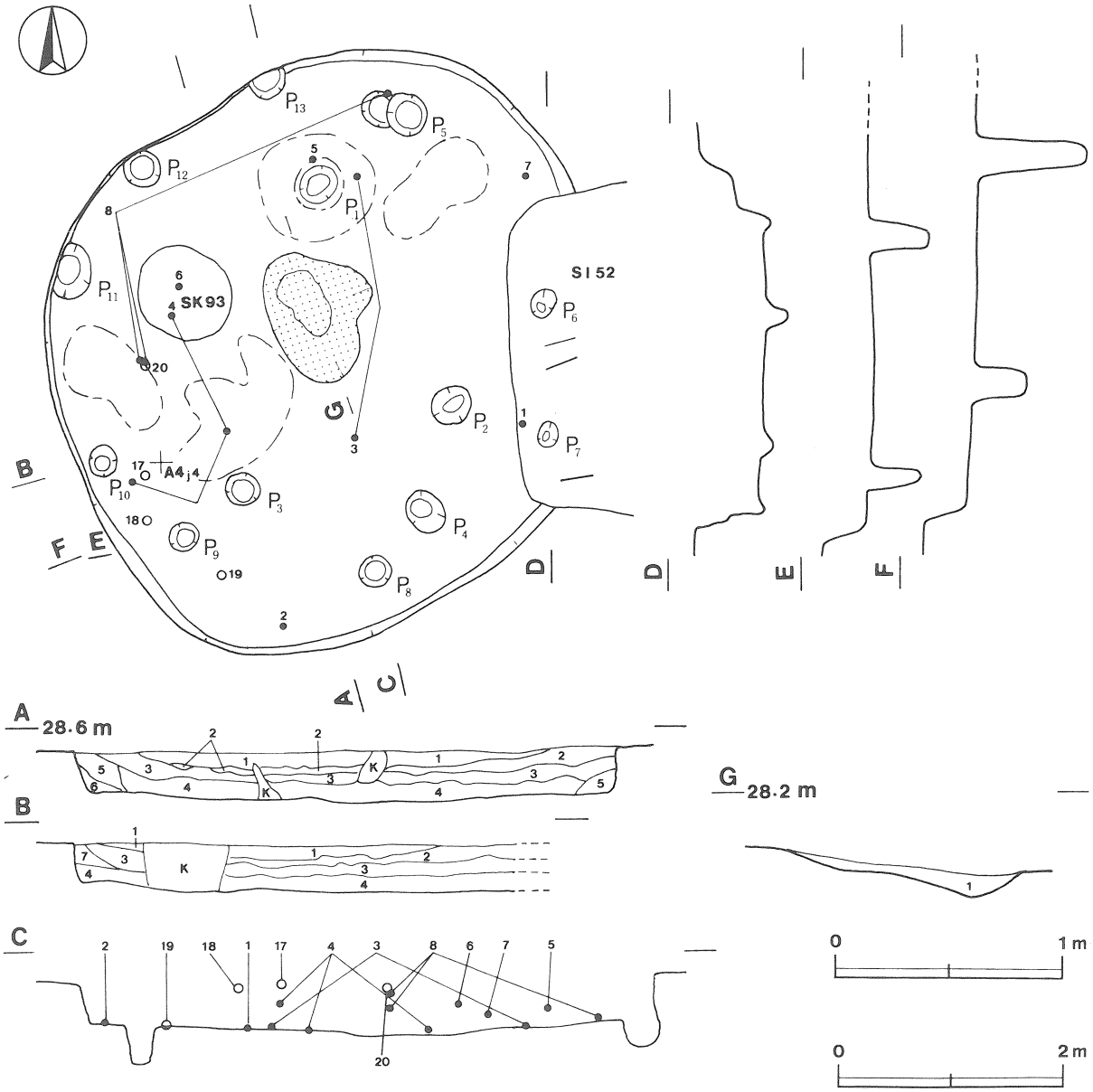
覆土　７層からなり，上層に極暗褐色土，下層にローム・焼土・炭化物を含む極暗褐色土がレンズ状に堆積す

る自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量，焼土小ブロック・炭化物極微量
2　黒 褐 色　ローム粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子極微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子炭化物・炭化粒子微量，ローム小ブロック極微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量，ローム大・小ブロック・焼土粒子極微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化物極微量
7　暗 褐 色　ローム粒子微量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量

遺物　東部は第52号住居跡に掘り込まれているため，西部を中心に弥生土器片72点，縄文土器片４点，土師器片約700点，須恵器片16点，土製品４点出土しているが，弥生土器のほとんどが胴部片で，口縁部，底部片は微量である。第38図１～４は弥生土器の壺である。１は小形広口壺の底部から口縁部片で，Ｐ２東部の床面から横位の状態で出土している。２～４は広口壺の底部から胴部片である。２は南西コーナー部の床面から横位の状態で出土している。３は中央部とＰ１東部の床面から出土した破片が接合している。４はＰ３北部の床面から出土している。５～８は土師器である。５・６は坩の底部から体部片で，５は北東壁際の覆土下層から，６

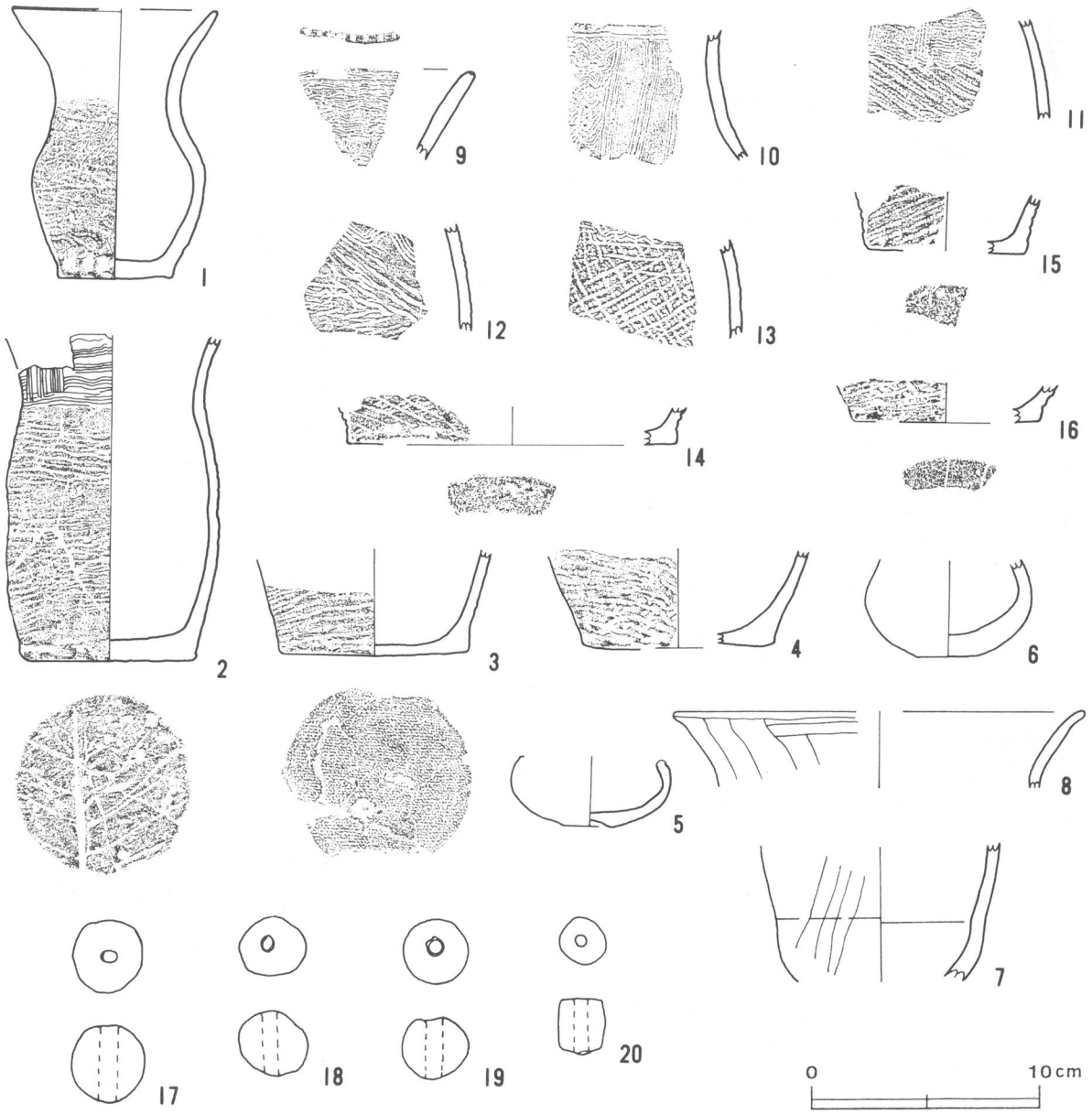


第37図　第77号住居跡実測図

は炉西部の覆土中層から出土している。7は坩の体部片で，炉北東部の覆土中層から出土している。8は甕の体部から口縁部片で，北東コーナー部とP11南東部の覆土中層から出土した破片が接合している。17～19は球状土錘で，17・18はP3周囲の覆土上層から，19は床面から出土している。20は管状土錘で，P11南東部の覆土上層から出土している。

9～16は弥生土器片の拓影図である。9は口縁部片で，口唇部には棒状工具による刻みがあり，櫛歯状工具による波状文が施されている。10は頸部片で，櫛歯状工具による縦区画内に波状文が施されている。11～13は胴部から頸部片で，胴部には櫛歯状工具による波状文が，11には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。14～16は底部片で，14・15に布目痕，16の底部には木葉痕がある。

所見　本跡からは，土師器片が多数出土しているが，覆土の堆積状況及び東部が第52号住居跡に掘り込まれていることから混入と思われる。時期は，床面から出土している遺物1・2の器形の特徴・文様から弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。



第38図　第77号住居跡出土遺物実測・拓影図

第77号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	文様	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	小形広口壺 弥生土器	A [8.8] B 12.8 C 5.0 H 5.5 I 7.6	口縁部欠損。口縁部から胴部にかけては，附加条二種（附加1条）と思われる縄文が施されている。	長石，石英，雲母，砂粒 にぶい黄橙色 普通	P106，80% PL18 P2東部床面 外面一部摩滅
2	小形広口壺 弥生土器	B (14.1) C 7.5 H [7.9] I 9.3	底部から頸部片。頸部には，5条を単位とする平行沈線で分割され，縦区画内には櫛歯状工具による波状文が施される。胴部との境には横走文が巡る。胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は木葉痕である。	長石，石英，雲母，砂粒 明黄褐色 普通（二次焼成）	P107，80% PL18 南西コーナー部床面 外面スス付着
3	広口壺 弥生土器	B (4.5) C 8.3	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石，石英，小礫 にぶい褐色 普通	P108，20% P1東部床面 外面剥離
4	広口壺 弥生土器	B (4.2) C [8.2]	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部は砂目痕である。	長石，石英，小礫，砂粒 にぶい橙色 普通	P109，10% P3北部床面 外面一部摩滅

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	坩 土師器	B (3.0) C 2.2	底部から体部片。丸底で，中央がやや凹む。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	長石，石英，雲母 浅黄橙色 普通	P111，50% PL17 北東壁際覆土下層
6	坩 土師器	B (4.2) C 2.6	底部から体部片。平底で，底部から内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部ナデ。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P112，30% 炉西部覆土中層 外面ススト付着
7	坩 土師器	B (5.1)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ヘラ磨き。内面ナデ。	長石石英雲母白色粒子 にぶい褐色 普通	P110，20% 炉北東部覆土中層
8	甕 土師器	A [18.0] B (3.4)	口縁部片。口縁部は外反気味に立ち上がる。	口唇部内・外面ナデ。口縁部内・外面横位のハケ目調整。	長石，石英，白色粒子 橙色 普通	P113，10% 北東コーナー覆土中層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
17	球状土錘	3.1	3.3	0.8	32.0	P3付近覆土上層	DP47
18	球状土錘	2.9	2.8	0.7	22.2	P3付近覆土上層	DP48
19	球状土錘	2.9	2.6	0.8	21.5	P3付近床面	DP49
20	管状土錘	1.9	2.3	0.6	11.5	P11南東部覆土上層	DP50 PL31

第83号住居跡（第39図）

位置　調査区中央部，B 4 d2区。

重複関係　本跡の北部を第43号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸[3.60]mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は12～22cmで，外傾して立ち上がる。

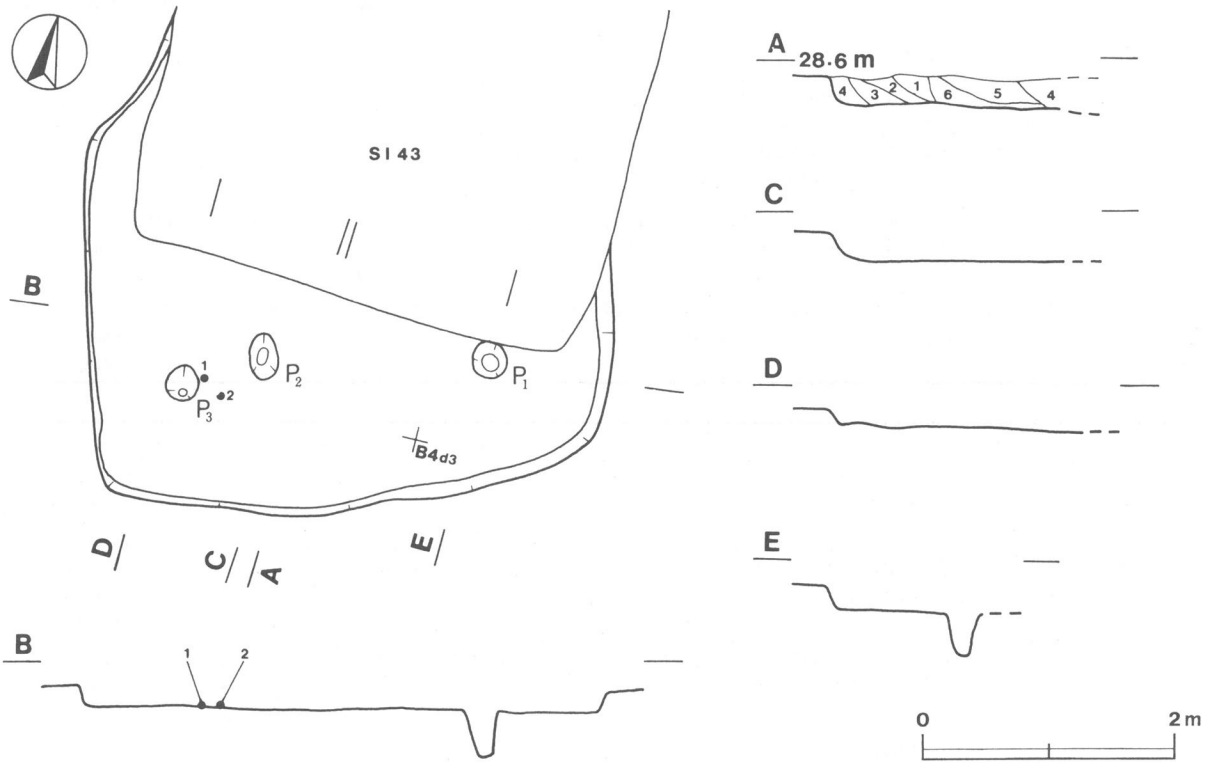
床　ほぼ平坦であり，軟弱なローム土。

ピット　3か所（P 1～P 3）。P 1・P 2は長径30～35cm，短径23～29cmの円形及び楕円形で，深さが37～52cmである。P 1・P 2は主柱穴と思われる。P 3は径26cmの円形，深さ70cmでP 2の補助柱穴と思われる。

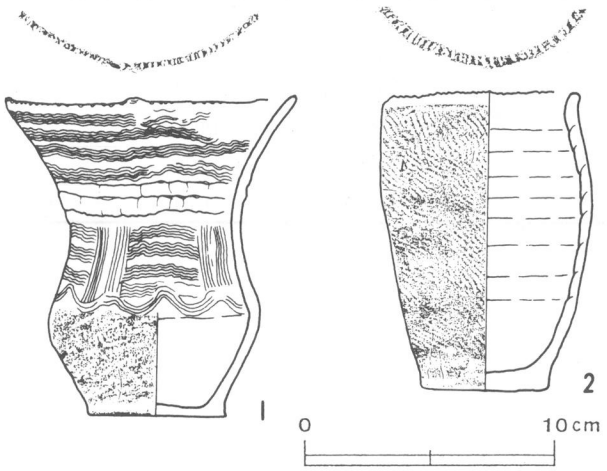
覆土　6層からなる。レンズ状に堆積するが，上層から下層にかけてローム中・小ブロックを含んでいることから人為堆積と思われる。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物微量，ローム小ブロック・焼土粒子極微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
4　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム大・小ブロック少量



第39図　第83号住居跡実測図



第40図　第83号住居跡出土遺物実測図

遺物　北部の大部分が第43号住居跡に掘り込まれているため，南部から弥生土器２点が出土しているだけである。第40図１は小形広口壺の完形品で，P3東部の床面から横位の状態で出土している。２は弥生土器の壺（コップ形土器）の完形品で，１と同じくＰ３東部の床面から横位の状態で出土し，口唇部には棒状工具による刻みが施されている。本跡を掘り込んでいる第43号住居跡から出土している弥生土器片21点は，本跡に伴う土器の可能性がある。

所見　本跡は，初期の段階では第43号住居跡の拡張部分，又はベッド状遺構と考えていた。調査の進展に伴い段差の箇所に壁溝が確認されたため，重複の可能性が考えられ，再調査したところ１・２が床面から出土したことから１軒の住居跡とした。時期は，土器の器種，器形の特徴・文様などから弥生時代後期後半（十王台式期）と考えられる。

第83号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　　様	胎土・色調・焼成	備　　考
第40図 1	小形広口壺 弥生土器	A 11.6 B 12.9 C 5.6 H 8.5 I 6.8	口唇部一部欠損。口唇部には，縄文原体による押圧があり，突起（２か所）がある。口縁部には５条の波状文が巡る。頸部との境には，３条の隆帯が巡り，隆帯上には指頭による押圧がある。頸部は,５条を単位とする平行沈線で５分割され，区画内には，櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部との境には，櫛歯状工具による連弧文が施され，胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石，石英，雲母，砂粒 にぶい黄橙色 普通（二次焼成）	P114，95%　PL18 P3東部床面 外面一部摩滅 外面スス付着
2	壺 （コップ型） 弥生土器	A 7.9 B 11.9 C 5.2	完形。口唇部には，ヘラ状工具による刻みが施されている。口縁部から胴部にかけての外面には，附加条二種（附加１条）と思われる縄文が施されている。底部は砂目痕である。	長石，石英，砂粒 にぶい橙色 普通	P115，100%　PL18 P3東部床面 外面一部摩滅

(2)　弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭

第10号住居跡（第41図）

位置　調査区南部，Ｂ２i0区。

重複関係　本跡の西壁部を第５号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.60m，短軸6.38mの隅丸長方形である。

主軸方向　Ｎ－８°－Ｅ

壁　壁高は30～35cmで，床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部分は軟弱なロームでその北東部周囲，北壁・北東壁周辺は硬化している。特に，南部の出入口部の周囲がよく踏み固められている。

ピット　24か所（Ｐ１～Ｐ24)。Ｐ１～Ｐ４は長径33～40cm，短径22～28cmの楕円形で，深さが60cm前後である。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と思われ，主柱穴を結んだ線は方形となる。Ｐ５は長径35cm，短径32cmの円形で，深さ35cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ８・Ｐ11・Ｐ12・Ｐ18～Ｐ23は主柱穴に伴う補助柱穴と思われる。他のピットは性格不明である。

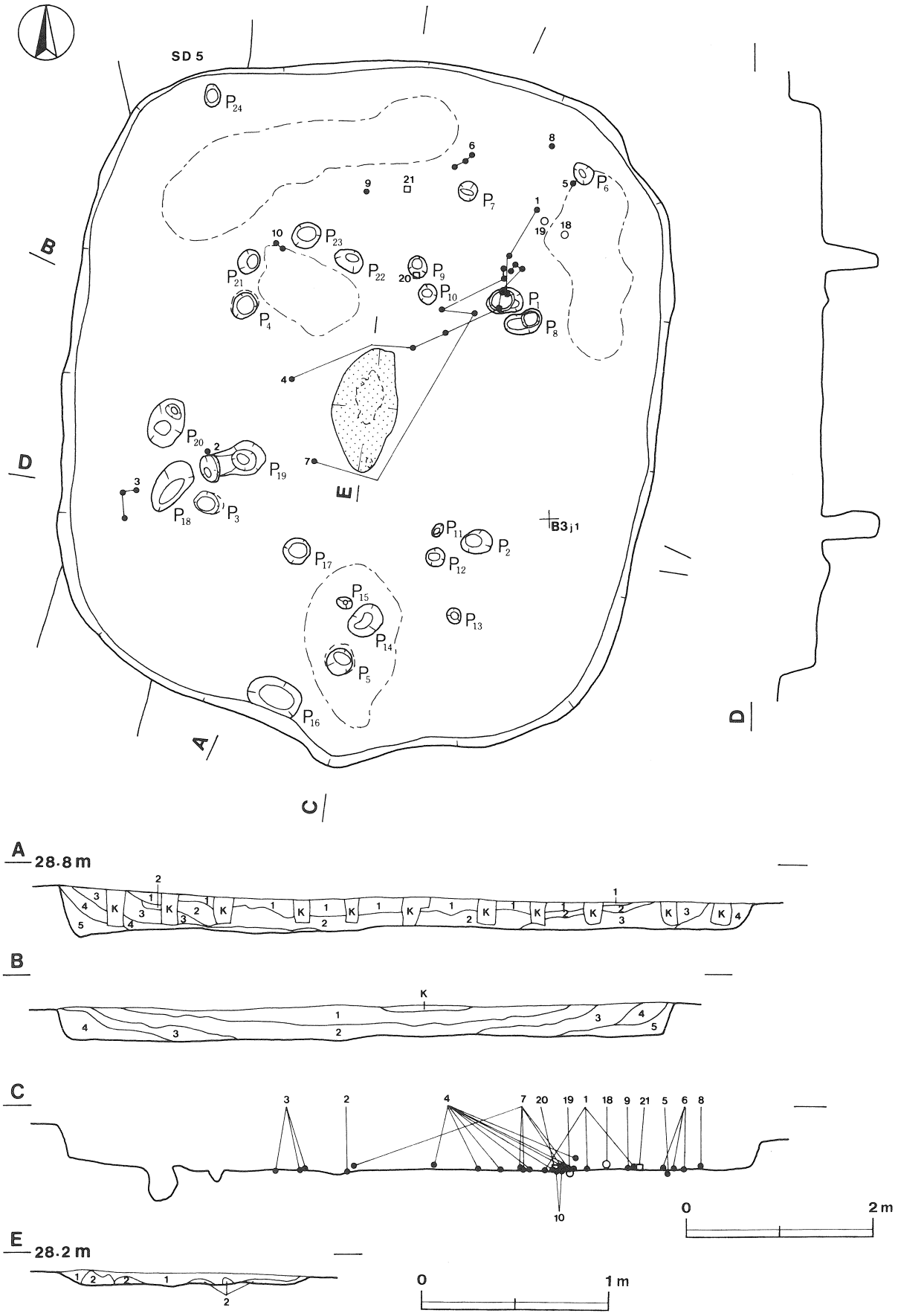
炉　ほぼ中央部に位置し，平面形は長径130cm，短径68cmの楕円形で，床面を8cm掘りくぼめている。炉床は，中央部が火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説
1　黒褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック微量
2　明褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土大ブロック微量

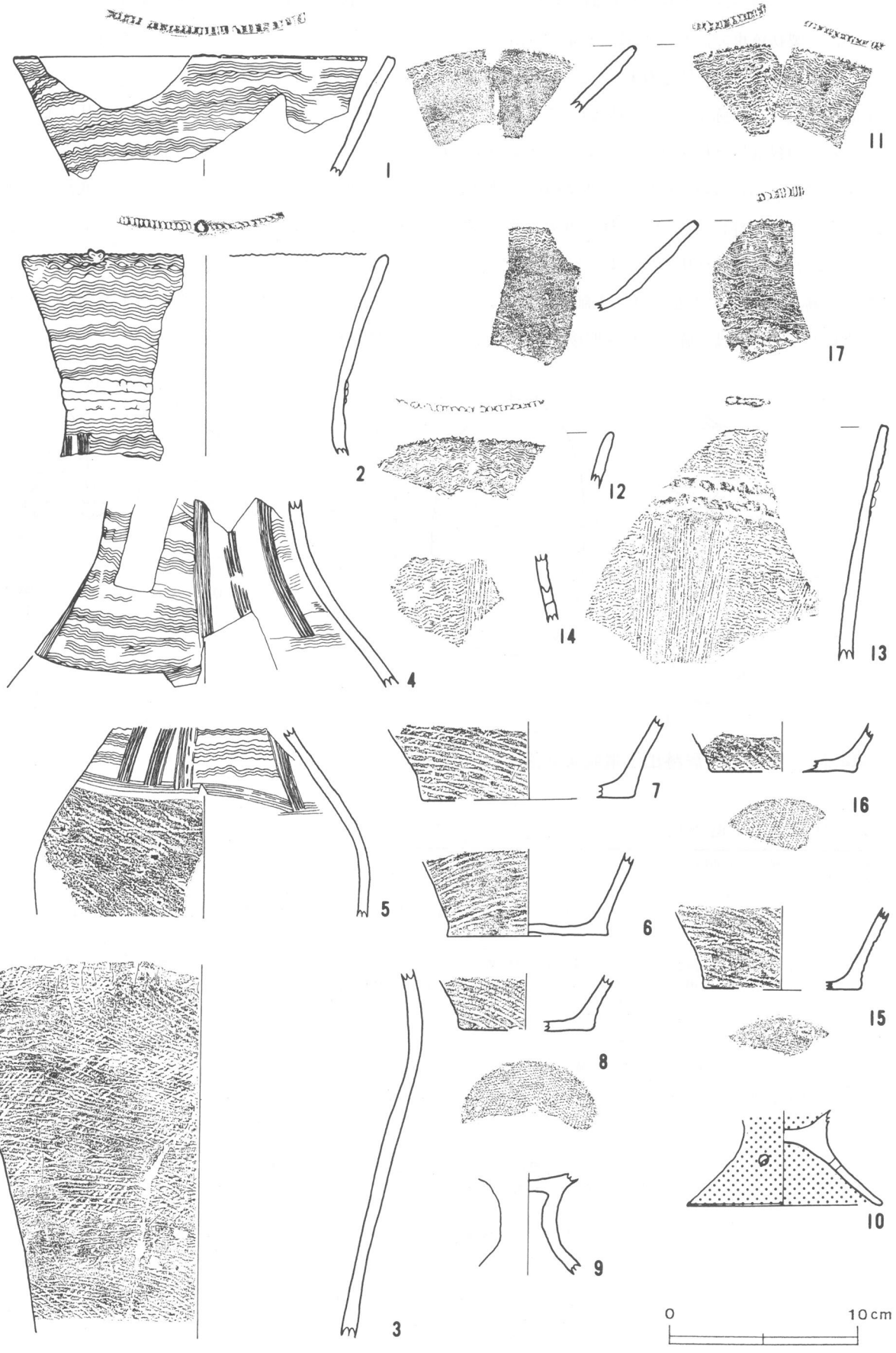
覆土　５層からなり，上層中央部に黒色土，中層から下層にかけてローム・焼土・炭化粒子を含む暗褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　黒　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子中量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量

遺物　弥生土器片約360点，土師器片178点，土製品２点，石器２点が出土しているが，弥生土器のほとんどが細片である。中央部から北東部にかけて多く出土しており，南部は少ない。第42図１～8は壺で，１の胴部から口縁部片の広口壺は，Ｐ１周辺の床面から出土した破片が接合したものである。２の胴部から口縁部片は，Ｐ３北部の床面から出土している。３～５の胴部片は，３がＰ18西部の床面から，４がＰ１周辺の床面から出土している。５はＰ６西部の床面から出土している。６～８は底部から胴部片で，６はＰ７周辺の床面から，７は中央部からＰ１にかけての床面から出土している破片が接合している。８は北東コーナー部の床面から出土



第41図　第10号住居跡実測図

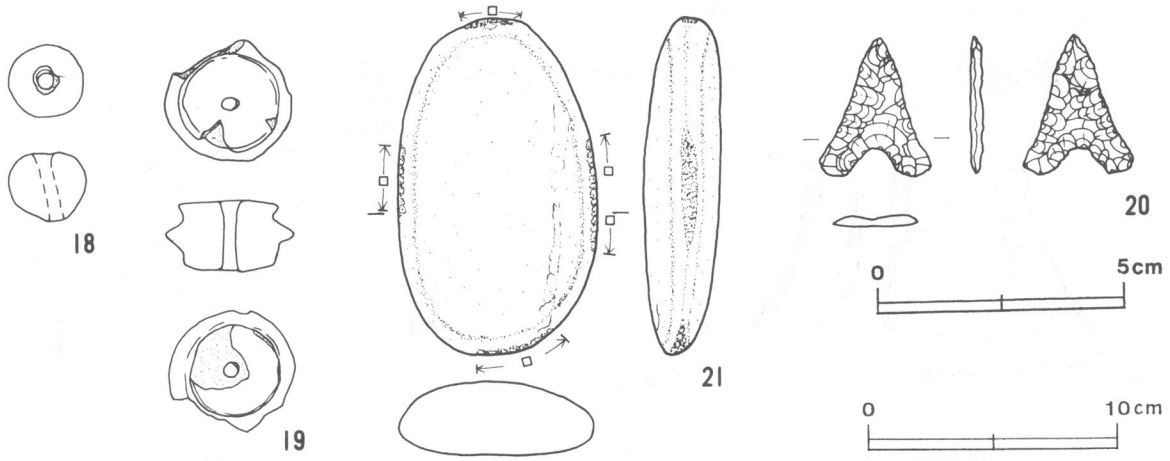


第42図　第10号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)

している。9の高坏はP22付近の床面から出土している。10の土師器の器台はP4付近の床面から出土している。19は土製紡錘車で，P9東部の床面から出土している。18は球状土錘で，P1北東部の下層から出土している。20は石鏃で，P9付近の床面，21は敲石で，P7西部の床面から出土している。

第42図11～17は，弥生土器片の拓影図である。11・12は口縁部片で，どちらも口唇部に棒状工具による刻みが施され，口縁部には櫛歯状工具による波状文が施されている。13・14は頸部片で，13は押圧が施された3本の隆帯が巡り，14には縦区画内の波状文の中に補修孔と思われる焼成後の穿孔がある。15・16は底部から胴部片で，どちらも胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施され，底部には布目痕がある。17は高坏の坏部片である。口唇部にはヘラ状工具による刻みが施され，体部内・外面には櫛歯状工具による波状文が巡る。

所見　本跡からは弥生土器以外に土師器も多く出土している。出土状況や出土層位及び出土遺物の器形の特徴・文様から，時期は，弥生時代後期後半（十王台式期）～古墳時代前期初頭と考えられる。



第43図　第10号住居跡出土遺物実測図(2)

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	広口壺 弥生土器	A［20.0］ B（6.2）	口縁部片。口唇部にはヘラ状工具による刻みがある。口縁部には，櫛歯状工具による5条の波状文が巡る。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P20，10%　PL19 P1付近床面
2	広口壺 弥生土器	A［19.2］ B（10.5）	頸部から口縁部片。口唇部にはヘラ状工具による刻みがあり，突起（1か所）がつく。口縁部には，櫛歯状工具による5条の波状文が巡り，頸部との境には，3条の隆帯が巡る。隆帯上には，指頭によると見られる押圧がある。頸部は，櫛歯状工具により分割されていると思われ，区画内には波状文が施されている。	長石，石英，雲母，赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P21，10%　PL19 P3北部床面
3	大形広口壺 弥生土器	B（19.4）	胴部片。胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。	長石，石英，雲母 灰褐色 普通	P23，20%　PL19 P18西部床面
4	壺 弥生土器	B（9.7）	頸部片。頸部は，櫛歯状工具により5条を単位とする平行沈線で分割され，区画内には波状文が施されている。	長石 にぶい黄橙色 普通	P24，20% P1付近床面
5	広口壺 弥生土器	B（9.9）	胴部から頸部片。頸部は，櫛歯状工具により6条を単位とする平行沈線で分割され，区画内には波状文が施されている。胴部外面には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P25，20%　PL19 P6西部床面 外面一部摩滅
6	広口壺 弥生土器	B（4.3） C　8.4	底部から胴部片。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部には布目痕がある。	長石石英雲母砂粒白色粒子 にぶい橙色 普通	P26，20% P7付近床面 内面スス付着

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第42図 7	壺 弥生土器	B　(4.2) C　[11.1]	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。底部は砂目痕と思われる。	長石，石英 橙色 普通	P27，20% 中央部床面
8	壺 弥生土器	B　(3.0) C　[7.0]	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P28，10% 北東コーナー床面
9	高　坏 弥生土器	B　(5.3)	脚部片。脚部はハの字状に開く。坏部は，大きく外傾して立ち上がると思われる。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P451，10%　PL19 P22付近床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
10	器　台 土師器	B　(5.0) D　10.3 E　4.0	器受部欠損。脚部はラッパ状に開く。脚部に３孔を穿つ。	脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部内・外面赤彩。	長石，石英 明赤褐色 普通	P452，25%　PL19 P4付近床面

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
18	球状土錘	3.1	2.7	0.5	21.8	P1付近覆土下層	DP6
19	紡錘車	5.1	2.8	0.5	(54.8)	P9付近床面	DP8　PL31

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)			
20	石　鏃	2.7	2.3	0.2	1.1	頁岩	P9付近床面	Q5　PL33
21	敲　石	13.4	8.0	3.0	517.2	砂岩	P7西部床面	Q7

第23号住居跡（第44図）

位置　調査区中央部，Ｂ３e4区。

規模と平面形　長軸5.03m，短軸4.14mの隅丸長方形である。

主軸方向　Ｎ－13°－Ｗ

壁　壁高は25～38cmで，わずかに外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，炉を中心に硬化した面がある。出入口施設の北部が特に硬い。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は長径40～56cm，短径約38～43cmの楕円形，深さ47～64cmで主柱穴と思われる。Ｐ５は長径56cm，短径40cmの楕円形，深さ33cmで，位置から出入口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６は長径52cm，短径30cmの不整楕円形で，深さ35cmの壁柱穴と思われる。

炉　ほぼ中央部に位置し，長径104cm，短径61cmの楕円形で，床面を７cm掘りくぼめている。炉床は，火熱を受け赤変硬化し，長期間使用したと思われる。

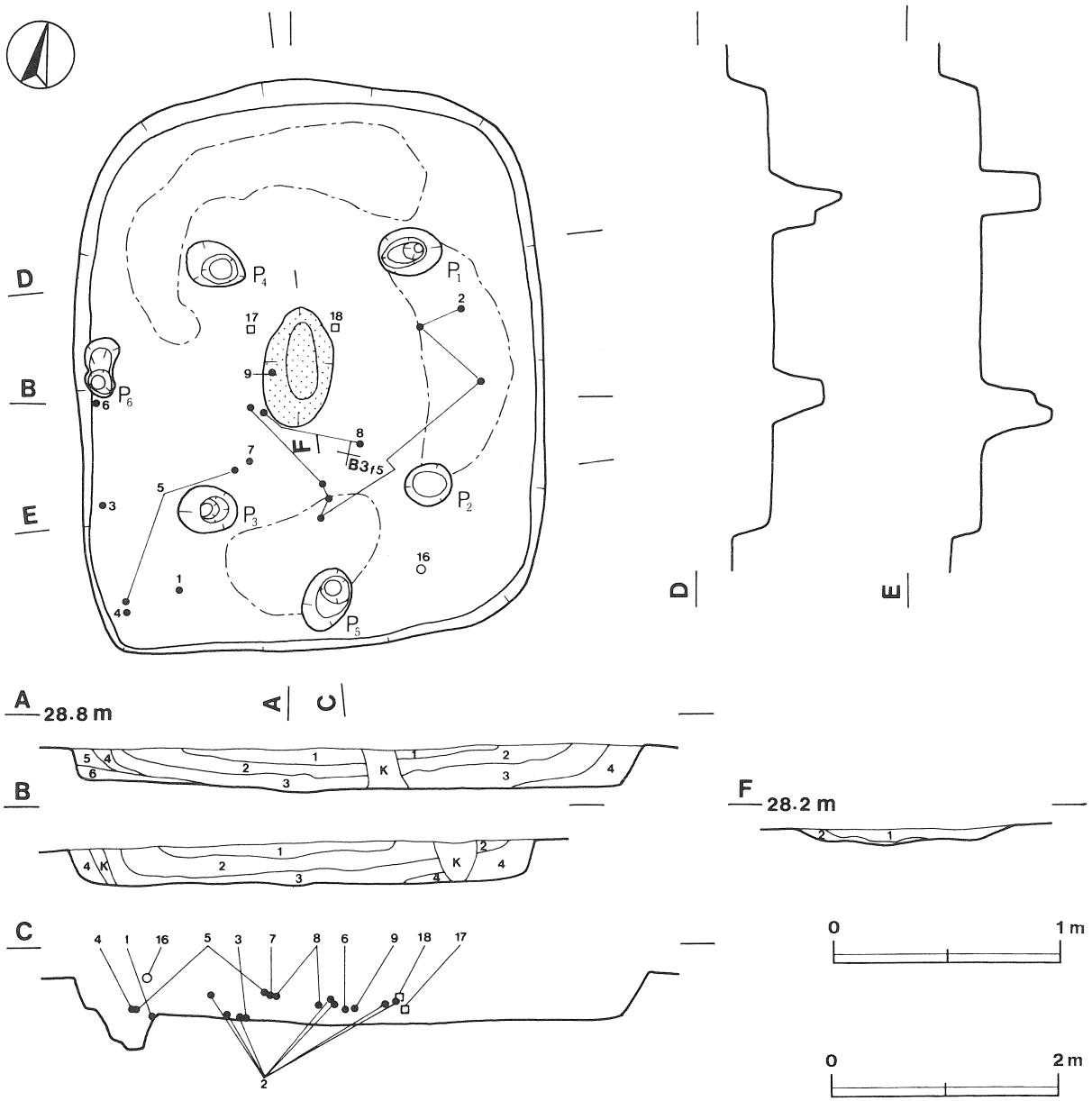
炉土層解説

1　黒褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土大ブロック中量，ローム大ブロック・焼土大ブロック中量

覆土　木の根の撹乱を受けている。６層からなり，上層にはローム・焼土を含む暗褐色土，下層には褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

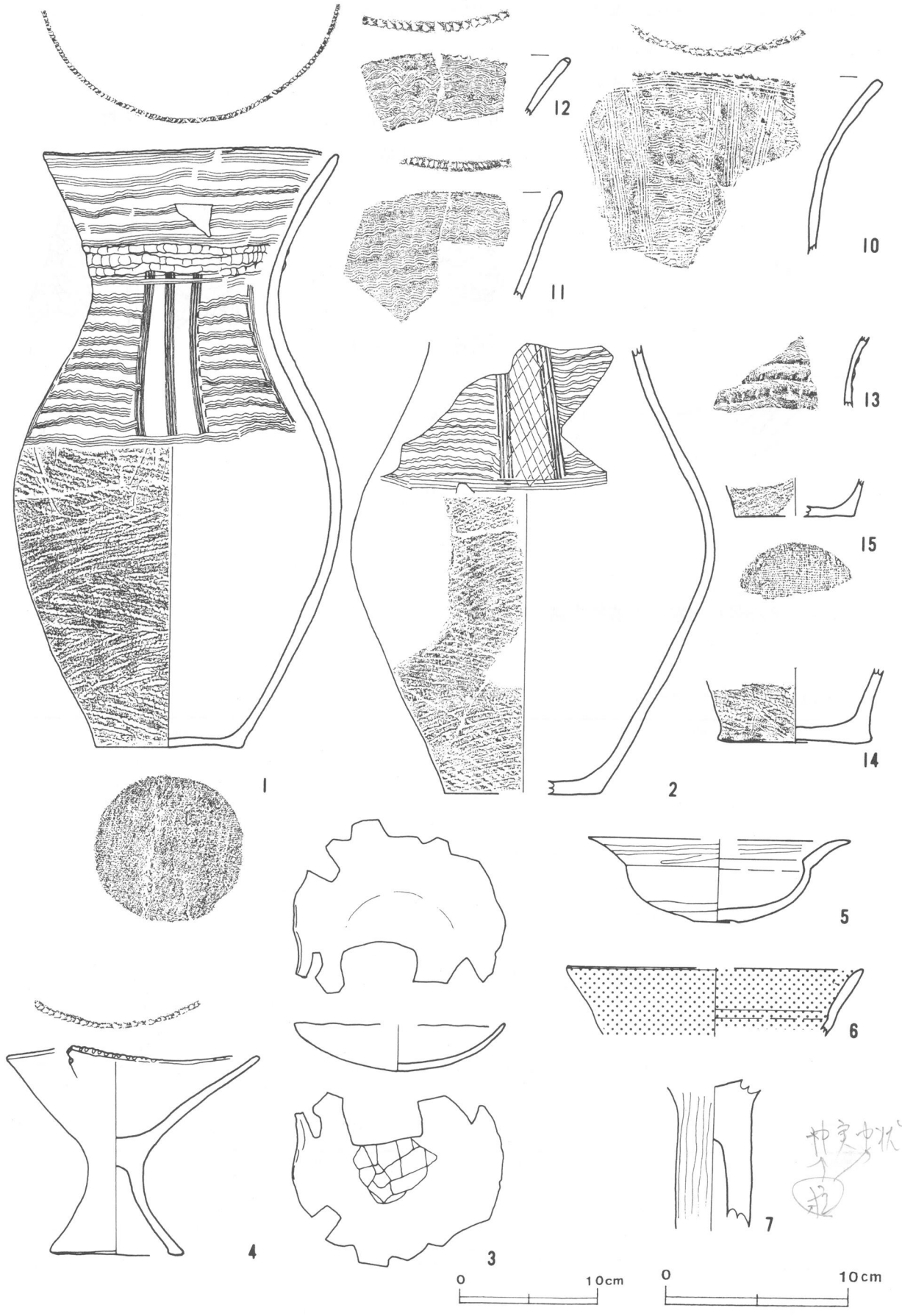
1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子･炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子小量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
6　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量



第44図　第23号住居跡実測図

遺物　弥生土器片118点，縄文土器片５点，土師器片約380点，土製品１点，石器２点が出土している。弥生土器胴部の細片が多量で口縁部・底部片は微量である。第45図１～４は弥生土器である。１の広口壺は，南西部の床面から横位で出土している。２の胴部から底部片は，出入口施設の床面から中央部周辺の覆土上層にかけての破片が接合している。３の片口皿は，南西壁際の床面から逆位の状態で出土している。４の高坏は，南西コーナー壁際の床面から正位で出土している。５～９は土師器である。５の椀は，Ｐ３北東部周辺の覆土上層から床面にかけての破片が接合している。６の椀の体部から口縁部片は，Ｐ６南部の覆土中層から出土している。７の高坏の脚部は，炉南部の覆土中層から出土している。８・９は甕の体部から口縁部片で，８は炉南部の覆土中層から，９は炉の覆土下層から出土している。16は土製紡錘車で，南東コーナー部の覆土上層から出土している。17・18は石器である。17の石鏃は炉北西部の覆土下層，18の砥石は炉北東部の覆土中層から出土している。

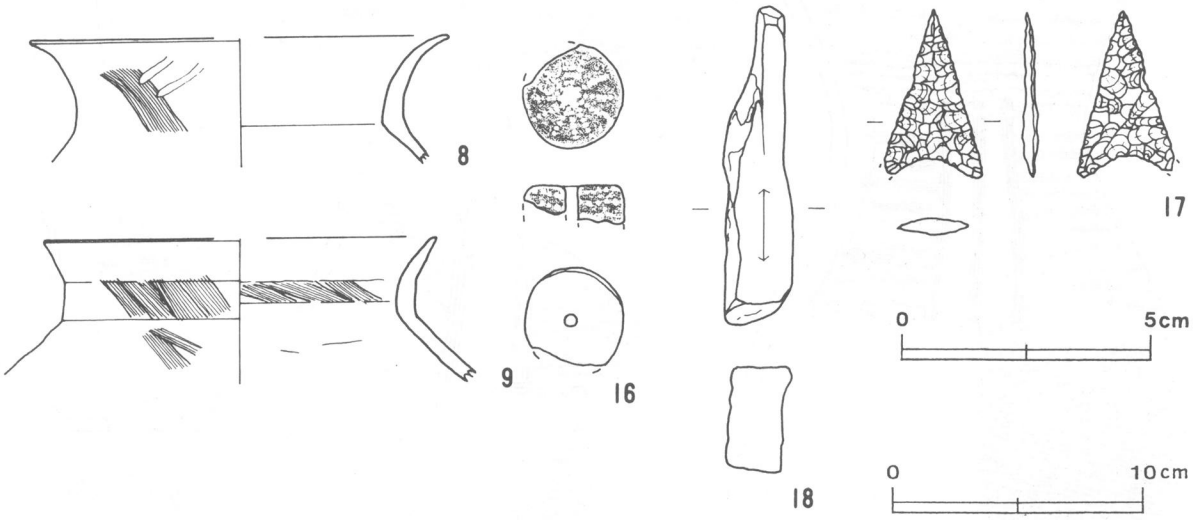
10～15は，弥生土器片の拓影図である。10～12は口縁部片で，口唇部には棒状工具による刻みが施され，外



第45図　第23号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)

面には櫛歯状工具による波状文が施されている。12は縦区画内に櫛歯状工具による波状文が施されている。13は頸部片で，口縁と頸部との境に隆帯が巡り，隆帯上に棒状工具による刺突痕がある。14・15は底部片で，外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，15の底部は布目痕である。

所見　本跡からは弥生土器以外に土師器も多く出土している。出土状況や出土層位及び出土遺物の器形の特徴・文様から，時期は，弥生時代後期後半（十王台式期）～古墳時代前期初頭と考えられる。



第46図　第23号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	広口壺 弥生土器	A 16.0 B 32.9 H 10.0 I 17.8	ほぼ完形。口唇部には，棒状工具による押圧がある。口縁部には，櫛歯状工具により，４条の波状文が施されている。頸部との境には，３条の隆帯が巡る。頸部は，櫛歯状工具により４分割され，区画内には４条の波状文が施されている。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P38，95%　PL19 南西部床面 外面スス付着
2	中形広口壺 弥生土器	B （24.4） C ［ 8.5］ I ［19.6］	底部から頸部片。頸部には，櫛歯状工具による波状文が４条施され，胴部との境には，横走文が施されている。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は砂目痕と思われる。	長石，石英，砂粒 にぶい黄橙色 普通	P39，30%　PL19 出入口付近床面 外面スス付着 外面一部摩滅
3	片口皿 弥生土器	A 15.2 B 3.4	口縁部・片口部一部欠損。内・外面無文。内・外面にはわずかにナデの痕跡が見られる。	長石，雲母 にぶい黄橙色 普通	P42，70% 南西壁際床面 外面スス付着
4	高坏 弥生土器	A ［13.4］ B 11.4 D 7.2 E 5.0	口縁部・坏部一部欠損。内・外面無文。口唇部にはヘラ状工具による刻みがある。坏部は外傾しながら口縁部に至る。脚部はハの字状に広がる。	長石，石英，赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P43，70%　PL19 南西コーナー壁際床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	椀 土師器	A ［14.3］ B 4.6 C 2.4	底部から口縁部片。丸底。中央が凹む。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面縦位のヘラ磨き。	長石，石英，白色粒子 橙色 普通	P44，60% P3付近床面・覆土上層
6	椀 土師器	A ［16.0］ B （ 3.6）	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石，石英，雲母 赤色 普通	P45，20% P6付近覆土中層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 7	高坏 土師器	E （ 8.2）	脚部片。脚部は中空柱状。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石，石英 にぶい橙色 普通	P48，20% 炉南部覆土中層
第46図 8	甕 土師器	A ［16.6］ B （ 5.1）	口縁部片。口縁部はやや外反気味に立ち上がる。	口縁部外面縦位のハケ目調整。	石英，雲母，赤色粒子 浅黄橙色 普通	P49，10% PL19 炉南部覆土中層
9	甕 土師器	A ［15.6］ B （ 5.7）	体部から口縁部片。体部から内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面斜位のハケ目調整。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P50，5% 炉覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
16	紡錘車	4.1	2.0	0.6	（ 16.3）	南東コーナー覆土上層	DP11	PL31

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)				
17	石鏃	3.3	2.0	0.3	1.2	チャート	炉北西部覆土下層	Q11	PL33
18	砥石	12.7	2.4	4.2	219.1	砂岩	炉北東部覆土中層	Q13	

第36号住居跡（第47図）

位置　調査区中央部，B 3 i5区。

規模と平面形　長軸5.52m，短軸5.28mの隅丸方形である。

主軸方向　N－38°－E

壁　壁高は38～53cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸があり，軟弱なローム土。炉の周囲にやや硬化した部分がある。

ピット　9か所（P 1～P 9）。P 1～P 4は長径30～40cm，短径20～39cmの楕円形で，深さが30～50cmである。P 1～P 4は主柱穴と思われる。主柱穴を結んだ線は方形となる。P 7は直径30cmの円形，深さ22cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P 5・P 6は壁際のコーナー部に配置され，直径24～40cm，深さ32cmの円形及び楕円形で，壁柱穴と思われる。P 8・P 9は性格は不明である。

炉　中央部からやや北西寄りにあり，平面形は長径134cm，短径79cmの楕円形で，床面を12cm掘りくぼめている。炉床は，中央部が特に火熱を受け赤変硬化し，長期間使用したと思われる。

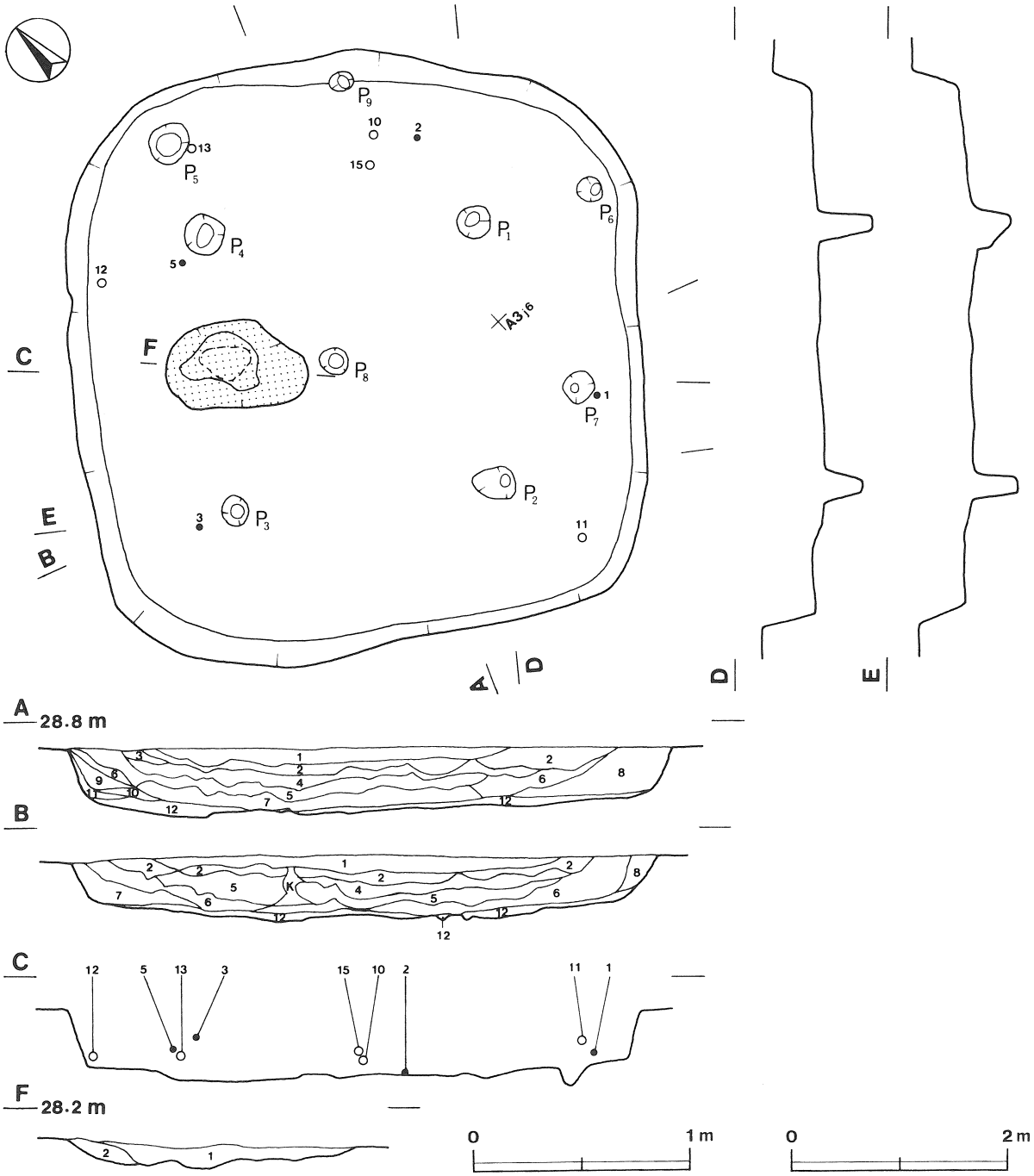
炉土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量，炭化粒子極微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量

覆土　12層からなり，上層に極暗褐色土，中・下層にローム・焼土を含む暗褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。木の根の撹乱を受けている。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，焼土小ブロック・炭化粒子極微量
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
3　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
9　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック微量，焼土粒子極微量
10　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量



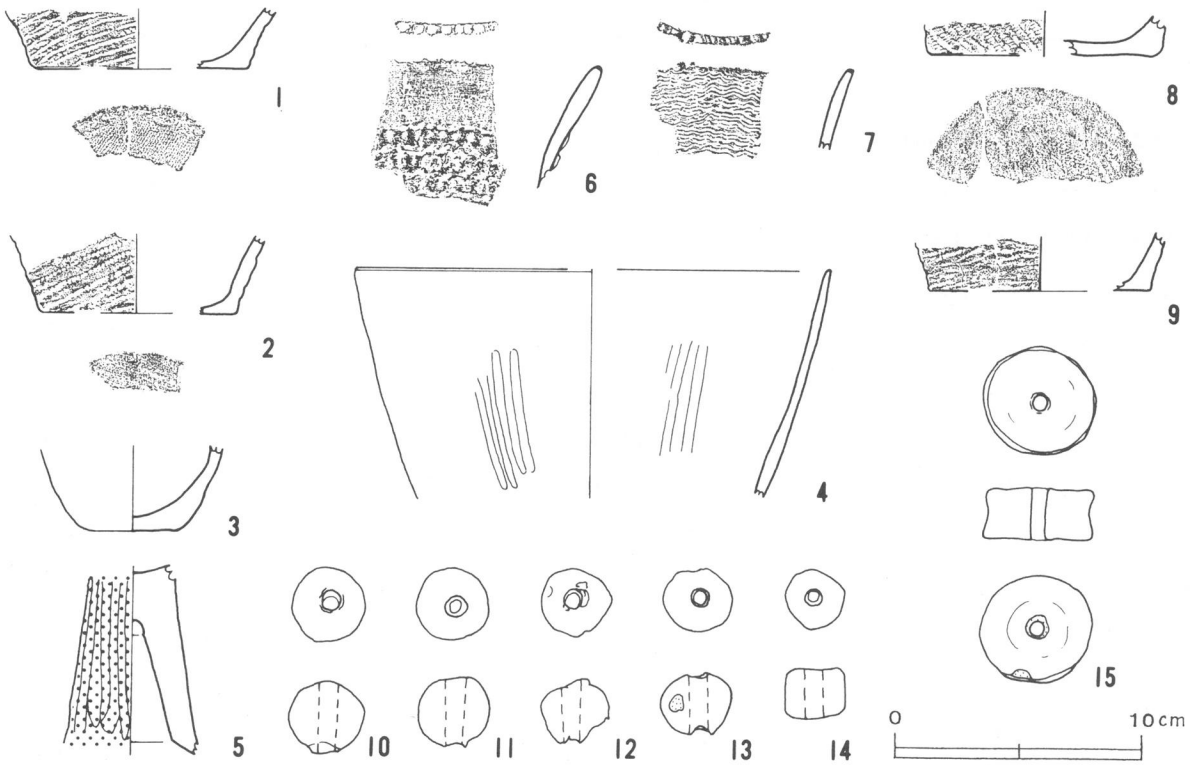
第47図　第36号住居跡実測図

遺物　北部を中心に弥生土器片約49点，土師器片183点，土製品６点が出土している。第48図１・２は弥生土器壺で，どちらも底部から胴部片である。１はＰ７北部の覆土下層から出土し，２は北東壁の床面から出土している。３は弥生土器椀で，底部から胴部片であり，Ｐ３西部の覆土中層から正位の状態で出土している。４・５は土師器である。４は坩の体部から口縁部片で，炉の上面から出土している。5は高坏の脚部で，Ｐ４周囲の覆土下層から出土している。10～13は球状土錘である。10はＰ１北部の覆土下層，11は南コーナー部の覆土中層，12・13はP4周囲の覆土下層から出土している。14は管状土錘で覆土中から出土している。15は土製紡錘車で，Ｐ１北部の覆土下層から出土している。

６～９は弥生土器片の拓影図である。６・７は口縁部片で，どちらも口唇部には棒状工具による刻みが施さ

れている。7の口縁部には低い隆帯が3条巡り，軽い押圧がある。8・9は底部片である。外面には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。8の底部には布目痕がある。

所見　本跡からは弥生土器以外に土師器も多く出土している。出土状況や出土層位からみて，時期は，床面から出土した壺の器形の特徴・文様，並びに炉から出土した坩の器形の特徴から弥生時代後期後半（十王台式期）～古墳時代前期初頭と考えられる。



第48図　第36号住居跡出土遺物実測・拓影図

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	文様	胎土・色調・焼成	備考
第48図 1	広口壺 弥生土器	B（2.4） C［8.6］	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石，砂粒，白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P57，5％ P7北部覆土下層
2	広口壺 弥生土器	B（3.2） C［7.9］	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石，石英，白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P58，5％ 北東壁床面
3	椀 弥生土器	B（3.4） C　3.7	底部から胴部片。胴部は外傾しながら立ち上がる。胴部内・外面ナデ。底部平底。	長石，石英，雲母 黄橙色 普通	P59，10％　PL19 P3西部覆土中層 内面剥離

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	大形坩 土師器	A［18.9］ B（9.1）	口縁部片。体部から外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面縦位のヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石，石英 赤色 普通	P60，10％　PL19 炉上面
5	高坏 土師器	E（7.6）	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。外面赤彩。	長石，石英 橙色 普通	P61，10％ P4付近覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第48図10	球状土錘	3.0	2.8	0.7	22.1	P1北部覆土下層	DP12	
11	球状土錘	2.9	2.7	0.6～0.8	21.4	南コーナー部覆土中層	DP13	
12	球状土錘	2.8	2.5	0.6～0.7	13.5	P4付近覆土下層	DP15	
13	球状土錘	2.8	2.5	0.7	14.4	P4付近覆土下層	DP16	
14	管状土錘	2.8	1.9	0.7	12.5	覆土中	DP19	PL31
15	紡錘車	4.4	2.0	0.6	46.9	P1北部覆土下層	DP20	PL31

第49号住居跡（第49図）

位置　調査区北部，A 4 g1区。

規模と平面形　長軸3.45m，短軸3.34mの隅丸方形である。

主軸方向　N－58°－E

壁　壁高は18～27cmで，外傾して立ち上がる。

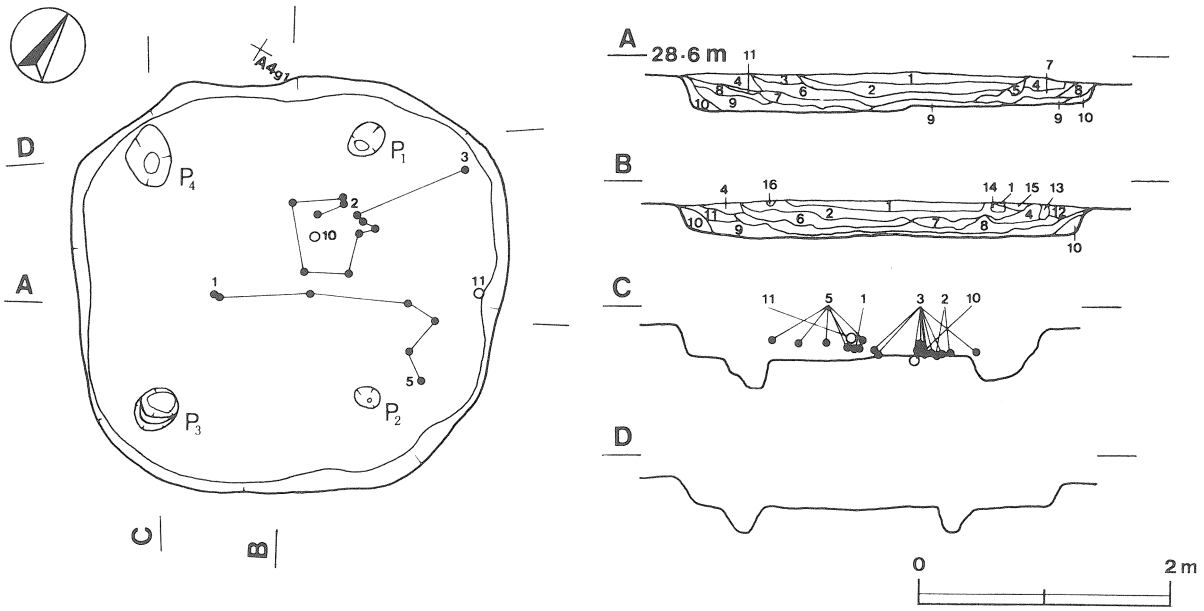
床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸があり，軟弱なローム土。

ピット　4か所（P 1～P 4）。P 1～P 4は長径22～49cm，短径16～36cmの楕円形で，深さが21cm～44cmである。P 1～P 4は主柱穴と思われる。主柱穴を結んだ線は方形となる。

覆土　16層からなり，上層に黒褐色土，下層にローム・焼土を含む暗褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極微量
2　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極微量
3　黒褐色　ローム粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
4　極暗褐色　ローム粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
5　暗褐色　ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
6　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量
7　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極微量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック極微量
9　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，炭化物極微量
10　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量
11　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子極微量
12　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
13　暗褐色　ローム粒子微量，焼土粒子極微量
14　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物極微量
15　褐　色　ローム粒子微量
16　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子極微量

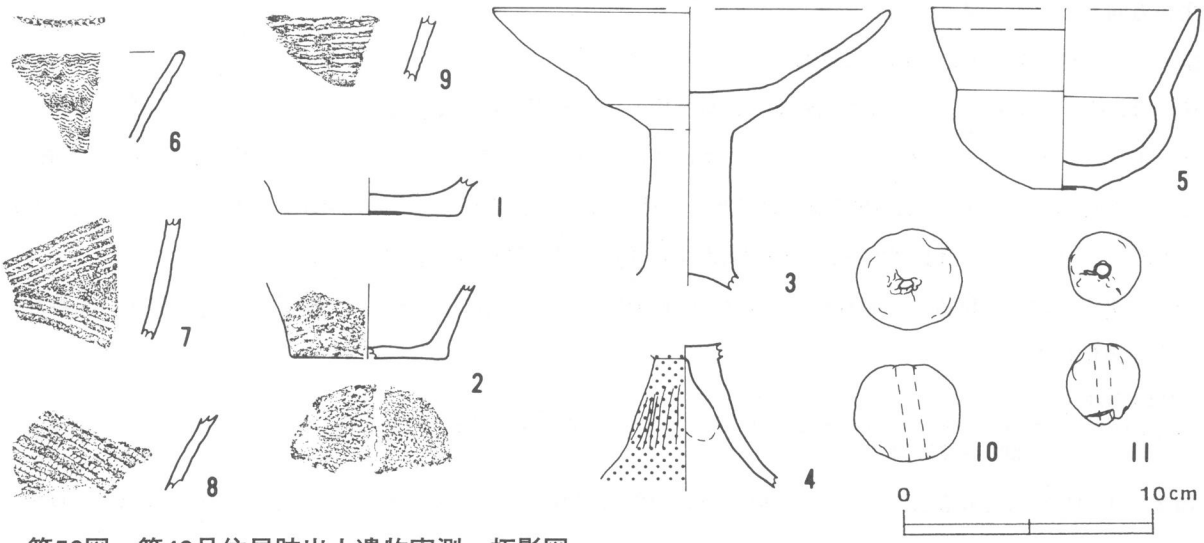


第49図　第49号住居跡実測図

遺物　北部を中心に弥生土器片12点，土師器片93点，土製品２点が出土しているが，弥生土器のほとんどが胴部片で，口縁部，底部片は微量である。第50図１・２は弥生土器壺である。１は広口壺の底部から胴部片で，中央からやや西部の覆土下層から正位の状態で出土している。２は中央からやや北部の床面から出土している。３～５は土師器である。３・４は高坏で，３の脚部から口縁部片は，中央からやや北部床面から正位の状態で，４の脚部片は，北東部の覆土上層から出土している。５は坩の底部から口縁部片で，南東壁際の覆土下層から逆位の状態で出土している。10・11は球状土錘である。10は中央部の床面から，11は東部壁際の覆土中層から出土している。

６～９は弥生土器片の拓影図である。６は口縁部片で，口唇部には棒状工具による刻みがあり，外面には櫛歯状工具による波状文が施されている。７～９は胴部片で，外面には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，７は羽状構成をとっている。

所見　本跡からは弥生土器以外に土師器も多く出土している。出土状況や出土層位及び出土遺物の器形の特徴・文様から，時期は，弥生時代後期後半（十王台式期）～古墳時代前期初頭と考えられる。



第50図　第49号住居跡出土遺物実測・拓影図

第49号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	文様	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	広口壺 弥生土器	B （1.5） C ［7.1］	底部片。底部は布目痕である。	長石，石英，赤色粒子 橙色 普通	P67，5％ 中央部覆土下層 外面摩滅
2	広口壺 弥生土器	B （3.0） C ［6.4］	底部から胴部片。胴部には，附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。底部は布目痕である。	長石，石英，白色粒子 明赤褐色 普通	P68，5％ 中央部床面 外面剥離

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	高坏 土師器	A ［15.9］ B （11.2） E （6.3）	脚部から口縁部片。脚部は中実柱状。坏部下位に稜をもち外傾しながら口縁部に至る。	口縁部外面横位のヘラ磨き。	長石，石英 橙色 普通	P69，65％ PL19 中央部床面 外面摩滅
4	高坏 土師器	E （5.9）	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。外面赤彩。	長石，白色粒子 赤色 普通	P70，10％ PL19 北東部覆土上層 外面摩滅

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第50図 5	坩 土師器	A　[10.6] B　7.2 C　2.6	底部から口縁部片。底部は平底で，中央部がやや凹む。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，外傾しながら口縁部に至る。端部下端に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面縦位のハケ目調整。体部外面縦位のヘラ磨き。	長石，石英，赤色粒子 橙色 普通	P71，80%　PL19 南東壁際覆土下層 外面摩滅

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
10	球状土錘	4.2	3.3	0.8	59.4	中央部床面	DP21
11	球状土錘	3.0	3.2	0.6	23.7	東部壁際覆土中層	DP22

第66号住居跡（第51図）

位置　調査区東部，Ｂ４j6区。

規模と平面形　長軸3.78m，短軸3.55mの隅丸方形である。

主軸方向　Ｎ－８°－Ｗ

壁　壁高は14～30cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸があり，炉を中心に踏み固められている。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１・Ｐ２は長径16～24cm，短径14～22cmの円形で，深さが23cm前後である。主柱穴と思われる。Ｐ３は長径35cm，短径28cmの楕円形，深さ52cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ４・Ｐ５は長径24～27cmの円形および楕円形で，補助柱穴と思われる。

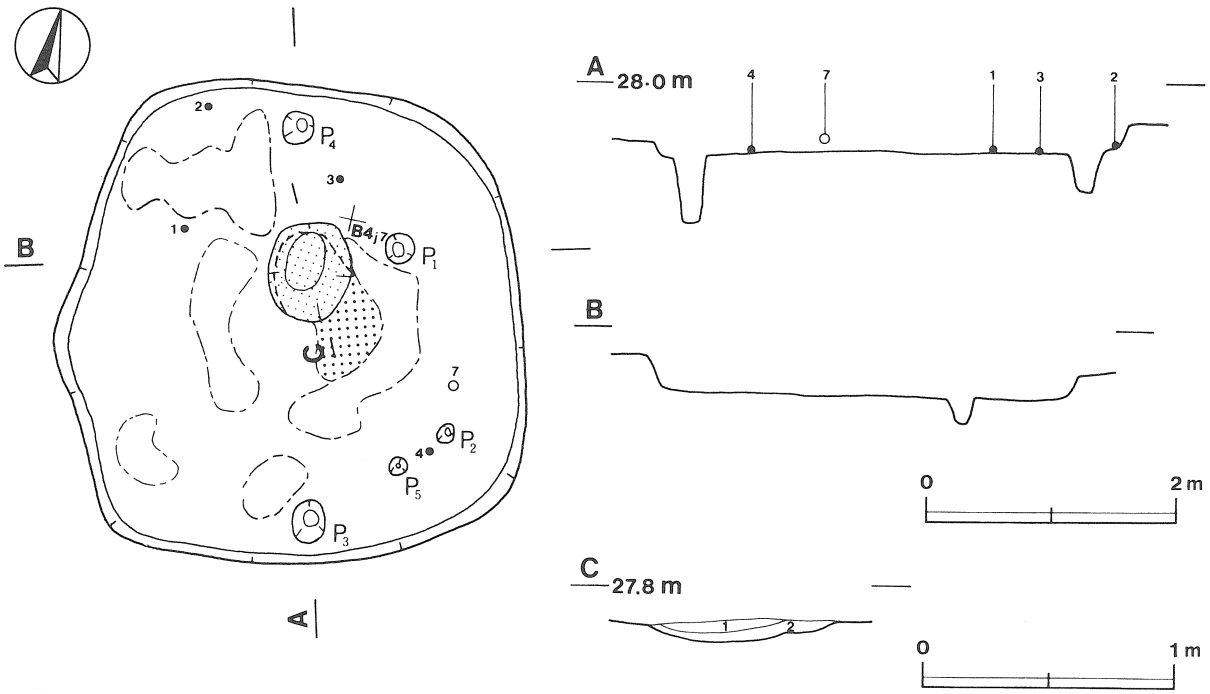
炉　中央から北部に位置し，長径82cm，短径66cmの楕円形で，床面を９cm掘りくぼめている。炉床は火熱をうけ赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中・小ブロック・炭化物・炭化粒子少量

2　極暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子・焼土中・小ブロック・炭化物少量

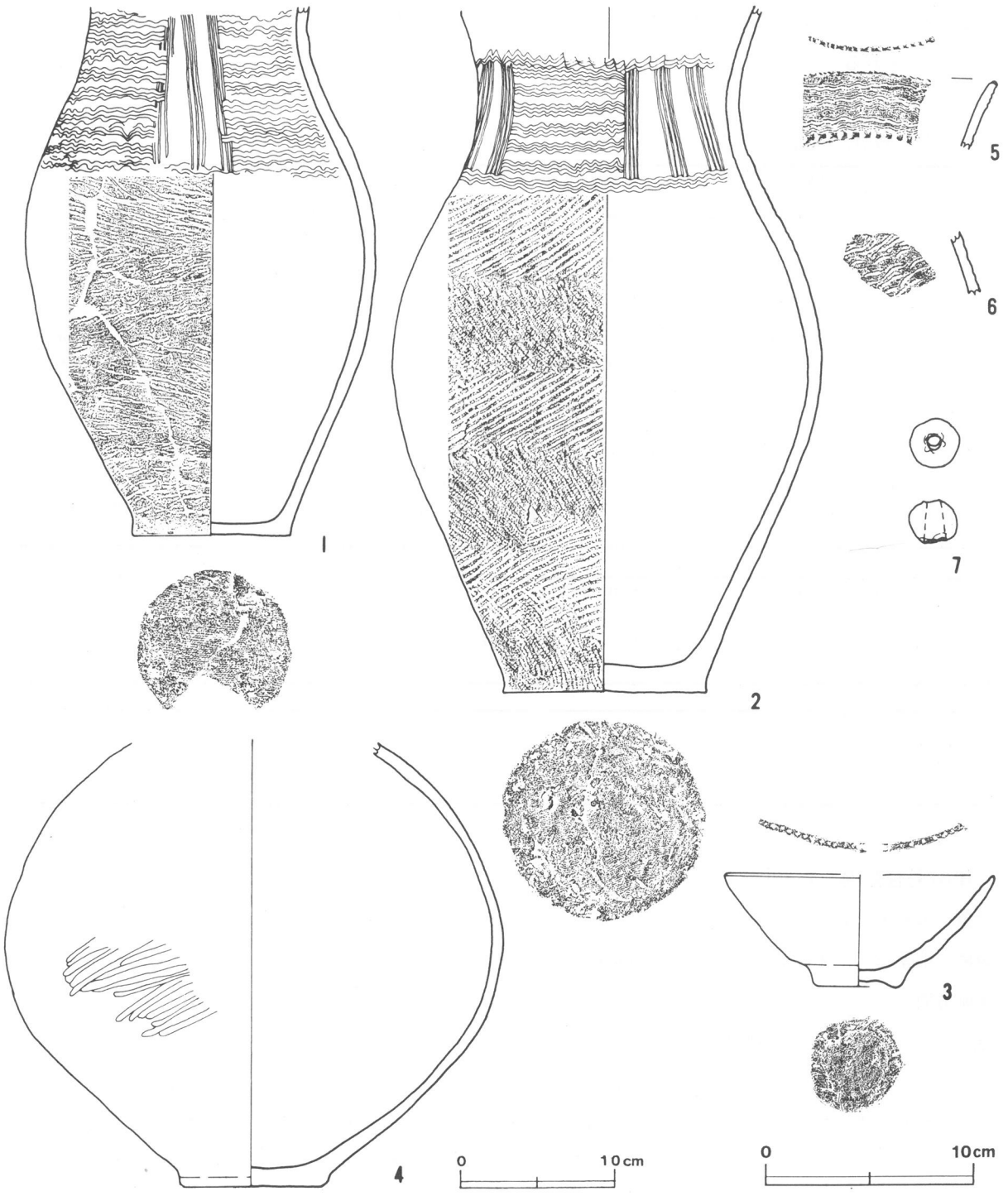
覆土　木の根による撹乱が激しく，全体的な層の様相は把握できなかったが，覆土中・下層にロームブロック



第51図　第66号住居跡実測図

が多く含まれていた。また，炉を中心に覆土下層から床面にかけて炭化材が検出されている。

遺物　中央から北部を中心に弥生土器片８点，土師器片20点，土製品１点出土しているが，弥生土器のほとんどが胴部片・体部片で，口縁部，底部片は微量である。第52図１・２は弥生土器広口壺の胴部から底部片で，１は北西壁の床面から横位の状態で出土している。２は北西コーナー部の床面から斜位の状態で出土している。３は弥生土器浅鉢の底部から胴部片で，Ｐ４南東部の床面から逆位の状態で出土している。４は土師器壺の底部から体部片で，南東コーナー部床面から横位の状態で出土している。７は球状土錘で，東部の覆土中層から



第52図　第66号住居跡出土遺物実測・拓影図

出土している。

5・6は弥生土器片の拓影図である。5は口縁部片で，口唇部には棒状工具による刻みがあり，櫛歯状工具による波状文が施されている。下端には1条の隆帯が巡り，軽い押圧がある。6は胴部片で，附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。

所見　本跡は，炭化材及び焼土ブロック検出状況からみて焼失家屋であると思われる。また，覆土の状況から，焼失直後に人為的に埋め戻されたものと考えられる。出土遺物では，弥生土器の広口壺と土師器の壺が床面から出土している。時期は，北西コーナー部周辺の床面から出土した遺物1・2の器形の特徴・文様等，並びに南東コーナー部の床面から出土した遺物4の器形の特徴から弥生時代後期後半（十王台式期）～古墳時代前期初頭と考えられる。

第66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第52図 1	広口壺 弥生土器	B （25.6） C 7.6 I 16.9	底部から頸部片。頸部は，4条を単位とする平行沈線で4分割され，区画内には，櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部との境には，櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は布目痕である。	長石，石英，雲母，砂粒 明赤褐色 普通	P93，60%　PL20 北西壁床面 外面スス付着
2	広口壺 弥生土器	B （33.2） C 9.8 H 12.5 I 20.4	底部から口縁部片。口縁部には，附加条1種(附加2条)の縄文が施され，頸部との境には櫛歯状工具による山形文が巡る。頸部は4条を単位とする平行沈線で4分割され，縦区画内には櫛歯状工具による山形文が施されている。胴部には附加条1種(附加2条)と附加条1種(附加1条)が交互に施され羽状構成をとる。中位に内面から穿孔されている。底部は布目痕である。	長石，石英，雲母，砂粒，赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P94，70%　PL20 北西コーナー床面 外面スス付着
3	浅鉢 弥生土器	A ［12.8］ B 5.4 C 4.0	底部から口縁部片。口唇部には，ヘラ状工具による刻みが施されている。胴部外面無文。底部は平底で，指ナデ。	長石，石英，雲母，赤色粒子 黄褐色 普通	P95，50%　PL19 P4南東部床面 内面剥離

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	壺 土師器	B （28.5） C 9.1	底部から体部片。平底。体部は球形で，中位に最大径をもつ。	体部外面斜位のヘラ磨き，赤彩。体部内面輪積み痕。底部ナデ。	長石，石英，雲母，赤色粒子 明黄褐色 普通	P96，50%　PL20 南東コーナー床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	球状土錘	2.4	2.1	0.7～1.1	9.7	東部覆土中層	DP44

第67号住居跡（第53図）

位置　調査区南東部，C4c6区。

規模と平面形　長軸4.70m，短軸3.71mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は10～18cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦なロームで，炉の周囲と出入口ピットの周囲が踏み固められている。

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は長径32～50cm，短径25～40cmの円形及び楕円形で，深さが43～51cmである。P1～P4は主柱穴と思われる。主柱穴を結んだ線は長方形となる。P5は長径18～28cmの楕円形，深さ25cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は，長径22cm，短径14cmの楕円形，深さ18cmでP2の補助柱穴と思われる。

炉　中央からやや北東部に位置し，長径104cm，短径62cmの楕円形で，床面を４cm掘りくぼめている。炉床は火熱を受け赤色硬化している。長期間使用したものと考えられる。

炉土層解説

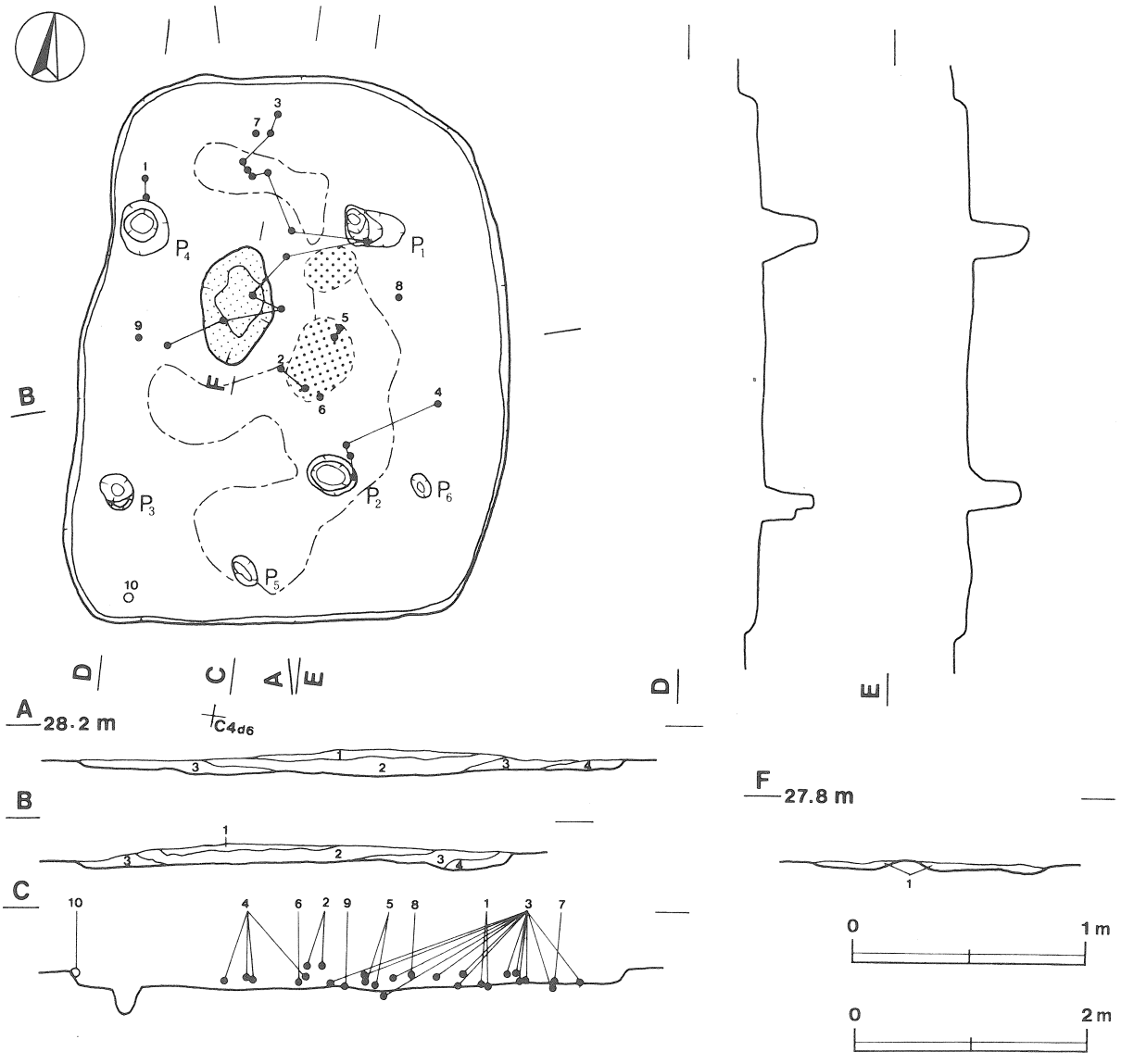
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック微量

覆土　４層からなる。上層はレンズ状を呈し自然堆積であるが，下層はロームブロック含むことから人為堆積であると思われる。

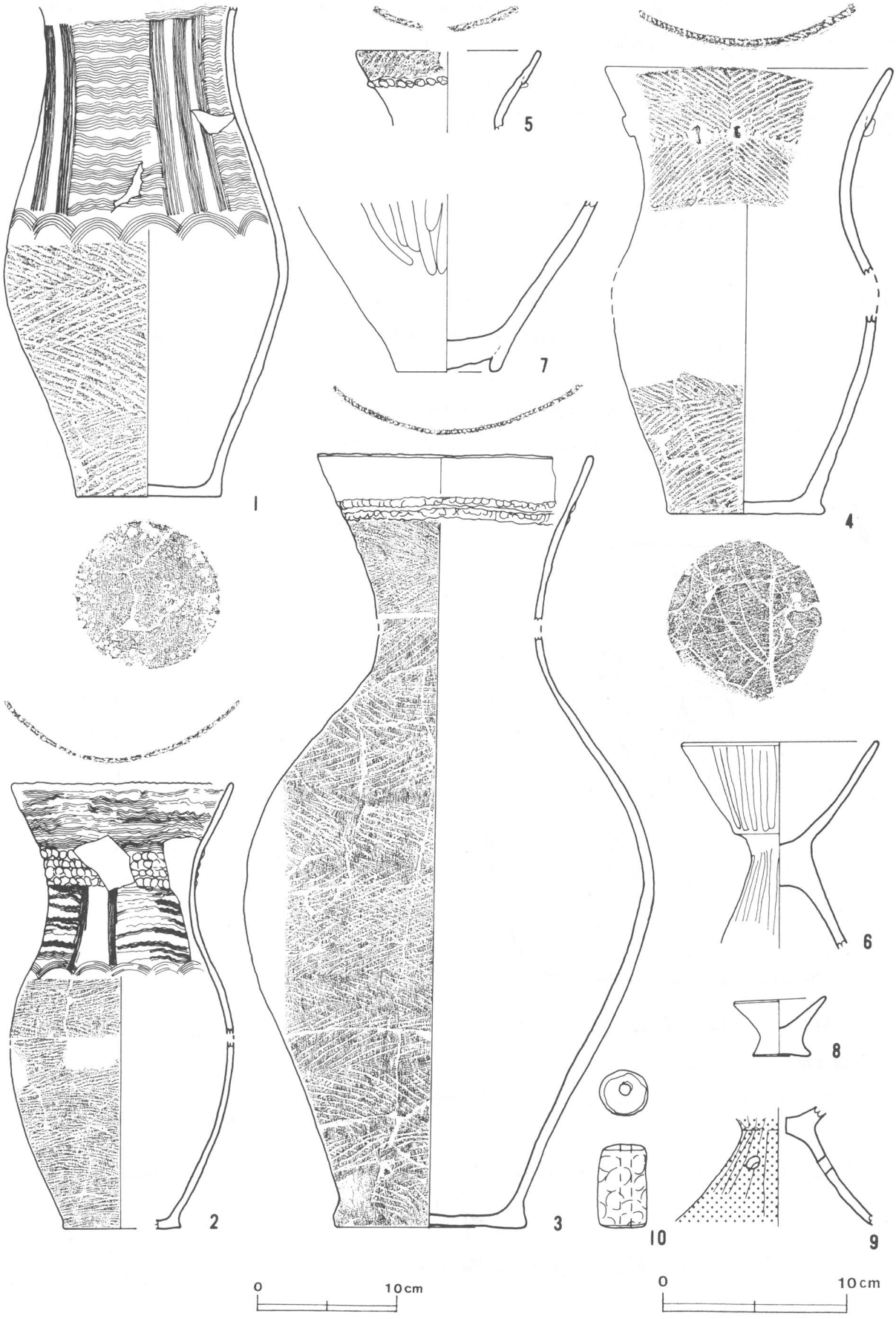
土層解説

1　黒 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量
4　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物　北西コーナー部から南東コーナー部にかけて弥生土器片50点，土師器片30点，土製品１点が出土しているが，弥生土器のほとんどが胴部片で，口縁部，底部片は極微量である。第54図１～８は弥生土器でる。１は広口壺の底部から頸部片で，北西コーナー部の床面から横位のつぶれた状態で出土している。２は広口壺の底部から口縁部片で，Ｐ２北西部の覆土上層から正位の状態で出土している。３の大型広口壺は北壁際の床面から中央部の覆土中層にかけて出土した破片が接合している。４の広口壺は，Ｐ２周囲の覆土中層からつぶれた



第53図　第67号住居跡実測図



第54図　第67号住居跡出土遺物実測図

状態で出土している。5は口縁部片で，中央部の覆土下層から出土している。6は高坏の脚部から口縁部片で，P2北部の覆土下層から横位の状態で出土している。7の高坏は北壁際の床面から逆位の状態で出土している。8は高坏型のミニチュア土器で，中央より東部の覆土下層から横位の状態で出土している。9は土師器である。9は器台で，西壁中央の床面から横位の状態で出土している。10は管状土錘で，南西コーナー部の覆土上層から出土している。

所見　本跡は，覆土・床面の炭化材及び焼土の範囲の検出状況からみて焼失家屋であると思われる。本跡からは弥生土器以外に土師器も出土している。出土状況や出土層位及び出土遺物の器形の特徴・文様から，時期は，弥生時代後期後半（十王台式期）～古墳時代前期初頭と考えられる。

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第54図 1	広口壺 弥生土器	B (26.5) C 7.9 I 15.2	底部から頸部片。口縁部との境に隆帯が巡り，頸部は4条を単位とする平行沈線で4分割され，区画内には，櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部との境には，櫛歯状工具による連弧文が巡る。胴部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は布目痕である。	長石，石英，雲母，砂粒 白色粒子 にぶい褐色 普通	P97，60%　PL20 北西コーナー床面 内・外面スス付着
2	広口壺 弥生土器	A 15.8 B (32.0) C 8.4 H 10.6	底部から口縁部片。口唇部には，縄文原体による押圧がある。口縁部には波状文が施され，下端には隆帯が4条巡る。隆帯上には，指頭による押圧がある。頸部には，4条を単位とする平行沈線で4分割され，縦区画内には櫛歯状工具による波状文が施されている。胴部との境には連弧文が巡る。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は砂目痕である。	長石，石英，砂粒 にぶい褐色 普通	P98，60%　PL20 P2北西部覆土上層 内面スス付着
3	大形広口壺 弥生土器	A [21.8] B (55.0) C 13.6 I 29.5	口縁部一部欠損。口唇部には縄文原体による押圧がある。口縁部には，附加条二種（附加1条）の縄文が施され，下端には隆帯が2条巡る。隆帯上には，指頭による押圧がある。頸部から胴部外面には，附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は砂目痕である。	長石，石英，赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P99，90%　PL20 北壁際床面
4	広口壺 弥生土器	A [15.4] B (20.8) C 8.2	底部から口縁部片。口唇部には縄文原体による押圧がある。口縁部には，附加条一種（附加2条）の縄文が施され，頸部との境には段をもち，上部に2個を単位とする貼り瘤がつく。頸部には附加条一種（附加2条）の縄文が施され，下端無文である。胴部には附加条一種（附加2条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は木葉痕である。	長石，石英，雲母，砂粒 黄褐色 普通	P100，50%　PL21 P2付近覆土中層
5	壺 弥生土器	A [9.8] B (4.4)	口縁部片。口唇部には縄文原体による押圧がある。口縁部には，附加条一種（附加2条）の縄文が施されている。頸部との境には，三角錐状の貼り瘤が巡る。頸部は無文である。	長石，石英，雲母，砂粒 にぶい橙色 普通	P101，10%　PL21 中央部覆土下層 内・外面スス付着
6	高坏 弥生土器	A 10.5 B (10.9) E (5.6)	裾部一部欠損。脚部は，ラッパ状に開く。坏部は下端に稜をもち，外傾しながら口縁部に至る。坏部及び脚部外面縦位のヘラ磨き。坏部内面ナデ。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P102，80%　PL21 P2北部覆土下層
7	高坏 弥生土器	B (9.2) C 5.5	坏部口縁部欠損。坏部は外傾しながら立ち上がる。坏部外面ヘラナデ。	長石,石英,雲母,白色粒子 赤褐色 普通	P104，30%　PL21 北壁際床面
8	高坏型ﾐﾆﾁｭｱ 土器 弥生土器	A 5.0 B 3.2 C 3.0	完形。脚部はラッパ状に開く。坏部は外傾しながら口縁部に至る。底部は上げ底気味である。内・外面ナデ。	長石，石英，雲母，砂粒 にぶい黄褐色 普通	P105，100%　PL19 東部覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	器台 土師器	B (6.4) E (5.3)	器受部欠損。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔を穿つ。	脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部外面赤彩。	長石,石英,雲母,白色粒子 褐色 普通	P103，30%　PL20 西壁中央部床面 器受部一部炭化物付着

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	管状土錘	2.6	4.5	0.6	33.9	南西コーナー部覆土上層	DP46　PL31

(3) 古墳時代

第13号住居跡（第55図）

位置　調査区北部，A 3 i0区。

重複関係　本跡は西部を第47号住居跡に，東部を第82号住居跡に掘り込まれており，本跡が最も古い。

規模と平面形　長軸4.30m，短軸[2.58]mの長方形と推定される。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は22～25cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

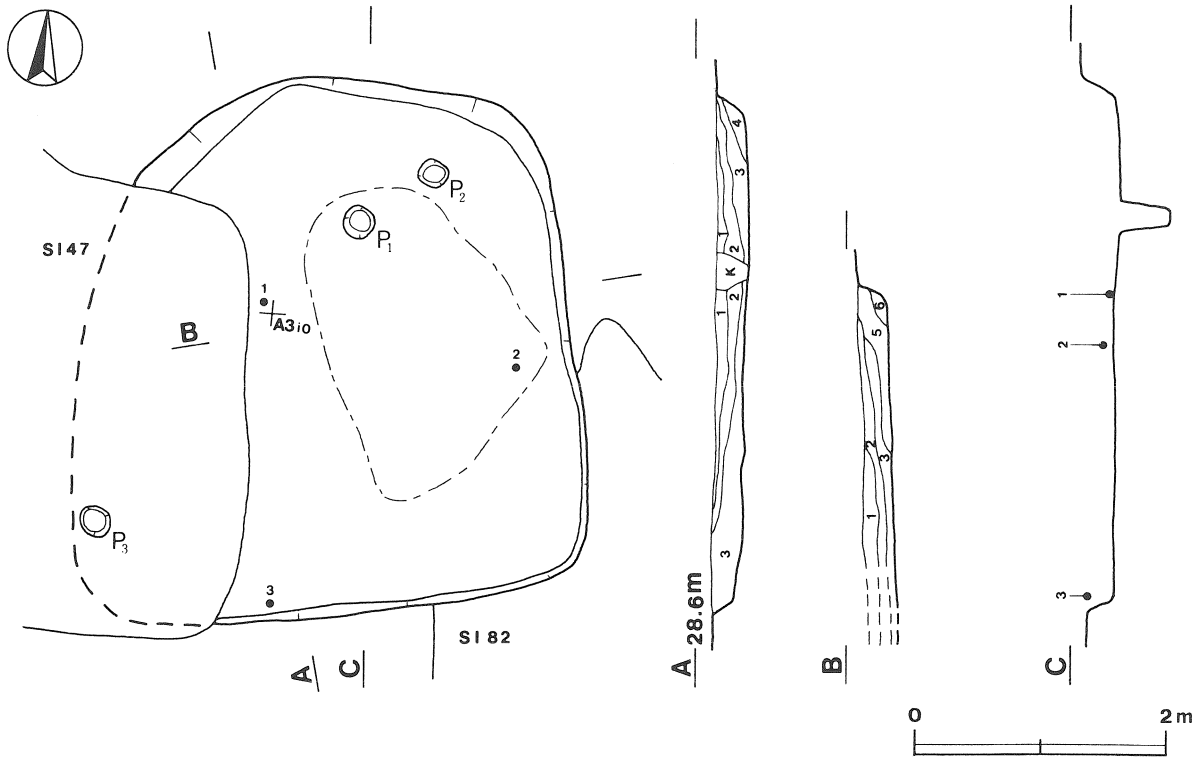
床　ほぼ平坦で軟弱なローム土。中央部から東部にかけてやや硬化した面がある。

ピット　3か所（P 1～P 3）。P 1～P 3は，長径24～27cm，短径21～24cmの円形及び楕円形，深さ17～46cmである。P 2は規模・配置から主柱穴，P 3は位置から壁柱穴，P 1は位置から主柱穴（P 2）の補助柱穴と思われる。

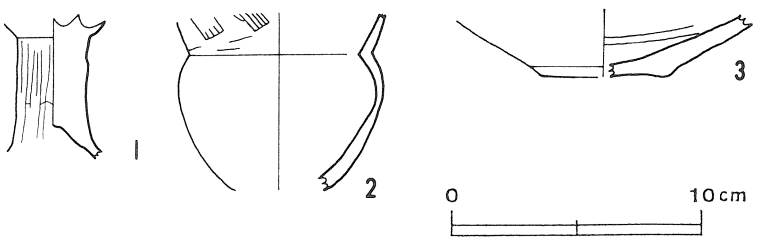
覆土　6層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子極微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量



第55図　第13号住居跡実測図



第56図　第13号住居跡出土遺物実測図

遺物　北東コーナー部を除く覆土下層から土師器片を主体に出土している。第56図1の高坏は，中央部よりやや北東側の床面から出土している。2の坩は東壁付近の覆土下層，3の甕は南壁際の覆土上層から出土して

いる。

所見　本跡の時期は，床面から出土している遺物１の器形から４世紀後半と考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第56図 1	高　　坏 土 師 器	B　（ 5.2）	脚部片。中空柱状。	脚部外面ヘラ磨き。	長石，石英，雲母，小礫 にぶい黄橙色 普通	P119，20% 中央部床面
2	坩 土 師 器	B　（ 7.1）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面斜位のハケ目調整，内面ナデ。体部内面摩滅。	長石，雲母，白色粒子 明赤褐色 普通	P120，20% 東壁際覆土下層
3	甕 土 師 器	B　（ 2.2） C　［ 5.2］	底部片。平底。	底部内面ナデ。	長石，石英，雲母 明褐色 普通	P121，10% 南壁際覆土上層 外面ｽｽ付着

第18号住居跡（第57図）

位置　調査区南部，Ｃ３a4区。

規模と平面形　耕作による撹乱のため，規模や平面形は明確ではないが，長軸[3.55]ｍ，短軸[3.45]ｍの方形と推定される。

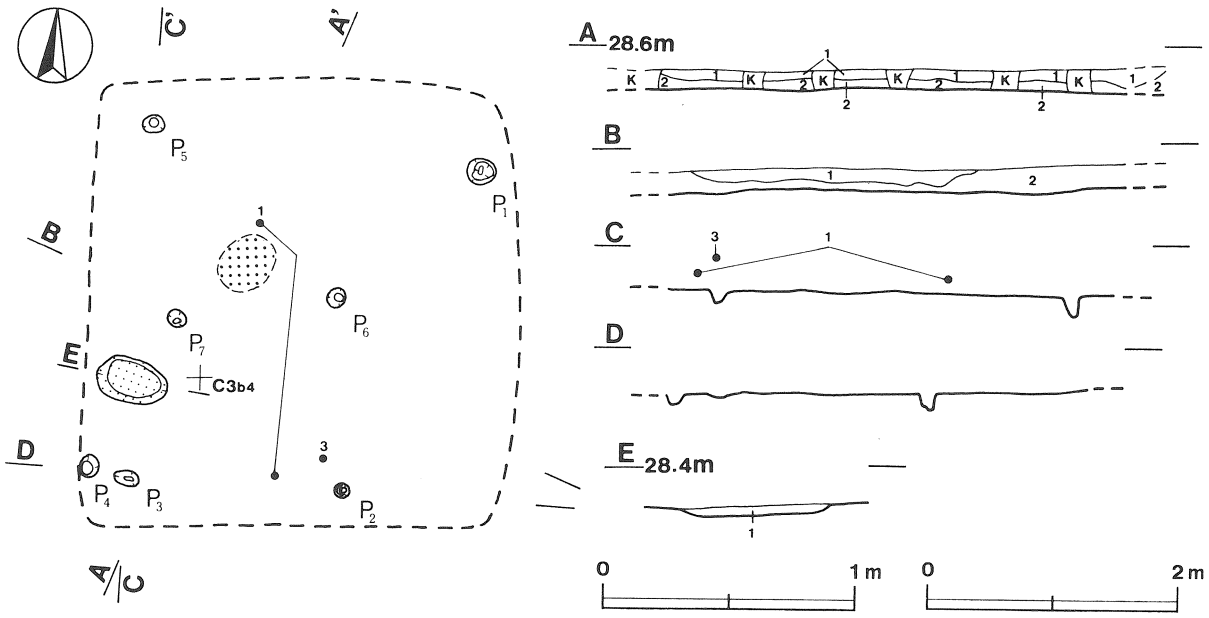
主軸方向　［Ｎ－７°－Ｅ］

壁　耕作による撹乱のため，壁の立ち上がりは不明であるが，深さは13～20cmである。

床　床面は耕作により確認が困難であったが，ほぼ平坦であると推定される。硬化面は検出できなかった。

ピット　７か所（Ｐ１～Ｐ７）。Ｐ１～Ｐ７は長径12～23cm，短径11～22cmの円形及び楕円形，深さが９～23cmである。Ｐ１は主柱穴と思われるが，上部が削平されているためか，深さも浅く，径も小さいため，推定の域をでない。

炉　中央部からやや西寄りにあり，平面形は長径58cm，短径36cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめている。焼土粒子が散在しているところを炉の範囲としたが，赤色硬化面は検出できなかった。



第57図　第18号住居跡実測図

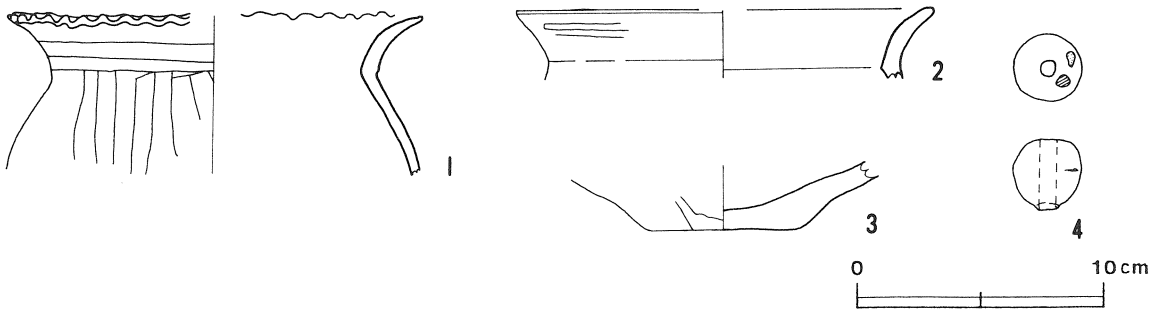
炉土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子極微量

覆土　2層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2　明褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器の甕片を主体に出土している。第58図１～３は甕で，１はＰ２西部の覆土中層，２は北東部の覆土上層，３はＰ２西部の覆土上層から出土している。４の球状土錘は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，平面形は不明であるが，出土遺物から４世紀後半と思われる。



第58図　第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	甕 土師器	A［16.6］ B（6.1）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石，石英，雲母 明黄褐色 普通	P122，15% PL20 P2西部覆土中層
2	甕 土師器	A［16.6］ B（2.8）	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石，石英，雲母 明赤褐色 普通	P123，5％ 北東部覆土上層
3	甕 土師器	B（2.6） C　6.2	底部片。平底。	底部外面剥離，内面ナデ。	長石小礫赤色粒子白色粒子 にぶい褐色 普通	P124，5％ P2西部覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
4	球状土錘	2.7	2.7	0.6	18.4	覆土中	DP136

第20号住居跡（第59図）

位置　調査区中央部，Ｂ３i7区。

重複関係　本跡は北西壁を第１号溝に，南壁部を第21号住居跡に掘り込まれており，本跡が最も古い。

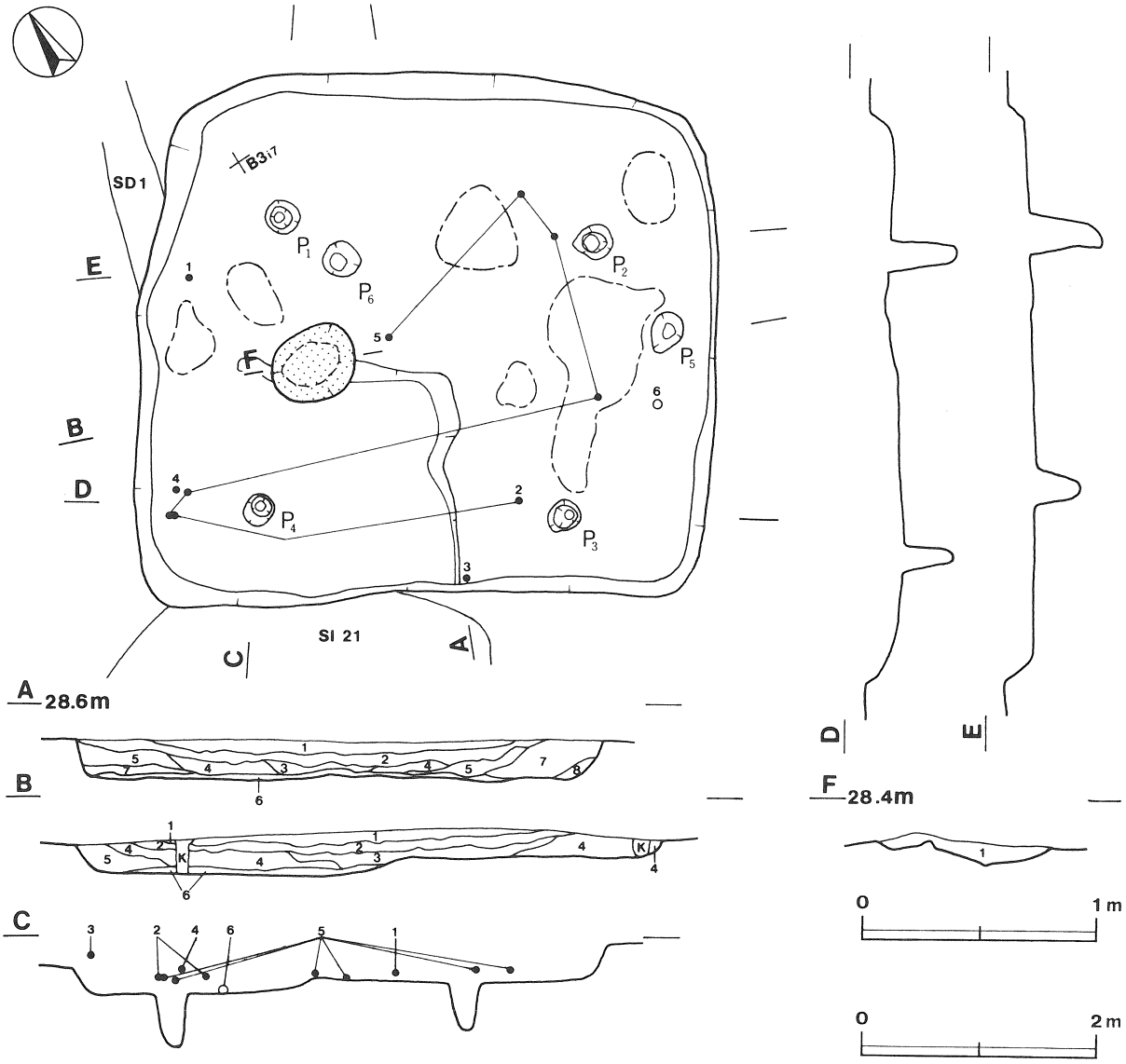
規模と平面形　長軸4.96m，短軸4.44mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－55°－Ｗ

壁　壁高は13～28cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で軟弱なローム土。出入口施設と炉の周囲に硬化面がある。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は長径26～34cm，短径26～31cmの円形及び楕円形，深さは22～65cmである。４か所を結んだ線は方形となり，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径37cm、短径27cmの楕円形，深さ20cmで，位置から出入口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６は主柱穴（Ｐ１）の補助柱穴と思われる。



第59図　第20号住居跡実測図

炉　中央部から西寄りにあり，長径[77]cm，短径[62]cmの楕円形で，床面を９cmほど掘りくぼめている。火床は火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中・小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック微量

覆土　８層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

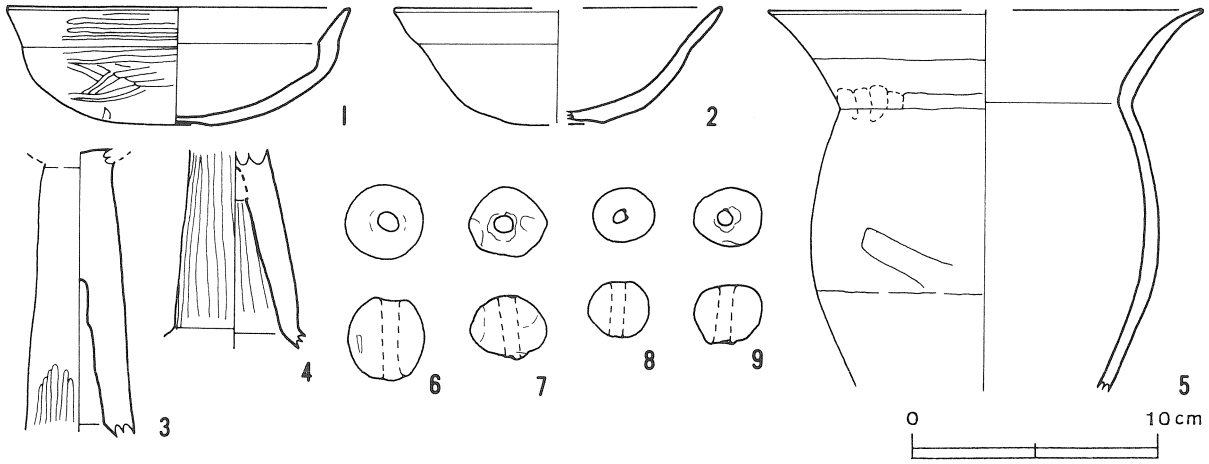
土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，炭化物・炭化粒子極微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量，炭化物極微量
5　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
6　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量，焼土小ブロック極微量
7　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子極微量
8　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極微量

遺物　北コーナー付近を除いた覆土上層から床面にかけて土師器を主体に出土している。第60図１・２は椀である。１は北西壁際の覆土下層，２は南西コーナー部の覆土下層から出土している。３・４は高坏である。３は南壁際の覆土上層，４は南西コーナー部の覆土中層から出土している。５は甕で，南西コーナー部の床面か

ら出土している。6～9は球状土錘で，6は南東壁中央部の床面，他は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から4世紀後半と考えられる。



第60図　第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	椀 土師器	A 13.8 B 4.7 C 2.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり,口縁部の間に稜をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内面横ナデ。体部・口縁部外面横位のヘラ磨き。体部内面ナデ。	長石，石英，雲母，白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P125，85%　PL21 北西壁際覆土下層
2	椀 土師器	A ［13.2］ B 4.6	底部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との間に弱い稜をもち，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩滅。	長石，雲母，小礫 明黄褐色 普通（二次焼成）	P126，30% 南西ｺｰﾅｰ部覆土下層
3	高坏 土師器	E （11.2）	脚部片。中空柱状。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石，石英 橙色 普通	P127，20% 南壁際覆土上層
4	高坏 土師器	E （ 7.4）	脚部片。中空柱状。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P128，20% 南西ｺｰﾅｰ部覆土中層
5	甕 土師器	A ［17.6］ B （15.1）	体部から口縁部片。体部は内彎ぎみに立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り。体部内面ナデ。	長石，石英，白色粒子 にぶい褐色 普通	P129，50% 南西ｺｰﾅｰ部床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
6	球状土錘	3.1	3.3	0.6	26.9	南東壁床面	DP53	PL32
7	球状土錘	3.1	2.6	0.6	15.0	覆土中	DP54	PL32
8	球状土錘	2.4	2.2	0.5	11.1	覆土中	DP55	PL32
9	球状土錘	2.7	2.3	0.6	12.5	覆土中	DP56	PL32

第29号住居跡（第61図）

位置　調査区中央部，B 3 c4区。

規模と平面形　長軸4.80m，短軸4.72mの方形である。

主軸方向　N－32°－E

壁　壁高は35～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，東部の出入り口施設付近はやや高い。出入口施設から炉にかけて硬化面がある。

ピット　7か所（Ｐ１～Ｐ７）。Ｐ１～Ｐ４は長径29～35cm，短径24～32cmの円形及び楕円形，深さ44～58cmである。4か所を結ぶ線は長方形となり，主柱穴と思われる。Ｐ５は長径98cm，短径85cmの楕円形，深さ35cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６・Ｐ７は壁際に位置していることから壁柱穴と思われる。

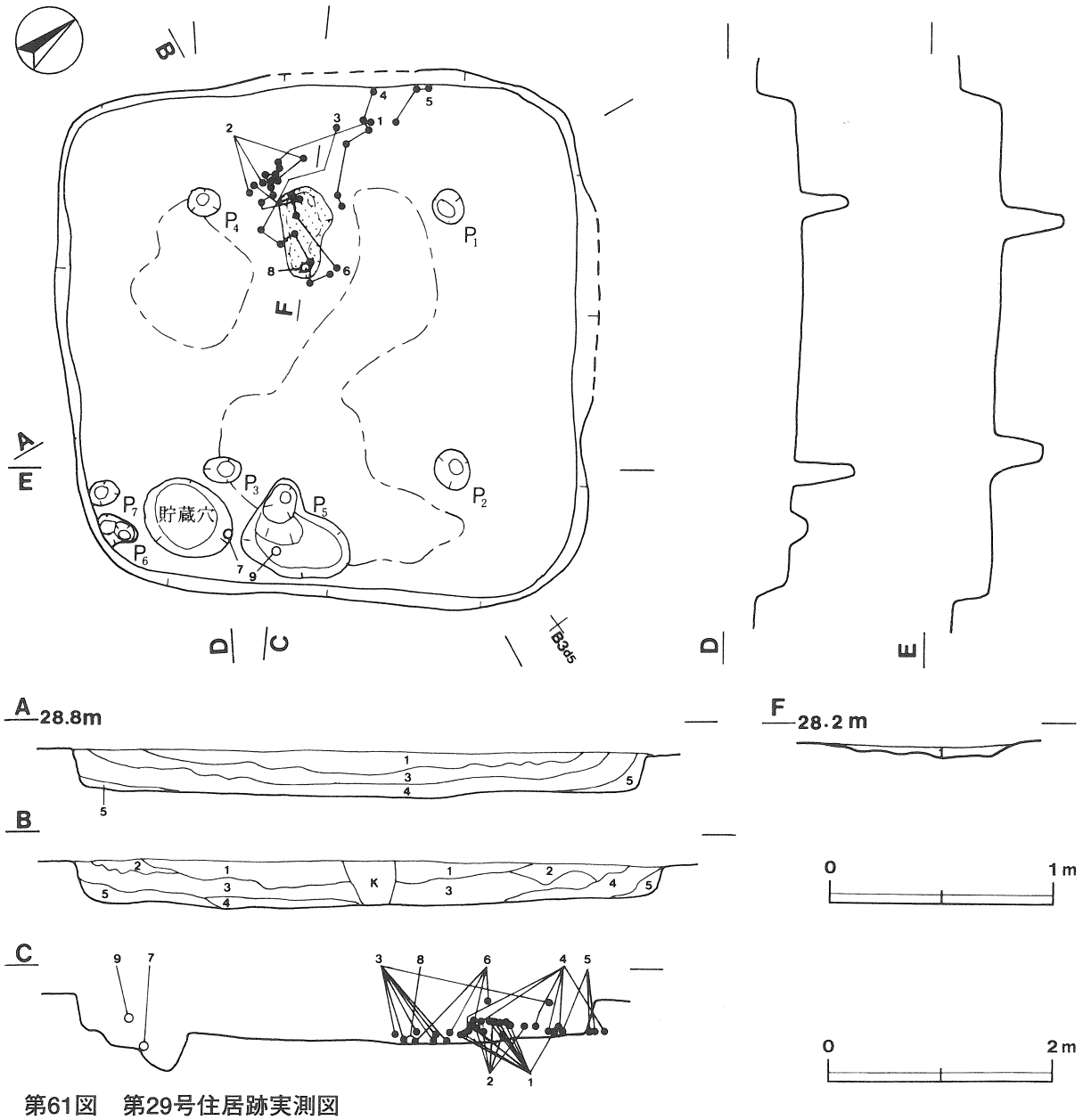
貯蔵穴　南コーナー部に付設されている。長径79cm，短径66cmの楕円形で，深さは17cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，断面形はU字状である。

炉　中央部から西寄りにあり，平面形は長径80cm，短径39cmの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子少量

覆土　5層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。



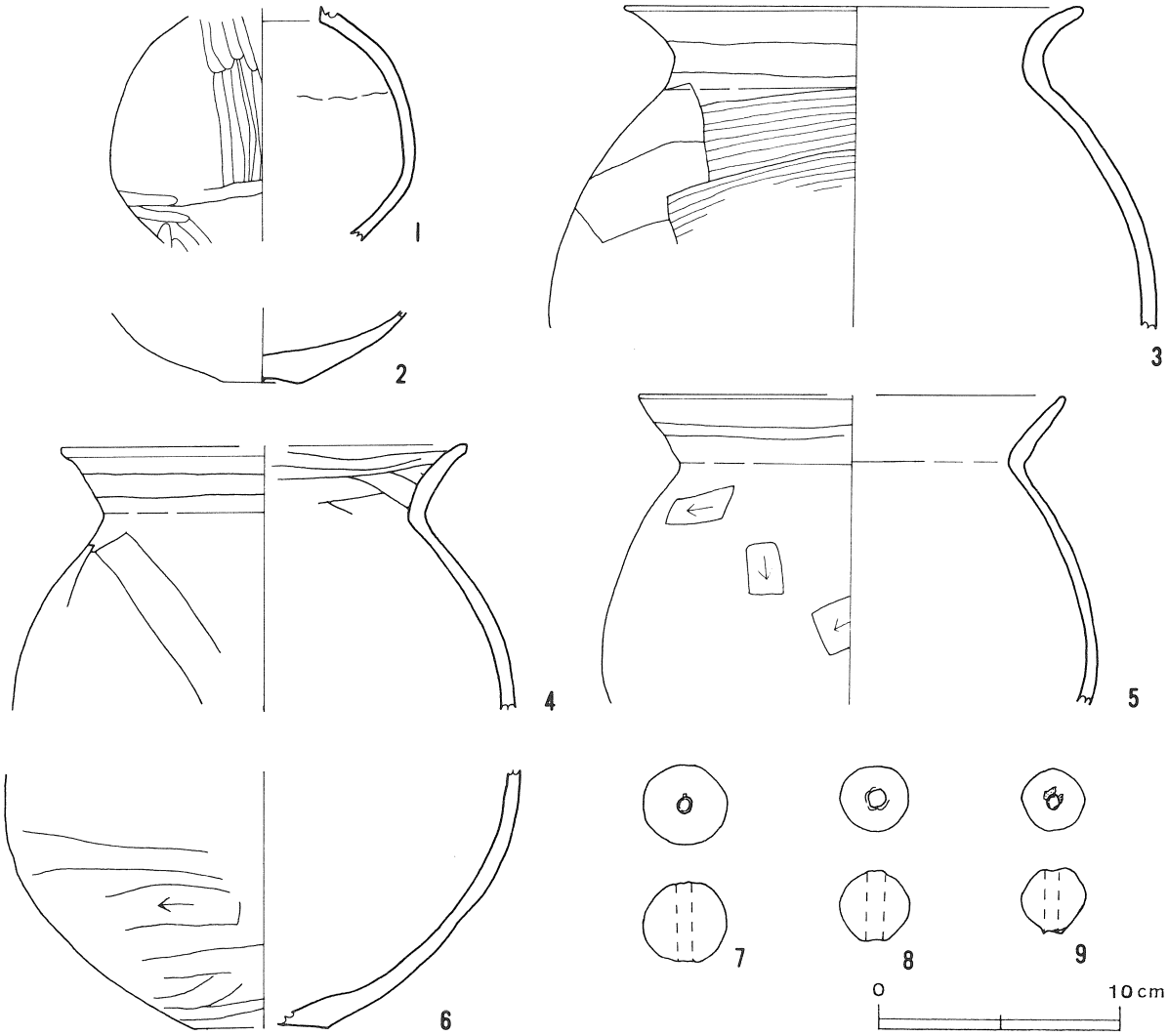
第61図　第29号住居跡実測図

土層解説

1 黒　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
2 黒 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
3 褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック・焼土粒子少量
4 暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
5 褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量

遺物　主に炉の周辺部の床面から土師器の甕片を主体に出土している。第62図１・２は坩で，炉の南部の覆土下層から出土している。３～６は甕で，炉の周囲の床面から出土している。７～９は球状土錘で，７はＰ5の南部，８は炉の南部の床面から出土している。９はＰ５付近の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から５世紀前半と考えられる。



第62図　第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第62図 1	坩 土師器	B　(　9.5)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面上位縦位ヘラ磨き，下位横位のヘラ磨き。内面輪積み痕。	長石,石英,雲母,白色粒子 褐色 普通	P130，40%　PL21 炉南部覆土下層
 2	坩 土師器	B　(　3.0) C　　3.2	底部から体部片。丸底で中央が凹む。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラナデ。	長石，石英，白色粒子 橙色 普通	P131，10% 炉南部覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第62図 3	甕 土師器	A　18.9 B　(13.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のハケ目調整。	長石，石英，雲母，小礫 橙色 普通	P132，30%　PL21 炉付近床面
4	甕 土師器	A　[16.6] B　(10.8)	体部から口縁部片。体部から内彎気味に立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り。	長石，石英，雲母 明赤褐色 普通	P133，20% 炉付近床面
5	甕 土師器	A　[17.4] B　(12.6)	体部から口縁部片。体部から内彎気味に立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位斜位のヘラ削り。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P134，20% 炉付近床面
6	甕 土師器	B　(5.0) C　[5.6]	底部から体部片。中央がやや凹む平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り。	長石，雲母 にぶい橙色 普通	P135，20% 炉付近床面

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
7	球状土錘	3.4	3.2	0.6	34.7	P5南部床面	DP58　PL32
8	球状土錘	2.8	2.9	0.7	21.2	炉南部床面	DP59　PL32
9	球状土錘	2.7	2.6	0.6	13.8	P5付近覆土中層	DP60　PL32

第32号住居跡（第63図）

位置　調査区中央部，Ｂ３c8区。

重複関係　本跡は南西コーナー部を第11号土坑，第１・４号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.93m，短軸4.12mの隅丸長方形である。

主軸方向　Ｎ－25°－Ｅ

壁　壁高は10～20cmで，床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

床　小さな凹凸があるがほぼ平坦で，軟弱なロームである。東壁の中央部に硬化面がみられる。

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１は径32cmの円形，深さ27cmで，規模や配置から主柱穴と思われる。Ｐ２は径48cmの円形，深さ40cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉　中央部からやや北西寄りに付設されていたと推定される。炉床面と思われる位置に焼土ブロックが少量検出されている。

覆土　５層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

土層解説

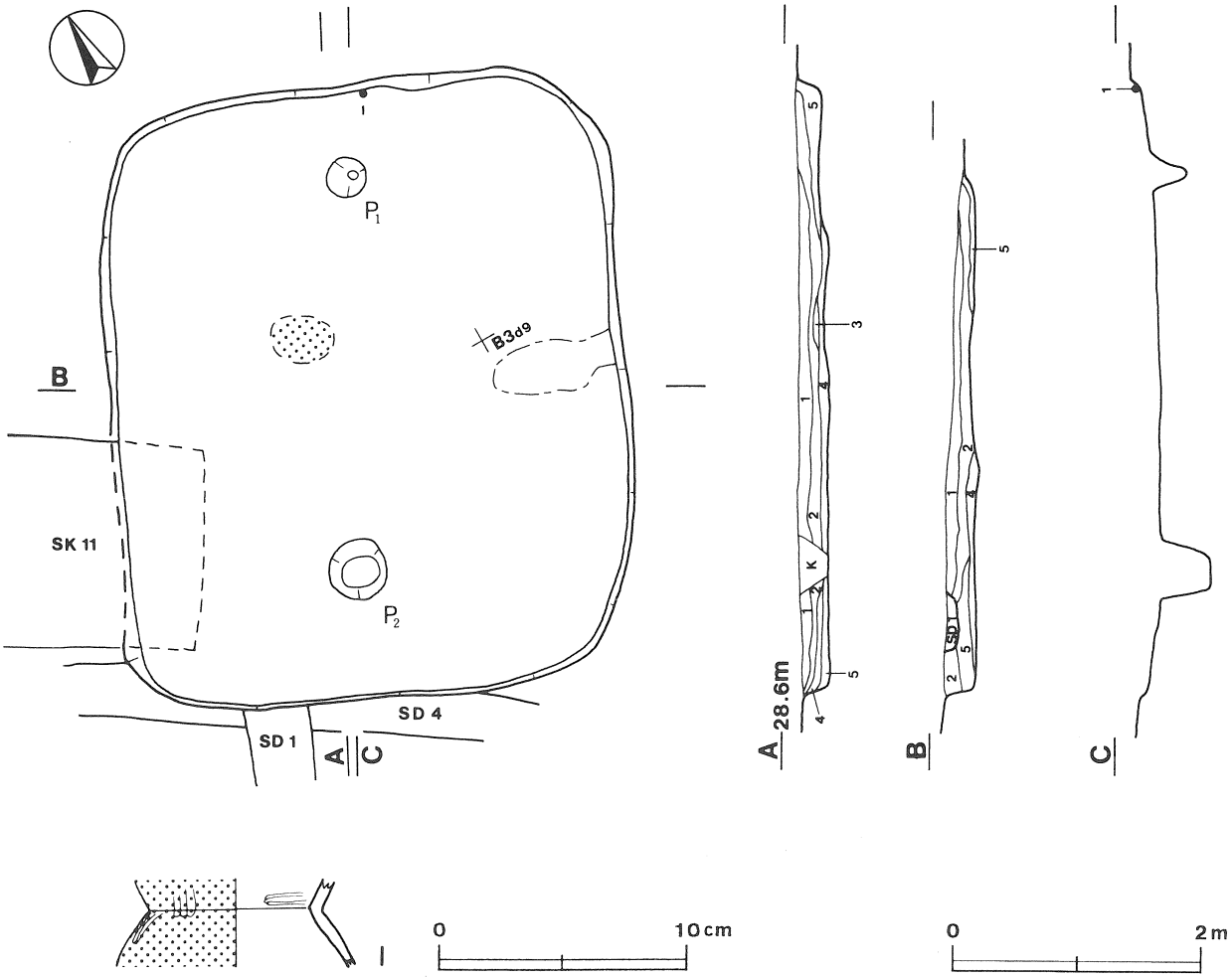
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量，ローム大ブロック極微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物極微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
5　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量，炭化粒子極微量

遺物　土師器片が少量出土している。第63図１の坩は北壁際の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から４世紀後半と考えられる。

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第63図 1	坩 土師器	B　(3.5)	体部から頸部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がる。	体部外面・頸部外面縦位，内面横位のヘラ磨き。外面赤彩。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P137，10% 北壁際床面



第63図　第32号住居跡・出土遺物実測図

第33号住居跡（第64図）

位置　調査区中央部，Ｂ４ｂ0区。

重複関係　本跡は，東壁を第６号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.14m，短軸4.92mの方形である。

主軸方向　Ｎ－47°－Ｗ

壁　壁高は27～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

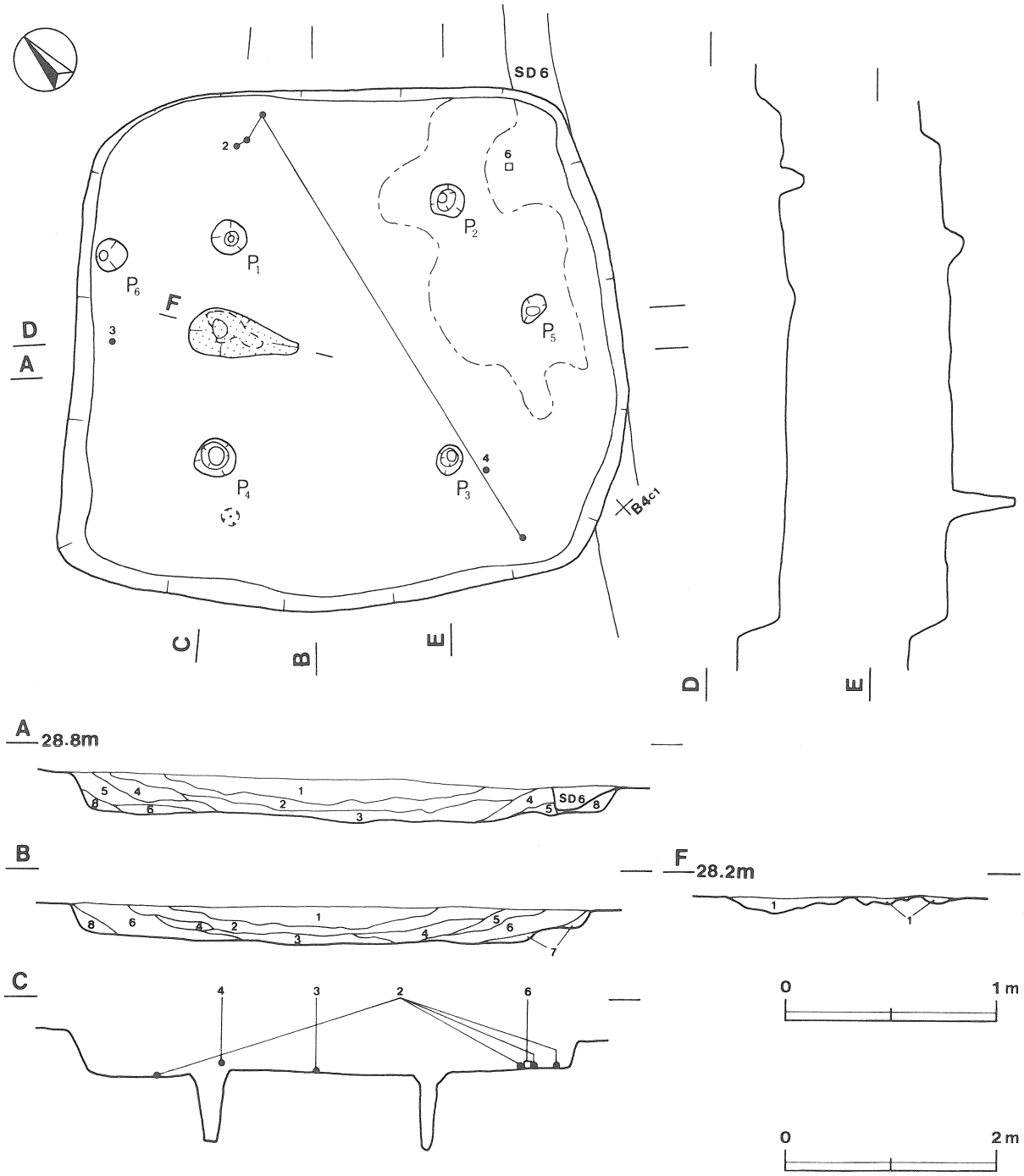
床　ほぼ平坦である。南東部及び出入口部の周囲が踏み固められている。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は長径26～40cm，短径24～37cmの円形，深さ19～73cmで，規模や配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径29cm，短径20cmの楕円形，深さ21cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６は径30cmの円形，深さ33cmで壁際に位置していることから壁柱穴と思われる。

炉　中央部から北西寄りにあり，長径106cm，短径40cmの不整楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

覆土　８層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

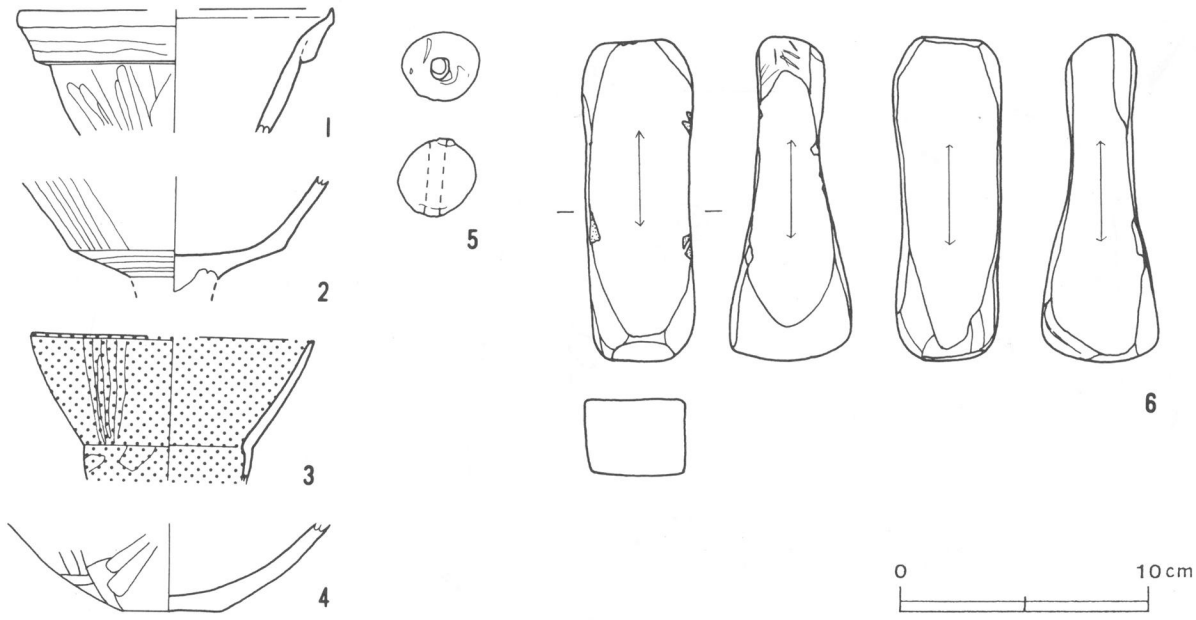


第64図　第33号住居跡実測図

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	
2	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子物微量	
3	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量	
4	褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量	
5	褐　色	ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量	
6	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量	
7	褐　色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子極微量	
8	明褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，炭化粒子極微量	

遺物　南西壁付近を中心に覆土上層から床面にかけて土師器を主体に出土している。第65図１の壺は南西部の覆土下層，２の高坏は北東壁付近の床面，３の坩は北西壁付近の床面，４の甕はＰ３付近の覆土下層からそれ



第65図　第33号住居跡出土遺物実測図

ぞれ出土している。5の球状土錘は覆土中から出土している。6の砥石は南東コーナー部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から5世紀前半と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表

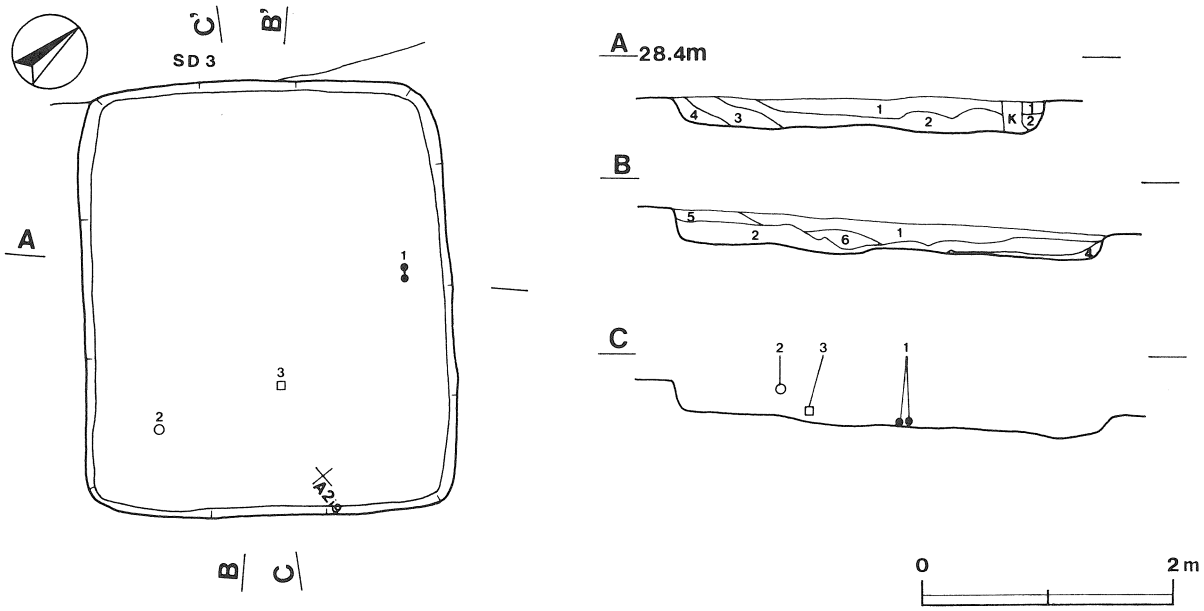
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 1	壺 土師器	A［12.5］ B（5.0）	頸部から口縁部片。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。複合口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のヘラ磨き。	長石，石英 にぶい橙色 普通	P140，5％ 南西部覆土下層
2	高坏 土師器	B（4.6）	坏部片。坏部は下半に稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部外面下位横位，中位縦位のヘラ磨き。内面ナデ。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい橙色 普通	P141，10％ PL21 北東壁際床面
3	坩 土師器	A［11.3］ B（5.6）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面縦位のヘラ磨き。体部外面斜位のハケ目調整。内・外面赤彩。	長石，石英，白色粒子 橙色 普通	P142，5％ 北西壁際床面
4	甕 土師器	B（3.5） C［4.0］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P143，5％ P3付近覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径（cm）	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	球状土錘	3.1	3.1	0.6	20.4	覆土中	DP61

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	砥石	12.8	4.4	4.9	395.9	凝灰岩	南東コーナー床面	Q20

第40号住居跡（第66図）

位置　調査区西部，A2h3区。



第66図　第40号住居跡実測図

重複関係　本跡は北西壁を第３号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.48m，短軸2.95mの長方形である。

主軸方向　N－52°－W

壁　壁高は26～43cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，軟弱なロームである。

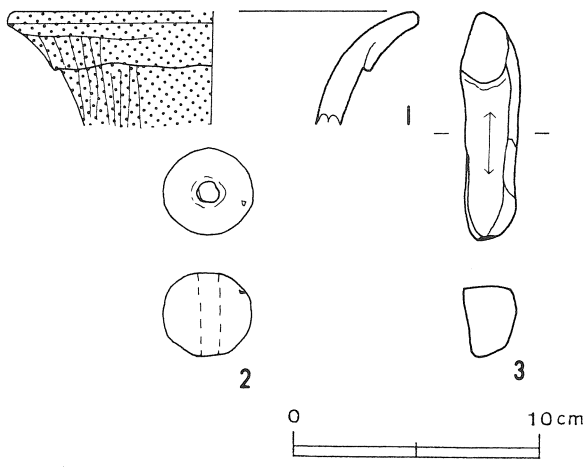
覆土　６層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子極微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・鹿沼粒子極微量
4　明 褐 色　ローム粒子多量，炭化粒子極微量
5　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子極微量
6　黒 褐 色　ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量

遺物　土師器の細片を主体に極少量出土している。第67図１の甕は，北東壁中央部の覆土下層から出土している。２は球状土錘で南コーナー部の覆土上層，３は砥石で中央よりやや東側の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から４世紀後半と考えられる。



第67図　第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第67図 1	甕 土 師 器	A　［16.4］ B　（　4.6）	頸部から口縁部片。頸部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。複合口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ハケ目調整後，縦位のヘラ磨き。外面赤彩。	長石，石英，雲母，小礫 にぶい黄橙色 普通	P144，５％ 北東壁際覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第67図2	球状土錘	3.5	3.3	0.8	35.1	南コーナー部覆土上層	DP63

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)			
3	砥石	9.2	2.4	2.9	94.6	砂岩	中央部覆土下層	Q21

第44号住居跡（第68図）

位置　調査区北部，A 3 e5区。

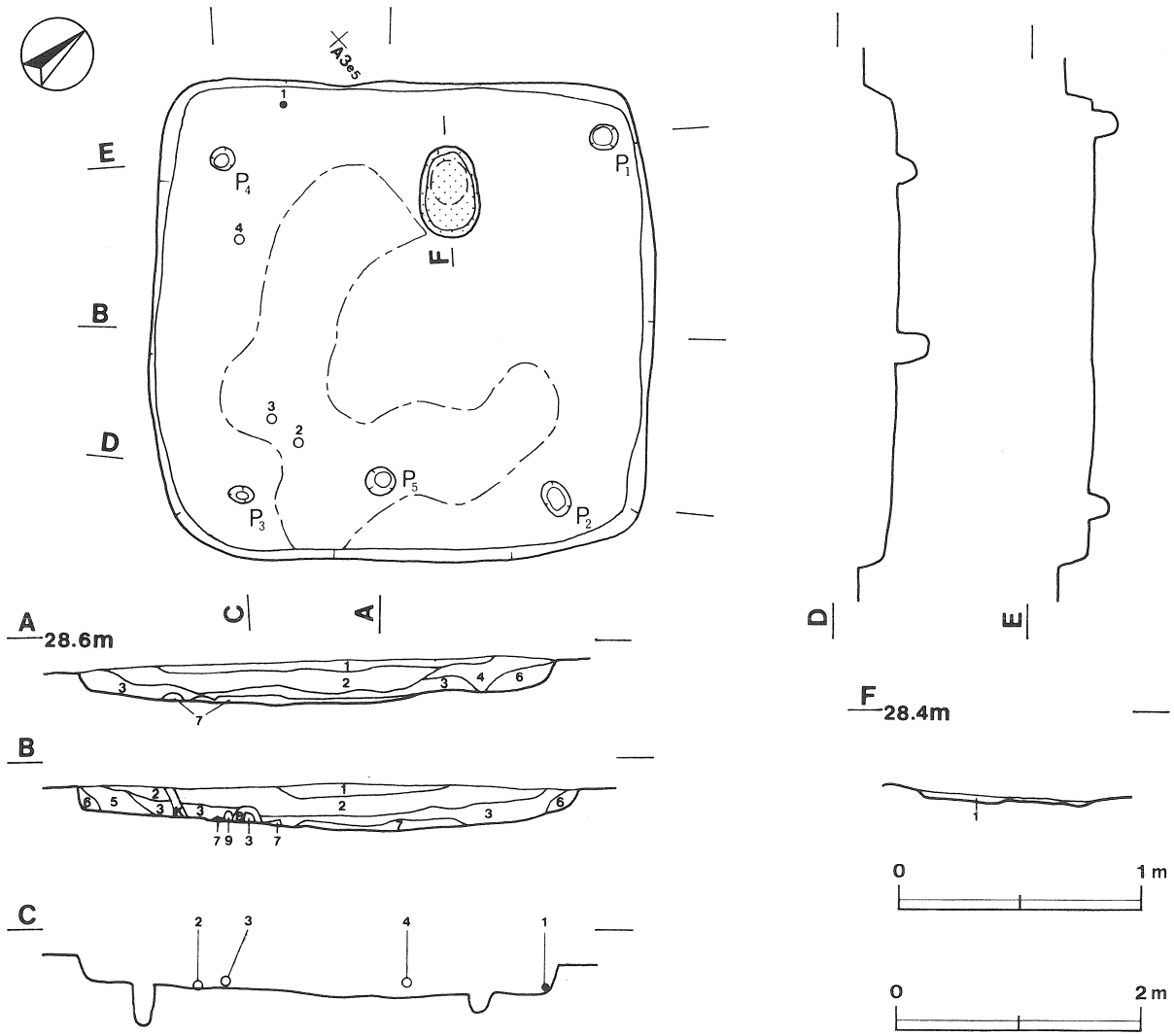
規模と平面形　長軸4.12m，短軸3.94mの方形である。

主軸方向　N－49°－W

壁　壁高は23～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉の南側から出入り口ピットにかけて踏み固められている。

ピット　5か所（P 1～P 5）。P 1～P 4は長径21～31cm，短径16～21cmの円形及び楕円形，深さ19～31cmで，規模や配置から主柱穴と思われる。P 5は径25cmの円形，深さ45cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思



第68図　第44号住居跡実測図

われる。

炉　中央部から北西寄りに位置し，長径75cm，短径49cmの楕円形で，床面を３cmほど掘りくぼめている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

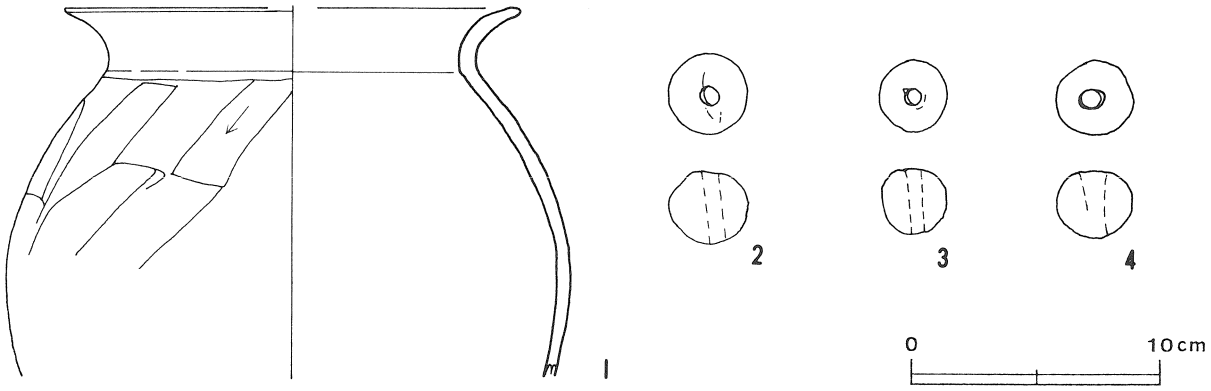
炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ローム中ブロック少量

覆土　９層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック極微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量，炭化物・炭化粒子極微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
5　明 褐 色　ローム粒子多量，炭化粒子極微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子極微量
7　褐　　色　ローム粒子極微量
8　明 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子極微量
9　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子極微量

遺物　北西壁・南東壁を中心に土師器の甕片を主体に出土している。第69図１の甕は西コーナー部の床面から出土している。２～４は球状土錘で，２・３はＰ３北側付近の床面と覆土下層，４はＰ４南東付近の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から５世紀前半と考えられる。



第69図　第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第69図 1	甕 土 師 器	A　［18.1］ B　（14.6）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は直立し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り。	長石，石英，白色粒子にぶい黄色 普通	P145，10%　PL21 西コーナー部床面

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
2	球 状 土 錘	3.3	2.8	0.6	26.0	P3北部床面	DP64
3	球 状 土 錘	2.7	2.6	0.6	17.8	P3北部覆土下層	DP65
4	球 状 土 錘	3.1	2.6	0.8	19.5	P4南東付近覆土中層	DP66

第48号住居跡（第70図）

位置　調査区中央部，Ａ３d9区。

規模と平面形　長軸5.07m，短軸4.86mの方形である。

主軸方向　Ｎ－30°－Ｅ

壁　壁高は30～47cmで，垂直に立ち上がる。

床　平坦なロームで，炉の周囲と出入り口ピットの周囲に踏み固められた面がある。

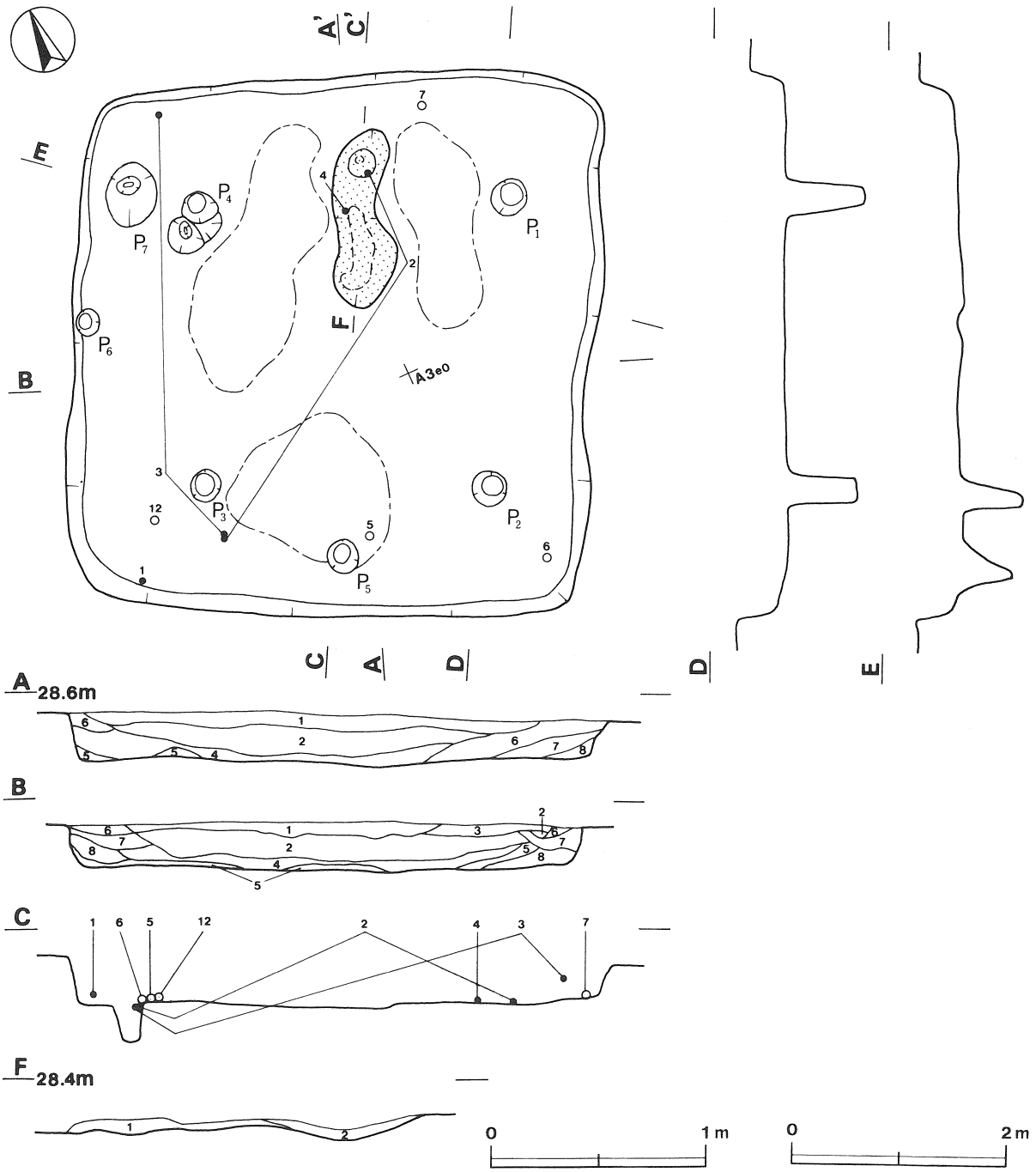
ピット　7か所（Ｐ１～Ｐ７）。Ｐ１～Ｐ４は長径32～62cm，短径27～34cmの円形及び楕円形，深さ60～74cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径32cm，短径28cmの楕円形，深さ30cmで，位置から出入口施設に伴うピット，Ｐ６は長径26cm，短径22cmの楕円形，深さ25cmで，位置から壁柱穴，Ｐ７は長径60cm，短径48cmの楕円形，深さ50cmで，Ｐ４の補助柱穴と思われる。

炉　中央部からやや北に位置し，長径167cm，短径40cmの不整楕円形で，床面を８cmほど掘りくぼめている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量

2　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量



第70図　第48号住居跡実測図

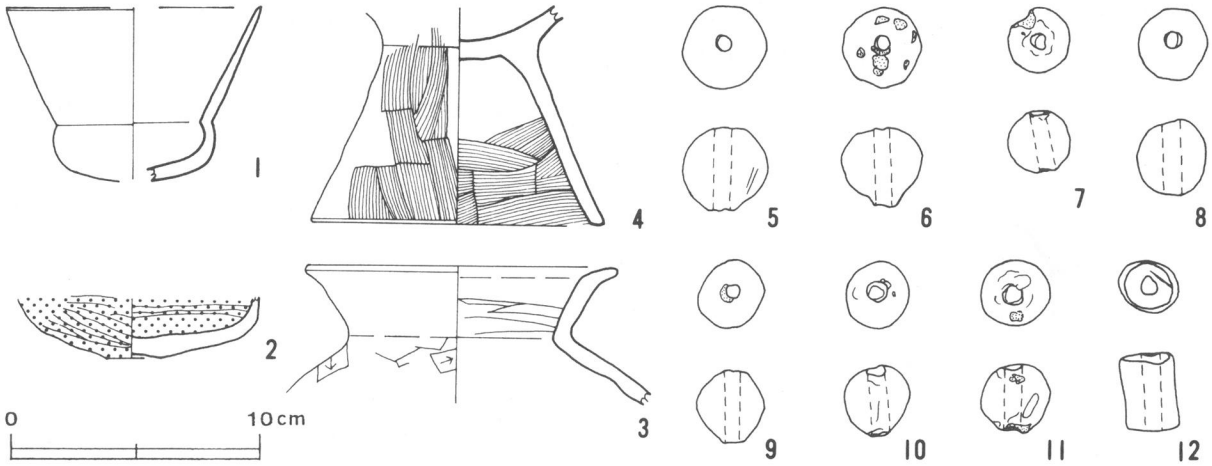
覆土　8層からなる人為堆積であると思われる。また，床面から炭化材及び焼土塊が検出されている。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量，ローム大ブロック・焼土小ブロック極微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量，ローム小ブロック・炭化粒子極微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物極微量
6　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子極微量
8　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量

遺物　土師器の甕片を主体に出土している。第71図１の坩は西コーナー部の覆土下層，２の坩はＰ３付近の床面，３の壺は北コーナー部の床面，４の台付甕は炉付近の床面から出土している。５～11は球状土錘である。５はＰ５付近の床面，６は南コーナー部の床面，７は北壁際の床面，８～11は覆土中から出土している。12の管状土錘はＰ３付近の床面から出土している。

所見　本跡は，床面から炭化材及び焼土塊が検出されていることから焼失家屋と思われる。時期は，遺構の形態や出土遺物から４世紀後半と考えられる。



第71図　第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 1	坩 土師器	A［10.2］ B 6.8	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外傾して立ち上がる。	内・外面摩滅により，調整痕不明。	長石，石英，白色粒子 浅黄橙色 普通	P155，30% 西ｺｰﾅｰ部覆土下層
2	坩 土師器	B（2.3） C 2.0	底部から体部片。底部は中央が凹む。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面横位のヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石，石英，雲母 赤褐色 普通	P156，30% P3付近床面
3	壺 土師器	A 12.3 B（5.1）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ，内面横位のヘラ磨き。体部外面斜位のヘラナデ。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P157，30% PL22 北ｺｰﾅｰ部床面
4	台付甕 土師器	B（8.6） D 11.6 E 6.9	台部片。台部はハの字状に開く。	台部外面縦位のハケ目調整，内面横位のハケ目調整。	長石，雲母，白色粒子 にぶい橙色 普通	P158，10% PL21 炉付近床面

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
5	球状土錘	3.4	3.3	0.7	35.2	P5付近床面	DP69
6	球状土錘	3.2	3.1	0.6	25.4	南コーナー部床面	DP70
7	球状土錘	2.8	3.0	0.7	19.8	北壁際床面	DP71
8	球状土錘	2.6	2.8	0.6	18.1	覆土中	DP72

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第71図9	球状土錘	2.5	2.8	0.7	13.9	覆土中	DP73
10	球状土錘	2.8	2.7	0.8	15.7	覆土中	DP74
11	球状土錘	2.4	2.4	0.6	13.6	覆土中	DP75
12	管状土錘	2.5	3.1	0.7	15.2	P3付近床面	DP78 PL31

第53号住居跡（第72図）

位置　調査区中央部，Ｂ４a3区。

重複関係　本跡の北部を第79号住居跡に掘り込まれている。

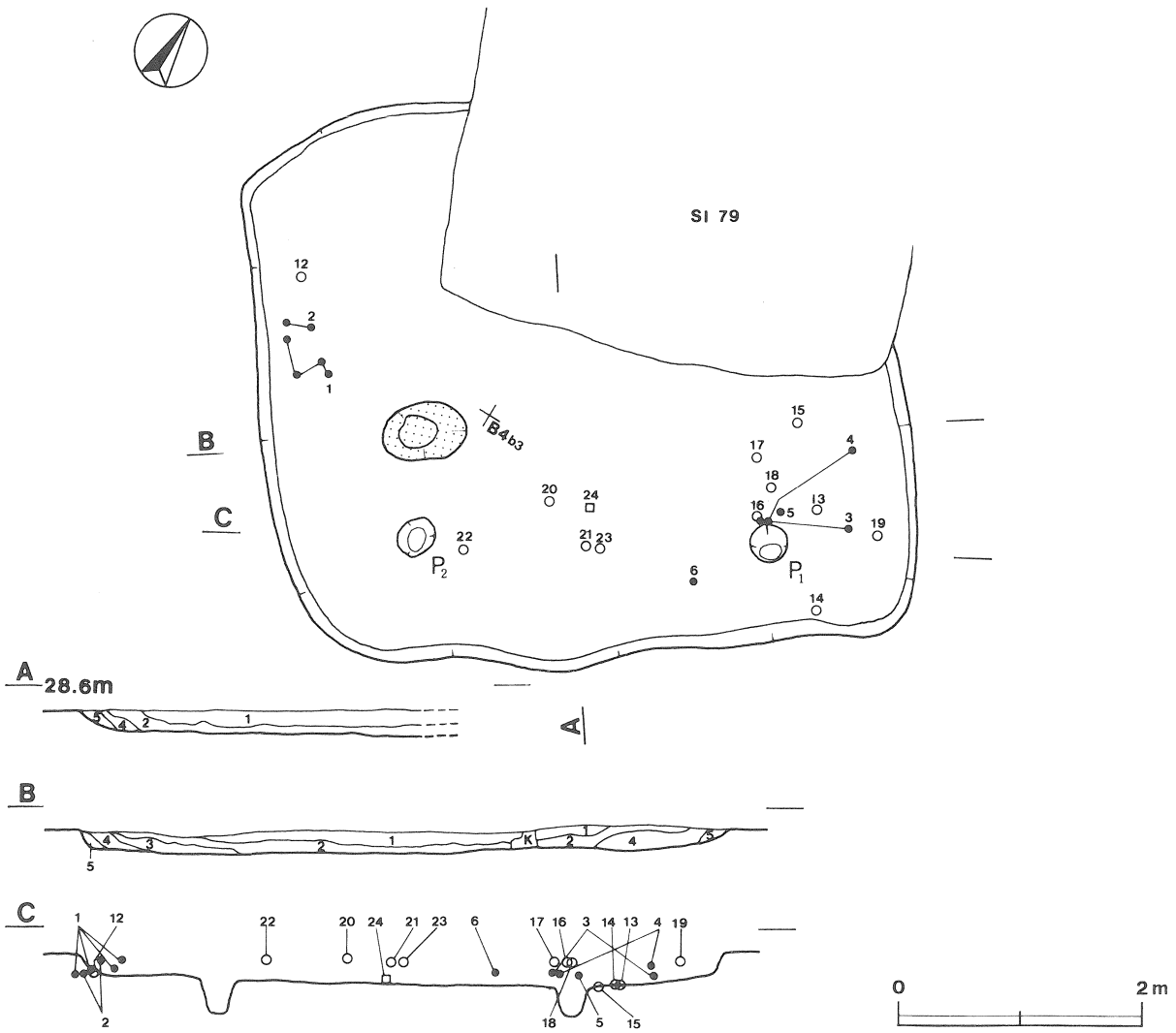
規模と平面形　長軸[5.33]m，短軸4.57mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－54°－Ｅ

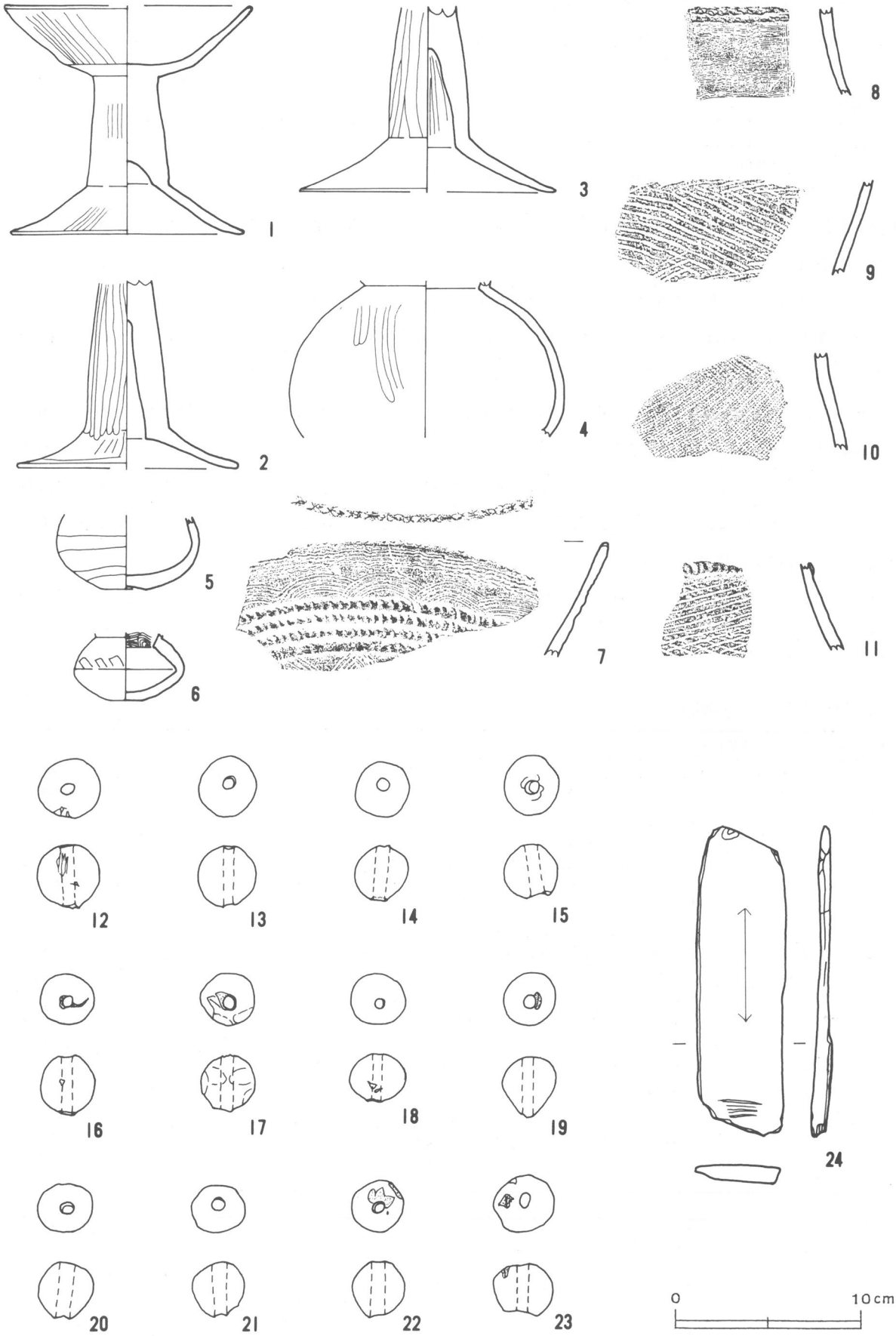
壁　壁高は17～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，小さな凹凸がある軟弱なローム土。

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１・Ｐ２は径31cmの円形で，深さが25～30cmである。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と思われる。



第72図　第53号住居跡実測図



第73図　第53号住居跡出土遺物実測・拓影図

炉　炉は木の根の撹乱により，範囲のみ確認された。

覆土　5層からなり，上層に黒褐色土，下層にローム・焼土を含む暗褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
3　暗褐色　ローム粒子微量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
5　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子極微量

遺物　北部は第79号住居跡に掘り込まれているため，南東部を中心に土師器片311点，弥生土器片30点，土製品14点，石製品1点が出土している。第73図1～3は高坏である。1は南西壁際の覆土下層，2は南西壁際の覆土下層，3は南東コーナーの覆土下層から出土している。4～6は坩である。4はP1北部の覆土下層，5はP1東部の覆土下層，6はP1付近の覆土中層から出土している。12～23は球状土錘である。12～15は南部の床面から，16～23は覆土中層から出土している。24は砥石で，中央からやや南部の床面から出土している。

7～11は弥生土器片の拓影図である。7は口縁部片で，口唇部には縄文原体による押圧が施され，外面には5本櫛歯状工具による波状文，逆連弧文，重山形文が施されている。逆連弧文と重山形文の間には4条の隆帯が巡り，軽い押圧がある。8は頸部片で，縦区画内に櫛歯状工具による波状文が施されている。9～11は胴部片で，9・11の外面には附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとっている。10は附加条一種（附加2条）の縄文が施されている。

所見　本跡から土師器片・球状土錘が多く出土している。時期は，規模・平面形及び出土遺物から5世紀前半と考えられる。

第53号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第73図 1	高坏 土師器	A［13.2］ B　12.2 D　12.4 E　8.4	裾部から坏部片。脚部は中実柱状。裾部は外下向に大きく開く。坏部は外傾して立ち上がり,下位に稜をもつ。	裾部，脚部，坏部外面縦位のヘラ磨き。	長石,石英,雲母,赤色粒子 明黄褐色 普通	P82，90%　PL21 南西壁際覆土下層
2	高坏 土師器	D［11.7］ E（10.0）	裾部から脚部片。脚部は中空柱状。裾部は外下方に大きく開く。	裾部，脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石,石英,雲母,赤色粒子 橙色 普通	P83，50%　PL20 南西壁際覆土下層
3	高坏 土師器	D［13.6］ E（9.8）	裾部から脚部片。脚部は中空柱状。裾部は外下方に大きく開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部内面ヘラナデ。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい橙色 普通	P84，30% 南東ｺｰﾅｰ部覆土下層
4	坩 土師器	B（8.3）	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き。	長石,石英,雲母,小礫,赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P85，30% P1北部覆土下層
5	坩 土師器	B（3.9） C　2.4	底部から体部片。底部は中央が凹む。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面横位のヘラ磨き。	長石，石英，赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P86，40% P1東部覆土下層
6	坩 土師器	B（3.5） C　1.8	底部から口縁部片。平底で，体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内面ハケ目調整。体部外面斜位のヘラナデ。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P87，40%　PL20 P1付近覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
12	球状土錘	3.3	3.3	0.7	30.0	南部床面	DP27
13	球状土錘	3.1	3.1	0.6	29.3	南部床面	DP28
14	球状土錘	2.9	3.0	0.6	21.6	南部床面	DP29

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第73図15	球状土錘	2.9	2.9	0.8	21.5	南部床面	DP30
16	球状土錘	2.9	3.1	0.6	21.7	覆土中層	DP31
17	球状土錘	2.9	3.1	0.6	20.4	覆土中層	DP32
18	球状土錘	3.0	2.6	0.5	26.2	覆土中層	DP33
19	球状土錘	2.9	3.2	0.6	18.9	覆土中層	DP34
20	球状土錘	2.9	2.9	0.7	19.9	覆土中層	DP35
21	球状土錘	2.8	2.8	0.7	17.6	覆土中層	DP36
22	球状土錘	2.8	2.9	0.6	18.4	覆土中層	DP37
23	球状土錘	3.2	2.7	0.6	22.0	覆土中層	DP38

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)			
24	砥石	16.3	4.8	1.0	97.0	粘板岩	南部床面	Q17

第54号住居跡（第74図）

位置　調査区北東部，Ｂ４a6区。

規模と平面形　長軸7.18m，短軸7.12mの方形である。

主軸方向　Ｎ－52°－Ｅ

壁　壁高は25～56cmで，垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，踏み固められている。

ピット　15か所（Ｐ１～Ｐ15）。Ｐ１～Ｐ４は長径35～47cm，短径34～44cmの円形及び楕円形，深さ51～69cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径60cm，短径54cmの楕円形，深さ48cmで，位置から出入り口施設に伴うピット，Ｐ11・Ｐ13～Ｐ15は長径21～47cm，短径19～39cmの円形及び楕円形，深さ24～29cmで，壁際に位置することから壁柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

炉　２か所。炉１は中央部から北西寄りにあり，長径106cm，短径89cmの不整楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめている。炉２は中央部から南西寄りにあり，長径103cm，短径63cmの楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめている。いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化している。

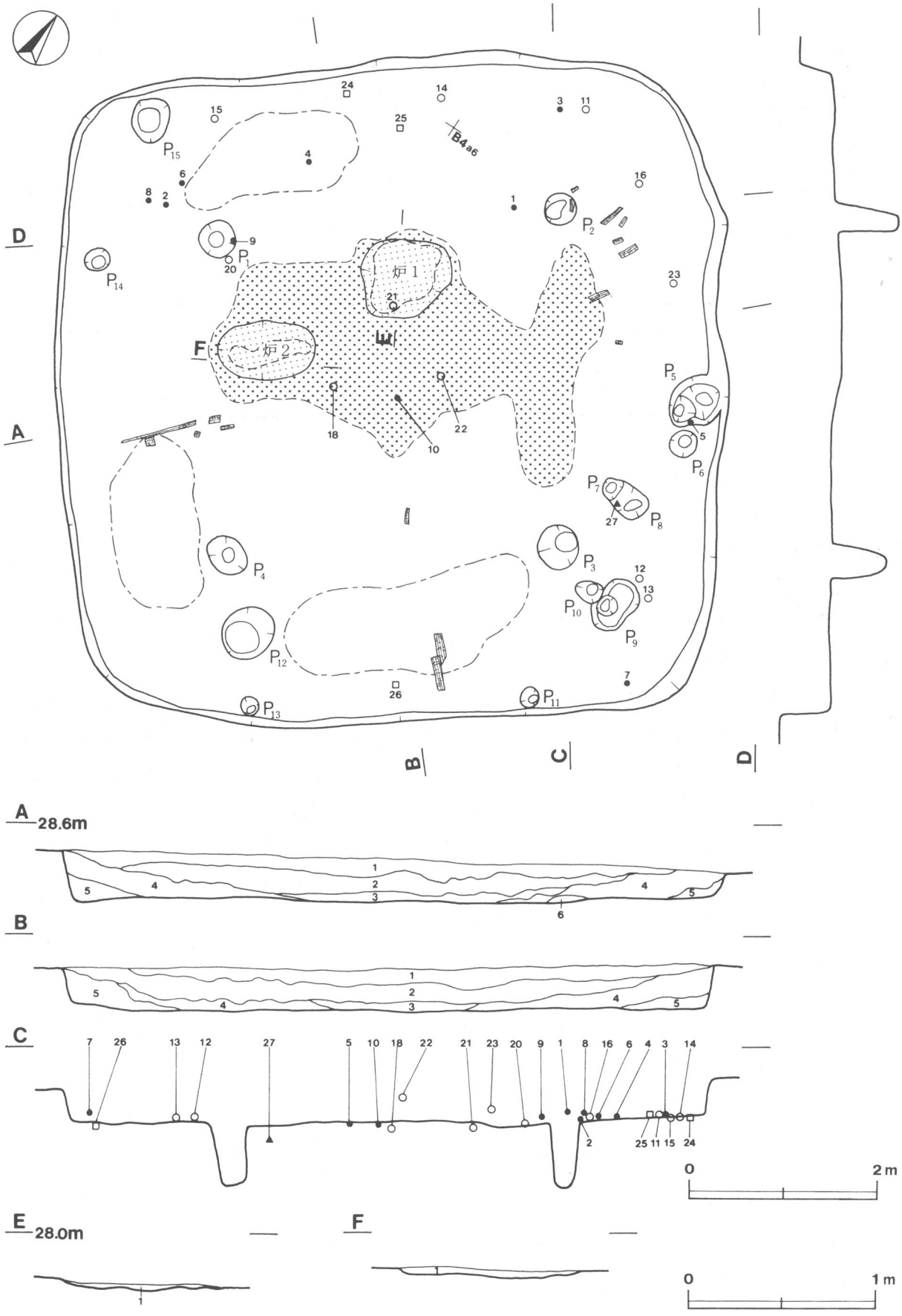
炉１土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量

炉２土層解説
1　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量

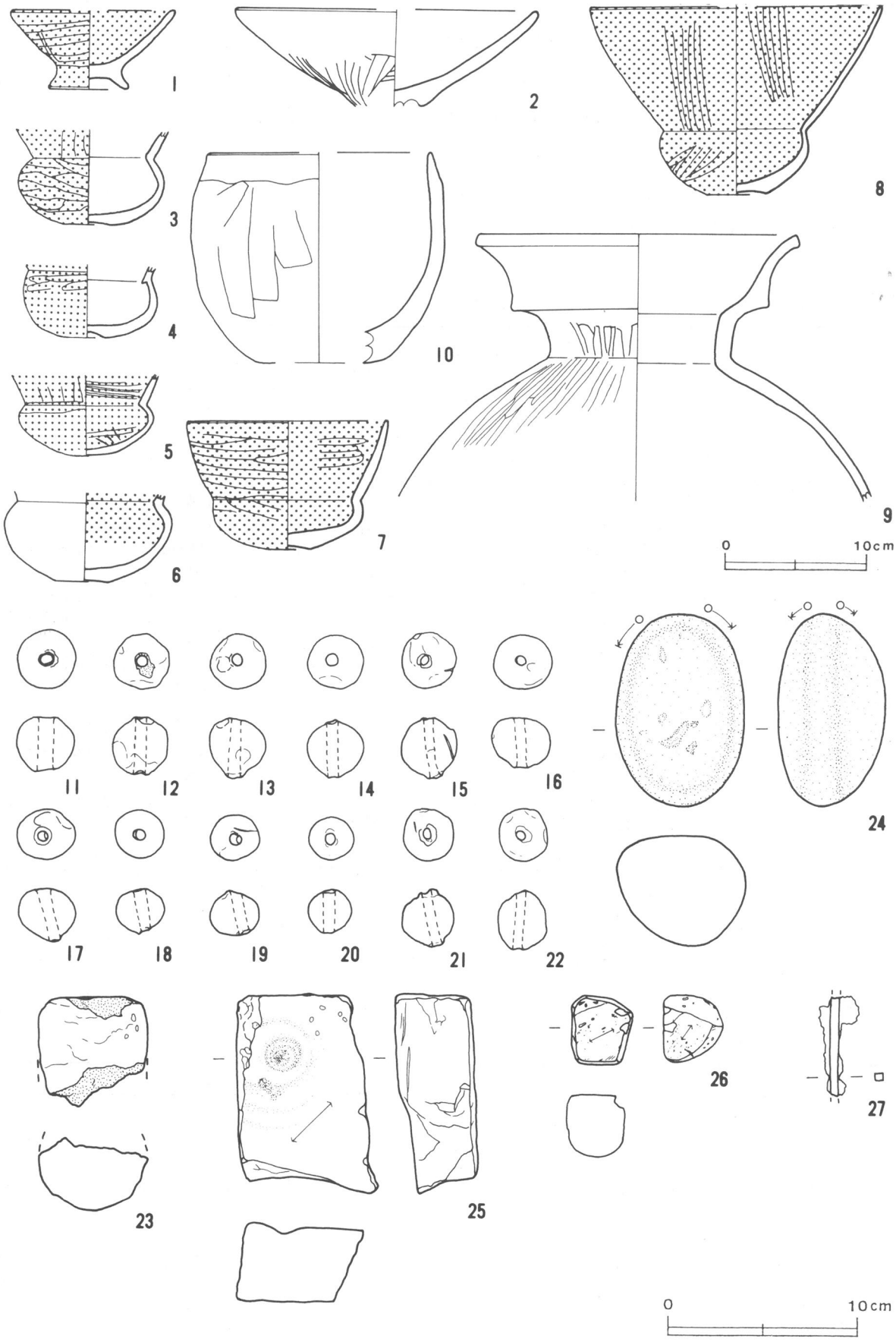
覆土　６層からなる人為堆積である。また，中央部と四方コーナー部の覆土下層から床面にかけて多量の炭化材と焼土塊が検出されている。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土微量，焼土小ブロック極微量
2　黒　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量，ローム中ブロック・炭化物極少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，焼土粒子・炭化物極微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

遺物　住居跡全体の覆土中層から床面にかけて，土師器片を主体に約400点出土している。第75図１の高台付椀は炉１の東側の覆土下層，２の高坏はＰ１の西側の覆土下層から出土している。３～８は坩で，３は北コーナー部の床面，４は炉１の北西部の床面，５はＰ５の南側の床面，６は西コーナー部の覆土下層，７は東コーナー部の覆土下層，８は西コーナー部の覆土下層から出土している。９の壺はＰ１付近の覆土下層，10の鉢は中



第74図　第54号住居跡実測図



第75図　第54号住居跡出土遺物 実測図

央部の床面から出土している。11～22は球状土錘である。11・16は北コーナー部の床面と覆土下層，12・13は東コーナー部の覆土下層，14は炉１北側の床面，15は西コーナー部の床面，18・21・22は中央部付近の覆土中層から床面，20はＰ１付近の床面，17・19は覆土中からそれぞれ出土している。23の支脚はＰ５付近の覆土中層から出土している。24の磨石・25の凹石は北西壁の中央付近，26の不明石製品は南東壁の，いずれも床面から出土している。27の不明鉄製品は，Ｐ８の覆土中から出土している。

所見　本跡は，覆土下層から床面にかけて多量の炭化材及び焼土塊が検出されていることから焼失家屋と思われる。時期は，出土遺物から４世紀前半と考えられる。

第54号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第75図 1	高台付椀 土師器	A［8.7］ B 4.2 D 4.1 E 1.0	高台部から口縁部片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ磨き後，縦位のヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石，石英，雲母 赤色 普通	P159，40% PL21 炉付近覆土下層
2	高坏 土師器	A［15.9］ B（5.2）	坏部片。体部は外傾しながら口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい橙色 普通	P160，50% PL22 P1西側覆土下層
3	坩 土師器	B（5.1） C 2.4	口縁部一部欠損。底部は中央が凹む。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部外面縦位のヘラ磨き。体部外面横位のヘラ磨き。外面赤彩。	長石，石英，白色粒子 明赤褐色 普通	P161，60% PL21 北ｺｰﾅｰ部床面
4	坩 土師器	B（3.8） C 1.7	口縁部欠損。底部は中央が凹む。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面横位のヘラ磨き。外面赤彩。	長石，石英 にぶい橙色 普通	P162，60% 炉1付近床面 内面剥離
5	坩 土師器	B（4.3）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部外面縦位のヘラ磨き。口縁部内面ハケ目調整。体部外面横位のヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石，石英，雲母 赤色 普通	P163，30% P5付近床面
6	坩 土師器	B（4.6） C 3.0	底部から体部片。底部は中央が凹む。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面摩滅により，調整痕不明。体部内面赤彩。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P164，50% 西ｺｰﾅｰ部覆土下層
7	坩 土師器	A 10.7 B 6.8 C 2.1	口縁部一部欠損。底部は中央が凹む。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部，体部外面横位のヘラ磨き。口縁部内面横位のヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石，石英，雲母 赤褐色 普通	P165，80% PL22 東ｺｰﾅｰ部覆土下層
8	坩 土師器	A［15.4］ B 9.9 C 3.2	口縁部一部欠損。底部は中央が凹む。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面縦位のヘラ磨き。体部外面横位のヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石,石英,雲母,白色粒子 明赤褐色 普通	P166，90% PL22 西ｺｰﾅｰ部覆土下層
9	壺 土師器	A 22.4 B（18.7）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は直立する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部，頸部外面縦位のヘラ磨き。	長石,石英,雲母,白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P167，20% PL22 P1付近覆土下層
10	鉢 土師器	A［11.8］ B 11.0 C［6.6］	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラナデ。	長石，石英，雲母，小礫 にぶい褐色 普通	P168，80% PL22 中央部床面

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
11	球状土錘	3.1	2.8	0.8	26.0	北コーナー部床面	DP79 PL32
12	球状土錘	2.9	3.0	0.6	20.8	東コーナー部覆土下層	DP80 PL32
13	球状土錘	2.9	3.1	0.7	22.1	東コーナー覆土下層	DP81 PL32
14	球状土錘	2.9	3.0	0.6	21.9	炉1付近床面	DP82 PL32
15	球状土錘	2.9	3.1	0.4	21.6	西コーナー部床面	DP83 PL32
16	球状土錘	3.1	2.5	0.5	19.1	北コーナー部覆土下層	DP84 PL32
17	球状土錘	2.7	3.0	0.5	17.6	覆土中	DP85 PL32
18	球状土錘	3.0	2.8	0.6	19.1	中央部床面	DP86 PL32

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第75図19	球状土錘	2.6	3.1	0.5	17.2	覆土中	DP87	PL32
20	球状土錘	2.6	2.3	0.6	13.2	P1付近床面	DP88	PL32
21	球状土錘	2.6	2.4	0.6	13.1	中央部床面	DP89	PL32
22	球状土錘	2.3	2.3	0.6	11.1	中央部覆土中層	DP90	PL32

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	径 (cm)	重量(g)		
23	土製支脚	(5.7)	5.8	(92.2)	P5付近覆土中層	DP91

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)				
24	磨石	10.1	6.9	5.7	529.6	安山岩	北西壁床面	Q30	PL33
25	凹石	10.5	7.5	4.5	472.0	砂岩	北西壁床面	Q31	PL33
26	不明石製品	3.6	3.2	3.1	7.2	軽石	南東壁床面	Q32	

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
27	不明鉄製品	(5.2)	0.4	0.4	(8.7)	P8の覆土中	M1

第55号住居跡（第76図）

位置　調査区北東部，A4h0区。

規模と平面形　長軸5.02m，短軸4.32mの長方形である。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は15～46cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，炉を中心に踏み固められている。

ピット　7か所（P1～P7）。P1～P4は長径23～38cm，短径20～30cmの円形及び楕円形，深さ36～89cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P5は長径45cm，短径33cmの楕円形，深さ86cmで，位置から出入り口施設に伴うピット，P6・P7は位置からP1・P5の補助柱穴と思われる。

炉　2か所。炉1は中央部からやや東寄りにあり，平面形は長径88cm，短径56cmの楕円形で，床面を9cmほど掘りくぼめている。炉2は中央部からやや北寄りにあり，平面形は長径160cm，短径76cmの楕円形で,床面を5cmほど掘りくぼめている。炉床は，いずれも中央部が特に火熱を受け赤変硬化し，長期間使用したと思われる。

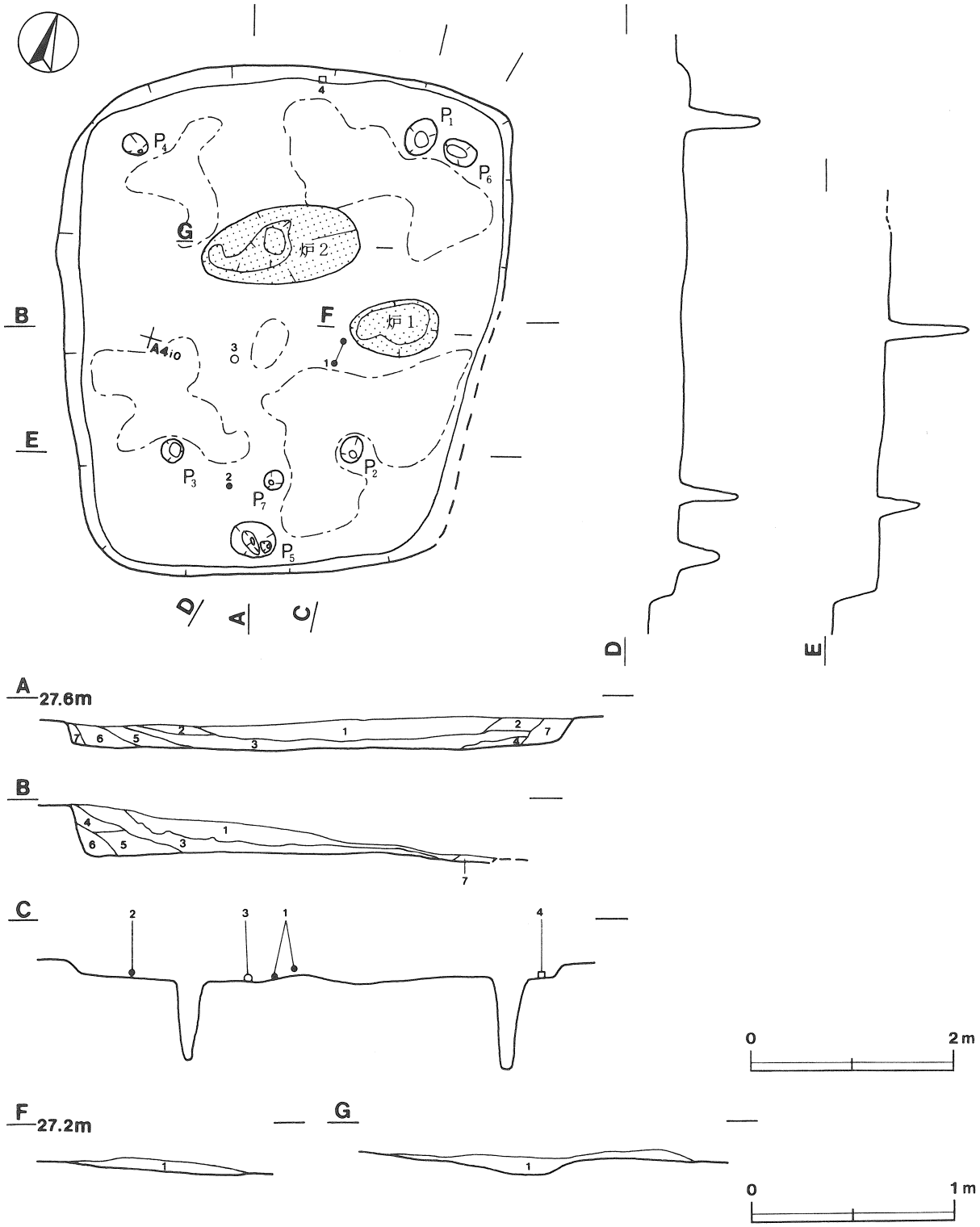
炉1土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量

炉2土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量，焼土中ブロック極微量

覆土　7層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

土層解説
1　黒　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック少量，炭化粒子極微量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量・焼土粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量

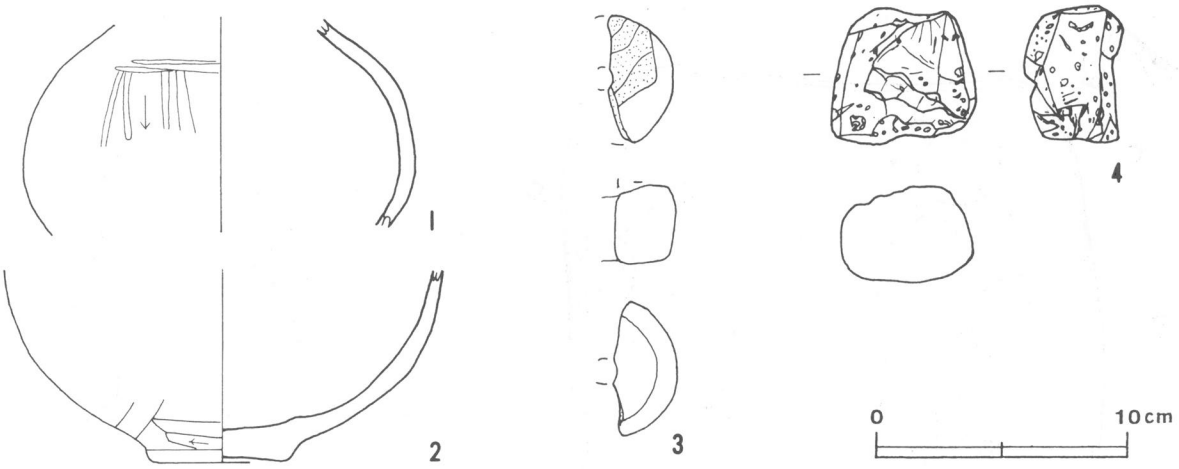
遺物　主に，中央部と南部の覆土中層から下層にかけて土師器片を主体に出土している。第77図1の坩は中央部からやや東側の床面，2の甕はP3東側の覆土下層，3の土製紡錘車は中央部からやや西側の床面，4の不



第76図　第55号住居跡実測図

明石製品は北壁の中央部付近の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から4世紀後半と考えられる。



第77図　第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第77図 1	坩 土師器	B　(8.2)	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面上位横位，中位縦位のヘラ磨き。	長石，雲母 にぶい橙色 普通	P169，40% 中央部床面
2	甕 土師器	B　(7.6) C　5.8	底部から体部片。平底で中央がやや凹み，突出する。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り。	長石，石英，赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P170，10%　PL22 P3付近覆土下層

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
3	土製紡錘車	(　5.2)	3.1	0.8	(　41.1)	中央部床面	DP92

図版番号	種　　別	計　　測　　値				石　　質	出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	不明石製品	5.3	5.8	4.0	19.4	軽石	北壁付近床面	Q33

第60号住居跡（第78図）

位置　調査区東部，B 4 d8区。

規模と平面形　長軸4.25m，短軸4.11mの方形である。

主軸方向　N－49°－E

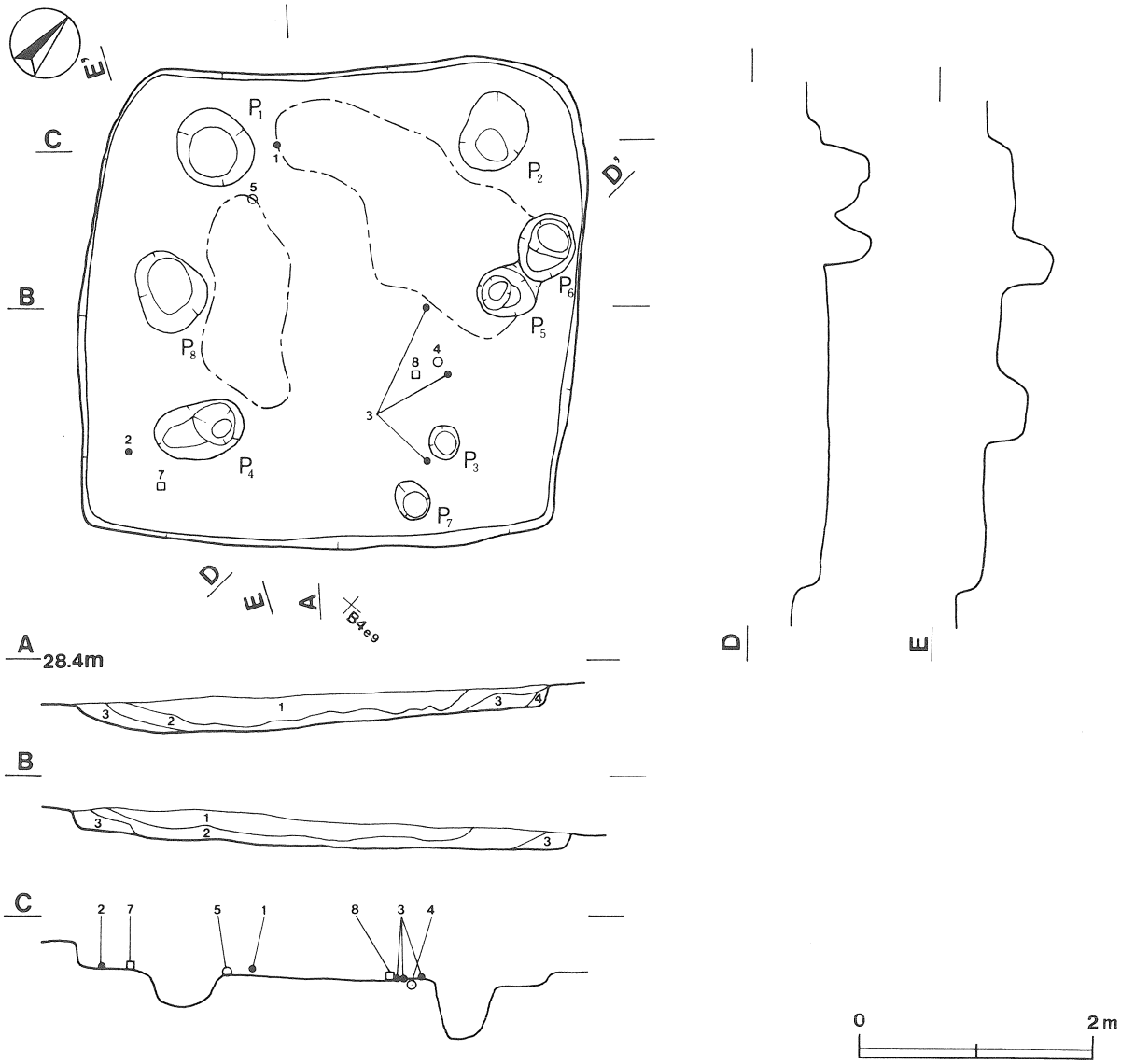
壁　壁高は13～23cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，北部と西部付近がよく踏み固められている。

ピット　8か所（P 1～P 8）。P 1～P 4は長径29～76cm，短径24～61cmの楕円形，深さ12～56cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P 5は長径56cm，短径41cmの楕円形，深さ38cmで，位置からの出入り口施設に伴うピット，P 6～P 8は位置から補助柱穴と思われる。

覆土　4層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。西コーナー部と東コーナー部付近の覆土下層から焼土塊が検出されている。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック炭化粒子微量，焼土粒子極微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子極微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極微量



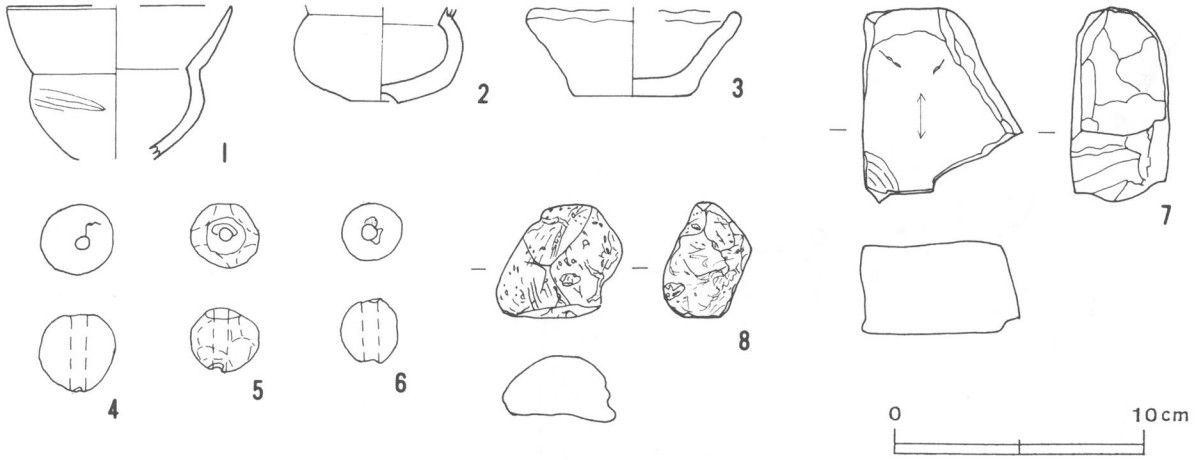
第78図　第60号住居跡実測図

遺物　東コーナー部の覆土中層から下層にかけて，土師器の甕片を主体に出土している。第79図１の坩はＰ１北側の覆土下層，２の坩は南コーナー部の床面，３の手捏土器はP3付近の床面から出土している。４～６は球状土錘で，４はＰ３の北西部，５はＰ１の南東部でいずれも床面から，６は覆土中から出土している。７の砥石は南コーナー部，８の不明石製品はＰ３の西側の，いずれも床面から出土している。

所見　東コーナー部から検出された焼土塊は，炉跡の可能性も考えられる。本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から４世紀後半と考えられる。

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第79図 1	坩 土師器	A　〔 9.0〕 B　（ 6.1）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	体部外面横位のヘラ磨き。	長石，石英，雲母 黄橙色 普通	P171，10% P1付近覆土下層



第79図　第60号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第79図 2	坩 土師器	B　(3.7) C　1.6	口縁部欠損。底部は中央が凹む。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面摩滅により，調整痕不明。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P172，90%　PL21 南ｺｰﾅｰ部床面
3	手捏土器 土師器	A　[8.0] B　3.5 C　[4.4]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面ナデ。口縁部内面輪積み痕。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	P173，80%　PL21 P3付近床面

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
4	球状土錘	3.0	3.1	0.6	(23.0)	P3付近床面	DP93　PL32
5	球状土錘	2.8	2.5	0.6	13.8	P1付近床面	DP94　PL32
6	球状土錘	2.9	2.5	0.8	12.2	覆土中	DP95　PL32

図版番号	種　　別	計　　測　　値				石　　質	出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
7	砥　　石	7.8	6.4	4.0	243.3	砂岩	南コーナー部床面	Q34
8	不明石製品	4.6	5.1	3.5	10.2	軽石	P3付近床面	Q35

第71号住居跡（第80図）

位置　調査区東部，C4c8区。

規模と平面形　長軸5.20m，短軸4.76mの隅丸方形である。

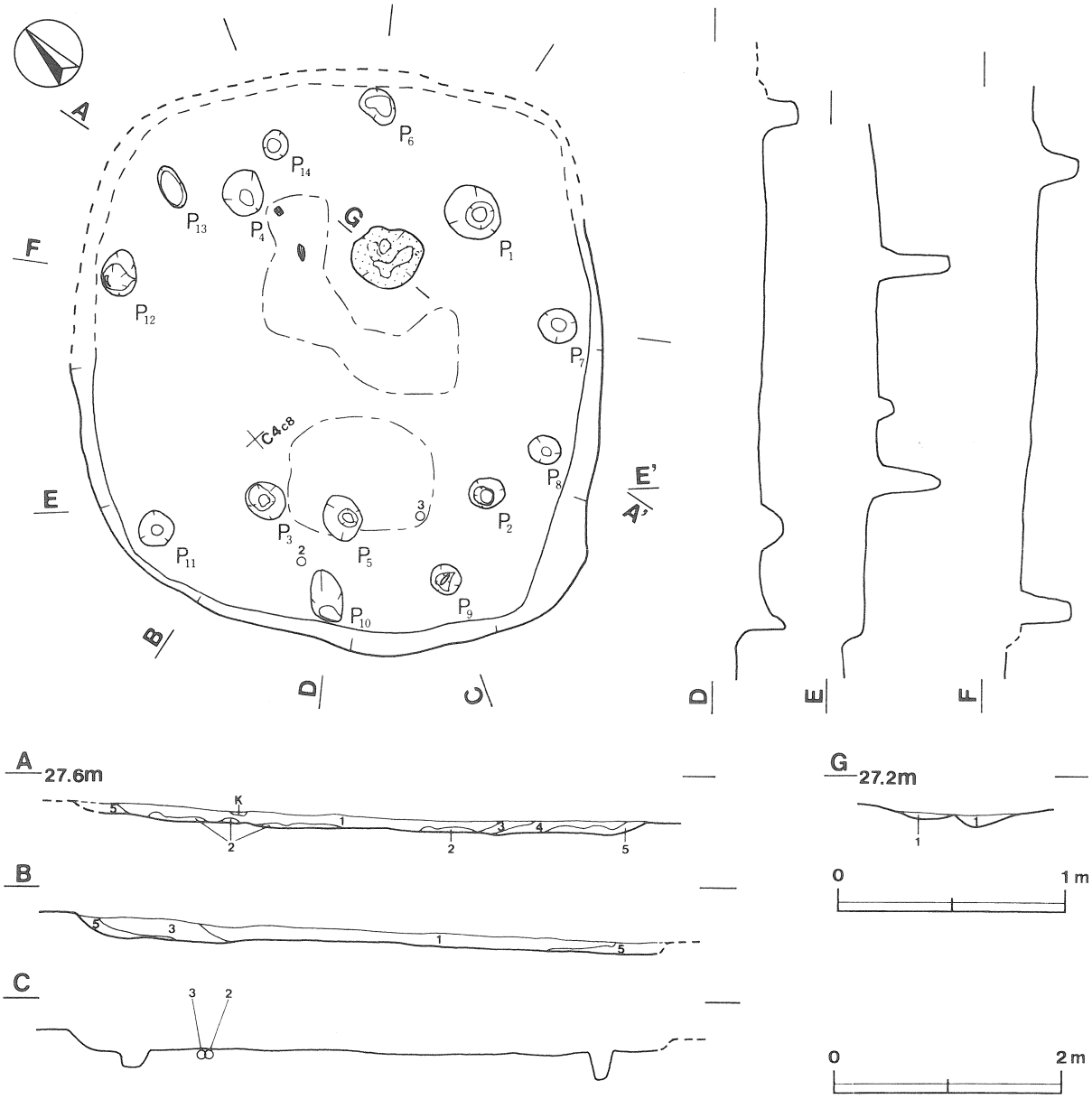
主軸方向　N－35°－E

壁　壁高は13～15cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，炉の周囲と出入口ピット付近に踏み固められた面がある。

ピット　14か所（P1～P14）。P1～P4は長径32～56cm，短径28～46cmの円形及び楕円形，深さ24～36cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P5は長径39cm，短径32cmの楕円形，深さ20cmで，位置から出入り口施設に伴うピット，P6～P14は長径30～42cm，短径20～31cmの円形及び楕円形，深さ17～48cmで，壁際に配置されていることから壁柱穴と思われる。

炉　中央部から北東寄りにあり，平面形は長径65cm，短径53cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。



第80図　第71号住居跡実測図

炉土層解説

1　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量

覆土　5層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　明褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子・炭化材・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　炭化物・炭化粒子中量，焼土粒子・炭化材少量，焼土小ブロック微量
5　明褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子極微量

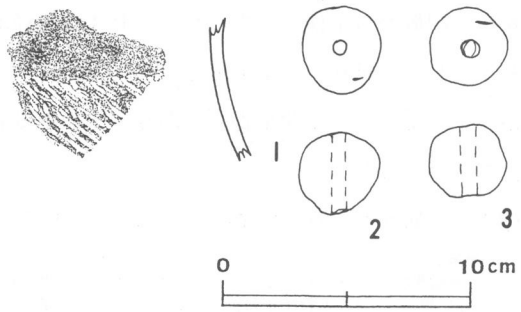
第71号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
2	球状土錘	3.2	3.2	0.6	34.3	P5付近床面	DP98
3	球状土錘	3.2	2.9	0.7	26.0	P5付近床面	DP99

遺物　出土遺物は少なく，球状土錘２点と覆土上層から出土した弥生土器１片のみである。第81図２・３の球状土錘はＰ５周囲の床面から出土している。

１は弥生土器片の拓影図である。広口壺の頸部片で，無文の下位には附加条一種（附加２条）が施されている。

所見　本跡の時期は，遺物が少ないため詳細な時期は不明であるが，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第81図　第71号住居跡出土遺物実測・拓影図

第73号住居跡（第82図）

位置　調査区東部，Ｂ４ｄ0区。

重複関係　本跡は南部を第61・78号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

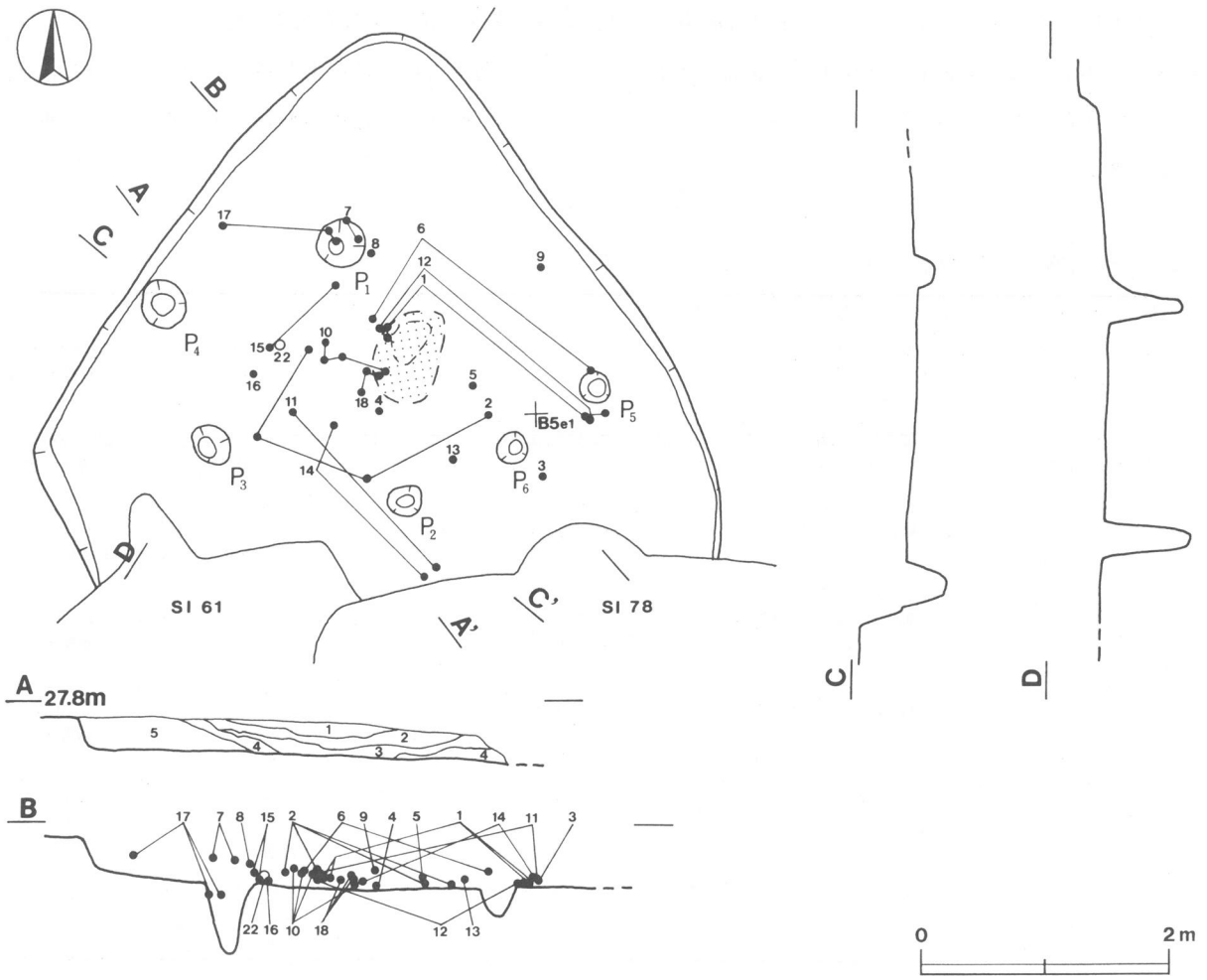
規模と平面形　長軸[5.00] m，短軸4.50mの長方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－43°－Ｗ

壁　壁高は20～45cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，軟らかいロームである。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１・Ｐ３は長径35～40cm，短径30～39cmの円形及び楕円形，深さ60～70cmで



第82図　第73号住居跡実測図

規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ４は長径39cm，短径35cmの楕円形，深さ35cmで位置から壁柱穴，Ｐ２・Ｐ５・Ｐ６は配置から補助柱穴と思われる。

炉　中央部からやや北東寄りにあり，平面形は長径[78]cm，短径[53]cmの不整楕円形で，炉床面は撹乱のため確認できなかった。

覆土　５層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積とみられる。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子微量，焼土小ブロック極微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック少量
5　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム大・小ブロック中量，炭化物・炭化粒子微量

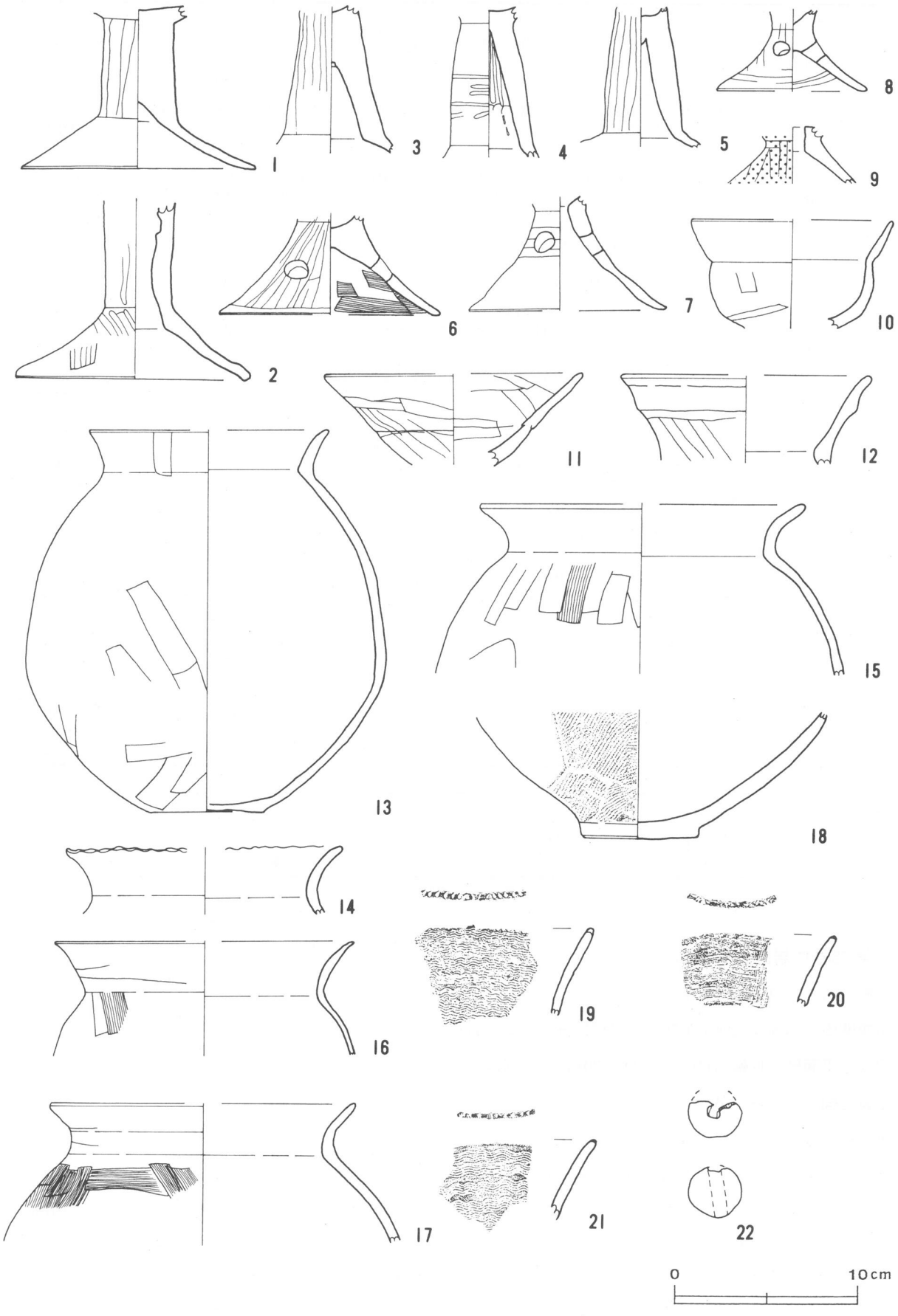
遺物　中央部周辺の覆土上層から床面にかけて土師器を主体に出土している。第83図１～５は高坏で，１は炉の西側，２・４は炉の南側，３はＰ６の東側，５は炉の東側の，いずれも覆土下層から出土している。６～９は器台で，６・８は炉の西側の覆土中層，７はＰ１周辺の覆土上層，９は東壁中央の覆土中層から出土している。10・11は坩で，炉西側の覆土下層から，12は壺で，炉西側の床面から出土している。13～18は甕で，13はＰ６西側の覆土下層，14・18は炉南側の覆土下層，15・16は炉西側の覆土下層と床面，17はＰ１西側の床面から出土している。22は球状土錘で，Ｐ４東側の覆土下層から出土している。

19～21は弥生土器の口縁部片の拓影図である。19の口唇部にはヘラ状工具による刻みが施され，突起がつく。口縁部には櫛歯状工具による５条を単位とする波状文が巡る。20の口唇部には縄文原体による押圧がある。口縁部には櫛歯状工具による平行沈線で分割され，区画内には６条を単位とする波状文が巡る。21の口唇部にはヘラ状工具による刻みが施され，口縁部には櫛歯状工具による５条を単位とする波状文が巡る。

所見　本跡からは４世紀前半と後半の土師器片が出土している。前半の遺物は覆土上層から中層にかけて，後半の遺物は覆土中層から下層にかけて多く出土していることから，時期は，遺構の形態や出土遺物から４世紀後半と考えられる。

第73号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第83図 1	高　坏 土師器	E　(8.9) D　12.8	脚部片。脚部は中実柱状で，裾部はハの字状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石，石英，赤色粒子 にぶい橙色 普通	P175，60%　PL22 炉西側覆土下層
2	高　坏 土師器	D　12.6 E　(9.7)	脚部片。脚部は中空柱状。裾部はハの字状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。裾部外面縦位のハケ目調整後，横位のヘラ磨き。	長石石英雲母赤色粒子 にぶい橙色 普通	P176，50% 炉南側覆土下層
3	高　坏 土師器	E　(7.3)	脚部片。脚部は中空柱状。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石，石英，雲母 にぶい橙色 普通	P180，10% P6東側覆土下層
4	高　坏 土師器	B　(8.1) E　(6.7)	脚部片。脚部は中空柱状。	脚部外面横位のヘラ磨き。脚部内面ヘラナデ。	長石，雲母，小礫 橙色 普通	P181，10% 炉南側覆土下層
5	高　坏 土師器	E　(7.6)	脚部片。脚部は中空柱状。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P182，10% 炉東側覆土下層
6	器　台 土師器	D　[12.0] E　(5.2)	器受部欠損。脚部はハの字状に開く。脚部に３孔穿つ。	脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部内面横位のハケ目調整。	長石，白色粒子 にぶい橙色 普通	P177，40%　PL22 炉西側覆土中層
7	器　台 土師器	D　[10.6] E　(5.8)	脚部片。脚部はハの字状に開く。脚部に２孔，中央に貫通孔を穿つ。	脚部外面横位のヘラ磨き。	長石，石英，雲母 にぶい橙色 普通	P178，10%　PL22 P1付近覆土上層



第83図　第73号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第83図 8	器台 土師器	D［8.1］ E（4.3）	脚部片。脚部はハの字状に開く。脚部に3孔穿つ。	脚部外面縦位のヘラ磨き。裾部外面横位のヘラ磨き。	長石,石英,雲母,白色粒子 橙色 普通	P179，10% 炉西側覆土中層
9	器台 土師器	B（3.1）	脚部片。脚部はハの字状に開く。脚部中央に貫通孔を穿つ。	脚部外面縦位のヘラ磨き。外面赤彩。	長石,石英,雲母,白色粒子 赤色 普通	P183，5% 東壁際覆土中層
10	坩 土師器	A［10.8］ B（5.9）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラナデ，下位横位のヘラ磨き。	長石，石英，赤色粒子 灰白色 普通	P184，70% PL22 炉西側覆土下層
11	坩 土師器	A［13.9］ B（4.9）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に輪積み痕がある。口縁部はやや外反する。	口縁部，体部外面斜位のヘラ磨き。口縁部内面横位のハケ目調整。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P185，50% PL23 炉西側覆土下層
12	壺 土師器	A［13.5］ B（4.7）	頸部から口縁部片。頸部は外傾しながら立ち上がり，口縁部は下端に稜を有し，外反気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面斜位のヘラナデ。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P186，10% 炉西側床面
13	甕 土師器	A［12.9］ B 20.6 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は球状で最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部外面縦位，体部外面斜位のヘラナデ。口縁端部横ナデ。	長石雲母小礫,白色粒子 橙色 普通	P187，70% PL22 P6西側覆土下層
14	甕 土師器	A［14.9］ B（3.6）	頸部から口縁部片。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。波状口縁。	口縁部内・外面横ナデ。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P188，5% 炉南側覆土下層 外面ススト付着
15	甕 土師器	A［17.6］ B（9.2）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のハケ目調整。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい褐色 普通	P189，10% PL23 炉西側覆土下層
16	甕 土師器	A［16.2］ B（6.1）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のハケ目調整。	長石，石英，雲母 にぶい橙色 普通	P190，10% 炉西側床面
17	甕 土師器	A［16.4］ B（7.7）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目調整。	長石,石英,雲母,赤色粒子 浅黄色 普通	P191，10% P1西側床面
18	甕 土師器	B（6.7） C 6.4	底部から体部片。平底で突出している。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面斜位のハケ目調整。	長石，雲母，白色粒子 にぶい橙色 普通	P192，10% 炉南側覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
22	球状土錘	2.9	（2.7）	0.8	（12.9）	P4東側覆土下層	DP100

第75号住居跡（第84図）

位置　調査区中央部，B4e4区。

重複関係　本跡は北壁を第76号住居跡に掘り込まれおり，本跡が古い。

規模と平面形　長軸［3.60］m，短軸3.30mの長方形である。

主軸方向　N－48°－W

壁　壁高は20～25cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は長径28～43cm，短径23～33cmの円形及び楕円形，深さ31～91cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P5は長径33cm，短径26cmの楕円形，深さ31cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉　中央部から北西寄りにあり，平面形は長径80cm，短径50cmの楕円形で，床面を3cmほど掘りくぼめている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物・炭化粒子少量，焼土大・中ブロック・炭化材微量

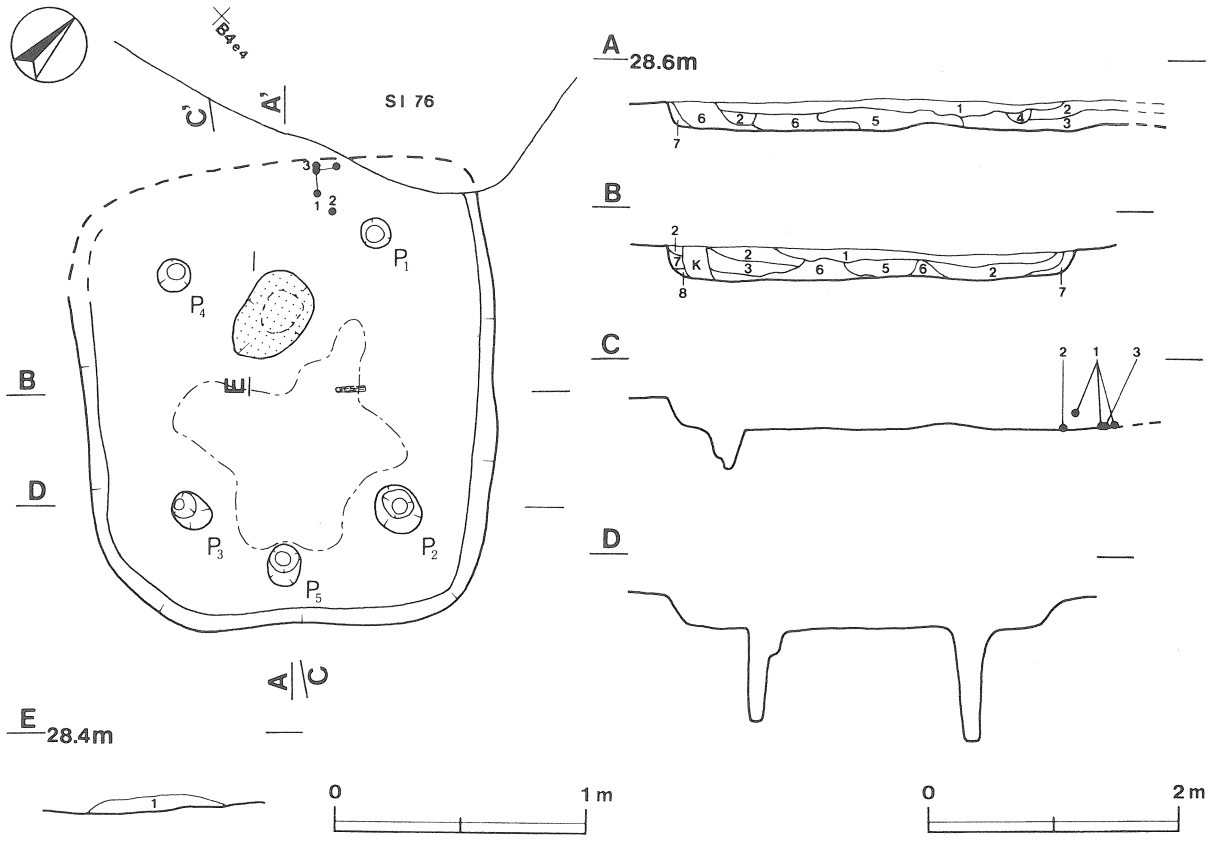
覆土　8層からなる人為堆積と思われる。また，覆土下層から床面にかけて炭化材が検出されている。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量，焼土小ブロック極微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化物極微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子極微量
6　暗褐色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子中量，ローム小ブロック・炭化材少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
7　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
8　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物　北部コーナー部付近の覆土下層から床面にかけて土師器の甕片を主体に出土している。第85図1は壺，2・3は甕で，いずれもP1の西側から西壁にかけての床面から出土している。7の球状土錘は覆土中から出土している。

4～6は弥生土器片の拓影図である。4は口縁部片で，口唇部にはヘラ状工具による刻みが施され，口縁部には櫛歯状工具による5条を単位とする波状文が巡る。5は胴部片で，附加条一種（附加2条）の縄文が施され，羽状構成をとる。6は底部から胴部片で，胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施され，底部は布目痕である。

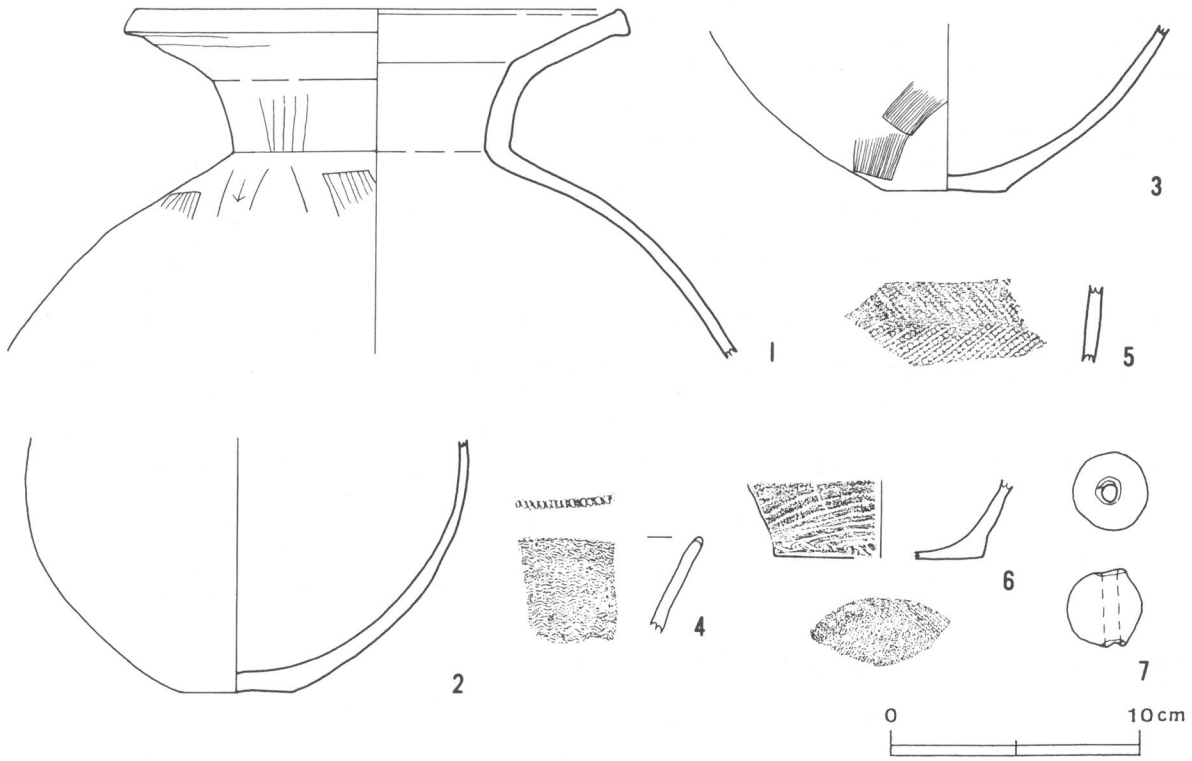
所見　本跡は覆土下層から床面にかけて炭化材が検出されていることから焼失家屋と思われる。時期は，遺構の形態や出土遺物から4世紀後半と考えられる。



第84図　第75号住居跡実測図

第75号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 1	壺 土師器	A　19.4 B　(13.8)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部はコの字状に屈曲する。口縁部は外傾し，端部は下方に突出させている。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のヘラ磨き。体部外面縦位のハケ目調整。	長石，雲母，白色粒子 橙色 普通	P195，40%　PL23 西壁付近床面



第85図　第75号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第85図 2	甕 土師器	B　(10.2) C　4.6	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面摩滅により，調整痕不明。	長石，雲母，赤色粒子 にぶい橙色 普通	P196，20% 西壁付近床面
3	甕 土師器	B　(6.7) C　4.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位斜位のハケ目調整。	長石，雲母，白色粒子 明赤褐色 普通	P197，20% 西壁付近床面

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径 (cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
7	球状土錘	3.0	3.0	0.6	26.5	遺構確認面	DP133

(4)　奈良・平安時代

第1号住居跡（第86図）

位置　調査区南西部，B2i3区。

規模と平面形　長軸2.85m，短軸2.68mの方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は53～55cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，中央部を中心に踏み固められている。

ピット　P1は長径29cm，短径26cmの楕円形で，深さ19cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，東袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで［88］cm，最大幅93cm，壁外への掘り込み［39］cmである。火床面は床面を4cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわず

かに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，緩やかに外傾して立ち上がる。

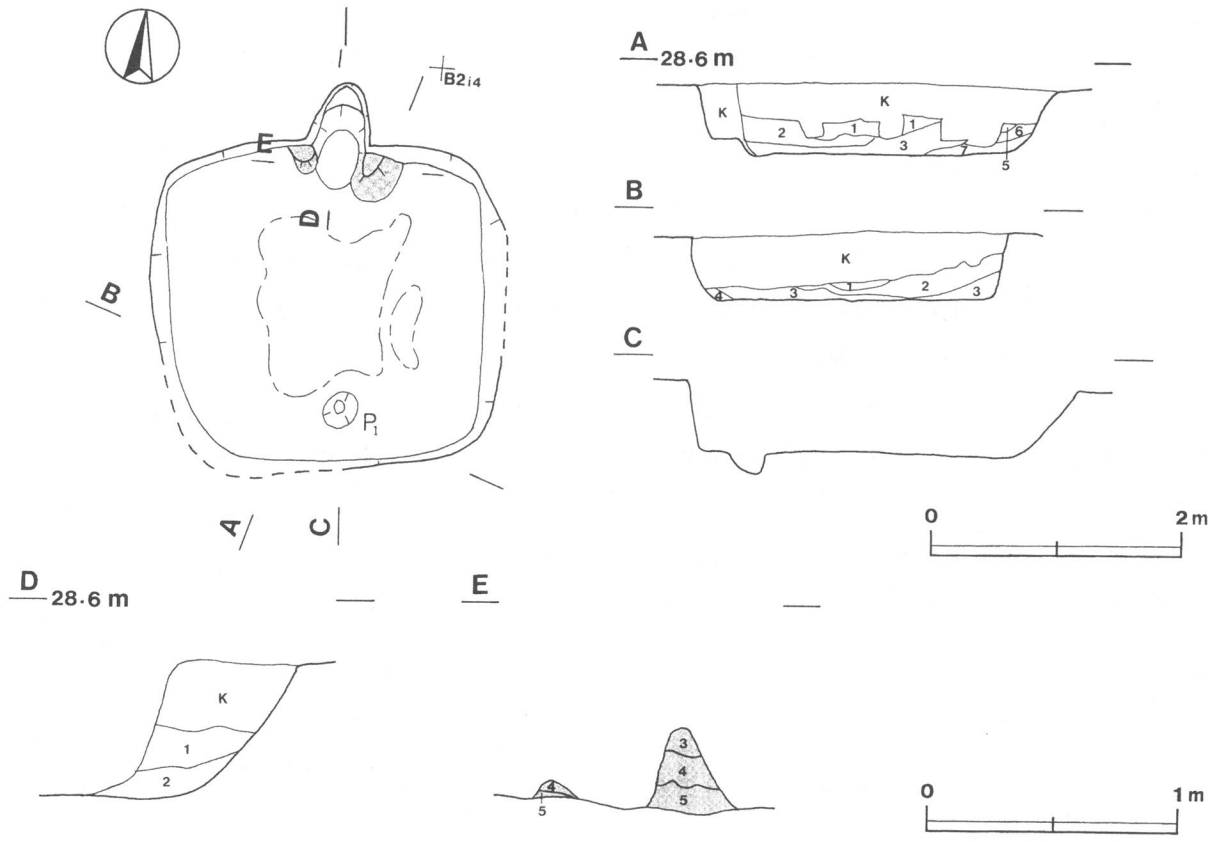
竈土層解説

1　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・白色砂粒少量，炭化物微量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土大ブロック少量，炭化物・粘土粒子・白色粒子微量
3　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・砂質粘土大ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒・小礫少量，ローム中ブロック微量

覆土　7層からなる人為堆積と思われる。覆土上層から下層にかけて，ローム大・中ブロックを含んでいることから人為的な埋め戻しが行われたと思われる。

土層解説

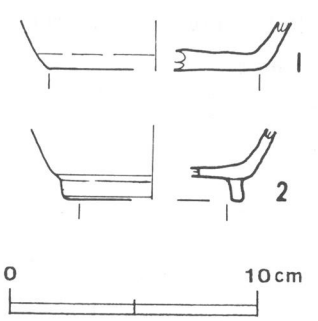
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子極微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子・炭化物・粘土小ブロック少量，ローム小ブロック微量
7　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子少量



第86図　第1号住居跡実測図

遺物　中央部の覆土中層から下層にかけて土師器片と須恵器片が極少量出土している。第87図1・2は須恵器で，1の坏，2の高台付坏はいずれも北東部の覆土中から出土している。

所見　出入口施設に伴うピットのみ検出され，主柱穴は1か所も検出されなかった。本跡からの出土遺物は少なく，時期は，遺構の形態及び土器の器形から8世紀前半と考えられる。



第87図　第1号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 1	坏 須恵器	B （1.9） C ［8.6］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，石英，針状鉱物 灰白色 良好	P220，5％ 竈東部覆土中
2	高台付坏 須恵器	B （3.0） D ［7.1］ E 0.8	高台部から体部片。高台部はほぼ垂下する。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削りの後，高台部貼り付け。	長石，白色粒子 暗灰黄色 良好	P221，5％ 竈東部覆土中

第３号住居跡（第88図）

位置　調査区中央部，Ｃ２d8区。

規模と平面形　長軸4.80m，短軸4.14mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－22°－Ｗ

壁　壁高は45～62cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　東壁下の北側の一部を除き，壁下を巡っている。上幅22～36cm，下幅４～14cm，深さ３～６cmで，断面はＵ字形をしている。

床　ほぼ平坦であり，中央部を中心に踏み固められている。

ピット　８か所（Ｐ１～Ｐ８）。Ｐ１～Ｐ４は長径37～50cm，短径35～45cmの円形及び楕円形，深さ61～75cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は径22cmの円形，深さ30cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６～Ｐ８は長径24～25cm，短径19～25cmの円形及び楕円形，深さ14～27cmで，Ｐ６はＰ１の補助柱穴と思われるが，他のピットの性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで122cm，最大幅100cm，壁外への掘り込み48cmである。火床面は床面を６cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，やや外傾して立ち上がる。

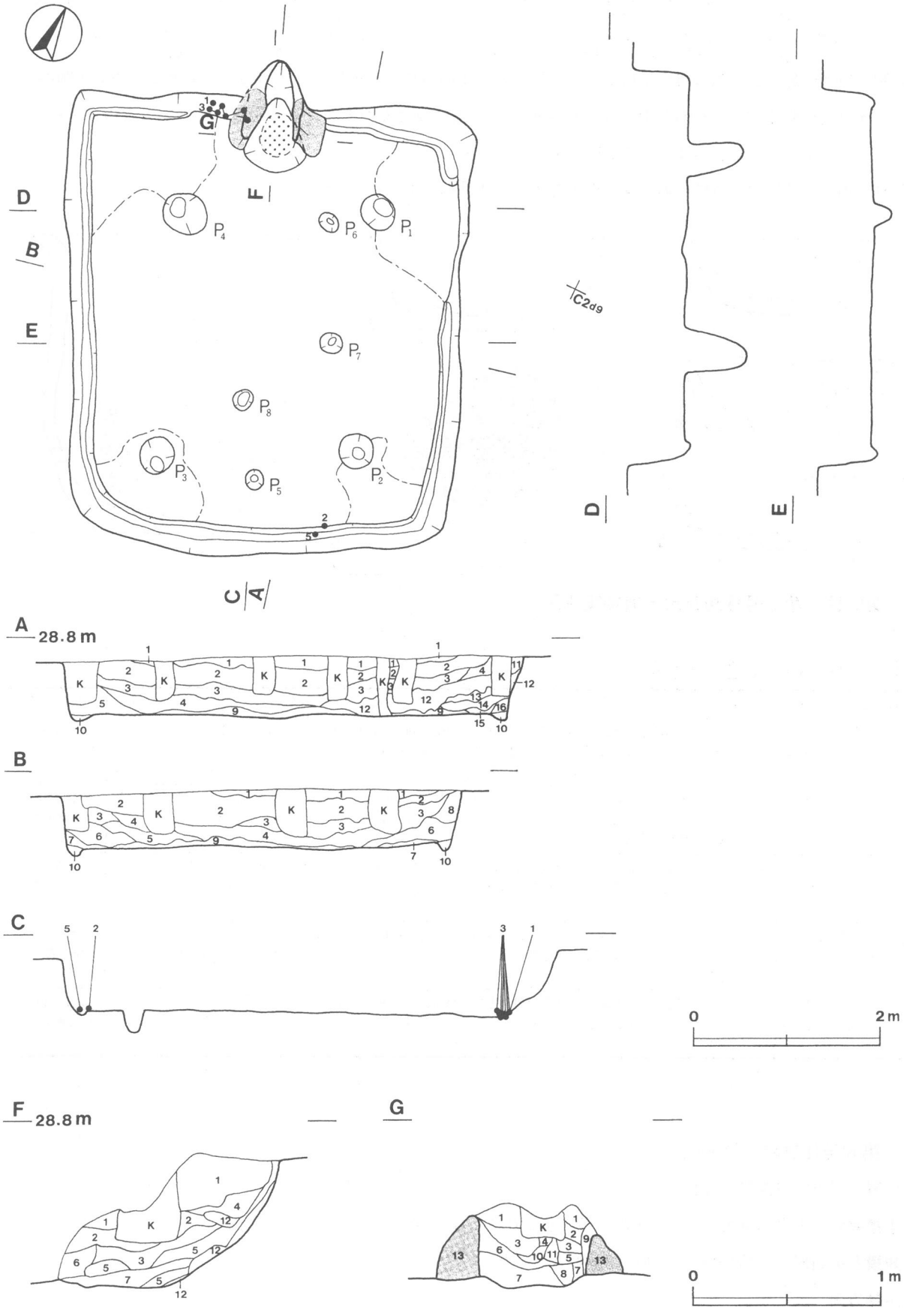
竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化物・白色砂粒少量，焼土粒子微量
2　赤褐色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック・炭化粒子・白色砂粒・粘土粒子少量，焼土粒子微量
3　明赤褐色　白色砂粒・粘土中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　にぶい褐色　炭化粒子・白色砂粒・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
5　赤褐色　焼土大・中・小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・白色砂粒・粘土粒子少量
6　にぶい褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
7　赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子・白色砂粒少量
8　褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子白色砂粒・粘土粒子少量
9　明赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中・小ブロック・焼土粒子・白色砂粒少量，炭化粒子微量
10　明赤褐色　白色砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
11　明赤褐色　粘土中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
12　褐色　ローム小ブロック少量
13　にぶい褐色　砂質粘土中ブロック・砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土大ブロック少量

覆土　16層からなる。堆積状況はレンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化材微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
4　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
6　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子・ローム大ブロック微量
7　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
8　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
9　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック微量
10　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
11　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
12　黒褐色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土大ブロック粒子少量，焼土小ブロック微量

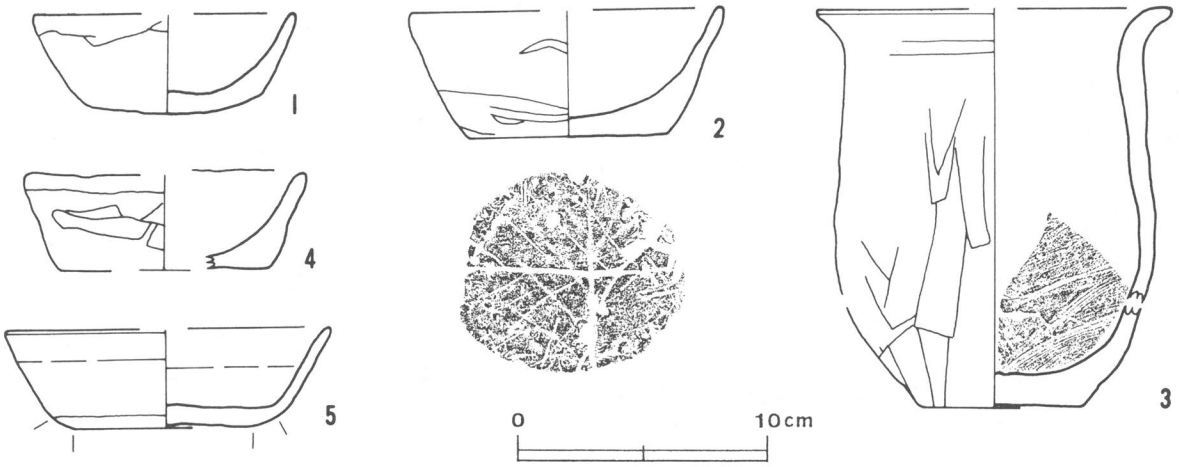


第88図　第3号住居跡実測図

13 褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，砂質粘土少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14 暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック微量
15 暗褐色　ローム粒子多量，ローム大・中ブロック少量，焼土粒子微量
16 褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量，赤色粒子極微量

遺物　出入口施設から竈の覆土中層から床面にかけて土師器片が少量出土している。第89図１～４は土師器で，１の椀は竈の覆土中，２の椀はＰ５東側の床面，３の甕は竈付近の床面，４の手捏状坏は竈付近の覆土中から出土している。５の須恵器坏はＰ５南側の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。



第89図　第３号住居跡出土遺物実測図

第３号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 1	椀 土師器	A［10.4］ B 4.0	底部から口縁部片。丸底気味の平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P223，80% PL23 竈覆土中
2	椀 土師器	A［12.4］ B 5.1 C 8.0	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は尖る。	口縁部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。底部木葉痕。	長石，雲母，白色粒子 赤褐色 普通	P224，70% P5東側床面
3	甕 土師器	A［14.0］ B［16.0］ C 6.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。底部ヘラナデ。	長石，石英，雲母，小礫 橙色 普通	P225，50% PL23 竈付近床面
4	手捏状坏 土師器	A［11.0］ B 3.8 C［8.4］	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石，白色粒子 明赤褐色 普通	P226，30% 竈付近覆土中
5	坏 須恵器	A［13.0］ B 3.9 C 7.4	底部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，石英，雲母 灰色 良好	P227，40% P5南側床面

第６号住居跡（第90図）

位置　調査区南西部，Ｂ２g3区。

重複関係　中央部東側を第１号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.40m，短軸4.18mの方形である。

主軸方向　Ｎ－０°

壁　壁高は22～28cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

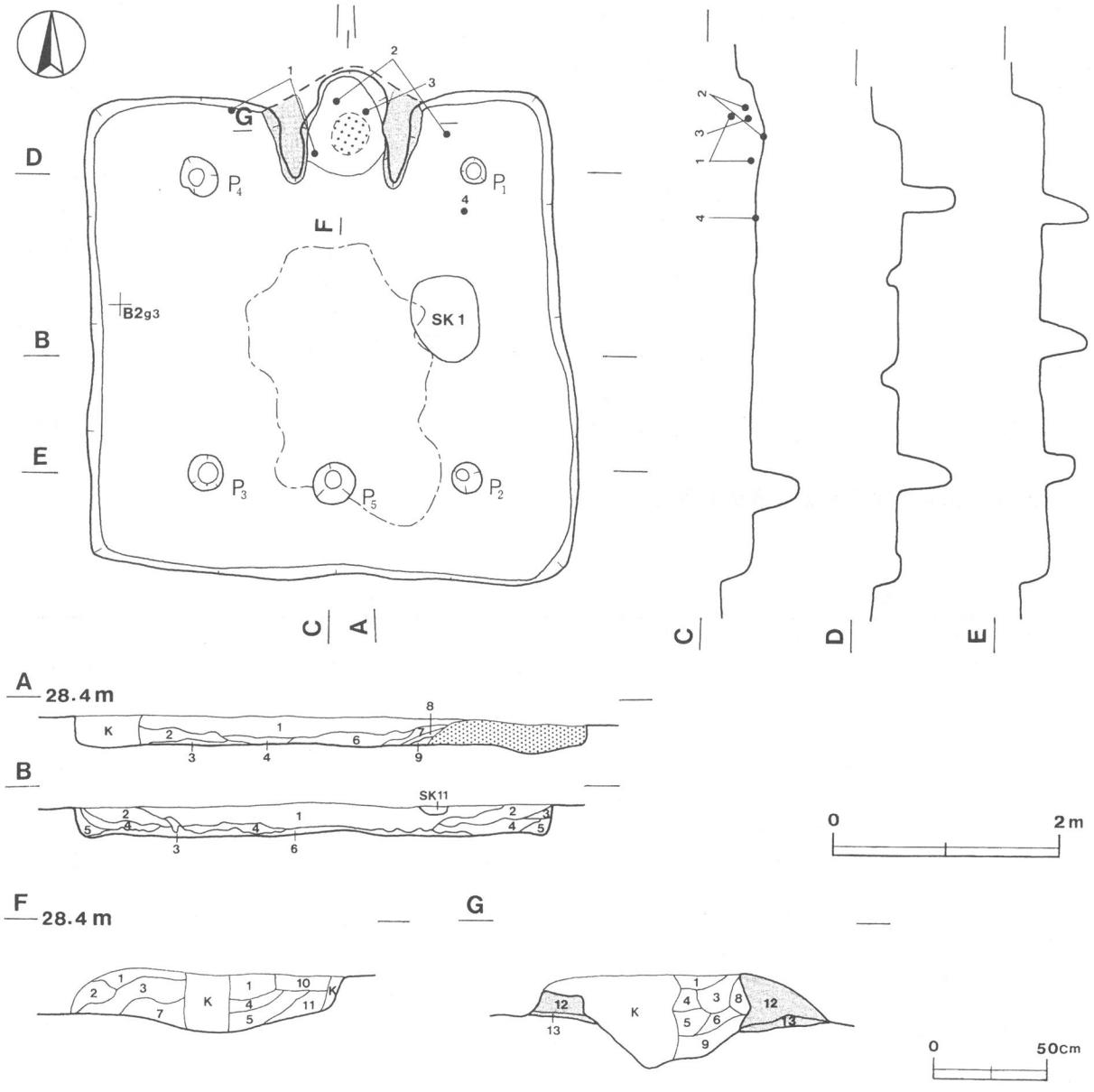
床　ほぼ平坦である。出入口施設から竈周辺にかけて踏み固められている。

ピット　5か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径24～39cm，短径23～32cmの円形及び楕円形，深さ25～49cmで規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は径38cmの円形，深さ41cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで［98］cm，最大幅145cm，壁外への掘り込み［37］cmである。火床面は床面を６cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	にぶい褐色	粘土ブロック層
3	褐　　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・粘土小ブロック少量，炭化物微量
5	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6	褐　　色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量
7	にぶい褐色	粘土粒子多量，粘土大・中・小ブロック中量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土粒子・炭化物少量
8	暗赤褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9	極暗赤褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第90図　第６号住居跡実測図

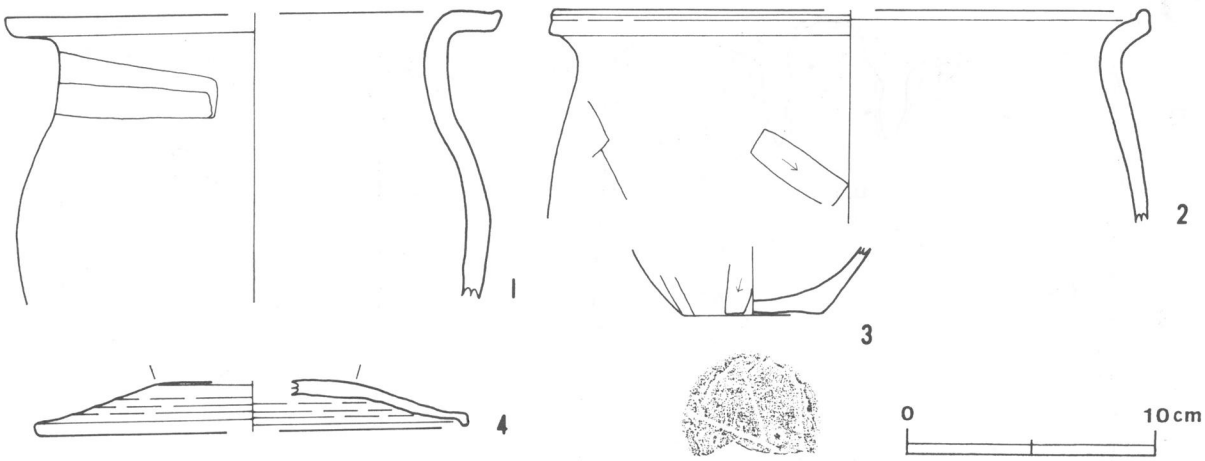
10 褐　　色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中・小ブロック・炭化物少量
11 暗 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中・小ブロック・炭化物・粘土粒子少量
12 暗 褐 色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13 褐　　色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量

覆土　9層からなる。上層はロームブロックが多量に含まれていることから人為堆積，中・下層はレンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説
1 褐　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 にぶい赤褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子極微量
3 にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4 明 褐 色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗赤褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子極微量
6 明 褐 色　ローム中ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子極微量
7 褐　　色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
8 暗赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量
9 暗赤褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量

遺物　竈付近の覆土下層から床面にかけて土師器片を主体に少量出土している。第91図1～3は土師器の甕である。1は竈南側の覆土下層，2は竈東側の床面，3は竈付近の覆土中層から出土している。4の須恵器の蓋はP1南側の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から8世紀前半と考えられる。



第91図　第6号住居跡出土遺物実測図

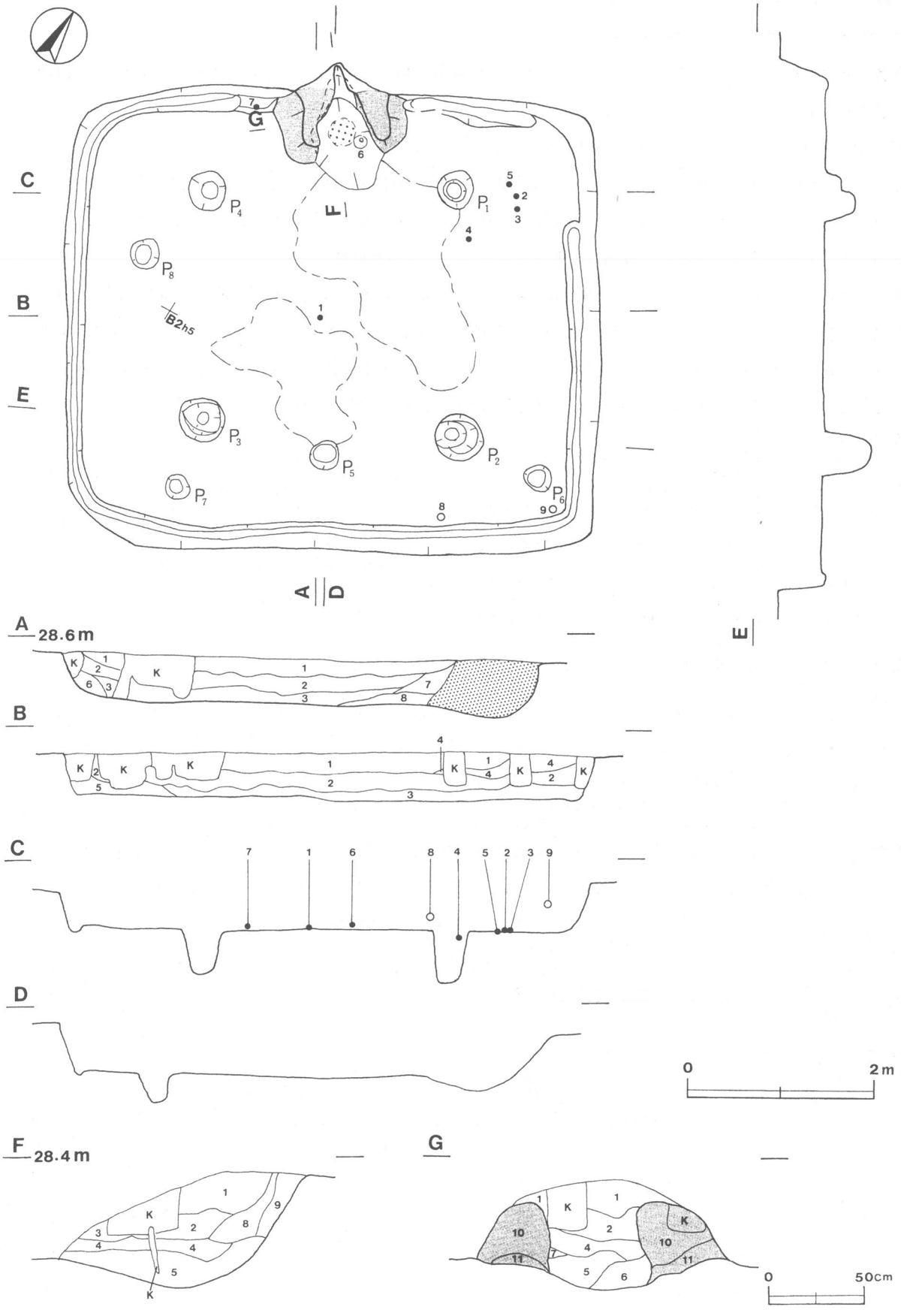
第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図 1	甕 土師器	A［20.0］ B（11.4）	体部から口縁部片。体部は内彎し，頸部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り後，上位はナデ調整。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい褐色 普通	P198，10% 竈南側覆土下層
2	甕 土師器	A［23.8］ B（8.8）	体部から口縁部片。体部は内彎し，頸部はくの字状に開き，口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り。	長石,石英,雲母,赤色粒子 橙色 普通	P199，5％ 竈東側床面
3	甕 土師器	B（2.7） C　5.5	底部から体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り。底部木葉痕。	長石，雲母 明赤褐色 普通	P200，5％ 竈付近覆土中層
4	蓋 須恵器	A［17.1］ B（2.0）	天井部から口縁部片。天井部は丸みを持ち，緩やかに口縁部に至る。口縁端部は短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り調整。外周部，口縁部ロクロナデ。	長石，小礫，白色粒子 灰色 良好	P450，40% P1南側床面

第7号住居跡（第92図）

位置　調査区南部，B2g5区。

規模と平面形　長軸5.73m，短軸4.92mの長方形である。



第92図　第７号住居跡実測図

主軸方向　N－31°－W

壁　壁高は35～48cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北東コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅15～38cm，下幅５～14cm，深さ２～８cmで，断面形はU字状である。

床　ほぼ平坦であり，出入口施設から竈にかけて踏み固められている。

ピット　８か所（Ｐ１～Ｐ８）。Ｐ１～Ｐ４は長径40～53cm，短径39～50cmの円形及び楕円形，深さ33～57cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は径31cmの円形，深さ28cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６～Ｐ８は主柱穴の外側に配置されていることから補助柱穴と思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで142cm，最大幅141cm，壁外への掘り込み36cmである。火床面は床面を17cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，やや外傾して立ち上がる。

竈土層解説

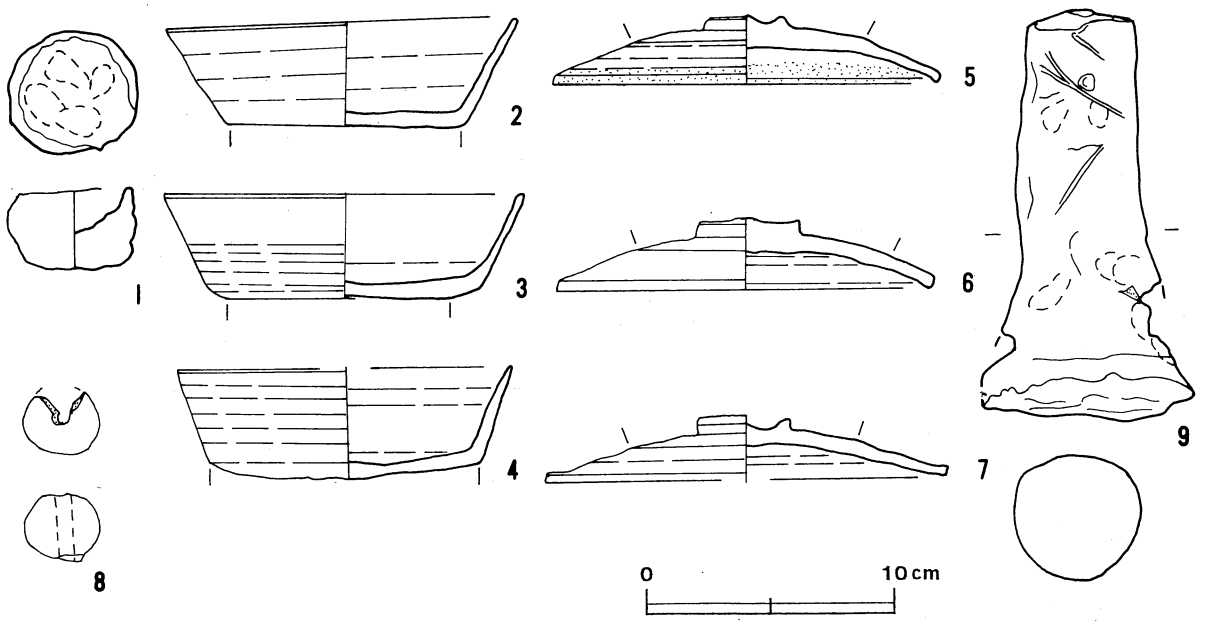
1	にぶい褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2	にぶい黄橙色	粘土粒子多量，焼土粒子微量
3	褐　色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
4	褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
5	暗赤褐色	炭化物・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
6	極暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
7	にぶい赤褐色	粘土塊
8	暗赤褐色	砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量，ローム中ブロック・焼土大・中ブロック微量
9	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量
10	にぶい橙色	砂質粘土小ブロック・小礫少量
11	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック砂粒中量，焼土粒子少量

覆土　８層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子極微量
2	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗 褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5	暗 褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック・炭化粒子微量
6	黒 褐 色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
7	褐　色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8	褐　色	ローム粒子・砂質粘土粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物　東部を中心に土師器片約220点，須恵器片40点，弥生土器片約100点が出土している。第93図１は手捏土器で，中央部の床面から出土している。２～７は須恵器である。２・３の坏，５の蓋は，北東コーナー部の床



第93図　第７号住居跡出土遺物実測図

面から出土している。４の坏はP1付近の床面，６・７の蓋は竈付近の覆土下層から出土している。８の球状土錘はＰ２南東側の覆土中層，９の支脚はＰ６南東側の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。

第７号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第93図 1	手捏土器 土師器	A 4.3 B 3.2	丸底。体部は器厚を減じながら内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。内面指頭痕（４か所）。	長石，石英，雲母にぶい黄橙色 普通	P229，95% PL23 中央部床面
2	坏 須恵器	A 14.0 B 4.4 C 9.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部はやや外反する。	口縁部・体部ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，小礫，白色粒子 黄灰色 良好	P230，80% PL23 北東ｺｰﾅｰ部床面
3	坏 須恵器	A 14.3 B 4.1 C 9.3	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾する。	口縁部・体部ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石石英雲母小礫針状鉱物 灰白色 良好	P231，80% PL23 北東ｺｰﾅｰ部床面
4	坏 須恵器	A [13.2] B 4.4 C 10.6	底部から口縁部片。やや丸みを帯びた平底。体部は外傾し，口縁部はやや外反する。	口縁部・体部ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，石英，針状鉱物 灰白色 良好	P232，80% PL23 P1付近床面
5	蓋 須恵器	A 15.3 B 2.7 F 3.1 G 0.6	天井部は丸く，外周部はなだらかに下降し，口縁部は屈曲して短く垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部はロクロナデ。ロクロ目は強い。	長石，小礫 灰白色 良好	P234，100% PL23 北東ｺｰﾅｰ部床面
6	蓋 須恵器	A 15.0 B 2.8 F 3.9 G 0.7	天井部は丸く，外周部はなだらかに下降し，口縁部は屈曲して短く垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部はロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石，石英，針状鉱物 灰黄色 良好	P235，100% PL23 竈付近覆土下層
7	蓋 須恵器	A [16.0] B 2.5 F 3.7 G 5.0	天井部から口縁部片。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降し，口縁部は屈曲して短く垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部はロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石，石英，雲母，針状鉱物 灰白色 良好	P236，40% 竈付近覆土下層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
8	球状土錘	3.1	2.7	0.6	16.8	P2南東側覆土中層	DP103

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
9	支脚	16.4	(8.6)	(530.2)	P6南東側覆土中層	DP104 PL31

第９号住居跡（第94図）

位置　調査区南部，Ｃ３a1区。

規模と平面形　長軸3.87ｍ，短軸3.56ｍの方形である。

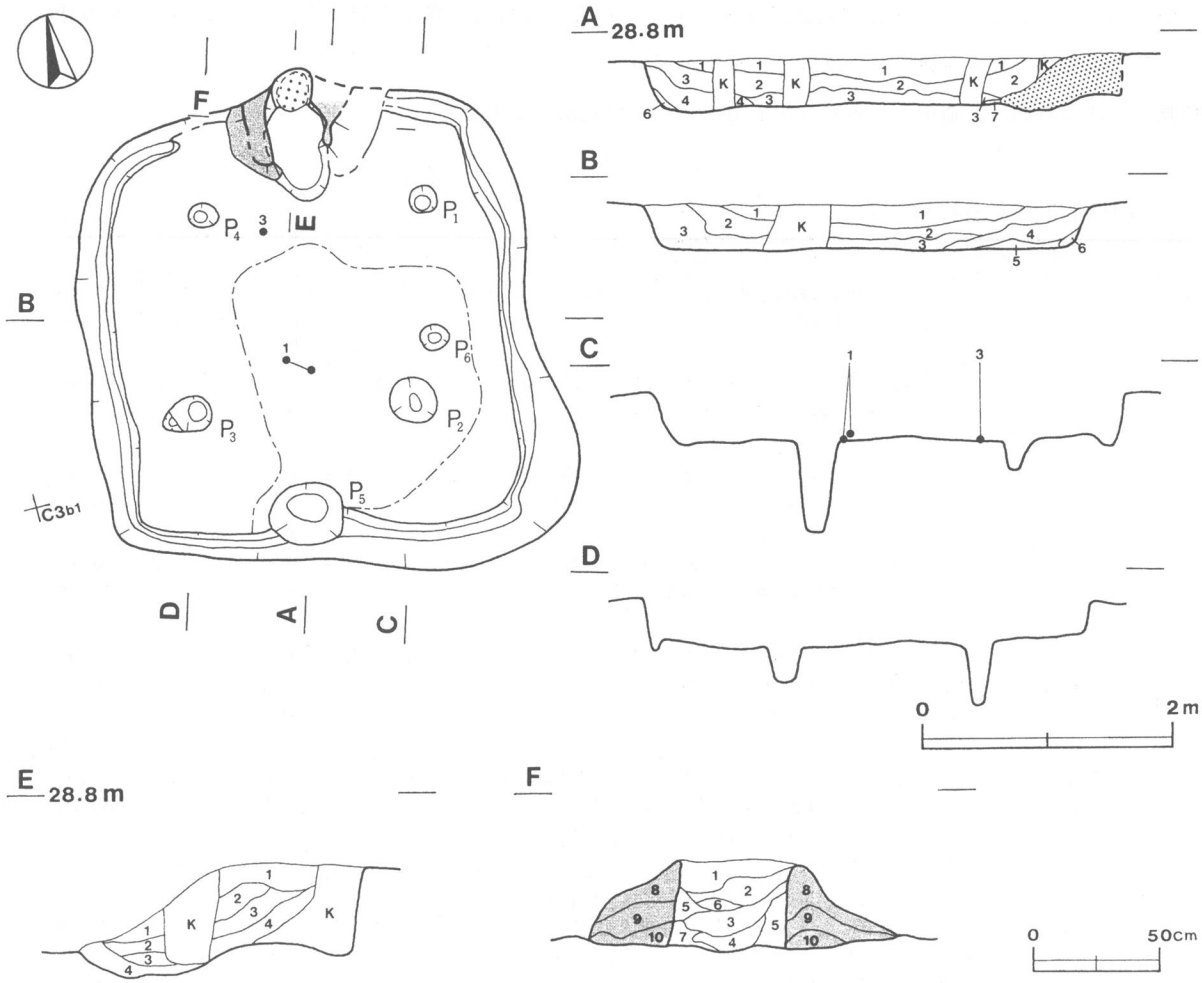
主軸方向　Ｎ－10°－Ｗ

壁　壁高は23～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅18～35cm，下幅４～８cm，深さ２～７cmで，断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦であり，出入口施設から中央部にかけて，踏み固められている。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は長径22～41cm，短径21～36cmの円形及び楕円形，深さ23～75cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径57cm，短径51cmの楕円形，深さ20cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６は位置からＰ２の補助柱穴と思われる。



第94図　第９号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築され，基部はロームを削りだしている。規模は，煙道部から焚口部まで106cm，最大幅127cm，壁外への掘り込み27cmである。火床面は床面を６cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	褐　　色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
2	にぶい赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
3	赤 褐 色	焼土粒子・粘土粒子中量，焼土中・小ブロック・炭化粒子少量
4	にぶい赤褐色	粘土粒子多量，焼土粒子少量
5	明赤褐色	粘土粒子多量，焼土粒子少量
6	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量
7	褐　　色	ローム大ブロック多量
8	暗 褐 色	ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・砂質粘土少量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量
9	褐　　色	砂質粘土中・小ブロック・砂粒多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・砂質粘土大ブロック少量
10	暗 褐 色	ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量

覆土　７層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

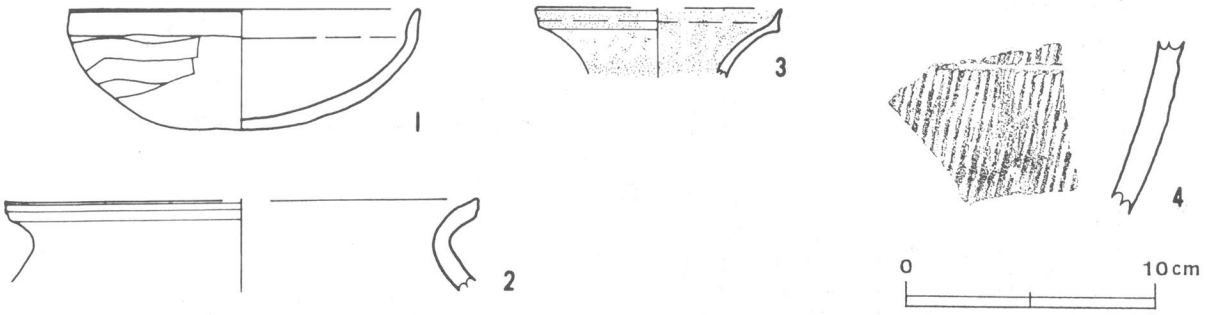
土層解説

1	黒 褐 色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗 褐 色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材微量
3	極暗赤褐色	ローム粒子・炭化物・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
4	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
5	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
6	褐　　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
7	にぶい赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子・砂質粘土粒子中量，炭化材少量

遺物　中央部の覆土下層から床面にかけて土師器片・須恵器片が極少量出土している。第95図１・２は土師器である。１の坏は中央部の覆土下層，２の甕は北西部の覆土中から出土している。３の灰釉陶器長頸瓶は竈付近の床面から出土している。

４は須恵器甕の体部片で，平行叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。



第95図　第９号住居跡出土遺物実測・拓影図

第９号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 1	坏 土師器	A　14.1 B　4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。	長石，雲母，白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P239，90%　PL23 中央部覆土下層
2	甕 土師器	A　[19.0] B　(3.7)	頸部から口縁部片。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石，石英，白色粒子 橙色 普通	P240，５% 北西部覆土中
3	長頸瓶 灰釉陶器	A　[9.8] B　(2.7)	頸部から口縁部片。頸部は外傾し，口縁部は端部直下に稜をもち，直立する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石，白色粒子 胎土：灰色 釉調：オリーブ黄色	P241，５% 竈付近床面,猿投産

第11号住居跡（第96図）

位置　調査区南部，Ｂ２h8区。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.44mの方形である。

主軸方向　Ｎ－13°－Ｅ

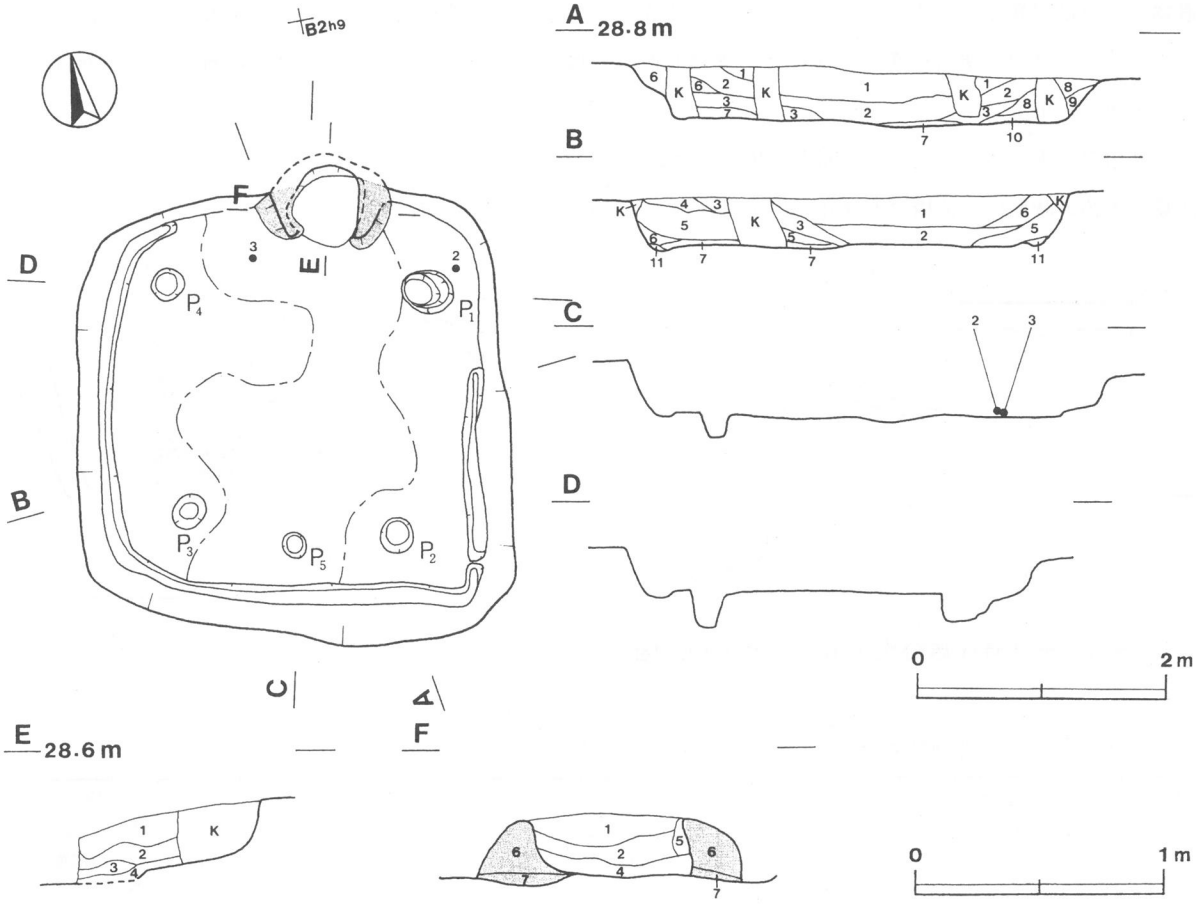
壁　壁高は24～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　竈西側と北東コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅26～36cm，下幅５～10cm，深さ２～５cmで，断面形はＵ字状である。

床　小さな凹凸があるが，ほぼ平坦である。出入口施設から竈にかけて踏み固められている。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径27～43cm，短径24～35cmの楕円形，深さ17～31cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は径20cmの円形，深さ21cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築され，基部はロームを削りだしていると思われる。規模は，煙道部から焚口部まで［75］cm，最大幅108cm，壁外への掘り込み［29］cmである。火床面は床面を掘りくぼめていない。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，やや外傾して立ち



第96図　第11号住居跡実測図

上がる。

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・焼土大・中ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・灰少量
4	褐　色	焼土粒子・粘土粒子少量
5	明褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6	褐　色	砂粒多量，砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・炭化物・砂質粘土大ブロック微量
7	明褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

覆土　11層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

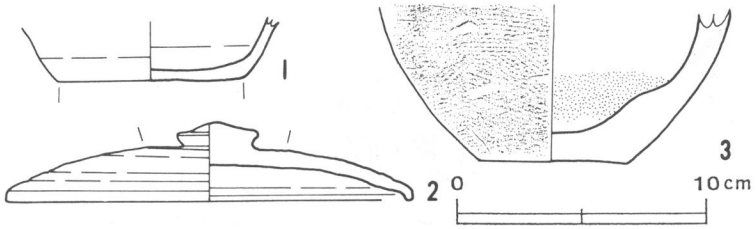
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
3	極暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
5	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
6	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
8	褐　色	ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック，焼土粒子少量，炭化物微量
9	暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土大ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
10	黒褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・炭化物少量，焼土中ブロック微量
11	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第97図 1	坏 須恵器	B　(2.4) C　7.4	底部から体部片。平底。体部から外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ調整。	長石，石英，針状鉱物 にぶい黄橙色 良好	P242，5％ 覆土中

遺物　北部の覆土中層から下層にかけて土師器片56点，須恵器片３点，弥生土器片約62点が出土している。第97図１～３は須恵器である。１の坏は覆土中，２の蓋は北東コーナー部の覆土下層，３の甕は竈付近の覆土下層から出土している。



第97図　第９号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第97図 2	蓋 須恵器	A　16.2 B　3.2 F　3.3 G　1.0	口縁部一部欠損。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは腰高の擬宝珠状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は強い。	長石，石英，針状鉱物 灰色 良好	P243，85%　PL24 北東ｺｰﾅｰ部覆土下層
3	甕 須恵器	B　(6.3) C　5.9	底部から体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面斜位のヘラナデ。	長石，白色粒子 褐灰色 良好	P222，5%　PL23 竈付近覆土下層

第15号住居跡（第98図）

位置　調査区南西部，Ｂ２e9区。

規模と平面形　長軸4.16m，短軸4.05mの方形である。

主軸方向　Ｎ－43°－Ｅ

壁　壁高は46～62cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。竈付近が踏み固められている。

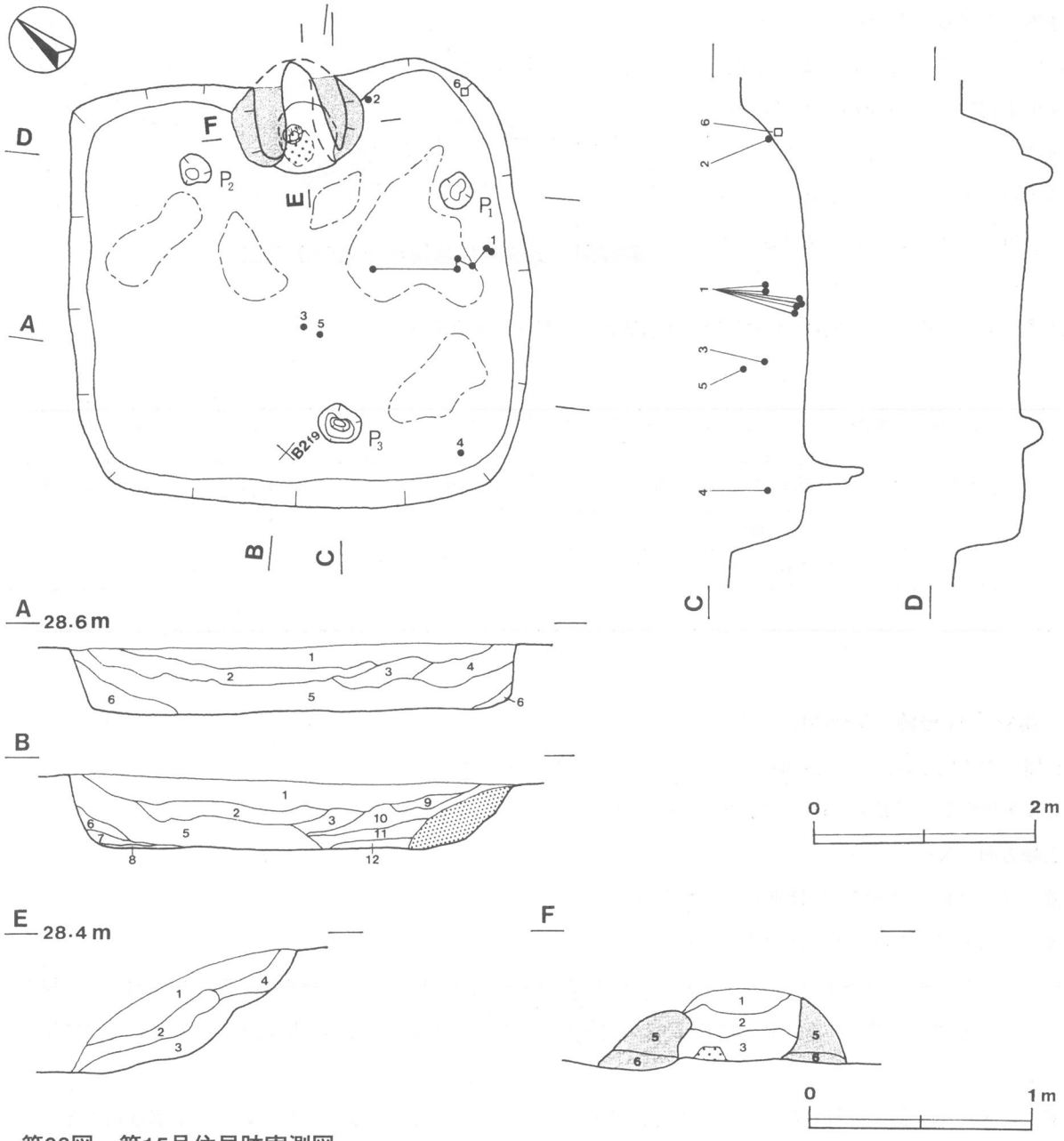
ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。Ｐ１・Ｐ２は長径32～35cm，短径28～322cmの楕円形，深さ19～24cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ３は長径39cm，短径32cmの楕円形，深さ52cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北東壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築され，基部は地山のロームを削りだしていると思われる。規模は，煙道部から焚口部まで101cm，最大幅119cm，壁外への掘り込み20cmである。火床面は床面を掘りくぼめていない。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック・小礫少量，炭化粒子・砂質粘土大ブロック微量
2　褐　色　砂粒多量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・小礫微量
3　暗褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，焼土大ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土大ブロック微量
5　にぶい褐色　砂質粘土中ブロック・砂粒多量，砂質粘土大ブロック中量，ローム粒子・小礫少量
6　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量

覆土　12層からなる。上・中層はレンズ状を呈すことから自然堆積，下層はローム大ブロックを多く含むことから人為堆積であると思われる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大・中ブロック・炭化物微量

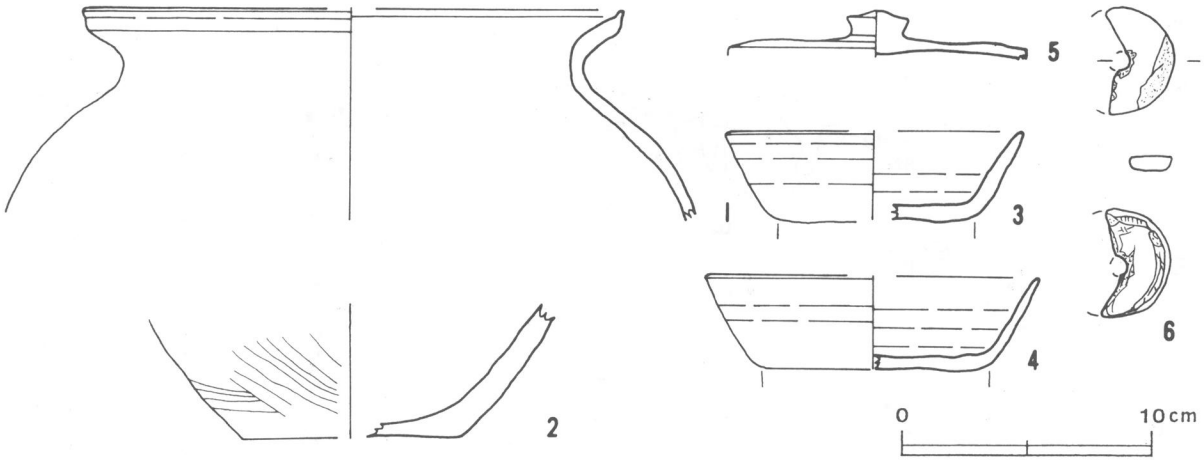


第98図　第15号住居跡実測図

3	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量，ローム大ブロック極微量	8	暗褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
4	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量	9	暗褐色	ローム粒子・粘土小ブロック中量，焼土粒子少量
5	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック少量，炭化粒子微量	10	褐　色	砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
6	褐　色	ローム粒子多量，ローム大・中ブロック中量	11	暗褐色	砂質粘土塊・砂粒多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・小礫少量
7	褐　色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化物微量	12	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量

遺物　東部の覆土中層から下層にかけて土師器片110点，須恵器片16点，弥生土器片21点が出土している。第99図１・２は土師器の甕で，１はＰ１付近の覆土下層，２は竈袖部東側の床面から出土している。３～５は須恵器である。３の坏は中央部の覆土中層，４の坏は南コーナー部の覆土中層，５の蓋は中央部の覆土上層から出土している。６の石製紡錘車は，東コーナー部の覆土中層から出土している。

所見　主柱穴は２か所のみ検出され，４本柱を想定した場合，南東側と南西側の主柱穴は検出されなかった。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。



第99図　第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99図 1	甕 土師器	A［21.6］ B（8.4）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は屈曲して口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	長石，石英，白色粒子 明赤褐色 普通	P244，10% PL24 P1付近覆土下層
2	甕 土師器	B（4.8） C　9.0	底部から体部片。体部は内彎気味に外傾する。	体部外面斜位のヘラナデ。底部ヘラナデ。	長石，石英，雲母，赤色粒子 にぶい褐色 普通	P246，5％ 竈袖部東側床面
3	坏 須恵器	A［11.2］ B　3.6 C［7.8］	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，針状鉱物 灰白色 良好	P247，30% 中央部覆土中層
4	坏 須恵器	A［13.6］ B　3.7 C［8.8］	底部から口縁部片。平底。体部は外反気味に外傾して口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，石英，雲母，針状鉱物 灰白色 良好	P248，20% 南コーナー部覆土中層
5	蓋 須恵器	B（1.9） F　2.1 G　1.1	天井部から口縁部片。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は短く垂下していたと思われる。つまみは腰高の擬宝珠状。	外周部，口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石，白色粒子 灰色 良好	P249，30% 中央部覆土上層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)				
6	石製紡錘車	4.3	0.8	不明	（9.9）	粘板岩	東コーナー部覆土中層	Q42	PL33

第16号住居跡（第100図）

位置　調査区中央部，Ｂ２ｇ0区。

重複関係　南壁中央部を第５号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

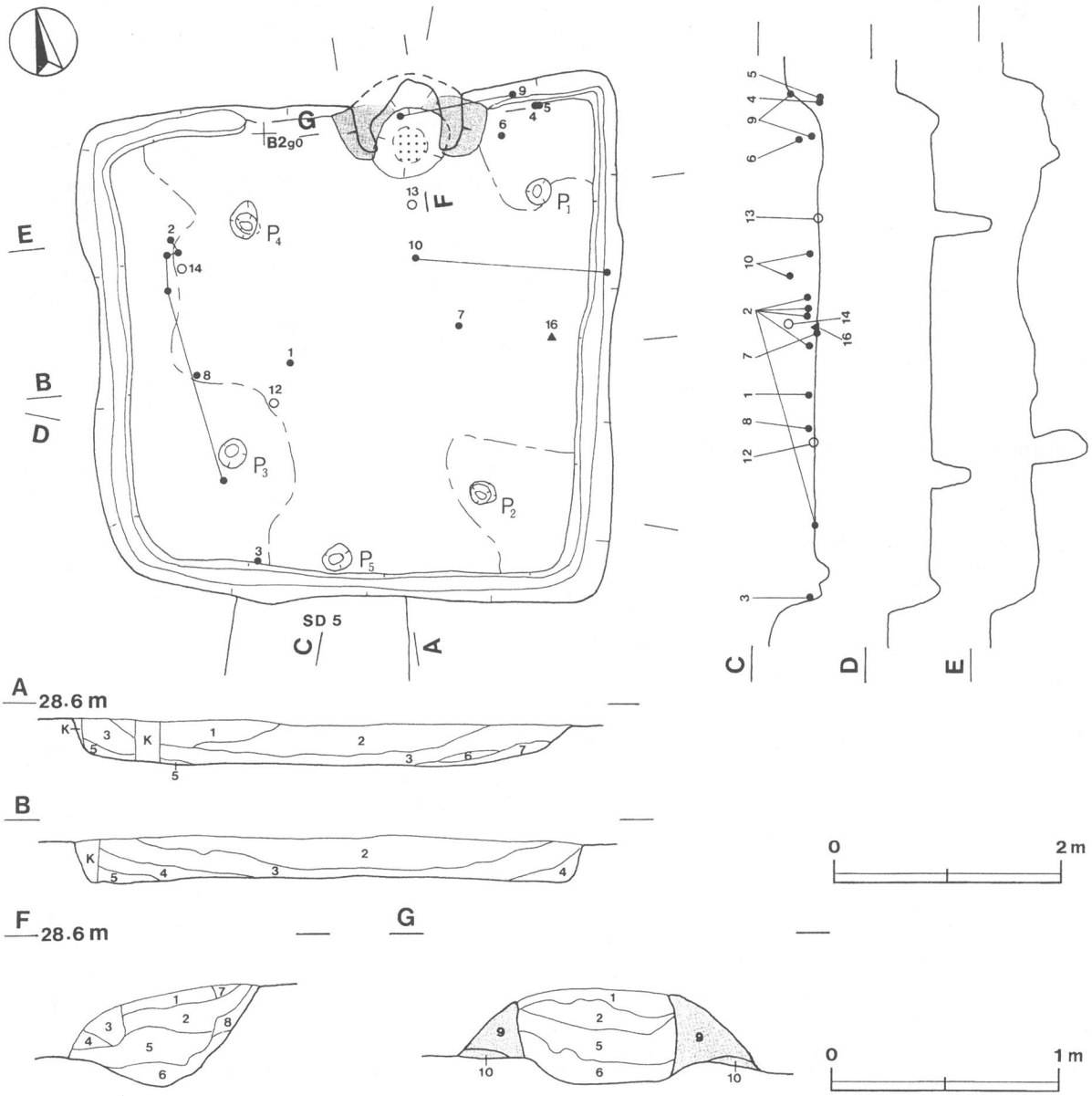
規模と平面形　長軸4.74m，短軸4.35mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－０°

壁　壁高は32～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　竈の西側を除き，壁下を全周している。上幅22～37cm，下幅３～16cm，深さ２～８cmで，断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦であり，中央部を中心に踏み固められている。



第100図　第16号住居跡実測図

ピット　5か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径20～32cm，短径23～27cmの円形及び楕円形，深さ21～50cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径27cm，短径22cmの楕円形，深さ15cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部やや東側に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで[89]cm，最大幅136cm，壁外への掘り込み［21］cmである。火床面は床面を６cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，やや外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　褐　　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子・小礫少量
3　にぶい褐色　粘土ブロック塊・小礫中量
4　にぶい褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

5　暗赤褐色　焼土中・小ブロック・焼土粒子中量，炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
6　赤 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子，炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9　にぶい褐色　砂質粘土小ブロック・砂粒多量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土大・中ブロック中量，焼土中ブロック・焼土粒子小礫少量
10　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

覆土　7層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量，炭化物極微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，炭化物極微量
5　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化物微量
6　黒 褐 色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
7　黒 褐 色　ローム粒子・砂質粘土中ブロック・砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量

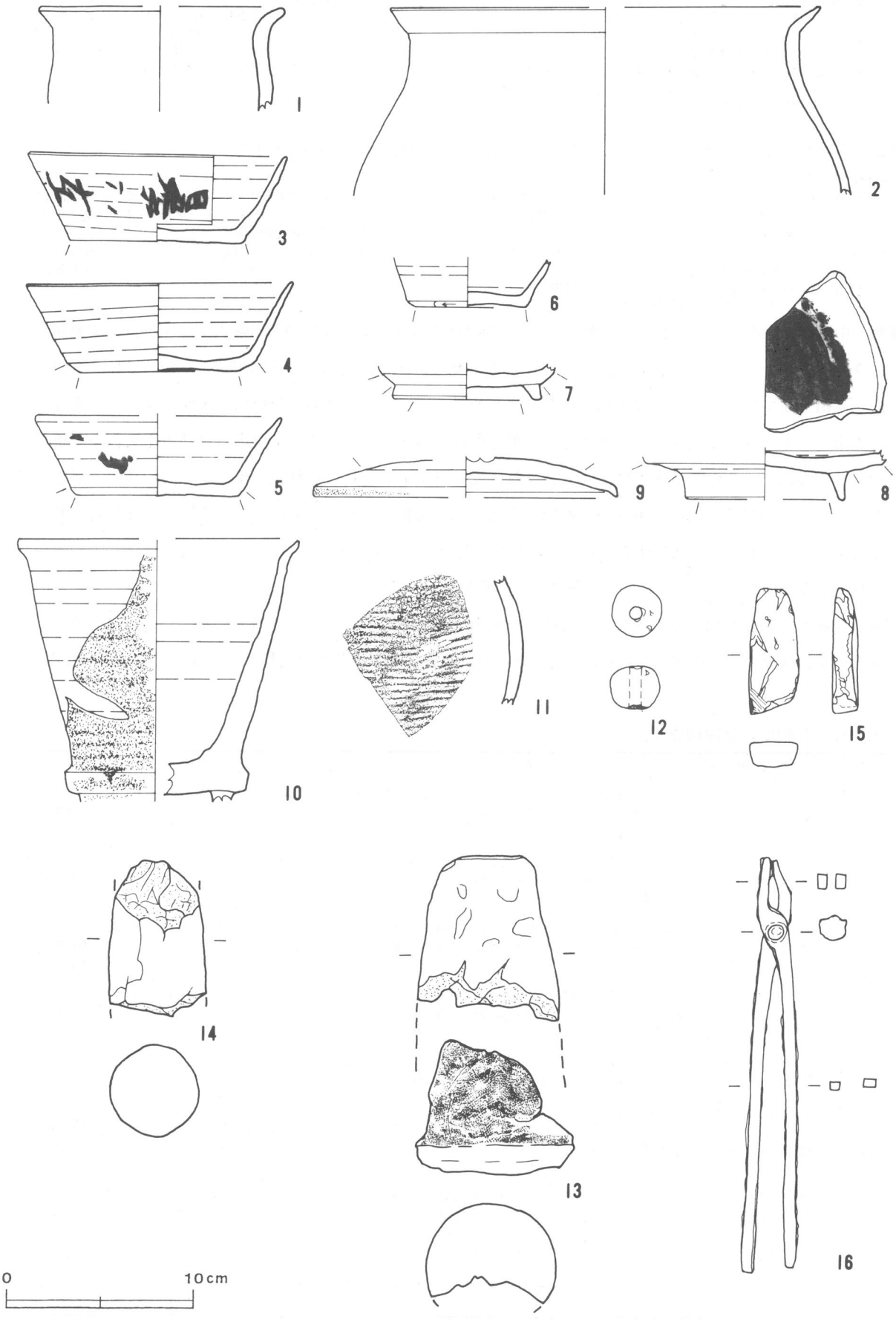
遺物　中央部を中心に覆土中層から床面にかけて土師器片114点，須恵器片40点，弥生土器片20点，土製品，石器，鉄製品が出土している。第101図１・２は土師器の甕で，１は中央部やや西側の覆土下層，２はＰ３南側の床面から出土している。３～10は須恵器である。３から６は坏で，３は南壁際西側の床面，４・５は重なり合って北東コーナー部の床面から，６は竈付近の覆土中層から出土している。７の高台付坏は中央部やや東側の床面，８の盤はＰ３北側の覆土下層，９の蓋は竈付近の覆土下層，10の捏鉢は東壁際中央部の覆土下層から出土している。12の球状土錘は中央部やや西側の床面，13の支脚は竈付近の床面，14の支脚はＰ４付近の覆土上層から出土している。15の砥石は覆土中，16の鉄鉗は東壁際中央部の床面から出土している。

11は須恵器甕の体部片で，平行叩きが施され，自然釉がかかる。

所見　本跡から鉄鉗が出土したことから鍛冶工房跡とも考えられるが，覆土を精査したところ鉄鉗以外に鍛造剥片等の鍛冶関連の遺物は検出されなかった。時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と思われる。

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第101図 1	甕 土師器	A［13.0］ B（5.3）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	長石，石英，雲母 橙色 普通	Ｐ250，５％ 中央部覆土下層
2	甕 土師器	A［23.4］ B（10.1）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	長石，石英，雲母 橙色 普通	Ｐ251，10％ P3南側床面
3	坏 須恵器	A 13.8 B 4.7 C 9.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾する。口縁部はやや外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す回転ヘラ削り。	長石石英小礫白色粒子針状鉱物 灰オリーブ色 良好	Ｐ252，95％ PL24 南西壁際床面 墨書有り
4	坏 須恵器	A 14.4 B 4.8 C 8.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内･外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石石英小礫針状鉱物 灰色 良好	Ｐ253，80％ PL24 北東ｺｰﾅｰ部床面
5	坏 須恵器	A［13.2］ B 4.2 C 8.8	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内･外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，小礫，白色粒子 灰白色 良好	Ｐ254，60％ PL23 北東ｺｰﾅｰ部床面
6	坏 須恵器	B（2.6） C 6.1	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石，石英 灰白色 良好	Ｐ255，10％ 竈付近覆土中層
7	高台付坏 須恵器	B（2.0） D 8.0 E 1.0	高台部から体部片。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部外周回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	長石，石英，針状鉱物 灰色 良好	Ｐ256，10％ 中央部床面
8	高　盤 須恵器	B（2.7） D 8.6 E 1.4	高台部から体部片。体部はやや内彎して外方へ開く。高台はわずかに外方へふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石白色粒子針状鉱物 灰色 良好	Ｐ257，５％ P3北側覆土下層 転用硯



第101図　第16号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第101図 9	蓋 須恵器	A［16.4］ B（ 2.1）	天井部から口縁部片。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。口縁部のロクロ目は弱い。	長石，石英 黄灰色 良好	P258，60% 竈付近覆土下層
10	捏　鉢 須恵器	A［15.0］ B（14.0） E（ 0.5）	底部から体部片。体部は器厚を減じながら外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ。高台貼り付け。	長石，石英 灰白色 良好	P259，10%　PL23 東壁際覆土下層

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
12	球　状　土　錘	2.8	2.3	0.7	16.9	中央部床面	DP105

図版番号	種　　別	計　　測　　値			出　土　地　点	備　　考
		長　さ(cm)	径　(cm)	重　量(g)		
13	支　　脚	16.4	7.0	427.5	竈付近床面	DP106
14	支　　脚	（ 8.3）	3.2	（212.8）	P4付近覆土上層	DP107

図版番号	種　　別	計　　測　　値				石　　質	出　土　地　点	備　　考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)			
15	砥　　石	6.7	2.7	1.4	38.8	凝灰岩	覆土中	Q45

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)		
16	鉄　　鉗	22.3	3.0	0.5~1.3	79.7	東壁際床面	M2　　PL33

第19号住居跡（第102図）

位置　調査区南部，C３d6区。

重複関係　北西コーナー部を第１号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.56m，短軸4.35mのほぼ方形である。

主軸方向　N－９°－W

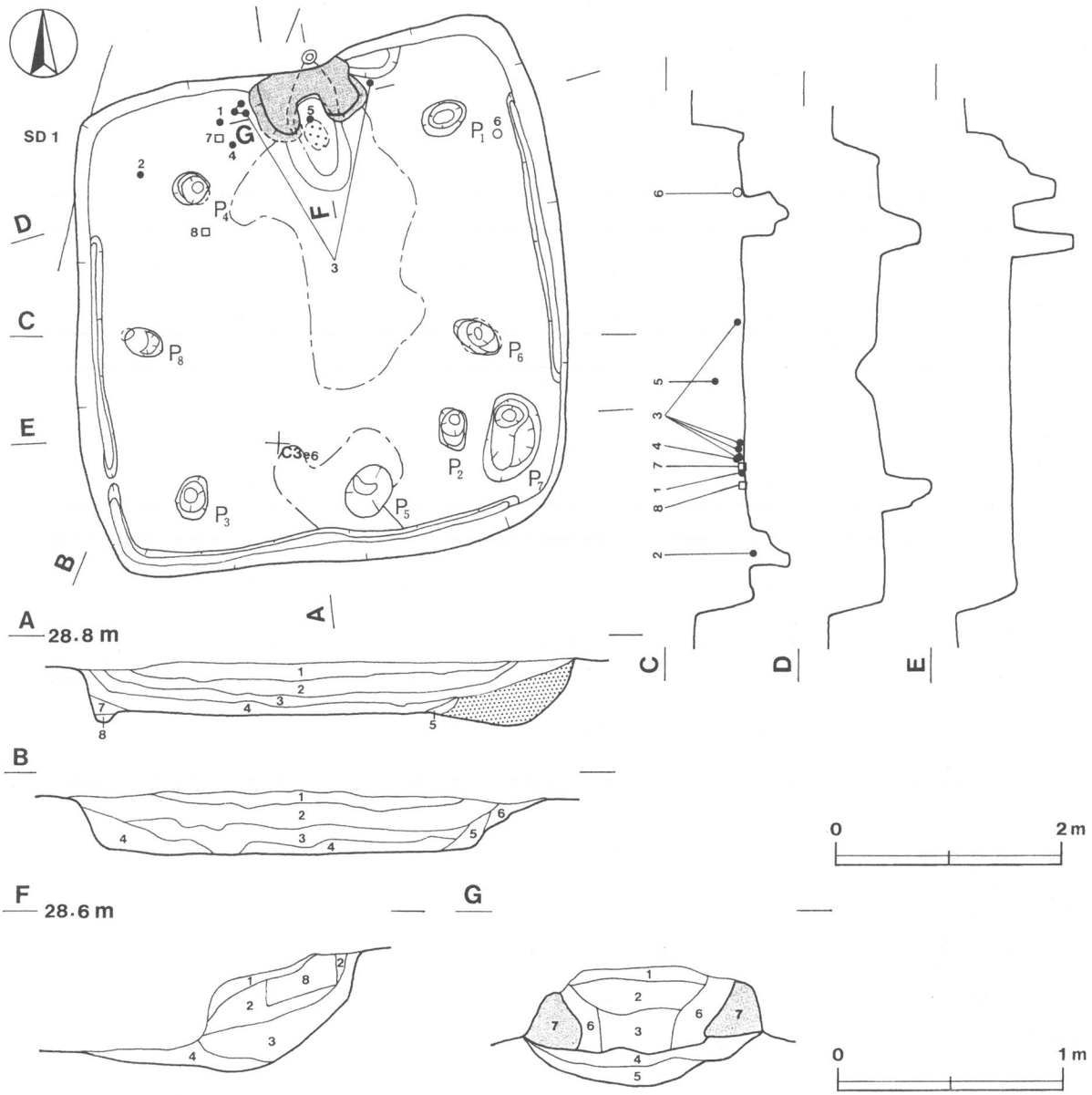
壁　壁高は30～52cmで，垂直に立ち上がる。

壁溝　北東・北西・南東コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅16～28cm，下幅４～８cm，深さ２～３cmで，断面形はU字状である。

床　平坦である。出入口施設から竈にかけて踏み固められている。

ピット　８か所（Ｐ１～Ｐ８）。Ｐ１～Ｐ４は長径31～40cm，短径24～30cmの円形及び楕円形，深さ27～55cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径48cm，短径37cmの楕円形，深さ28cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６～Ｐ８は長径39～79cm，短径26～44cmの楕円形，深さ34～41cmで，位置から主柱穴の補助柱穴と思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部・両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで128cm，最大幅85cm，壁外への掘り込み16cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。



第102図　第19号住居跡実測図

竈土層解説

1	暗褐色	砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土小ブロック中量，砂質粘土中ブロック少量，焼土粒子極微量
2	褐　色	砂質粘土小ブロック多量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子砂質粘土中ブロック少量，炭化材・炭化物微量
3	暗赤褐色	焼土小ブロック・砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・砂質粘土中・小ブロック少量
4	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大・中ブロック少量，焼土粒子極微量
6	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒多量，焼土中ブロック中量，砂質粘土中・小ブロック少量
7	橙　色	砂質粘土塊
8	暗褐色	砂粒多量，砂質粘土小ブロック中量，炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量，焼土小ブロック微量

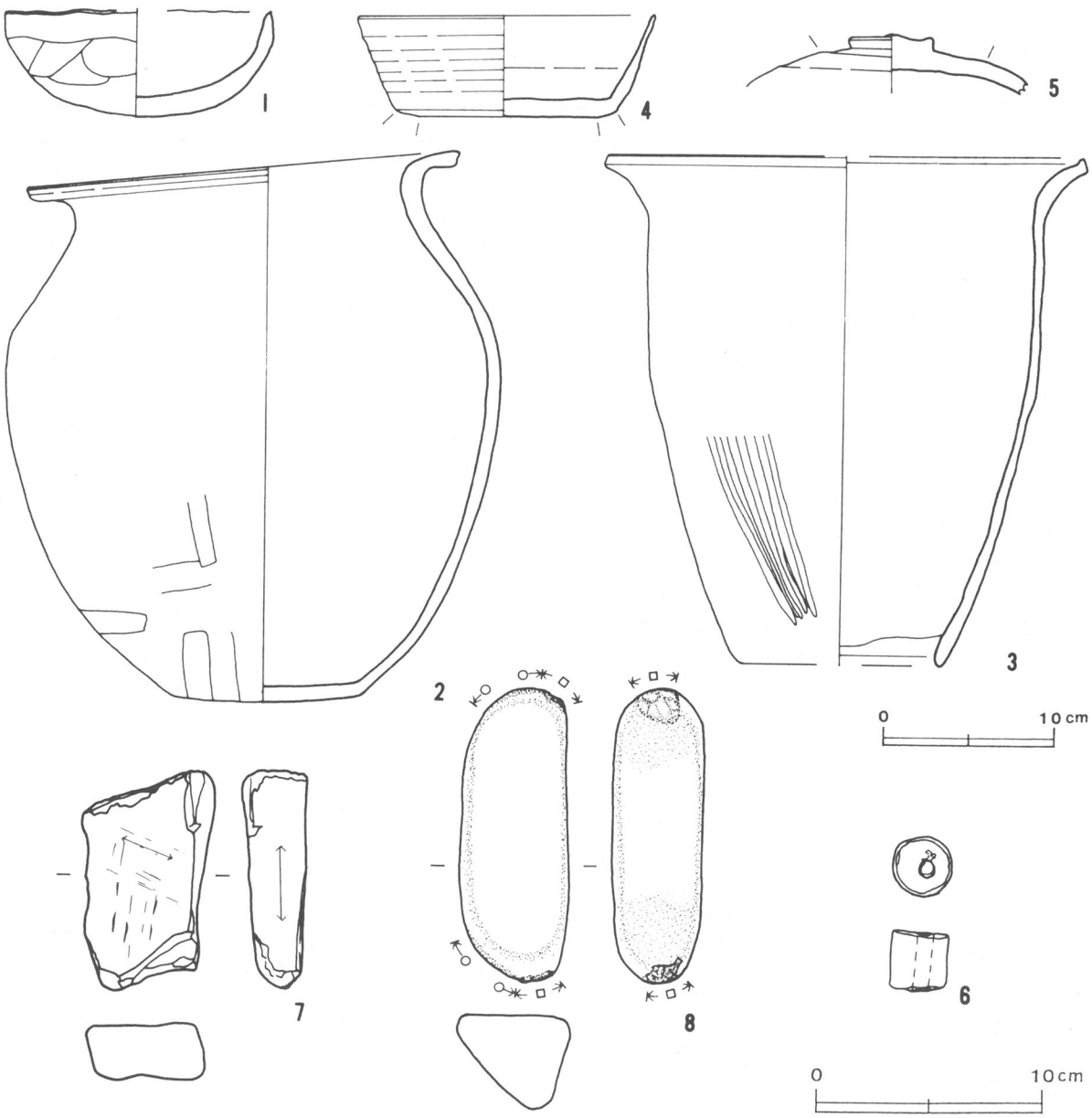
覆土　8層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，炭化物極微量
2	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
6	暗褐色	砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量
8	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物　北西コーナー部を中心に覆土中層から床面にかけて土師器片130点，須恵器片10点，土製品，石器が出土している。第103図１～３は土師器である。１の坏は竈付近の床面，２の甕はＰ４付近の床面，３の甑は竈付近の覆土下層から出土している。４・５は須恵器である。４の坏はＰ４東側の覆土下層，５の蓋は竈付近の覆土中層から出土している。６の管状土錘はＰ１東側の床面，７の砥石はＰ４北側の床面，８の砥石はＰ４南側の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。



第103図　第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第103図 1	坏 土師器	A　[11.6] B　4.7	底部から口縁部片。丸底。底部から内彎気味に立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。	長石，石英，雲母，小礫 橙色 普通	P261，80%　PL23 竈付近床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第103図 2	甕 土師器	A 18.9 B 24.1 C 8.4	体部・口縁部一部欠損。中央がやや丸みをおびた平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部はコの字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位及び横位のヘラナデ。	長石,雲母,小礫,白色粒子 にぶい橙色 普通	P262, 90% PL24 P4付近床面
3	甑 土師器	A [28.0] B 29.7 C [11.8]	体部から口縁部片。無底式。体部はわずかに内彎しながら外傾する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き。	長石,石英,雲母,赤色粒子 橙色 普通	P264, 60% PL24 竈付近覆土下層
4	坏 須恵器	A 13.0 B 4.5 C 7.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は器厚を減じながら外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石，石英，針状鉱物 灰黄色 良好	P265, 80% PL23 P4付近覆土下層
5	蓋 須恵器	B (2.1) F 3.5 G 6.0	天井部片。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石，石英，針状鉱物 灰白色 良好	P267, 10% 竈付近覆土中層

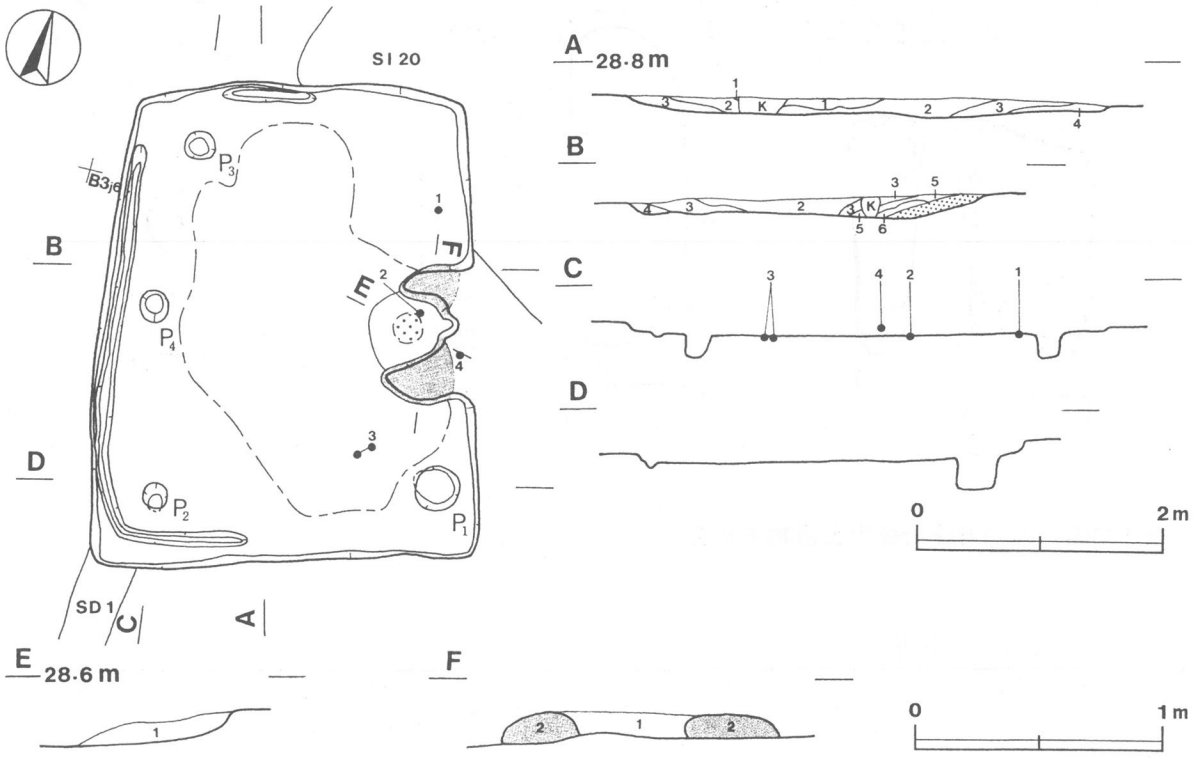
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
6	管状土錘	2.6	2.6	0.7	21.7	P1東側床面	DP108 PL31

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)			
7	砥石	9.5	5.8	2.8	221.9	凝灰岩	P4北側床面	Q46
8	砥石	12.7	4.9	4.0	356.8	砂岩	P4南側床面	Q47

第21号住居跡（第104図）

位置　調査区中央部，B 3 j6区。

重複関係　本跡が，第20号住居跡の南部を掘り込んでおり，南西コーナー部を第１号溝に掘り込まれている。



第104図　第21号住居跡実測図

規模と平面形　長軸3.90m，短軸3.15mの長方形である。

主軸方向　N－78°－E

壁　壁高は３～12cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　東壁及び北壁・南壁の一部を除き，壁下を巡っている。上幅12～20cm，下幅３～７cm，深さ４～６cmで，断面形はU字状である。

床　小さな凹凸があるが，ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１～Ｐ３は長径26～37cm，短径24～36cmの円形及び楕円形，深さ18～25cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ４は長径26cm，短径23cmの楕円形，深さ20cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　東壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで[74]cm，最大幅114cm，壁外への掘り込みは確認できなかった。火床面は床面を４cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，やや外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・砂質粘土少量，ローム小ブロック質微量	
2	暗赤褐色	砂粒多量，砂質粘土中ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量	

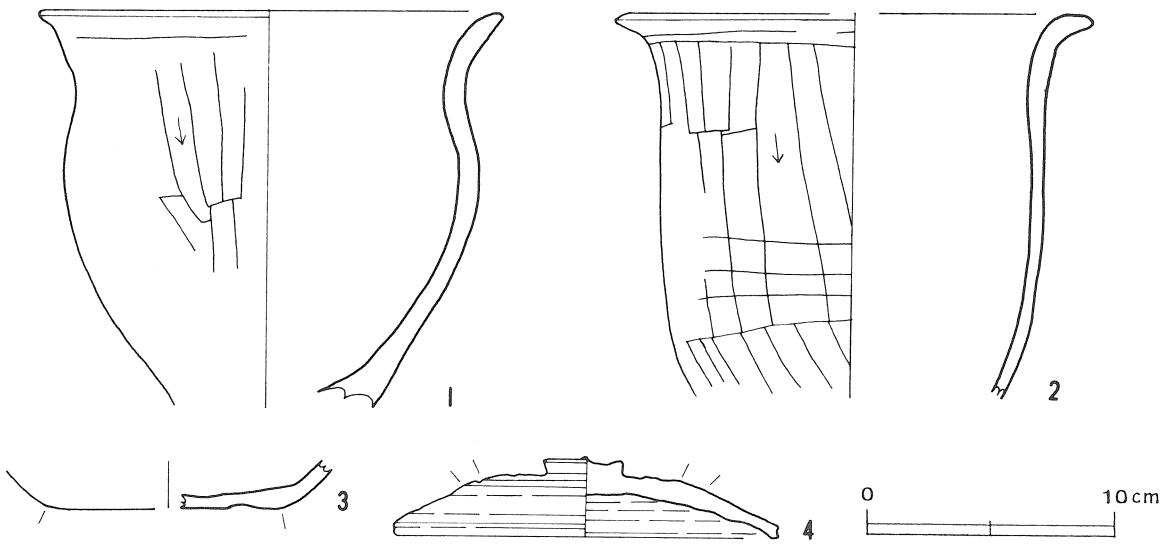
覆土　６層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

1	褐　色	ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，粘土粒子極微量
2	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量	5	灰褐色	焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量	6	暗褐色	炭化物中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量

遺物　中央部の覆土下層から床面にかけて土師器片140点，須恵器片４点が出土している。第105図１・２は土師器である。１の甕は竈北側の床面，２の甑は火床部から出土している。３・４は須恵器である。３の坏は竈南側の床面，４の蓋は竈付近の覆土下層から出土している。

所見　主柱穴を３か所検出したが，４本柱を想定した場合の北東側の主柱穴は検出されなかった。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。



第105図　第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 1	甕 土師器	A 18.3 B (15.8)	体部・口縁部一部欠損片。体部は外傾して立ち上がり，頸部で屈曲して口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラナデ。底部剥離。	長石,石英,雲母,白色粒子 明赤褐色 普通	P201, 90% PL24 竈北側床面
2	甑 土師器	A [19.2] B (15.3)	体部から口縁部片。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位・下位縦位，中位横位のヘラナデ。	長石,石英,雲母,白色粒子 橙色 普通	P202, 30% PL24 竈燃焼部
3	坏 須恵器	B (1.9) C [9.0]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整。	長石，石英，雲母 灰色 良好	P204, 5% 竈南側床面
4	蓋 須恵器	A 15.3 B 3.2 F 3.1 G 6.0	口縁部一部欠損。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲して短く垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石，石英，小礫，針状鉱物 浅黄色 良好	P205, 80% PL24 竈付近覆土下層

第22号住居跡（第106図）

位置　調査区中央部，Ｂ３f7区。

重複関係　本跡は，中央部を第１号溝に，南東コーナー部を第２号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.98m，短軸4.77mの方形である。

主軸方向　Ｎ－０°

壁　壁高は15～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅16～22cm，下幅８～15cm，深さ５～10cmで，断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦である。出入口施設から竈にかけて硬く踏み固められている。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径55～70cm，短径50～65cmの円形及び楕円形，深さ57～70cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径43cm，短径37cmの円形，深さ33cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，東側袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで113cm，最大幅128cm，壁外への掘り込み37cmである。火床面は床面を掘りくぼめていない。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

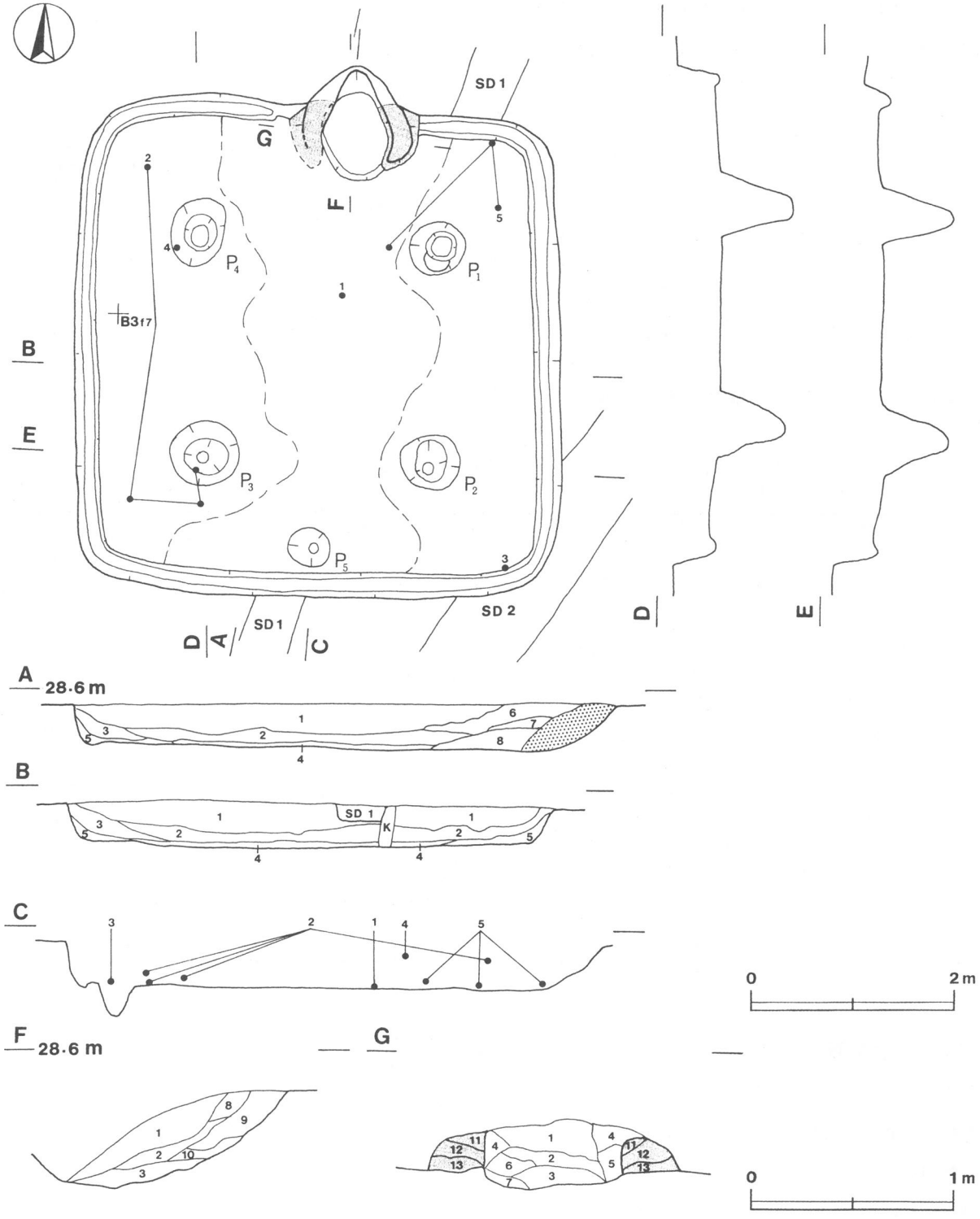
竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，砂質粘土中ブロック微量
3　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土小ブロック中量，砂質粘土大・小ブロック少量
4　褐色　ローム粒子中量，砂質粘土中ブロック・砂粒少量
5　褐色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量
6　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量・ローム中ブロック微量
8　暗褐色　ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，焼土粒子少量
9　暗赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・小礫少量，焼土小ブロック微量
10　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量
11　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土小ブロック微量
12　褐色　砂質粘土中ブロック多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
13　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック・砂粒少量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

覆土　８層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量



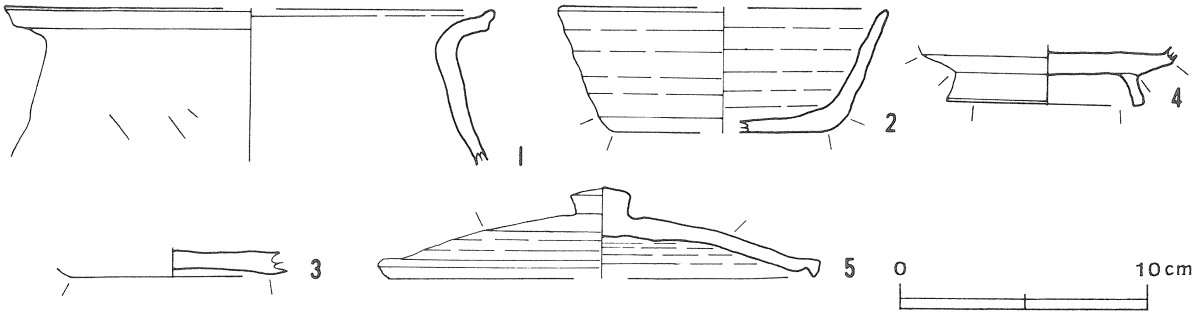
第106図　第22号住居跡実測図

5　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
6　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒極少量
7　暗 褐 色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，炭化物微量
8　暗 褐 色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量

遺物　竈付近を中心に全体の覆土上層から床面にかけて土師器片230点，須恵器片70点，弥生土器片75点，土製品・石器・鉄製品が数点出土している。第107図１の土師器甕は竈南側の床面から出土している。２～５は須恵器である。２の坏はＰ３西側の床面，３の坏は南東コーナー部の床面，４の高台付坏はＰ４付近の覆土中層，

5の蓋は北東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前半と考えられる。



第107図　第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第107図 1	甕 土師器	A［19.6］ B（6.1）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部で屈曲し，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	体部外面斜位のヘラナデ。 口縁部内・外面横ナデ。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P269，5％ 竈南側床面
2	坏 須恵器	A［13.1］ B　5.0 C　8.5	底部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 底部回転ヘラ切り後，ナデ調整。	長石白色粒子針状鉱物 灰色 良好	P270，60％　PL24 P3西側床面
3	坏 須恵器	B（1.0） C　7.9	底部片。平底。	底部回転ヘラ削り。	長石，小礫，白色粒子 黄灰色 良好	P273，50％ 南東ｺｰﾅｰ部床面
4	高台付坏 須恵器	B（2.5） D　7.9 E　1.2	高台部から体部片。底部から屈曲して体部は立ち上がる。高台は内側にあり，ハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石小礫白色粒子針状鉱物 灰色 良好	P274，10％ P4付近覆土中層
5	蓋 須恵器	A［17.2］ B　3.5 F　2.4 G　1.1	天井部から口縁部片。天井頂部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。 外周部・口縁部はロクロナデ。	長石，小礫，白色粒子 灰黄色 良好	P277，50％　PL24 北東ｺｰﾅｰ部覆土下層

第24号住居跡（第108図）

位置　調査区中央部，Ｂ3e3区。

規模と平面形　長軸3.44m，短軸3.34mの方形である。

主軸方向　Ｎ－7°－Ｗ

壁　壁高は17～30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，中央部がややくぼんでいる。出入口施設から竈にかけて踏み固められている。

ピット　7か所（Ｐ1～Ｐ7）。Ｐ1～Ｐ3は長径37～38cm，短径27～30cmの楕円形，深さ14～62cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ4は長径47cm，短径33cmの楕円形，深さ38cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ5～Ｐ7は長径31～38cm，短径20～32cmの楕円形，深さ30～46cmで，Ｐ5・Ｐ6は壁際に配置されていることから壁柱穴，Ｐ7はＰ3の補助柱穴と思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで105cm，最大幅97cm，壁外への掘り込み22cmである。

火床面は床面を6cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・小礫少量，焼土小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
3　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量
4　にぶい褐色　砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土大ブロック少量，ローム小ブロック・炭化物微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　　色　砂質粘土塊

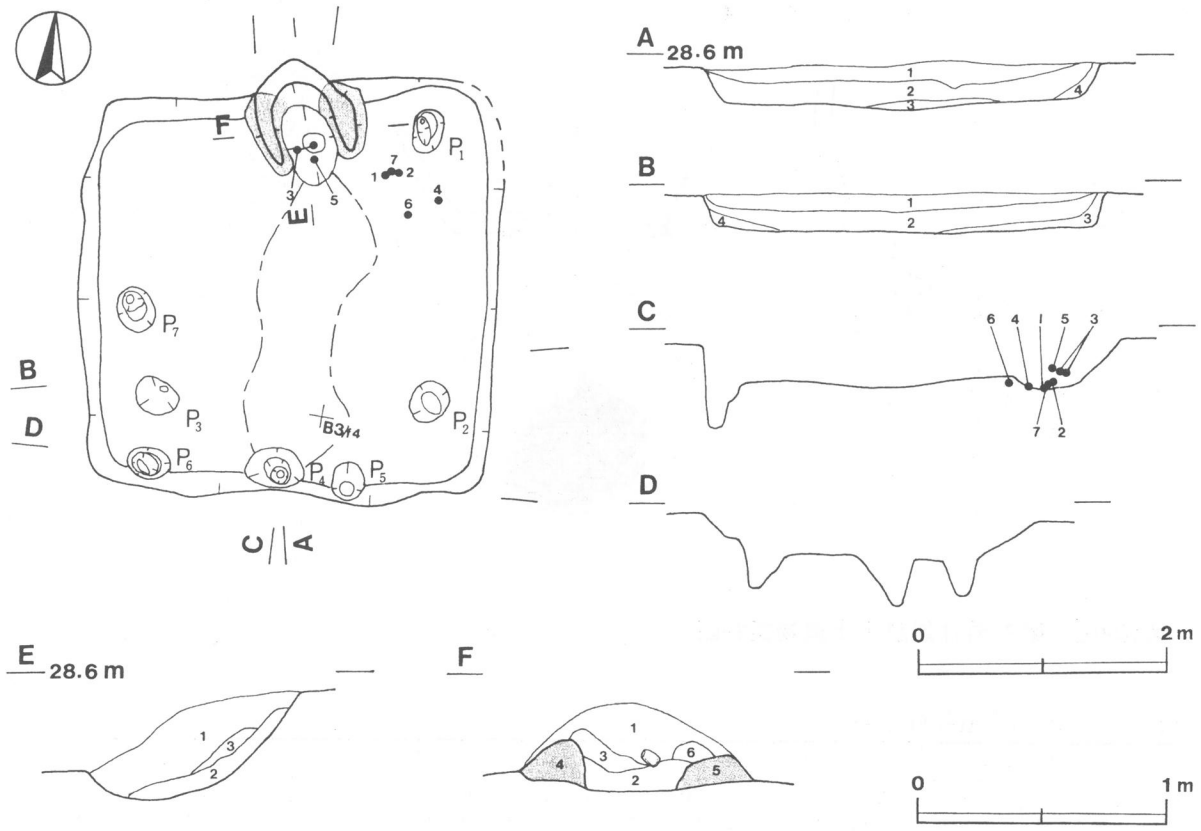
覆土　4層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

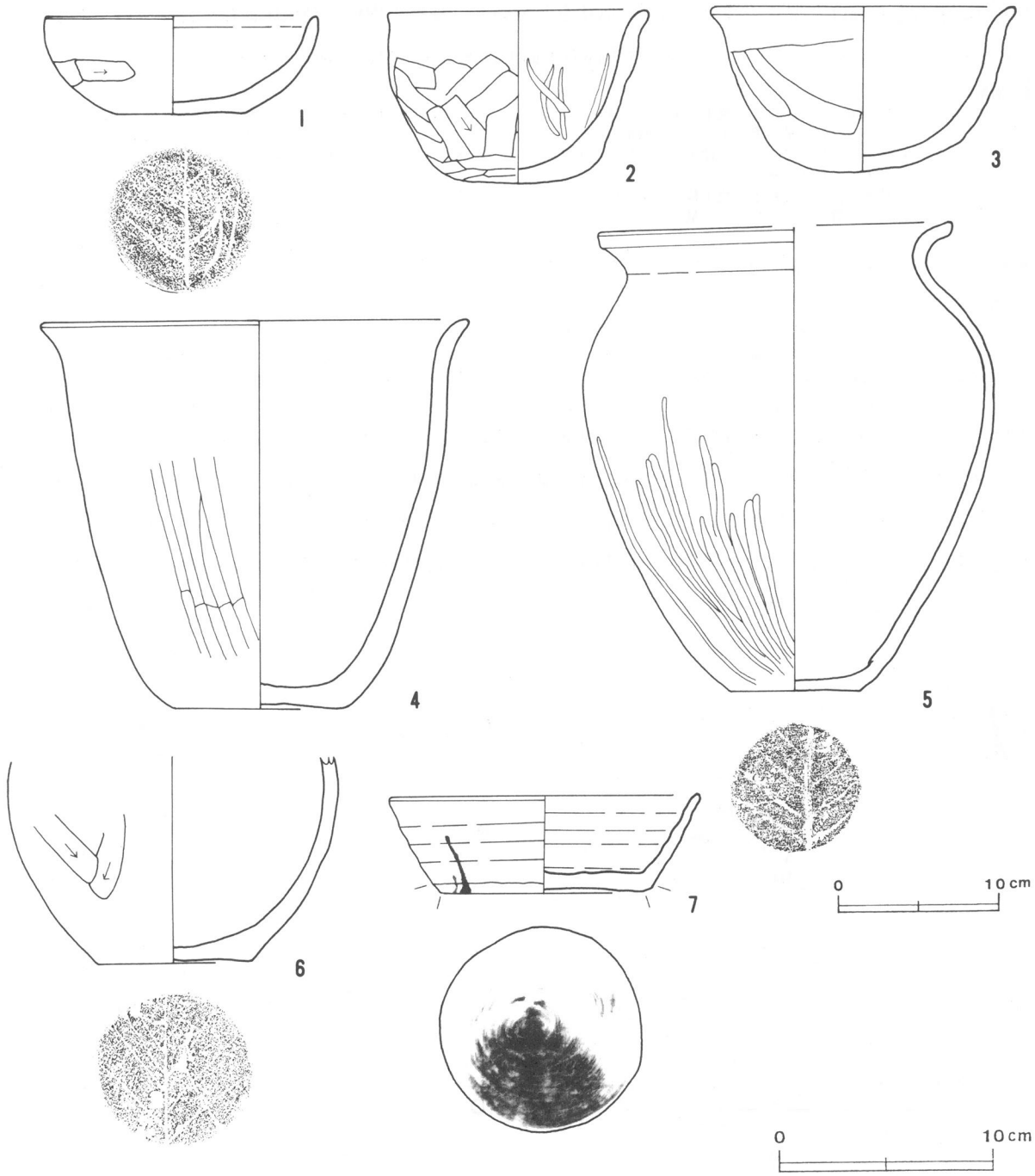
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子・砂粒多量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化物微量

遺物　北部の竈付近を中心に土師器片150点，須恵器片5点，石器3点が出土している。第109図1～6は土師器，7は須恵器である。1の坏，7の坏，2の椀は竈東側の床面から重なり合って出土している。3の椀は焚口部から出土している。4～6は甕で，5は焚口部，4・6は竈東側の床面から出土している。

所見　主柱穴を3か所検出したが，4本柱を想定した場合の北西側の主柱穴は検出されなかった。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前半と考えられる。



第108図　第24号住居跡実測図



第109図　第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第109図 1	坏 土師器	A 12.4 B 4.6 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。底部木葉痕。	長石,石英,雲母,赤色粒子 明褐色 普通	P206, 90% PL25 竈付近床面
2	椀 土師器	A 11.9 B 8.1 C 4.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾し，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位横位，中位斜位のヘラナデ，内面中位縦位のヘラ磨き。底部は一方向のヘラ削り。	長石,石英,雲母,赤色粒子 橙色 普通	P207, 95% PL25 竈付近床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第109図 3	椀 土師器	A 14.0 B 7.7	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラナデ。底部は一方向のヘラ削り。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P435，80% PL25 焚口部
4	甕 土師器	A 19.7 B 18.0 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後，ヘラナデ。底部一方向のヘラ削り。	長石，石英，雲母 にぶい褐色 普通	P208，95% PL25 竈東側床面
5	甕 土師器	A [21.8] B 29.0 C 8.1	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き。底部木葉痕。	長石，石英，雲母，小礫 明黄褐色 普通	P209，95% PL25 焚口部
6	甕 土師器	B (9.4) C 7.0	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面斜位のヘラナデ。底部木葉痕。	長石，石英，雲母 にぶい褐色 普通	P210，10% 竈東側床面
7	坏 須恵器	A 14.2 B 4.5 C 9.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，石英，針状鉱物 灰オリーブ色 良好	P211，80% PL25 竈付近床面

第26号住居跡（第110図）

位置　調査区北部，A 4 f2区。

重複関係　第6号溝に東壁中央部を掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.12m，短軸4.87mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は23～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

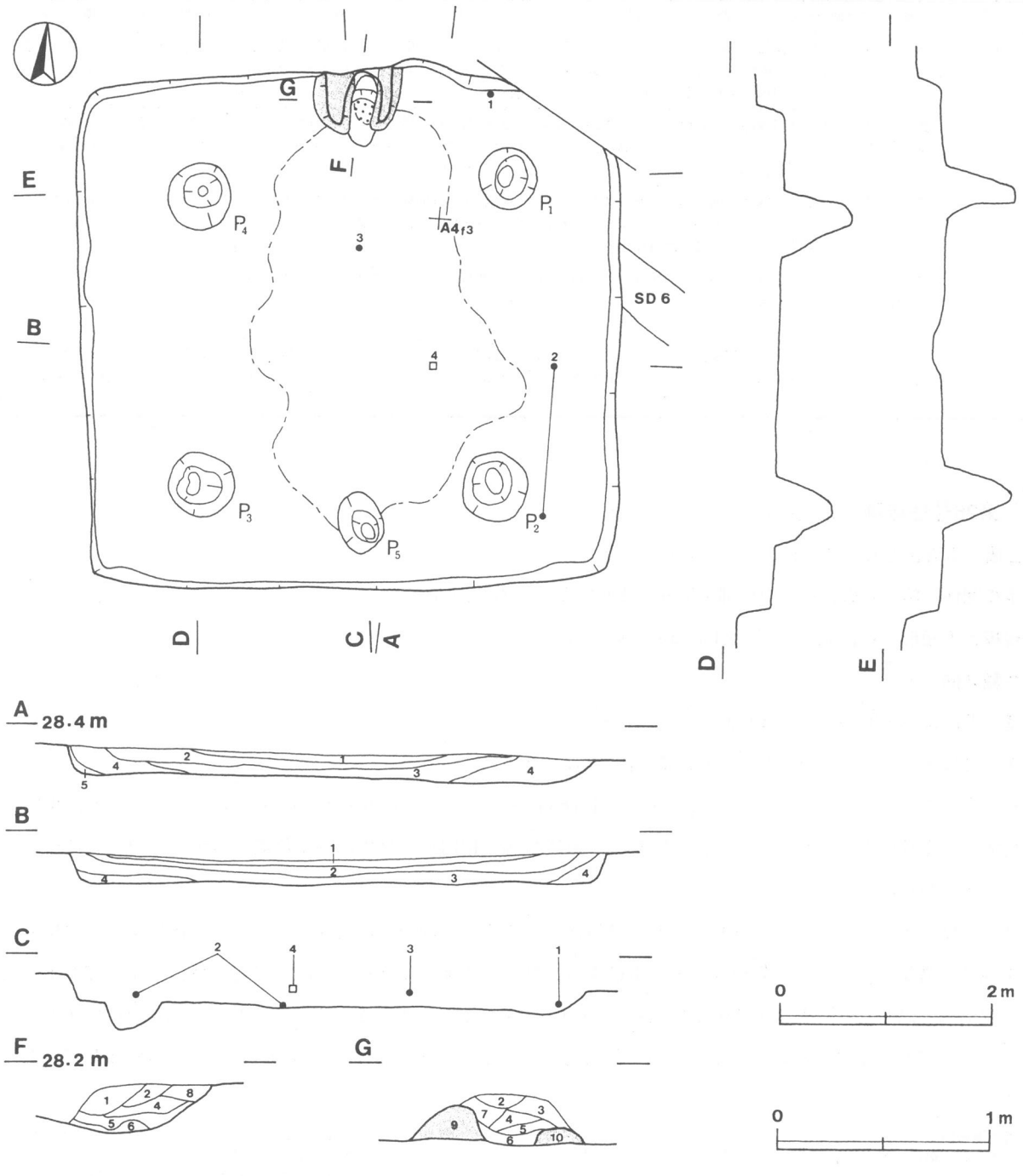
ピット　5か所（P 1～P 5）。P 1～P 4は長径60～67cm，短径55～61cmの楕円形，深さ53～65cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P 5は長径55cm，短径41cmの楕円形，深さ29cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，木の根による撹乱のため推定であるが，煙道部から焚口部まで[73]cm，最大幅84cmと思われる。火床面は床面を7cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

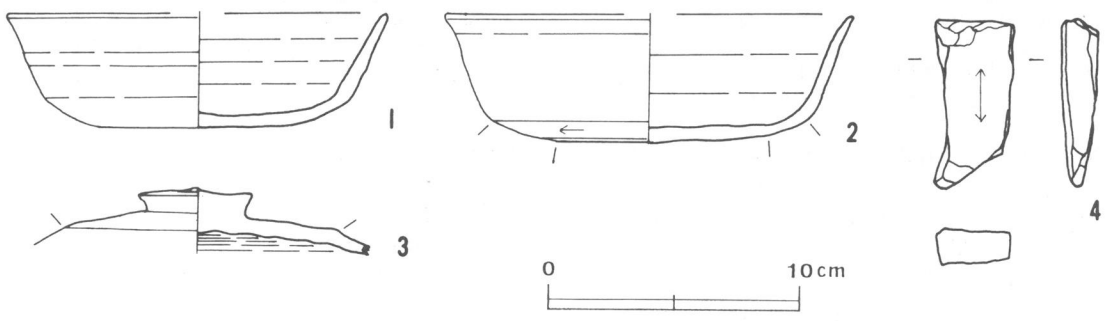
竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子・砂質粘土大・中ブロック・砂粒中量，ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土大ブロック・砂粒多量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック中量
3　暗褐色　砂質粘土大ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
5　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム中ブロック・焼土中・小ブロック・砂質粘土中ブロック少量
6　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量
7　にぶい赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量，ローム小ブロック微量
8　褐色　ローム粒子・砂粒多量
9　褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・小礫少量，焼土粒子微量
10　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量，焼土粒子微量

覆土　5層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐色　ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック微量，炭化粒子極微量
4　明褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
5　明褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量



第110図　第26号住居跡実測図



第111図　第26号住居跡出土遺物実測図

遺物　南部を中心に覆土中層から床面にかけて土師器片110点，須恵器片14点，土製品１点，石器２点が出土している。第111図１・２は須恵器坏で，２はＰ２北部の床面，１は竈東側の覆土下層から出土している。３の須恵器蓋は竈南側の覆土中層，４の砥石は中央部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第111図 1	坏 須恵器	A［15.3］ B　4.4 C　9.7	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	長石,石英,雲母,白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P280，70%　PL25 竈東側覆土下層
2	坏 須恵器	A［16.2］ B　5.1 C［10.0］	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端右回りの回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石,石英,雲母,針状鉱物 灰白色 良好	P279，80%　PL25 P2北部床面
3	蓋 須恵器	B（2.6） F　4.5 G　1.0	口縁部欠損。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。	長石，石英，雲母 灰白色 良好	P281，60% 竈南側覆土中層

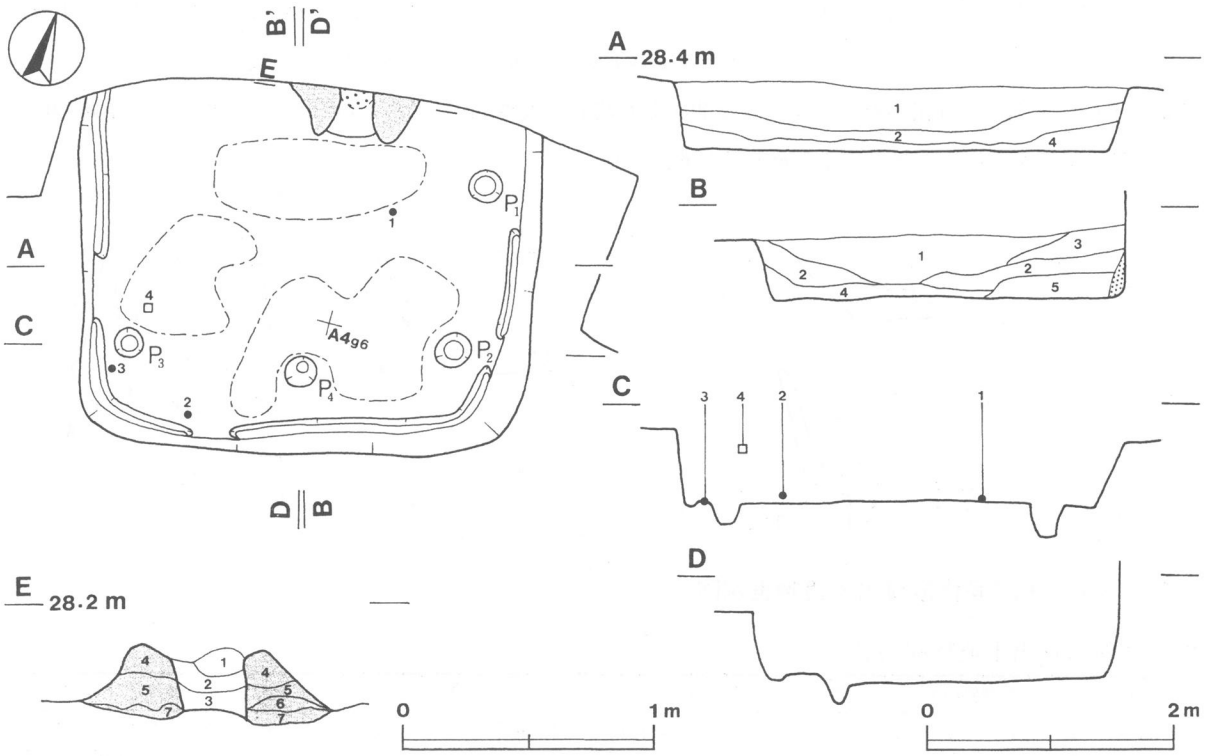
図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	砥　石	6.7	3.3	1.4	38.2	砂岩	中央部覆土中層	Q50

第27号住居跡（第112図）

位置　調査区北部，Ａ４g5区。

規模と平面形　北壁の一部が調査区域外のため，長軸3.66m，短軸(3.00)mで長方形と思われる。

主軸方向　Ｎ－11°－Ｗ



第112図　第27号住居跡実測図

壁　壁高は50～62cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北壁及び東壁・南壁・西壁の一部を除き，壁下を巡っている。上幅19～25cm，下幅４～８cm，深さ２～５cmで，断面形はU字状である。

床　ほぼ平坦である。出入口施設周囲と竈付近が踏み固められている。

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１～Ｐ３は長径24～30cm，短径24～27cmの円形及び楕円形，深さ17～25cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ４は径24cmの円形，深さ26cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　撹乱のため推定の域をでないが，火床部の一部が確認されたため，北壁中央部からやや東側に付設されていたと思われる。覆土から袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されていたと思われる。規模は，煙道部から焚口部まで(32)cm，最大幅(102)cm，壁外への掘り込みは不明である。平面形は，床面に残った粘土及び掘り方から推定したものである。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック・砂粒少量	4	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土中・小ブロック砂粒中量，焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂質粘土小ブロック砂粒少量，焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂質粘土小ブロック・砂粒少量，焼土中ブロック・小礫微量	6	暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
			7	明褐色	ソフトローム塊

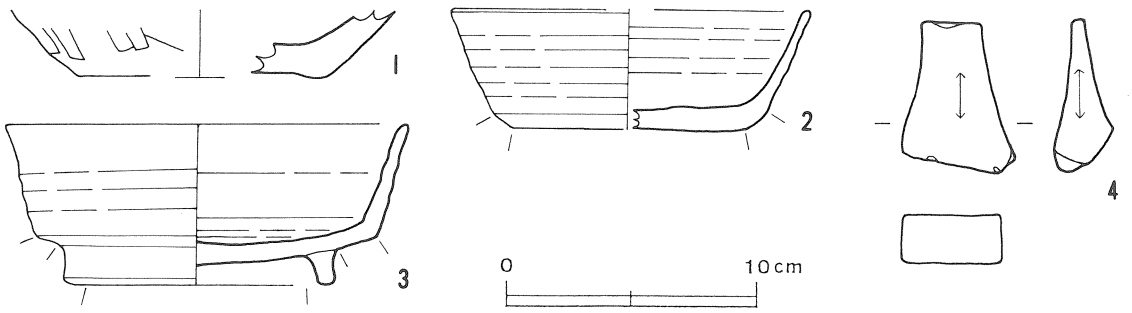
覆土　５層からなる。ロームブロックを多く含むことから埋め戻しの可能性があり，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量	3	褐色	ローム粒子中少量，焼土粒子・炭化物微量，炭化材・炭化粒子極微量
2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・鹿沼粒子極微量	4	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・鹿沼粒子極微量
			5	暗褐色	ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・砂粒極微量

遺物　南部の覆土中層から床面にかけて土師器片，須恵器片，弥生土器片，石器が出土している。第113図１の土師器甕はＰ１南西部の床面から出土している。２・３は須恵器で，２の坏と３の高台付坏は南西コーナー部の覆土下層と床面から出土している。４の砥石はＰ３北東部の覆土中層から出土している。

所見　主柱穴を３か所検出したが，４本柱を想定した場合の北西側の主柱穴は検出されなかった。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。



第113図　第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 1	甕 土師器	B （2.7） C ［9.8］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラナデ。底部ヘラ削り。	長石，石英，雲母にぶい橙色 普通	P283，5% P1南西部床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第113図 2	坏 須恵器	A　[14.2] B　4.8 C　[9.2]	底部から口縁部片。平底。体部は器厚を減じながら，外傾して立ち上がる。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，小礫，白色粒子 灰黄色 良好	P284，45% 南西ｺｰﾅｰ部覆土下層
3	高台付坏 須恵器	A　15.9 B　6.4 C　10.3 E　1.4	口縁部・体部一部欠損。体部は下位に稜を有し外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。高台はほぼ垂下する。接地面は平ら。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後,高台貼り付け。	長石，石英，小礫 灰白色 良好	P285，90%　PL25 南西ｺｰﾅｰ部床面

図版番号	種　別	計　測　値				石　質	出　土　地　点	備　考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)			
4	砥　石	6.1	4.6	2.4	54.4	凝灰岩	P 3 北東部覆土中層	Q52

第31号住居跡（第114図）

位置　調査区中央部，B 3 c5区。

重複関係　北西コーナー部を第４号溝に，北東コーナー部を第81号住居跡に掘り込まれ，第30号住居跡の北西コーナー部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸7.90m，短軸7.80mの方形である。

主軸方向　N－９°－W

壁　壁高は52～62cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　竈を除き，全周している。上幅15～37cm，下幅10～15cm，深さ７～10cmで，断面形はU字状である。

床　小さな凹凸があるが，ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。貼り床である。

貼り床土層解説
11　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量
12　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・鹿沼中ブロック・鹿沼粒子中量
13　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック多量，ローム粒子中量

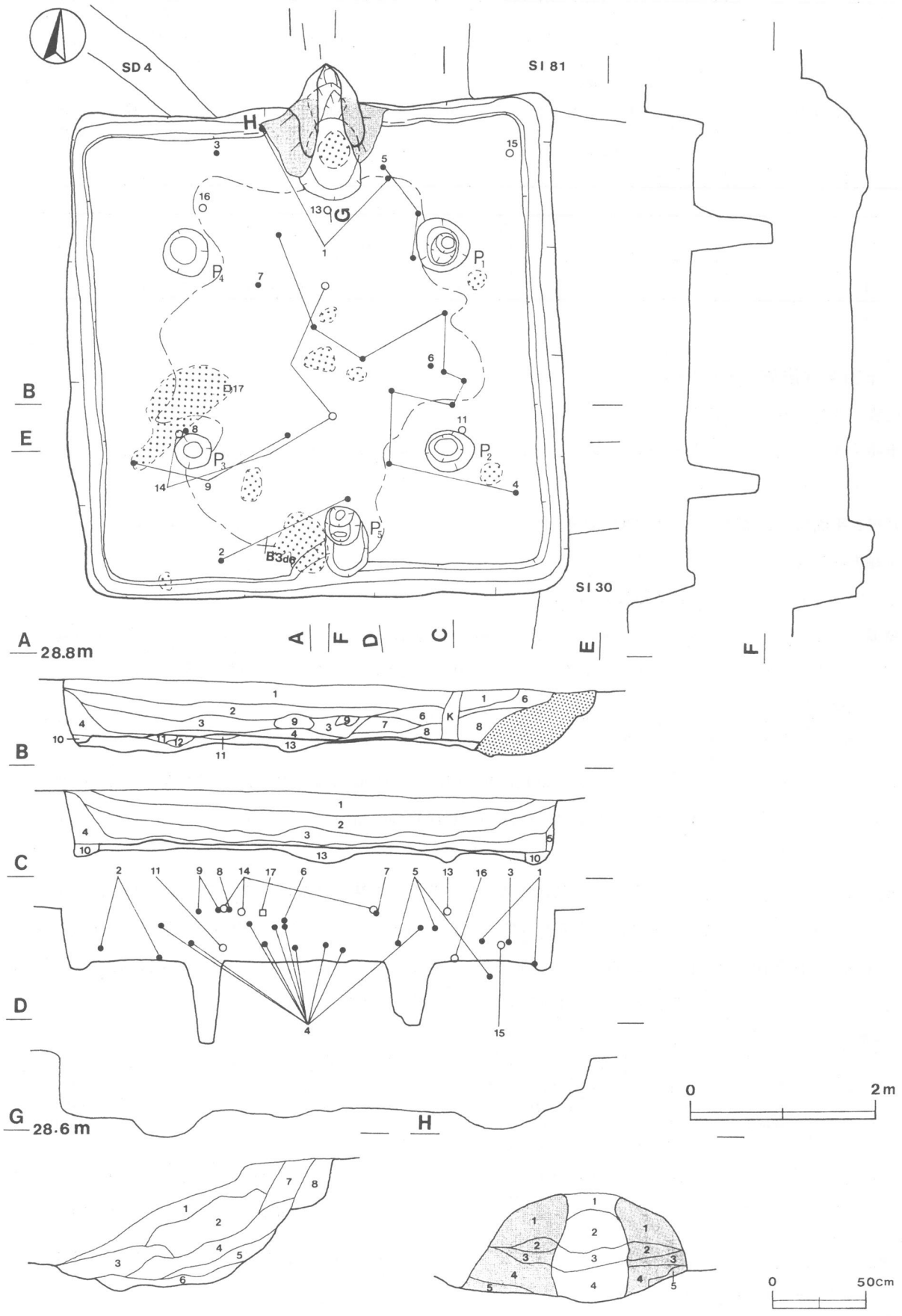
ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径40～61cm，短径36～53cmの円形及び楕円形，深さ68～87cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径76cm，短径44cmの楕円形，深さ30cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで150cm，最大幅123cm，壁外への掘り込み45cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変し，硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

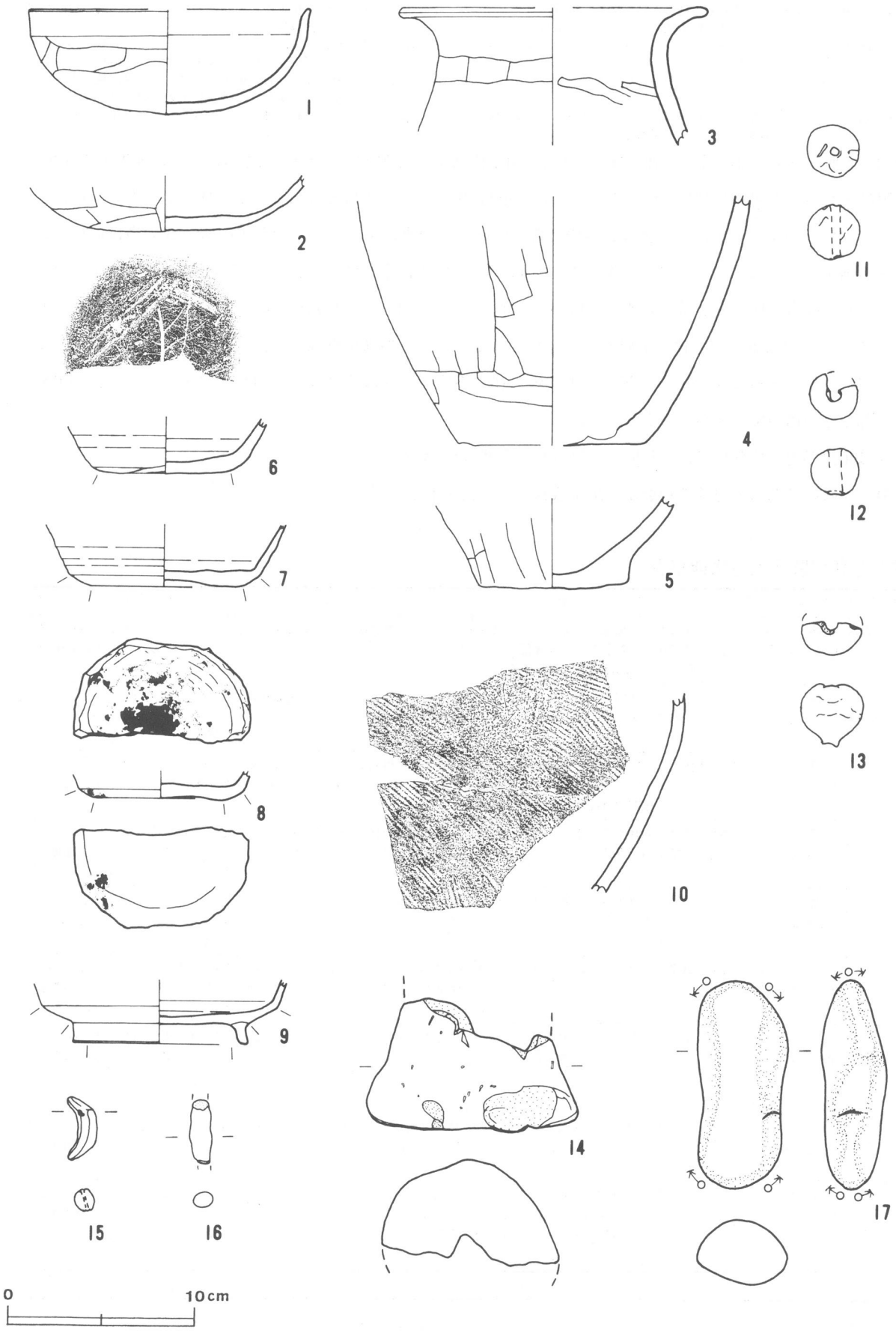
竈土層解説
1　褐　　色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量，砂質粘土中ブロック・小礫少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，焼土粒子・砂質粘土大ブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・小礫微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・砂質粘土中・小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
7　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子・小礫少量，炭化物微量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・砂粒中量，ローム中ブロック少量

覆土　10層からなる。上層・中層はレンズ状を呈すことから自然堆積，下層は床面から焼土塊が検出されたことから人為堆積の可能性も考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量，焼土小ブロック極微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量



第114図　第31号住居跡実測図



第115図　第31号住居跡出土遺物実測・拓影図

3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子極微量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・炭化粒子・小礫少量，焼土粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
8　暗褐色　砂粒多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土大・中ブロック・炭化物・砂質粘土大ブロック少量
10　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物　北西コーナー部を除く全体の覆土上層から床面にかけて土師器片600点，須恵器片60点，弥生土器片40点，土製品・石器・不明鉄製品数点が出土している。第115図１～５は土師器である。１の坏は竈袖部の床面，２の椀はＰ５付近の覆土下層，３の甕は竈西側の覆土中層，４の甕は中央部付近の覆土中層，５の甕は竈付近の床面から出土している。６～９は須恵器である。６の坏はＰ２北側の覆土上層，７の坏は竈南側の覆土上層，８の坏，９の高台付坏はＰ３付近の覆土上層から出土している。11～13は球状土錘で，11はＰ２北側の覆土中層，12は覆土中，13は竈南側の覆土上層から出土している。14の支脚は中央部やや南側の覆土上層から出土している。15の土製勾玉は北東コーナー部の覆土中層，16の不明土製品は竈付近の床面から出土してる。17の磨石は中央部やや西側の覆土上層から出土している。

10は須恵器甕の体部片で，平行叩きが施され，自然釉がかかる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	坏 土師器	A［15.0］ B 5.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。端部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。	長石，雲母,白色粒子 にぶい黄橙色 普通	Ｐ286，30% 竈袖部床面
2	椀 土師器	B（2.9） C［7.0］	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部外面横位のヘラナデ。底部木葉痕。	長石，石英，雲母 浅黄橙色 普通	Ｐ288，30% PL26 P5付近覆土下層
3	甕 土師器	A［16.3］ B（7.3）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ，内面横位のヘラナデ。	長石,石英,雲母,針状鉱物 明赤褐色 普通	Ｐ289，５% 竈西側覆土中層
4	甕 土師器	B（13.0） C［10.1］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位横位のヘラ削り，中位縦位のヘラナデ。底部ヘラ切り後，ナデ。	長石，石英，雲母，小礫 にぶい黄橙色 普通	Ｐ293，20% PL26 中央部覆土中層
5	甕 土師器	B（4.8） C 8.0	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石，石英，雲母，小礫 褐色 普通	Ｐ294，５% 竈付近床面
6	坏 須恵器	B（2.8） C 7.0	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石，小礫，白色粒子 褐灰色 良好	Ｐ295，10% P2北側覆土上層
7	坏 須恵器	B（3.3） C 8.0	底部から体部片。平底。体部下端に稜を有し外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石,石英,小礫,針状鉱物 灰オリーブ色 良好	Ｐ296，40% 竈南側覆土上層
8	坏 須恵器	B（1.3） C［7.0］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。転用硯。	体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。底部外に墨付着。	長石，小礫，針状鉱物 灰色 良好	Ｐ298，10% PL25 P3付近覆土上層
9	高台付坏 須恵器	B（3.4） D 9.4 E 1.1	高台部から体部片。体部は下位に稜を有し，やや外傾して立ち上がる。高台は底部外周にあり，わずかにハの字状に開く。設置面は平ら。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。底部ヘラ記号。	長石,石英,小礫,白色粒子 灰色 良好	Ｐ299，10% PL25 P3付近覆土上層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
11	球状土錘	2.8	3.0	0.4	19.8	Ｐ2北側覆土中層	DP110

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第115図12	球状土錘	2.5	2.4	0.6	(9.4)	覆土中	DP111
13	球状土錘	(3.2)	3.3	−	(13.6)	竈南側覆土上層	DP112
15	勾玉	1.0	3.4	0.1	(4.7)	北東コーナー部覆土中層	DP115 PL31
16	不明土製品	1.1	(3.4)	−	(3.9)	竈付近床面	DP116

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	径 (cm)	重量(g)		
14	支脚	(7.1)	11.3	(314.1)	中央部覆土上層	DP114

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)			
17	磨石	11.0	4.8	3.5	231.2	砂岩	中央部覆土上層	Q54

第34号住居跡（第116図）

位置　調査区中央部，Ｂ３a5区。

規模と平面形　長軸4.39m，短軸4.01mの方形である。

主軸方向　Ｎ－29°－Ｅ

壁　壁高は55～67cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南西コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅28～45cm，下幅５～10cm，深さ２～７cmで，断面形はＵ字状である。

床　ロームブロックを混ぜた貼り床であり，ほぼ平坦である。出入り口施設と竈付近は硬く踏み固められている。

貼り床土層解説

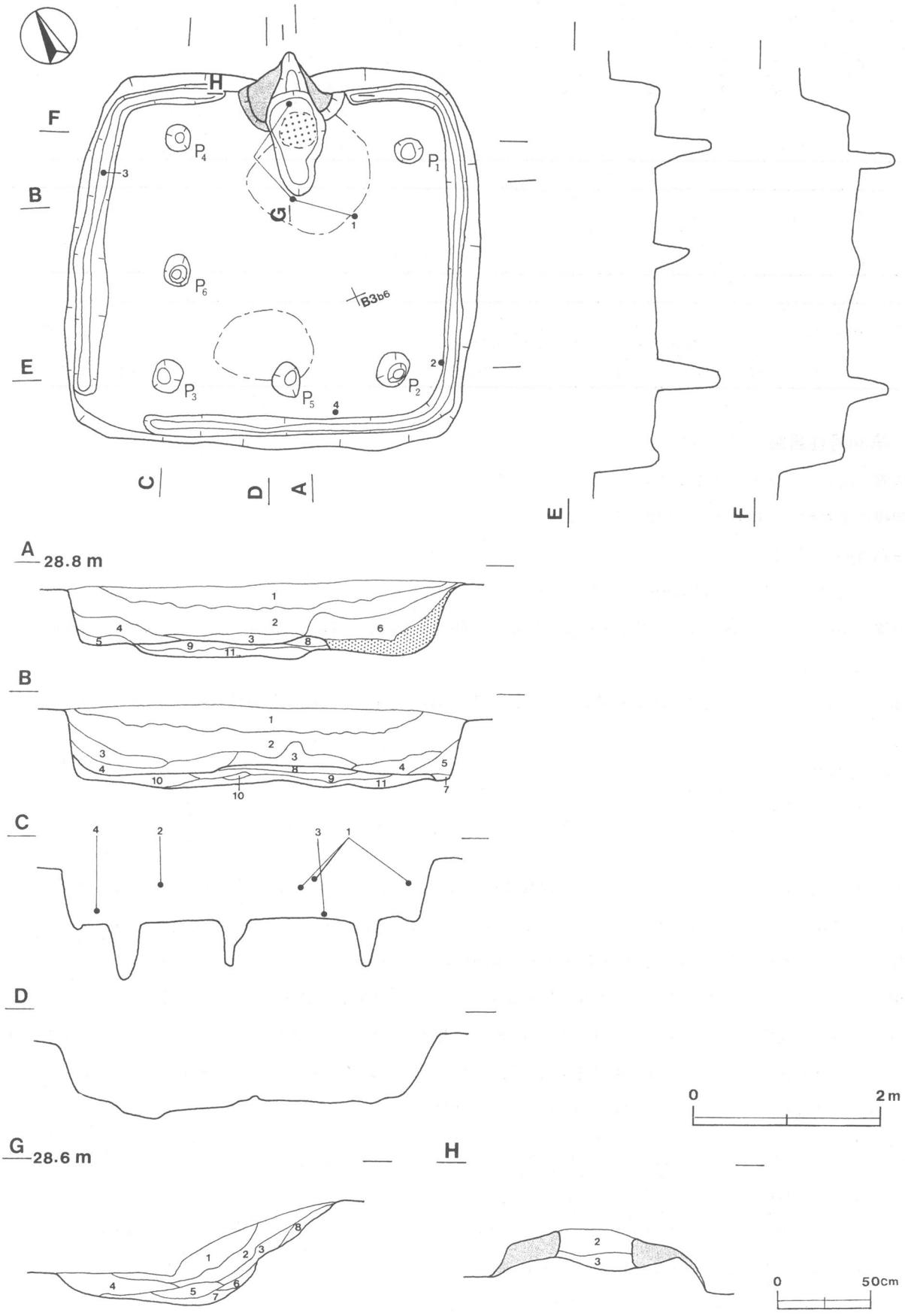
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
9　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
10　暗褐色　ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子極微量
11　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子極微量

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は長径30～37cm，短径27～31cmの円形及び楕円形，深さ53～60cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径40cm，短径31cmの楕円形，深さ38cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６は位置から主柱穴の補助柱穴と思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は砂質粘土で構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで115cm，最大幅155cm，壁外への掘り込み29cmである。火床面は床面を６cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，底から中位まではやや外傾し，上面までは大きく外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　褐色　ローム粒子・砂粒多量，ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
2　褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子砂質粘土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化物微量，ローム大ブロック極微量
3　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック中量，砂粒少量，焼土中ブロック微量
6　褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量，砂質粘土中ブロック微量
7　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量
8　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量



第116図　第34号住居跡実測図

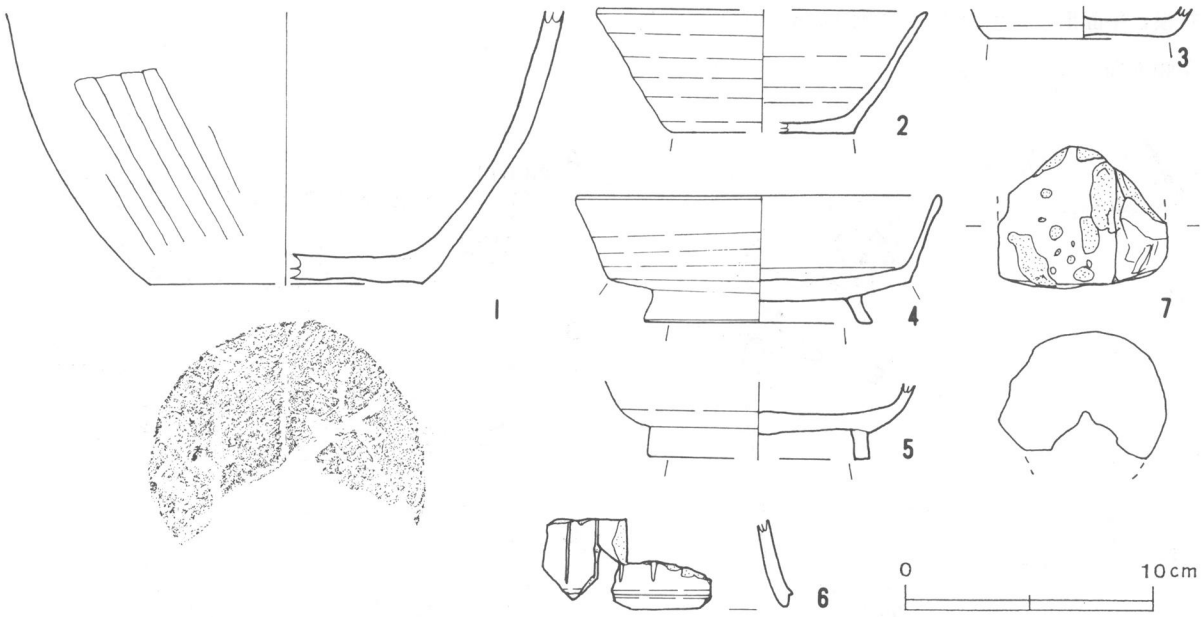
覆土　7層からなる。上層・中層は，ロームブロックを多量に含むことから埋め戻しの可能性があり人為堆積，下層はレンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・砂粒少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量，ローム中ブロック極微量
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量，焼土小ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化物微量
6　褐　色　ローム粒子多量，粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，粘土小ブロック少量，ローム大・中ブロック微量

遺物　竈付近を中心に覆土中層から覆土下層にかけて土師器片350点，須恵器片120点，石器数点が出土している。第117図1は土師器甕で，竈付近の覆土中層から出土している。2～6は須恵器である。2の坏は南東コーナー部の覆土中層，3の坏は西壁際の覆土下層，4の高台付坏はP5東側の覆土下層，5の高台付坏は西部の覆土中，6の円面硯は南部の覆土中から出土している。7の支脚は遺構確認面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前半と考えられる。



第117図　第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 1	甕 土師器	B　(10.8) C　11.0	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラナデ。底部木葉痕。	長石,石英,雲母,白色粒子 にぶい橙色 普通	P303，5％ 竈付近覆土中層
2	坏 須恵器	A　[13.0] B　4.9 C　[7.4]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部，体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，針状鉱物 灰色 良好	P304，10％ 南東ｺｰﾅｰ部覆土中層
3	坏 須恵器	B　(1.2) C　7.3	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，石英，小礫 褐灰色 良好	P305，10％ 西壁際覆土下層
4	高台付坏 須恵器	A　14.5 B　5.2 C　9.2 E　1.1	口縁部・体部一部欠損。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台は底部外周にあり，ハの字状に開く。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石,石英,小礫,針状鉱物 灰色オリーブ 良好	P306，80％ PL26 P5東側覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第117図 5	高台付坏 須恵器	B　(3.0) D　[8.8] E　1.2	高台部から体部片。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がる。高台は底部外周にあり，わずかにハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英，小礫 黄灰色 良好	P307，5％ 南部覆土中
6	円面硯 須恵器	B　(3.5)	脚部片。脚部はハの字状に開き，平行な縦位の刻みがある。	脚部内・外面ロクロナデ。	長石，白色粒子 灰色 良好	P309，5％ 南部覆土中

図版番号	種　　別	計　　測　　値			出　土　地　点	備　　考
		長　さ(cm)	径　(cm)	重　量(g)		
7	支　　脚	(5.5)	6.8	(147.7)	遺構確認面	DP117

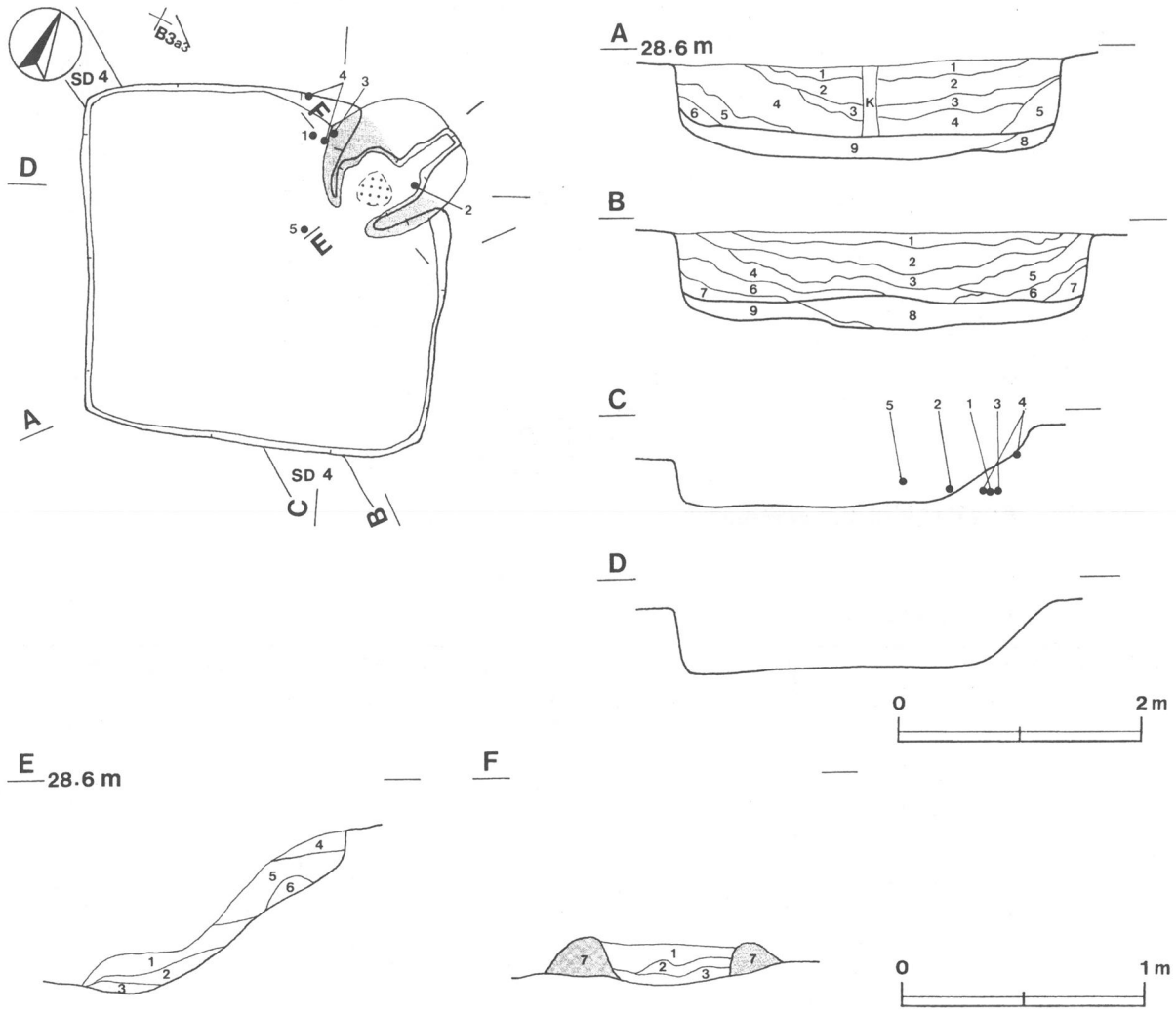
第37号住居跡（第118図）

位置　調査区中央部，B 3 a3区。

重複関係　中央部を第 4 号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸2.96m，短軸2.95mの方形である。

主軸方向　N－22°－W



第118図　第37号住居跡実測図

壁　壁高は52～58cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　貼り床であり，ほぼ平坦である。

貼り床土層解説

8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

9　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量

竈　北東コーナー部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで116cm，最大幅110cm，壁外への掘り込み52cmである。火床面は床面とほぼ同レベルである。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，やや外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量

2　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック少量，炭化物微量

3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック小量

4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量

5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量

6　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，砂質粘土微量，炭化粒子極微量

7　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中・小ブロック少量，炭化材微量

覆土　7層からなる。堆積状況は，レンズ状に呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量

2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中・小ブロック・炭化物・鹿沼粒子微量

4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

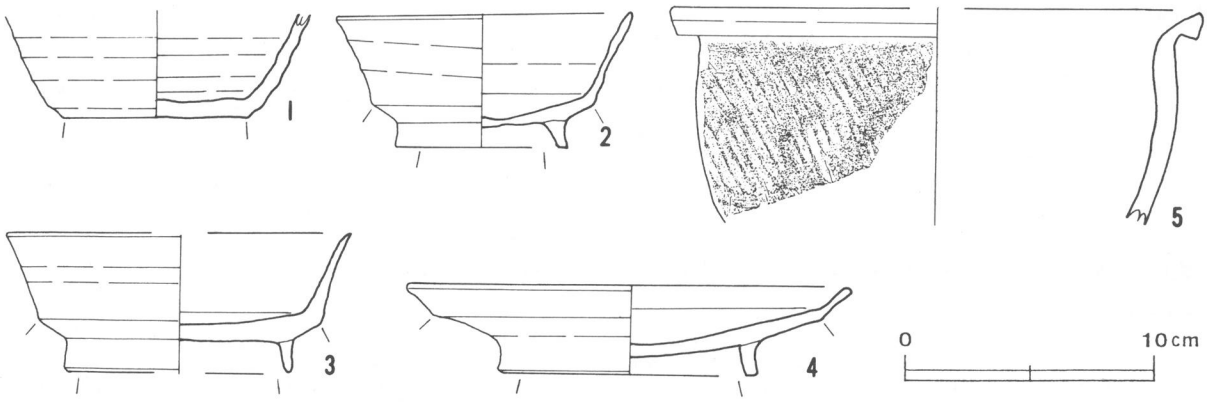
5　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム大・小ブロック・焼土粒子微量

6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量

7　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　竈付近を中心に覆土中層から床面にかけて土師器片130点，須恵器片40点，弥生土器片15点が出土している。第119図1～5は須恵器である。1の坏と4の盤は竈西側の床面，2の高台付坏は竈右袖部覆土下層，3の高台付坏は竈西側の床面，5の甕は中央部やや北側の覆土中層から出土している。

所見　本跡から主柱穴は1か所も検出されなかった。時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前半と考えられる。



第119図　第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119図 1	坏 須恵器	B　(4.1) C　7.3	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，石英，小礫 灰色 良好	P313，40% 竈西側床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第119図 2	高台付坏 須恵器	A　11.7 B　5.4 D　6.8 E　1.0	口縁部一部欠損。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台は底部外周にあり，わずかにハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英，針状鉱物 灰色 良好	P314，85%　PL25 竈右袖部覆土下層
3	高台付坏 須恵器	A　[13.8] B　5.6 D　[8.8] E　1.3	高台部・口縁部一部欠損。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。高台は底部外周にあり，わずかにハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，小礫，白色粒子 褐灰色 良好	P315，60%　PL26 竈西側床面
4	盤 須恵器	A　17.6 B　3.6 D　10.4 E　1.4	口縁部一部欠損。体部はやや内彎して外方に開き，屈曲して口縁部に至る。口縁部は軽く外反する。高台はわずかに外方へふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，小礫，白色粒子 灰オリーブ色 良好	P316，90%　PL26 竈西側床面
5	甕 須恵器	A　[21.2] B　(8.6)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，屈曲して口縁部に至る。口縁部は外反し，断面は三角形である。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き。	長石，雲母，小礫，白色粒子 黄灰色 良好	P317，5% 中央部覆土中層

第38号住居跡（第120図）

位置　調査区西部，B 2 j0区。

規模と平面形　一辺3.97mの方形である。

主軸方向　N－16°－E

壁　壁高は35～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，東部がやや低い。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　5か所（P 1～P 5）。P 1～P 4は長径40～54cm，短径33～47cmの楕円形，深さ36～64cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P 5は長径41cm，短径35cmの楕円形，深さ36cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　東壁中央部からやや北側に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで113cm，最大幅122cm，壁外への掘り込み23cmである。火床面は床面を8cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

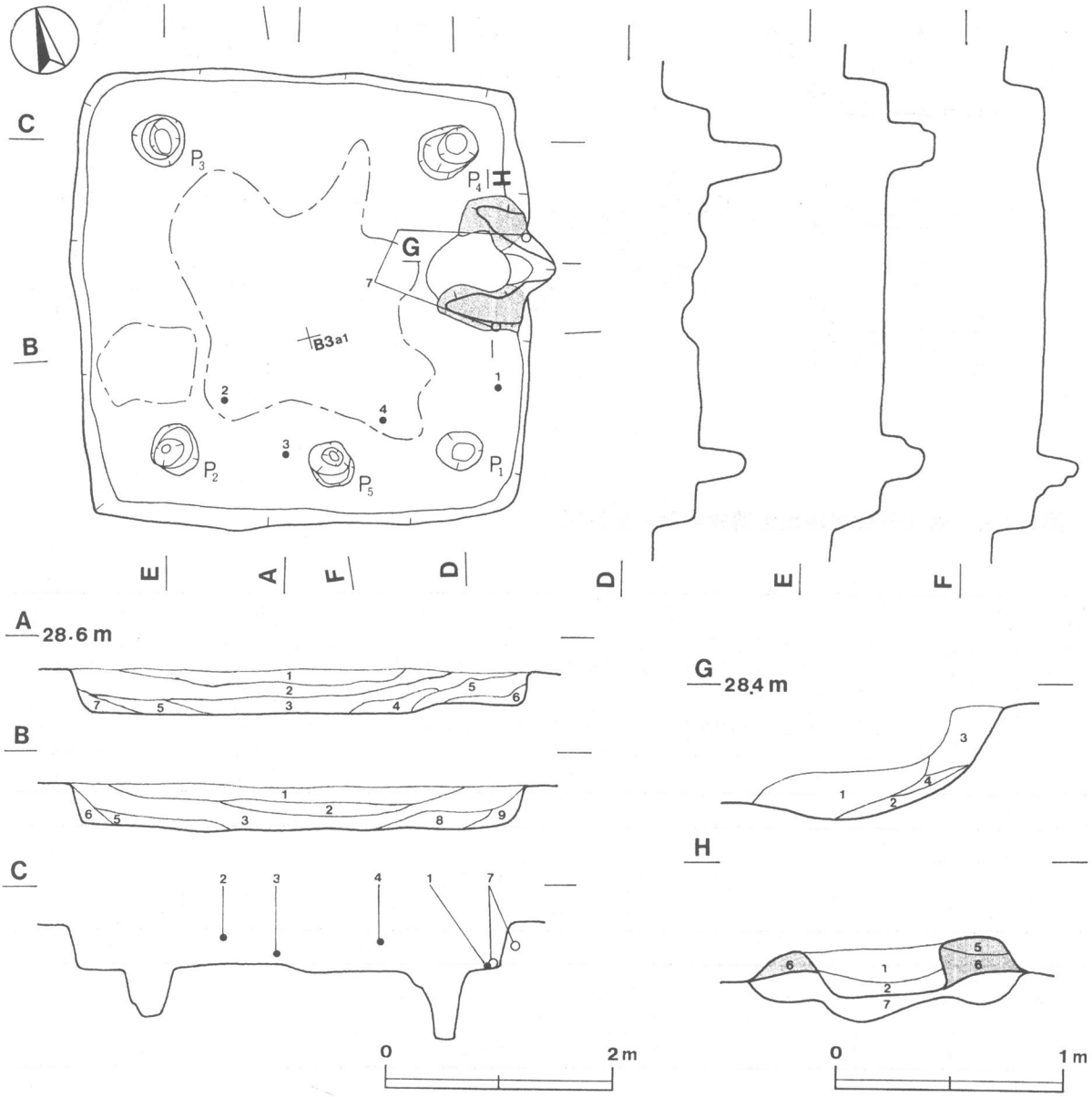
1　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，砂質粘土小ブロック少量
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂粒中量，焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック・小礫少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量

覆土　9層からなる。堆積状況はレンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子微量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子極微量
2　暗褐色　ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化物極微量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材極微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
5　褐　色　ローム粒子・砂質粘土粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量，炭化粒子極微量
7　褐　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量，炭化粒子極微量
8　褐　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量，砂質粘土中ブロック極微量
9　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子極微量

遺物　南部を中心に上層から床面にかけて土師器片50点，須恵器片30点，弥生土器片17点，土製品2点が出土している。第121図1～4は須恵器である。1の坏はP 1北側の床面，2の坏と3の高台付坏はP 5付近の覆土



第120図　第38号住居跡実測図

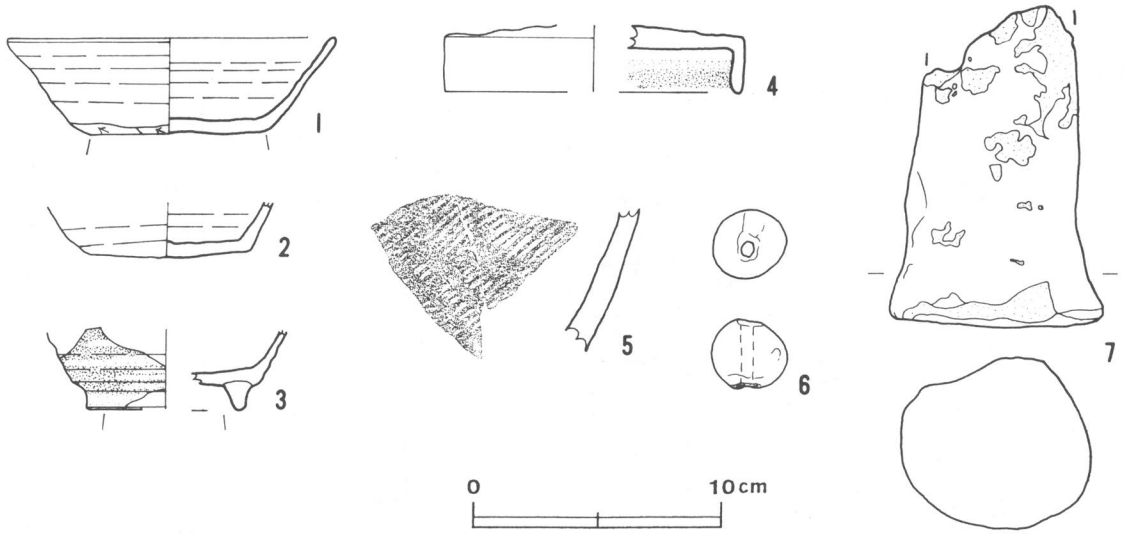
中層と下層，４の蓋はＰ１西側の覆土中層から出土している。６の球状土錘は西部の覆土中，７の支脚は竈袖部から出土している。

５は須恵器甕の体部片で，平行叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 1	坏 須恵器	A 13.1 B 3.8 C 7.3	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石，石英，雲母 灰色 良好	P319，80% PL25 P1北側床面
2	坏 須恵器	B (2.2) C 6.6	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。	長石，石英，針状鉱物 灰白色 良好	P320，10% P5付近覆土中層



第121図　第38号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第121図 3	高台付坏 須恵器	B　(3.1) C　[6.2] E　0.9	高台部から体部片。底部から屈曲して体部は立ち上がる。高台は内側にあり，ハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	長石，石英，針状鉱物 オリーブ黒色 良好	P321，5％ P5付近覆土下層
4	蓋 須恵器	A　[11.8] B　(2.7)	口縁部片。外周部はわずかに丸みをもち，口縁部は屈曲し，短く垂下する。	口縁部，外周部内・外面ロクロナデ。	長石，石英 灰白色 良好	P322，10％ P1西側覆土中層

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
6	球　状　土　錘	2.9	2.7	0.5	21.4	西部覆土中	DP118

図版番号	種　　別	計　　測　　値			出　土　地　点	備　　考
		長　さ(cm)	径　(cm)	重　量(g)		
7	支　　脚	(12.9)	8.6	(473.8)	竈袖部	DP119

第39号住居跡（第122図）

位置　調査区西部，Ａ３i1区。

重複関係　西壁を第４・８号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.98m，短軸5.19mの長方形である。

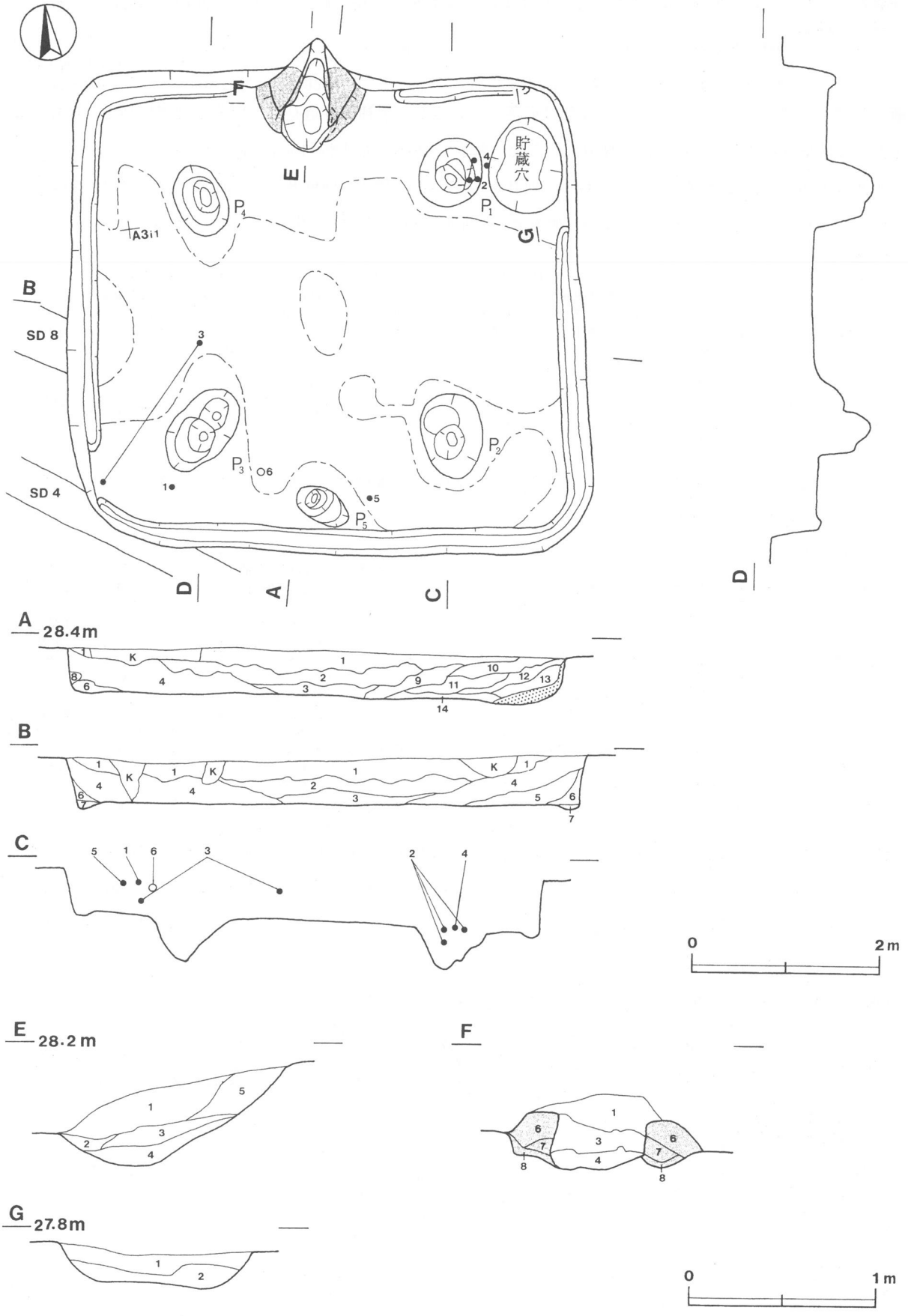
主軸方向　Ｎ－３°－Ｅ

壁　壁高は45～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北東・南西コーナーの一部を除き，壁下を巡っている。上幅19～32cm，下幅５～13cm，深さ２～８cmで，断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦であるが，北部がやや低い。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径77～99cm，短径50～67cmの楕円形，深さ43～51cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径59cm，短径36cmの楕円形，深さ13cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。



第122図　第39号住居跡実測図

貯蔵穴　北東コーナー部に付設されている。長径104cm，短径81cmの楕円形，深さ20cm，断面形は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1	褐　色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土中ブロック微量，炭化物極微量	2	褐　色	ローム大ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼粒子微量，焼土小ブロック極微量

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで120cm，最大幅119cm，壁外への掘り込み32cmである。火床面は床面を５cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい褐色	ローム粒子・砂質粘土中・小ブロック・砂粒中量，ローム中・小ブロック・焼土粒子少量	5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量，炭化物微量
2	暗 褐 色	ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，焼土小ブロック微量	6	褐　色	砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中・小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・小礫少量，炭化物微量
3	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・砂質粘土中ブロック微量	7	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，ローム大ブロック・砂質粘土大ブロック微量	8	褐　色	ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量

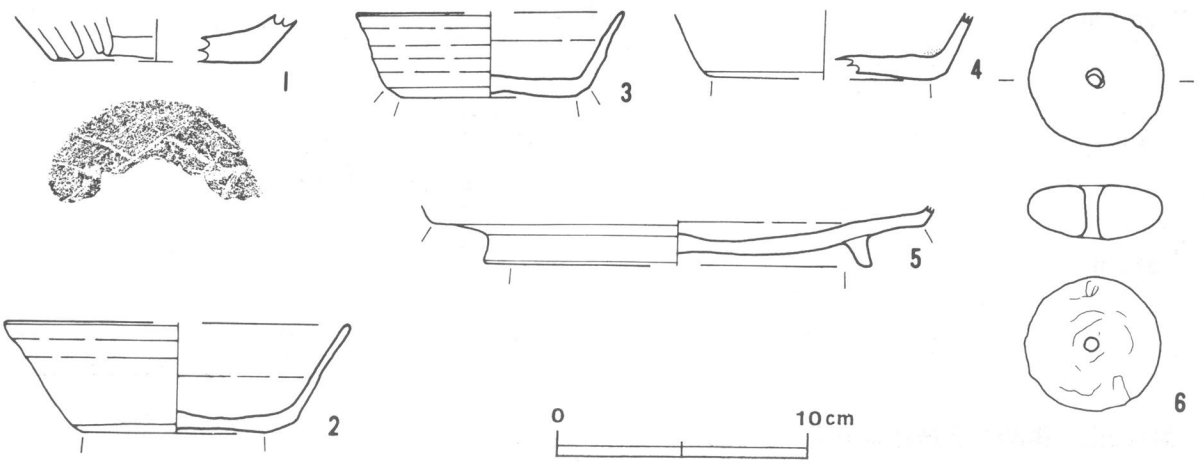
覆土　14層からなる。中央部分はレンズ状を呈すことから自然堆積と思われるが，壁際の覆土はロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・小礫微量	9	暗 褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・砂粒中量，焼土粒子・砂質粘土小ブロック・小礫少量，ローム中ブロック・炭化物微量
2	暗 褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大・中ブロック・炭化物微量	10	暗 褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・砂粒中量，焼土粒子・炭化物少量，砂質粘土小ブロック・小礫微量
3	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック少量	11	暗 褐 色	ローム粒子多量，砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック・小礫少量，炭化物・炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，焼土小ブロック極微量	12	褐　色	ローム粒子砂粒多量，ローム小ブロック・焼土粒子・小礫少量，焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量
5	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量	13	暗 褐 色	砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量，砂質粘土大ブロック・小礫少量，焼土小ブロック・小礫微量
6	暗 褐 色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量	14	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック・砂粒少量
7	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量			
8	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量			

遺物　南東コーナー部を除く覆土上層から床面かけて土師器片105点，須恵器片60点，弥生土器片40点，土製品１点が出土している。第123図１の土師器甕はＰ３付近の覆土中層から出土している。２～５は須恵器である。２・４の坏はＰ１付近の床面，３の坏は南西コーナー部の覆土下層，５の盤はＰ５付近の覆土中層から出土している。６の土製紡錘車はＰ５北側の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。



第123図　第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第123図 1	甕 土師器	B (2.0) C [8.4]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り後，縦位のヘラナデ。底部木葉痕。	長石石英雲母赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P325，5％ P3付近覆土中層
2	坏 須恵器	A [13.8] B 4.4 C 7.5	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端右回りの手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石，石英 灰白色 良好	P326，60％ PL25 P1付近床面
3	坏 須恵器	A [10.6] B 3.4 C 6.8	底部から口縁部片。中央がやや凹む平底。体部下端に稜を有し，外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石，石英，針状鉱物 灰色 良好	P327，50％ PL26 南西コーナー部覆土下層
4	坏 須恵器	B (2.6) C [9.0]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端右回りの手持ち回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石，砂粒 灰色 良好	P329，5％ P1付近床面
5	盤 須恵器	B (2.4) C 15.6 E 1.2	高台部から体部片。体部はやや内彎して外方に開き，屈曲する。高台は，外方へふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英，小礫 灰色 良好	P330，30％ P5付近覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
6	紡錘車	5.4	2.2	0.7	63.7	P5北側覆土中層	DP120 PL31

第42号住居跡（第124図）

位置　調査区北西部，A 3 g3区。

重複関係　本跡が，第41号住居跡の北部を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸5.43m，短軸5.30mの方形である。

主軸方向　N－17°－E

壁　壁高は65～72cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　西壁の壁下を巡っている。上幅24～40cm，下幅6～17cm，深さ5～10cmで，断面形はU字状である。

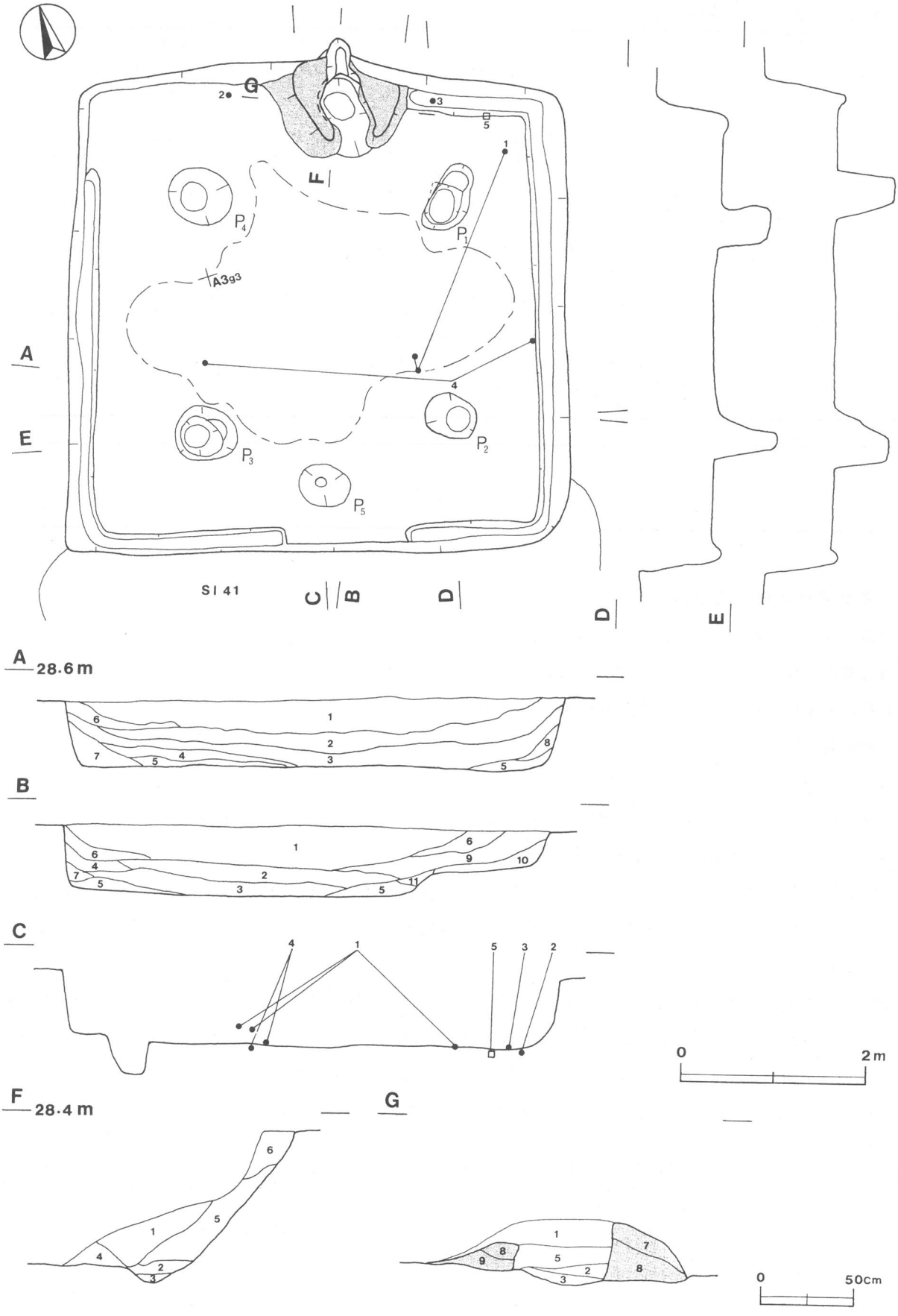
床　平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　5か所（P 1～P 5）。P 1～P 4は長径57～75cm，短径41～59cmの楕円形，深さ58～67cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P 5は長径55cm，44cmの楕円形，深さ36cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで131cm，最大幅160cm，壁外への掘り込み20cmである。火床面は床面を5cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・小礫少量，砂質粘土中ブロック微量
2　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土大ブロック・小礫微量
3　暗赤褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・砂粒微量
4　にぶい褐色　砂質粘土塊多量，小礫微量
5　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・小礫少量，砂質粘土小ブロック微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒中量
7　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土小ブロック・砂粒少量
8　暗褐色　砂粒多量，砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土大ブロック少量・炭化物微量
9　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，砂質粘土中ブロック微量



第124図　第42号住居跡実測図

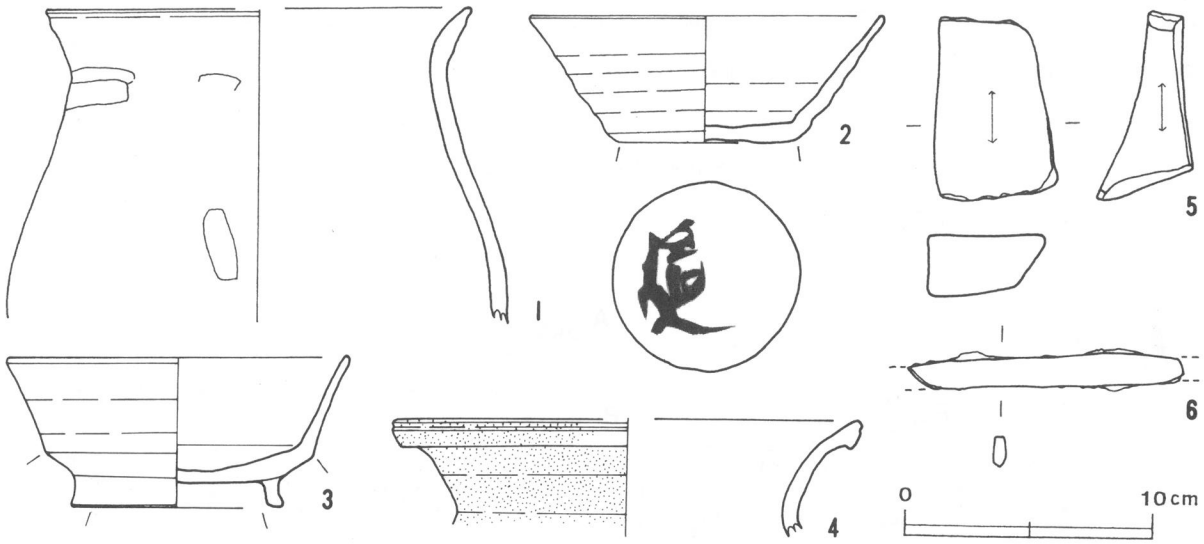
覆土　11層からなる。中央部の中層から下層にかけてはローム中ブロックを多く含んでいることから人為堆積と思われるが，壁際はレンズ状を呈すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量，焼土小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量，焼土粒子極微量
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック微量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子極微量
9　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
11　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物　中央部から竈付近の覆土中層から床面にかけて土師器片250点，須恵器片170点，石器１点，鉄製品１点が出土している。第125図１は土師器甕で，竈東側の床面から出土している。２～４は須恵器である。２の坏は竈西側の床面，３の高台付坏は竈東側の床面，４の壺は東壁中央部の床面から出土している。５の砥石は竈東側の床面から出土している。６の不明鉄製品は南西部の覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。



第125図　第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第125図 1	甕 土師器	A　[17.2] B　(12.6)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位横位のヘラナデ，中位斜位のヘラナデ。	長石，石英，雲母，小礫 橙色 普通	P332，５％ 竈東側床面
2	坏 須恵器	A　14.2 B　5.1 C　7.0	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。底部に墨付着。	長石石英小礫針状鉱物 灰色 良好	P334，70% 竈西側床面 墨書有り
3	高台付坏 須恵器	A　13.7 B　6.0 D　8.3 E　1.3	口縁部・体部一部欠損。体部は下位に稜を有し外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。高台はわずかにハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，小礫 黄灰色 良好	P335，80%　PL26 竈東側床面
4	壺 須恵器	A　[18.6] B　(4.6)	頸部から口縁部片。頸部は屈曲し，外反して口縁部に至る。端部は三角形を呈する。	口縁部，頸部内・外面ロクロナデ。	長石，白色粒子 黒色 良好	P337，５％ 東壁床面

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第125図5	砥石	7.5	5.0	4.1	130.5	凝灰岩	竈東側床面	Q61

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	不明鉄製品	(11.2)	1.4	0.5	(25.8)	南西部覆土中	M3

第43号住居跡（第126図）

位置　調査区中央部，Ｂ４c2区。

重複関係　本跡が，第83号住居跡の北部を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸3.37mの長方形である。

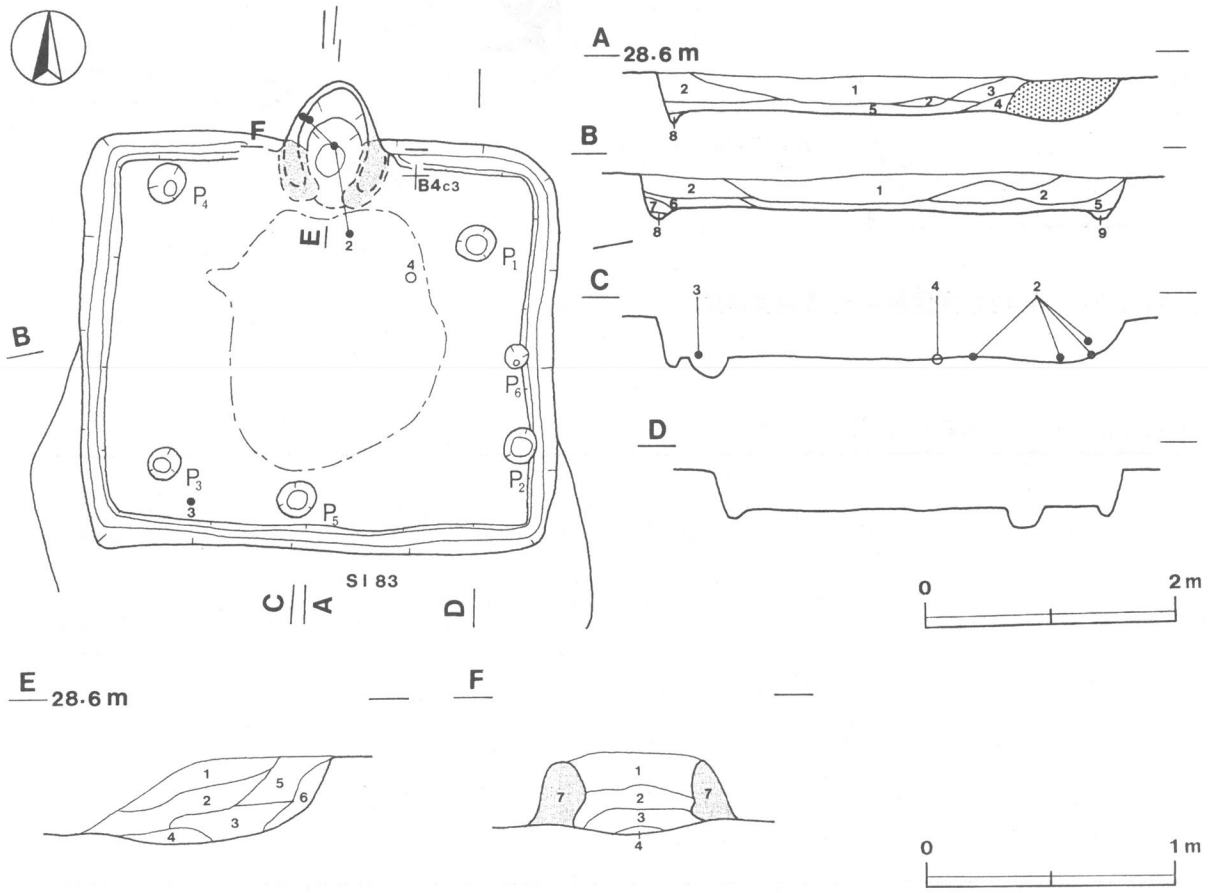
主軸方向　Ｎ－２°－Ｅ

壁　壁高は10～33cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　壁下を全周している。上幅17～30cm，下幅７～11cm，深さ４～８cmで，断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦であり，中央部を中心に踏み固められている。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は長径27～32cm，短径25～29cmの円形及び楕円形，深さ17～45cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は径30cmの円形，深さ21cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６は位置から壁柱穴と思われる。



第126図　第43号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。撹乱のため天井部は崩落しており，両袖部も遺存していない。覆土から袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されていたと思われる。規模は，煙道部から焚口部まで［103］cm，最大幅［89］cm，壁外への掘り込み49cmである。火床面は床面を４cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック粒子・炭化物・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
7　にぶい褐色　砂粒多量，砂質粘土中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土大ブロック少量

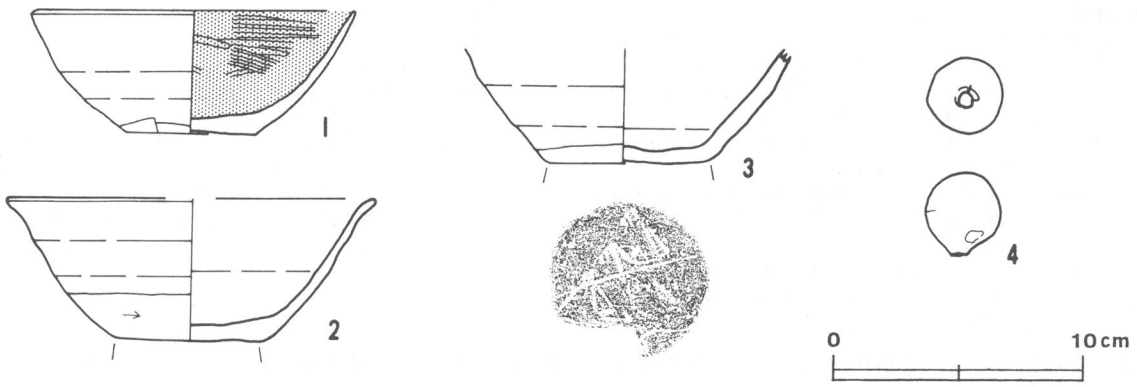
覆土　９層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物極微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
3　褐　色　ローム粒子・砂質粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子・砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子極微量
5　褐　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
6　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子極微量
8　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子極微量
9　明褐色　ローム粒子多量

遺物　中央部を中心に覆土下層から床面にかけて土師器片70点，須恵器片20点，弥生土器片20点，土製品１点が出土している。弥生土器片は，掘り込んでいる第83号住居跡の遺物と思われる。第127図１は土師器椀で，北西部の覆土中から出土している。２・３は須恵器である。２の椀は竈の燃焼部，３の坏はＰ３付近の床面から出土している。４の球状土錘はP1西側の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から９世紀後半と考えられる。



第127図　第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第127図 1	椀 土師器	A　13.0 B　5.1 C　5.3	完形。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。内面黒色処理。	長石，雲母，白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P339，100%　PL25 北西部覆土中
2	椀 須恵器	A　［14.6］ B　5.7 C　6.0	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端左回りの手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	長石，雲母 灰白色 良好	P340，60%　PL26 竈燃焼部

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第127図 3	坏 須恵器	B　（ 4.6） C　　6.0	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ナデ。底部ヘラ記号「×」。	長石，石英 灰白色 良好	P341，20% P3付近床面

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
4	球　状　土　錘	3.1	3.4	0.6	26.1	P1西側床面	DP121

第46号住居跡（第128図）

位置　調査区北部，Ａ３i7区。

規模と平面形　長軸5.56m，短軸5.04mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－３°－Ｅ

壁　壁高は60～72cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北東コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅20～41cm，下幅４～14cm，深さ４～６cmで，断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径57～88cm，短径45～55cmの楕円形，深さ62～85cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径37cm，短径30cmの楕円形，深さ16cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで80cm，最大幅88cm，壁外への掘り込み14cmである。火床面は床面を６cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

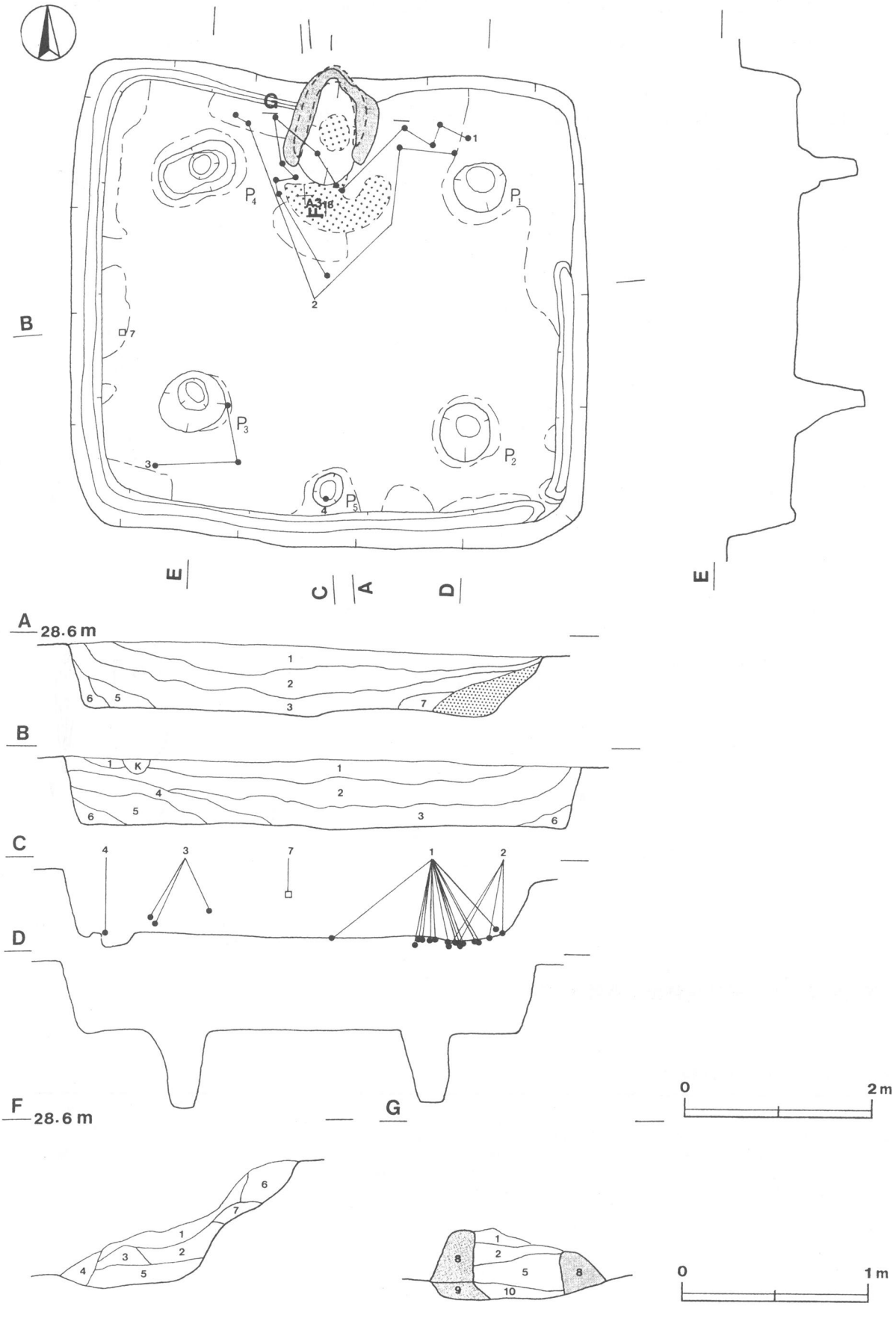
1　暗褐色　砂粒多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック･炭化粒子･砂質粘土中ブロック少量
2　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量
3　褐　　色　砂質粘土中ブロック・砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
4　暗赤褐色　砂質粘土中ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック少量，焼土中ブロック・炭化材微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
8　にぶい褐色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，焼土小ブロック焼土粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック・鹿沼粒子少量
10　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量

覆土　７層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子極微量
2　褐　　色　ローム粒子・炭化物微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子極微量
3　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子極微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子極微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材極微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，焼土粒子・炭化物極微量
7　褐　　色　白色粘土中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・白色粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量，ローム中ブロック・白色粘土小ブロック極微量

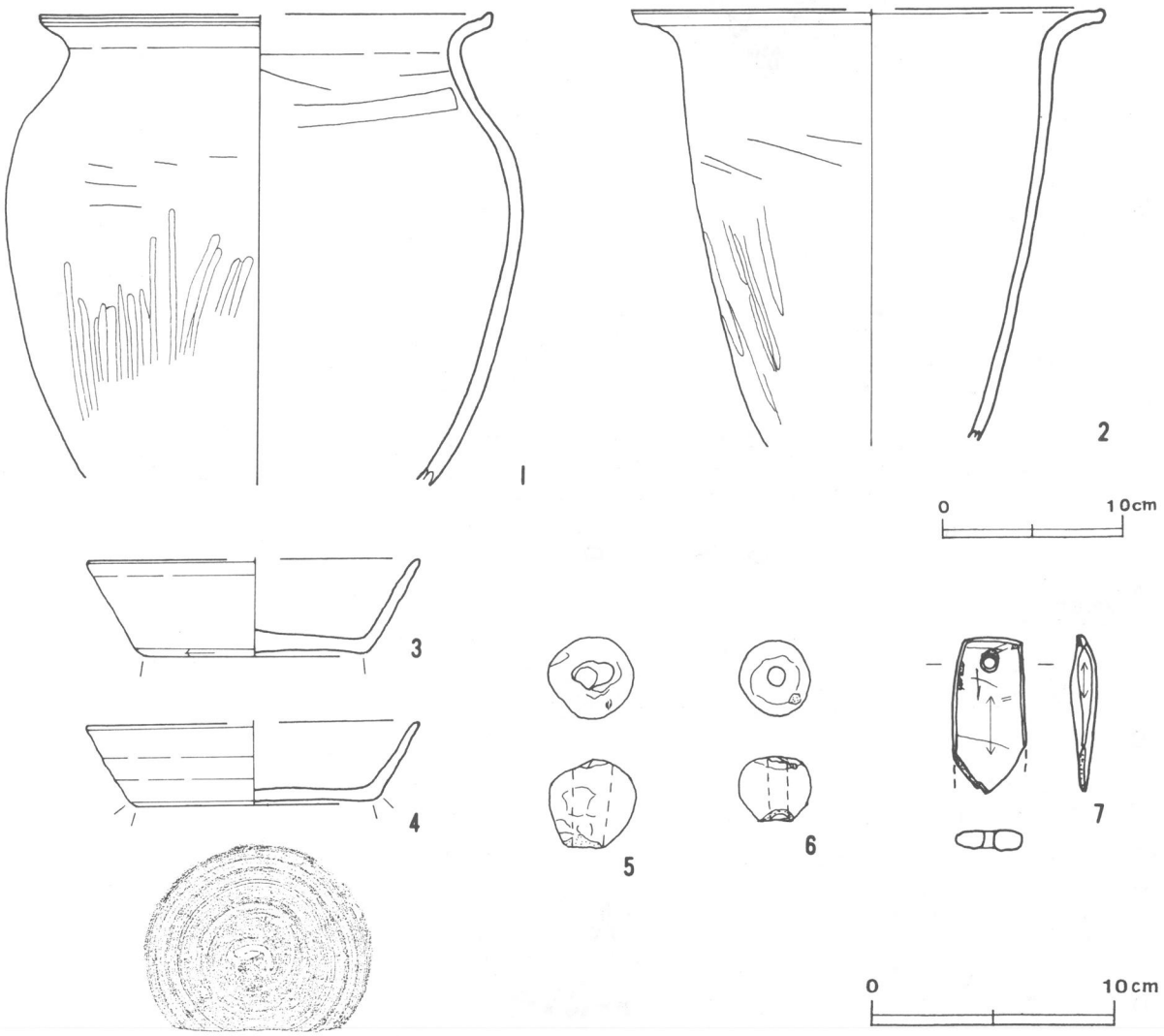
遺物　竈付近を中心に覆土上層から床面にかけて土師器片50点，須恵器片60点，弥生土器片５点，土製品２点，石器１点が出土している。第129図１・２は土師器である。１の甕と２の甑は竈東側の床面から出土している。



第128図　第46号住居跡実測図

3・4は須恵器坏である。3はP3東側の覆土下層，4はP5付近の床面から出土している。5・6は球状土錘である。5は西部の覆土中，6は遺構確認面から出土している。7の砥石は西壁中央部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前半と考えられる。



第129図　第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第129図 1	甕 土師器	A［25.2］ B（26.1）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位横位のヘラナデ，下位縦位のヘラ磨き，内面横位のヘラナデ。	長石石英雲母白色粒子 にぶい橙色 普通	P342，45%　PL26 竈東側床面
2	甑 土師器	A［26.2］ B（23.8）	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位斜位のヘラナデ，下位縦位のヘラ磨き。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P343，30%　PL25 竈東側床面
3	坏 須恵器	A［13.6］ B　4.0 C［9.0］	底部から口縁部片。中央がやや凹む平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。ロクロ目は弱い。	長石，石英，針状鉱物 黒褐色 良好	P345，40% P3東側覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第129図 4	坏 須恵器	A　[13.7] B　3.3 C　10.0	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石,石英,小礫,白色粒子 灰色 良好	P346，60% P5付近床面

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
5	球　状　土　錘	3.6	3.8	1.2～1.7	33.6	西部覆土中	DP122
6	球　状　土　錘	3.1	2.8	0.8	22.0	遺構確認面	DP123

図版番号	種　別	計　測　値				石　質	出　土　地　点	備　考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)			
7	砥　石	(　6.4)	2.9	1.1	(　22.2)	凝灰岩	西壁際覆土中層	Q65　PL33

第47号住居跡（第130図）

位置　調査区北部，Ａ３i9区。

重複関係　本跡が，第13号住居跡の西部を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.92m，短軸3.61mの方形である。

主軸方向　Ｎ－２°－Ｗ

壁　壁高は19～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　貼り床であり，小さな凹凸があるが，ほぼ平坦である。出入口施設から竈にかけて踏み固められている。

貼り床土層解説

11　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量

12　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子微量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径37～43cm，短径33～36cmの楕円形，深さ34～63cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径38cm，短径25cmの楕円形，深さ16cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央からやや西側に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで119cm，最大幅147cm，壁外への掘り込み33cmである。火床面は床面を８cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化物・砂質粘土中ブロック微量

2　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・砂質粘土大ブロック中量

3　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒中量，ローム中ブロック・炭化粒子・砂質粘土大ブロック微量

4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック微量

5　暗赤褐色　砂粒多量，砂質粘土中・小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・小礫少量

6　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量

7　にぶい褐色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量

8　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

9　暗赤褐色　焼土粒子・砂質粘土大・小ブロック砂粒中量，ローム粒子少量

10　褐　色　ローム中・小ブロック多量，炭化物微量

11　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，焼土粒子微量

12　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土中ブロック少量

13　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

覆土　10層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

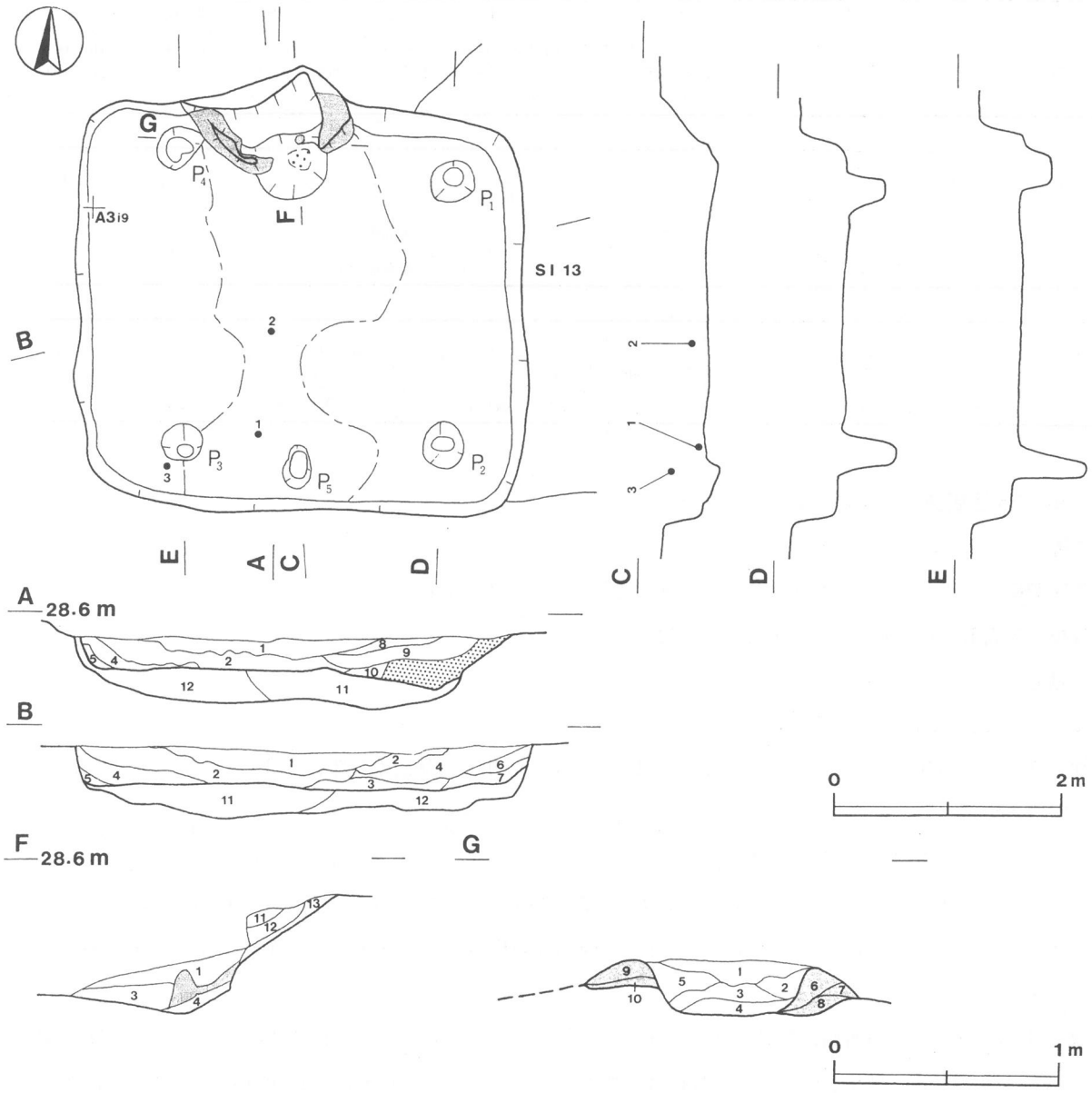
土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

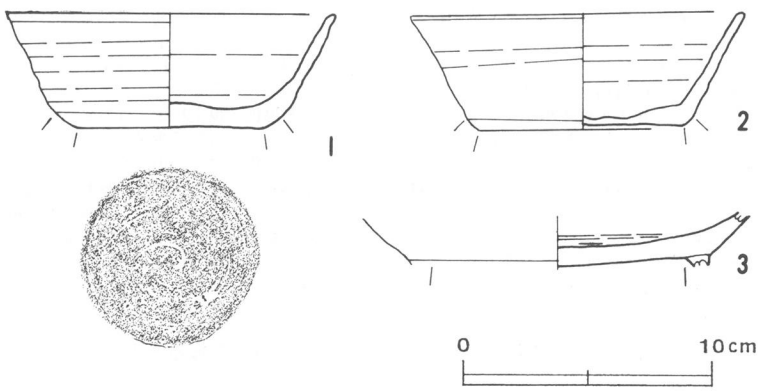
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極微量

3　褐　色　焼土中・小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物極微量

4　暗褐色　ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム大ブロック極微量



第130図　第47号住居跡実測図



第131図　第47号住居跡出土遺物実測図

5　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子極微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　焼土大ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，砂質粘土小ブロック少量，炭化粒子極微量
9　褐　　色　ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量，炭化物極微量
10　褐　　色　砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量，炭化物極微量

遺物　南部を中心に覆土中層から下層にかけて土師器片60点，須恵器片20点が出土している。第131図１～３は須恵器である。１の坏はＰ５北側の覆土下層，２の坏は中央部の覆土中層，３の盤は南西コーナー部の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 1	坏 須恵器	A 13.2 B 4.6 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。ロクロ目は強い。	長石，石英，雲母 灰白色 良好	P348，95% PL26 P5北側覆土下層
2	坏 須恵器	A 13.3 B 4.6 C 8.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，小礫，針状鉱物 灰色 良好	P349，85% PL26 中央部覆土中層
3	盤 須恵器	B （2.1）	高台部から体部片。体部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英 灰色 良好	P350，30% 南西ｺｰﾅｰ部覆土上層

第50号住居跡（第132図）

位置　調査区北部，Ａ４h2区。

規模と平面形　長軸4.18m，短軸3.98mの方形である。

主軸方向　Ｎ－10°－Ｅ

壁　壁高は58～70cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　西壁の壁下を巡っている。上幅46～50cm，下幅９～10cm，深さ10cmほどで，断面形はＵ字状である。

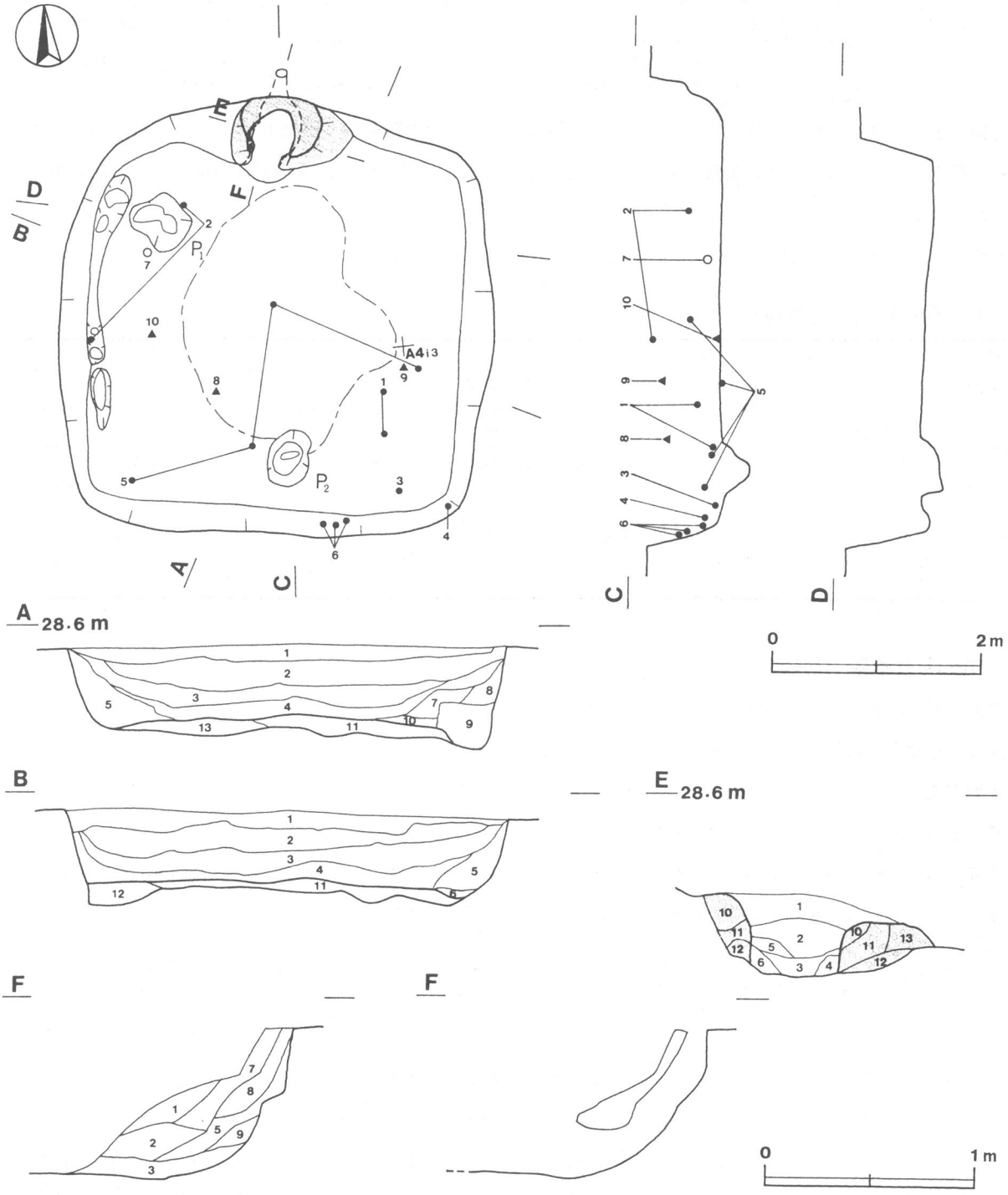
床　貼り床で，ほぼ平坦であり，中央部中心に踏み固められている。

貼り床土層解説
11　暗褐色　ローム小ブロック・砂粒中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土大ブロック・炭化物・砂質粘土中ブロック微量
12　褐　　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１・Ｐ２は長径56～58cm，短径39～45cmの楕円形，深さ22～27cmである。Ｐ１は規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ２は位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで103cm，最大幅107cm，壁外への掘り込み34cmである。火床面は床面を３cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，砂質粘土小ブロック・砂粒少量，炭化物・炭化粒子微量，焼土小ブロック極微量
3　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子微量，砂質粘土中ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック微量
4　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
5　暗褐色　ローム焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
6　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
7　褐　　色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中・小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　暗赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・砂質粘土中・小ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量



第132図　第50号住居跡実測図

10　褐　　色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，ローム中ブロック極微量
11　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子小ブロック・小礫微量
12　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量
13　暗 褐 色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量

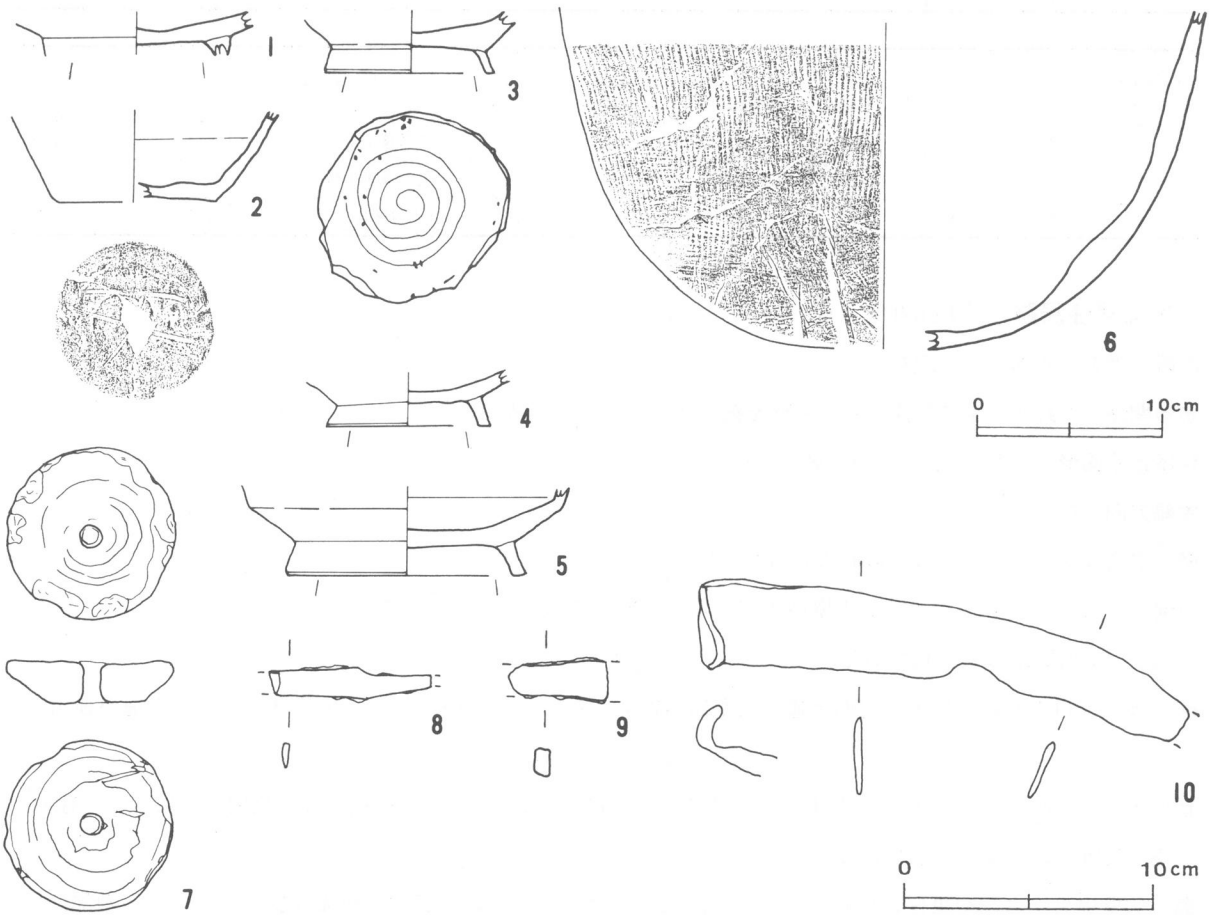
覆土　10層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・小礫微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量，ローム中ブロック・炭化物・白色粒子極微量

4　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子・炭化物極微量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
7　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量，焼土小ブロック・小礫微量，ローム中ブロック極微量
8　暗褐色　砂粒多量，ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，炭化粒子・粘土小ブロック微量

遺物　遺構全体の覆土上層から床面にかけて，土師器片350点，須恵器片150点を主体に土製品１点，鉄製品３点が出土している。第133図１は土師器高台付坏で，Ｐ２北東部の覆土下層から出土している。２～６は須恵器である。２の坏はＰ１付近の覆土中層，３・４の高台付坏は南東コーナー部の覆土下層，５の高台付坏はＰ２北側の床面，６の甕は南壁際の中央部の覆土下層から出土している。７の土製紡錘車はＰ１付近の覆土下層から出土している。８～10は鉄製品である。８の刀子は中央部の覆土上層，９の刀子は中央部から東側の覆土上層，10の鉄鎌はＰ１南側の床面から出土している。

所見　主柱穴は１か所のみ検出されたが，４本柱を想定した場合の北東側，南東側，南西側は検出されなかった。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から９世紀後半と考えられる。



第133図　第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第133図 1	高台付坏 土師器	B　(1.7) E　(0.8)	高台部から体部片。体部は外傾して立ち上がる。高台は底部外周にあり，わずかにハの字状に開く。	体部下端ロクロナデ。底部ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石石英雲母赤色粒子針状鉱物 橙色 普通	P351，５％ P2北東部覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第133図 2	坏 須恵器	B　(3.4) C　6.4	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。底部に「＝」のヘラ記号。	長石，石英 灰色 良好	P353，10% P1付近覆土中層
3	高台付坏 須恵器	B　(2.5) D　6.8 E　0.9	高台部から体部片。体部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面漆処理。	長石，石英，小礫 灰色 良好	P354，10% 南東ｺｰﾅｰ部覆土下層
4	高台付坏 須恵器	B　(2.2) D　6.6 E　1.1	高台部から体部片。体部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英 にぶい黄色 良好	P355，5% 南東ｺｰﾅｰ部覆土下層
5	高台付坏 須恵器	B　(3.5) D　9.5 E　1.4	高台部から体部片。体部は下位に稜を有し外傾して立ち上がる。高台は底部外周にあり，短くハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石,石英,小礫,白色粒子 にぶい橙色 良好	P356，10% P2北側床面
6	甕 須恵器	B　(17.9)	底部から体部片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ。底部ナデ。	長石，砂粒 暗青灰色 良好	P358，40%　PL27 南壁際覆土下層

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
7	紡　錘　車	6.7	1.7	0.9	69.0	P1付近覆土下層	DP125　PL32

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		長　さ(cm)	幅(cm)	厚　さ(cm)	重　量(g)		
8	刀　　子	(6.5)	1.4	0.3	(5.1)	中央部覆土上層	M4　PL33
9	刀　　子	(4.0)	(1.6)	0.6	(13.5)	中央部覆土上層	M5
10	鉄　　鎌	(24.9)	3.6	0.4	(62.2)	P1南側床面	M7　PL33

第52号住居跡（第134図）

位置　調査区北部，A4i5区。

重複関係　本跡が，第77号住居跡の東壁を掘り込んでおり，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.10m，短軸2.98mの方形である。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は56～61cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北東・北西コーナー部と南壁中央部を除き，壁下を巡っている。上幅21～39cm，下幅7～12cm，深さ5cmほどで，断面形はU字状である。

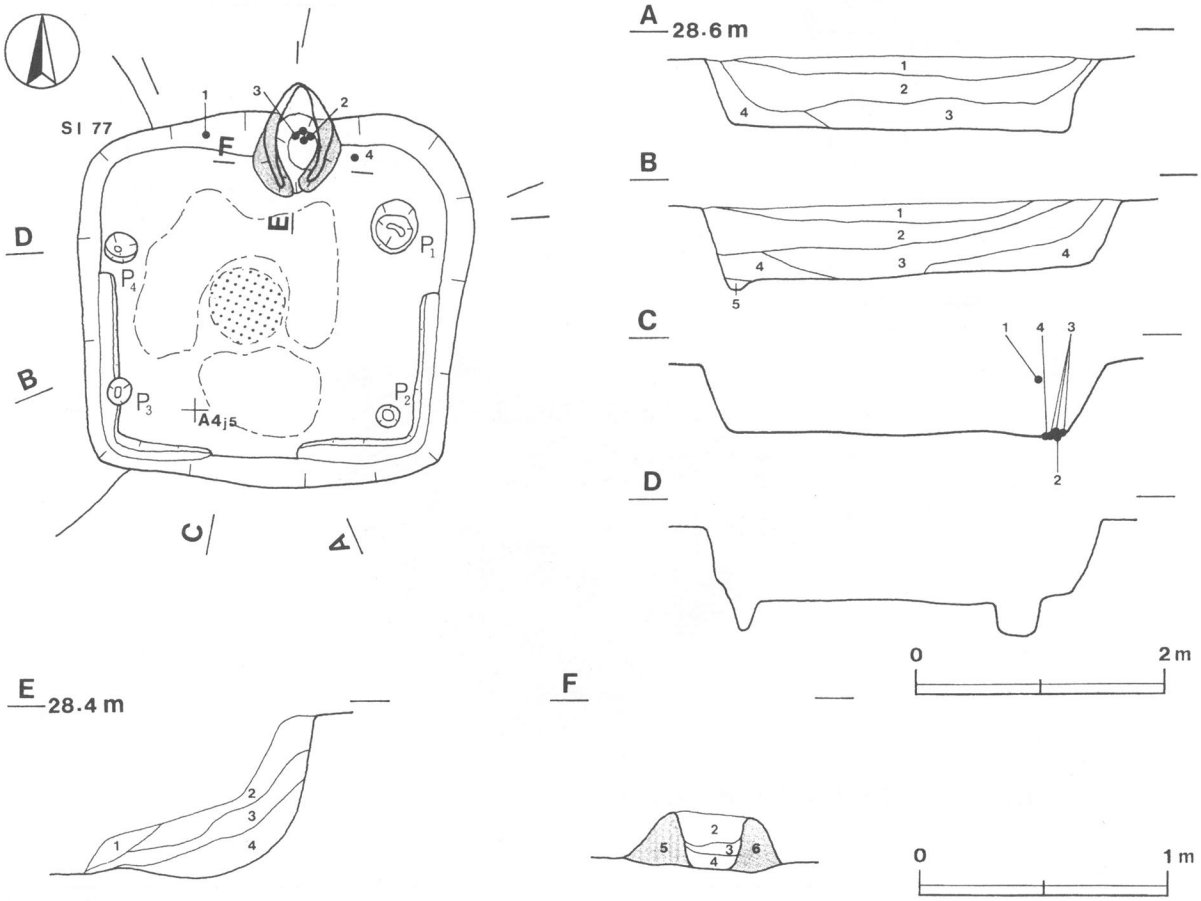
床　ほぼ平坦であり，出入口周囲と竈付近が踏み固められている。中央部から炭化材を含む焼土塊が検出された。

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P4は長径18～44cm，短径18～37cmの円形及び楕円形，深さ9～31cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。

竈　北壁中央からやや東側に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで91cm，最大幅133cm，壁外への掘り込み29cmである。火床面は床面とほぼ同レベルである。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，やや外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，焼土粒子・粘土小ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量・砂質粘土小ブロック少量，炭化物微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，炭化物微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量



第134図　第52号住居跡実測図

5　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，炭化粒子・小礫微量

6　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量

覆土　5層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子小ブロック・炭化粒子微量，焼土粒子極微量

2　褐　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・炭化物微量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量

3　褐　色　ローム粒子小量，焼土小ブロック・炭化物微量，ローム大・中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量

4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量

5　明褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子極微量

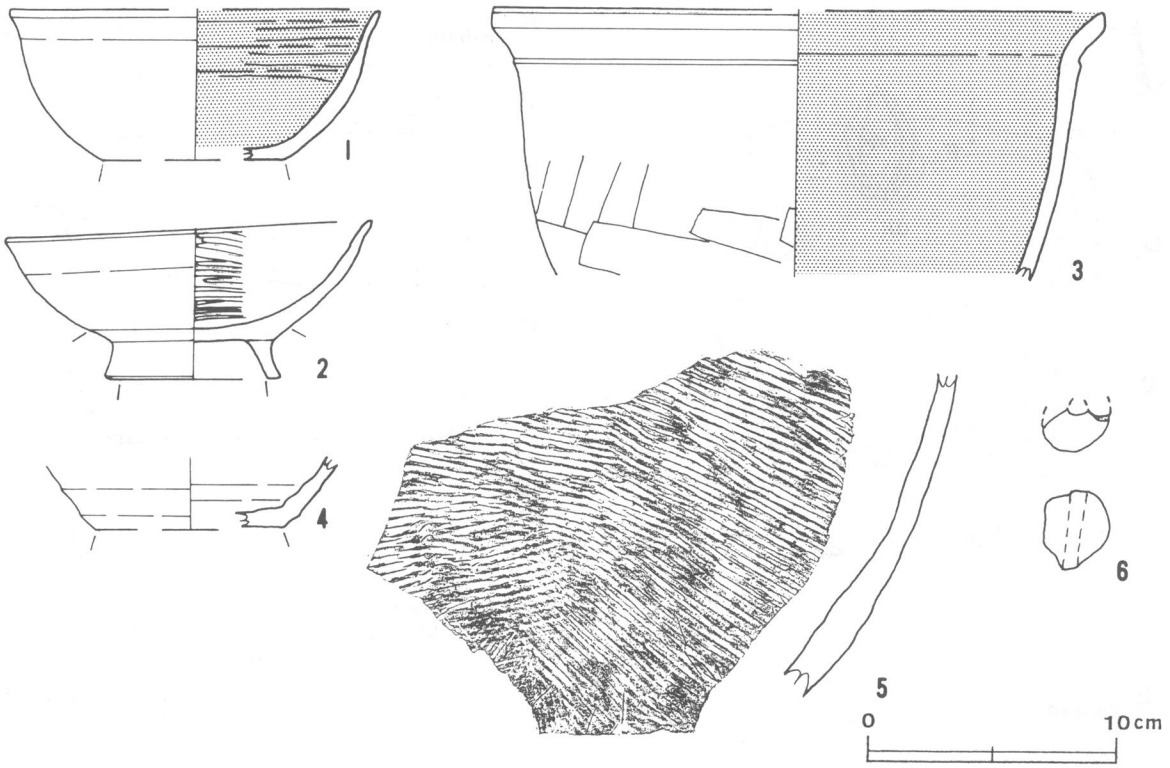
遺物　西部を中心に覆土上層から床面にかけて，土師器片120点を主体に須恵器片35点，弥生土器片10点，土製品1点が出土している。第135図1～3は土師器である。1の椀は竈西側の覆土中層，2の高台付椀と3の甑は竈内の燃焼部，4は須恵器坏で竈東側の床面から出土している。6の球状土錘は南東部の覆土中から出土している。

5は須恵器甕の体部片で，平行叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から10世紀前半と考えられる。

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第135図 1	椀 土師器	A［14.8］ B　6.0 C［7.1］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部外面ロクロナデ，内面横位のヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石，石英，白色粒子 にぶい褐色 普通	P359，30%　PL26 竈西側覆土中層



第135図　第52号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第135図 2	高台付椀 土 師 器	A　14.4 B　6.3 C　7.1	口縁部一部欠損。体部は内彎ぎみに立ち上がり，口縁部は軽く外反する。高台は短くハの字状に開く。	口縁部，体部外面ロクロナデ・内面横位のヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石,石英,雲母,白色粒子 明褐色 普通	P360, 95%　PL27 竈燃焼部
3	甑 土 師 器	A　[24.4] B　(10.6)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	体部外面中位縦位のヘラ削り後，横位のヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。内面黒色処理。	長石,雲母,小礫,白色粒子 にぶい橙色 普通	P361，5％ 竈燃焼部
4	坏 須 恵 器	B　(3.0) C　[7.3]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	長石，小礫，白色粒子 灰褐色 良好	P362，5％ 竈東側床面

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
6	球 状 土 錘	(　2.7)	3.0	0.6	(　8.9)	南東部覆土中	DP126

第56号住居跡（第136図）

位置　調査区北東部，Ｂ４a8区。

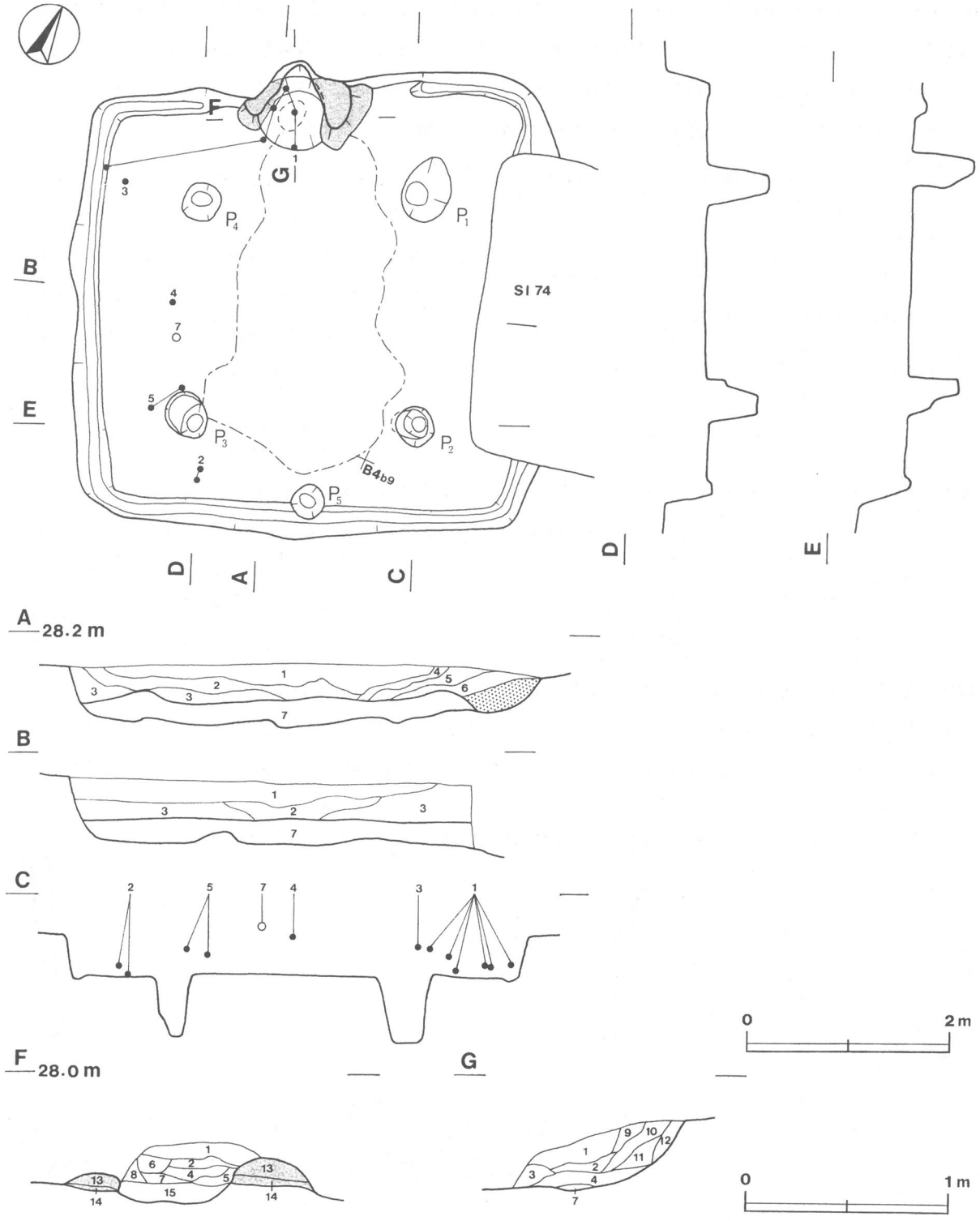
重複関係　東壁を第74号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.55m，短軸4.32mの方形である。

主軸方向　Ｎ－21°－Ｗ

壁　壁高は36～43cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南東コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅11～23cm，下幅５～12cm，深さ２～７cmで，断面形はＵ字状である。



第136図　第56号住居跡実測図

床　貼り床で，ほぼ平坦である。出入口施設から竈にかけて踏み固められている。

貼り床土層解説

7　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物・白色粘土粒子・砂粒微量

ピット　5か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径38～66cm，短径36～45cmの円形及び楕円形，深さ52～66cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は径32cmの円形，深さ15cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央からやや西側に付設されている。天井部は崩落しており，左袖部は削平されている。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで91cm，最大幅133cm，壁外への掘り込み29cmである。火床面は床面とほぼ同レベルである。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

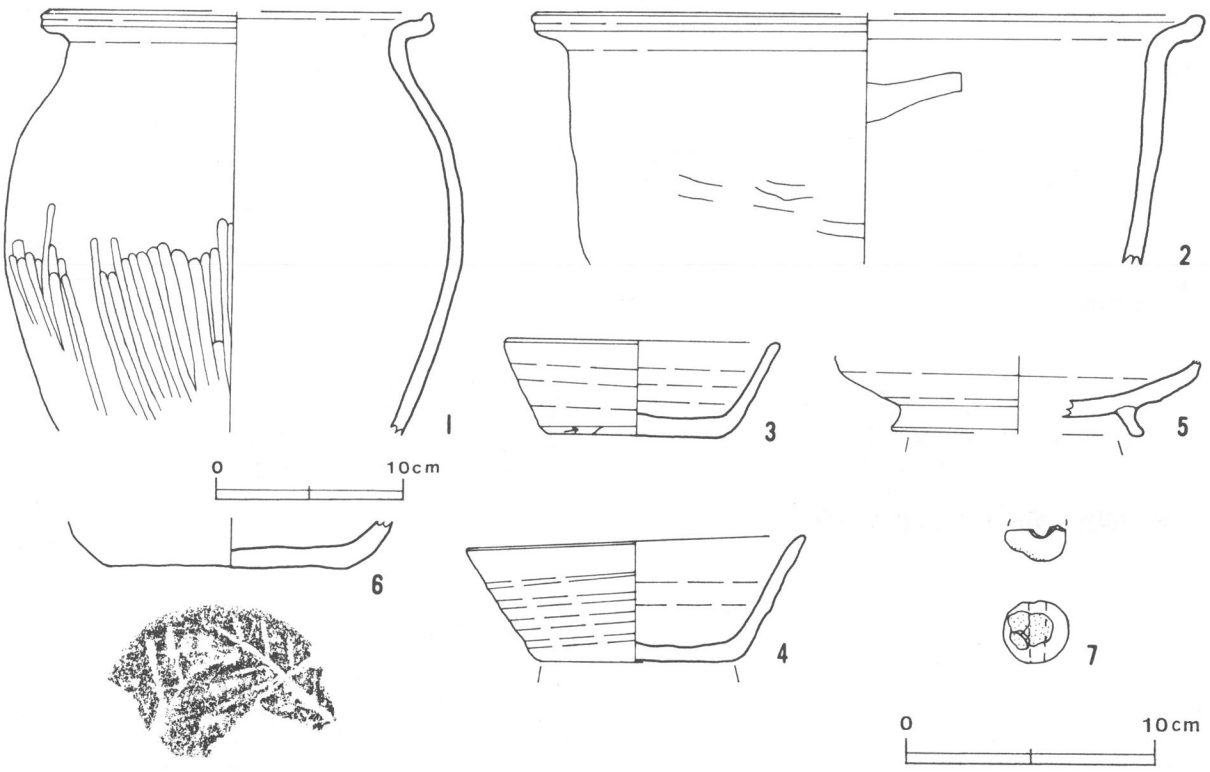
1　褐　色　ローム粒子多量，砂質粘土小ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・小礫微量
2　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
3　暗 褐 色　ローム粒子・砂質粘土小ブロック・砂粒中量，焼土粒子微量
4　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量
6　にぶい暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・小礫微量
7　暗赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，砂質粘土中ブロック微量
8　暗赤褐色　焼土粒子・砂質粘土中ブロック中量，ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
9　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，砂質粘土小ブロック少量
10　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・砂質粘土中・小ブロック少量
11　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック少量
12　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック微量
13　明 褐 色　砂質粘土大ブロック多量
14　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　暗赤褐色　砂粒多量・焼土粒子中量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック少量

覆土　6層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子極微量
2　暗 褐 色　ローム粒子小量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子極微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子極微量
4　褐　色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒・白色粒子極微量
5　褐　色　白色粒子微量，ローム中・小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
6　にぶい褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・白色粘土中ブロック・白色粘土粒子・砂粒極微量

遺物　西部の覆土中層から床面にかけて土師器片170点，須恵器片50点，土製品1点が出土している。第137図1・2は土師器である。1の甕は北西コーナー部の覆土下層，2の甑はP3付近の床面から出土している。3～5は須恵器である。3の坏は北西コーナー部の覆土中層，4の坏はP4付近の覆土上層，5の盤はP3付近



第137図　第56号住居跡出土遺物実測図

の覆土中層から出土している。7の球状土錘はP3付近の覆土上層から出土している。

6は土師器甕の底部片で，木葉痕である。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と考えられる。

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第137図 1	甕 土師器	A［20.8］ B　22.4	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい褐色 普通	P363, 30% PL27 北西ｺｰﾅｰ部覆土下層
2	甕 土師器	A［26.9］ B（10.0）	体部から口縁部片。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面横位のヘラナデ。	長石,石英,雲母,白色粒子 にぶい橙色 普通	P364, 5% P3付近床面
3	坏 須恵器	A　10.8 B　3.8 C　6.7	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石,石英,小礫,白色粒子 灰黄色 良好	P365, 60% 北西ｺｰﾅｰ部覆土中層
4	坏 須恵器	A　13.5 B　5.1 C　7.7	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。ロクロ目は強い。	長石，小礫，針状鉱物 灰色 良好	P366, 95% PL27 P4付近覆土上層
5	盤 須恵器	B（3.0） C［10.0］ E　1.1	高台部から体部片。体部はやや内彎して外方に開く。高台はわずかに外方へふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英 灰白色 良好	P367, 5% P3付近覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	球状土錘	（2.5）	2.4	0.7	（6.1）	P3付近覆土上層	DP127

第57号住居跡（第138図）

位置　調査区北東部，B4c9区。

規模と平面形　長軸3.60m，短軸3.20mの長方形である。

主軸方向　N－19°－W

壁　壁高は45～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　東壁及び南壁の一部を除き，壁下を巡っている。上幅18～26cm，下幅5～10cm，深さ3～6cmで，断面形はU字状である。

床　平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P3は長径44～74cm，短径40～55cmの円形及び楕円形，深さ20～24cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P4は径27cmの円形，深さ19cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央からやや東側に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで95cm，最大幅110cm，壁外への掘り込み41cmである。火床面は床面を2cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　色　砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，小礫少量，焼土粒子微量

2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土中・小ブロック少量

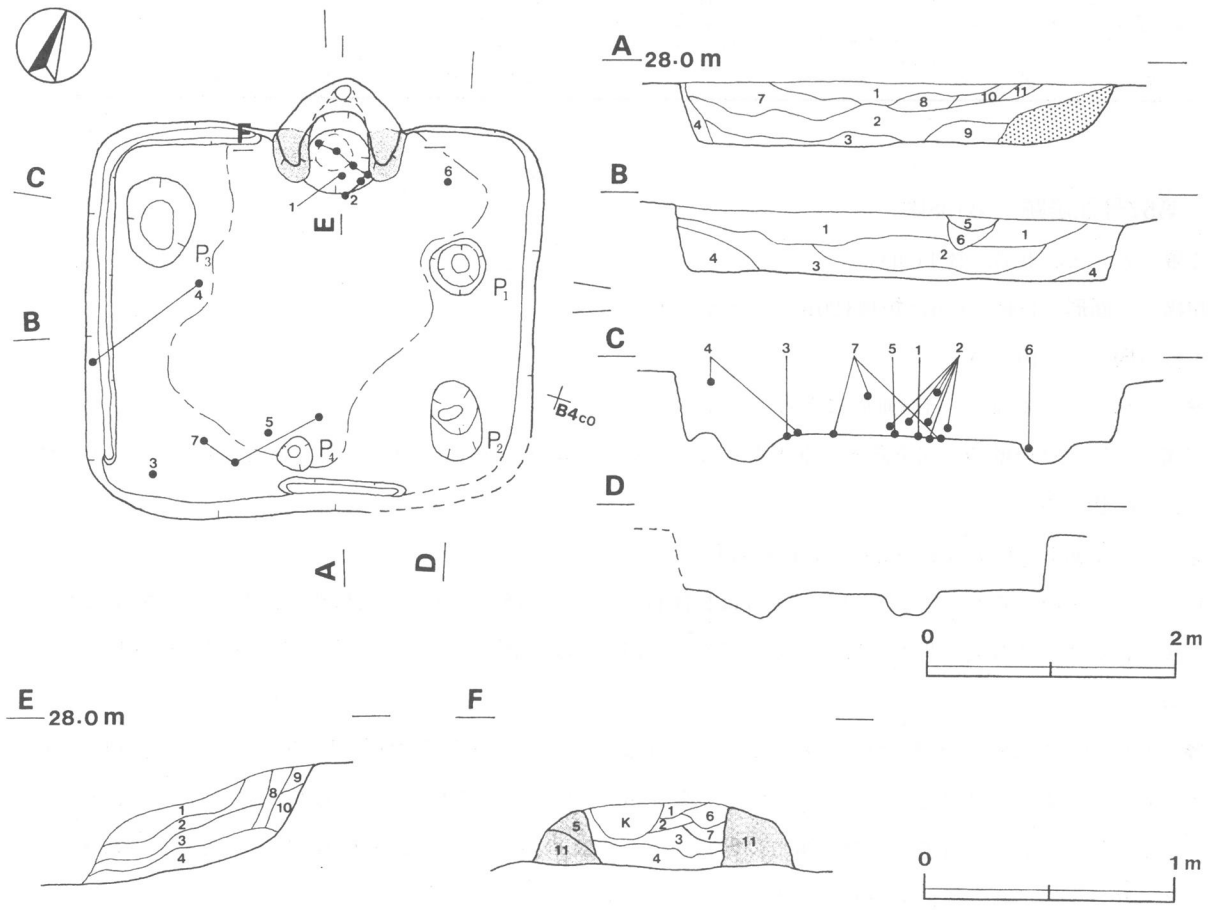
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，炭化物・砂質粘土中ブロック微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量
5　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土小ブロック中量，砂質粘土小ブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　砂粒多量，砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
8　暗赤褐色　砂質粘土大ブロック・砂粒多量，ローム粒子少量
9　褐　　色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子·炭化粒子少量
10　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック·砂質粘土小ブロック少量
11　暗赤褐色　砂質粘土中ブロック・砂粒多量

覆土　11層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

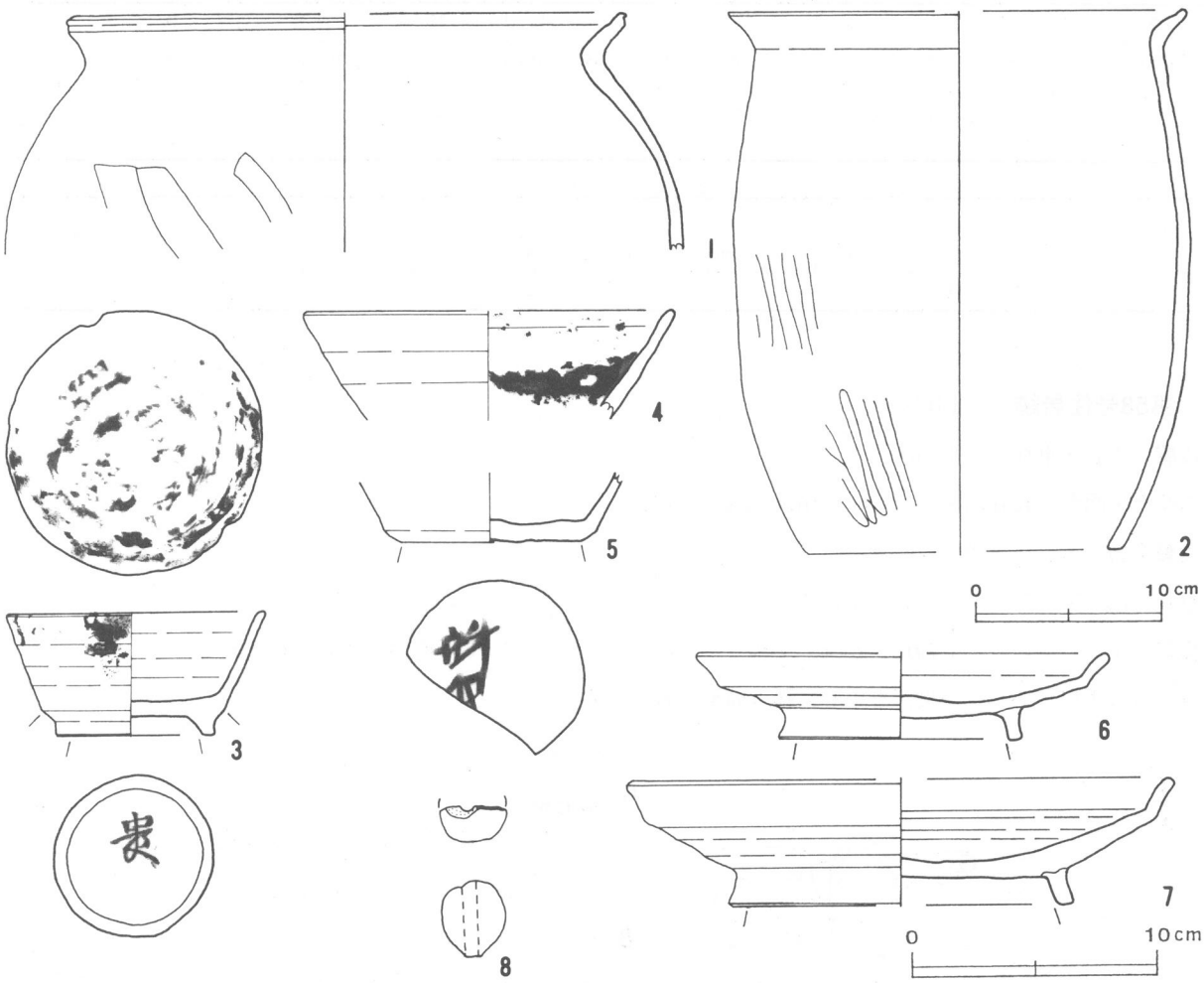
土層解説
1　明褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
2　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子極微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，炭化粒子極微量
5　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
7　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
8　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子炭化材・炭化粒子極微量
9　褐　　色　砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土中・小ブロック極微量
10　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子・砂粒極微量
11　褐　　色　ローム粒子・砂質粘土粒子・砂粒微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子·炭化粒子極微量

遺物　竈付近の覆土下層から床面にかけて，土師器片160点を主体に須恵器片60点，土製品１点が出土している。第139図１・２は土師器である。１の甕と２の甑は竈の燃焼部から出土している。３～７は須恵器である。３の高台付坏は南西コーナー部の床面，４の坏はＰ３南側の床面，５の坏はＰ４付近の床面，６の盤は竈東側の床面，７の盤はＰ４付近の床面から出土している。８の球状土錘は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀後半と考えられる。



第138図　第57号住居跡実測図



第139図　第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第139図 1	甕 土師器	A［22.4］ B（9.7）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラナデ。	長石,石英,雲母,白色粒子 明赤褐色 普通	P368，10% 竈燃焼部
2	甕 土師器	A［24.8］ B　29.0 C［17.2］	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部は屈曲し口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の粗いヘラ磨き。	長石,石英,雲母,赤色粒子 橙色 普通	P369，10% 竈燃焼部
3	高台付坏 須恵器	A　10.2 B　5.1 D　6.3 E　0.7	口縁部一部欠損。体部は下位に稜を有し外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。高台は底部外周にあり，ハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，雲母 浅黄色 良好	P370，100%　PL26 南西ｺｰﾅｰ部床面 内･外面漆付着底部墨書有り
4	坏 須恵器	A［14.8］ B（4.3）	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内･外面ロクロナデ。	長石，石英 浅黄色 良好	P371，10%　PL26 P3南側床面 内面漆付着
5	坏 須恵器	B（2.4） C［7.4］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石，石英 灰色 良好	P372，10% P4付近床面 底部墨書有り
6	盤 須恵器	A［16.6］ B　3.5 D　9.7 E　1.3	高台部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。高台は短くハの字状に開く。	口縁部，体部内･外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英，針状鉱物 灰オリーブ色 良好	P373，45% 竈東側床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第139図 7	盤 須恵器	A　［21.8］ B　　5.2 C　［13.8］ E　　1.5	高台部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は緩く外反する。高台は短くハの字状に開く。	口縁部，体部内･外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石,石英,小礫,針状鉱物 青灰色 良好	P374，30%　PL27 P4付近床面

図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
8	球　状　土　錘	(　2.7)	2.9	0.5	(　10.0)	覆土中	DP128

第58号住居跡（第140図）

位置　調査区東部，Ｂ４ｃ5区。

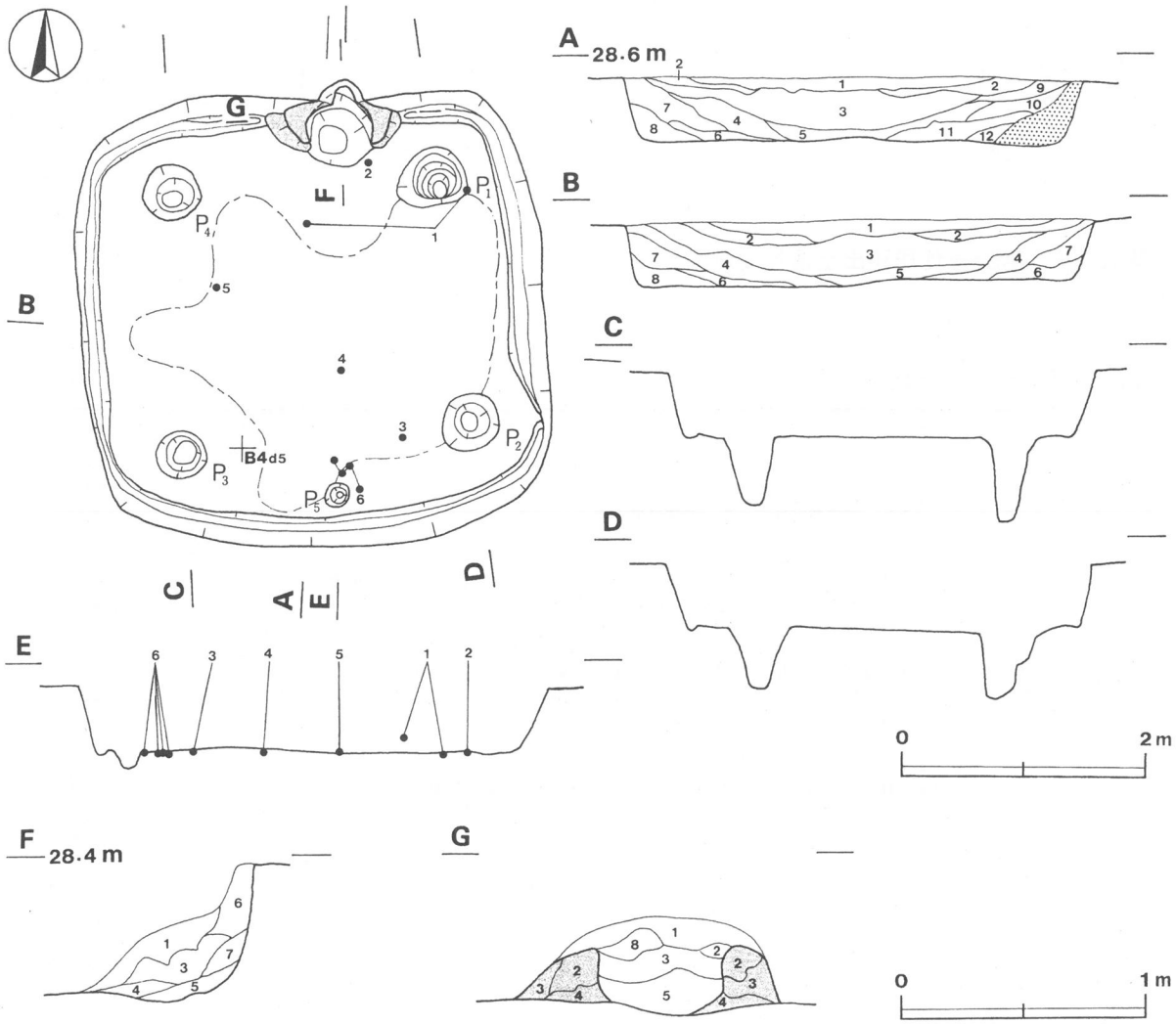
規模と平面形　長軸3.79m，短軸3.71mの方形である。

主軸方向　Ｎ－２°－Ｗ

壁　壁高は52～57cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～25cm，下幅６～10cm，深さ２～５cmで，断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。



第140図　第58号住居跡実測図

ピット　5か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径41～56cm，短径40～48cmの円形及び楕円形，深さ52～71cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は径20cmの円形，深さ16cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央からやや東側に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで72cm，最大幅110cm，壁外への掘り込み24cmである。火床面は床面を４cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

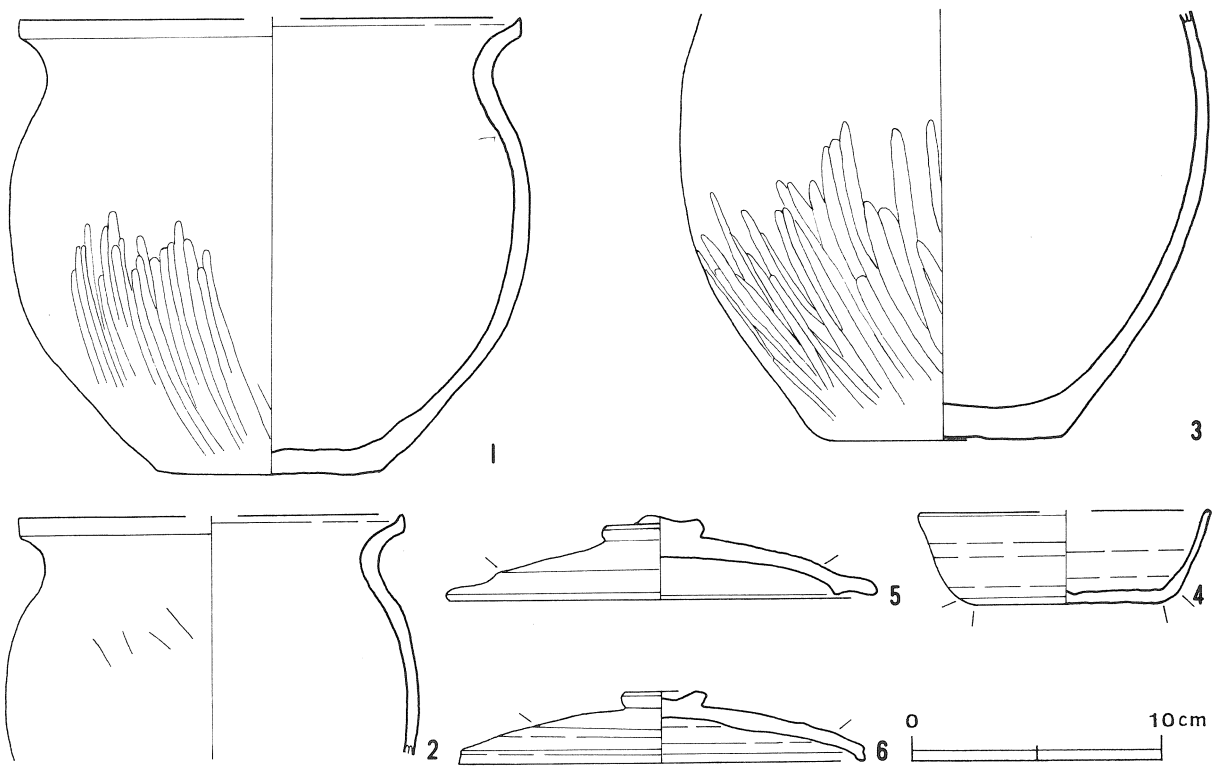
竈土層解説

1　褐　色　砂粒多量，ローム中ブロック・ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　褐　色　砂粒多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中・小ブロック・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，砂質粘土中ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
6　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量
7　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック
8　褐　色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量

覆土　12層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量・炭化物極微量
5　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土極微量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量，ローム大ブロック・炭化粒子極微量
7　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム大・中ブロック微量，炭化粒子極微量
9　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子極微量
10　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック微量，炭化粒子極微量
11　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量，炭化粒子微量，ローム大ブロック極微量
12　明褐色　砂質粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子極微量



第141図　第58号住居跡出土遺物実測図

遺物　東部の覆土下層から床面にかけて土師器片60点，須恵器片20点が出土している。第141図１～３は土師器甕である。１は竈付近の床面，２は竈袖部東側の床面，３はＰ２西側の床面から出土している。４～６は須恵器である。４の坏は中央部やや南側の床面，５の蓋はＰ４付近の床面，６の蓋はＰ５付近の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。

第58号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第141図 1	甕 土師器	A［20.0］ B　18.2 C　9.0	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，中位から内彎する。頸部は屈曲して，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面粗い縦位のヘラ磨き。底部一方向のヘラ削り後，ナデ。	長石，石英，雲母，赤色粒子 にぶい褐色 普通	Ｐ375，30% 竈付近床面
2	甕 土師器	A［15.4］ B（9.7）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は屈曲し口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	長石，雲母 明褐色 普通	Ｐ376，５% 竈袖部東側床面
3	甕 土師器	B（17.0） C　9.3	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，中位から内彎する。	体部外面粗い縦位のヘラ磨き。底部ヘラ削り。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	Ｐ377，40%　PL27 P2西側床面
4	坏 須恵器	A［11.6］ B　3.7 C　7.4	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。ロクロ目は弱い。	長石，雲母 灰白色 良好	Ｐ378，50% 中央部床面
5	蓋 須恵器	A　17.0 B　3.3 F　4.5 G　0.9	口縁部一部欠損。天井部は丸く，外周部との境に稜を有し下降する。口縁部内側に短いかえりを持つ。つまみは腰高の扁平な擬宝珠状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部，口縁部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石，石英，雲母，小礫 にぶい黄色 良好	Ｐ379，90%　PL27 P4付近床面
6	蓋 須恵器	A　16.1 B　2.9 F　3.2 G　0.7	口縁部一部欠損。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部，口縁部内・外面ロクロナデ。	長石，石英，針状鉱物 灰色 良好	Ｐ380，90%　PL27 P5付近床面

第59号住居跡（第142図）

位置　調査区中央部，Ｂ４f6区。

規模と平面形　長軸3.30m，短軸3.13mの方形である。

主軸方向　Ｎ－67°－Ｅ

壁　壁高は38～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　西壁を除き，壁下を巡っている。上幅９～18cm，下幅３～９cm，深さ１～４cmで，断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１は長径59cm，短径45cmの楕円形，深さ34cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ２は長径64cm，短径37cmの楕円形，深さ30cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　東壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで92cm，最大幅69cm，壁外への掘り込み60cmである。火床面は床面とほぼ同レベルである。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック微量

3　暗 褐 色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量，小礫微量
5　暗 赤 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

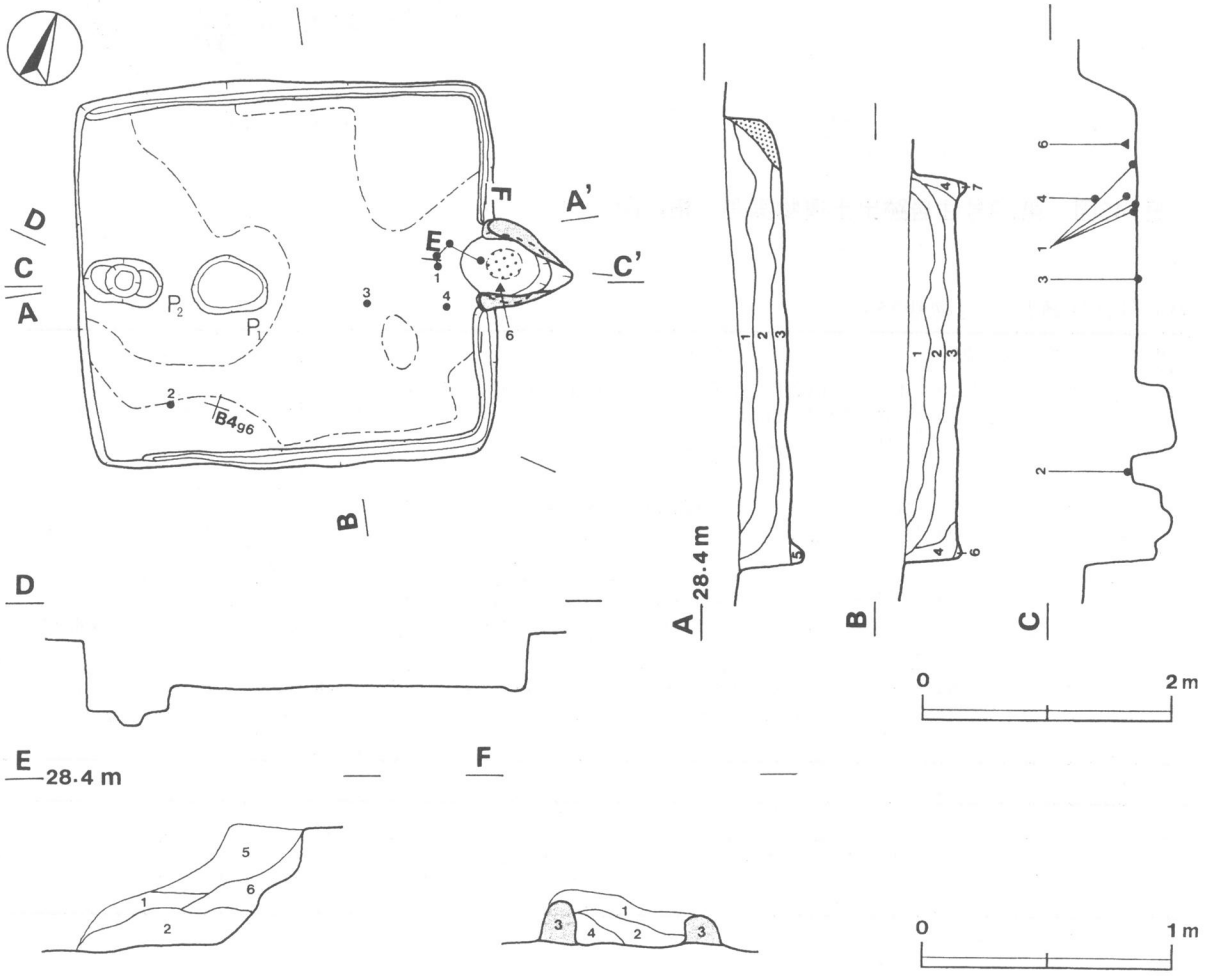
覆土　7層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化物極微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック・炭化物極微量
3　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土小ブロック・焼土粒子極微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
5　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
6　明 褐 色　ローム粒子多量，炭化粒子極微量
7　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子極微量

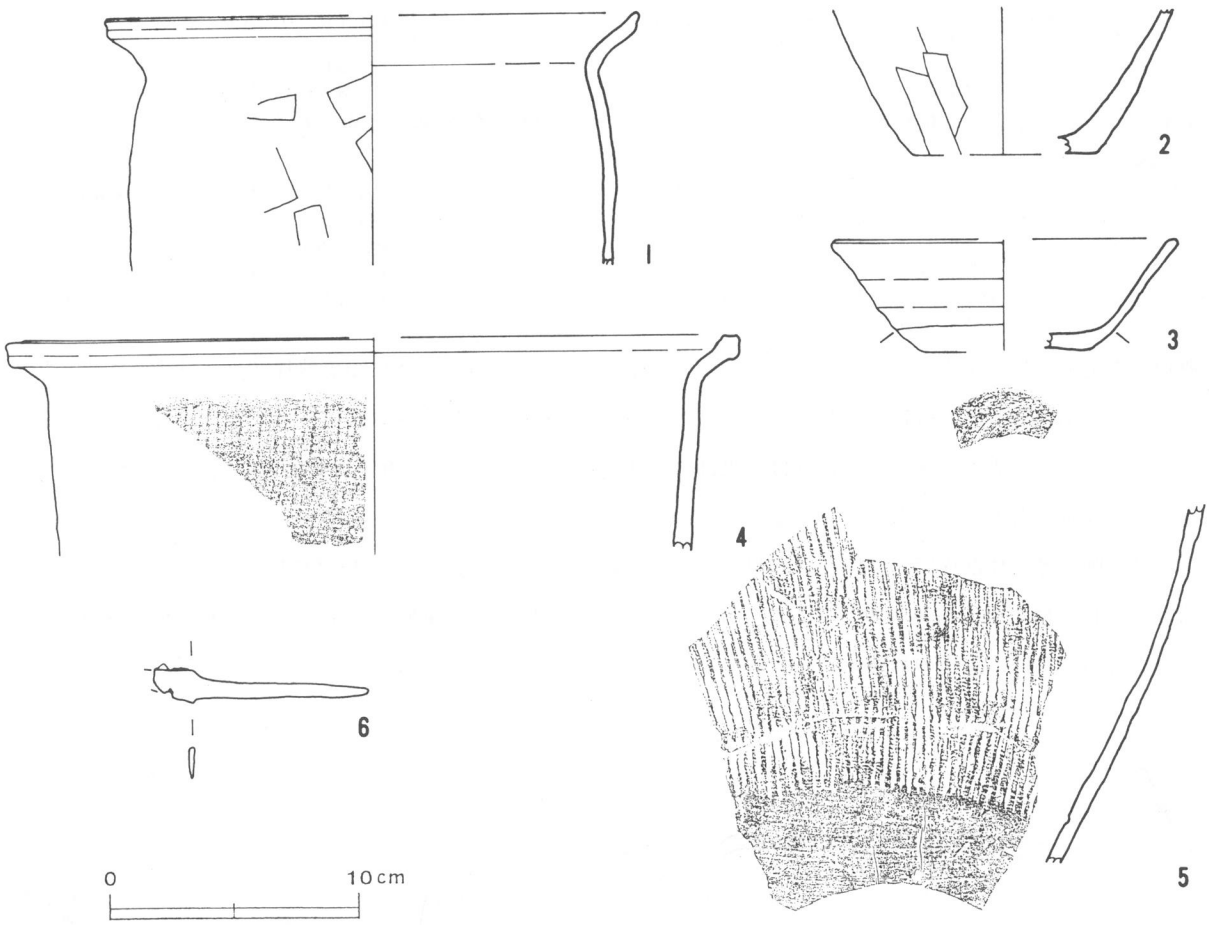
遺物　中央部を除く覆土中層から床面にかけて，土師器の甕片120点を主体に須恵器片30点，鉄製品1点が出土している。第143図1・2は土師器甕である。1は竈付近の床面，2は南西コーナー部の覆土下層から出土している。3・4は須恵器である。3の坏は中央部やや東側の床面，4の甑は竈付近の覆土中層から出土している。6の刀子は竈の右袖部から出土している。

5は土師器甕の体部片で，横位の平行叩き後，縦位の平行叩きが施され，下位は横位のヘラ削りである。

所見　主柱穴は1か所のみ検出されたが，4本柱を想定した場合の北東側，南東側，北西側は検出されなかった。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と考えられる。



第142図　第59号住居跡実測図



第143図　第59号住居跡出土遺物実測・拓影図

第59号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 1	甕 土師器	A［21.0］ B（10.0）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。横体部外面上位横位のヘラナデ，中位縦位のヘラナデ。	長石，石英，雲母 にぶい橙色 普通	P381，5％ 竈付近床面
2	甕 土師器	B（5.8） C［7.4］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラナデ。底部ヘラ削り。	長石,石英,雲母,赤色粒子 にぶい褐色 普通	P382，5％ 南西ｺｰﾅｰ部覆土下層
3	坏 須恵器	A［13.8］ B　4.4 C［6.6］	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転糸切り。	長石，石英，針状鉱物 灰黄褐色 良好	P383，5％ 中央部床面
4	甑 須恵器	A［29.4］ B（8.5）	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	長石，石英，雲母 黄褐色 良好	P384，5％ 竈付近覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	刀子	（8.6）	1.4	0.3	（6.3）	竈右袖部	M8

第61号住居跡（第144図）

位置　調査区東部，B 4 e0区。

重複関係　本跡が，第73号住居跡の南部及び第78号住居跡の西部を掘り込んでおり，本跡が最も新しい。

規模と平面形　長軸3.15m，短軸2.95mの長方形である。

主軸方向　N－13°－W

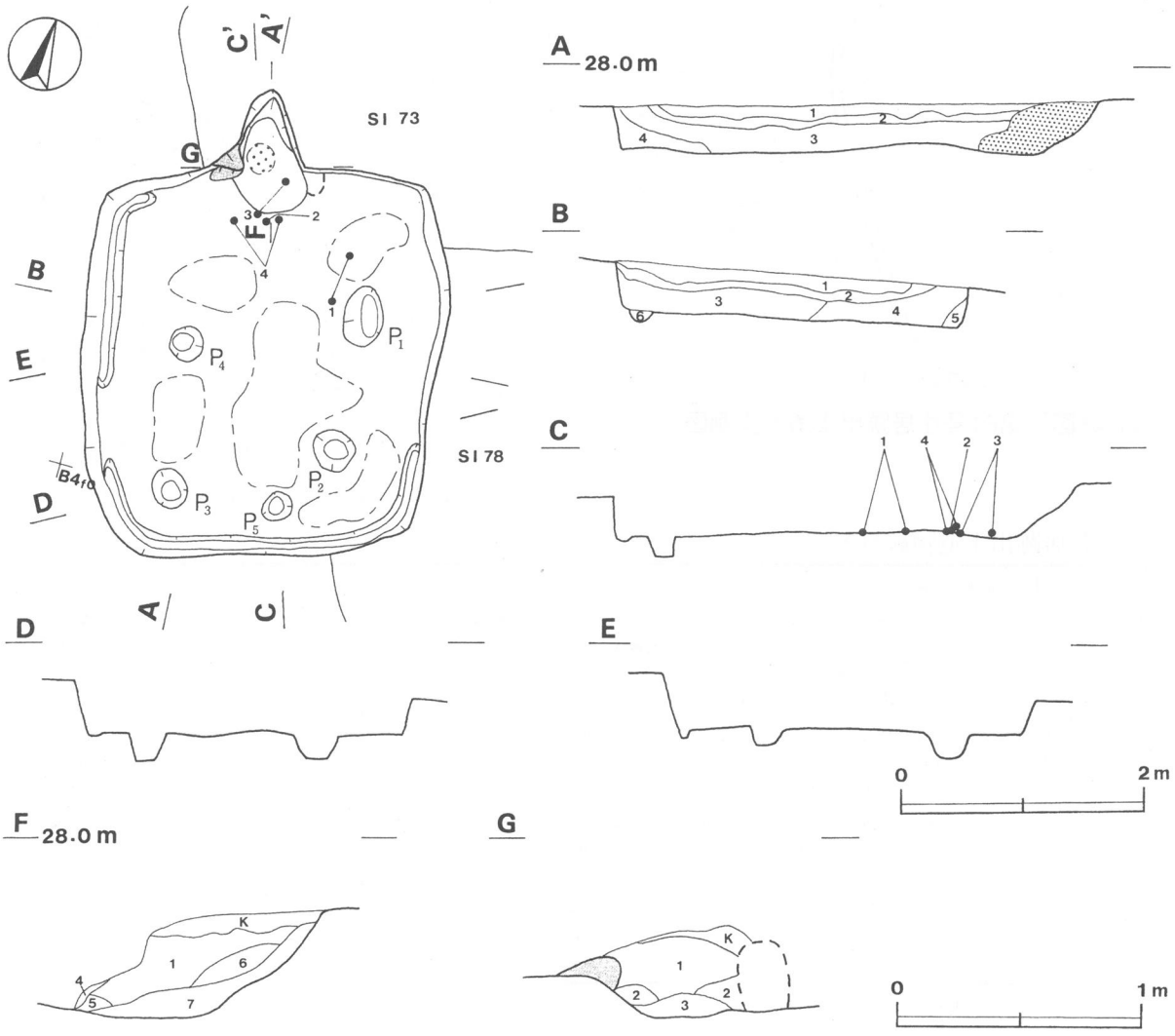
壁　壁高は28～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　東壁及び西壁の一部を除き，壁下を巡っている。上幅14～20cm，下幅５～８cm，深さ３～８cmで，断面形はU字状である。

床　ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径29～49cm，短径28～35cmの円形及び楕円形，深さ17～24cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径28cm，短径23cmの楕円形，深さ19cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されている。天井部は崩落しており，西側袖部は一部遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで103cm，最大幅85cm，壁外への掘り込み63cmである。火床面は床面を５cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。



第144図　第61号住居跡実測図

竈土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・小礫微量
2 褐　色 ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・小礫微量
3 暗赤色 ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，小礫微量
4 暗褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・小礫少量，ローム中ブロック微量
5 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子・小礫微量
6 暗褐色 ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7 にぶい赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック・小礫少量，ローム小ブロック微量

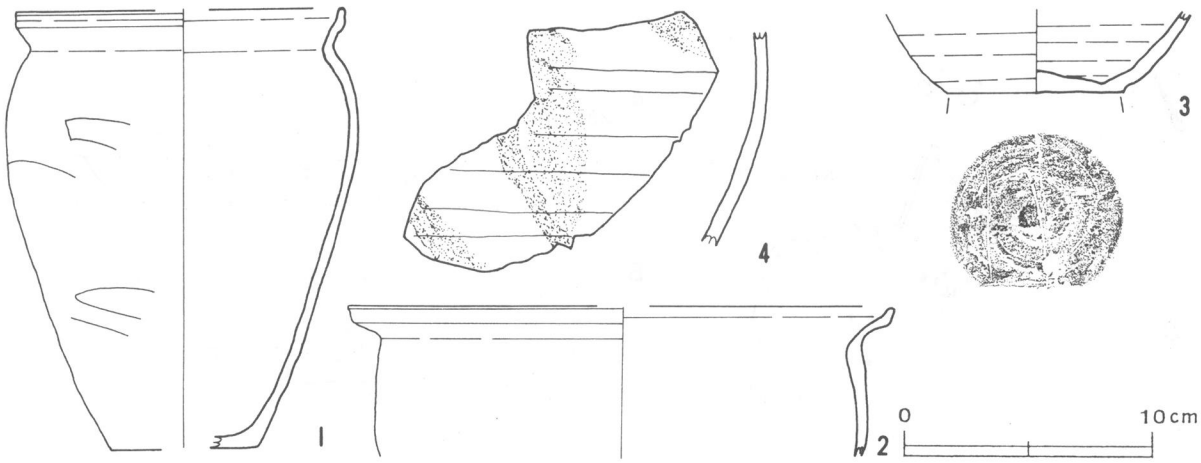
覆土　6層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

1 褐　色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2 褐　色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
3 明褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
4 褐　色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量，焼土粒子極微量
5 褐　色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
6 にぶい褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子極微量

遺物　竈付近と出入口施設周囲の覆土下層から床面にかけて土師器片105点，須恵器片30点が出土している。第145図1・2は土師器小形甕である。1は竈東側の床面，2は竈付近の床面から出土している。3の須恵器坏と4の灰釉陶器長頸瓶は竈付近の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と考えられる。



第145図　第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図 1	小形甕 土師器	A［13.0］ B（17.6） C［6.0］	底部から口縁部片。平底。体部は外傾しながら立ち上がり，中位で内彎する。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。	長石，石英，雲母 明赤褐色 普通	P385，10% 竈東側床面
2	甕 土師器	A［11.8］ B（6.0）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石石英雲母赤色粒子 橙色 普通	P386，5% 竈付近床面
3	坏 須恵器	B（3.3） C 7.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，底部にヘラ記号。	長石，石英，雲母 灰色 良好	P387，30% 竈付近床面
4	長頸瓶 灰釉陶器	B（8.6）	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。釉は流し掛けか。	長石，雲母 灰白色 良好	P388，5% 竈付近床面

第63-A号住居跡（第146図）

位置　調査区東部，B4h0区。

重複関係　本跡が，第63－B号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸5.43m，短軸4.88mの長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は34～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　東壁及び南東コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅20～45cm，下幅5～30cm，深さ4～10cmで，断面形はU字状である。

床　小さな凹凸があるが，ほぼ平坦である。木の根による撹乱が激しく硬化面を確認することができなかった。

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は長径50～78cm，短径44～74cmの楕円形，深さ63～72cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P5は長径57cm，短径40cmの楕円形，深さ29cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで148cm，最大幅135cm，壁外への掘り込み54cmである。火床面は床面を5cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変し，硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
2	暗赤褐色	砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，砂質粘土中ブロック少量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂粒中量，ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，砂質粘土中ブロック微量
4	にぶい赤褐色	砂粒多量，砂質粘土中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
5	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック中量，ローム粒子，炭化粒子少量，焼土大ブロック微量
6	暗褐色	ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，小礫少量，焼土小ブロック微量
7	暗赤褐色	砂質粘土大ブロック・砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
8	暗赤褐色	砂粒多量，焼土粒子・砂質粘土中量，焼土中ブロック少量
9	にぶい赤褐色	砂質粘土大ブロック・砂粒多量，炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・鹿沼大ブロック少量，焼土小ブロック微量

覆土　7層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

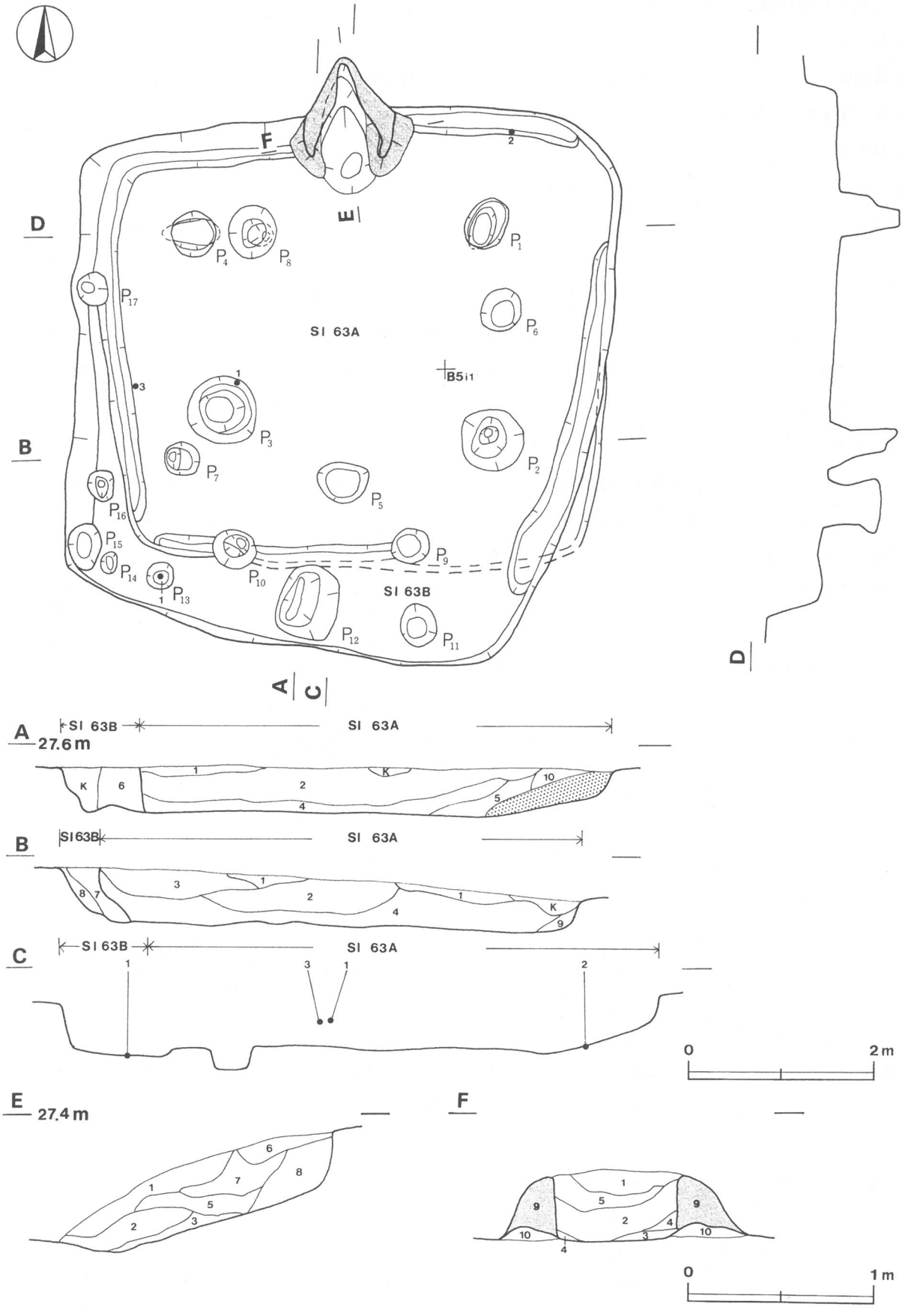
1	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼粒子極微量
2	褐色	ローム粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3	にぶい褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
4	褐色	ローム粒子少量，鹿沼粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼大・中ブロック極微量
5	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量，炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒極微量
9	褐色	ローム粒子微量，炭化粒子微量
10	褐色	ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒・白色粘土小ブロック極微量

遺物　竈付近の覆土中層から床面にかけて土師器片180点，須恵器片60点が出土している。第147図1は土師器甕で，P3付近の覆土中層から出土している。2・3は須恵器蓋である。2は北東コーナー部の床面，3はP3付近の覆土中層から出土している。

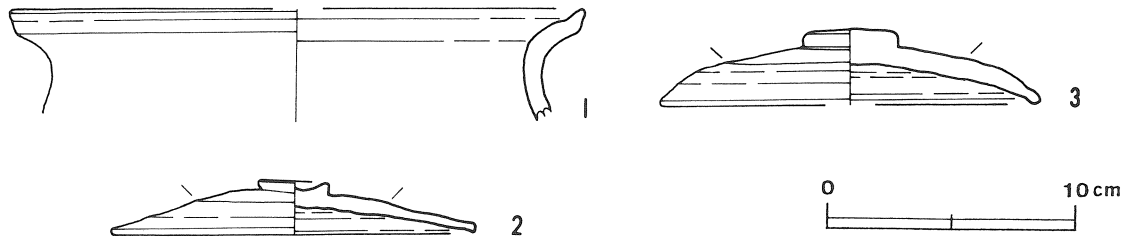
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と考えられる。

第63－A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第147図1	甕 土師器	A［22.8］ B（4.1）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石石英雲母赤色粒子 橙色 普通	P390，5％ P3付近覆土中層



第146図　第63-A・B号住居跡実測図



第147図　第63-A号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第147図 2	蓋 須恵器	B 2.0 C 14.3 F (2.8) G 0.5	天井部・口縁部一部欠損。天井頂部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲しわずかに垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石，石英，針状鉱物 灰色 良好	P392，70% PL26 北東ｺｰﾅｰ部床面
3	蓋 須恵器	A [15.2] B 3.0 F 3.8 G 0.7	天井部から口縁部片。天井頂部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し軽く垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石，小礫，白色粒子 灰黄色 良好	P393，20% P3付近覆土中層

第63-B号住居跡（第146図）

位置　調査区東部，B4i0区。

重複関係　北部を第63－A号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.70m，短軸[5.48]mの方形と推定される。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は22～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　西壁と東壁下の一部に認められる。上幅20～45cm，下幅5～30cm，深さ4～10cmで，断面形はU字状である。

床　ほぼ平坦であると思われる。

ピット　12か所（P6～P17）。P6～P9は長径39～58cm，短径38～45cmの楕円形，深さ26～74cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P10は長径78cm，短径62cmの楕円形，深さ29cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P11は位置から補助柱穴，P12～P17は壁際に位置することから壁柱穴と思われる。

竈　重複により確認することができなかったが，調査当初，A号住居跡の竈東側の覆土に砂質粘土・焼土塊を検出することができた。この住居の竈であった可能性が高いと思われる。

覆土　遺存していた覆土は3層である。ロームブロックを多く含むことから埋め戻しの可能性があり，人為堆積であると考えられる。

土層解説

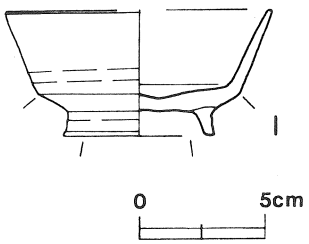
6　明褐色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼粒子極微量

7　明褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，ローム小ブロック微量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼小ブロック極微量

8　明褐色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，鹿沼粒子微量

遺物　北部をA号住居跡に掘り込まれており，出土遺物も少ない。土師器片，須恵器片が極少量出土している。第148図1は須恵器高台付坏で，南西コーナー部の床面から出土している。

所見　当初，1軒の住居跡として調査を開始したところ，壁溝が2本平行して検出されたため，重複しているのではないかと考え再調査を行った。本跡は建て替え（縮小）られる前の住居跡と考えられる。遺構の形態及



第148図　第63-B号住居跡出土遺物実測図

び出土遺物からB号とA号の年代差はあまりないものと思われ，時期は，8世紀中頃と考えられる。

第63－B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第148図 1	高台付坏 須恵器	A［10.6］ B　5.0 D　6.1 E　0.9	高台部から口縁部片。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石,雲母,小礫,白色粒子 灰色 良好	P391，40% 南西ｺｰﾅｰ部床面

第65号住居跡（第149図）

位置　調査区東部，B4i8区。

規模と平面形　長軸6.66m，短軸6.53mの方形である。

主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は45～62cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北東及び南東コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅15～34cm，下幅5～17cm，深さ5～15cmで，断面形はU字状である。

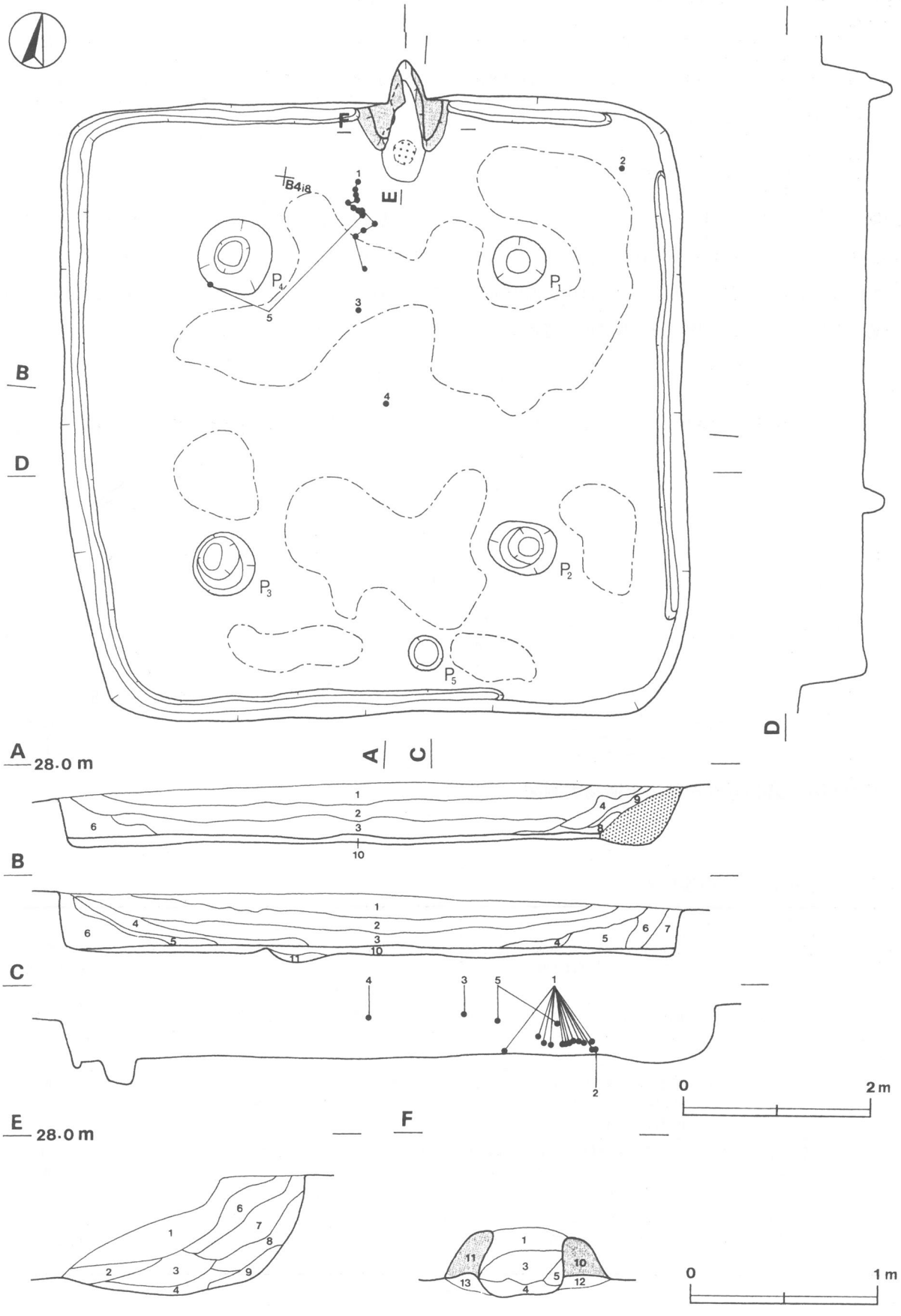
床　貼り床で，ほぼ平坦である。出入口施設周囲と竈付近が踏み固められている。

貼り床土層解説
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子微量
11　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は長径58～84cm，短径55～82cmの円形及び楕円形，深さ69～94cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P5は径38cmの円形，深さ27cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央からやや東側に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで133cm，最大幅104cm，壁外への掘り込み46cmである。火床面は床面を10cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　明褐色　砂粒多量，砂質粘土中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　砂粒多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，砂粒中量，ローム中ブロック・焼土粒子・砂質粘土大ブロック少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量
5　にぶい赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
6　褐　色　砂粒・ローム粒子多量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量，ローム中ブロック微量
7　褐　色　ローム粒子・砂粒多量，砂質粘土中ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
9　暗赤褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10　褐　色　砂粒多量，ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量
11　褐　色　砂粒多量，ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・砂質粘土少量
12　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・砂粒少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
13　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土中・小ブロック少量



第149図　第65号住居跡実測図

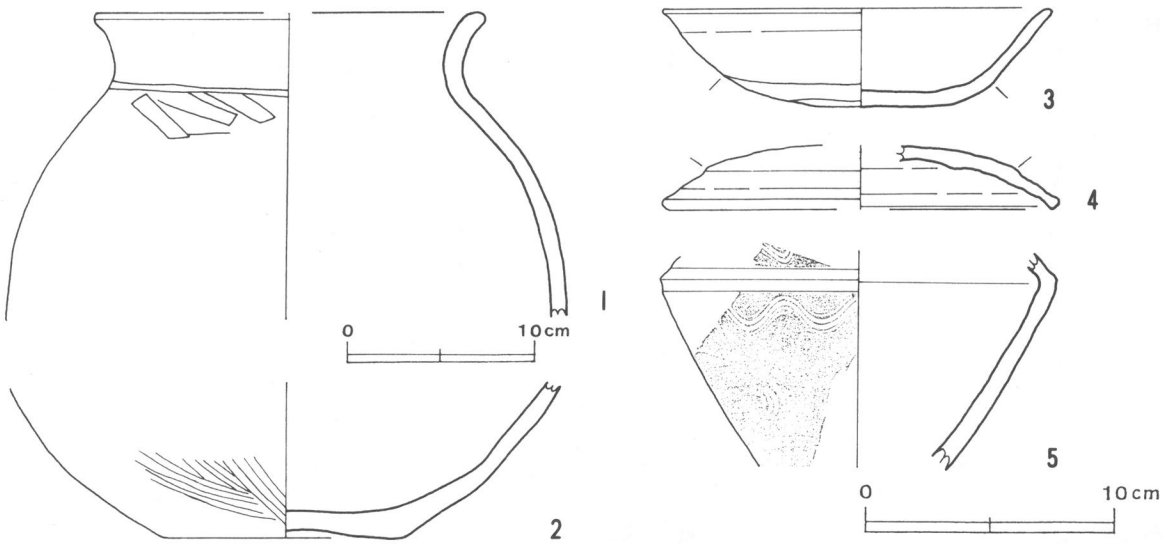
覆土　9層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量，ローム中ブロック微量
6　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極微量
7　明褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
8　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，粘土小ブロック少量，焼土粒子極微量
9　褐　色　砂粒中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　竈付近の覆土上層から床面にかけて，土師器片60点，須恵器片20点が出土している。第150図１・２は土師器甕である。１は竈付近の床面，２は北東コーナー部の覆土下層から出土している。３～５は須恵器である。３の坏はＰ４東側の覆土上層，４の蓋は中央部の覆土上層，５の壺はＰ４付近の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀前半と考えられる。



第150図　第65号住居跡出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第150図 1	甕 土師器	A［20.5］ B（16.2）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。	長石石英雲母白色粒子 にぶい橙色 普通	P215，20% PL27 竈付近床面
2	甕 土師器	B（ 6.2） C　9.5	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面丁寧な斜位のヘラ磨き。底部ナデ。	長石石英雲母白色粒子 橙色 普通	P216，20% 北東ｺｰﾅｰ部覆土下層
3	坏 須恵器	A　15.6 B　3.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部に至る。口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石，石英，雲母 黄灰色 良好	P217，60% PL27 P4東側覆土上層
4	蓋 須恵器	A［15.4］ B（ 2.5）	天井部から口縁部片。天井頂部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部，口縁部ロクロナデ。	長石，石英，針状鉱物 灰黄色 良好	P218，10% 中央部覆土上層
5	壺 須恵器	B（ 8.6）	体部片。体部は外傾して立ち上がる。中位に稜を有し，内側に強く屈曲する。	体部外面に５条の波状文が巡り，同心円の叩き。稜の上下には凹線が巡る。	長石，雲母，白色粒子 黄灰色 良好	P219，５% P4付近覆土中層

第68号住居跡（第151図）

位置　調査区南東部，Ｃ４d7区。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸3.72mの方形である。

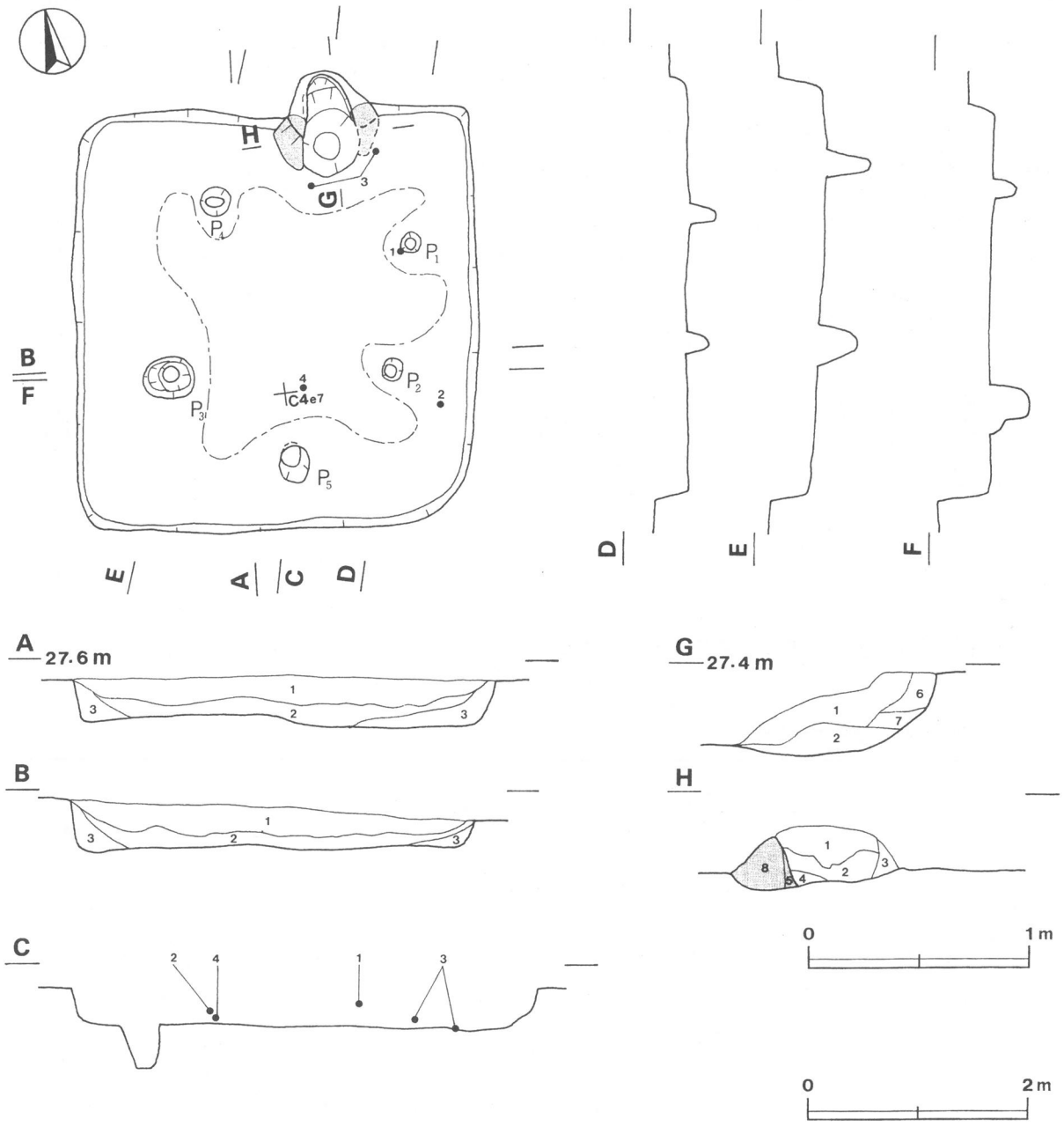
主軸方向　N－11°－E

壁　壁高は17～47cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，ロームブロックを混ぜた貼り床である。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　5か所（P１～P５）。P１～P４は長径21～48cm，短径19～38cmの円形及び楕円形，深さ22～43cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。P５は長径35cm，短径29cmの楕円形，深さ42cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央からやや東側に付設されている。天井部は崩落しており，東側の袖部は撹乱により一部を残すのみである。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで95cm，最大幅96cm，壁外への掘り込み38cmである。火床面は床面を３cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び



第151図　第68号住居跡実測図

火床面は火熱を受けて赤変し硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック少量
4　暗赤褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
5　赤 褐 色　砂粒多量，砂質粘土大ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・砂質粘土中ブロック少量，焼土小ブロック微量
8　褐　　色　砂質粘土大ブロック・砂粒多量，砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック少量

覆土　3層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

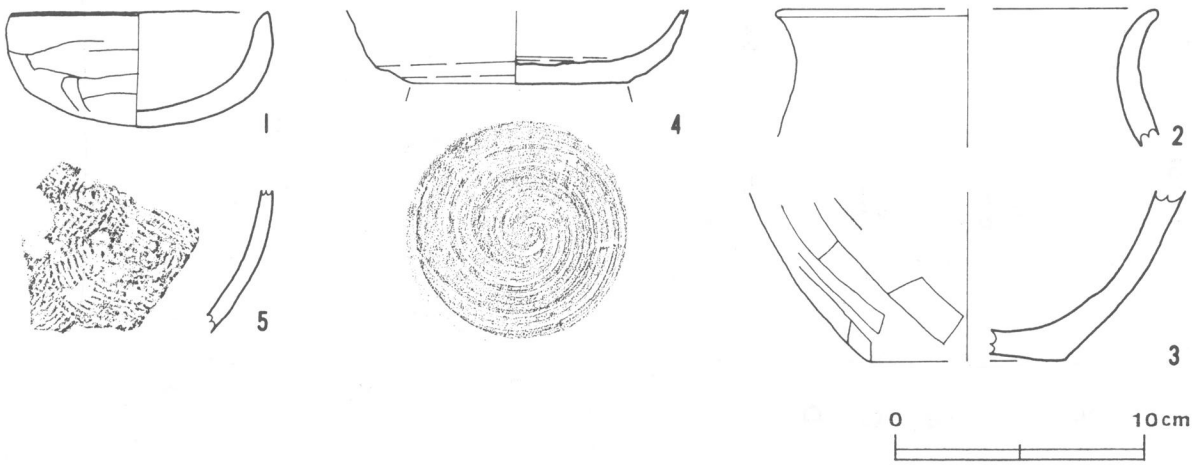
土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・炭化粒子微量，焼土粒子・炭化物極微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物極微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，ローム大・中ブロック・焼土粒子極微量

遺物　中央部から竈付近の覆土中層から床面にかけて土師器片55点，須恵器片20点が出土している。第152図1～3は土師器である。1の坏はP1付近の覆土中層，2の甕はP2付近の覆土下層，3の甕は竈付近の床面から出土している。4は須恵器坏で中央部南側の覆土下層から出土している。

5は須恵器甕の体部片で，外面に同心円の叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀前半と考えられる。



第152図　第68号住居跡出土遺物実測・拓影図

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	坏 土師器	A　10.2 B　4.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。	長石，石英，雲母 浅黄色 普通	P394，95%　PL27 P1付近覆土中層
2	甕 土師器	A　[15.2] B　(5.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P396，5% P2付近覆土下層
3	甕 土師器	B　(6.7) C　[7.8]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面斜位のヘラナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。	長石石英雲母白色粒子 橙色 普通	P397，5% 竈付近床面
4	坏 須恵器	B　(2.9) C　8.6	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，石英，小礫 灰白色 良好	P398，10% 中央部覆土下層

第69号住居跡（第153図）

位置　調査区南東部，Ｃ４a0区。

重複関係　中央部やや北西側を第92号土坑に掘り込まれている。本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.76m，短軸4.55mの方形である。

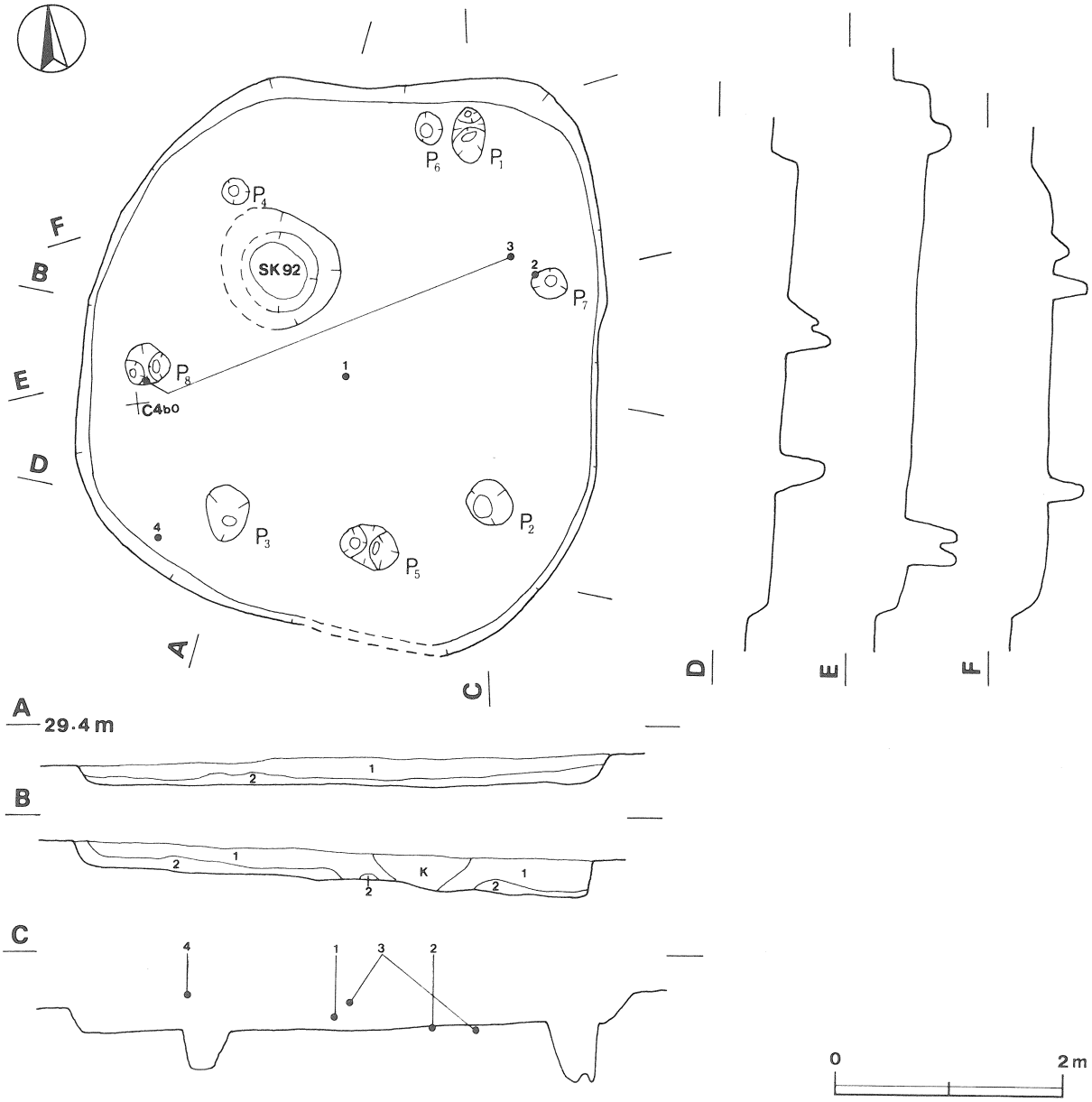
主軸方向　Ｎ－14°－Ｅ

壁　壁高は17～31cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，南部がやや低い。

ピット　８か所（Ｐ１～Ｐ８）。Ｐ１～Ｐ４は長径24～51cm，短径24～38cmの円形及び楕円形，深さ31～56cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径53cm，短径37cmの楕円形，深さ40cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６～Ｐ８は長径31～40cm，短径24～36cmの楕円形，深さ20～46cmで，性格は不明である。

覆土　２層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

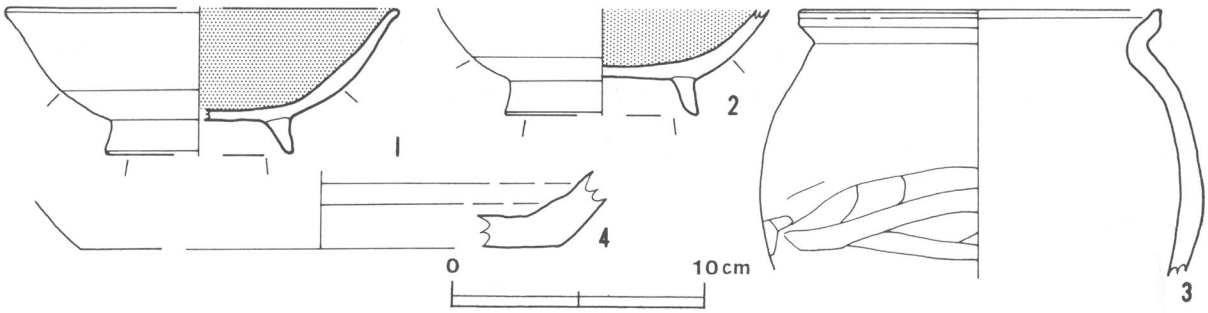


第153図　第69号住居跡実測図

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子微量，ローム中・小ブロック・炭化粒子極微量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック極微量

遺物　出土遺物は少なく，土師器片，須恵器片が極少量出土しているのみである。第154図１～３は土師器である。１の高台付椀は中央部の覆土下層，２の高台付椀と３の小形甕はP7付近の床面から出土している。４の須恵器甕はＰ３付近の覆土上層から出土している。

所見　本跡は竈などの火所を持たない遺構と思われる。時期は，出土遺物から９世紀後半～10世紀前半と考えられるが，木の根による撹乱が激しく詳細な時期・性格は不明である。



第154図　第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第154図 1	高台付椀 土 師 器	A［15.7］ B　5.8 D［7.4］ E　1.4	高台部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は緩く外反する。高台部はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	長石，雲母 にぶい橙色 普通	P399，40%　PL27 中央部覆土下層
2	高台付椀 土 師 器	B（4.2） D［7.8］ E　1.4	高台部から体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。高台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面黒色処理。	長石,石英,雲母,白色粒子 浅黄橙色 普通	P400，10% P7付近床面
3	小 形 甕 土 師 器	A［14.5］ B（10.7）	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。	長石,石英,雲母,白色粒子 明赤褐色 普通	P401，40%　PL27 P7付近床面
4	甕 須 恵 器	B（3.1） C［19.0］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。	長石，石英 黄灰色 良好	P402，５% P3付近覆土上層

第70号住居跡（第155図）

位置　調査区北部，Ａ３c6区。

規模と平面形　長軸4.25m，短軸2.70mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－５°－Ｅ

壁　壁高は40～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南壁中央の一部を除き，壁下を巡っている。上幅20～25cm，下幅５～10cm，深さ４～９cmで，断面形はＵ字状である。

床　貼り床で，ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

貼り床土層解説
11　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

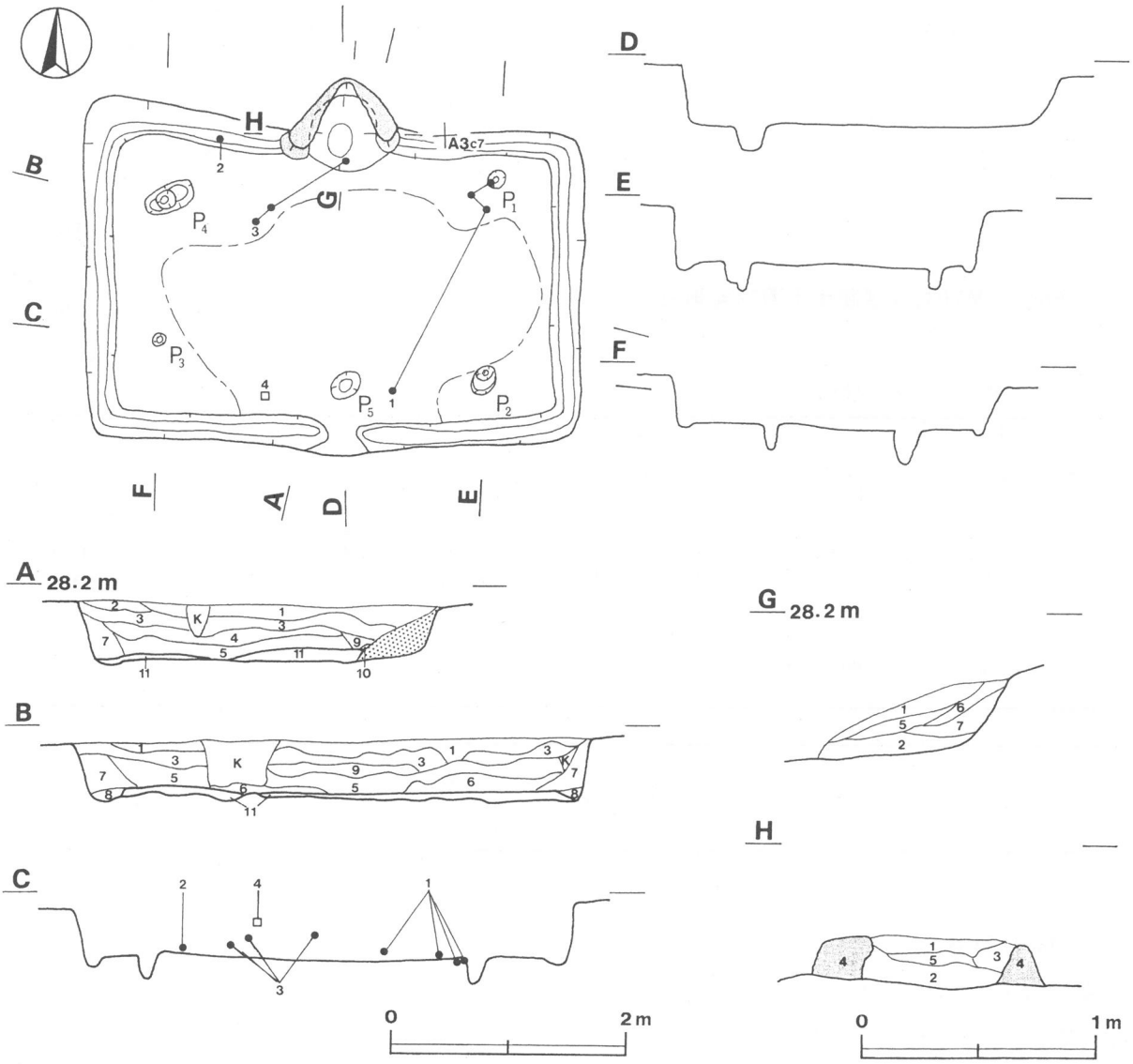
ピット　5か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径16～44cm，短径10～21cmの円形及び楕円形，深さ18～32cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径29cm，短径21cmの楕円形，深さ25cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで82cm，最大幅103cm，壁外への掘り込み43cmである。火床面は床面とほぼ同レベルである。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土中・小ブロック・焼土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，ローム中・小ブロック・焼土中・小ブロック・砂質粘土中ブロック少量
4　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック中量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量
6　暗赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，砂質粘土小ブロック微量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化物微量

覆土　10層からなる。上層・中層はレンズ状を呈すことから自然堆積であると思われるが，下層はロームブロックを多く含むことから人為堆積であると思われる。



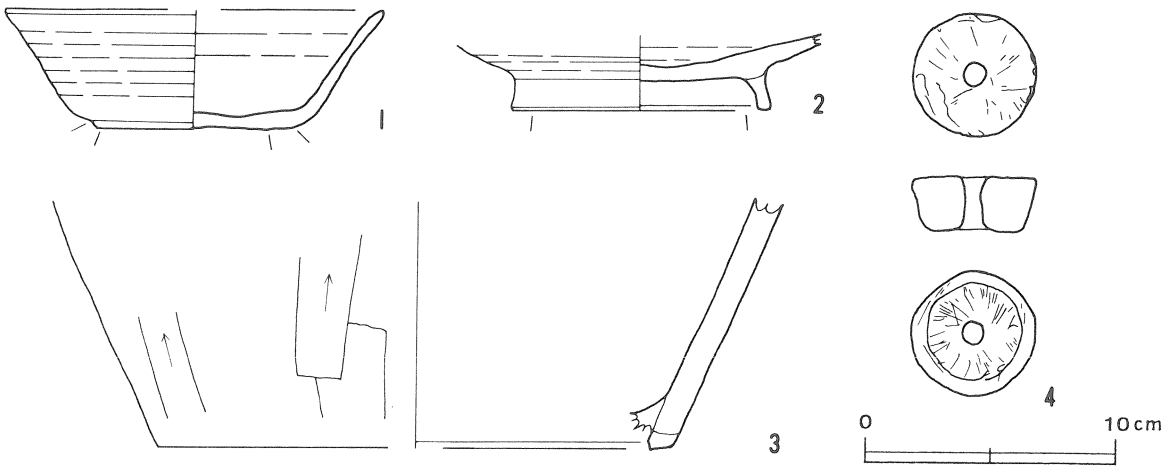
第155図　第70号住居跡実測図

土層解説

1 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量
3 暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
4 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
5 暗褐色　ローム粒子多量，砂粒中量，ローム小ブロック･砂質粘土中ブロック少量，ローム中ブロック･炭化粒子微量
6 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
7 暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック極微量
8 褐　色　ローム中・小ブロック多量，ローム大ブロック中量
9 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
10 暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　竈付近と出入り口施設周囲の覆土下層から床面にかけて，土師器片，須恵器片が極少量と石器・石製品が出土している。第156図１～３は須恵器である。１の坏はＰ１付近の床面，２の盤は竈西側の床面，３の甑は竈付近の覆土下層から出土している。４の石製紡錘車はＰ５西側の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から８世紀後半と考えられる。



第156図　第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第156図 1	坏 須恵器	A ［15.0］ B 4.7 C 7.6	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石，石英，小礫 灰色 良好	Ｐ403，40% P1付近床面
2	盤 須恵器	B （ 3.0） D 10.2 E 1.3	高台部から体部片。体部は外傾して立ち上がる。高台部はわずかに外方へふんばる。	体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，小礫，白色粒子 灰褐色 良好	Ｐ404，10% 竈西側床面
3	甑 須恵器	B （ 9.8） C ［20.4］	底部から体部片。体部は外傾して直線的に立ち上がる。	体部外面縦位の粗いヘラ削り。	長石，石英，雲母 灰色 良好	Ｐ405，５% 竈付近覆土下層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
4	石製紡錘車	5.0	2.2	1.0	77.2	粘板岩	Ｐ5西側覆土上層	Q83　PL33

第74号住居跡（第157図）

位置　調査区北東部，Ｂ４a9区。

重複関係　本跡が，第56号住居跡の東壁を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.00m，短軸2.70mの長方形である。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は35～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　竈両袖部の一部を除き，壁下を巡っている。上幅10～22cm，下幅４～12cm，深さ４～８cmで，断面形はU字状である。

床　貼り床で，ほぼ平坦である。出入口施設から竈にかけて踏み固められている。

貼り床土層解説

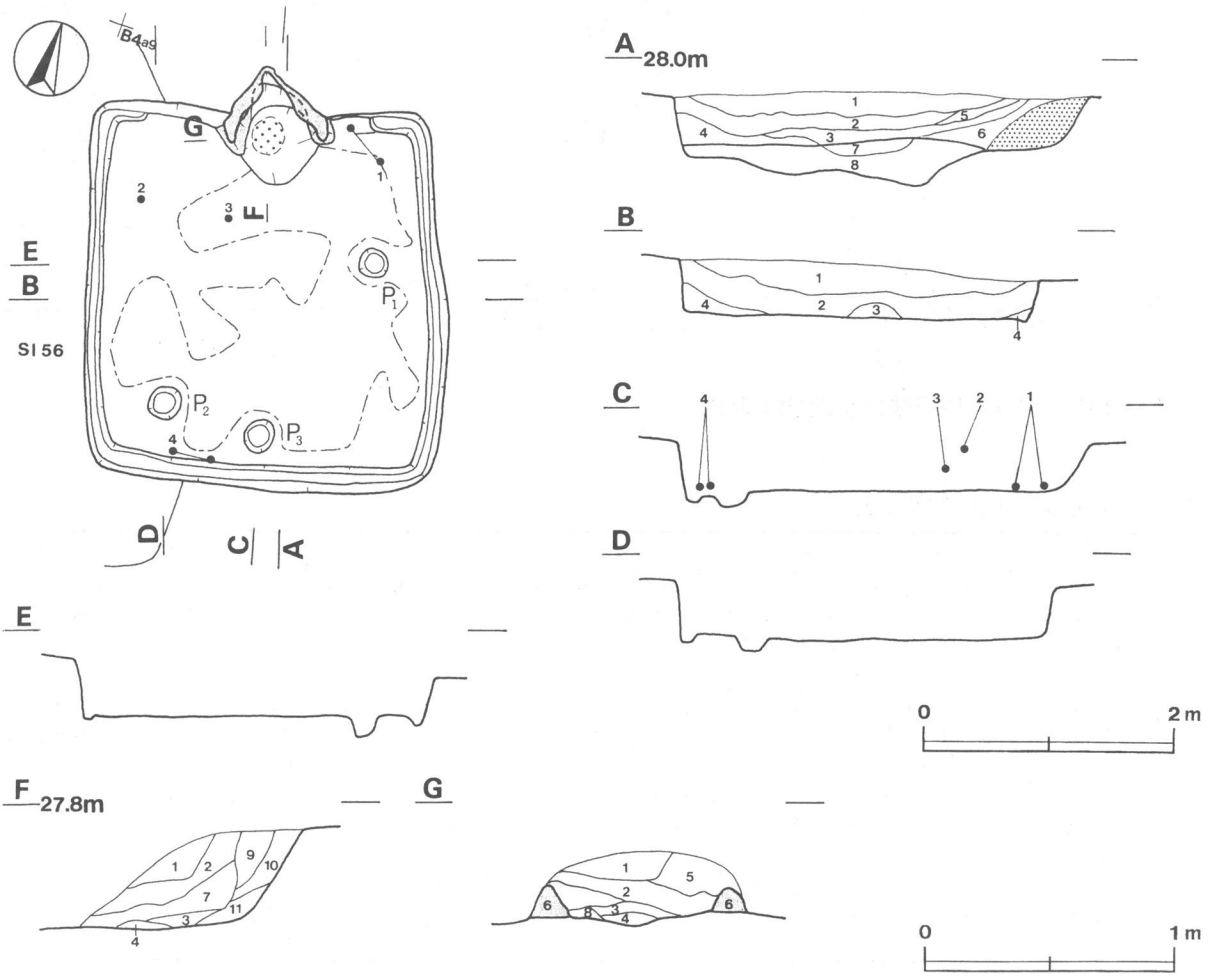
7	褐　色	ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量	8	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大・中ブロック中量，焼土粒子微量

ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。Ｐ１・Ｐ２は長径24～28cm，短径22～26cmの円形，深さ12～15cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ３は長径28cm，短径24cmの楕円形，深さ11cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は一部遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで95cm，最大幅94cm，壁外への掘り込み38cmである。火床面は床面を３cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量	3	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒中量，砂質粘土中ブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，焼土小ブロック微量	4	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量，ローム中ブロック微量



第157図　第74号住居跡実測図

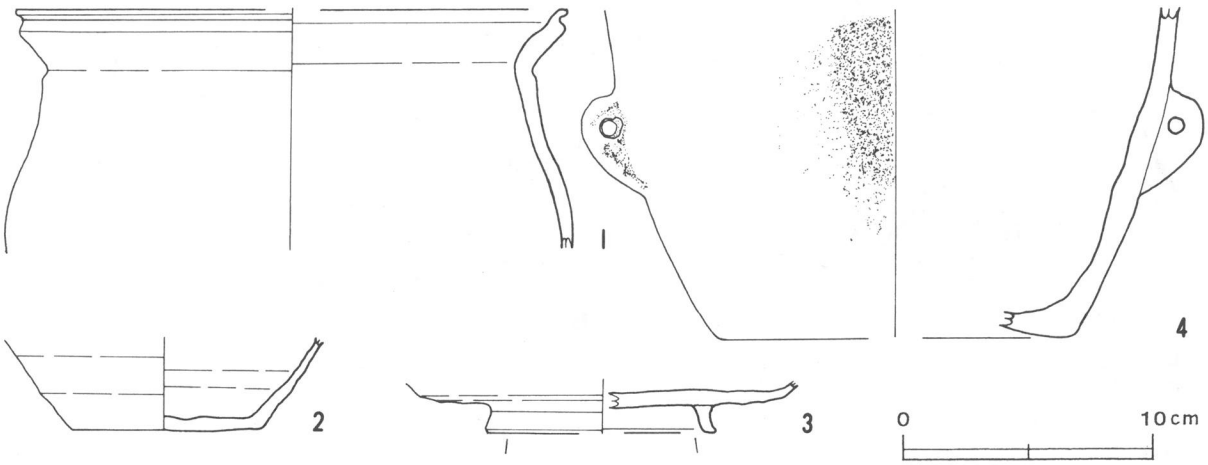
5　褐　　色　ローム粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック少量，焼土粒子微量
6　褐　　色　砂質粘土中ブロック・砂粒多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中・小ブロック・砂粒少量
9　にぶい赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・砂質粘土中ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　暗赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・砂質粘土中・小ブロック少量，焼土粒子微量
11　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量

覆土　6層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒微量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子極微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子・炭化物・砂粒極微量
3　褐　　色　ローム粒子微量，ローム中・小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒極微量
4　明 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
5　にぶい褐色　ローム粒子少量，砂粒微量・砂質粘土小ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子極微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒微量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子極微量

遺物　北部の覆土中層から床面にかけて土師器片80点，須恵器片35点が出土している。第158図1は土師器甕で，竈東側の床面から出土している。2～4は須恵器である。2の坏は竈西側の覆土上層，3の盤は竈付近の覆土中層，4の双耳瓶はP3西側の床面から出土している。

所見　主柱穴は2か所検出されたが，4本柱を想定した場合の南東側，北西側の主柱穴は検出されなかった。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と考えられる。



第158図　第74号住居跡出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第158図 1	甕 土師器	A［22.0］ B（9.5）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石石英雲母赤色粒子 橙色 普通	P406，5％ 竈東側床面
2	坏 須恵器	B（3.7） C［7.4］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石，石英 灰オリーブ色 良好	P407，10％ 竈西側覆土上層
3	盤 須恵器	B（2.1） D［9.1］ E　1.1	高台部から体部片。体部はやや内彎して外方へ開き，屈曲する。高台は外方へふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，小礫，白色粒子 灰黄色 良好	P408，5％ 竈付近覆土中層
4	双耳瓶 須恵器	B（13.1） C［14.0］	底部から体部片。体部は内彎気味に立ち上がり，下位に耳状の把手（現存は1か所）がつく。	体部内・外面ロクロナデ，外面に自然釉がかかる。	長石，雲母 灰黄色 良好	P409，10％ PL28 P3付近床面

第76号住居跡（第159図）

位置　調査区中央部，Ｂ４ｄ3区。

重複関係　本跡が，第75号住居跡の北西壁を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸4.70ｍ，短軸4.50ｍの方形である。

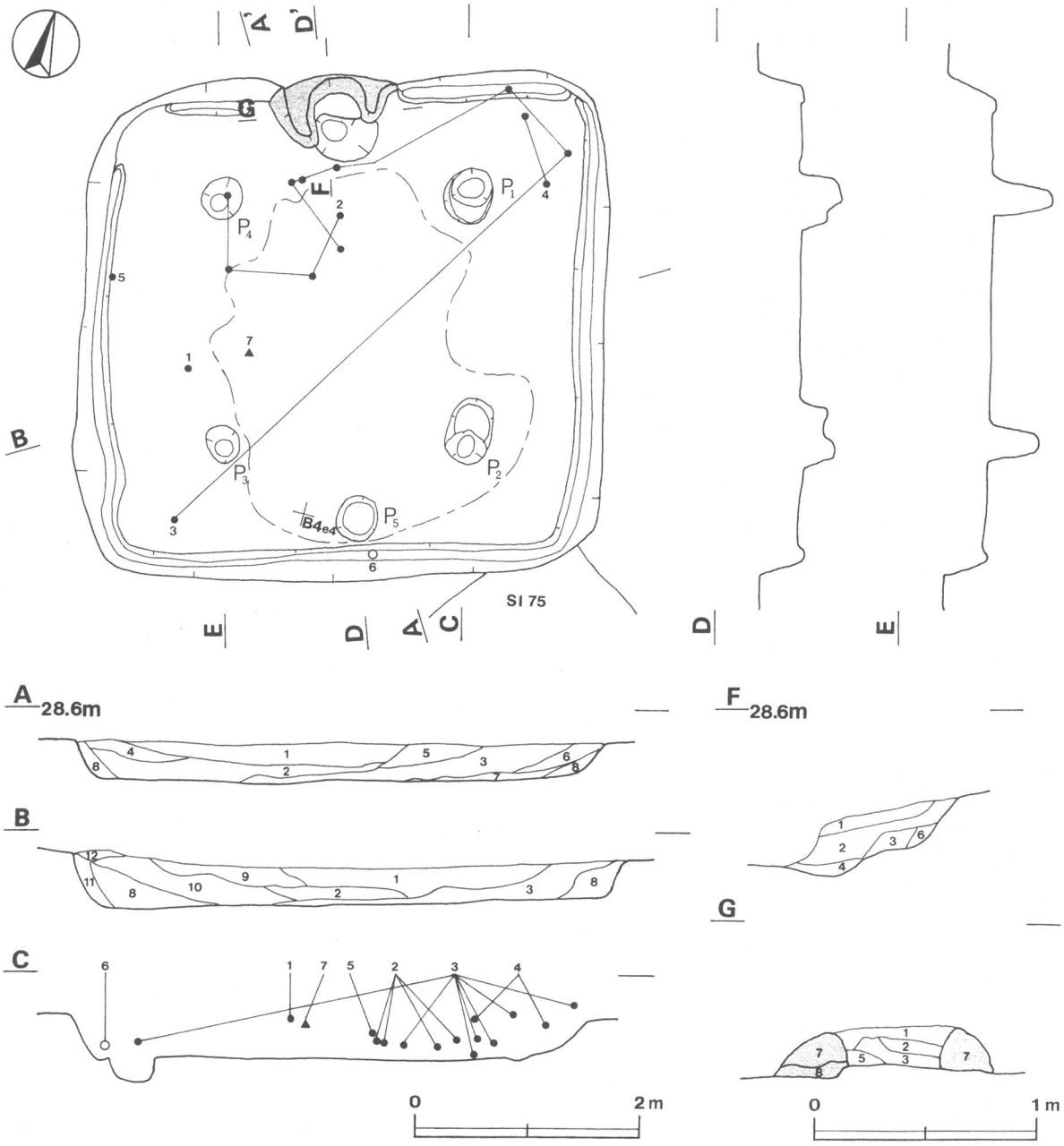
主軸方向　Ｎ－16°－Ｗ

壁　壁高は35～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北西コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅13～44cm，下幅５～12cm，深さ３～６cmで，断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦であるが，北部がやや低い。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径34～60cm，短径29～44cmの円形及び楕円形，深さ32～56cmで，規



第159図　第76号住居跡実測図

模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は径39cmの円形，深さ23cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで81cm，最大幅107cm，壁外への掘り込み10cmである。火床面は床面を５cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変し硬化している。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

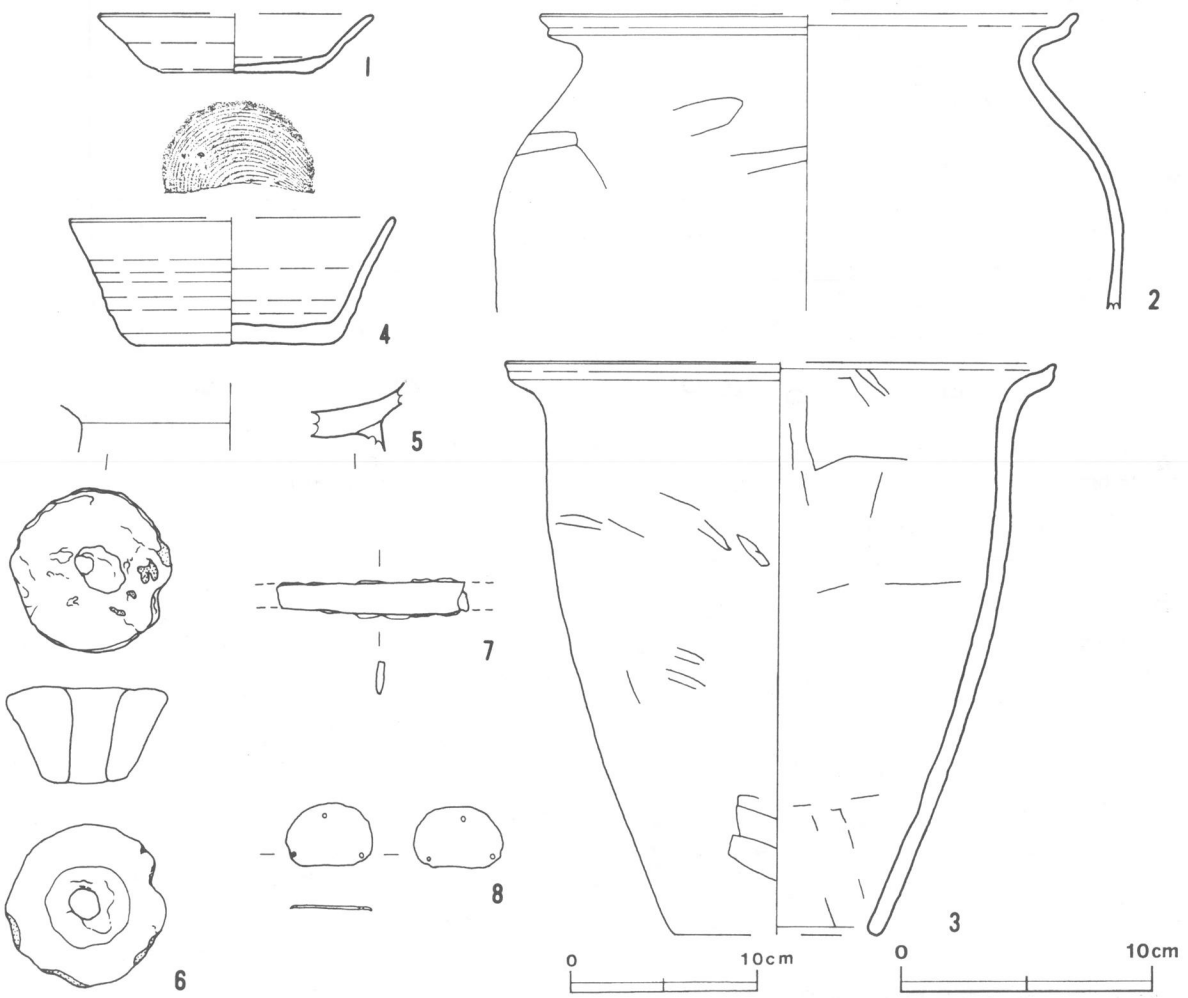
竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量
5　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
6　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
7　暗赤褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量

覆土　12層からなる。上層から下層にかけてロームブロックを多く含むことから人為堆積であると思われる。また，10層目からロームが帯状に検出され，西壁面からスロープ状になっていることから，廃絶後の窪地を投棄場所として利用した可能性がある。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
2　褐　色　ローム粒子微量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
4　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
5　褐　色　ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
6　褐　色　ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
7　にぶい褐色　砂粒微量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極微量
8　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子極微量



第160図　第76号住居跡出土遺物実測図

9　にぶい褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック微量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子極微量
10　明褐色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
11　褐　色　ローム大ブロック少量，ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極微量
12　褐　色　ローム粒子微量，ローム中ブロック・炭化粒子極微量

遺物　土師器片140点を主体に須恵器片35点，土製品１点，鉄製品１点，銅製品１点が出土している。第160図１～３は土師器である。１の皿はＰ３北側の覆土上層，２の甕は竈付近の覆土中層，３の甑は竈付近の覆土下層から出土している。４・５は須恵器である。４の坏は北東コーナー部の覆土上層，５の盤はＰ４西側の覆土中層から出土している。６の土製紡錘車はＰ５付近の覆土下層，７の刀子は中央やや西側の覆土中層，８の銅製の丸鞆は南西コーナー部の覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から９世紀前半と考えられる。

第76号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 1	皿 土師器	A［11.0］ B 2.3 C［6.0］	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石，石英，赤色粒子 浅黄色 普通	Ｐ410，40% P3北側覆土上層
2	甕 土師器	A［21.4］ B （11.8）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。	長石，石英，雲母，赤色粒子 明赤褐色 普通	Ｐ411，５% 竈付近覆土中層
3	甑 土師器	A［29.4］ B （30.2） C［11.0］	底部から口縁部片。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位横位のヘラ削り，中位斜位のヘラナデ。体部内面輪積み痕，下位縦位のヘラナデ。	長石，石英，雲母 にぶい黄橙色 普通	Ｐ412，20% PL27 竈付近覆土下層
4	坏 須恵器	A［12.8］ B 5.0 C［7.8］	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	長石，石英，小礫，針状鉱物 灰白色 良好	Ｐ413，40% 北東コーナー部覆土上層
5	盤 須恵器	B （2.7）	高台部から体部片。体部は内彎して外方へ開く。高台はわずかに外方へふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英，白色粒子 黄灰色 良好	Ｐ414，５% Ｐ4西側覆土中層

図版番号	種別	計測値 径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
6	紡錘車	6.4	3.9	1.3～2.0	121.8	Ｐ5付近覆土下層	DP129 PL32

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
7	刀子	（7.8）	1.2	0.3	（10.8）	中央部覆土中層	M９
8	丸鞆	2.5	3.5	0.1	5.0	南西コーナー部覆土中	M10 PL33

第78号住居跡（第161図）

位置　調査区東部，Ｂ５e1区。

重複関係　本跡が，第73号住居跡の南部及び第61号住居跡の東壁を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸4.30m，短軸3.90mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－５°－Ｗ

壁　壁高は20～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～32cm，下幅４～11cm，深さ４～10cmで，断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

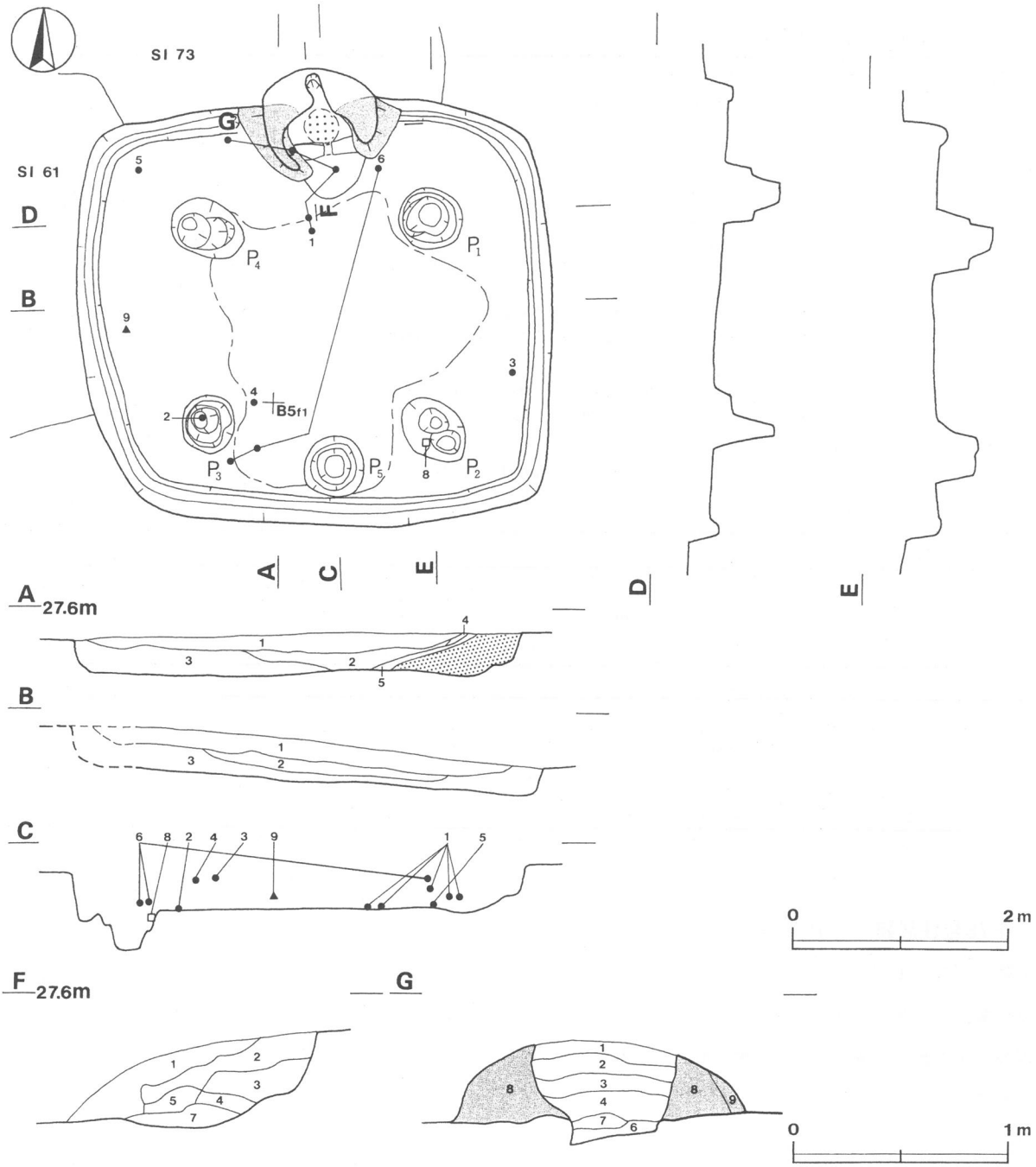
ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は長径55～71cm，短径49～56cmの楕円形，深さ39～85cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は径58cmの円形，深さ36cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで122cm，最大幅153cm，壁外への掘り込み31cmである。火床面は床面を４cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　明褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・白色粘土中・小ブロック微量，焼土中ブロック・焼土粒子極微量

2　にぶい褐色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量，焼土中・小ブロック・炭化物・炭化粒子極微量



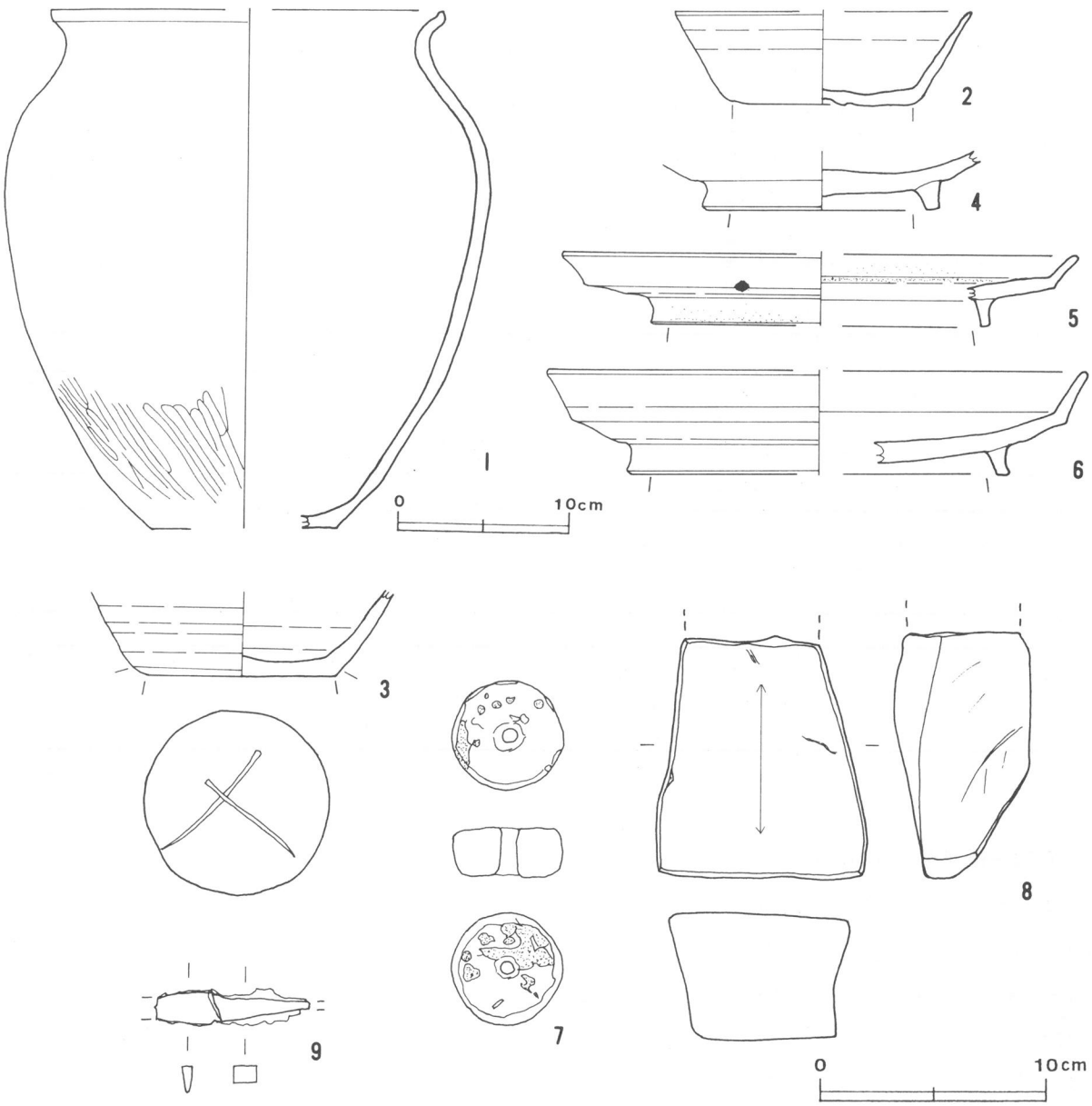
第161図　第78号住居跡実測図

3　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，鹿沼粒子微量，ローム中・小ブロック・焼土中・小ブロック・炭化粒子・白色粘土中・小ブロック極微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・砂粒微量，炭化粒子極微量
5　赤　褐　色　焼土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子・白色粒子極微量
6　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・砂粒微量，焼土小ブロック・鹿沼粒子・小礫極微量
7　赤　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・砂粒・白色粘土粒子微量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・小礫極微量
8　にぶい褐色　砂質粘土大ブロック・砂粒多量，ローム粒子・砂質粘土中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量

覆土　5層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量，ローム中ブロック・焼土粒子極微量
2　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大・小ブロック・砂質粘土微量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量
4　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子極微量
5　褐　　色　砂質粘土中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　西部の覆土上層から床面にかけて土師器片110点，須恵器片35点，土製品1点，石器1点，鉄製品1点が出土している。第162図1の土師器の甕は竈付近の床面から出土している。2～6は須恵器である。2の坏はP



第162図　第78号住居跡出土遺物実測図

3付近の床面，3の坏はP2北東側の覆土上層，4の盤はP3付近の覆土上層，5の盤は北西コーナー部の床面，6の盤はP3付近の覆土下層から出土している。7の土製紡錘車は南東部の覆土中，8の砥石はP2西側の床面，9の刀子は西壁中央部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と考えられる。

第78号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 1	甕 土師器	A［22.8］ B 30.4 C［11.0］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位縦位の粗いヘラ磨き。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P416，50% PL28 竈付近床面
2	坏 須恵器	A［13.0］ B 4.1 C［8.0］	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	長石石英小礫針状鉱物 灰オリーブ色 良好	P417，50% PL28 P3付近床面
3	坏 須恵器	B（3.7） C 8.2	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部に「×」のヘラ記号。	長石石英小礫白色粒子 にぶい褐色 良好	P418，50% P2北東側覆土上層
4	盤 須恵器	B（2.1） D 10.4 E 1.3	高台部から体部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。高台は外方へふんばる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英，針状鉱物 灰色 良好	P419，40% P3付近覆土上層
5	盤 須恵器	A［22.6］ B 3.1 D［15.0］ E 1.2	高台部から口縁部片。体部はやや内彎して外方へ開き，屈曲して口縁部に至る。口縁部は軽く外反する。高台はわずかに外方へふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，白色粒子 灰黄色 良好	P420，10% 北西ｺｰﾅｰ部床面
6	盤 須恵器	A［23.6］ B 4.6 D［16.8］ E 1.3	高台部から口縁部片。体部はやや内彎して外方へ開き，屈曲して口縁部に至る。口縁部は軽く外反する。高台は軽く外方へふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼りつけ。	長石，白色粒子 灰オリーブ色 良好	P421，40% PL28 P3付近覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径 (cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
7	紡錘車	4.9	2.3	0.7	64.8	南東部覆土中	DP130	PL31

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	砥石	（10.1）	9.1	5.9	（780.1）	砂岩	P2西側床面	Q84

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	刀子	（6.8）	1.5	0.4～1.0	（5.0）	西壁覆土中層	M11

第79号住居跡（第163図）

位置　調査区中央部，B4a3区。

重複関係　北西部を第7号溝に掘り込まれ，第53号住居跡の北部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸3.60mの方形である。

主軸方向　N－23°－W

壁　壁高は40～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　西壁北側の一部のみで確認された。上幅(20～31)cm，下幅(5～14)cm，深さは不明である。

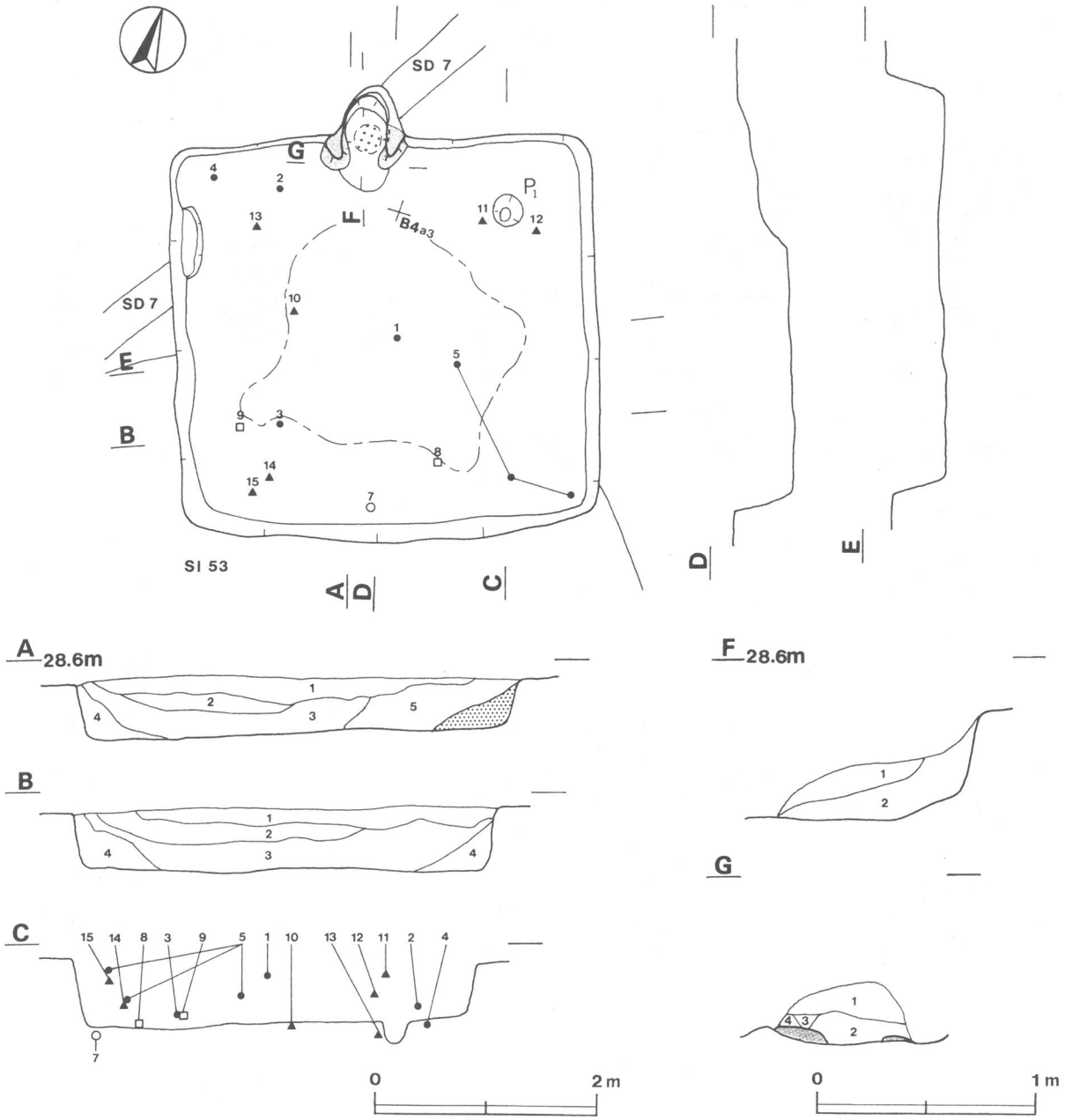
床　ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

ピット　Ｐ１は径29cmの円形，深さ19cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。

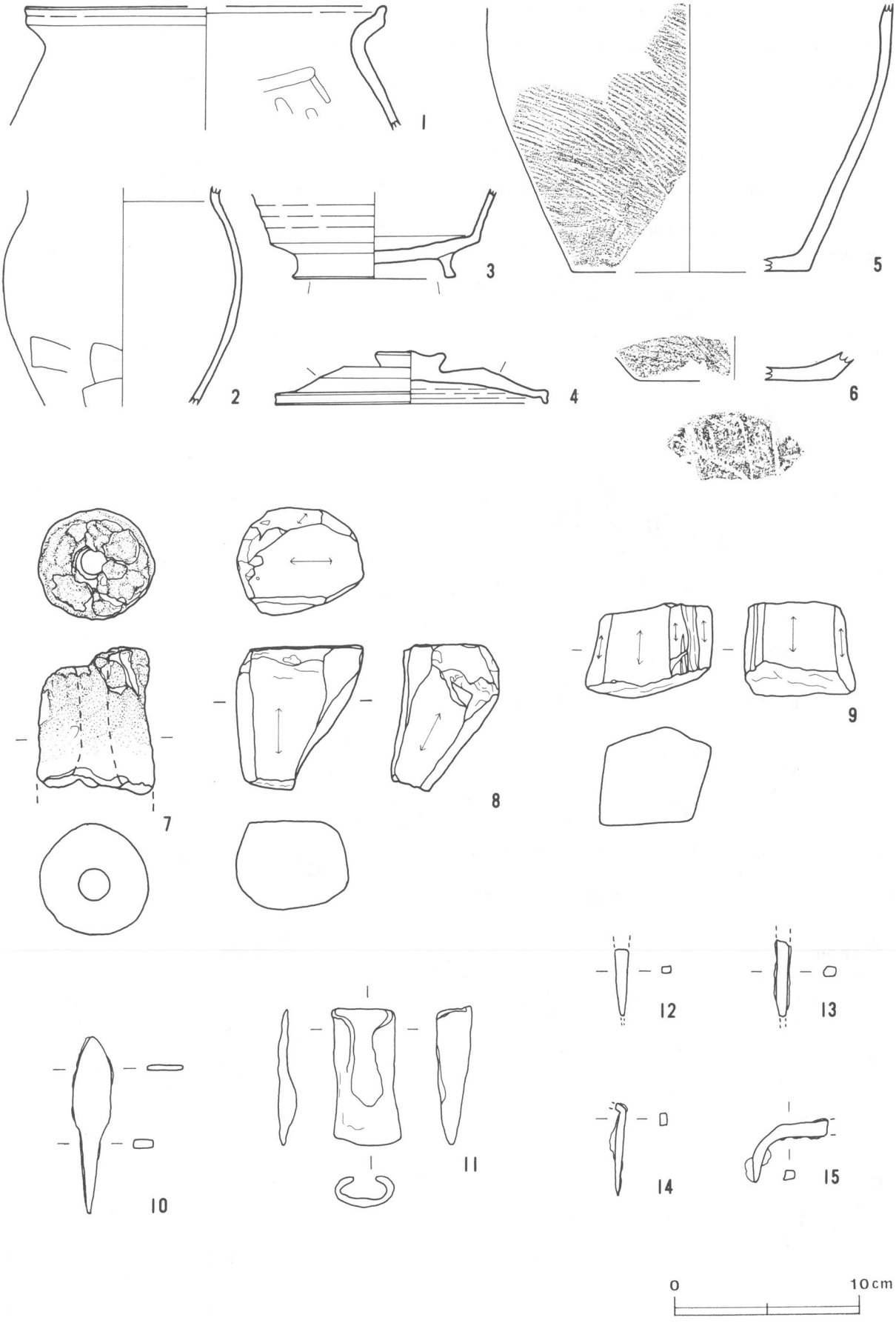
竈　北壁中央部に付設されている。平面形は，木の根による撹乱及び竈上部を第７号溝に掘り込まれており，推定の域をでない。天井部は崩落しているが，両袖部の一部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されていたと思われる。規模は，煙道部から焚口部まで[96]cm，最大幅[74]cm，壁外への掘り込み[46]cmである。火床面は床面と同レベルである。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がるものと思われる。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・小礫微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・砂質粘土中ブロック少量，焼土小ブロック・炭化物微量



第163図　第79号住居跡実測図



第164図　第79号住居跡出土遺物実測図

覆土　5層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック小礫微量
5　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，炭化粒子・小礫少量，焼土粒子微量

遺物　遺構全体の覆土中層から床面にかけて土師器片350点を主体に須恵器片100点，弥生土器片50点，土製品1点，石器2点，鉄製品6点が出土している。弥生土器片は掘り込んでいる第53号住居跡のものと思われる。第164図1・2は土師器である。1の甕は中央部の覆土上層，2の小形甕は竈西側の覆土下層から出土している。3～5は須恵器である。3の高台付坏は南西コーナー部付近の覆土下層，4の蓋は北西コーナー部の床面，5の鉢は南東コーナー部付近の覆土中層から出土している。7の羽口は南壁中央部の床面，8の砥石は中央部南側の覆土下層，9の砥石は南西コーナー部の覆土下層から出土している。10～15は鉄製品である。10の鏃は中央部西側の床面，11の斧はP1付近の覆土上層，12の釘はP1付近の覆土中層，13の釘は竈西側の床面，14の釘と15の不明鉄製品は南西コーナー部の覆土中層から出土している。

6は土師器甕の底部片で，底部は木葉痕である。

所見　主柱穴は1か所のみ検出されたが，4本柱を想定した場合の南東側，南西側，北西側の主柱穴は検出されなかった。羽口が出土したことから床面を精査したが，鍛造剥片等を検出することはできなかった。時期は，遺構の形態及び出土遺物から9世紀前半と考えられる。

第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図 1	甕 土師器	A［19.4］ B（6.5）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面斜位のヘラナデ。	長石，石英，雲母 にぶい橙色 普通	P422，5％ 中央部覆土上層
2	小形甕 土師器	B（11.8）	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り。	長石，石英，雲母 にぶい赤褐色 普通	P423，60％ PL28 竈西側覆土下層
3	高台付坏 須恵器	B（4.6） D［8.8］ E 1.3	高台部から体部片。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，針状鉱物 青灰色 良好	P424，30％ 南西ｺｰﾅｰ部覆土下層
4	蓋 須恵器	A 14.6 B 2.9 F 3.9 G 1.2	口縁部一部欠損。天井部は頂部が平坦で外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは腰高の扁平な擬宝珠状。	天井頂部，外周部上位は右回りの回転ヘラ削り。外周部下位，口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石，石英，雲母 にぶい黄色 良好	P425，90％ PL28 北西ｺｰﾅｰ部床面
5	鉢 須恵器	B（14.4） C［12.8］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，中位でやや内彎する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上斜位の平行叩き，下位横位のヘラ削り。内面ナデ。	長石石英雲母白色粒子 にぶい赤橙色 良好	P426，10％ 南西ｺｰﾅｰ部覆土中層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
7	羽口	（6.3）	（7.9）	1.6	（228.7）	南壁中央部床面	DP131

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
8	砥石	7.8	6.8	5.8	328.0	砂岩	中央部覆土下層	Q86 PL33
9	砥石	（5.1）	6.8	5.9	（240.6）	砂岩	南西ｺｰﾅｰ部覆土下層	Q87 PL33

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第164図10	鉄鏃	9.5	2.3	0.4	13.2	中央部床面	M12	PL33
11	鉄斧	7.4	基3.3 刃3.6	1.9	82.0	P1付近覆土上層	M13	PL33
12	釘	(2.5)	0.8	0.4	(1.9)	P1付近覆土中層	M14	
13	釘	(4.2)	0.7	0.5	(5.0)	竈西側床面	M15	
14	釘	5.0	0.6	0.4	3.1	南西コーナー部覆土中層	M16	
15	不明鉄製品	(4.1)	(0.7)	0.5	(8.5)	南西コーナー部覆土中層	M17	

第80号住居跡（第165図）

位置　調査区中央部，B 3 e9区。

重複関係　北壁を第 4 号溝に，西壁を第 2 号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.30m，短軸3.20mの方形である。

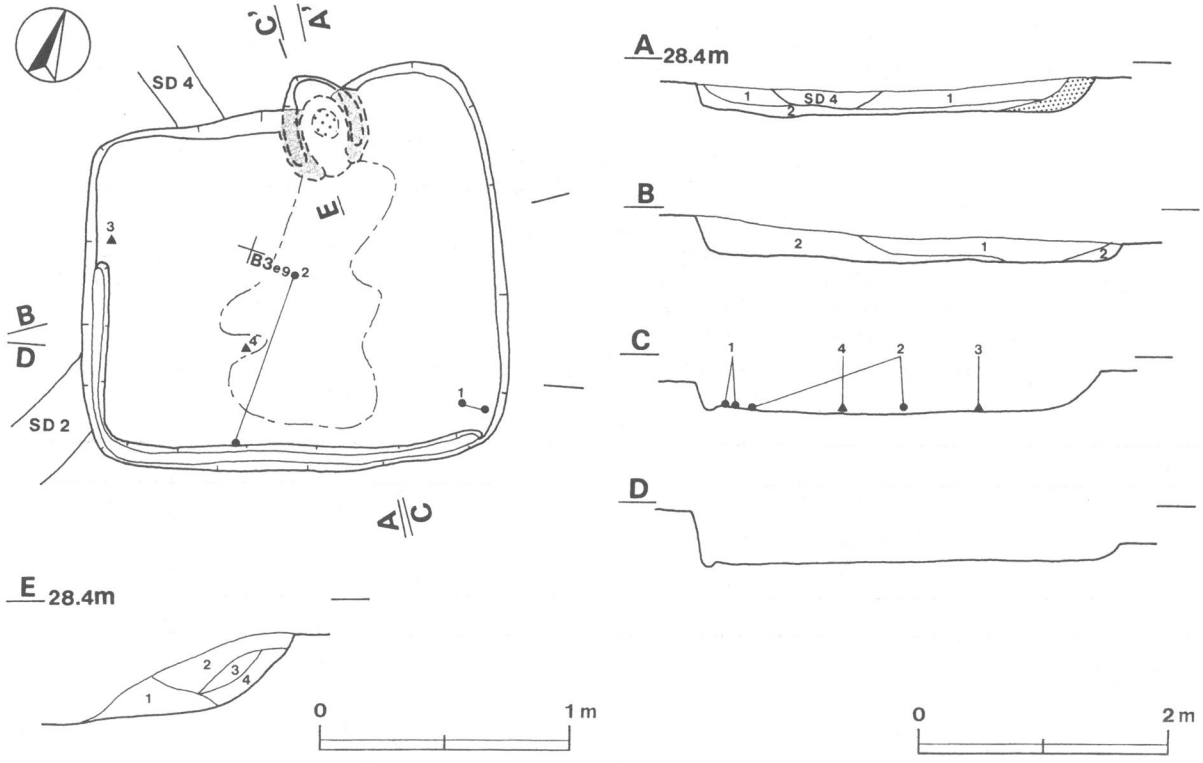
主軸方向　N－26°－W

壁　壁高は33～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　東壁と北西コーナー部を除き，壁下を巡っている。上幅12～24cm，下幅 5 ～10cm，深さ 4 ～ 5 cmで，断面形はU字状である。

床　ほぼ平坦である。中央部を中心に踏み固められている。

竈　北壁中央部からやや東側に付設されている。天井部は崩落しており，両袖部も遺存していない。覆土から袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されていたと思われる。規模は，煙道部から焚口部まで[88]cm，壁外への掘り込み22cmである。火床面は床面を 1 cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がると思われる。



第165図　第80号住居跡実測図

竈土層解説

1　暗褐色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・砂質粘土中ブロック少量
2　暗褐色　砂粒多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック少量，炭化材・炭化物・砂質粘土中ブロック微量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子・砂質粘土小ブロック・砂粒中量，焼土粒子少量，砂質粘土中ブロック微量
4　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック少量，砂質粘土中ブロック微量

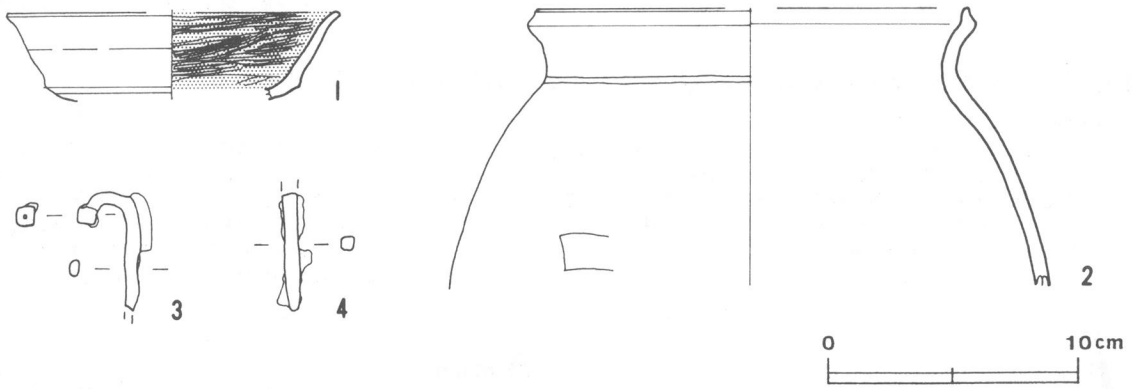
覆土　2層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・小礫微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック微量

遺物　北部の覆土下層から床面にかけて土師器片110点を主体に，須恵器片40点，鉄製品2点が出土している。第166図1・2は土師器である。1の坏は南東コーナー部の床面，2の甕は南壁際中央やや西側の床面から出土している。3・4は鉄製品である。3の鈹具は北西コーナー部の床面，4の不明鉄製品は中央部やや南側の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第166図　第80号住居跡出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第166図 1	坏 土師器	A［13.4］ B（3.5）	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部内面丁寧な横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	長石，石英 にぶい黄橙色 普通	P427，10% 南東ｺｰﾅｰ部床面
2	甕 土師器	A［17.2］ B（11.0）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。	長石，石英，雲母 橙色 普通	P428，5% 南西壁床面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
3	鈹具	（4.6）	2.6	0.7	6.2	北西コーナー部床面	M18
4	不明鉄製品	（4.6）	0.6	0.5	5.1	中央部覆土下層	M19

第81号住居跡（第167図）

位置　調査区中央部，B3b6区。

重複関係　本跡が，第31号住居跡の北東コーナー部を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.00m，短軸2.80mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は60～70cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅17～33cm，下幅３～14cm，深さ４～５cmで，断面形はU字状である。

床　ほぼ平坦である。出入口施設から竈付近にかけて踏み固められている。

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１は長径38cm，短径25cmの楕円形，深さ22cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ２は長径40cm，短径35cmの楕円形，深さ33cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部は遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで103cm，最大幅115cm，壁外への掘り込み48cmである。火床面は床面を１cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

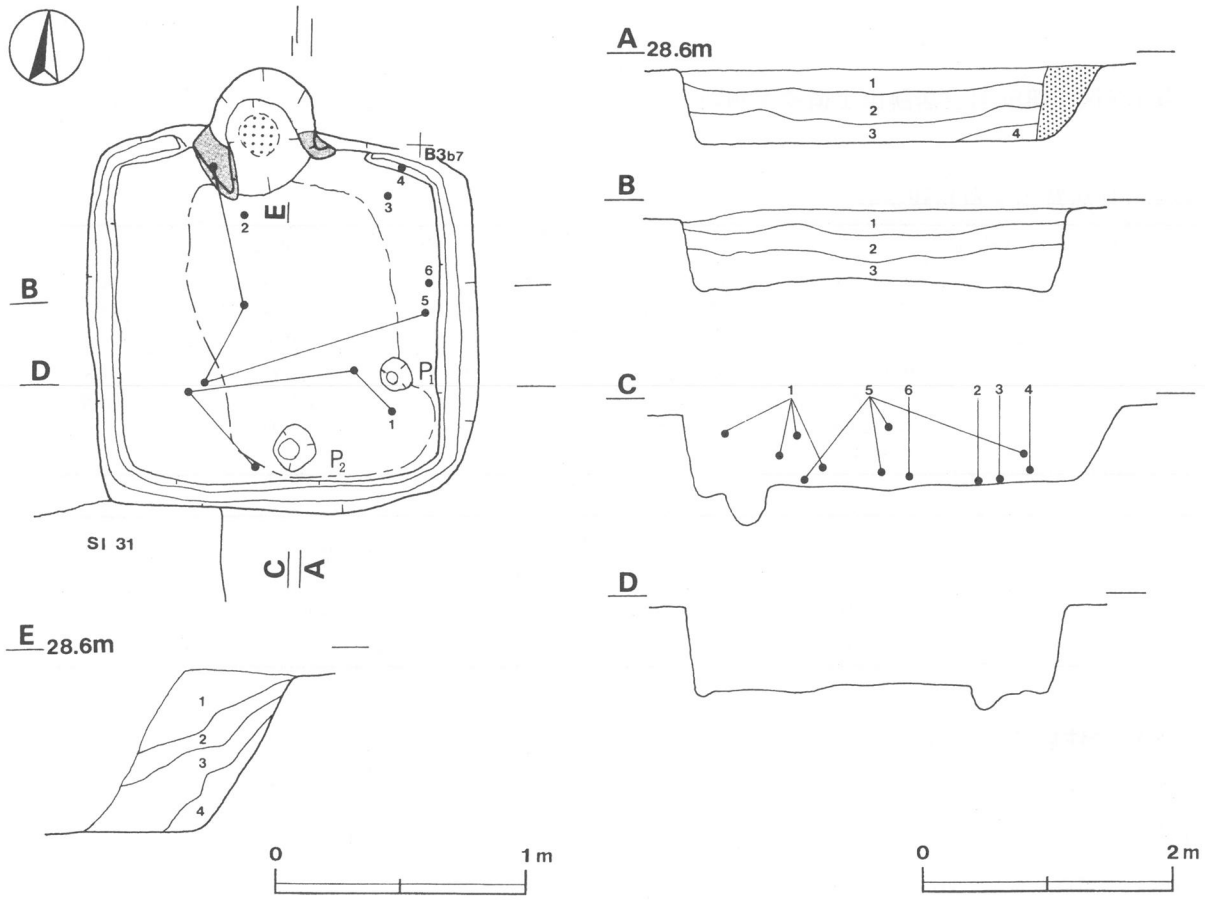
竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子・砂質粘土中ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック少量，砂質粘土大ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・砂質粘土小ブロック・砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量

覆土　４層からなる。堆積状況は，レンズ状を呈すことから自然堆積であると思われる。

土層解説

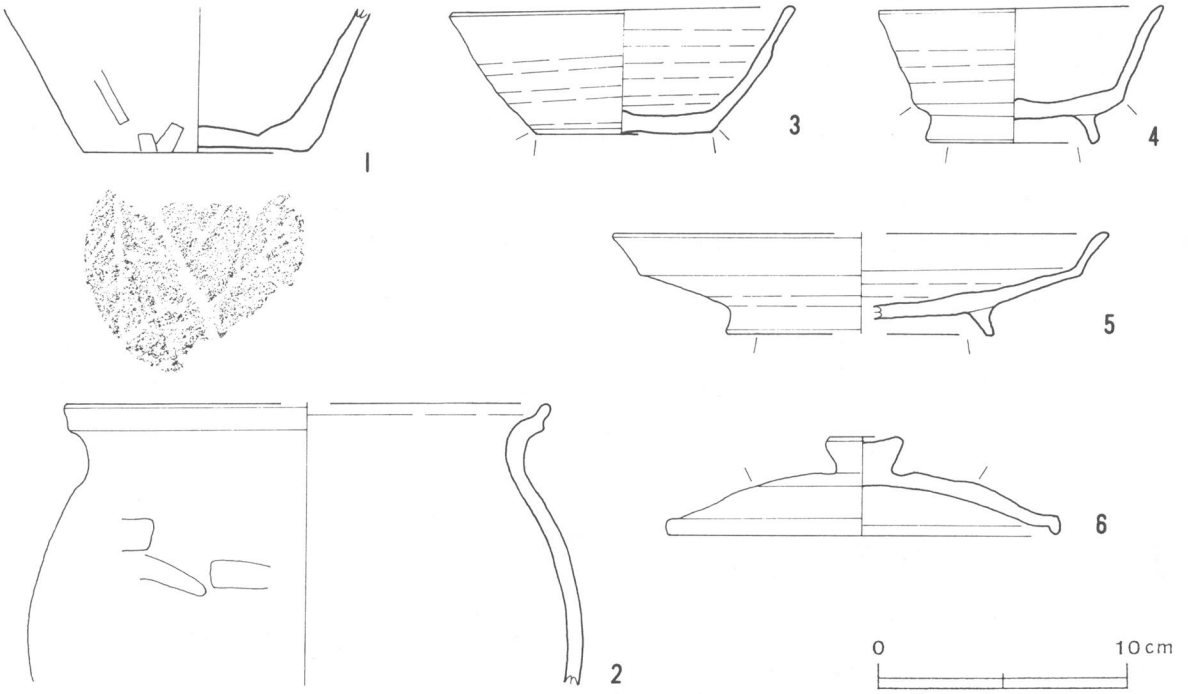
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量，焼土小ブロック・炭化物極微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・白色粘土小ブロック・砂粒極微量
3　暗褐色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子微量，ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・炭化物極微量
4　褐　色　白色粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・白色粘土小ブロック微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極微量



第167図　第81号住居跡実測図

遺物　中央部を中心に覆土下層から床面にかけて土師器片210点，須恵器片80点が出土している。第168図１・２は土師器甕である。１はＰ２付近の覆土下層，２は竈付近の床面から出土している。３～６は須恵器である。３の坏と４の高台付坏は北東コーナー部の床面と覆土下層，５の盤は中央部の覆土下層，６の蓋は東壁中央部やや北側の覆土下層から出土している。

所見　主柱穴は１か所のみ検出されたが，４本柱を想定した場合の北東側，南西側，北西側の主柱穴は検出されなかった。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から９世紀前半と考えられる。



第168図　第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 1	甕 土師器	B (5.6) C 8.9	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラナデ。底部木葉痕。	長石，石英，雲母 にぶい黄褐色 普通	P429，5％ P2付近覆土下層
2	甕 土師器	A [19.2] B (11.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。端部は外上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。	長石，雲母，白色粒子 にぶい褐色 普通	P436，10％ 竈付近床面
3	坏 須恵器	A 13.6 B 5.0 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	長石，石英，小礫，針状鉱物 青灰色 良好	P430，95％ PL28 北東コーナー部床面
4	高台付坏 須恵器	A 11.3 B 5.4 D 6.8 E 1.2	完形。体部は下位に稜を有し外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英，針状鉱物 灰色 良好	P431，100％ PL28 北東コーナー部覆土下層
5	盤 須恵器	A [19.6] B 4.0 D [10.8] E 1.1	高台部から口縁部片。体部はやや内彎して外方へ開き，屈曲して口縁部に至る。口縁部は軽く外反する。高台は外方へふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，小礫，白色粒子 灰オリーブ色 良好	P432，30％ 中央部覆土下層
6	蓋 須恵器	A 15.6 B 4.9 D 2.7 E 1.3	口縁部一部欠損。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部は右回りの回転ヘラ削り。外周部，口縁部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石，石英，針状鉱物 灰オリーブ色 良好	P433，90％ PL28 東壁付近覆土下層

第82号住居跡（第169図）

位置　調査区北部，Ａ３i0区。

重複関係　本跡が，第13号住居跡の南部を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.00m，短軸2.90mの方形である。

主軸方向　Ｎ－10°－Ｗ

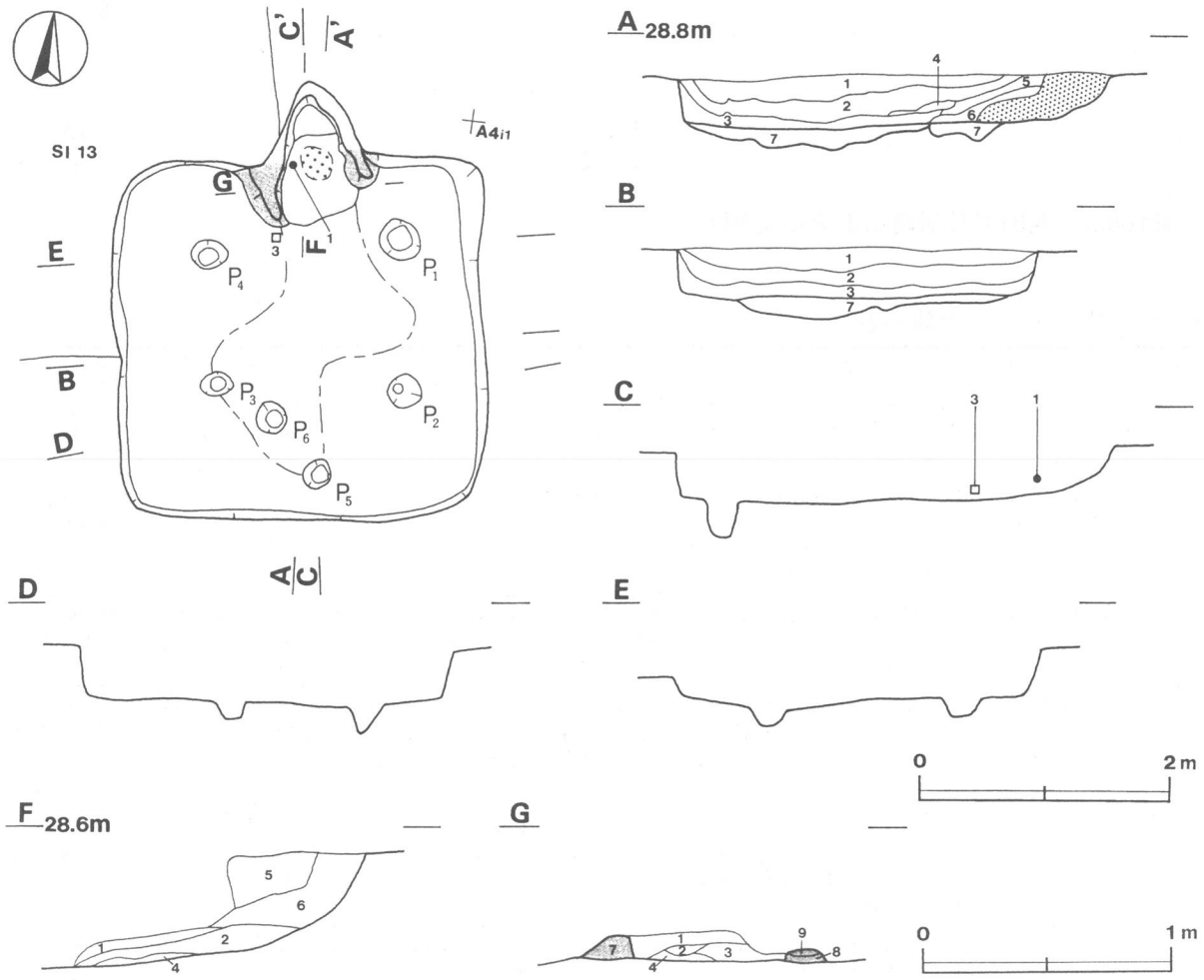
壁　壁高は42～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　貼り床で，小さな凹凸があるが，ほぼ平坦である。出入口施設から竈付近にかけて踏み固められている。

貼り床土層解説
7　褐　　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は長径26～37cm，短径20～30cmの円形及び楕円形，深さ13～26cmで，規模・配置から主柱穴と思われる。Ｐ５は径24cmの円形，深さ31cmで位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ６の性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設されている。天井部は崩落しているが，両袖部は一部遺存している。袖部は粘土と砂粒少量を混ぜて構築されていると思われる。規模は，煙道部から焚口部まで110cm，最大幅112cm，壁外への掘り込み63cmである。火床面は床面を３cmほど掘りくぼめており，皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆Ｕ字形で，外傾して立ち上がる。



第169図　第82号住居跡実測図

竈土層解説

1 褐　　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・砂質粘土少量，焼土小ブロック・炭化物微量
2 暗 褐 色　ローム粒子･砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3 暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
4 褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
5 暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子･砂質粘土小ブロック微量
6 暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・炭化粒子・砂質粘土小ブロック微量
7 褐　　色　ローム粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
8 暗 褐 色　ローム粒子・砂質粘土大ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
9 にぶい褐色　砂質粘土塊

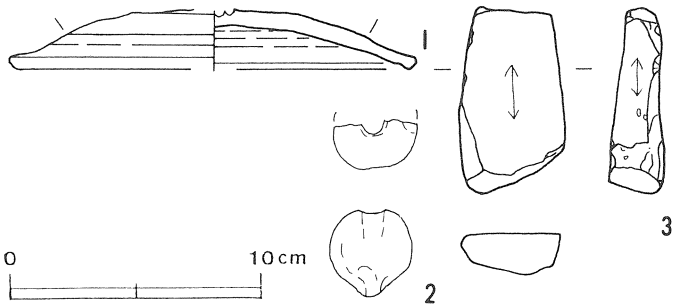
覆土　6層からなる。堆積状況はレンズ状を呈しているが，上層から下層にかけてロームブロックを多く含むことから埋め戻しの可能性が有り，人為堆積であると考えられる。

土層解説

1 褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，ローム中ブロック極微量
2 褐　　色　ローム大・中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量，炭化物極微量
3 褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4 褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子砂質粘土小ブロック微量，焼土粒子極微量
5 褐　　色　ローム粒子･焼土小ブロック･砂質粘土小ブロック少量，ローム小ブロック･焼土粒子微量，炭化粒子極微量
6 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量

遺物　出土遺物は少なく，土師器片，須恵器片，土製品，石器が極少量出土しているのみである。第170図1は須恵器の蓋で，竈の燃焼部から出土している。2の球状土錘は竈付近の覆土中，3の砥石は竈付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から9世紀前半と考えられる。



第170図　第82号住居跡出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備　考
第170図 1	蓋 須 恵 器	B （ 2.4） C ［16.2］	天井部から口縁部片。天井部は丸く，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	天井頂部は回転ヘラ削り。外周部，口縁部ロクロナデ。ロクロ目は弱い。	長石石英小礫針状鉱物 暗青灰色 良好	P434，30% 竈燃焼部

図版番号	種　別	計測値 径 (cm)	長 さ (cm)	孔 径 (cm)	重 量 (g)	出 土 地 点	備　考
2	球 状 土 錘	3.2	3.4	［ 0.8］	（ 15.2）	竈付近覆土中層	DP132

図版番号	種　別	計測値 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石　質	出 土 地 点	備　考
3	砥　石	7.5	4.2	2.3	81.4	凝灰岩	竈付近覆土下層	Q88

表2　石原遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉竈	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(旧→新)
1	B2i3	N－6°－W	方　形	2.85×2.68	53～55	平坦	－	－	－	－	1	竈	人為	須恵器	奈良	
2	C3f1	N－28°－E	隅丸長方形	6.63×6.10	22～33	平坦	－	4	－	13	1	炉2	自然	弥生土器，球状土錘，紡錘車	弥・後	
3	C2d8	N－22°－W	長 方 形	4.80×4.14	45～62	平坦	東壁欠	4	－	3	1	竈	自然	土師器，須恵器	奈良	
4	C2c6	N－7°－E	隅丸長方形	6.35×5.64	10～23	平坦	－	4	－	13	1	炉	自然	弥生土器，磨石	弥・後	

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(旧→新)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉竈				
5	C2c4	N－19°－W	隅丸長方形	5.58×4.55	15～35	平坦	－	4	－	1	1	炉	自然	弥生土器，紡錘車	弥・後	
6	B2g3	N－0°	方形	4.40×4.18	22～28	平坦	－	4	－	－	1	竈	人・自	土師器，須恵器	奈良	本跡→SK1
7	B2g5	N－31°－W	長方形	5.73×4.92	35～48	平坦	一部欠	4	－	3	1	竈	自然	土師器，須恵器，支脚	奈良	
8	C2b9	N－26°－W	隅丸長方形	5.24×4.76	24～34	平坦	－	4	－	8	1	炉	不明	弥生土器(片口壺)，土師器	弥・後	本跡→SD5
9	C3a1	N－10°－W	方形	3.87×3.56	23～40	平坦	全周	4	－	1	1	竈	自然	土師器，灰釉陶器	奈良	
10	B2i0	N－8°－E	隅丸長方形	7.60×6.38	30～35	平坦	－	4	－	19	1	炉	自然	弥生土器，土師器，紡錘車	弥～古	本跡→SD5
11	B2h8	N－13°－E	方形	3.50×3.44	24～40	平坦	一部欠	4	－	－	1	竈	自然	須恵器	奈良	
12	B2d8	N－37°－W	隅丸方形	4.57×4.23	22～35	平坦	－	4	－	－	1	炉	自然	弥生土器(高坏)	弥・後	
13	A3i0	N－7°－W	[長方形]	4.30×[2.58]	22～25	平坦	－	1	－	2	－	－	自然	土師器(高坏·坩·甕)	古・前	本跡→SI47→SI82
14	B2f7	N－69°－W	隅丸長方形	5.68×5.00	12～20	平坦	－	3	－	7	1	炉	自然	弥生土器，敲石，磨石	弥・後	
15	B2e9	N－43°－E	方形	4.16×4.05	46～62	平坦	－	2	－	－	1	竈	自・人	土師器，須恵器，紡錘車	奈良	
16	B2g0	N－0°	長方形	4.74×4.35	32～40	平坦	全周	4	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器，支脚，鉄鉗	奈良	本跡→SD5
17	B3g1	N－45°－W	隅丸長方形	4.56×3.64	5～11	平坦	－	4	－	4	1	炉	自然	弥生土器，紡錘車	弥・後	
18	C3a4	[N－7°－E]	[方形]	[3.55]×[3.45]	13～20	平坦	－	[1]	－	6	－	炉	自然	土師器(甕)，球状土錘	古・前	
19	C3d6	N－9°－W	方形	4.56×4.35	30～52	平坦	北壁欠	4	－	3	1	竈	自然	土師器，須恵器，砥石	奈良	本跡→SD1
20	B3i7	N－55°－W	長方形	4.96×4.44	13～28	平坦	－	4	－	1	1	炉	自然	土師器(椀·高坏)，球状土錘	古・前	本跡→SI21→SD1
21	B3j6	N－78°－E	長方形	3.90×3.15	3～12	平坦	一部欠	3	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器	奈良	SI20→本跡→SD1
22	B3f7	N－0°	方形	4.98×4.77	15～40	平坦	全周	4	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器	奈良	本跡→SD1·2
23	B3e4	N－13°－W	隅丸長方形	5.03×4.14	25～38	平坦	－	4	－	1	1	炉	自然	弥生土器，土師器，紡錘車	弥～古	
24	B3e3	N－7°－W	方形	3.44×3.34	17～30	平坦	－	3	－	3	1	竈	自然	土師器，須恵器	奈良	
25	B3d0	N－32°－E	隅丸方形	一辺3.90	10～16	平坦	－	4	－	2	－	炉	人為	弥生土器	弥・後	SK10
26	A4f2	N－3°－W	方形	5.12×4.87	23～35	平坦	－	4	－	－	1	竈	自然	須恵器，砥石	奈良	本跡→SD7
27	A4f5	N－11°－W	[長方形]	3.66×(3.00)	50～62	平坦	一部欠	3	－	1	－	竈	人為	土師器，須恵器，砥石	奈良	
28	B3c2	N－17°－W	隅丸長方形	4.25×3.83	15～21	平坦	－	4	－	4	－	炉	自然	弥生土器	弥・後	
29	B3c4	N－32°－E	方形	4.80×4.72	35～40	平坦	－	4	1	2	1	炉	自然	土師器(坩·甕)，球状土錘	古・前	
30	B3d7	N－1°－E	方形	3.10×2.98	10～20	平坦	－	2	－	2	1	炉	自然	弥生土器，紡錘車，球状土錘	弥・後	本跡→SI31→SD4
31	B3c5	N－9°－W	方形	7.90×7.80	52～62	平坦	全周	4	－	－	1	竈	自・人	土師器，須恵器，支脚，磨石	奈良	SI30→本跡→SI81→SD4
32	B3c8	N－25°－E	長方形	4.93×4.12	10～20	平坦	－	1	－	－	1	－	自然	土師器(坩)	古・前	本跡→SD1·4,SK11
33	B4b0	N－47°－W	方形	5.14×4.92	27～45	平坦	－	4	－	1	1	炉	自然	土師器(壺·高坏·坩)，砥石	古・前	本跡→SD2
34	B3a5	N－29°－E	方形	4.39×4.01	55～67	平坦	全周	4	－	1	1	竈	人・自	土師器，須恵器，支脚	奈良	
36	B3i5	N－38°－E	隅丸方形	5.52×5.28	38～53	平坦	－	4	－	4	1	炉	自然	弥生土器，紡錘車，土製勾玉	弥～古	
37	B3a3	N－22°－W	方形	2.96×2.95	52～58	平坦	－	－	－	－	－	竈	自然	須恵器	奈良	本跡→SD4
38	B2j0	N－16°－E	方形	一辺3.97	35～40	平坦	－	4	－	1	－	竈	自然	弥生土器，土師器，紡錘車	奈良	
39	A3i1	N－3°－E	長方形	5.98×5.19	45～60	平坦	全周	4	1	－	1	竈	自・人	土師器，須恵器，紡錘車	奈良	本跡→SD4·8
40	A2h3	N－52°－W	長方形	3.48×2.95	26～43	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器，球状土錘，砥石	古・前	本跡→SD3
41	A3h3	N－39°－W	[隅丸長方形]	[4.08]×[3.65]	27～65	平坦	－	3	－	－	－	－	自然	弥生土器，土師器	弥・後	本跡→SI42
42	A3g3	N－17°－E	方形	5.34×5.30	65～72	平坦	西壁	4	－	－	1	竈	人・自	土師器，須恵器，不明鉄製品	奈良	SI41→本跡
43	B4c2	N－2°－E	長方形	3.80×3.37	10～33	平坦	全周	4	－	1	1	竈	自然	土師器，須恵器，球状土錘	平安	SI83→本跡
44	A3e5	N－49°－W	方形	4.12×3.94	23～35	平坦	－	4	－	－	1	炉	自然	土師器(甕)，球状土錘	古・前	
45	A3f8	N－28°－E	隅丸長方形	3.96×3.40	40～48	平坦	－	4	－	2	1	炉	自然	弥生土器，土師器，支脚	弥・後	
46	A3i7	N－3°－E	長方形	5.56×5.04	60～72	平坦	一部欠	4	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器，砥石	奈良	
47	A3i9	N－2°－W	方形	3.92×3.61	19～35	平坦	－	4	－	－	1	竈	自然	須恵器	奈良	SI13→本跡
48	A3d9	N－30°－E	方形	5.07×4.86	30～47	平坦	－	4	－	2	1	炉	人為	土師器(坩·壺)，球状土錘	古・前	
49	A4g1	N－58°－E	隅丸方形	3.45×3.34	18～27	平坦	－	4	－	－	－	－	自然	弥生土器，土師器，球状土錘	弥～古	
50	A4h2	N－10°－E	方形	4.18×3.98	58～70	平坦	西壁	1	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器，紡錘車	平安	本跡→SD6
51	A4j1	N－49°－E	隅丸方形	4.22×4.02	20～34	平坦	－	4	－	－	1	炉	自然	弥生土器，土師器，球状土錘	弥・後	本跡→SD2

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(旧→新)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉竈				
52	A4i5	N－2°－E	方形	3.10×2.98	56～61	平坦	一部欠	4	－	－	－	竈	自然	土師器,須恵器,球状土錘	平安	SI77→本跡
53	B4a3	N－54°－E	[隅丸長方形]	[5.33]×4.57	17～20	平坦	－	2	－	－	－	炉	自然	土師器，球状土錘，砥石	古・前	本跡→SI79
54	B4a6	N－52°－E	方形	7.18×7.12	25～56	平坦	－	4	－	10	1	炉2	人為	土師器，支脚，不明鉄製品	古・前	
55	A4h0	N－16°－W	長方形	5.02×4.32	15～46	平坦	－	4	－	2	1	炉2	自然	土師器,紡錘車,不明石製品	古・前	
56	B4a8	N－21°－W	方形	4.55×4.32	36～43	平坦	一部欠	4	－	－	1	竈	自然	土師器,須恵器,球状土錘	奈良	本跡→SI74
57	B4c9	N－19°－W	長方形	3.60×3.20	45～50	平坦	一部欠	3	－	－	1	竈	自然	土師器,須恵器,球状土錘	奈良	
58	B4c5	N－2°－W	方形	3.79×3.71	52～57	平坦	全周	4	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器	奈良	
59	B4f6	N－67°－E	方形	3.30×3.13	38～45	平坦	一部欠	－	－	1	1	竈	自然	土師器，須恵器,刀子	奈良	
60	B4d8	N－49°－E	方形	4.25×4.11	13～23	平坦	－	4	－	3	1	－	自然	土師器，砥石，不明石製品	古・前	
61	B4e0	N－13°－W	長方形	3.15×2.95	28～45	平坦	一部欠	3	－	1	1	竈	自然	土師器，須恵器，灰釉陶器	奈良	SI73→本跡→SI78
62	B4g0	N－52°－W	不整方形	4.05×3.95	12～18	平坦	－	4	－	－	－	炉	自然	弥生土器,土師器,紡錘車	弥・後	
63－A	B4h0	N－0°	長方形	5.43×4.88	34～40	平坦	一部欠	4	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器	奈良	SI63－B→本跡
63－B	B4i0	N－9°－W	[方形]	5.70×[5.48]	22～60	平坦	東・西壁	4	－	7	1	－	人為	須恵器	奈良	本跡→SI63－A
64	B4h8	N－9°－W	隅丸方形	一辺3.30	15～20	平坦	－	1	－	－	－	炉	自然	弥生土器，紡錘車	弥・後	
65	B4i8	N－11°－W	方形	6.66×6.53	45～62	平坦	一部欠	4	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器	奈良	
66	B4j6	N－8°－W	隅丸方形	3.78×3.55	14～30	平坦	－	2	－	2	1	炉	不明	弥生土器,土師器,球状土錘	弥～古	
67	C4c6	N－9°－W	隅丸長方形	4.70×3.71	10～18	平坦	－	4	－	1	1	炉	自・人	弥生土器,土師器,管状土錘	弥～古	
68	C4d7	N－11°－E	方形	3.80×3.72	17～47	平坦	－	4	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器	奈良	
69	C4a0	N－14°－E	方形	4.76×4.55	17～31	平坦	－	4	－	3	1	－	自然	土師器，須恵器	平安	SK92
70	A3c6	N－5°－E	長方形	4.25×2.70	40～50	平坦	一部欠	4	－	－	1	竈	自・人	須恵器，石製紡錘車	奈良	
71	C4c8	N－35°－E	[隅丸方形]	[5.05]×4.70	13～15	平坦	－	4	－	9	1	炉	自然	球状土錘	古・前	
73	B4d0	N－43°－W	[長方形]	[5.00]×4.50	20～45	平坦	－	2	－	4	－	炉	自然	土師器(高坏),球状土錘	古・前	本跡→SI61→SI78
74	B4a9	N－18°－W	長方形	3.00×2.70	35～45	平坦	全周	2	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器，球状土錘	奈良	SI56→本跡
75	B4e4	N－48°－W	[長方形]	[3.60]×3.30	20～25	平坦	－	4	－	－	1	炉	人為	土師器(壺・甕),球状土錘	古・前	本跡→SI76
76	B4d3	N－16°－W	方形	4.70×4.50	35～40	平坦	全周	4	－	－	1	竈	人為	土師器,須恵器,刀子,丸鞆	平安	SI75→本跡
77	A4i4	N－25°－W	[隅丸方形]	[5.10]×4.80	40～55	平坦	－	4	－	8	1	炉	自然	弥生土器,土師器,球状土錘	弥・後	本跡→SI52・SK93
78	B5e1	N－5°－E	長方形	4.30×3.90	20～35	平坦	全周	4	－	－	1	竈	自然	土師器,須恵器,紡錘車,刀子	奈良	SI73→SI61→本跡
79	B4a3	N－23°－W	方形	3.80×3.60	40～60	平坦	西壁	－	－	1	－	竈	自然	土師器,須恵器,羽口,鉄斧	平安	SI53→本跡→SD7
80	B3e9	N－26°－W	方形	3.30×3.20	33～35	平坦	一部欠	－	－	－	－	竈	自然	土師器,不明鉄製品,鈸具	平安	本跡→SD2・4
81	B3b6	N－3°－W	方形	3.00×2.80	60～70	平坦	全周	1	－	－	1	竈	自然	土師器，須恵器	平安	SI31→本跡
82	A3i0	N－10°－W	方形	3.00×2.90	42～45	平坦	一部欠	4	－	1	1	竈	人為	須恵器，球状土錘，砥石	平安	SI13→本跡
83	B4d2	N－18°－W	[隅丸長方形]	4.20×[3.60]	12～22	平坦	－	2	－	1	－	－	人為	弥生土器	弥・後	本跡→SI43

2　陥し穴

今回の調査で，陥し穴３基を検出した。以下，それぞれの特徴や出土遺物について記載する。

第１号陥し穴（ＳＫ－５）（第171図）

位置　調査区南西部，Ｃ２a4区。

規模と形状　平面形は，長径4.00m，短径1.77mの不整楕円形で，深さ123cmである。底面は平坦で，断面形はＶ字状を呈している。壁の上位は外傾して立ち上がり，底面に近いほど長径方向に平行に狭くなり，垂直に立ち上がる。

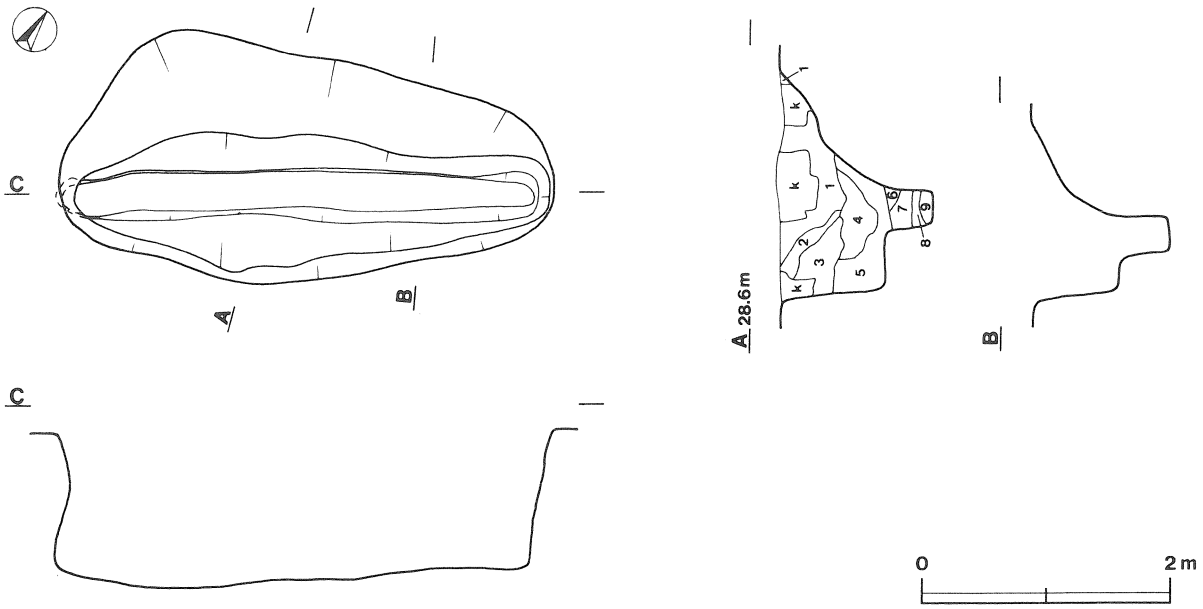
長径方向　Ｎ－59°－Ｅ

覆土　9層からなる。不自然な堆積の状況がみられることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，白色粒子少量，赤色粒子微量	5	明褐色	ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量，赤色粒子微量
2	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，白色粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子・赤色粒子微量	6	橙	色	ローム小ブロック多量，ローム大・中・ローム粒子中量，鹿沼粒子微量
3	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，赤色粒子微量	7	褐	色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，炭化物微量
4	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，白色粒子・赤色粒子微量	8	明褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
				9	黒褐色	ローム粒子少量

所見　本跡の北側は傾斜面になっており，長径が傾斜に対して直交するように構築されている。遺構の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられるが，出土遺物がなく正確な時期は不明である。



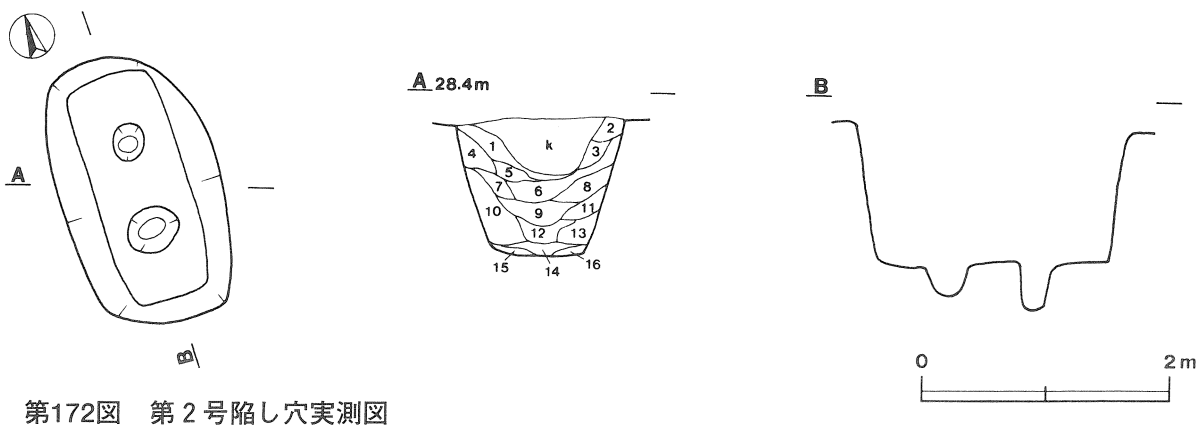
第171図　第１号陥し穴実測図

第２号陥し穴（ＳＫ-17）（第172図）

位置　調査区西部，Ａ２j7区。

規模と形状　平面形は，長径2.19m，短径1.28mの不整楕円形で，深さ144cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。底面は平坦で，木杭を立てた痕と思われる小ピットが２か所長径方向に並んでいる。小ピットは長径30～43cm，短径25～34cmの楕円形，底面からの深さ24～37cmである。

長径方向　N－10°－E



第172図　第２号陥し穴実測図

覆土　16層からなる。覆土にロームブロックを多く含むことや不自然な堆積の状況がみられることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	にぶい褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
2	褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極微量
3	褐　色	ローム粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
4	明褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極微量
5	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子極微量
6	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子・鹿沼粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物極微量
7	にぶい褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
8	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量，ローム中ブロック・焼土粒子・鹿沼粒子極微量
9	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・鹿沼粒子微量，焼土粒子・ローム中ブロック極微量
10	明褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子・鹿沼粒子極微量
11	にぶい褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・鹿沼粒子極微量
12	褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・鹿沼粒子極微量
13	明褐色	ローム粒子多量，ローム中・小ブロック・鹿沼粒子極微量
14	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，鹿沼粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
15	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，鹿沼粒子微量，鹿沼中ブロック極微量
16	褐　色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・鹿沼粒子少量，鹿沼中ブロック微量，ローム中ブロック・鹿沼中ブロック極微量

所見　本跡の西側は傾斜面になっており，長径が傾斜に対して直交するように構築されている。遺構の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられるが，出土遺物がなく正確な時期は不明である。底面から検出されたピットは，仕掛けを作製し，木杭などを設置するためのピットの可能性が考えられる。

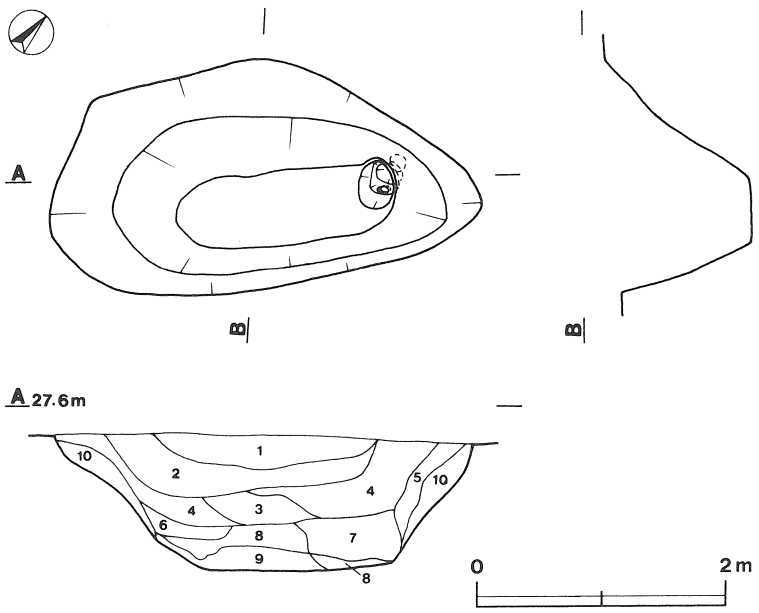
第３号陥し穴（ＳＫ-68）（第173図）

位置　調査区南東部，Ｃ４g5区。

規模と形状　平面形は，長径3.44m，短径1.88mの不整楕円形，深さ117cmである。断面形はＶ字状を呈し，上面に近づくにつれ，外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，逆木を立てた痕と思われる小ピットが１か所検出された。小ピットは長径39cm，短径30cmの楕円形，底面からの深さ29cmである。

長径方向　Ｎ－44°－Ｅ

覆土　10層からなる。覆土にロームブロックを含むことや不自然な堆積の状況がみられることから，人為堆積と考えられる。



第173図　第３号陥し穴実測図

土層解説
1　明褐色　ローム粒子少量，炭化物粒子極微量
2　明褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック極微量
3　褐　　色　ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子極微量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子微量，鹿沼粒子極微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，鹿沼粒子極微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，鹿沼粒子極微量
7　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
8　明褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・鹿沼粒子微量
9　橙　　色　鹿沼粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大・中ブロック微量
10　明褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，炭化粒子極微量

所見　本跡の東側は傾斜面になっており，長径が傾斜に対して直交するように構築されている。遺構の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられるが，出土遺物がなく正確な時期は不明である。

表3　石原遺跡陥し穴一覧表

陥し穴番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	備考(土坑番号)
				長径×短径(m)	深さ(cm)				
1	C2a4	N－59°－E	長楕円形	4.00×1.77	123	外傾	平坦	人為	(SK-5)
2	A2j7	N－10°－E	長楕円形	2.19×1.28	144	垂直	平坦	人為	(SK-17)
3	C4g5	N－44°－E	長楕円形	3.44×1.88	117	外傾	平坦	人為	(SK-68)

3　土坑

今回の調査で，土坑88基を確認した。ここでは，土坑の形状，規模，覆土の状態及び出土遺物等に特徴があるものについては文章で記述し，それ以外の土坑については一覧表に記載した。

第1号土坑（第181図）

位置　調査区南西部，Ｂ２g3区。

重複関係　本跡が第6号住居跡の竈付近を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と形状　平面形は，長径0.79m，短径0.60mの楕円形，深さ11cmである。底面は皿状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

長径方向　N－70°－W

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　粘土大・小ブロック・粘土粒子ブロック多量，粘土中ブロック中量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　須恵器片2点，陶器片2点が出土している。

所見　擂り鉢片は江戸時代中期頃の瀬戸・美濃産と思われる。出土遺物が少なく，かつ細片であるため，本跡の正確な時期は不明であるが，江戸時代中期以降と思われる。。

第6号土坑（第174図）

位置　調査区南部，Ｃ３a3区。

規模と形状　平面形は，長径1.70m，短径1.05mの楕円形，深さ28cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

長径方向　N－30°－E

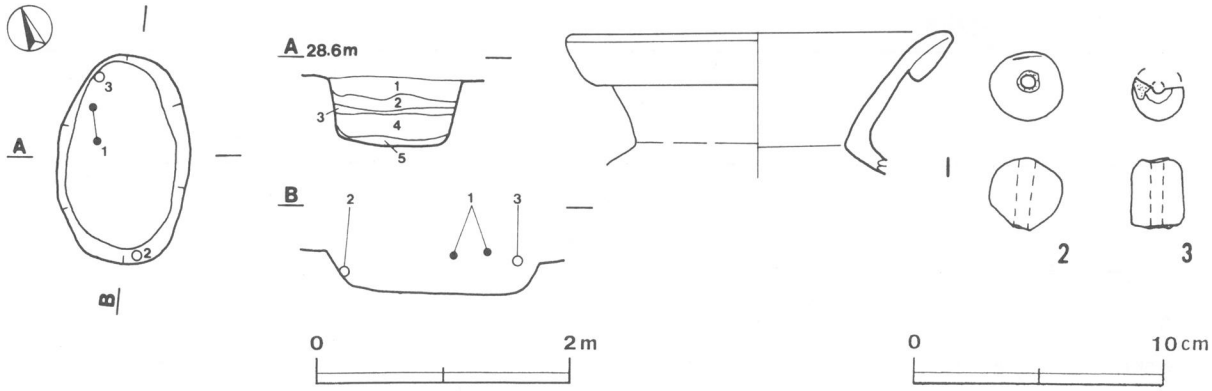
覆土　5層からなる。水平に堆積し，ロームブロックの包含が多いことから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　明褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　明褐色　ローム小ブロック・炭化物少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5　明褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片30点，土製品2点が出土している。第174図1は壺の口縁部片で覆土上層から出土している。2の球状土錘は覆土下層，3の管状土錘は覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から4世紀中頃と考えられる。



第174図　第6号土坑・出土遺物実測図

第6号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第174図 1	壺 土師器	A　15.2 B　(　5.7)	頸部から口縁部片。頸部は強くくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。複合口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ナデ。	長石，石英，雲母にぶい黄橙色 普通	P437，5%　PL28 覆土上層 外面ススト付着

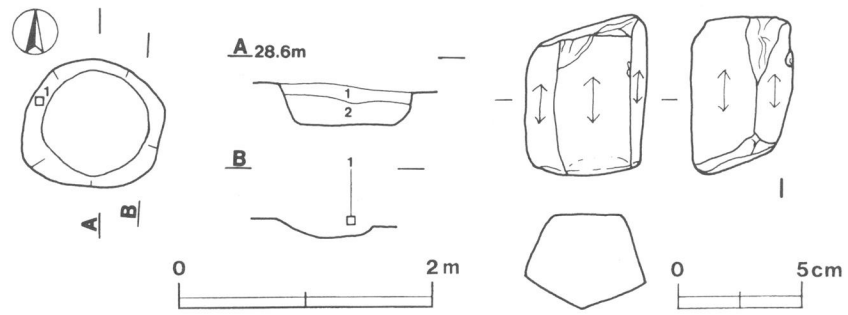
図版番号	種　　別	計　　測　　値				出　土　地　点	備　　考
		径　(cm)	長　さ(cm)	孔　径(cm)	重　量(g)		
2	球　状　土　錘	3.0	2.9	0.6	18.7	覆土下層	DP134
3	管　状　土　錘	2.1	2.7	0.5	7.1	覆土上層	DP135

第10号土坑（第175図）

位置　調査区南東部，B2c0区。

重複関係　第25号住居跡の中央部分を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と形状　平面形は，長径1.02m，短径1.08mの不整楕円形，深さ14cmである。底面は平坦で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。



第175図　第10号土坑・出土遺物実測図

長径方向　N－30°－E

覆土　2層からなる。ロームブロックを含むことから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子中量，焼土粒子・炭化材微量
2　黒 褐 色　炭化物・炭化粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材中量，焼土粒子微量

遺物　土師器片，石器が極少量出土している。第175図1は砥石で，覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は出土土器から奈良時代と思われるが，小片であることから正確な時期は不明である。

第10号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第175図1	砥石	(6.4)	4.8	4.0	(181.5)	凝灰岩	覆土上層	Q90

第13号土坑（第182図）

位置　調査区西部，A2g7区。

重複関係　第4号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と形状　平面形は，長径2.28m，短径0.94mの不整形，深さ41cmである。底面は平坦で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

長径方向　N－59°－W

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極微量
2　明 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量

遺物　須恵器片1点が出土している。

所見　本跡の時期は出土土器から奈良時代と思われるが，小片であることから正確な時期は不明である。

第24号土坑（第182図）

位置　調査区南部，C2a9区。

規模と形状　平面形は，長径1.46m，短径1.03mの不整形，深さ20cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

長径方向　N－41°－E

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子極微量
2　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　明 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物　須恵器片1点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から奈良時代と思われるが，小片であることから正確な時期は不明である。

第29号土坑（第176図）

位置　調査区西部，B2a7区。

規模と形状　平面形は，長径2.30m，短径0.70mの不整形，深さ15cmである。底面は皿状で，壁は緩やかな傾斜

で立ち上がっている。

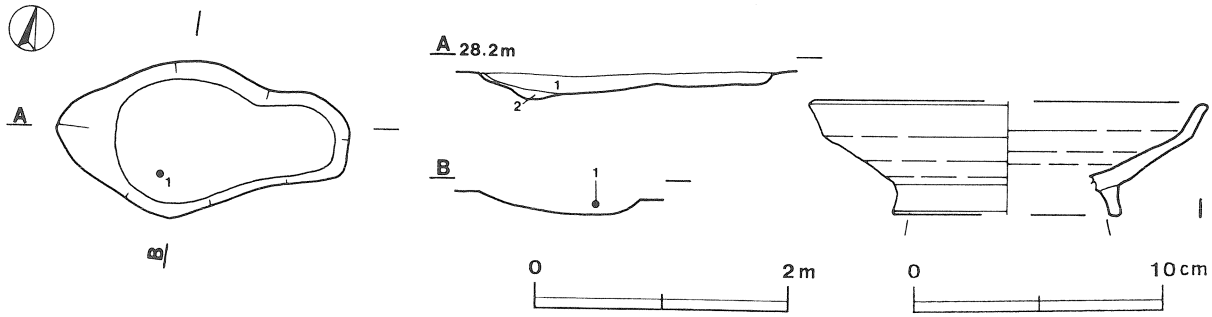
長径方向　N－78°－E

覆土　2層からなる。レンズ状を呈すことから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量，炭化物極微量　　2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量

遺物　弥生土器片2点，土師器片6点，須恵器片7点が出土している。第176図1は須恵器盤で，覆土中層から出土している。弥生土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土土器の器形から8世紀後半と考えられる。



第176図　第29号土坑・出土遺物実測図

第29号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第176図 1	盤 須 恵 器	A ［15.8］ B　4.5 D ［ 9.2］ E　1.2	高台部から口縁部片。体部はやや内彎して外方へ開き，屈曲して口縁部に至る。口縁部は軽く外反する。高台は外方へふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英，針状鉱物 灰色 良好	P438，10% 覆土中層

第44号土坑（第183図）

位置　調査区中央部，C 3 h3区。

規模と形状　平面形は，径1.50mの円形，深さ32cmである。底面は皿状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土　2層からなる。レンズ状を呈すことから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量　　2　褐　　色　ローム粒子中量

遺物　陶器片1点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土陶器から近世と思われるが，出土量が少なく正確な時期は不明である。

第50号土坑（第183図）

位置　調査区中央部，B 3 b8区。

規模と形状　平面形は，長径1.14m，短径0.91mの楕円形，深さ33cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

長径方向　N－39°－E

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子極微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極微量
3　明褐色　ローム粒子中量，炭化粒子極微量

遺物　須恵器片3点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から奈良時代と思われるが，小片であることから正確な時期は不明である。

第51号土坑（第183図）

位置　調査区南東部，B 3 b8区。

規模と形状　平面形は，長径1.15m，短径1.03mの楕円形，深さ24cmである。底面は皿状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

長径方向　N－28°－E

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子極微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子極微量

所見　本跡の時期は，出土遺物がなく不明である。

第54号土坑（第177図）

位置　調査区中央部，B 3 b7区。

規模と形状　平面形は，長径1.87m，短径1.42mの楕円形，深さ40cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

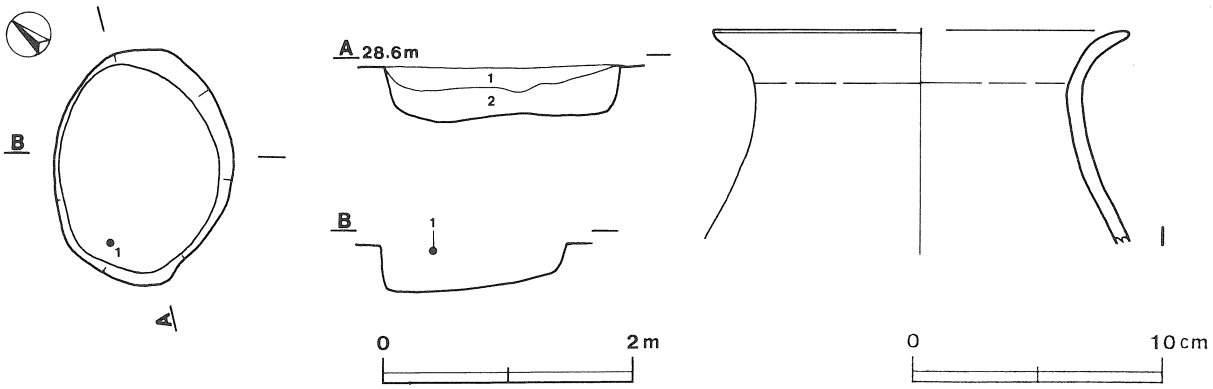
長径方向　N－49°－E

覆土　2層からなる。ロームブロックを包含していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
2　明褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量

遺物　土師器片2点が出土している。第177図1の土師器甕は西側壁の覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少ないが，1の甕の器形から8世紀前半と思われる。



第177図　第54号土坑・出土遺物実測図

第54号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第177図1	甕 土師器	A［16.6］ B（8.4）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は屈曲し，口縁部は外反する。	体部外面剥離のため，調整痕不明。口縁部内・外面横ナデ。	長石雲母小礫白色粒子にぶい橙色 普通	P439，5％ 西側壁覆土上層

第58号土坑（第178図）

位置　調査区中央部，B 3 a9区。

規模と形状　平面形は，長径2.72m，短径2.48mの楕円形，深さ34cmである。底面はほぼ平坦であるが，北部がやや高い。西壁はほぼ垂直に立ち上がり，東壁は外傾して立ち上がっている。

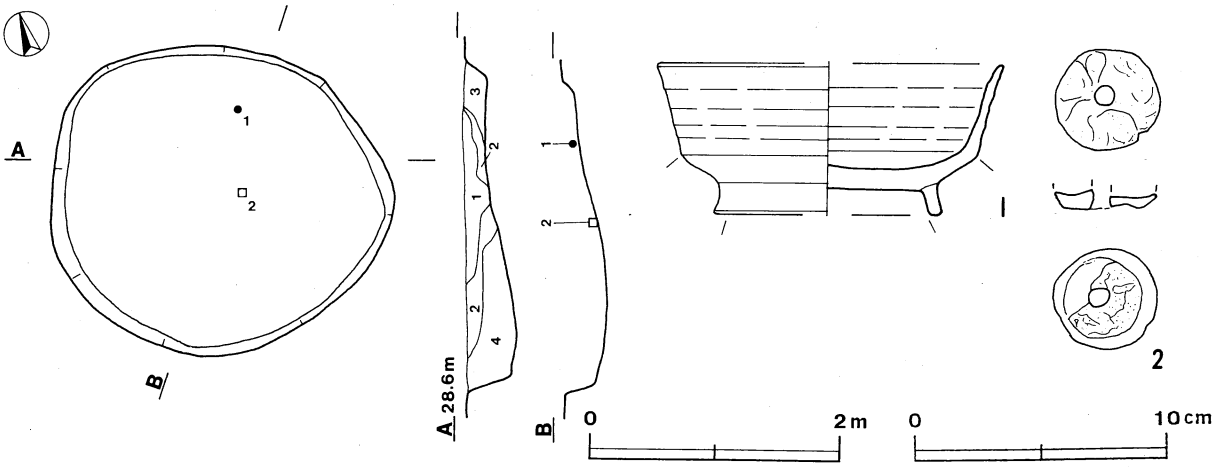
長径方向　N－62°－W

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
4　明褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量

遺物　土師器片9点，須恵器片3点，石製品1点が出土している。第178図1の須恵器高台付坏は北東部の覆土下層，2の石製紡錘車は中央部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀後半と考えられる。



第178図　第58号土坑・出土遺物実測図

第58号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 1	高台付坏 須恵器	A［13.7］ B　6.1 D　8.9 E　1.2	高台部から口縁部片。体部は下位に稜を有し外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，雲母，白色粒子にぶい黄橙色 良好	P440，60%　PL28 北東部覆土下層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
2	石製紡錘車	（4.1）	（0.9）	（0.9）	（10.5）	粘板岩	中央部床面	Q91　PL33

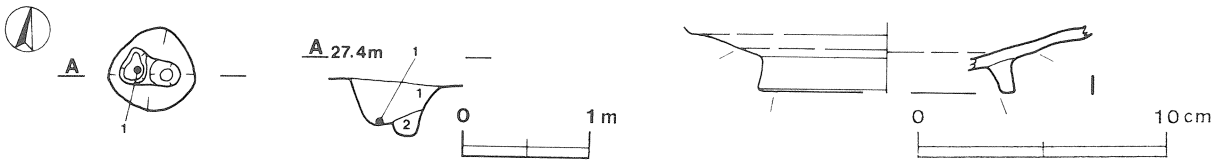
第65号土坑（第179図）

位置　調査区南東部，C 4 h6区。

規模と形状　平面形は，長径0.78m，短径0.66mの楕円形，深さ48cmである。底面は凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。

長径方向　N－17°－W

覆土　2層からなる。ロームブロックを含有していることから，人為堆積と思われる。



第179図　第65号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　褐　　色　ローム中ブロック少量，ローム粒子微量，炭化粒子極微量
2　明褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，炭化粒子極微量

遺物　須恵器片２点が出土している。第179図１は須恵器盤で，中央部の床面から出土している。

所見　本跡からの出土土器は少ないが，盤の器形から８世紀後半と考えられる。

第65号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第179図 1	盤 須恵器	B　(2.5) D　1.4 E　[10.4]	高台部から体部片。体部はやや内彎して外方へ開く。高台は外方へふんばる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，石英，小礫 青灰色 良好	P441，10% 中央部床面

第67号土坑（第184図）

位置　調査区南東部，Ｃ４h5区。

規模と形状　平面形は，長径1.65m，短径0.95mの楕円形，深さ23cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層からなる。レンズ状を呈していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子極微量
2　明褐色　ローム粒子多量

長径方向　Ｎ－24°－Ｅ

遺物　土師器片１点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から奈良時代と思われるが，小片であることから正確な時期は不明である。

第81号土坑（第185図）

位置　調査区中央部，Ｂ３b1区。

規模と形状　平面形は，長径1.81m，短径1.20mの楕円形，深さ25cmである。底面は凹凸で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がり，上面でわずかに外傾している。

長径方向　Ｎ－32°－Ｅ

覆土　２層からなる。レンズ状を呈していることから，自然堆積であると思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化粒子極微量
2　明褐色　ローム粒子中量，炭化粒子極微量

遺物　須恵器片１点が出土している。

所見　本跡の時期は出土土器から奈良時代と思われるが，出土量が少なく正確な時期は不明である。

第85号土坑（第185図）

位置　調査区北部，Ａ３f6区。

規模と形状　平面形は，長径1.67m，短径1.57mの不定形，深さ30cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

長径方向　N－16°－E

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量　　2　褐　　色　ローム粒子少量

遺物　土師器片2点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から奈良時代と思われるが，出土量が少なく正確な時期は不明である。

第91号土坑（第180図）

位置　調査区中央部，A 3 j7区。

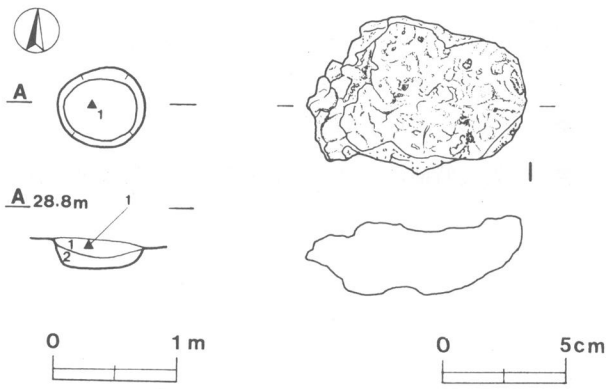
規模と形状　平面形は，径0.68mの円形，深さ23cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量　　2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量，炭化物極微量

遺物　椀状鉄滓が出土している。第180図1の鉄滓は中央部の覆土上層から出土している。

所見　本跡は，不明鉄製品が出土した第31号住居跡の北側に位置し，椀状鉄滓が出土していることから第31号住居跡との関連性が考えられる。時期を特定できる出土遺物はないが，第31号住居跡（8世紀前半）と同時期の可能性も考えられる。



第180図　第91号土坑・出土遺物実測図

第91号土坑出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第180図1	鉄　滓	8.7	6.2	3.1	220.9	中央部覆土上層	M20

第92号土坑（第185図）

位置　調査区東部，C 4 a0区。

重複関係　第69号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と形状　平面形は，径2.10mの円形，深さ145cmである。底面は皿状で，壁はほぼ垂直に立ち上がり，上面でわずかに外傾している。

覆土　10層からなる。4層まではロームブロックを多く含むことから人為堆積，5層以下はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　明褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量，焼土粒子極微量　　2　明褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子極微量

3　明褐色　ローム小ブロック･ローム粒子少量，炭化粒子極微量
4　明褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極微量
6　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，鹿沼粒子微量
7　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，鹿沼小ブロック微量，炭化粒子極微量
8　褐　　色　ローム粒子・鹿沼粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化粒子極微量
9　明褐色　ローム粒子・鹿沼粒子少量，ローム小ブロック・鹿沼小ブロック微量
10　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・鹿沼小ブロック・鹿沼粒子微量

遺物　土師器片１点が出土している。

所見　本跡は土坑として調査を行ったが，深さから井戸の可能性も考えられる。出土土器が少なく正確な時期は不明である。

第94号土坑（第185図）

位置　調査区西部，Ａ２h0区。

規模と形状　平面形は，径0.82mの円形，深さ15cmである。底面は平坦で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がり，上面でわずかに外傾している。

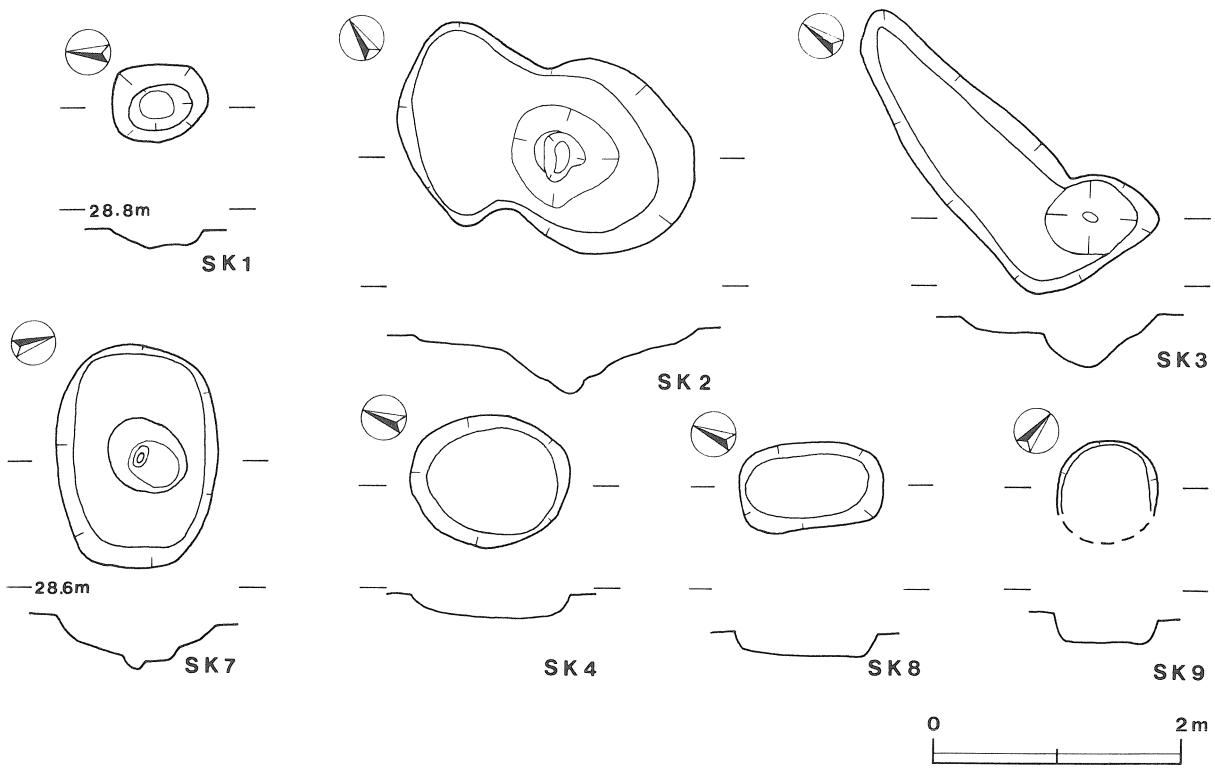
長径方向　Ｎ－44°－Ｅ

覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

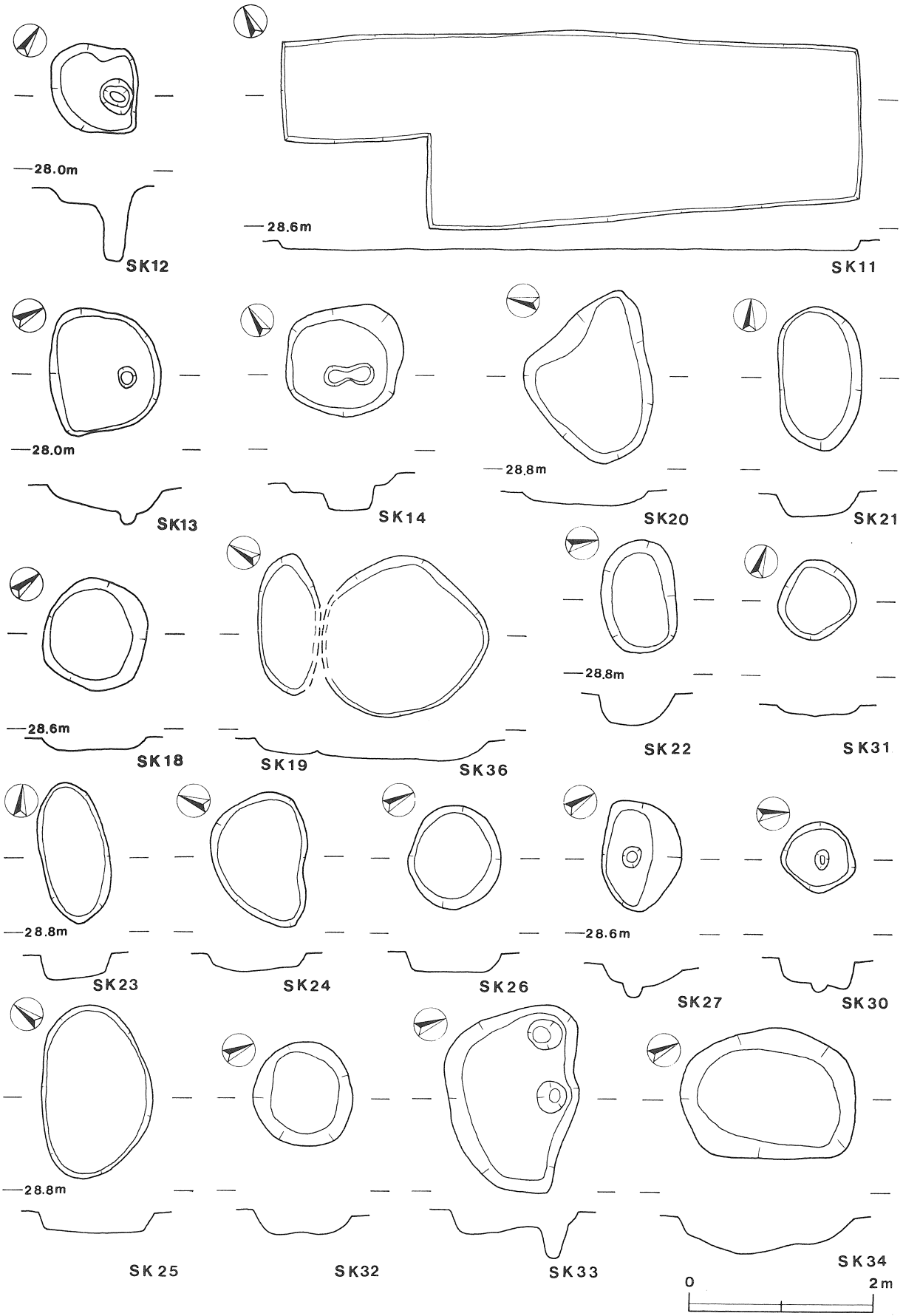
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック少量

遺物　須恵器片３点が出土している。

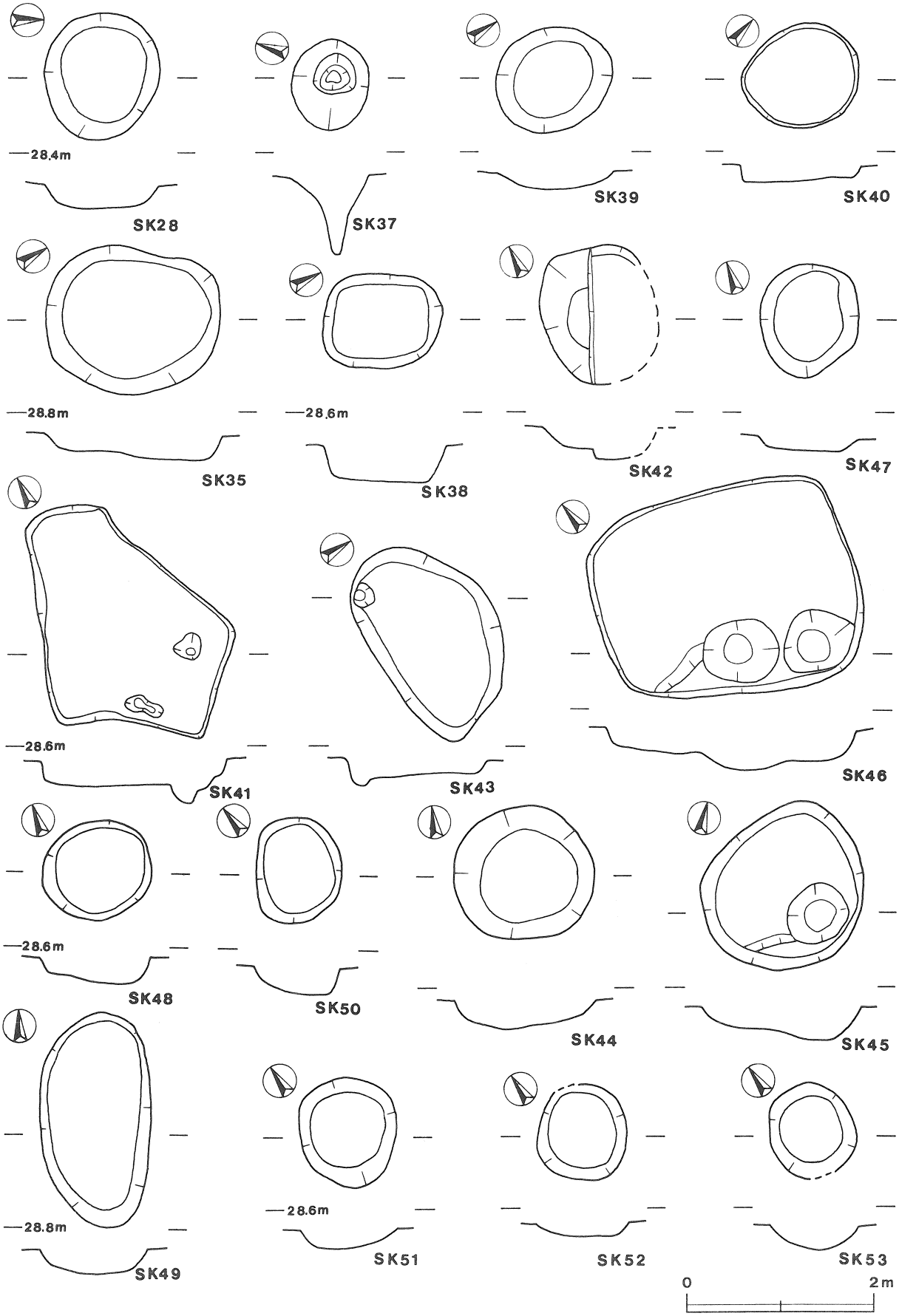
所見　本跡の時期は，出土土器から奈良時代と思われるが，小片であることから正確な時期は不明である。



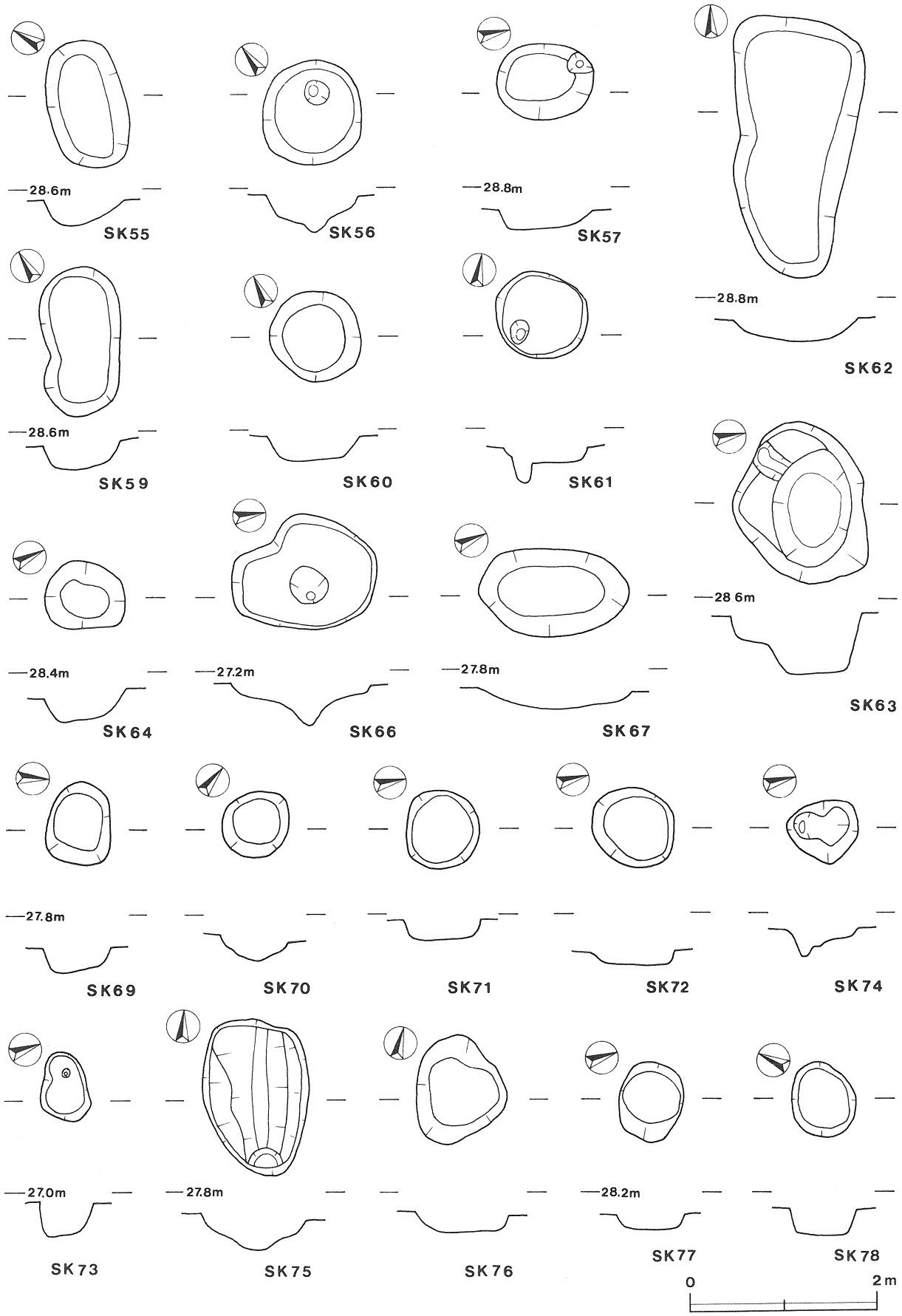
第181図　土坑実測図(1)



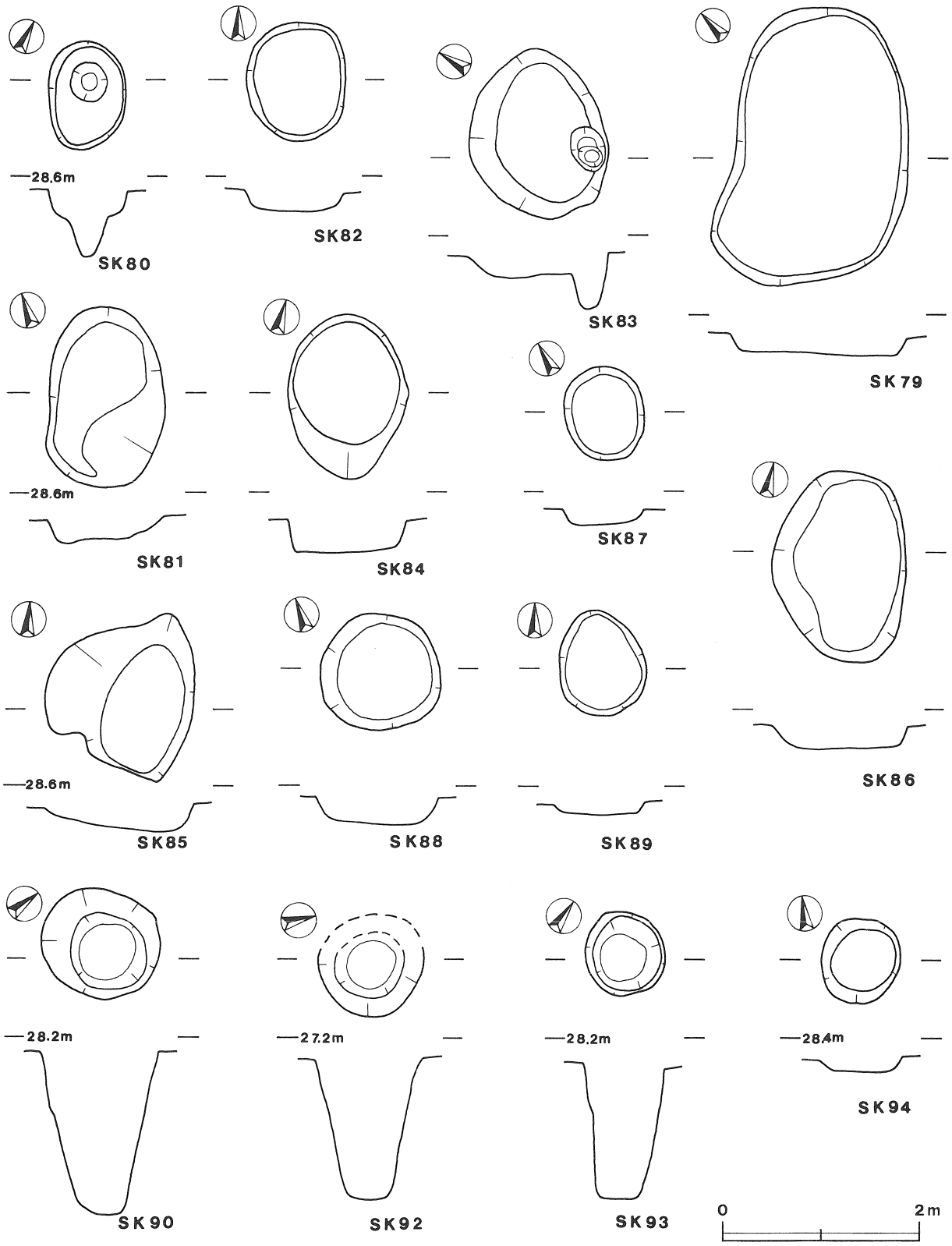
第182図　土坑実測図(2)



第183図　土坑実測図(3)



第184図　土坑実測図(4)



第185図　土坑実測図(5)

表4　石原遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考（重複関係旧→新）
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	B2g3	N－70°－W	楕円形	0.79×0.60	11	緩斜	皿状	自然	擂り鉢片	SI6→本跡，江戸中期以降
2	B2h6	N－40°－W	不定形	2.43×1.30	52	緩斜	皿状	自然		
3	C3c1	N－20°－E	不定形	2.69×0.84	33	緩斜	皿状	自然		
4	C3c1	N－13°－W	楕円形	1.26×1.06	17	外傾	平坦	自然		
6	C3a3	N－30°－E	楕円形	1.70×1.05	28	緩斜	平坦	自然	土師器(壺)・球状土錘・管状土錘	古墳時代前期（4世紀中頃）
7	B3h7	N－73°－W	隅丸長方形	1.78×1.28	42	緩斜	皿状	自然		
8	C3b3	N－32°－W	隅丸長方形	1.12×0.68	19	外傾	平坦	自然		
9	C3a3	－	円形	径0.40	21	外傾	平坦	自然		
10	B2c0	－	円形	径1.05	14	緩斜	平坦	自然	砥石・土師器片	SI25→本跡，奈良時代
11	B3c7	N－57°－W	長方形	6.23×2.08	10	緩斜	平坦	自然		SI32→本跡
12	A2h7	N－36°－W	不定形	0.96×0.93	77	緩傾	凹凸	人為		
13	A2g7	N－59°－W	不定形	2.28×0.94	41	緩斜	平坦	自然	須恵器片	本跡→SD4，奈良時代
14	A2h7	N－57°－W	不整長方形	1.28×1.16	35	緩斜	凹凸	人為		
18	B2j7	－	不整円形	1.18×1.16	15	緩斜	平坦	自然		
19	C2a7	－	不定形	2.51×1.81	22	外傾	平坦	自然		
20	B2j7	N－62°－E	不定形	1.55×1.25	16	緩斜	平坦	自然		
21	B2j7	N－7°－W	楕円形	1.57×0.89	25	外傾	平坦	自然		
22	B2j7	N－90°	楕円形	1.20×0.80	34	垂直	凹凸	人為		
23	C2a8	N－5°－W	楕円形	1.50×0.73	25	垂直	平坦	自然		
24	C2a9	N－41°－E	不定形	1.46×1.03	20	外傾	平坦	自然		奈良時代
25	B2j9	N－43°－E	隅丸長方形	1.90×1.10	23	外傾	平坦	自然		
26	B2i8	N－40°－W	楕円形	1.10×1.00	20	外傾	平坦	自然		
27	B2b7	N－52°－W	隅丸長方形	1.20×0.80	35	緩斜	凹凸	自然		
28	B2b6	N－30°－W	楕円形	1.30×1.20	27	外傾	平坦	自然		
29	B2a7	N－78°－E	不定形	2.30×0.70	15	緩斜	皿状	自然	須恵器(盤)，土師器片	奈良時代（8世紀後半）
30	B2b8	N－32°－W	楕円形	0.70×0.60	35	外傾	凹凸	人為		
31	C2a7	N－24°－E	楕円形	0.80×0.60	15	緩斜	皿状	自然		
32	B2i7	N－47°－W	楕円形	1.10×0.80	25	外傾	凹凸	人為		
33	C2d0	N－76°－W	不定形	2.00×0.80	50	外傾	凹凸	人為		
34	C2c9	N－31°－E	隅丸長方形	1.90×1.20	40	緩斜	皿状	自然		
35	C2c8	N－32°－E	隅丸長方形	1.90×1.50	28	外傾	平坦	自然		
37	B2e4	N－65°－W	楕円形	0.90×0.70	85	外傾	凹凸	人為		
38	B2f4	N－32°－E	隅丸長方形	1.25×0.80	38	外傾	平坦	自然		
39	B2f5	N－0°	楕円形	1.30×1.10	20	緩斜	皿状	自然		
40	B2f6	N－25°－E	隅丸方形	1.25×1.10	20	緩斜	平坦	自然		
41	C2j2	N－33°－E	不定形	2.35×1.75	50	外傾	凹凸	人為		
42	C2i2	N－20°－E	［楕円形］	1.50×(1.30)	35	緩斜	凹凸	人為		
43	C3b4	N－9°－W	不定形	2.10×1.40	30	外傾	凹凸	人為		
44	C3h3	－	円形	径1.50	32	緩斜	皿状	自然	陶器片	江戸時代
45	B3f2	N－45°－W	不定形	1.80×1.60	35	緩斜	凹凸	人為		
46	B3e2	N－63°－W	隅丸長方形	2.80×2.00	48	外傾	凹凸	人為		
47	B3f4	N－30°－E	楕円形	1.25×1.00	15	緩斜	平坦	自然		
48	B3b7	－	円形	径1.20	30	外傾	凹凸	人為		
49	B3b8	N－5°－E	楕円形	2.31×1.17	30	緩斜	皿状	自然		
50	B3b8	N－39°－E	楕円形	1.14×0.91	33	外傾	皿状	自然	須恵器片	奈良時代

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考（重複関係旧→新）
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
51	B3b8	N－28°－E	楕円形	1.15×1.03	24	緩斜	皿状	自然		
52	B3b7	－	円形	1.04×0.96	16	外傾	皿状	自然		
53	B3b7	N－10°－E	楕円形	1.02×0.90	29	外傾	平坦	自然		
54	B3b7	N－49°－E	楕円形	1.87×1.42	40	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	奈良時代（8世紀前半）
55	B3a7	N－55°－E	隅丸長方形	1.49×0.84	30	外傾	平坦	自然		
56	B3a7	－	円形	径1.14	40	外傾	凹凸	人為		
57	B3a3	N－13°－E	楕円形	1.05×0.83	25	外傾	平坦	自然		
58	B3a9	N－62°－W	楕円形	2.72×2.48	34	外傾	平坦	自然	須恵器(高台付坏)，紡錘車	奈良時代（8世紀後半）
59	B3a8	N－33°－E	不整楕円形	1.62×0.82	30	外傾	平坦	自然		
60	B3a8	－	円形	径1.00	30	外傾	平坦	自然		
61	A3h4	－	円形	1.02×0.91	40	外傾	凹凸	人為		
62	B3b9	N－7°－W	不整長方形	2.83×1.25	29	外傾	皿状	自然		
63	B3c0	N－56°－E	不整楕円形	1.76×1.39	70	外傾	平坦	自然		
64	B3d9	N－22°－W	楕円形	0.88×0.72	34	外傾	平坦	自然		
65	C4h6	N－17°－W	楕円形	0.78×0.66	48	外傾	凹凸	人為	須恵器(盤)	奈良時代（8世紀後半）
66	C4f7	N－19°－E	不整長方形	1.52×1.22	48	外傾	凹凸	人為		
67	C4h5	N－24°－E	楕円形	1.65×0.95	23	外傾	皿状	自然	土師器片	奈良時代
69	C4f6	N－78°－W	楕円形	0.86×0.70	18	外傾	皿状	自然		
70	C4f5	N－8°－W	楕円形	0.82×0.70	30	外傾	皿状	自然		
71	C4f5	－	円形	径0.80	25	外傾	平坦	自然		
72	C4f6	N－48°－E	楕円形	0.98×0.84	18	外傾	平坦	自然		
73	C4g7	N－77°－W	楕円形	0.73×0.50	39	外傾	平坦	自然		
74	C4d5	N－14°－E	楕円形	0.80×0.68	30	緩斜	凹凸	人為		
75	C4c6	N－0°	楕円形	1.60×1.15	38	外傾	凹凸	人為		
76	C4a7	－	円形	径1.04	22	緩斜	皿状	自然		
77	B4e9	N－58°－W	楕円形	0.83×0.68	16	外傾	平坦	自然		
78	B4f8	N－56°－E	楕円形	0.86×0.68	28	外傾	平坦	自然		
79	B2d0	N－49°－E	隅丸長方形	2.78×1.76	22	外傾	平坦	自然		
80	A3i9	N－17°－W	楕円形	1.10×0.80	69	外傾	凹凸	人為		
81	B3b1	N－32°－E	楕円形	1.81×1.20	25	外傾	凹凸	人為	須恵器片	奈良時代
82	A3j0	N－2°－E	隅丸長方形	1.18×1.00	21	外傾	平坦	自然		
83	A3h6	N－47°－E	楕円形	1.70×1.42	58	外傾	凹凸	人為		
84	A3g5	N－13°－W	楕円形	1.70×1.20	34	外傾	平坦	自然		
85	A3f6	N－16°－E	不定形	1.67×1.57	30	外傾	皿状	自然	土師器片	奈良時代
86	A3f7	N－15°－W	楕円形	1.92×1.35	24	緩斜	平坦	自然		
87	A3j0	N－31°－E	楕円形	0.97×0.81	17	外傾	皿状	自然		
88	A4h1	－	円形	径1.24	29	外傾	平坦	自然		
89	A3i0	N－17°－W	楕円形	1.08×0.88	13	外傾	平坦	自然		
90	B4g6	－	円形	1.23×1.12	168	外傾	皿状	自然		
91	A3j7	－	円形	0.70×0.64	23	外傾	平坦	自然	鉄滓	奈良時代（8世紀前半）
92	C4a0	－	［円形］	径[2.10]	145	外傾	平坦	自然	土師器片	SI69→本跡
93	A4i4	－	円形	1.71×1.62	135	垂直	平坦	自然		SI77→本跡
94	A2h0	－	円形	径0.83	15	外傾	平坦	自然	須恵器片	奈良時代

4　掘立柱建物跡

今回の調査で，調査区の北部から，建物跡２棟を確認した。奈良・平安時代のものと思われるが，出土遺物がほとんどなく，時期を限定することができなかった。以下，それぞれの特徴や出土遺物について記載する。

第１号掘立柱建物跡（第186図）

位置　調査区北西部，Ａ３c3区。

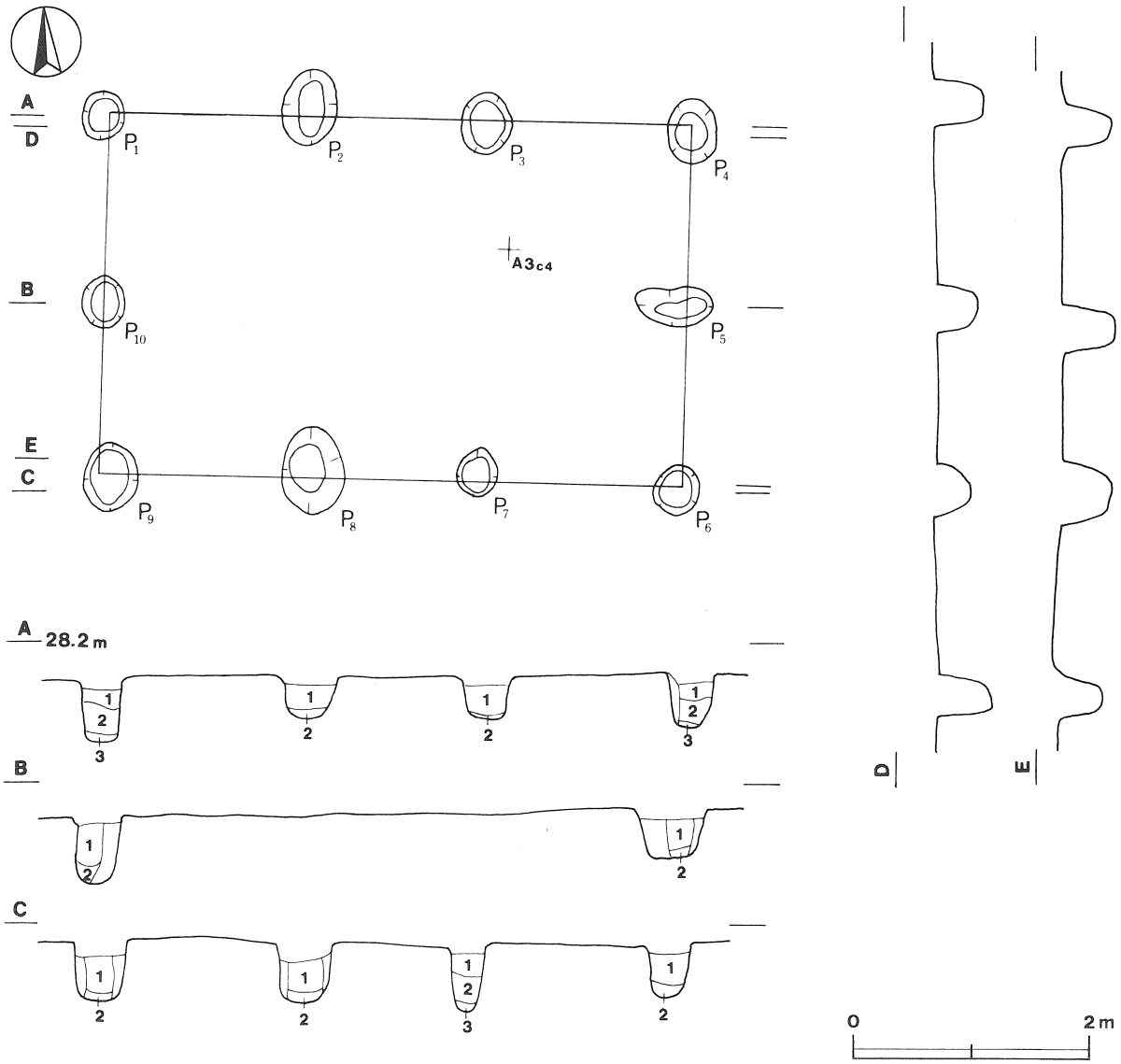
規模　東西３間，南北２間の建物跡で，柱間寸法は，桁行1.5～1.6m，梁行1.5～1.8mである。柱穴の掘り方は平面形が長径37～75cm，短径35～54cmの楕円形，深さ33～49cmである。抜き取り痕はＰ４～Ｐ６・Ｐ８～Ｐ10で確認されている。

長軸方向　Ｎ－90°

覆土　３層からなり，ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。３層は硬く締まっている。

掘り方土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム中ブロック多量，ローム大ブロック中量



第186図　第１号掘立柱建物跡実測図

遺物　遺構確認面から土師器の体部片が２点出土している。

所見　出土遺物が極めて少なく，細片であるため，本跡の時期は不明である。

第２号掘立柱建物跡（第187図）

位置　調査区北西部，Ａ３c5区。

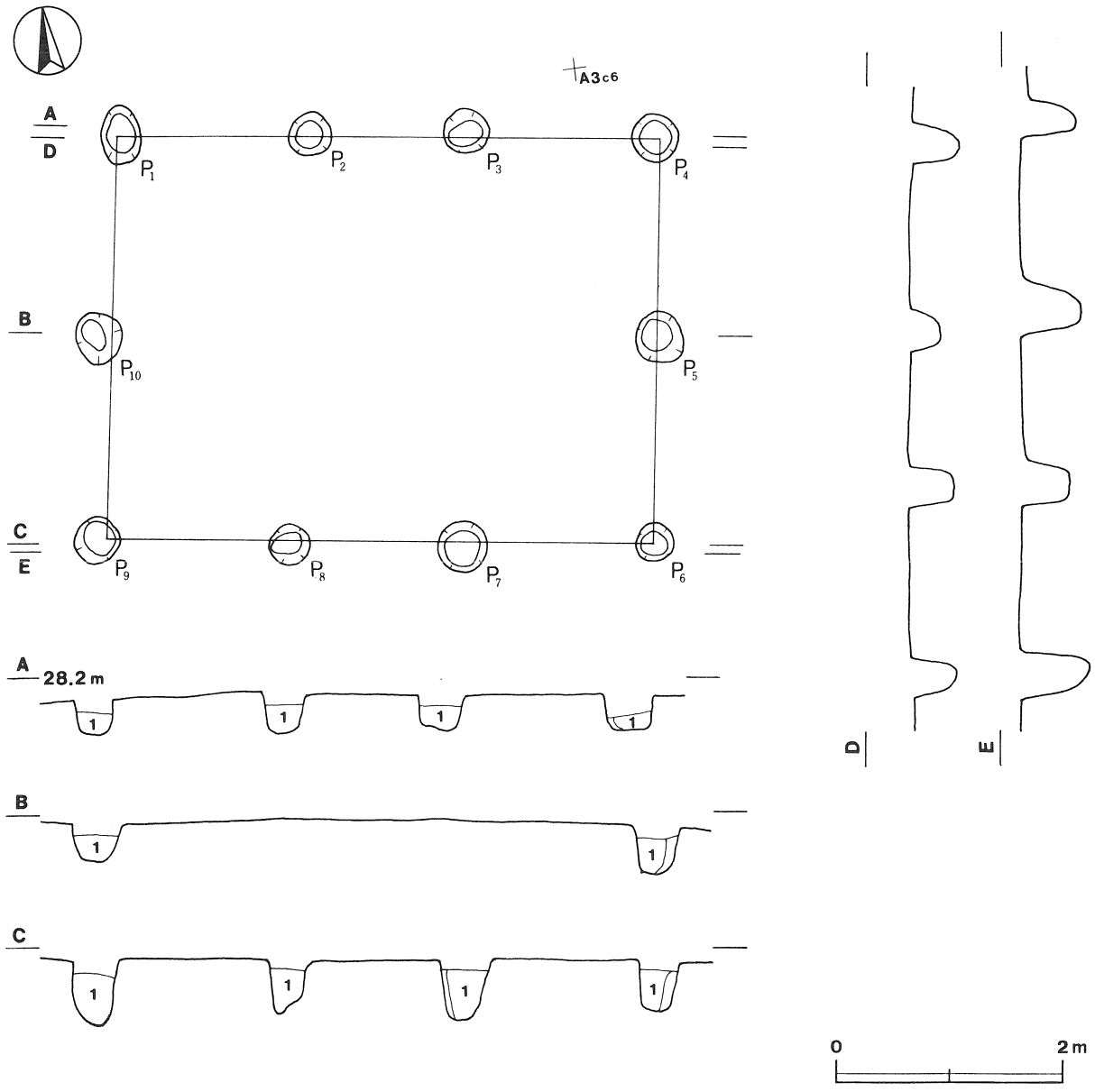
規模　東西３間，南北２間の建物跡で，柱間寸法は，桁行1.4～1.7m，梁行1.7～1.8mである。柱穴の掘り方は平面形が径35～45cmの円形，深さ25～62cmである。抜き取り痕はＰ４～Ｐ７で確認されている。

長軸方向　Ｎ－81°－Ｗ

覆土　単１層であり，ロームブロックを含有する暗褐色土からなる。

掘り方土層解説
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

所見　本跡は，出土遺物がなく時期は不明である。



第187図　第２号掘立柱建物跡実測図

5　溝

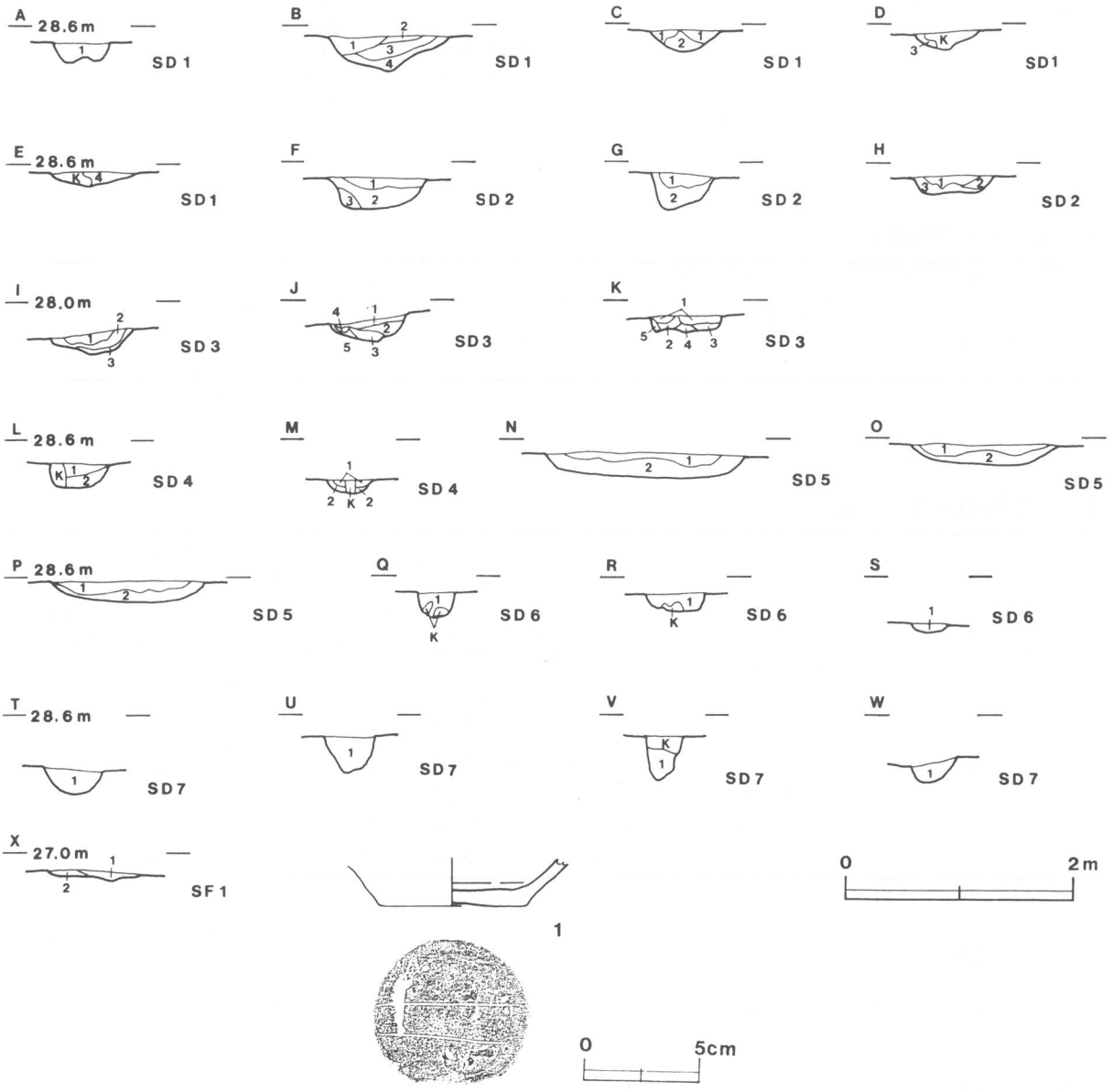
今回の調査で，調査区中央部から５条，西部から２条，南部から１条，計８条の溝が確認された。ほとんどの溝は，覆土が薄く，出土遺物がほとんどないことから，性格や時期は不明であるが，最近の地籍図の筆境と溝の位置がほぼ一致することから，土地の区画的な役割に利用されたものと考えられる。また，根切り溝の可能性も考えられる。

確認された溝（第１・188図）の特徴や遺物については，一覧表に記載する。

第１号溝土層解説（A）
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・礫微量

第１号溝土層解説（C）　（D）　（E）
1　褐　　色　ローム粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
3　明褐色　ローム粒子多量，炭化粒子極微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック・炭化粒子極微量

第１・２号溝土層解説（B）
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子少量（１層より濃い）
3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量



第188図　第１～７号溝・第１号道路跡土層，第３号溝出土遺物実測図

第２号溝土層解説（Ｆ）
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，礫微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子極微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第２号溝土層解説（Ｇ）
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・粘土粒子少量

第２号溝土層解説（Ｈ）
1　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　明褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第３号溝土層解説（Ｉ）
1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

第３号溝土層解説（Ｊ）
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量
4　明褐色　ローム粒子少量
5　明褐色　ローム粒子少量

第３号溝土層解説（Ｋ）
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子極微量
2　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

第４号溝土層解説（Ｌ）
1　褐　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量，炭化粒子極微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，炭化粒子微量

第４号溝土層解説（Ｍ）
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子極微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極微量

第５号溝土層解説（Ｎ）（Ｏ）（Ｐ）
1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　明褐色　ローム粒子中量，炭化粒子極微量

第６号溝土層解説（Ｑ）（Ｒ）（Ｓ）
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土極微量

第７号溝土層解説（Ｔ）
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土極微量

第７号溝土層解説（Ｕ）（Ｖ）（Ｗ）
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

第３号溝出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第188図 1	坏 須恵器	B　（2.1） C　6.5	底部から体部片。平底。体部から外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。底部に「＝」のヘラ記号。	長石，石英，雲母 灰黄色 良好	P442，５％ 覆土中層

表５　石原遺跡溝一覧表

溝番号	位　置	方　向	形　状	規模				壁面	断　面	覆土	出土遺物	備　考 新旧関係(旧→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	C3f4～B3d8	N－13°－E	直進状	(51.7)	0.28～0.86	0.64～0.10	14～20	外傾	緩やかなＵ字状	自然		SI19･20･21･22･32→本跡
2	C3f2～B3e8	N－14°－E，N－85°－W	くの字状	(61.0)	0.40～0.90	0.20～0.54	15～30	外傾	緩やかなＵ字状	自然		SI22･80→本跡
3	B2c4～A1i9	N－42°－E	蛇行状	(47.4)	0.44～1.20	0.20～0.60	14～30	緩斜	緩やかなＵ字状	自然	須恵器,磨石	SI40→SD4･8･本跡
4	B2g7～B3d8	N－58°－W	直進状	(53.8)	0.26～0.62	0.14～0.30	10～20	外傾	緩やかなＵ字状	自然		SI30･31･32･37･39･80→SK13･SD3･本跡
5	C2a9～B2h0	N－10°－E	直進状	(13.2)	1.26～1.70	0.90～1.20	17～20	外傾	逆台形状	自然		SI8･10･16→本跡
6	B3d9～A4f3	N－35°－E	直進状	(37.9)	0.30～0.66	0.08～0.32	12～25	外傾	緩やかなＵ字状	自然		SI26･33･55→SD7･本跡
7	B3d0～A4g4	N－35°－E，N－55°－W	くの字状	(43.3)	0.30～0.43	0.10～0.20	37	外傾	緩やかなＵ字状	自然		SI79→SD6･本跡
8	B2h0～B2i0	N－58°－W，N－95°－E	くの字状	(10.2)	0.30～0.80	0.14～0.50	11～25	外傾	緩やかなＵ字状	自然	須恵器片	SI39→SD3･本跡

6　炭窯跡

今回の調査で，炭窯跡１基を検出した。以下，検出された炭窯跡について記載する。

第１号炭窯跡（第189図）

位置　調査区北西部，Ａ２e7区。

規模と平面形　長軸3.65m，短軸1.94mであり，平面形は不整楕円形である。

主軸方向　N－25°－E

壁　壁高は15cm前後で，ほぼ垂直に立ち上がり，一部外傾して立ち上がる。壁は厚さ20～40cmで，粘土と砂粒少量を混ぜて構築され，火熱を受け赤変し，硬くしまっている。

窯壁断ち割り土層解説

1　黒 褐 色　炭化物・炭化粒子多量，ローム粒子・炭化材中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　粘土小ブロック・砂粒多量，粘土中ブロック中量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量

前庭部　平面形は，長径1.80m，短径0.36mの長方形であり，炭化材・焼土が散在している。

焚口部　幅36cm，長さ15cmで，底面は皿状で，火熱を受け赤色硬化している。閉塞部は幅20cm，長さ14cmである。

炭化室　平面形は長径2.80m，短径1.02mの楕円形で，天井部は崩落している。底面はほぼ平坦で，焚口部付近は火熱を受け赤変している。

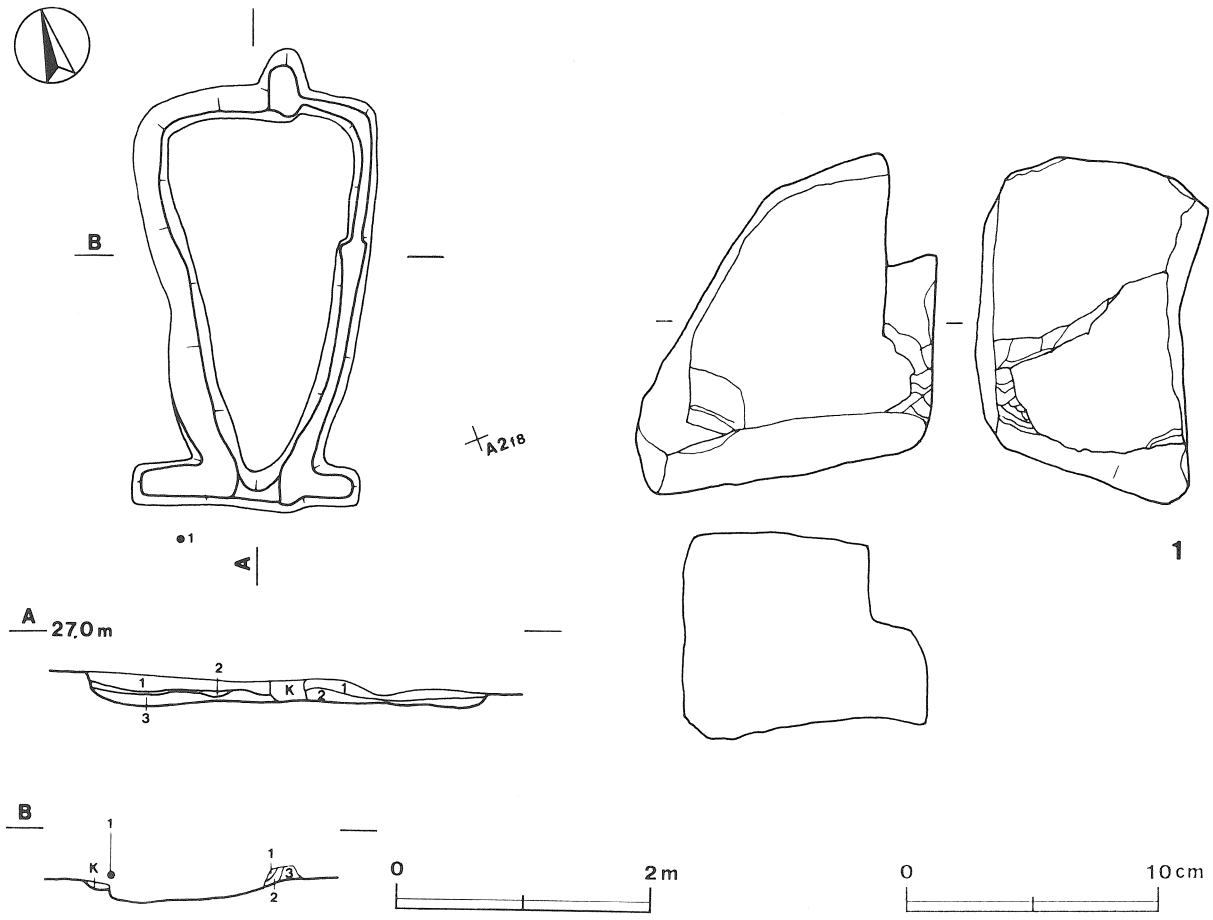
煙道部　奥壁中央部に位置し，外傾して立ち上がる。火熱を受けて，赤変し，硬く締まっている。

覆土　3層からなる人為堆積と思われる。炭化室の下層から炭化物が多量に，煙道部からは焼土・炭化物が多量に検出された。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物少量，炭化材微量
2　黒 褐 色　炭化物・炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子中量，炭化材少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土中・小ブロック・白色粒子少量，炭化物微量

遺物　覆土中から，土管片5点，弥生土器片2点，土師器片5点，須恵器片3点，切石1点が出土している。



第189図　第1号炭窯跡・出土遺物実測図

土管片は煙道部付近の床面から出土している。第189図１の切石は前庭部南側の覆土中から出土している。

所見　本跡は，西側に下る斜面部に構築されている。前庭部の南側から出土した切石は窯壁材として使用されたものと考えられる。出土遺物・形状及び聞き取り調査から，当跡は戦前に構築されたもので，戦後まで使用されていたものと思われる。

第１号炭窯跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第189図１	石臼	13.6	11.8	9.1	1752.3	砂岩	前庭部南側覆土中	Q93下臼敷石への転用

7　道路跡

今回の調査で，道路跡１条を検出した。以下，検出された道路跡について記載する。

第１号道路跡（第１・188図）

位置　調査区南東部，Ｃ４c5区からＣ５c1区。

重複関係　第67号住居跡，第71号住居跡，第69号住居跡，第75号土坑の覆土の上面から確認されている。

規模と形状　全長32m（東西方向＝約22m，南北方向＝約10m），調査できた範囲で上幅62～75cm,下幅60～62cm，深さ8～10cmである。断面は緩やかなＵ字状である。上面はほとんど削平され推定の域をでない。

方向　調査区南東部から東方向に伸び，斜面部のＣ５c1で北と南方向に分岐する。北方向へは斜面に平行し延びていくものと思われる。南方向へも斜面に平行し調査区外へ延びていくと思われる。

覆土

土層解説（X）
1　暗褐色　ローム中ブロック多量，ローム粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

所見　本跡は，第67号住居跡，第71号住居跡，第69号住居跡，第75号土坑の覆土の上面に存在することから，時期は，これらの遺構よりは新しいと思われる。出土遺物はなく，詳細は不明であるが，一部硬化面が遺存しており，道路として利用されたものと考えられる。

8　遺構外出土遺物

今回の調査で，遺構に伴わず，試掘，表土除去，遺構確認の段階で出土した遺物がある。ここではその中から，特色のあるものを抽出し，拓影図，実測図及び観察表で掲載した。（第190・191図）

８～22は弥生土器片の拓影図である。８・９は口縁部片で，８の口唇部には縄文原体による押圧が施され，口縁部には４条を単位とする櫛歯状工具による波状文が巡り，頸部との境には３条の隆帯が巡る。９の口唇部にはヘラ状工具による刻みが施され，突起がつく。口縁部には４条を単位とする櫛歯状工具による波状文が巡る。11～13は頸部片で，11は櫛歯状工具による平行沈線で分割され，胴部との境には連弧文が巡り，下位には附加条二種（附加１条）の縄文が施されている。12は５条を単位とする櫛歯状工具による平行沈線で分割され，区画内には波状文が施されている。胴部との境には連弧文が巡る。13は６条を単位とする櫛歯状工具による平行沈線で分割され，区画内には波状文が施されている。10の胴部片は，附加条一種（附加２条）の縄文が施さ

れ，羽状構成をとる。14～20は底部から胴部片である。14の胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，底部は砂目痕である。15の胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，底部は布目痕である。16の胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，底部は布目痕である。17の胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，底部は布目痕である。18の胴部には附加条の縄文が施され，底部は布目痕である。19の胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，底部は布目痕である。20の胴部には附加条二種（附加１条）の縄文が施され，底部は布目痕である。21は瓦質土器壺の体部片で，体部上位には５条を単位とする櫛歯状工具による波状文が巡る。22は瓦質土器香炉の体部片で，スタンプ状工具による瑞雲文，下位には印花文が巡る。

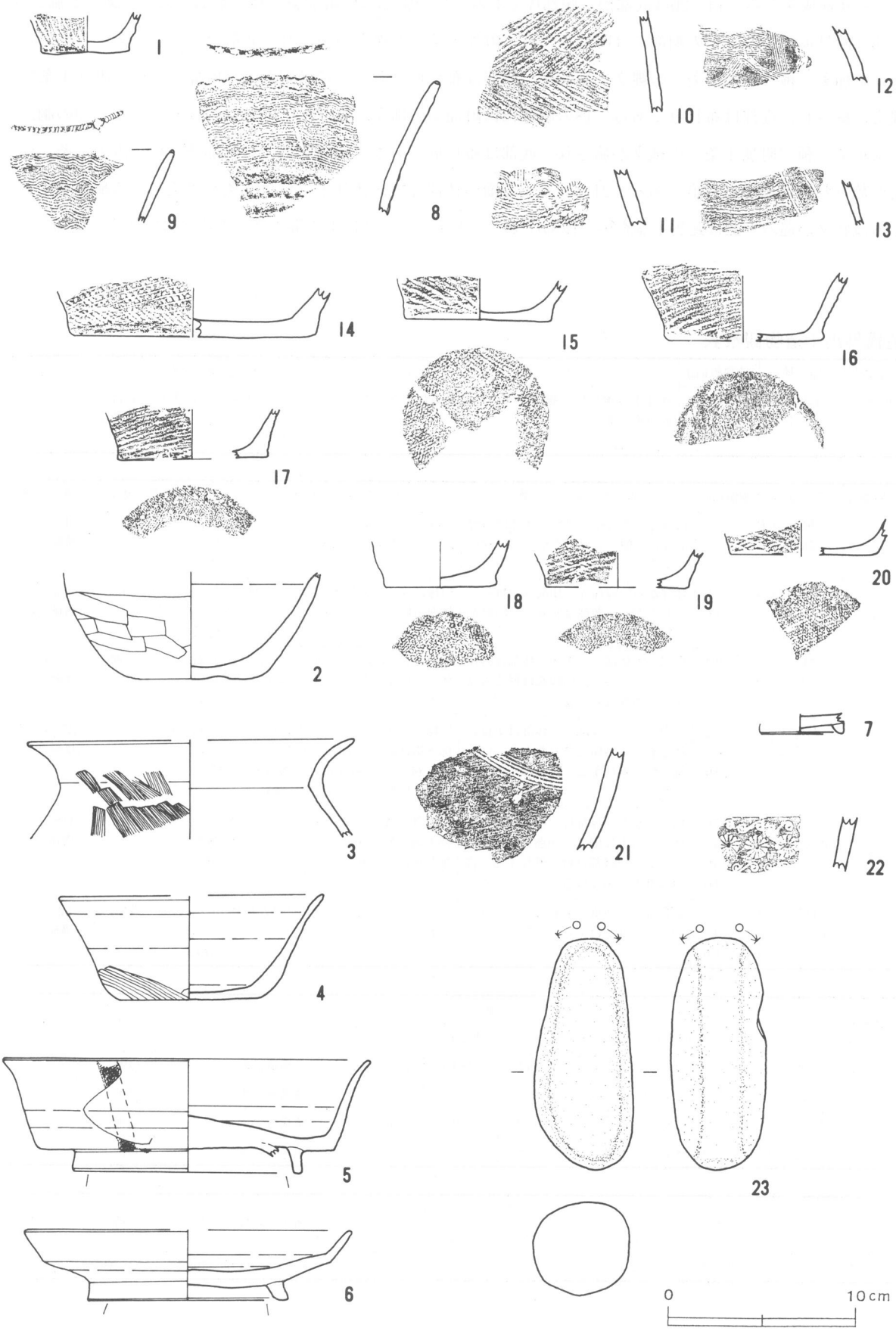
遺構外出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	文　様	胎土・色調・焼成	備　考
第190図 1	小形広口壺 弥生土器	B　(2.0) C　4.6	底部から胴部片。胴部には，附加条文が施される。底部は砂目痕である。	長石，石英，雲母，砂粒 にぶい黄橙色 普通	P443，10% 遺構確認面

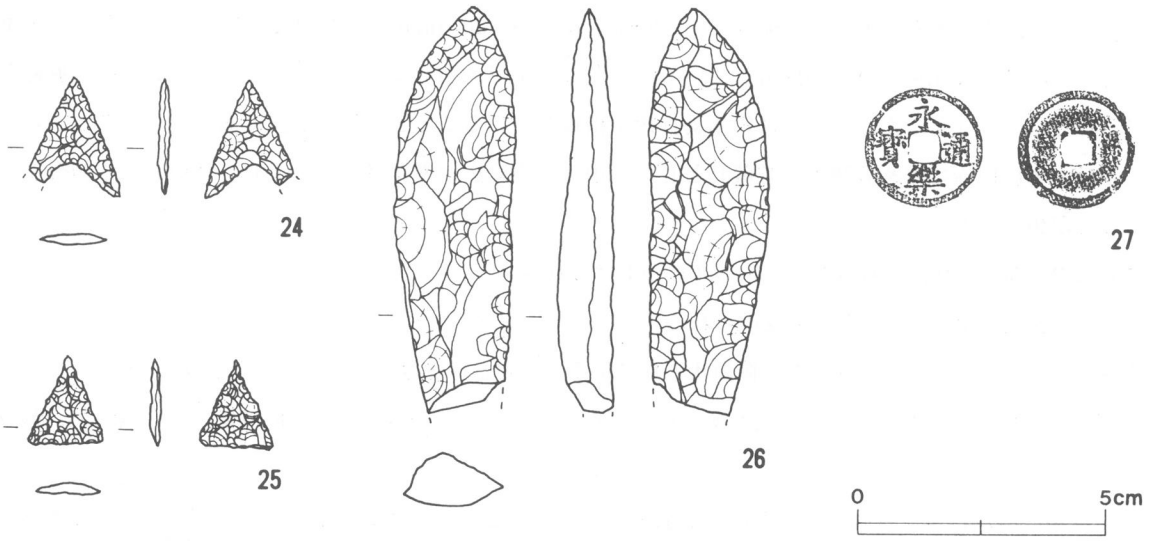
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
2	椀 土師器	B　(5.6) C　7.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ，内面ナデ。	長石，石英，雲母 にぶい赤褐色 普通	P444，95%　PL28 遺構確認面
3	甕 土師器	A　[17.1] B　(5.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部，体部外面斜位のハケ目調整。	長石石英雲母赤色粒子 にぶい褐色 普通	P445，10% 遺構確認面
4	坏 須恵器	A　[13.9] B　5.5 C　7.3	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。端部は丸く収めている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石，石英，小礫 灰色 良好	P446，50%　PL28 遺構確認面
5	高台付坏 須恵器	A　19.2 B　6.0 D　12.0 E　1.3	高台部から口縁部片。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上り，口縁部は軽く外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内·外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。焼成時に，底部に別個体（坏の底部）融着。	長石，石英 灰色 良好	P447，80%　PL28 遺構確認面
6	盤 須恵器	A　[17.0] B　3.7 D　10.6 E　1.0	高台部から口縁部片。体部はやや内彎して外方に開き，屈曲して口縁部に至る。口縁部は軽く外反する。高台は外方へふんばる。	口縁部，体部内·外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石，小礫，白色粒子 灰色 良好	P448，60% 遺構確認面
7	天目茶碗 陶器	B　1.1 D　4.5 E　0.6	高台部片。平底。高台はハの字状に開く。接地面は平ら。	高台は削り出し。内面に鉄釉が施釉される。	長石，石英，白色粒子 灰色 良好	P449，10% 遺構確認面

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石　質	出土地点	備　考
23	磨　石	12.2	5.4	5.1	480.0	砂岩	遺構確認面	Q94
24	石　鏃	2.4	(1.8)	0.2	(0.8)	チャート	遺構確認面	Q95　PL33
25	石　鏃	1.8	1.5	0.2	0.4	黒曜石	遺構確認面	Q96　PL33
26	尖頭器	(8.1)	2.3	1.2	(21.8)	頁岩	遺構確認面	Q97　PL33

図版番号	銭　種	計測値 径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	初鋳年（時代，年号）	備　考
27	永楽通寶	2.4	0.6	0.15	3.0	明(中国)永楽6年(1408年)	M21遺構確認面　PL33



第190図　遺構外出土遺物実測・拓影図(1)



第191図　遺構外出土遺物実測図(2)

第4節　まとめ

石原遺跡は前節までに述べてきたように，縄文時代から中・近世にわたる複合遺跡であることが明らかにされた。特に弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけて，さらに奈良時代に大きな集落が形成されたことも確認された。ここでは，特徴的な調査成果について時代ごとに整理してまとめとしたい。

1　縄文時代

縄文時代の遺構と思われる陥し穴3基が検出されている。3基の台地上の位置関係は，第1号が南西部，2号が西部に，3号が南東部に位置している。いずれも斜面部に近い場所に配置されている。形状については第1号陥し穴の断面形はV字状を呈しており，壁の上位は外傾して立ち上がり，底面に近いほど長径方向に平行に狭くなり，垂直に立ち上がる。それに対して第2号陥し穴の壁は垂直に立ち上がっている。また，底面に木杭を立てた痕と思われる小ピットが2か所検出されている。小ピットは，罠あるいは仕掛けを設置するためのものとも考えられる。この二つの特徴的な性格を合わせもつものが第3号陥し穴である。この時代の住居跡は確認できなかったが，この地が狩猟の場として利用されていたことがうかがえる。

2　弥生時代

この時代の住居跡には，弥生土器のみのものと古墳時代前期の土師器を伴うものがみられることから，弥生時代後期後半と弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭とに分け，特に出土土器の特徴及び文様に焦点をあて述べることとする。

(1)　弥生時代後期後半

当該期の遺構は，竪穴住居跡17軒である。17軒の住居跡は，台地の中央から南西部にかけて配置されている。これらは中央に広場をもつ4・5軒の小グループに分けられ，西部に3グループ，東部に1グループが存在する（第192図集落変遷図参照）。土器は，十王台式土器を中心に出土している。器種は，広口の壺形土器が主である。

広口壺の器高を三段階（大＝50cm前後，中＝30cm前後，小＝20cm前後）に分けて観察してみると，二次焼成痕があるもの又は炭化物・ススが付着している広口壺は，中形，小形に多くみられる。大形壺にその痕跡を見つけることはできなかった。これらは鈴木素行氏が指摘[1]していることと一致する点である。このことからいえることは大形広口壺は水や穀物等の貯蔵具として，中型・小形広口壺は煮炊き具として使用される割合が高かったことが想定できる。

これらの土器の全体的な特徴として次の3点があげられる。

①口唇部に突起がつくものが多く見受けられる。

②頸部文様帯は4～6条を単位とする櫛歯状工具による3本の平行沈線で縦区画されるものが多い。

③底部は布目痕が一番多いが，木葉痕も多く見受けられる（総数85個のうち布目痕57個，木葉痕22個，砂目痕7個）。

このほか広口壺には，複合口縁や胴部に附加条一種（附加2条）の縄文が施され，羽状構成をとるものがある。このような異型式の附加条一種（附加2条）の出土土器片の割合は極めて少ない。

当遺跡の周辺には若干の時期差は認められるが，ほぼ同時期の大畑遺跡・矢倉遺跡が存在する。これらの遺跡から出土している弥生土器には，口唇部には縄文による施文，またヘラ状工具による刻みがある。口縁部は櫛歯状工具により波状文が施されている。頸部文様帯は平行沈線で縦区画され，波状文が充填されている。口縁部と頸部の境には隆帯が巡り，隆帯上に指頭による押圧がある。おもに頸部文様帯と胴部文様帯を区画するものは櫛描波状文である。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施され，羽状構成をとる。底部は布目痕が多いことなどの共通点が多い。

また，①～③など久慈川流域における弥生土器と様相を異にしている点もみられる。こうしたことから今後当地の弥生土器を細かく分析することによって涸沼前川流域を一つの文化圏と考えることも可能であろう。

広口壺以外の器種には，小形片口壺，高坏，鉢（高坏の坏部の可能性も考えられる。），片口皿（高坏を作成中に断念し，坏部のみを転用した可能性も考えられる。），坏型ミニチュア土器，立位できない小形壺等がある。これら特異なもの，あるいは小型土器は，何らかの祭祀に使われたと考えることも可能であろう。

土器以外の出土遺物としては，紡錘車・管状土錘・球状土錘がある。紡錘車は第2・5・17・30・62号住居跡から合計6点が出土している（弥生後期後半～古墳時代前期初頭の住居跡出土を含めると計9点）。このことから当時の人々がこの地で糸を紡いでいたことがうかがわれる。

(2) 弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭

当該期の遺構は，竪穴住居跡6軒（第10・23・36・49・66・67号住居跡）である。6軒の住居跡は,弥生後期後半の住居跡の内側に配置されている（第192図集落変遷図参照）。平面形については，南部に隅丸長方形（第10・23・67号住居跡），北部に隅丸方形（第36・49・66号住居跡）の住居跡が存在する傾向がうかがえる。

これらの住居跡からは，十王台式土器と土師器が床面から出土している。また，十王台式土器とともに上稲吉式土器（第67号住居跡），二軒屋式土器（第66号住居跡）が出土している例もみられる。そのうち，第66号住居跡においては，十王台式土器が北西コーナー壁際，土師器壺が南東コーナー壁際から出土している。このような弥生土器と土師器の供伴事例は，石岡市外山遺跡，大洗町長峰遺跡，水戸市大鋸町遺跡，ひたちなか市鷹ノ巣遺跡などがあげられる[2]。弥生時代から古墳時代へ移り変わる時期に，それまで使用されてきた土器と新しい文化の土器が混在していたものと考えられる。弥生文化が断絶し，中央的要素が強い古墳文化が新たに取り入れられたのではなく，弥生的要素を残しつつも古墳文化を受け入れていったのではないかと考えられる。

また，第67号住居跡出土土器のうち，3の広口壺（P98）は，頸部文様帯は5条を単位とする櫛歯状工具による2本の平行沈線で縦区画され，胴部との境に連弧文が施され，底部の圧痕は当遺跡では数少ない砂目痕である。これらの特徴は鈴木素行氏が指摘している久慈川流域系の十王台式土器の特徴と一致する[3]。このことは，この土器は在地のものではなく，久慈川流域から搬入されたものと考えられ，この時期の人々の交流や物の移動などの一端をうかがうことができる。

3　古墳時代

当該期の遺構は，古墳時代前期（4世紀代）の炉をもつ竪穴住居跡16軒である。住居跡は調査区北部の台地中央部に集中して配置されている（第192図集落変遷図参照）。これらは出土土器の様相からみて，前項の弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭から，集落として継続していると思われる。第54号住居跡は，当遺跡で最も規模が大きく，平面形は隅丸方形（7.18×7.12m）である。各住居跡から出土した土器は，甕・坩を中心として，高坏，椀，高台付椀，壺，台付甕，鉢，器台等である。甕などには二次焼成痕がみられるものや煤や炭化物が付着しているものがあることから煮炊きに使用されたことがうかがわれる。この時期の特徴は，土器以外に，球状土錘が第13・32・55号住居跡を除く，いずれの住居跡からも数多く出土していることである。また，不明石製品として軽石も出土している（第54・60号住居跡）。球状土錘が網のおもりに，軽石（加工痕有り）が浮子に使用されたと仮定するならば，位置的環境から，涸沼前川を中心とした古矢川・小橋川に挟まれたこの地で，漁労が盛んに行われていたことが想定できよう。

4　奈良・平安時代

当該期の遺構は，竪穴住居跡42軒である。古墳時代前期以降，再び集落が形成された時期（8世紀前半）である。住居跡は出土土器様相から，8世紀前半から10世紀前半までの4期に区分でき，継続的に集落が営まれていたと考えられる（第192図集落変遷図参照）。ここでは，各期の特徴を述べることとする。

(1)　8世紀前半

この時期の住居跡は25軒で，調査区西部に集中し，7，8軒からなる三つの小グループに分けることができる。竈を東壁に構築していたのは第21・38号住居跡の2軒である。出土遺物は，第31・42号住居跡から墨書土器が出土している。また，第16号（盤）・第31号住居跡（坏）からは転用硯が出土し，第34号住居跡からは円面硯の破片が出土している。

(2)　8世紀後半

この時期の住居跡は8軒で，北東部の縁辺部に集中している。竈を東壁に構築していたのは第59号住居跡である。(1)・(2)の竈の構造は，煙道部が壁外に突出し，緩やかに立ち上がるという共通性をもっている。注目される遺物に内・外面には漆が付着し，底部には「貴」と思われる字が書かれている高台付坏が第57号住居跡から出土している。これらから奈良時代には，この集落に住む人々の中に文字（漢字）を書ける人々が存在していたといえる。

(3)　9世紀前半～後半

この時期の住居跡は6軒で，調査区中央部から北側に集中している。そのうち，第79号住居跡から羽口，鏃，斧，釘，不明鉄製品等が出土していることから，鍛冶工房跡の存在を考慮して調査を行ったが，検出することはできなかった。また，第76号住居跡からは丸鞆が出土しており，当地域に律令制に規定された役人が存在していた可能性が考えられる。

(4) 10世紀前半

この時期の住居跡は3軒のみで，散在している。当期以後の住居跡は確認できず，この時期をもって集落としての終焉を迎える。出土遺物は，第80号住居跡から鈹具，不明鉄製品等が出土している。

各期の様相を述べてきたが，当遺跡の奈良・平安時代の竈に共通していえることは，袖部の構築材は,白色粘土や青灰色粘土ではなく,粘土化したロームを主体としていることである。その他の出土遺物として，刀子が奈良時代の住居跡（第59号・第78号）だけではなく，平安時代の住居跡（第50号・第76号）からも出土している。

以上をまとめると，石原遺跡は，縄文時代には狩猟の場として利用され，弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけてには集落が形成され，人々や物の交流もおこなわれた。古墳時代中期以降，集落は途絶えるが，奈良時代（8世紀前半）に再び集落が形成される。住人のなかには文字（漢字）を書ける人々もいたようである。平安時代（9世紀前半～10世紀前半）には，人々のなかに役人が存在した可能性がうかがわれる。このように当遺跡は，縄文時代から中・近世まで人々の生活の舞台となった複合遺跡であることが明らかになった。

註

(1)茨城県考古学協会　『茨城県における弥生時代研究の到達点』1999年11月

(2)霞ケ浦町郷土資料館　『霞ケ浦沿岸の弥生文化』1998年8月

山本静男　「外山遺跡5号住居跡についての一考察」『年報』3　茨城県教育財団　1984年3月

黒沢彰哉　「茨城県における古式土師器の問題」『婆良岐考古』第3号　婆良岐考古同人会　1981年3月

海老澤稔　「十王台式と伴出する土器群の考察」『婆良岐考古』第9号　婆良岐考古同人会　1987年5月

佐藤次男　「茨城における弥生時代終末期の一様相－とくに十王台式土器と五領式土器の共存関係について」『考古学叢考』下巻　吉川弘文館　1988年10月

(3) (1)と同じ

参考文献

・大塚　実「考古学と史的唯物論」『古代共同体論』名著出版　1991年9月

・鈴木正博「本邦先史考古学における土器型式と縦横の推移的閉包－古鬼怒湾南岸における弥生式後期下大津の成立と展開－」『古代』第106号　早稲田大学考古学会　1999年3月

・茨城県教育財団「北関東自動車(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　大作遺跡　大畑遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第136集　1998年3月

・茨城県教育財団「北関東自動車(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　矢倉遺跡　後口原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第135集　1998年3月

・茨城県教育財団「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書　南小割遺跡　権現堂遺跡　親塚遺跡　後原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第129集　1998年3月

・茨城県教育財団「一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　梶内遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第100集　1995年9月

弥生時代後期後半
弥生時代後期後半～
古墳時代前期初頭
古墳時代
（4世紀前半～後半）
古墳時代
（5世紀前半）
奈良時代
（8世紀前半）
奈良時代
（8世紀後半）
平安時代
（9世紀前半～後半）
平安時代
（10世紀前半）
20m
0

第192図　集落変遷図